(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7701070号
(P7701070)

(45)発行日　令和7年7月1日(2025.7.1)

(24)登録日　令和7年6月23日(2025.6.23)

(51)国際特許分類
Ａ６３Ｆ　7/02 (2006.01)

ＦＩ
Ａ６３Ｆ　7/02　３２６Ｚ
Ａ６３Ｆ　7/02　３０４Ｄ

請求項の数　1　（全465頁）

(21)出願番号　特願2023-15687(P2023-15687)
(22)出願日　令和5年2月3日(2023.2.3)
(65)公開番号　特開2024-110841(P2024-110841A)
(43)公開日　令和6年8月16日(2024.8.16)
審査請求日　令和6年2月7日(2024.2.7)

(73)特許権者　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(72)発明者　市原 高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地 株式会社大一商会内
(72)発明者　遠藤 之誉
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地 株式会社大一商会内
(72)発明者　坂根 渉
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地 株式会社大一商会内
審査官　西田 光宏

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技の進行に応じて変化する遊技状態に関する表示が可能な遊技状態表示部を備えた遊技機であって、
前記遊技状態表示部は、
前記遊技状態を示す複数のＬＥＤを表面に有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板に対して前記ＬＥＤ基板の表面側に設けられる前カバー部と、
前記ＬＥＤ基板に対して前記ＬＥＤ基板の裏面側に設けられる後カバー部と、を具備し、
前記前カバー部および前記後カバー部には、成形の際の痕跡としての脱型痕跡部が所定の部位に残されており、
前記前カバー部は、外周縁から前記後カバー部側へ突出している第１側壁部を有しており、
前記後カバー部は、外周縁から前記前カバー部側へ突出している第２側壁部を有しており、
前記第１側壁部の先端面と前記第２側壁部の先端面とが対面するように構成され、
前記第１側壁部および前記第２側壁部の先端面に前記脱型痕跡部が設けられている
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）のような遊技機に関するものである。

【背景技術】
【０００２】
パチンコ機のような遊技機には、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部が設けられている（例えば、特許文献１）。機能表示部には、複数のＬＥＤが設けられたＬＥＤ基板を有しており、各ＬＥＤの点灯・点滅などにより、例えば、遊技球の入球により抽選された特別図柄や普通図柄などを表示することができる。
【０００３】
ところで、遊技状態を表示する機能表示部の見栄えが悪いと、遊技者によっては幻滅してしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【文献】特開２００８－２２８８６７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
そこで、本発明は、上記の実情に鑑み、遊技状態を表示する機能表示部（遊技状態表示部）の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明の請求項１は、
「遊技の進行に応じて変化する遊技状態に関する表示が可能な遊技状態表示部を備えた遊技機であって、
前記遊技状態表示部は、
前記遊技状態を示す複数のＬＥＤを表面に有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板に対して前記ＬＥＤ基板の表面側に設けられる前カバー部と、
前記ＬＥＤ基板に対して前記ＬＥＤ基板の裏面側に設けられる後カバー部と、を具備し、
前記前カバー部および前記後カバー部には、成形の際の痕跡としての脱型痕跡部が所定の部位に残されており、
前記前カバー部は、外周縁から前記後カバー部側へ突出している第１側壁部を有しており、
前記後カバー部は、外周縁から前記前カバー部側へ突出している第２側壁部を有しており、
前記第１側壁部の先端面と前記第２側壁部の先端面とが対面するように構成され、
前記第１側壁部および前記第２側壁部の先端面に前記脱型痕跡部が設けられている
ことを特徴とする遊技機。」である。
また、本発明とは別の発明として、以下の手段を例示する。
手段１：遊技機において、
「遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記機能表示部は、
複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板に対して前後方向の一方側に設けられているカバーと、を具備し、
該カバーは、
外周縁から前後方向の他方側へ突出している堰部を有しており、
該堰部の先端面に脱型痕跡部が設けられている」ことを特徴とする。
【０００７】
ここで、「機能表示部」とは、遊技領域において遊技球が流下することにより変化する遊技状態として、遊技球の入球または通過により抽選された普通図柄、遊技球の入球により抽選された特別図柄、表示が保留されている普通図柄の保留数、表示が保留されている

特別図柄の保留数、大当り遊技のような所定パターンの有利遊技状態の繰り返し数（ラウンド数）、などの少なくとも一つを表示するものである。

【０００８】

また、「カバー」としては、「ＬＥＤ基板の前側に設けられる前カバー（第一ケース）」、「ＬＥＤ基板の後側に設けられる後カバー（第二ケース）」、などが挙げられる。また、「前カバー」としては、「遊技盤の最前面を構成するもの（例えば、前構成部材）」、「遊技盤の最前面を構成する取付部材（例えば、前構成部材）に後方から取付けられるもの」、などが挙げられる。

【０００９】

更に、「脱型痕跡部」は、カバーを成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）によりカバーに付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。

【００１０】

手段１の構成によると、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を有する遊技盤を備えた遊技機であって、機能表示部は、複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、ＬＥＤ基板に対して前後方向の一方側に設けられているカバーと、を具備し、カバーは、外周縁から前後方向の他方側へ突出している堰部を有しており、堰部の先端面に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－２．機能表示ユニットに設けられている脱型痕跡部］の章、機能表示ユニット１４００、第一ケース１４０１、機能表示基板１４０２、第二ケース１４０３、脱型痕跡部２５１９、図１６７および図１６８などの記載を参照）。

【００１１】

本構成によれば、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部において、ＬＥＤ基板における前後方向の一方側に設けられているカバーにおける堰部の先端面に脱型痕跡部を設けている。つまり、カバーにおける幅の狭い堰部の先端面に脱型痕跡部を設けているため、脱型痕跡部を目立ち難くすることができる。これにより、カバーにおける堰部の先端面が遊技者側から見えても、脱型痕跡部が目立ち難いため、脱型痕跡部による見栄えの悪化を低減させることができ、脱型痕跡部が見えることにより遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【００１２】

なお、機能表示部を、取付部材に対して後方から取付けられるようにすると共に、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、取付部材に後方から機能表示部を取付けると、取付部材の後面の脱型痕跡部が機能表示部に隠れて見えなくなり、機能表示部が取付部材に確実に取付けられているか否かの目視確認を助けることができる。

【００１３】

また、上記のように、取付部材の後面に脱型痕跡部を設ける場合、取付部材の後面において、機能表示部における特定の部位（例えば、ＬＥＤ孔から離れた前壁部、ＬＥＤ基板の接続コネクタのような電子部品、など）の前方に位置するように脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材に機能表示部を取付ける際に、取付部材の脱型痕跡部と機能表示部の特定の部位とが前後に重なるようにすることで、取付部材に対する機能表示部を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、取付部材の脱型痕跡部を目安にして機能表示部を正しい向きにして組立てることができる。

【００１４】

更に、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーとしても良い。これにより、堰部の先端面が後方を向くため、その先端面に設けられている脱型痕跡部が前方の遊技者

からは見ることはできず、脱型痕跡部により見栄えが悪化することはない。
【００１５】
　また、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーと、ＬＥＤ基板の後方に設けられる後カバーとで構成し、前カバーの堰部の先端面（後端面）と後カバーの堰部の先端面（前端面）とが互いに対面するようにしても良い。これにより、それぞれの堰部の先端面に設けられている脱型痕跡部が、相手側の堰部によって隠されるため、遊技者側から脱型痕跡部が見えることはなく、脱型痕跡部により機能表示部の見栄えが悪くなることはない。また、この場合、機能表示部に組立てた状態では、前カバーおよび後カバーそれぞれの堰部の先端面に設けられている脱型痕跡部が、相手側の堰部によって隠されるため、堰部の先端面の脱型痕跡部が見えるか否かによって、機能表示部が正しく組立てられているか否かを確認することができる。
【００１６】
　更に、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーと、ＬＥＤ基板の後方に設けられる後カバーとで構成し、前カバーの堰部で囲まれた部位の内側に、後カバーがその堰部ごと挿入されるようにしても良い。これにより、前カバーの堰部や後カバーの堰部それぞれの先端面に設けられている脱型痕跡部が前方の遊技者側からは見えないため、脱型痕跡部により機能表示部の見栄えが悪くなることはない。
【００１７】
　また、カバーとしてＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーを含むものとすると共に、前カバーにＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応する窓部（ＬＥＤ孔）を設けるようにしても良い。これにより、前カバーにおける堰部の先端面に脱型痕跡部を設けているため、当該脱型痕跡部が窓部から離れた部位に設けられることとなる。従って、前カバーの製造時において、前カバーを射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されても、当該部位（脱型痕跡部の部位）が窓部から離れているため、窓部が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことができる。このようなことから、機能表示部での表示を見え易くすることができるため、遊技者に対して機能表示部での表示の誤認を低減させることができ、誤認により不信感を覚えてしまうことはないと共に、遊技者に対して本遊技機での遊技を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【００１８】
　手段２：手段１の構成において、
　「前記機能表示部は、
　取付部材に対して後方から取付けられるものであり、
　該取付部材は、
　後面における前記機能表示部と重なる部位に前記脱型痕跡部が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【００１９】
　ここで、「取付部材」としては、「遊技盤の最前面を構成する部材（例えば、前構成部材）」、「前方に遊技領域が設けられる平板状の遊技パネル（遊技板）の前面に取付けられる部材」、などが挙げられる。
【００２０】
　手段２の構成によると、機能表示部は、取付部材に対して後方から取付けられるものであり、取付部材は、後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、前構成部材１０００の機能表示ユニット取付部１０１１、機能表示ユニット１４００、脱型痕跡部２５１９、図１６７などの記載を参照）。
【００２１】
　本構成によれば、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、取付部材に後方から機能表示部を取付けると、取付部材の後面の脱型痕跡部が機能表示部に隠れて見えなくなり、機能表示部が取付部材に確実に取付けられているか

否かの目視確認を助けることができる。
【００２２】
なお、取付部材の後面において、機能表示部における特定の部位（例えば、ＬＥＤ孔から離れた前壁部、ＬＥＤ基板の接続コネクタのような電子部品、など）の前方に位置するように脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材に機能表示部を取付ける際に、取付部材の脱型痕跡部と機能表示部の特定の部位とが前後に重なるようにすることで、取付部材に対する機能表示部を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、取付部材の脱型痕跡部を目安にして機能表示部を正しい向きにして組立てることができる。
【００２３】
手段３：手段１又は手段２の構成において、
前記遊技機は、
前記遊技領域に遊技球が入球可能な入賞口が設けられており、該入賞口への遊技球の入球により所定の特典を付与するパチンコ機であることを特徴とする。
【００２４】
ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別図柄の抽選が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通図柄の抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通図柄の抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別図柄の抽選が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【００２５】
また、「パチンコ機」としては、「始動口への遊技球の入球により所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるための特別図柄の抽選を行う抽選手段と、抽選手段により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて特別図柄を変動表示させた後に停止表示させて、停止表示された特別図柄の組合せにより抽選され特別抽選結果を表示する表示器としての特別抽選結果表示手段と、特別抽選結果表示手段において有利遊技状態を発生させる特別抽選結果が表示されると大入賞口を所定のパターンで開閉させて有利遊技状態を発生させる有利遊技状態発生手段と、を備えたもの（所謂、デジパチ機）」、「役物入賞口に入球した遊技球を振分ける振分手段と、振分手段により振分けられた遊技媒球がＶ入賞口に入球すると所定の特典として役物入賞口を所定のパターンで開閉させて遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させる有利遊技状態発生手段と、を備えたもの（所謂、ハネモノ機）」、「大入賞口と役物入賞口を有し、始動口への遊技球の入球（始動入球）により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて大入賞口又は役物入賞口を所定のパターンで開閉させ、役物入賞口に入球した遊技球がＶ入賞口に振分けられると所定の特典として役物入賞口又は大入賞口を所定のパターンで開閉させて遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させる有利遊技状態発生手段を備えたもの（所謂、複合機）」、等が挙げられる。
【００２６】
手段３の構成によると、遊技機を、遊技領域に遊技球が入球可能な入賞口が設けられており、入賞口への遊技球の入球により所定の特典を付与するパチンコ機としたものである

。これにより、パチンコ機において、上述した手段の何れかの作用効果を奏することができる。

【発明の効果】

【００２７】

このように、本発明によれば、遊技状態を表示する遊技状態表示部の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２８】

【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。

【図２】パチンコ機の右側面図である。

【図３】パチンコ機の左側面図である。

【図４】パチンコ機の背面図である。

【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。

【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。

【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。

【図８】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。

【図９】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。

【図１０】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図１１】パチンコ機における外枠の正面図である。

【図１２】外枠の背面図である。

【図１３】外枠の右側面図である。

【図１４】外枠を前から見た斜視図である。

【図１５】外枠を後ろから見た斜視図である。

【図１６】外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図１７】外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図である。

【図１８】外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。

【図１９】（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。

【図２０】扉枠を前から見た斜視図である。

【図２１】扉枠を後ろから見た斜視図である。

【図２２】扉枠に対して扉枠トップ装飾体と扉枠上飾体とを分解して前から見た分解斜視図である。

【図２３】扉枠に対して扉枠トップ装飾体と扉枠上飾体とを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図２４】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の正面図である。

【図２５】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の背面図である。

【図２６】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の左側面図である。

【図２７】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の右側面図である。

【図２８】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を右前から見た斜視図である。

【図２９】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を左前から見た斜視図である。

【図３０】扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を後ろから見た斜視図である。

【図３１】扉枠上飾体を取外した状態の扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図３２】扉枠上飾体を取外した状態の扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図３３】扉枠上飾体を取外した状態の扉枠の縦断面図である。

【図３４】（ａ）は扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３５】（ａ）は扉枠における扉枠補強ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠における扉枠補強ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３６】（ａ）は扉枠補強ユニットの中間補強フレームを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠補強ユニットの中間補強フレームを後ろから見た斜視図である。
【図３７】扉枠の縦断面における中間補強フレームの部位を拡大して示す説明図である。
【図３８】中間補強フレームにおける上部の寸法関係を示す説明図である。
【図３９】（ａ）は扉枠における中間補強フレームの変形例１を示す説明図であり、（ｂ）は中間補強フレームの変形例２を示す説明図であり、（ｃ）は中間補強フレームの変形例３を示す説明図である。
【図４０】（ａ）は扉枠における中間補強フレームの変形例４を示す説明図であり、（ｂ）は中間補強フレームの変形例５を示す説明図である。
【図４１】（ａ）は扉枠のシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろ前から見た斜視図であり、（ｃ）は従来のパチンコ機におけるシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろから見た斜視図である。
【図４２】（ａ）は図４１（ａ）のシリンダ錠を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図４１（ａ）のシリンダ錠を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４３】（ａ）は図４１（ａ）のシリンダ錠の可動機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図であり、（ｃ）は（ａ）の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図である。
【図４４】（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４５】（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。
【図４６】（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４７】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
【図４８】扉枠におけるハンドルユニットと皿ユニットと演出操作ユニットとを前から見た分解斜視図である。
【図４９】扉枠におけるハンドルユニットと皿ユニットと演出操作ユニットとを後ろから見た分解斜視図である。
【図５０】扉枠におけるハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図５１】扉枠におけるハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５２】（ａ）はハンドルユニットにおけるハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとの関係を斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して斜視図で示す説明図である。
【図５３】ハンドルユニットにおけるハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとインナーベースとの関係を後ろから見た斜視図で示す説明図である。
【図５４】ハンドルユニットの変形例でありハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとインナーベースとの関係を後ろから見た斜視図で示す説明図である。
【図５５】（ａ）は扉枠において透明部分を不透明にすると共にレバー操作部を突出させていない状態で演出操作ユニットを示す斜視図であり、（ｂ）は（ａ）においてレバー操作部を突出させた状態で演出操作ユニットを示す斜視図である。
【図５６】（ａ）はレバー操作部を突出させていない状態の演出操作ユニットを進退機構と共に右側面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてレバー操作部を突出させた状態で示す説明図である。
【図５７】（ａ）は透明部分を透明にした状態で演出操作ユニットを前から見た斜視図で

あり、（ｂ）は（ａ）の演出操作ユニットの右側面図である。
【図５８】図５５の演出操作ユニットにおけるユニット補強フレームを前から見た斜視図である。
【図５９】レバー操作部における回転体の回転機構を示す説明図である。
【図６０】扉枠におけるガラスユニットなどを使用した防犯対策の一例を横断面で示す説明図である。
【図６１】図６０に示すガラスユニットなどを使用した防犯対策を背面から示す説明図である。
【図６２】図６０及び図６１とは異なる扉枠におけるガラスユニットなどを使用した防犯対策の変形例１を示す説明図である。
【図６３】図６２とは更に異なるガラスユニットなどを使用した防犯対策の変形例２を示す説明図である。
【図６４】パチンコ機における本体枠の正面図である。
【図６５】パチンコ機における本体枠の背面図である。
【図６６】本体枠を右前から見た斜視図である。
【図６７】本体枠を左前から見た斜視図である。
【図６８】本体枠を後ろから見た斜視図である。
【図６９】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図７０】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７１】（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。
【図７２】本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。
【図７３】（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。
【図７４】（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図７５】（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図７６】（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７７】払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図である。
【図７８】（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図７９】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。
【図８０】本体枠における遊技球の流れを示す説明図である。
【図８１】（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８２】基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。
【図８３】基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図８４】基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８５】左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。
【図８６】（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８７】（ａ）は電源ユニット、払出制御ユニット、及びインターフェイスユニットを省略して示す第二実施形態の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。
【図８８】（ａ）は図８７の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（

ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。
【図８９】（ａ）は図８７の基板ユニットの平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるコ－コ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるサ－サ線で切断した断面図である。
【図９０】図８９（ａ）におけるシ－シ線で切断した断面図である。
【図９１】図８７の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図９２】図８７の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９３】透明なセンター役物等を不透明にして示す遊技盤の正面図である。
【図９４】図９３の遊技盤を右前から見た斜視図である。
【図９５】図９３の遊技盤を左前から見た斜視図である。
【図９６】図９３の遊技盤を後ろから見た斜視図である。
【図９７】図９３の遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９８】図９３の遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９９】遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内を示す遊技盤の正面図である。
【図１００】（ａ）は図９３の遊技盤において前構成部材、遊技パネル及び表ユニットを有する組立体を前から見た斜視図であり、（ｂ）は図９３の遊技盤において前構成部材、遊技パネル及び表ユニットを有する組立体を後ろから見た斜視図である。
【図１０１】図１００に示す組立体を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０２】図１００に示す組立体を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０３】（ａ）は前構成部材における遊技盤第一情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第一情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第一情報表示部と第一情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第一情報シールが貼り付けられている第一情報シール台座を前から見た斜視図である。
【図１０４】（ａ）は前構成部材における遊技盤第二情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第二情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第二情報表示部と第二情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第二情報シールが貼り付けられている第二情報シール台座を前から見た斜視図である。
【図１０５】（ａ）は前構成部材における遊技盤第三情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第三情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第三情報表示部と第三情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第三情報シールが貼り付けられている第三情報シール台座を前から見た斜視図である。
【図１０６】遊技盤のセンター役物を前から見た斜視図である。
【図１０７】遊技盤のセンター役物を後ろから見た斜視図である。
【図１０８】（ａ）はセンター役物におけるステージユニットの正面図であり、（ｂ）はセンター役物におけるステージユニットの背面図である。
【図１０９】ステージユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１１０】ステージユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１１】ステージユニットの要部を拡大して示す正面図である。
【図１１２】（ａ）は図１１１におけるタ－タ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１１１におけるチ－チ線で切断した断面図であり、（ｃ）は図１１１におけるツ－ツ線で切断した断面図であり、（ｄ）は図１１１におけるテ－テ線で切断した断面図である。
【図１１３】（ａ）～（ｅ）は、脱型痕跡部の様々な態様を示す説明図である。
【図１１４】（ａ）はセンター役物のステージユニットにおける前後両側に脱型痕跡部が設けられている第一部材の正面図であり、ステージユニットにおける前後両側に脱型痕跡部が設けられている第一部材の背面図である。
【図１１５】（ａ）はステージユニットにおける後側のみに脱型痕跡部が設けられている

第二部材の正面図であり、（ｂ）はステージユニットにおける後側のみに脱型痕跡部が設けられている第二部材の背面図である。
【図１１６】（ａ）ははステージユニットにおける前側のみに脱型痕跡部が設けられている第三部材の正面図であり、（ｂ）はステージユニットにおける前側のみに脱型痕跡部が設けられている第三部材の背面図である。
【図１１７】（ａ）は図１１５とは異なる部位に脱型痕跡部が設けられている第二部材の平面図であり、（ｂ）は図１１６とは異なる部位に脱型痕跡部が設けられている第三部材の正面図である。
【図１１８】前側に脱型痕跡部が設けられているセンター役物を遊技盤と共に模式的に示す説明図である。
【図１１９】図１０８等とは異なる第二実施形態のステージユニットの一部を示す正面図である。
【図１２０】（ａ）は図１１９のステージユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のステージユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１２１】図１１９のステージユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２２】図１１９のステージユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２３】（ａ）は図１１９におけるナ－ナ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１１９におけるニ－ニ線で切断した断面図であり、（ｃ）は図１１９におけるヌ－ヌ線で切断した断面図である。
【図１２４】通常の状態から裏第一昇降装飾体を下端の待機位置から上端の上昇位置までの間の中間の位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１２５】通常の状態から裏第二昇降装飾体を下端の待機位置から上端の上昇位置までの間の中間の位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１２６】遊技盤の制御構成を概略で示すブロック図である。
【図１２７】第二実施形態の遊技盤のセンター役物を概略で示す正面図である。
【図１２８】第二実施形態の遊技盤のセンター役物を前から見た斜視図である。
【図１２９】第二実施形態の遊技盤のセンター役物を後ろから見た斜視図である。
【図１３０】（ａ）は図１２７のセンター役物において役物入賞口が設けられている左上隅の部位を拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の部位を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は図１２７のセンター役物の球通路における役物入賞口の部位を断面で示す説明図である。
【図１３１】（ａ）は図１２７のセンター役物の右端の上部を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）を後ろから見た斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は図１２７のセンター役物の球通路における上下に延出している部位を断面で模式的に示す説明図である。
【図１３２】（ａ）は通路装飾部が設けられているアタッカユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）のアタッカユニットにおける通路装飾部の部位を切断して断面で示す説明図である。
【図１３３】通路装飾部の一例を断面で示す説明図である。
【図１３４】（ａ）～（ｃ）は通路装飾部における凹部の形状例を示す説明図である。
【図１３５】（ａ）～（ｃ）は通路装飾部における凸部の形状例を示す説明図である。
【図１３６】（ａ）～（ｃ）は通路装飾部に異なる形態の凸部及び凹部を複数備えたもの示す説明図である
【図１３７】（ａ）は第一凸部に同じ形態の第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第一凸部に突出量の異なる第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｃ）は第一凸部に形態の異なる第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｄ）は第一凸部における傾斜面にも第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図である。
【図１３８】（ａ１）は第一凸部に同じ形態の第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ａ２）は（ａ１）を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ

２）とは異なる形態の凹部が設けられている通路装飾部を正面から示す説明図である。
【図１３９】（ａ）は遊技パネルの開口部に嵌め込まれている形態の通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）とは異なる形態の通路装飾部を断面で示す説明図である。
【図１４０】アウト口表記を拡大して示す説明図である。
【図１４１】（ａ）はアウト口表記が施されている遊技盤における下部正面図であり、（ｂ）は（ａ）を前から見た斜視図である。
【図１４２】装飾部の模様に沿うようにアウト口表記を使用した遊技盤の一部を正面から示す説明図である。
【図１４３】複数のアウト口表記においてそれぞれの目立ち具合を異ならせて使用した遊技盤の一部を正面から示す説明図である。
【図１４４】（ａ）は正面視において演出操作ユニットと重なるようにアウト口表記が設けられているパチンコ機を模式的に示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）のパチンコ機を左右方向中央で切断して模式的に示す縦断面図である。
【図１４５】（ａ）は正面視におけるアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図であり、（ｂ）は前方に着座した遊技者とアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図である。
【図１４６】（ａ）は正面視において遊技盤におけるアウト口表記が設けられている部位を拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の遊技盤において正面視におけるアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図であり、（ｃ）は（ａ）の遊技盤において前方に着座した遊技者とアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図である。
【図１４７】（ａ）は複数のアウト口表記が施されている入球口部材の正面図であり、（ｂ）は（ａ）の入球口部材の背面図である。
【図１４８】（ａ）は図１４７とは異なる態様のアウト口表記が施されている入球口部材におけるアウト口表記の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の背面図である。
【図１４９】（ａ）は図１４７および図１４８とは更に異なり両面印刷されたアウト口表記が施されている入球口部材におけるアウト口表記の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の背面図である。
【図１５０】貼り付けられている装飾シールにアウト口表記と透明部とが施されている透明な入球口部材の一部を示す正面図である。
【図１５１】（ａ）は演出操作部としてポップアップ式の押圧操作部が通常の位置の状態でパチンコ機の下部を正面図から示す説明図であり、（ｂ）はポップアップ式の押圧操作部が上昇位置の状態でパチンコ機の下部を正面図から示す説明図である。
【図１５２】（ａ）は振分片が前進位置の状態でセンター役物の一部を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態におけるサブアウト口の部位で切断して断面で示す説明図であり、（ｃ）は振分片が後退位置の状態でセンター役物の要部を正面から示す説明図である。
【図１５３】（ａ）は第一始動口と第二始動口とを有する始動口ユニットを通常の状態で示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の始動口ユニットの縦断面図であり、（ｃ）は（ａ）の状態における第二始動口の部位を示す斜視図であり、（ｄ）は（ｃ）の状態から羽根が開いた状態で第二始動口の部位を示す斜視図である。
【図１５４】遊技領域の下部において第一領域と第二領域とに分離している遊技盤の下部を概略で示す説明図である。
【図１５５】本体枠に遊技盤を取付けた状態で示す正面図である。
【図１５６】（ａ）は図１５５において遊技盤に設けられている遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態から遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。
【図１５７】（ａ）は図１５５において本体枠に設けられている遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態から遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。

【図１５８】（ａ）は図１５５とは異なる遊技盤ロック部材と教示部との関係をアンロック位置の状態で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態からロック位置の状態にして示す説明図である。
【図１５９】（ａ）は遊技盤の透明な遊技パネルを本体枠に取付けた状態でパチンコ機を後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）において遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）においてアンロック位置の遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。
【図１６０】遊技盤における前構成部材、機能表示ユニット、および遊技パネルを分離させて前から見た分解斜視図である。
【図１６１】遊技盤における前構成部材、機能表示ユニット、および遊技パネルを分離させて後ろから見た分解斜視図である。
【図１６２】（ａ）は前構成部材における内レールユニットの正面図であり、（ｂ）は前構成部材における内レールユニットの背面図である。
【図１６３】（ａ）は逆流防止部材が開状態の時の内レールユニットの先端に設けられている球逆流防止ユニットを拡大して示す説明図であり、（ｂ）は逆流防止部材が閉状態の時の内レールユニットの先端に設けられている球逆流防止ユニットを拡大して示す説明図であり、（ｃ）は逆流防止部材の正面図であり、（ｄ）は逆流防止部材の背面図である。
【図１６４】前構成部材において証紙貼付部と証紙台座とを分離させて斜視図で示す説明図である。
【図１６５】（ａ）は前構成部材における遊技盤第一情報表示部と第一情報シール台座とを分解すると共にそれぞれに脱型痕跡部を記して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は第一情報シール台座において脱型痕跡部と突起部との関係を断面で示す説明図である。
【図１６６】前構成部材における装飾体としての証紙台座を後ろから見た斜視図である。
【図１６７】前構成部材と機能表示ユニットとを分離させて後ろから見た分解斜視図において機能表示ユニット取付部の部位を機能表示ユニットと共に拡大して示す説明図である。
【図１６８】（ａ）は機能表示ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は機能表示ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１６９】ＬＥＤ孔の部位に脱型痕跡部が設けられている第一ケースを後ろから見た斜視図である。
【図１７０】（ａ）は遊技盤の裏ユニットにおける第一導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットにおける第一導光板ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１７１】第一導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１７２】第一導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１７３】第一導光板ユニットにおける導光板と各ＬＥＤ基板との関係を正面から示す説明図である。
【図１７４】（ａ）は導光板に第一絵柄が表示されている状態を示す説明図であり、（ｂ）は導光板に第二絵柄が表示されている状態を示す説明図である。
【図１７５】（ａ）は導光板の脱型痕跡部と導光板ホルダとの関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は導光板と導光板ホルダとの関係を拡大して断面で示す説明図である。
【図１７６】図１７５とは異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板を正面から示す説明図である。
【図１７７】図１７５などとは更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板を正面から示す説明図である。
【図１７８】更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板の一部を正面から示す説明図である。
【図１７９】更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板の一部を正面から示す説明図である。
【図１８０】（ａ）は遊技盤の裏ユニットにおける第二導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットにおける第二導光板ユニットを後ろから見た斜視

図である。
【図１８１】第二導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８２】第二導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１８３】（ａ）は第二導光板ユニットの前左可動導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二導光板ユニットの前左可動導光板ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１８４】前左可動導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８５】前左可動導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１８６】前左可動導光板ユニットにおける前左導光板とＬＥＤ基板との関係を正面から示す説明図である。
【図１８７】（ａ）は前左導光板に前左第一絵柄が表示されている状態を示す説明図であり、（ｂ）は前左導光板に前左第二絵柄が表示されている状態を示す説明図である。
【図１８８】図１８６において前左導光板に脱型痕跡部を記した説明図である。
【図１８９】全開位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図である。
【図１９０】半閉位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図である。
【図１９１】全閉位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図である。
【発明を実施するための形態】
【００２９】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１０を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図８は、本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図９はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００３０】
本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球Ｂ（図７８等を参照）が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。
【００３１】
外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。外枠２は、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。
【００３２】
外枠２は、パチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備に取付けられ、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持して、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けるためのものである。
【００３３】
また、扉枠３は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板

ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成し、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することで、より重低音のサウンドを遊技者に聴かせることができるものである。

【００３４】

扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１９７を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００３５】

また、扉枠３は、ハンドル１９７とは別に遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えており、遊技者参加型演出が実行された際に、遊技者が演出操作部３０１を操作することで遊技者が演出に参加できるようになり、遊技球Ｂによる遊技に加えて、演出操作部３０１の操作によっても遊技者を楽しませることができるようにしている。

【００３６】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠４を外枠２に対して開閉可能に取付けると共に扉枠３を開閉可能に取付けるための本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０と、本体枠ベースユニット５００を補強している本体枠補強フレーム５３０と、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、遊技ホールの島設備から供給される遊技球Ｂを受取る払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０で受取った遊技球Ｂを遊技者側へ払出すための払出ユニット５６０と、パチンコ機１の電源投入を行うことができる電源スイッチ６３０ａを備える電源基板６３０のほかに払出制御基板６３３を有している基板ユニット６２０と、本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。

【００３７】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。また、本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【００３８】

遊技盤５は、遊技者の操作によって遊技球Ｂが行われる遊技領域５ａと、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられており主制御基板１３１０を有している主制御ユニット１３００と、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示する機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００（図１０を参照）と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を備えている。裏ユニット３０００には、遊技状態に応じて可動演出や発光演出を行うことが可能な各種の演出ユニットを備えている。

【００３９】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球Ｂと当接し所定のゲージ配列で植設されている複数の障害釘Ｎと、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定数の遊技球Ｂの払出し）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲ

ート２００３、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、を備えている。障害釘Ｎは、遊技パネル１１００の前面に植設されている。一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６は、表ユニット２０００に備えられている。

【００４０】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１９７を操作することで、遊技球Ｂを打込むことができる。これにより、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６等に、受入れられたり通過したりするように、遊技者に対してハンドル１９７の打込操作を楽しませることができる。

【００４１】

また、遊技盤５は、遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むことで変化する遊技状態に応じて、演出表示装置１６００に所定の演出画像を表示させたり、裏第一演出ユニット３３００、裏第二演出ユニット３４００、等により発光演出や可動演出を行わせたりして、遊技者を楽しませることができる。

【００４２】

［２．外枠の全体構成］

パチンコ機１の外枠２について、図１１乃至図１６を参照して説明する。図１１はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１２は外枠の背面図であり、図１３は外枠の右側面図である。また、図１４は外枠を前から見た斜視図であり、図１５は外枠を後ろから見た斜視図である。図１６は、外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。

【００４３】

外枠２は、図示するように、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。

【００４４】

外枠２は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成していると共に、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することができるものである。

【００４５】

外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０が、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０を着脱可能に支持することができる。外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持することができ、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けることができる。

【００４６】

［２－１．外枠左組立体及び外枠右組立体］

外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０について、主に図１７を参照して詳細に説明する。図１７は、外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図である。外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０は、夫々が上下に延びており、互いに左右に離間して配置されている。外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０は、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を同軸上で

回転可能に支持して、外枠２に対して本体枠４を開閉可能に取付けるためのものである。
【００４７】
まず、外枠左組立体１０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠左部材１１と、外枠左部材１１の右側面上端に取付けられている左上連結部材１２と、外枠左部材１１の右側面下端に取付けられている左下連結部材１３と、を備えている。
【００４８】
外枠左部材１１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠左部材１１は、左側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に右方へ窪んでいる凹部１１ａと、右側面における凹部１１ａとは反対側の部位から右方へ膨出している膨出部１１ｂと、膨出部１１ｂを上下に貫通している空洞部１１ｃと、を備えている。外枠左部材１１は、凹部１１ａや膨出部１１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部１１ｃによって、重量が軽減されている。
【００４９】
また、外枠左部材１１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。左側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、右側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠左部材１１は、後述する外枠右組立体２０の外枠右部材２１と左右対称形状に形成されている。
【００５０】
左上連結部材１２は、外枠左部材１１の上端と外枠上部材３０の左端とを連結するためのものである。左上連結部材１２は、水平に延びた平板状の水平固定部１２ａと、水平固定部１２ａの左辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部１２ｂと、水平固定部１２ａの左辺における上横固定部１２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部１２ｃと、を備えている。左上連結部材１２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００５１】
左上連結部材１２は、後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の空洞部１１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部１２ａを外枠左部材１１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の右側面に当接させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から下横固定部１２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左上連結部材１２は、水平固定部１２ａを外枠上部材３０の左端側の下面に当接させると共に、上横固定部１２ｂを外枠上部材３０の左側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部１２ａ及び上横固定部１２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。
【００５２】
左下連結部材１３は、外枠左部材１１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の左端とを連結するためのものである。左下連結部材１３は、水平に延びた平板状の水平固定部１３ａと、水平固定部１３ａの左辺から上方へ延出していると共に水平固定部１３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部１３ｂと、上横固定部１３ｂの下辺における水平固定部１３ａよりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部１３ｃと、上横固定部１３ｂの後辺から右方へ短く延出している平板状の当接部１３ｄと、を備えている。左下連結部材１３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００５３】
左下連結部材１３は、当接部１３ｄの後面を外枠左部材１１の膨出部１１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部１３ｂの左側面を外枠左部材１１の右側面に当接させ、水平固定部１３ａの下面を外枠左部材１１の下端と一致させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から上横固定部１３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左下連結部材１３は、水平固定部１３ａを外枠下部材４１の左端側の上面に当接させると共に、下横固定部１３ｃを外枠下部材４１の左側面の切欠部４１ａに挿入させた状態で、水平固定部１３ａ及び下横固定部１３ｃを通して外枠下部材４１にビスを捩じ込むことで、外枠下部材４１に取付けられる。

【００５４】
次に、外枠右組立体２０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠右部材２１と、外枠右部材２１の左側面上端に取付けられている右上連結部材２２と、外枠右部材２１の左側面下端に取付けられている右下連結部材２３と、外枠右部材２１の左側面上部に取付けられている上鉤掛部材２４と、外枠右部材２１の左側面下部に取付けられている下鉤掛部材２５と、を備えている。
【００５５】
外枠右部材２１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠右部材２１は、右側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に左方へ窪んでいる凹部２１ａと、左側面における凹部２１ａとは反対側の部位から左方へ膨出している膨出部２１ｂと、膨出部２１ｂを上下に貫通している空洞部２１ｃと、を備えている。外枠右部材２１は、凹部２１ａや膨出部２１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部２１ｃによって、重量が軽減されている。
【００５６】
また、外枠右部材２１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。右側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、左側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠右部材２１は、外枠左組立体１０の外枠左部材１１と左右対称形状に形成されている。
【００５７】
右上連結部材２２は、外枠右部材２１の上端と外枠上部材３０の右端とを連結するためのものである。右上連結部材２２は、水平に延びた平板状の水平固定部２２ａと、水平固定部２２ａの右辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部２２ｂと、水平固定部２２ａの右辺における上横固定部２２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部２２ｃと、を備えている。右上連結部材２２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００５８】
右上連結部材２２は、後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の空洞部２１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部２２ａを外枠右部材２１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の左側面に当接させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から下横固定部２２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右上連結部材２２は、水平固定部２２ａを外枠上部材３０の右端側の下面に当接させると共に、上横固定部２２ｂを外枠上部材３０の右側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部２２ａ及び上横固定部２２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。
【００５９】
右下連結部材２３は、外枠右部材２１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の右端とを連結するためのものである。右下連結部材２３は、水平に延びた平板状の水平固定部２３ａと、水平固定部２３ａの右辺から上方へ延出していると共に水平固定部２３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部２３ｂと、上横固定部２３ｂの下辺における水平固定部２３ａよりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部２３ｃと、上横固定部２３ｂの後辺から左方へ短く延出している平板状の当接部２３ｄと、を備えている。右下連結部材２３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００６０】
右下連結部材２３は、当接部２３ｄの後面を外枠右部材２１の膨出部２１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部２３ｂの右側面を外枠右部材２１の左側面に当接させ、水平固定部２３ａの下面を外枠右部材２１の下端と一致させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から上横固定部２３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右下連結部材２３は、水平固定部２３ａを外枠下部材４１の右端側の上面に当接させると共に、下横固定部２３ｃを外枠下部材４１の右側面の切欠部４１ａに挿入させた状態で、水平固定部２３ａ及び下横固定部２３ｃを通して外枠下部材４１にビスを捩じ込

むことで、外枠下部材４１に取付けられる。
【００６１】
上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５は、後述する本体枠４における施錠ユニット６５０の外枠用鉤６５３が掛止されるものである。上鉤掛部材２４は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２４ａと、取付部２４ａの前辺から左方へ延出しており上側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２４ｂと、を備えている。
【００６２】
下鉤掛部材２５は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２５ａと、取付部２５ａの前辺から左方へ延出しており下側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２５ｂと、掛止片部２５ｂを前後に貫通しており下側の外枠用鉤６５３が挿通可能な挿通口２５ｃと、を備えている。
【００６３】
［２－２．外枠上部材］
外枠２の外枠上部材３０について、主に図１６を参照して詳細に説明する。外枠上部材３０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結するためのものである。外枠上部材３０は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠上部材３０は、左右方向の長さが、後述する外枠下組立体４０の外枠下部材４１の左右方向の長さと同じに形成されている。
【００６４】
外枠上部材３０は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部３０ａを備えている。これら左右両端の切欠部３０ａには、左上連結部材１２の上横固定部１２ｂ及び右上連結部材２２の上横固定部２２ｂが夫々挿入された状態で取付けられる。
【００６５】
また、外枠上部材３０は、左側端部において、上面と前面が一般面よりも窪んだ取付段部３０ｂを備えている。この取付段部３０ｂには、後述する外枠上ヒンジ組立体５０が取付けられる。
【００６６】
［２－３．外枠下組立体］
外枠２の外枠下組立体４０について、主に図１８を参照して詳細に説明する。図１８は、外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結すると共に、パチンコ機１において扉枠３よりも下側を閉鎖して装飾するためのものである。
【００６７】
外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結しており左右に延びている外枠下部材４１と、外枠下部材４１の前方に配置されており外枠下部材４１に沿って左右に延びていると共に後方が開放されている箱状の幕板前部材４２と、幕板前部材４２の後側に取付けられていると共に外枠下部材４１の上面に取付けられており前方が開放されている左右に延びた箱状の幕板後部材４３と、幕板後部材４３の上面における左端に形成されている球噛防止機構４４と、を備えている。
【００６８】
外枠下部材４１は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠下部材４１は、左右方向の長さが、外枠上部材３０の左右方向の長さと同じに形成されている。
【００６９】
外枠下部材４１は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部４１ａを備えている。これら左右両端の切欠部

４１ａには、左下連結部材１３の下横固定部１３ｃ及び右下連結部材２３の下横固定部２３ｃが夫々挿入された状態で取付けられる。これにより、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の下端同士を連結することができる。

【００７０】

また、外枠下部材４１は、上面から凹んでおり、幕板後部材４３の下部が挿入される凹部４１ｂを備えている。凹部４１ｂは、左右に延びていると共に、前後方向中央の後ろ寄りの位置から前端側へ抜けている。この凹部４１ｂにより、幕板前部材４２及び幕板後部材４３により形成される幕板内部空間４０ａの容積を可及的に広くしている。

【００７１】

幕板前部材４２は、左右方向の長さが外枠下部材４１と同じ長さに延びており、高さに対して前後方向の奥行が短い横長の直方体状の箱状に形成されており、後側の全面が開放されている。幕板前部材４２は、開放されている後側を、幕板後部材４３によって閉鎖することで、幕板後部材４３と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板前部材４２は、右端付近の前面において、前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の開口部４２ａを備えている。

【００７２】

幕板後部材４３は、左右方向の長さが外枠下部材４１よりも若干短く延びており、前方が開放された箱状に形成されている。幕板後部材４３は、前面に幕板前部材４２を取付けることで、幕板前部材４２と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板後部材４３は、上面における左右方向中央部において、左右に延びていると共に上方へ突出しており幕板内部空間４０ａと連通している筒状の接続筒部４３ａを有している。接続筒部４３ａは、上端が、幕板後部材４３の一般的な上面と一致している前端側から後方へ向かうほど上方へ位置するように傾斜している。本実施形態では、接続筒部４３ａの上端は、４５度の角度で傾斜している。

【００７３】

この接続筒部４３ａは、左右方向の長さが、幕板後部材４３全体の約１／３の長さに形成されていると共に、前後方向の奥行が、幕板後部材４３全体の奥行よりも若干短く形成されている。接続筒部４３ａ内には、前端側と後端側とを結ぶ複数のリブ４３ｂが備えられている。この接続筒部４３ａの上端には、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａにおけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃが接続されて、スピーカユニット６２０ａの内部空間と連通した状態となり、エンクロージャ６２４を形成する。

【００７４】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端において、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが滞留することで、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止するためのものである。

【００７５】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端に形成されており、後述する外枠下ヒンジ部材６０が際されるように平坦に形成された載置部４４ａと、載置部４４ａの左端において上方へ向かって開口している第一排出口４４ｂと、載置部４４ａにおける第一排出口４４ｂよりも右方で上方へ向かって開口している第二排出口４４ｃと、載置部４４ａの後辺及び右辺から上方へ延出している立壁部４４ｄと、立壁部４４ｄの上端から前方へ突出していると共に上面が後方へ向かうに従って上方に位置するように傾斜している上端突出部４４ｅと、を備えている。

【００７６】

第一排出口４４ｂは、後述する外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと一致する位置に形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、遊技球Ｂが通過可能な大きさに形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、幕板内部空間４０ａとは連通しておらず、幕板後部材４３の後面に開口している。従って、第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃに進入した遊技球Ｂを、幕板後部材４３の後方へ排出することができ

る。
【００７７】
この球噛防止機構４４は、球噛防止機構４４は、外枠下ヒンジ部材６０と後述する本体枠下ヒンジ組立体５２０との間の隙間を通して、ピアノ線等の不正な工具が挿入された場合、載置部４４ａの後端から立上っている立壁部４４ｄにより、不正な工具の侵入を阻止することができる。仮に、不正な工具の先端が立壁部４４ｄに当接することで、上方へ曲がったとしても、立壁部４４ｄの上端に備えられている前方へ突出した上端突出部４４ｅに当接し、これ以上の侵入を阻止することができる。従って、外枠下ヒンジ部材６０の部位を介して、不正行為が行われるのを防止することができる。
【００７８】
ところで、載置部４４ａの後端に立壁部４４ｄを備えた場合、外枠２に対して本体枠４を開けた時に、何らかの理由により載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂが、立壁部４４ｄによって外枠２の後方への移動が阻止されるため、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留し易くなる。そして、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留していると、外枠２に対して本体枠４を閉じる際に、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟み込まれてしまい、本体枠４を閉じることができなくなる問題が発生する。
【００７９】
これに対して、本実施形態の球噛防止機構４４では、外枠下ヒンジ部材６０上や載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂを、外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと第一排出口４４ｂを通して、又は、第二排出口４４ｃを通して、遊技球Ｂを幕板後部材４３の後方（外枠２の後方）へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止することができる。
【００８０】
外枠下組立体４０は、幕板前部材４２及び幕板後部材４３の上面に左右に離間して配置されている一対の案内部材４５と、幕板前部材４２の開口部４２ａを後側から閉鎖している平板状のグリル部材４６と、グリル部材４６を挟んで開口部４２ａを閉鎖するように幕板前部材４２の内部に取付けられており前後に延びた二つの円筒を有したポート部材４７と、幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端に配置される枠状のシール部材４８と、を備えている。
【００８１】
一対の案内部材４５は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、扉枠３の下端が当接するものである。案内部材４５は、摩擦抵抗の低い低摩擦材料によって形成されており、本体枠４の下端を滑り易くして、開閉を容易にしている。
【００８２】
グリル部材４６は、左右方向へ延びた帯板状で、上下方向へ間隔をあけて設けられている複数の羽根部４６ｂを有している。羽根部４６ｂは、前端側が後端側よりも高くなるように、傾斜した状態で設けられている。このグリル部材４６は、羽根部４６ｂ同士の間の隙間を通して、幕板前部材４２の内部（幕板内部空間４０ａ）と外部とを通気可能に連通させている。
【００８３】
ポート部材４７は、二つの円筒により、グリル部材４６における羽根部４６ｂ同士の間の隙間を介して幕板内部空間４０ａ（エンクロージャ６２４）と外枠２の前方とを連通させている。ポート部材４７は、二つの円筒が、所定の内径で所定の長さに形成されており、ヘルムホルツ共鳴の原理により本体枠スピーカ６２２から後方（エンクロージャ６２４内）へ発せられた低音を共振・増幅させて、豊かな低音を外枠２の前方（遊技者側）へ放射することができる。つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。
【００８４】
シール部材４８は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、接続筒部４３ａの上端と本体枠４におけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃの下端との間に挟まれて圧縮され

るものであり、接続筒部４３ａと接続部６２１ｃとの間から本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４内の音が漏れるのを防止するものである。

【００８５】

本実施形態のグリル部材４６によれば、本体枠スピーカ６２２により幕板内部空間４０ａから外部へ放出される空気振動を、傾斜している複数の羽根部４６ｂにより、斜め上前方のハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバー２９５の下側の切欠開口部２９５ｂを通してハンドルユニット１８０が収容されているハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ内へ向けさせることができる。これにより、遊技者が、ハンドルカバー２９５（ハンドルカバーベース２９１の前筒部２９１ａ）の内側に手指を突っ込んで、ハンドル１９７を回転操作（遊技球Ｂの打込装置）している時に、本体枠スピーカ６２２を振動させて前筒部２９１ａ内へ風を送ることで、遊技者を驚かせることができ、これまでにない演出を行うことができる。

【００８６】

また、ポート部材４７を前方へ向かって開口させていることから、グリル部材４６の複数の羽根部４６ｂを通ってポート部材４７から放出される音圧の一部が、前方へ放出されることとなるため、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者や、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内を回遊している他の遊技者に対しても、ポート部材４７から放出される演出サウンドが聞えることとなり、演出サウンドによっても遊技者の関心を引付けることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【００８７】

また、本体枠４に設けられている本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４に対して、ポート部材４７を外枠２の外枠下組立体４０に設けていることから、エンクロージャ６２４の容積を大きくすることができるため、より重低音の演出サウンドを出力することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【００８８】

［２－４．外枠上ヒンジ組立体］

外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０について、主に図１９を参照して詳細に説明する。図１９（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左組立体１０の上端と外枠上部材３０の左端に取付けられるものであり、外枠２に対して本体枠４をヒンジ回転可能に取付けるためのものである。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左部材１１の凹部１１ａの上端と外枠上部材３０の取付段部３０ｂとに取付けられる外枠上ヒンジ部材５１と、外枠上ヒンジ部材５１に取付けられているロック部材５２と、ロック部材５２を外枠上ヒンジ部材５１に取付けている取付ビス５３と、を備えている。

【００８９】

外枠上ヒンジ部材５１は、水平に延びた平板状で外枠上部材３０の取付段部３０ｂの上面に取付けられる上固定部５１ａと、上固定部５１ａの前辺から前方へ延出している平板状の前方延出部５１ｂと、前方延出部５１ｂの右辺の途中から前方へ向かうに従って前方延出部５１ｂの左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝５１ｃと、上固定部５１ａの左辺から下方へ延びている平板状の横固定部５１ｄと、前方延出部５１ｂの左辺から前辺を周って軸受溝５１ｃが開口している部位までの端縁から下方へ延びており横固定部５１ｄと連続している平板状の端縁壁部５１ｅと、を備えている。外枠上ヒンジ部材５１は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。外枠上ヒンジ部材５１は、軸受溝５１ｃ内において、本体枠上ヒンジ部材５１０の後述する本体枠上ヒンジピン５１２を回転可能に支持することができる。

【００９０】

ロック部材５２は、前後に延びている帯板状のロック本体５２ａと、ロック本体５２ａの後端から右方へ突出している操作片５２ｂと、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部５２ｃと、ロック本体５２ａの後端付近で上下に貫通している取付孔５２ｄと、を備えている。ロック部材５２は、合

成樹脂によって形成されている。ロック部材５２は、取付ビス５３によって、外枠上ヒンジ部材５１における前方延出部５１ｂの下面で、軸受溝５１ｃよりも後側の部位に回動可能に取付けられる。

【００９１】

ロック部材５２は、外枠上ヒンジ部材５１に取付けた状態で、ロック本体５２ａが、平面視で軸受溝５１ｃを遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠上ヒンジ部材５１の端縁壁部５１ｅにおける軸受溝５１ｃの開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている。また、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びている弾性部５２ｃの先端は、外枠上ヒンジ部材５１における端縁壁部５１ｅの内周面に当接している。このロック部材５２は、弾性部５２ｃの付勢力によって取付孔５２ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材５２のロック本体５２ａの前端付近の右側面が、端縁壁部５１ｅに当接している。この状態では、軸受溝５１ｃにおけるロック本体５２ａよりも前側の部位に、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２を収容可能な空間が形成される。

【００９２】

このロック部材５２は、操作片５２ｂを操作することで、弾性部５２ｃの付勢力に抗してロック本体５２ａを回動させることができる。そして、操作片５２ｂの操作によって、ロック本体５２ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝５１ｃからロック本体５２ａを後退させることができ、軸受溝５１ｃが全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝５１ｃ内に本体枠上ヒンジピン５１２を挿入したり、軸受溝５１ｃ内から本体枠上ヒンジピン５１２を外したりすることができる。

【００９３】

［２－５．外枠下ヒンジ部材］

外枠２の外枠下ヒンジ部材６０について、主に図１６を参照して詳細に説明する。外枠下ヒンジ部材６０は、水平に延びた平板状の水平部６０ａと、水平部６０ａの左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上部６０ｂと、水平部６０ａの前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン６０ｃと、水平部６０ａを上下に貫通しており遊技球Ｂが一つのみ通過可能な大きさの排出孔６０ｄと、を備えている。この外枠下ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。

【００９４】

外枠下ヒンジ部材６０の水平部６０ａは、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン６０ｃは、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン６０ｃは、水平部６０ａの前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔６０ｄは、水平部６０ａにおいて、立上部６０ｂの前後方向中央の部位と接し、水平部６０ａの左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔６０ｄは、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと、略同じ大きさに形成されている。

【００９５】

外枠下ヒンジ部材６０は、外枠２に組立てた状態で、水平部６０ａの後部が、外枠下組立体４０における幕板後部材４３の載置部４４ａ上に載置され、図示しないビスによって幕板後部材４３に固定されている。また、立上部６０ｂが、外枠左部材１１の右側面における膨出部１１ｂよりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠下ヒンジ部材６０は、外枠下ヒンジピン６０ｃを、本体枠４の本体枠下ヒンジ組立体５２０における外枠用下ヒンジ孔５２１ａに挿通させることで、外枠上ヒンジ部材５１と協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。

【００９６】

また、外枠２を組立てた状態では、排出孔６０ｄが、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと一致している。これにより、水平部６０ａ上の遊技球Ｂ

を、排出孔６０ｄ及び第一排出口４４ｂを通して、外枠２の後方へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂが、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔６０ｄから排出させることができる。この際に、排出孔６０ｄが、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂを、排出孔６０ｄから排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが留まり難くすることができる。

【００９７】

［３．扉枠の全体構成］

パチンコ機１の扉枠３について、主に図２０～図３３等を参照して詳細に説明する。図２０は扉枠を前から見た斜視図であり、図２１は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２２は扉枠に対して扉枠トップ装飾体と扉枠上飾体とを分解して前から見た分解斜視図であり、図２３は扉枠に対して扉枠トップ装飾体と扉枠上飾体とを分解して後ろから見た分解斜視図である。図２４は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の正面図であり、図２５は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の背面図であり、図２６は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の左側面図であり、図２７は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠の右側面図である。図２８は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を右前から見た斜視図であり、図２９は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を左前から見た斜視図であり、図３０は扉枠上飾体を取外した状態で示す扉枠を後ろから見た斜視図である。図３１は扉枠上飾体を取外した状態の扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３２は扉枠上飾体を取外した状態の扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図３３は、扉枠上飾体を取外した状態の扉枠の縦断面図である。

【００９８】

扉枠３は、外枠２の枠内と略同じ大きさで正面視において上下に延びた四角形に形成されており、本体枠４を介して外枠２の枠内を前側から開閉可能に取付けられている。扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１９７を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００９９】

扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００に着脱可能に取付けられており本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能に閉鎖しているガラスユニット１６０と、ガラスユニット１６０の下部を後側から覆うように扉枠ベースユニット１００に取付けられている防犯カバー１７０と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット１８０と、ハンドルユニット１８０の外周を覆うハンドルカバーユニット２９０と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット２００と、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット４２０と、皿ユニットの上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット４３０と、扉枠左サイドユニット４２０及び扉枠右サイドユニット４３０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット４５０と、扉枠トップユニット４５０に取付けられている扉枠上飾体４８０と、を備えている。

【０１００】

扉枠ベースユニット１００は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されており前後に貫通している扉窓１０１ａを有した扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠

主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠副中継基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板と、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１０７と、ハンドル後中継基板を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。

【０１０１】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側でハンドル後中継基板の上方に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を備えている。

【０１０２】

扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、扉枠ベース１０１を補強して剛性を付与するものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を本体枠４に対して開閉可能に取付けるためのものである。シリンダ錠１３０は、本体枠４の施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。

【０１０３】

また、球送給ユニット１４０は、上皿２０１内の遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。

【０１０４】

ガラスユニット１６０は、透明なガラス板１６２を有しており扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖している。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように扉枠ベース１０１に取付けられている。ハンドルユニット１８０は、遊技者が回転操作可能なハンドル１９７を備えており、ハンドルユニット１８０は、外周を覆うハンドルカバーユニット２９０を操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球発射装置５４０によって遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込む遊技を行うためのものである。

【０１０５】

遊技者が操作するハンドル１９７は、ハンドルユニット１８０に設けられている。ハンドルユニット１８０のハンドル１９７は、ハンドルカバーユニット２９０よりも前方に突出している。

【０１０６】

扉枠右サイドユニット４３０は、左側面において着脱可能に設けられている右サイド左パネル４４２と、右側面において着脱可能に設けられている右サイド右パネル４４３と、を有している。従って、パチンコ機１において仕様変更や機種変更等により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５の装飾（コンセプト）と対応している装飾や絵柄が施されている右サイド左パネル４４２及び右サイド右パネル４４３に交換することで、機種変更等に容易に対応することができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。

【０１０７】

扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３が扉枠トップベース４５１に対して着脱可能に設けられている。扉枠トップ装飾体４５３は、扉枠ベースユニット１００の後方からねじ込まれている手回ネジ４６９を緩めることで前方へ取り外すことができる。従って、パチンコ機１において仕様変更や機種変更等により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５の装飾（コンセプト）と対応している装飾が施されている扉枠トップ装飾体４５３に交換することで、機種変更等に容易に対応することができ、遊技者に対する訴求

力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。
【０１０８】
［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］
扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、主に図３４を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は第二実施形態の扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【０１０９】
扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられ、本体枠４の前面を開閉可能に閉鎖していると共に、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能としている。扉枠ベースユニット１００は、外形が上下に延びた四角形で平板状の扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、を備えている。
【０１１０】
また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠副中継基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１０７と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられておりハンドル後中継基板を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。
【０１１１】
更に、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を主に備えている。
【０１１２】
この扉枠ベースユニット１００には、前面下隅にハンドルユニット１８０及びハンドルカバーユニット２９０が、扉窓１０１ａの下側前面に皿ユニット２００が、扉窓１０１ａの左外側前面に扉枠左サイドユニット４２０が、扉窓１０１ａの右外側前面に扉枠右サイドユニット４３０が、扉窓１０１ａの上外側前面に扉枠トップユニット４５０が、夫々取付けられるものである。
【０１１３】
また、扉枠ベースユニット１００には、扉窓１０１ａを後方から閉鎖するようにガラスユニット１６０が取付けられると共に、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように透明な防犯カバー１７０が取付けられるものである。
【０１１４】
［３－１ａ．扉枠ベース］
扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１について、主に図３４等を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１０１は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１０１は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された扉窓１０１ａを備えている。扉窓１０１ａは、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１０１の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１０１の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。このように、扉枠ベース１０１は、前後に貫通している扉窓１０１ａにより全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１０１は、合成樹脂により一体成形されている。

【０１１５】
扉枠ベース１０１は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面と、ハンドル取付座面と扉窓１０１ａとの間で前後に貫通して扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５が挿入されるシリンダ挿通孔１０１ｄと、シリンダ挿通孔１０１ｄ及びハンドル取付座面の正面視左側で前後に貫通しており球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂを前方に臨ませるための球送給開口１０１ｅと、を備えている。
【０１１６】
また、扉枠ベース１０１は、左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄを前方に臨ませる下皿用球通過口１０１ｆと、正面視左端付近で扉窓１０１ａの下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを前方に臨ませる上皿用球通過口１０１ｇと、扉窓１０１ａの内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１が挿入されるガラスユニット取付部１０１ｈと、を備えている。
【０１１７】
また、扉枠ベース１０１は、正面視左下隅（上皿用球通過口１０１ｇの下方）に形成されており前後に貫通した縦長の複数のスリット１０１ｉを、備えている。複数のスリット１０１ｉの後側にスピーカダクト１０３が取付けられる。また、複数のスリット１０１ｉは、パチンコ機１を組立てた状態で、前方に皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１のスピーカ口２１１ｂが位置していると共に、後方に本体枠４のスピーカユニット６２０ａにおける本体枠スピーカ６２２が位置しており、本体枠スピーカ６２２からの音を前方へ放射することができる。
【０１１８】
更に、扉枠ベース１０１は、扉窓１０１ａの下方でハンドル取付座面の上方において、前後に貫通している貫通孔を備えている。この貫通孔は、扉枠ベースユニット１００側と皿ユニット２００側とを接続する配線ケーブル（図示は省略）が挿通されるものであり、後述する扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１７の貫通部１１７ｆと一致するように形成されている。
【０１１９】
［３－１ｂ．スピーカダクト］
扉枠ベースユニット１００のスピーカダクト１０３について、主に図３４を参照して詳細に説明する。このスピーカダクト１０３は、筒状に形成されており、扉枠ベース１０１の後側において複数のスリット１０１ｉが形成されている部位に取付けられる。スピーカダクト１０３は、パチンコ機１を組立てた状態で、筒状の部位の後端が、本体枠４の本体枠スピーカ６２２の前方に位置している。これにより、本体枠４の本体枠スピーカ６２２から放射（出力）された音（サウンド）を、拡散させることなく前方へ誘導することができ、扉枠ベース１０１の複数のスリット１０１ｉ及び皿ユニット２００の皿ユニットベース２１１におけるスピーカ口２１１ｂを通して、パチンコ機１の前方（遊技者側）へ良好に誘導することができる。
【０１２０】
また、スピーカダクト１０３は、筒状の部位の下方の後面に、接続ケーブル５０３を保持するケーブルホルダ１０３ａを備えている。ケーブルホルダ１０３ａは、扉枠中継基板カバー１０７よりも正面視左方に配置されており、扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続されている接続ケーブル５０３を、扉枠３の左端側へ延びるように保持している。
【０１２１】
［３－１ｃ．扉枠主中継基板・扉枠副中継基板・ハンドル後中継基板］
扉枠ベースユニット１００の扉枠主中継基板１０４、扉枠副中継基板１０５、ハンドル後中継基板について、説明する。扉枠主中継基板１０４は、外形が上下に延びた四角形に

形成されており、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右下隅に取付けられる。扉枠主中継基板１０４は、ハンドル後中継基板と本体枠４の基板ユニット６２０におけるインターフェイス基板６３５との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３（図７１及び図７２を参照）の一部が接続される。

【０１２２】

扉枠副中継基板１０５は、外形が、上下に延びた四角形の上部の正面視右側に左右に延びた四角形が組み合された逆Ｌ字状に形成されており、上下に延びている部位が扉枠主中継基板１０４の背面視左方に隣接するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている。扉枠副中継基板１０５は、ハンドルユニット１８０のハンドル装飾基板１８４、皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４、扉枠左サイドユニット４２０の扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板、扉枠右サイドユニット４３０の扉枠右サイド上装飾基板及び扉枠右サイド下装飾基板、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板等と、本体枠４のインターフェイス基板６３５との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３の残りが接続される。

【０１２３】

扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５は、接続端子が後方へ向かって突出するように、扉枠ベース１０１に取付けられる。扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の上下に延びている部位とが、扉枠中継基板カバー１０７によって後側が被覆された状態となり、扉枠副中継基板１０５の残りの部位が、ファールカバーユニット１５０によって後側が被覆された状態となる。

【０１２４】

ハンドル後中継基板は、外形が左右に延びた四角形に形成されており、扉枠ベース１０１の後側における球送給開口１０１ｅの下方でハンドル取付座面の後側に取付けられる。ハンドル後中継基板は、扉枠主中継基板１０４とハンドルユニット１８０のハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、及び球送給ユニット１４０の球送給ソレノイド１４５との接続を中継するためのものである。ハンドル後中継基板は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、ハンドル後中継基板カバー１０８によって後側が被覆された状態となる。

【０１２５】

［３－１ｄ．扉枠中継基板カバー・ハンドル後中継基板カバー・ケーブルカバー］

扉枠ベースユニット１００の扉枠中継基板カバー１０７、ハンドル後中継基板カバー１０８、及びケーブルカバー１０９について、主に図２５を参照して説明する。扉枠中継基板カバー１０７は、扉枠ベース１０１の後側に取付けることで、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部（逆Ｌ字状の上下に延びている部位）の後側を被覆するものである。扉枠中継基板カバー１０７は、前方及び正面視左方が開放された箱状に形成されている。扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、後側を被覆している扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の接続端子が扉枠中継基板カバー１０７の内部に露出しており、開放されている左側から接続ケーブル５０３（図７１を参照）を内部に挿入して、それら端子に接続することができる。

【０１２６】

ハンドル後中継基板カバー１０８は、ハンドル後中継基板の後側を被覆するように扉枠ベース１０１の後側に取付けられるものである。ケーブルカバー１０９は、扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１７の後側に取付けられ、扉枠主中継基板１０４と皿ユニット２００の球貸操作ユニット２２０とを接続する配線ケーブル（図示は省略）を被覆するためのものである。ケーブルカバー１０９は、左右に延びた箱状に形成されており、前面の左端付近と下面の左右方向中央に、配線ケーブルを通すための開口が形成されている。

【０１２７】

［３－１ｅ．扉枠補強ユニット］

扉枠ベースユニット１００の扉枠補強ユニット１１０について、主に図３５～図３８を参照して詳細に説明する。図３５（ａ）は扉枠における扉枠補強ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠における扉枠補強ユニットを後ろから見た斜視図である。図３６（ａ）は扉枠補強ユニットの中間補強フレームを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠補強ユニットの中間補強フレームを後ろから見た斜視図である。図３７は、扉枠の縦断面における中間補強フレームの部位を拡大して示す説明図である。図３８は、中間補強フレームにおける上部の寸法関係を示す説明図である。

【０１２８】

扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、合成樹脂からなる平板状の扉枠ベース１０１を補強して、扉枠ベースユニット１００に剛性を付与している。扉枠補強ユニット１１０は、左右に離間して配置されている上下に延びた左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２と、左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２の上端同士を連結している左右に延びた上補強フレーム１１３と、左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２の下端から上寄りの部位同士を繋いでいる中間補強フレーム１１７と、右補強フレーム１１２に取付けられるシリンダ取付フレーム１１５（図３４等を参照）と、右補強フレーム１１２の後側に上下に離間して複数取付けられており本体枠４の施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される鉤掛部材１１６と、を備えている。

【０１２９】

左補強フレーム１１１は、略一定の幅で扉枠ベース１０１の高さと略同じ長さで上下に延びており、下端から上寄りの部位に右方へ突出している膨出部１１１ａを有している。左補強フレーム１１１の膨出部１１１ａに、中間補強フレーム１１７の左端側が取付けられる。

【０１３０】

右補強フレーム１１２は、略一定の幅で扉枠ベース１０１の高さと略同じ長さで上下に延びており、下端から上寄りの部位に左方へ突出している膨出部１１２ａを有している。右補強フレーム１１２の膨出部１１２ａに、中間補強フレーム１１７の右端側が取付けられる。また、膨出部１１２ａの前面にはシリンダ取付フレーム１１５が取付けられる。右補強フレーム１１２には、上下方向に離間しており、前後方向に貫通している複数の挿通孔が形成されている。これら挿通孔は、本体枠４に対して扉枠３を閉めた時に、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２の先端が挿通される。

【０１３１】

上補強フレーム１１３は、上下方向が一定の幅で、扉枠ベース１０１の左右の幅と略同じ長さで左右に延びている。

【０１３２】

扉枠補強ユニット１１０は、図示しない複数のビスにより扉枠ベース１０１の後側に取付けられる。この扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１に取付けた状態で、中間補強フレーム１１７の貫通部１１７ｆが、扉枠ベース１０１の貫通孔と一致した状態となると共に、シリンダ取付フレーム１１５が、扉枠ベース１０１のシリンダ挿通孔１０１ｄに挿入された状態となる。

【０１３３】

［３－１ｅ－１．中間補強フレーム］

続いて、扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１７について、詳細に説明する。中間補強フレーム１１７は、図３６に示すように、左補強フレーム１１１の膨出部１１１ａと右補強フレーム１１２の膨出部１１２ａとを繋ぐように取付けられている。中間補強フレーム１１７は、上下方向が上補強フレーム１１３の上下の幅よりも広い幅で左右に延びている。中間補強フレーム１１７は、下端辺が左右に延びた直線状であるのに対して、上端辺の左右両端付近が左右方向外方へ向かうほど高くなっている。中間補強フレーム１１７は、右端付近において前後に貫通している貫通部１１７ｆと、左端付近において四角く前後に貫通している開口部１１７ｇと、を有している。貫通部１１７ｆは、扉

枠ベース１０１の貫通孔と一致する位置に形成されている。開口部１１７ｇは、扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇと一致するように形成されている。

【０１３４】

中間補強フレーム１１７は、板面を前後方向へ向けた帯板状の基板部１１７ａと、基板部１１７ａの上端縁から後方へ延出している上フランジ部１１７ｂと、上フランジ部１１７ｂの後端縁から上方へ延出している後フランジ部１１７ｃと、基板部１１７ａの下端縁から前方へ延出している下フランジ部１１７ｄと、を有している。

【０１３５】

また、中間補強フレーム１１７は、前方へ突出しており左右に長い複数のビード部１１７ｅが基板部１１７ａに設けられている。これら複数のビード部１１７ｅにより基板部１１７ａ（中間補強フレーム１１７）の強度・剛性が高められている。

【０１３６】

中間補強フレーム１１７は、図３６（ｂ）に示すように、左補強フレーム１１１や右補強フレーム１１２を構成している板金と同じ厚さの第一板金部１１８ａと、第一板金部１１８ａよりも板厚が厚い第二板金部１１８ｂと、で構成されている。第一板金部１１８ａは、基板部１１７ａ、上フランジ部１１７ｂ、下フランジ部１１７ｄ、を有している。第二板金部１１８ｂは、基板部１１７ａ、上フランジ部１１７ｂ、後フランジ部１１７ｃ、を有している。上フランジ部１１７ｂ、後フランジ部１１７ｃ、下フランジ部１１７ｄは、板金を屈曲させて形成されている。第一板金部１１８ａと第二板金部１１８ｂとは、第一板金部１１８ａを前側にしてそれぞれの基板部１１７ａの部位で複数のリベットによって取付けられている。

【０１３７】

第一板金部１１８ａの左右方向の長さは、中間補強フレーム１１７の左右方向の長さと同じである。第二板金部１１８ｂの左右方向の長さは、第一板金部１１８ａよりも短い。第二板金部１１８ｂは、第一板金部１１８ａの左右方向中央部分にかかるように取付けられている。なお、第二板金部１１８ｂの厚さｔｃは、第一板金部１１８ａの厚さの約１．７倍である。

【０１３８】

この中間補強フレーム１１７は、扉枠３に組立てた状態では、扉窓１０１ａの下方に位置していると共に、皿ユニット２００（後述する演出操作ユニット３００）の後方に位置している（図３３及び図３７を参照）。また、図示するように、中間補強フレーム１１７における上フランジ部１１７ｂの上面には、１６０におけるガラス枠１６１（係止片１６１ｂ）の下端が当接している。つまり、上フランジ部１１７ｂにガラスユニット１６０が載置されている。更に、中間補強フレーム１１７における後フランジ部１１７ｃの前面には、ガラスユニット１６０におけるガラス枠１６１の下部後面（係止片１６１ｂの後面）が当接している。これにより、中間補強フレーム１１７によって、ガラスユニット１６０の下方への移動と、ガラスユニット１６０の下部の後方への移動を規制している。なお、本実施形態では、後フランジ部１１７ｃの後面は、ガラスユニット１６０の後面よりも前方に位置しており、後方へは突出していない。

【０１３９】

本実施形態の中間補強フレーム１１７は、左右方向両端の上下の幅が、左右方向中央の上下の幅よりも大きく、その上下の幅が大きい部分で左補強フレーム１１１や右補強フレーム１１２に取付けられていることから、従来の扉枠における中間補強フレームよりも強固に取付けられている。

【０１４０】

また、中間補強フレーム１１７は、上フランジ部１１７ｂ、後フランジ部１１７ｃ、及び下フランジ部１１７ｄを有しており、二つのクランク形状を組み合わせたような断面形状に形成されている。また、中間補強フレーム１１７は、第一板金部１１８ａと第二板金部１１８ｂとの二つの板金により構成されている。このようなことから、中間補強フレーム１１７は、第一実施形態の扉枠３の中間補強フレーム１１４よりも強度・剛性が高い。

従って、扉枠補強ユニット１１０自体も、従来の扉枠の扉枠補強ユニットよりも強度・剛性が高い。

【０１４１】

このように、中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）の強度・剛性が高められているため、遊技者が上皿２０１や下皿２０２を掴んで強く引っ張ったり、後述する演出操作ユニット３００のレバー操作部３０４を強く引っ張ったりしても、中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）が歪む（塑性変形する）ことはない。従って、中間補強フレーム１１７が歪むことで扉枠３と本体枠４との間に隙間が形成されてしまうことを防止することができる。

【０１４２】

また、上皿２０１やレバー操作部３０４を前方へ強く引っ張ることで扉枠３と本体枠４との間に隙間を形成させて不正行為を行おうとしても、上述したように、強度・剛性が高められている中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）により扉枠３が塑性変形して本体枠４との間に隙間が形成されることはなく、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０１４３】

また、中間補強フレーム１１７は、ガラスユニット１６０が載置される上フランジ部１１７ｂと、上フランジ部１１７ｂから上方へ延出している後フランジ部１１７ｃと、を有しているため、ガラスユニット１６０の荷重を支持することができる上に、上フランジ部１１７ｂとガラスユニット１６０の下端との間を通して不正な工具を侵入させようとしても、上方へ延出している後フランジ部１１７ｃにより不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０１４４】

なお、中間補強フレーム１１７は、図３８に示すように、基板部１１７ａの後面から上フランジ部１１７ｂの後端までの距離Ｌ１が、上フランジ部１１７ｂの上面から後フランジ部１１７ｃの上端までの距離Ｌ２よりも若干短く構成されている。また、距離Ｌ１と距離Ｌ２とを足した距離Ｌ０は、基板部１１７ａの後面から扉枠３の後端までの距離（図示は省略）よりも長く構成されている。従って、後フランジ部１１７ｃを上方へ屈曲させずに、上フランジ部１１７ｂと同様に後方へ延出させると、その後端が扉枠３の後端よりも後方へ突出するように構成されている。つまり、上フランジ部１１７ｂに対して後フランジ部１１７ｃを延出させる（屈曲させる）角度により、その後端を後方の遊技盤５内へ進入させることが可能な長さに設定されている。

【０１４５】

［３－１ｅ－２．中間補強フレームの変形例］

続いて、中間補強フレーム１１７の変形例（変形例１～５）について、図３９及び図４０を参照して詳細に説明する。図３９（ａ）は扉枠における中間補強フレームの変形例１を示す説明図であり、（ｂ）は中間補強フレームの変形例２を示す説明図であり、（ｃ）は中間補強フレームの変形例３を示す説明図である。図４０（ａ）は扉枠における中間補強フレームの変形例４を示す説明図であり、（ｂ）は中間補強フレームの変形例５を示す説明図である。なお、ここでは、中間補強フレーム１１７と同じ構成の部位については、同じ符号を付して説明する。

【０１４６】

（中間補強フレームの変形例１）

図３９（ａ）に示す中間補強フレーム１１７Ａは、板厚の厚い１枚の金属板（板金）により構成するものである。この中間補強フレーム１１７Ａによっても上記と同様の作用効果を奏する。また、この中間補強フレーム１１７Ａによれば、１枚の板金により構成しているため、複数の板金により構成する場合と比較して、リベットなどで組み立てる必要はなく、コストを低減させることが可能である。なお、この中間補強フレーム１１７Ａにもビード部１１７ｅを設けても良い。

【０１４７】

（中間補強フレームの変形例２）
図３９（ｂ）に示す中間補強フレーム１１７Ｂは、下フランジ部１１７ｄが基板部１１７ａの下端から後方へ延出しているものである。後方へ延出している下フランジ部１１７ｄによっても中間補強フレーム１１７Ｂの強度・剛性を高めることができ、上記と同様の作用効果を奏する。なお、中間補強フレーム１１７Ｂは、図示のように１枚の板金で構成しても良いし、上記の中間補強フレーム１１７と同様に複数の板金で構成しても良い。また、中間補強フレーム１１７Ｂにもビード部１１７ｅを設けても良い。
【０１４８】
（中間補強フレームの変形例３）
図３９（ｃ）に示す中間補強フレーム１１７Ｃは、上フランジ部１１７ｂの後端がガラスユニット１６０の後面まで延出しており、上フランジ部１１７ｂの後端から上方へ延出している後フランジ部１１７ｃがガラスユニット１６０よりも後方に位置しているものである。この中間補強フレーム１１７Ｃによっても上記と同様の作用効果を奏する。また、この中間補強フレーム１１７Ｃでは、上フランジ部１１７ｂの前後方向の幅（奥行）を、上記の中間補強フレーム１１７の上フランジ部１１７ｂよりも広くしているため、広い範囲でガラスユニット１６０を受けることができる。なお、中間補強フレーム１１７Ｃは、図示のように１枚の板金で構成しても良いし、上記の中間補強フレーム１１７と同様に複数の板金で構成しても良い。また、中間補強フレーム１１７Ｃにもビード部１１７ｅを設けても良い。また、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１に、上記と同様の係止片１６１ｂを設けても良い。
【０１４９】
（中間補強フレームの変形例４）
図４０（ａ）に示す中間補強フレーム１１７Ｄは、後フランジ部１１７ｃが、上フランジ部１１７ｂの後端から下方へ延出しているものである。詳述すると、後フランジ部１１７ｃが上フランジ部１１７ｂの後端から垂下しているものである。この構成によっても中間補強フレーム１１７Ｄの強度・剛性を高めることができ、扉枠３の上皿２０１やレバー操作部３０４が前方へ強く引っ張られても歪む（塑性変形する）ことはない。また、中間補強フレーム１１７Ｄの上フランジ部１１７ｂにガラスユニット１６０を載置することが可能である。なお、図４０（ａ）では、後フランジ部１１７ｃの後面がガラスユニット１６０の後面よりも後方へ突出していないものを示したが、後フランジ部１１７ｃがガラスユニット１６０よりも後方へ突出していても良い。また、中間補強フレーム１１７Ｄは、図示のように１枚の板金で構成しても良いし、上記の中間補強フレーム１１７と同様に複数の板金で構成しても良い。また、中間補強フレーム１１７Ｄにもビード部１１７ｅを設けても良い。また、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１に、上記と同様の係止片１６１ｂを設けても良い。
【０１５０】
（中間補強フレームの変形例５）
図４０（ｂ）に示す中間補強フレーム１１７Ｅは、後フランジ部１１７ｃが、上フランジ部１１７ｂの後端から下方へ延出しているものである。詳述すると、後フランジ部１１７ｃが上フランジ部１１７ｂの後端から斜め下方へ延出しているものである。この構成によっても中間補強フレーム１１７Ｅの強度・剛性を高めることができ、扉枠３の上皿２０１やレバー操作部３０４が前方へ強く引っ張られても歪む（塑性変形する）ことはない。この中間補強フレーム１１７Ｅは、扉枠３を閉じると、後フランジ部１１７ｃの後端側が遊技盤５内（ここでは前構成部材１０００内）に挿入される。この後フランジ部１１７ｃの挿入により、蛇行した隙間が形成されることとなるため、遊技盤５の前面に沿って不正な工具を侵入させようとしても、後フランジ部１１７ｃにより阻止することができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。
【０１５１】
なお、中間補強フレーム１１７Ｅの後フランジ部１１７ｃが遊技盤５に接触するようにしても良い。これにより、後フランジ部１１７ｃを介して、扉枠３と遊技盤５とを位置決

めしたり、後フランジ部１１７ｃにより遊技盤５を支持したりすることが可能となる。また、後フランジ部１１７ｃを遊技盤５に接触させるようする場合、遊技盤５とアース接続されるようにしても良い。更に、中間補強フレーム１１７Ｅは、図示のように１枚の板金で構成しても良いし、上記の中間補強フレーム１１７と同様に複数の板金で構成しても良い。また、中間補強フレーム１１７Ｅにもビード部１１７ｅを設けても良い。また、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１に、上記と同様の係止片１６１ｂを設けても良い。

【０１５２】

［３－１ｅ－３．その他の対策例］

次に、上皿２０１等を前方へ引っ張ることにより扉枠３と本体枠４との間に隙間が形成されることに対する対策について説明する。具体例１として、例えば、中間補強フレーム１１７の左右方向中央付近と、遊技盤５との間の間隔（間隔の変化）を検出する間隔センサ（例えば、単なるスイッチ、光学センサ、磁気センサ、近接センサ、変位センサ、等）を設け、間隔センサからの信号が所定の閾値を越えると、その旨を発報するようにしても良い。この際に、間隔センサは、本体枠４に設けても良いし、遊技盤５に設けても良いし、扉枠３に設けても良い。

【０１５３】

具体例１では、上述したように、中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）の強度・剛性が高められているため、扉枠３を強い力で前方へ引っ張っても塑性変形しない。とはいえ、強く引っ張ると弾性変形して扉枠３と遊技盤５との間の間隔が変化して隙間ができる可能性があるため、その間隔を検出する間隔センサを設けている。これにより、間隔センサによって弾性変形による間隔の変化を検出することができるため、間隔センサからの検出信号に応じて扉枠３が無理やり引っ張られたことを報知することが可能となり、遊技者が無用に強く扉枠３を引っ張ったり、不正行為を行うために扉枠３を強く引っ張ったりすることを止めさせることができ、防犯効果の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０１５４】

また、具体例２として、例えば、本体枠４の前面における右端付近に設けられている扉枠開放スイッチ（図示は省略）を、中間補強フレーム１１７の左右方向中央付近の後方に設けるようにしても良い。これにより、扉枠３の上皿２０１等が強く引っ張られて、中間補強フレーム１１７の左右方向中央付近が前方へ移動するように弾性変形すると、扉枠開放スイッチが扉枠３の開放を検知し、その旨が発報される。この場合、扉枠開放スイッチを、本体枠４の右端付近と左右方向中央付近の両方に設けても良い。また、左右方向中央付近の扉開放スイッチを、遊技盤５に設けても良い。

【０１５５】

更に、具体例３として、例えば、中間補強フレーム１１７に歪センサを設け、歪センサからの信号が所定の閾値を越えると、その旨を発報するようにしても良い。

【０１５６】

また、具体例４として、例えば、本体枠４における中間補強フレーム１１７の左右方向中央付近の後方の部位に、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２と連動して可動するフック状の中間鉤（図示は省略）を設け、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、中間鉤が中間補強フレーム１１７に係止させるようにしても良い。これにより、上皿２０１等が前方へ引っ張られても、中間鉤の係止により中間補強フレーム１１７の左右方向中央付近が前方へ膨出するように歪む（塑性変形や弾性変形する）ことを阻止することができる。

【０１５７】

［３－１ｅ－４．小括］

上記の扉枠補強ユニット１１０には、以下のような技術的特徴を有している。

【０１５８】

（技術的特徴の背景）

遊技機としてのパチンコ機は、遊技盤を前方から着脱可能に支持する本体枠と、本体枠に対して前方から開閉可能に取付けられる扉枠と、を備えている。扉枠は、本体枠の左右

前端辺における一方の端辺側においてヒンジ回転可能に設けられていると共に、ガラス板により閉鎖された窓部が設けられており、そのガラス板を通して遊技盤の遊技領域が前方から視認することができる。

【０１５９】

この種の遊技機では、複数の金属板を組み合わせた枠状の補強板金が扉枠に設けられており、補強板金におけるヒンジ側とは反対の開放側の端辺の部位に、本体枠側から複数のフックが係止されることで、扉枠を前方へ引っ張っても開かないようにしている（例えば、特許文献：特開２００８－１１０１５９号公報）。

【０１６０】

しかしながら、上記の特許文献の技術では、例えば、扉枠の前面に設けられている球皿（例えば、上皿、下皿、等）に手をかけて前方へ引っ張られた場合、扉枠の左右方向中央が前方へ膨出するように扉枠（補強板金）が歪んでしまう恐れがあった。そして、扉枠が歪むと、扉枠と本体枠との間に隙間が形成されることとなり、当該隙間を通して遊技機内に不正な工具が挿入されてしまう恐れがあった。

【０１６１】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、扉枠が引っ張られても本体枠との間に隙間が形成され難くすることで当該隙間を使用した不正行為を防止することが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【０１６２】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技球により遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤を前方から着脱可能に支持している本体枠と、

前記遊技領域を前方から視認可能とする窓部を有し、前記本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠と

を具備している遊技機であって、

前記扉枠は、

前記窓部の下辺に沿って左右に延びている第一補強部を有する補強板金ユニットを備え、

前記第一補強部は、

前記窓部の開口面と平行な基板部と、

該基板部の上端縁から後方へ延出している上フランジ部と、

該上フランジ部の後端縁から上方または下方へ延出している後フランジ部と

を備えている」ことを特徴とする。

【０１６３】

ここで、「第一補強部」としては、「１枚の金属板（板金）により構成されているもの」、「複数枚の金属板（板金）により構成されているもの」、等が挙げられる。

【０１６４】

手段１の構成によると、遊技球により遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤を前方から着脱可能に支持している本体枠と、遊技領域を前方から視認可能とする窓部を有し、本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠とを具備している遊技機であって、扉枠は、窓部の下辺に沿って左右に延びている第一補強部を有する補強板金ユニットを備え、第一補強部は、窓部の開口面と平行な基板部と、基板部の上端縁から後方へ延出している上フランジ部と、上フランジ部の後端縁から上方または下方へ延出している後フランジ部とを備えているものである。（［発明を実施するための形態］では、［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］の章、扉枠補強ユニット１１０、図３５～図４０等の記載を参照）。

【０１６５】

これにより、本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠に、補強板金ユニットが設けられているため、当該補強板金ユニットにより扉枠の強度・剛性が高められている。この補強板金ユニットには、扉枠の窓部の下辺に沿って左右方向に延出している第

一補強部を有しており、当該第一補強部には平板状の基板部と、基板部の上端縁から後方へ延出している上フランジ部と、上フランジ部から上方又は下方へ延出している後フランジ部とが設けられている。そして、後フランジ部が上フランジ部の後端縁から上方へ延出している場合は、第一補強部の断面形状がクランク形状となり、後フランジ部が上フランジ部の後端縁から下方へ延出している場合、第一補強部の断面形状がコ字形状となるため、断面形状が直線形状やＬ字形状の従来の補強部（補強板金）よりも強度・剛性を高くすることができる。つまり、補強板金ユニットの第一補強部の強度・剛性が従来よりも高められているため、扉枠における左右方向中央付近が前方へ強く引っ張られても、第一補強部が歪む（塑性変形する）ことはなく、扉枠と本体枠との間に隙間が形成されることはない。従って、扉枠を前方へ引っ張ることで扉枠と本体枠との間に隙間を形成させて不正行為を行おうとしても、強度・剛性が高められている第一補強部（補強板金ユニット）により扉枠が歪んで本体枠との間に隙間が形成されることはなく、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。

【０１６６】

また、上述したように、扉枠の左右方向中央付近を前方へ強く引っ張っても第一補強部（補強板金ユニット）が歪むことはないため、遊技者が前方へ引っ張り易い形状のもの（例えば、上皿や下皿、レバー状の演出操作部、突出した又は突出する押しボタン状の演出操作部、突出している装飾体、凹んでいる装飾体、等）を設けることが可能となり、より遊技者を楽しませることが可能な遊技機を提供することができる。

【０１６７】

なお、上フランジ部に、窓部を閉鎖するガラスユニットが載置されるようにしても良い。これにより、ガラスユニットの重量を上フランジ部（補強板金ユニット）により支持することができるため、扉枠を構成している合成樹脂製の樹脂部材（例えば、扉枠ベース）にガラスユニットを支持させるようにする場合と比較して、樹脂部材にかかる負荷を軽減させることができ、樹脂部材における過負荷による早期の劣化を抑制させることができる。

【０１６８】

また、上フランジ部にガラスユニットを載置するようにする場合、上フランジ部の後端縁から上方へ延出している後フランジ部の前面がガラスユニットの後面と当接するようにすると、ガラスユニットの下端側の後方への移動を後フランジ部により阻止することができる。これにより、ガラスユニットの上端側を固定するようにすれば、扉枠に取付けることが可能となるため、ガラスユニットの取付け（着脱）を容易なものとすることができる。

【０１６９】

更に、第一補強部において、上フランジ部と後フランジ部とのそれぞれの面に沿った方向の長さの和を、基板部から遊技盤の前面までの長さよりも長くすることが望ましい。これにより、上フランジ部と後フランジ部とのそれぞれの延出方向の長さの和を、基板部から遊技盤の前面までの距離（長さ）よりも長くしているため、その長さが短い場合と比較して第一補強部の強度・剛性を高くすることができ、扉枠が前方へ引っ張られても歪み難くすることができる。

【０１７０】

また、上記のように、上フランジ部の長さと後フランジ部の長さとの和を、基板部から遊技盤の前面までの長さよりも長くする場合、後フランジ部の先端を遊技盤の前面よりも後方へ位置させることが可能となる。つまり、後フランジ部を遊技盤に対して前方から挿入させることが可能となる。これにより、遊技盤の前面に沿って不正な工具を侵入させようとしても、遊技盤に挿入されている後フランジ部により不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。

【０１７１】

また、第一補強部に、基板部の下端縁から前方または後方へ延出している下フランジ部を備えようにすることが望ましい。これにより、第一補強部では、基板部の上端縁から後方へ延出している上フランジ部を設けている上に、基板部の下端縁から前方又は後方へ延出している下フランジ部を設けているため、第一補強部の強度・剛性を更に高めることが

できる。上述した作用効果を確実に奏することが可能な遊技機を提供することができる。
【０１７２】
更に、第一補強部を、補強板金ユニットにおける他の補強部の板金よりも板厚を厚くすることが望ましい。これにより、第一補強部の板厚を他の補強部の板厚よりも厚くしているため、これによっても第一補強部の強度・剛性を高めることができ、上述と同様の作用効果を奏することが可能な遊技機を提供することができる。
【０１７３】
また、遊技機に、第一補強部と遊技盤との間の間隔を検出する間隔センサを、更に設けるようにしても良い。つまり、上述したように、第一補強部（補強板金ユニット）の強度・剛性が高められているため、扉枠を強い力で前方へ引っ張っても塑性変形しない。とはいえ、強く引っ張ると弾性変形して扉枠と遊技盤との間の間隔が変化して隙間ができる可能性があるため、その間隔を検出する間隔センサを設けても良い。これにより、間隔センサによって弾性変形による間隔の変化を検出することができるため、間隔センサからの検出信号に応じて扉枠が無理やり引っ張られたことを報知することが可能となり、遊技者が無用に強く扉枠を引っ張ったり、不正行為を行うために扉枠を強く引っ張ったりすることを止めさせることができ、防犯効果の高い遊技機を提供することができる。
【０１７４】
手段２：手段１の構成において、
「前記上フランジ部は、
前記窓部を閉鎖するガラスユニットが載置される」
ことを特徴とする。
【０１７５】
手段２の構成によると、上フランジ部に、窓部を閉鎖するガラスユニットが載置されるようにしたものである。（［発明を実施するための形態］では、上フランジ部１１７ｂ、及び図３７等の記載を参照）
【０１７６】
これにより、ガラスユニットの重量を上フランジ部（補強板金ユニット）により支持することができるため、扉枠を構成している合成樹脂製の樹脂部材（例えば、扉枠ベース）にガラスユニットを支持させるようにする場合と比較して、樹脂部材にかかる負荷を軽減させることができ、樹脂部材における過負荷による早期の劣化を抑制させることができる。
【０１７７】
また、上フランジ部にガラスユニットを載置するようにしていることから、上フランジ部の後端縁から上方へ延出している後フランジ部の前面がガラスユニットの後面と当接するようにすると、ガラスユニットの下端側の後方への移動を後フランジ部により阻止することができる。これにより、ガラスユニットの上端側を固定するようにすれば、扉枠に取付けることが可能となるため、ガラスユニットの取付け（着脱）を容易なものとすることができる。
【０１７８】
手段３：手段１又は手段２の構成において、
「前記第一補強部は、
前記上フランジ部と前記後フランジ部とのそれぞれの面に沿った方向の長さの和が、前記基板部から前記遊技盤の前面までの長さよりも長い」
ことを特徴とする。
【０１７９】
手段３の構成によると、第一補強部において、上フランジ部と後フランジ部とのそれぞれの面に沿った方向の長さの和を、基板部から遊技盤の前面までの長さよりも長くしているものである。（［発明を実施するための形態］では、中間補強フレーム１１７、及び図３８等の記載を参照）
【０１８０】
これにより、上フランジ部と後フランジ部とのそれぞれの延出方向の長さの和を、基板

部から遊技盤の前面までの距離（長さ）よりも長くしているため、その長さが短い場合と比較して第一補強部の強度・剛性を高くすることができ、扉枠が前方へ引っ張られても歪み難くすることができる。

【０１８１】

また、上フランジ部の長さと後フランジ部の長さとの和を、基板部から遊技盤の前面までの長さよりも長くしているため、後フランジ部の先端を遊技盤の前面よりも後方へ位置させることが可能となる。つまり、後フランジ部を遊技盤に対して前方から挿入させることが可能となる。これにより、遊技盤の前面に沿って不正な工具を侵入させようとしても、遊技盤に挿入されている後フランジ部により不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。

【０１８２】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「前記第一補強部は、

前記基板部の下端縁から前方または後方へ延出している下フランジ部を備えている」

ことを特徴とする。

【０１８３】

手段４の構成によると、第一補強部に、基板部の下端縁から前方または後方へ延出している下フランジ部を備えようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、下フランジ部１１７ｄ、及び図３６等の記載を参照）

【０１８４】

これにより、第一補強部では、基板部の上端縁から後方へ延出している上フランジ部を設けている上に、基板部の下端縁から前方又は後方へ延出している下フランジ部を設けているため、第一補強部の強度・剛性を更に高めることができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能な遊技機を提供することができる。

【０１８５】

手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、

「前記第一補強部は、

前記補強板金ユニットにおける他の補強部の板金よりも板厚が厚い」

ことを特徴とする。

【０１８６】

手段５の構成によると、第一補強部を、補強板金ユニットにおける他の補強部の板金よりも板厚を厚くしているものである。（［発明を実施するための形態］では、中間補強フレーム１１７、及び図３６等の記載を参照）

【０１８７】

これにより、第一補強部の板厚を他の補強部の板厚よりも厚くしているため、これによっても第一補強部の強度・剛性を高めることができ、上述と同様の作用効果を奏することが可能な遊技機を提供することができる。

【０１８８】

なお、第一補強部は、左右方向の全長に亘って板厚が厚いものであっても良いし、左右方向の全長の一部（例えば、左右方向中央から所定範囲）の板厚が厚いものであっても良い。

【０１８９】

手段６：手段１から手段５までの何れか一つの構成において、

「前記第一補強部と前記遊技盤との間の間隔を検出する間隔センサを、

更に備えている」ことを特徴とする。

【０１９０】

ここで、「間隔センサ」としては、「スイッチ」、「光学センサ」、「磁気センサ」、「近接センサ」、「変位センサ」、等が挙げられる。間隔センサは、第一補強部（扉枠）に設けても良いし、遊技盤に設けても良いし、本体枠に設けても良い。間隔センサとしてのスイッチとしては、例えば、扉開放センサに用いられるスイッチ（扉開放スイッチ）で

も良い。扉開放センサと同様のスイッチを用いることで、入力回路は扉開放センサなどの入力回路と同様に設計すれば良い。また、単純な接点であるので接続の方法によっては簡単にワイアードオア等の接続によって複数の入力をまとめることが可能になる。

【０１９１】

手段６の構成によると、遊技機に、第一補強部と遊技盤との間の間隔を検出する間隔センサを、更に備えているものである。（［発明を実施するための形態］では、［３－１ｅ－３．その他の対策例］の章を参照）

【０１９２】

本構成では、上述したように、第一補強部（補強板金ユニット）の強度・剛性が高められているため、扉枠を強い力で前方へ引っ張っても塑性変形しない。とはいえ、強く引っ張ると弾性変形して扉枠と遊技盤との間の間隔が変化して隙間ができる可能性があるため、その間隔を検出する間隔センサを設けている。これにより、間隔センサによって弾性変形による間隔の変化を検出することができるため、間隔センサからの検出信号に応じて扉枠が無理やり引っ張られたことを報知することが可能となり、遊技者が無用に強く扉枠を引っ張ったり、不正行為を行うために扉枠を強く引っ張ったりすることを止めさせることができ、防犯効果の高い遊技機を提供することができる。

【０１９３】

このように、上記の解決手段によれば、扉枠が引っ張られても本体枠との間に隙間が形成され難くすることで当該隙間を使用した不正行為を防止することが可能な遊技機を提供することができる。

【０１９４】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態の扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａは上記解決手段の窓部に、本実施形態における扉枠ベースユニット１００の扉枠補強ユニット１１０は上記解決手段の補強板金ユニットに、本実施形態における扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１７（中間補強フレーム１１７Ａ～中間補強フレーム１１７Ｅ）は上記解決手段の第一補強部に、それぞれ相当している。

【０１９５】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、本体枠４に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠３に、複数の金属板を組み合わせた扉枠補強ユニット１１０が設けられているため、当該扉枠補強ユニット１１０により扉枠３の強度・剛性が高められている。この扉枠補強ユニット１１０には、扉枠３の扉窓１０１ａの下辺に沿って左右方向に延出している中間補強フレーム１１７を有しており、当該中間補強フレーム１１７には平板状の基板部１１７ａと、基板部１１７ａの上端縁から後方へ延出している上フランジ部１１７ｂと、上フランジ部１１７ｂから上方又は下方へ延出している後フランジ部１１７ｃとが設けられている。そして、後フランジ部１１７ｃが上フランジ部１１７ｂの後端縁から上方へ延出している場合は、中間補強フレーム１１７（中間補強フレーム１１７Ａ、中間補強フレーム１１７Ｂ、中間補強フレーム１１７Ｃ）の断面形状がクランク形状となり、後フランジ部１１７ｃが上フランジ部１１７ｂの後端縁から下方へ延出している場合、中間補強フレーム１１７Ｄ（中間補強フレーム１１７Ｅ）の断面形状がコ字形状となるため、断面形状が直線形状やＬ字形状の従来の補強部（中間補強フレーム）よりも強度・剛性を高くすることができる。つまり、扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１７の強度・剛性が従来よりも高められているため、扉枠３における左右方向中央付近が前方へ強く引っ張られても、中間補強フレーム１１７が歪む（塑性変形する）ことはなく、扉枠３と本体枠４との間に隙間が形成されることはない。従って、扉枠３を前方へ引っ張ることで扉枠３と本体枠４との間に隙間を形成させて不正行為を行おうとしても、強度・剛性が高められている中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）により扉枠３が歪んで本体枠４との間に隙間が形成されることはなく、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０１９６】
　また、上述したように、扉枠３の左右方向中央付近を前方へ強く引っ張っても中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）が歪むことはないため、遊技者が前方へ引っ張り易い形状のもの（例えば、上皿２０１や下皿２０２、レバー状の演出操作部（レバー操作部３０４）、突出した又は突出する押しボタン状の演出操作部（押圧操作部３０３）、突出している装飾体、凹んでいる装飾体、等）を設けることが可能となり、より遊技者を楽しませることが可能なパチンコ機１を提供することができる。
【０１９７】
　更に、上フランジ部１１７ｂに、扉窓１０１ａを閉鎖するガラスユニット１６０が載置されるようにしていることから、ガラスユニット１６０の重量を上フランジ部１１７ｂ（扉枠補強ユニット１１０）により支持することができるため、扉枠３を構成している合成樹脂製の樹脂部材（例えば、扉枠ベース１０１）にガラスユニット１６０を支持させるようにする場合と比較して、樹脂部材にかかる負荷を軽減させることができ、樹脂部材における過負荷による早期の劣化を抑制させることができる。
【０１９８】
　また、上フランジ部１１７ｂにガラスユニット１６０を載置するようにしていると共に、上フランジ部１１７ｂの後端縁から上方へ延出している後フランジ部１１７ｃの前面にガラスユニット１６０の後面が当接するようにしているため、ガラスユニット１６０の下端側の後方への移動を後フランジ部１１７ｃにより阻止することができる。これにより、ガラスユニット１６０の上端側のみを固定すれば、扉枠３に取付けることが可能となるため、ガラスユニット１６０の取付け（着脱）を容易なものとすることができる。
【０１９９】
　更に、中間補強フレーム１１７において、上フランジ部１１７ｂと後フランジ部１１７ｃとのそれぞれの面に沿った方向の長さ（Ｌ１とＬ２）の和（Ｌ０）を、基板部１１７ａから遊技盤５の前面までの長さよりも長くしているため、その長さが短い場合と比較して中間補強フレーム１１７の強度・剛性を高くすることができ、扉枠３が前方へ引っ張られても歪み難くすることができる。
【０２００】
　また、上フランジ部１１７ｂの長さＬ１と後フランジ部１１７ｃの長さＬ２との和（Ｌ０）を、基板部１１７ａから遊技盤５の前面までの長さよりも長くしていることから、後フランジ部１１７ｃの先端を遊技盤５の前面よりも後方へ位置させることが可能となる。つまり、中間補強フレーム１１７Ｅのように後フランジ部１１７ｃを遊技盤５に対して前方から挿入させることが可能となる。これにより、遊技盤５の前面に沿って不正な工具を侵入させようとしても、遊技盤５に挿入されている後フランジ部１１７ｃにより不正工具の侵入を阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０２０１】
　また、中間補強フレーム１１７に、上フランジ部１１７ｂ側に加えて、基板部１１７ａの下端縁から前方または後方へ延出している下フランジ部１１７ｄを備えているため、中間補強フレーム１１７の強度・剛性を更に高めることができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１を提供することができる。
【０２０２】
　更に、中間補強フレーム１１７を、扉枠補強ユニット１１０における他の補強部（左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、上補強フレーム１１３）の板金よりも板厚を厚くしているため、これによっても中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユニット１１０）の強度・剛性を高めることができ、上述と同様の作用効果を奏することが可能なパチンコ機１を提供することができる。
【０２０３】
　また、中間補強フレーム１１７と遊技盤５との間の間隔を検出する間隔センサを更に設けるようにしても良い。つまり、上述したように、中間補強フレーム１１７（扉枠補強ユ

ニット１１０）の強度・剛性が高められているため、扉枠３を強い力で前方へ引っ張っても塑性変形しない。とはいえ、強く引っ張ると弾性変形して扉枠３と遊技盤５との間の間隔が変化して隙間ができる可能性があるため、その間隔を検出する間隔センサを設けている。これにより、間隔センサによって弾性変形による間隔の変化を検出することができるため、間隔センサからの検出信号に応じて扉枠３が無理やり引っ張られたことを報知することが可能となり、遊技者が無用に強く扉枠３を引っ張ったり、不正行為を行うために扉枠３を強く引っ張ったりすることを止めさせることができ、防犯効果の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０２０４】

［３－１ｆ．扉枠上ヒンジ組立体］

扉枠ベースユニット１００の扉枠上ヒンジ組立体１２０について、主に図３４及び図３５を参照して説明する。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左上隅に取付けられる。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠３を、扉枠下ヒンジ部材１２５と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられるヒンジブラケット１２１と、ヒンジブラケット１２１に上下方向へ移動可能に取付けられる扉枠上ヒンジピン１２２と、扉枠上ヒンジピン１２２に取付けられる鍔部材１２３と、扉枠上ヒンジピン１２２を上方へ移動するように付勢しているロックバネ１２４と、を備えている。

【０２０５】

ヒンジブラケット１２１は、正面視四角形の平板状の取付片１２１ａと、取付片１２１ａの上辺及び下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２１ｂと、を備えている。ヒンジブラケット１２１は、取付片１２１ａが扉枠補強ユニット１１０に取付けられる。ヒンジブラケット１２１は、金属板を屈曲させて形成されている。

【０２０６】

扉枠上ヒンジピン１２２は、円柱状の金属棒をＬ字状に屈曲させたものである。扉枠上ヒンジピン１２２は、扉枠上ヒンジ組立体１２０に組立てた状態で、上下に延びている部位が、ヒンジブラケット１２１における一対の突出片１２１ｂの前端付近において下方から貫通し、上端が上側の突出片１２１ｂよりも上方へ延び出していると共に、水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接している。扉枠上ヒンジピン１２２は、上端が本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０における上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに回転可能に挿通される。

【０２０７】

鍔部材１２３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１２２における一対の突出片１２１ｂの間となる部位に取付けられている。ロックバネ１２４は、コイル状に形成されており、鍔部材１２３とヒンジブラケット１２１における下側の突出片１２１ｂとの間において扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位の周りに被せられている。このロックバネ１２４により、鍔部材１２３を介して扉枠上ヒンジピン１２２が上方へ付勢されている。

【０２０８】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２がロックバネ１２４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１２２の上端が、上側の突出片１２１ｂの上面よりも所定量上方に突出している。

【０２０９】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位を、ロックバネ１２４の付勢力に抗してその部位を下方へ移動させると、扉枠上ヒンジピン１２２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、上側の突出片１２１ｂの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の

扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【０２１０】

また、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における上下に延びている部位が、後述する扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６と同軸上に位置している。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２と扉枠下ヒンジピン１２６とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【０２１１】

［３－１ｇ．扉枠下ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠下ヒンジ部材１２５について、主に図３４及び図３５を参照して説明する。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左下隅に取付けられる。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を、扉枠上ヒンジ組立体１２０と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。

【０２１２】

扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられ正面視四角形で平板状の取付片１２５ａと、取付片１２５ａの下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２５ｂと、突出片１２５ｂの前端付近の下面から下方へ突出している扉枠下ヒンジピン１２６（図３５等を参照）と、を備えている。

【０２１３】

扉枠下ヒンジ部材１２５の取付片１２５ａ及び突出片１２５ｂは、金属板を屈曲させて形成されている。扉枠下ヒンジピン１２６は、円柱状の金属棒で、下端部の外周にテーパ状の面取りが施されている。この扉枠下ヒンジピン１２６は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態で、突出片１２５ｂにおける扉枠上ヒンジ組立体１２０の扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位と同軸上となる部位に取付けられている。

【０２１４】

この扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠下ヒンジピン１２６を本体枠下ヒンジ組立体５２０の扉枠用下ヒンジ孔５２２ａに挿入することで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【０２１５】

［３－１ｈ．シリンダ錠］

扉枠３の扉枠ベースユニット１００におけるシリンダ錠１３０について、主に図４１乃至図４３を参照して詳細に説明する。図４１（ａ）は扉枠のシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろ前から見た斜視図であり、（ｃ）は従来のパチンコ機におけるシリンダ錠を前から見た斜視図であり、（ｄ）は（ａ）のシリンダ錠を後ろから見た斜視図である。図４２（ａ）は図４１（ａ）のシリンダ錠を分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は図４１（ａ）のシリンダ錠を分解して後ろから見た分解斜視図である。図４３（ａ）は図４１（ａ）のシリンダ錠の可動機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図であり、（ｃ）は（ａ）の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態で示すシリンダ錠の説明図である。

【０２１６】

シリンダ錠１３０は、扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５に取付けられ、本体枠４の施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。シリンダ錠１３０は、前後に延びた円柱状のシリンダ本体１３１と、シリンダ本体１３１の前端面に形成されている鍵穴１３２と、シリンダ本体１３１の後方に設けられており鍵穴１３２に挿入された正規の鍵を回転させると一緒に回転する回転伝達部材１３３と、を備えている。

【０２１７】

シリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１は、シリンダ取付フレーム１１５の前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。回転伝達部材１３３は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部を有している。回転伝達部材１３３は、本体枠４における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が後方から挿入されるように形成されており、伝達シリンダ６５４の一対の突起が一対の切欠部内に挿入されることで、回転伝達部材１３３（鍵穴１３２に挿入された鍵）の回転を、伝達シリンダ６５４に伝達させて回転させることができる。

【０２１８】

更に詳述すると、シリンダ錠１３０は、シリンダ本体１３１の後端側に設けられており鍵穴１３２に挿入された正規の鍵を回転させると一緒に回転する第一カム部材１３４と、シリンダ取付フレーム１１５におけるシリンダ本体１３１よりも下方の部位で前後方向の軸周りに対して回転可能に取付けられている第二カム部材１３５と、上端側が第一カム部材１３４における回転中心よりも右方の部位で回転可能に取付けられていると共に下端側が第二カム部材１３５における回転中心よりも右方の部位で回転可能に取付けられている帯板状の第一アーム１３６と、上端側が第一カム部材１３４における回転中心よりも下方の部位で回転可能に取付けられていると共に下端側が第二カム部材１３５における回転中心よりも下方の部位で回転可能に取付けられている帯板状の第二アーム１３７と、を備えている。

【０２１９】

また、シリンダ錠１３０は、第二カム部材１３５（回転伝達部材１３３）を除いてシリンダ本体１３１、第一カム部材１３４、第一アーム１３６、及び第二アーム１３７を後方から覆うようにシリンダ取付フレーム１１５に取付けられている後カバー１３８と、第一アーム１３６及び第二アーム１３７の夫々の上下両端側を、夫々第一カム部材１３４や第二カム部材１３５に対して回転可能に取付けているリベット１３９と、を備えている。

【０２２０】

第一カム部材１３４は、第一アーム１３６の上端側が後面側に取付けられていると共に、第二アーム１３７の上端側が前面側に取付けられている。第二カム部材１３５は、シリンダ取付フレーム１１５により後側から回転可能に取付けられており、シリンダ取付フレーム１１５の前面を挟んだ後側に、回転伝達部材１３３が一体回転可能に取付けられている。第二カム部材１３５は、第一アーム１３６の下端側が前面側に取付けられていると共に、第二アーム１３７の下端側が第一アーム１３６よりも前方で前面側に取付けられている。

【０２２１】

第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５は、夫々において、第一アーム１３６が取付けられる部位と、第二アーム１３７が取付けられる部位とが、夫々の回転軸を中心に９０度の角度で離隔している。また、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５は、夫々において、第一アーム１３６が取付けられる部位が、第二アーム１３７が取付けられる部位よりも、回転中心から遠ざかった位置に設けられている。

【０２２２】

後カバー１３８は、左右両側面の下端から外方へ円柱状に突出した軸部１３８ａが、シリンダ取付フレーム１１５のＬ字状の係止スリット１１５ｂに係止された状態で、上端側が図示しないビスにより、シリンダ取付フレーム１１５に着脱可能に取付けられている。

【０２２３】

このシリンダ錠１３０は、シリンダ取付フレーム１１５、シリンダ本体１３１、回転伝達部材１３３、第一カム部材１３４、第二カム部材１３５、第一アーム１３６、及び第二アーム１３７が、金属により形成されている。

【０２２４】

シリンダ錠１３０は、扉枠３に組立てた状態で、シリンダ本体１３１の前端が扉枠右サイドユニット４３０のシリンダ挿通口４４０ｂの前端と略一致した状態となる。

【０２２５】
ここで、従来のシリンダ錠１３０Ａについて説明する。従来のシリンダ錠１３０Ａは、図４１（ｃ）及び（ｄ）に示すように、シリンダ本体１３１が、シリンダ取付フレーム１１５Ａの前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。このシリンダ錠１３０Ａは、シリンダ本体１３１の軸芯上に回転伝達部材１３３が設けられている。
【０２２６】
続いて、本実施形態のシリンダ錠１３０の作動について説明する。従来のシリンダ錠１３０は、図４１（ｃ）及び（ｄ）に示すように、シリンダ本体１３１の軸芯上に回転伝達部材１３３が設けられているのに対して、本実施形態のシリンダ錠１３０は、図４１（ａ）及び（ｂ）等に示すように、シリンダ本体１３１の軸芯から下方へ離隔した位置に回転伝達部材１３３が設けられている。
【０２２７】
このシリンダ錠１３０は、通常の状態では、図４３（ａ）に示すように、第一アーム１３６の上下両端側が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の夫々において、夫々の回転中心の右方の部位に取付けられていると共に、第二アーム１３７の上下両端側が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の夫々において、夫々の回転中心の下方の部位に取付けられている。シリンダ本体１３１では、正規の鍵によって、通常の状態から、時計回りの方向、及び反時計回りの方向へ、夫々９０度の角度で回転することができる。
【０２２８】
この状態で、鍵穴１３２に挿入した鍵により、シリンダ本体１３１のシリンダを介して第一カム部材１３４を反時計回りの方向へ回転させると、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が上方へ移動することとなる。この際に、第一アーム１３６では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の右方に取付けられているため、第一アーム１３６により第二カム部材１３５を反時計回りの方向へ回転させようとする力が大きく作用するのに対して、第二アーム１３７では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられているため、第二アーム１３７からは第二カム部材１３５を反時計回りの方向へ回転させようとする力が殆ど作用しない。
【０２２９】
このようにして、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向へ回転すると、主に第一アーム１３６を介して力が伝達されて、第二カム部材１３５が反時計回りの方向へ回転し、第二カム部材１３５と一緒に回転伝達部材１３３が回転することとなる。この第一カム部材１３４の反時計回りの方向への回転により上方へ作用する力は、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が第一カム部材１３４に取付けられている部位と、第一カム部材１３４の回転中心との間の左右方向の距離に比例している。そのため、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向へ回転するのに従って、第一アーム１３６では上方へ作用する力が小さくなるのに対して、第二アーム１３７では上方へ作用する力が大きくなる。
【０２３０】
従って、第一カム部材１３４が、通常の状態から反時計回りの方向への回転角度が４５度を越えると、第一アーム１３６よりも第二アーム１３７の方が上方へ作用する力が大きくなり、主に第二アーム１３７を介して、第二カム部材１３５が反時計回りの方向へ回転することとなる。そして、鍵穴１３２に挿入した鍵を、通常の状態から、反時計回りの方向へ９０度の角度まで回転させることができる（図４３（ｂ）を参照）。
【０２３１】
なお、鍵により、通常の状態から反時計回りの方向へ９０度回転させた状態から、時計回りの方向へ９０度回転させて通常の状態に復帰させる際には、上記とは逆の作用により動作することとなる。
【０２３２】
一方、通常の状態から、鍵穴１３２に挿入した鍵により、シリンダ本体１３１のシリンダを介して第一カム部材１３４を時計回りの方向へ回転させると、上端側が第一カム部材

１３４の回転中心の右方に取付けられている第一アーム１３６が下方へ移動すると共に、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられている第二アーム１３７が上方へ移動することとなる。この際に、第一アーム１３６では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の右方に取付けられているため、第一アーム１３６により第二カム部材１３５を時計回りの方向へ回転させようとする力が大きく作用するのに対して、第二アーム１３７では、上端側が第一カム部材１３４の回転中心の下方に取付けられているため、第二アーム１３７からは第二カム部材１３５を時計回りの方向へ回転させようとする力が殆ど作用しない。

【０２３３】

このようにして、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向へ回転すると、主に第一アーム１３６を介して力が伝達されて、第二カム部材１３５が時計回りの方向へ回転し、第二カム部材１３５と一緒に回転伝達部材１３３が回転することとなる。第一アーム１３６及び第二アーム１３７による第一カム部材１３４の回転を第二カム部材１３５に伝達する力は、第一アーム１３６及び第二アーム１３７が第一カム部材１３４に取付けられている部位と、第一カム部材１３４の回転中心との間の左右方向の距離に比例している。そのため、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向へ回転するのに従って、第一アーム１３６では第二カム部材１３５を回転させようとする力が小さくなるのに対して、第二アーム１３７では第二カム部材１３５を回転させようとする力が大きくなる。

【０２３４】

従って、第一カム部材１３４が、通常の状態から時計回りの方向への回転角度が４５度を越えると、第一アーム１３６よりも第二アーム１３７の方が第二カム部材１３５を回転させようとする力が大きくなり、主に第二アーム１３７を介して、第二カム部材１３５が時計回りの方向へ回転することとなる。そして、鍵穴１３２に挿入した鍵を、通常の状態から、時計回りの方向へ９０度の角度まで回転させることができる（図４３（ｃ）を参照）。

【０２３５】

なお、鍵により、通常の状態から時計回りの方向へ９０度回転させた状態から、時計回りの方向へ９０度回転させて通常の状態に復帰させる際には、上記とは逆の作用により動作することとなる。

【０２３６】

このように、本実施形態のシリンダ錠１３０によれば、第一カム部材１３４と第二カム部材１３５とを、互いに９０度の角度で位相させて取付けた第一アーム１３６と第二アーム１３７とで連結して、回転を伝達させるようにしているため、第一カム部材１３４（鍵穴１３２に挿入された鍵）がどの回転位置にあっても、第一アーム１３６及び第二アーム１３７の少なくとも一方により回転を伝達させて、第二カム部材１３５（回転伝達部材１３３）を回転させることができ、扉枠３や本体枠４の施錠や開錠を良好なものとすることができる。

【０２３７】

また、本実施形態のシリンダ錠１３０によれば、回転伝達機構としての第一アーム１３６及び第二アーム１３７により回転を伝達させることで、シリンダ本体１３１の軸芯に対して、回転伝達部材１３３（本体枠４における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４）の軸芯を、異なる位置に設けることができるため、施錠ユニット６５０を変更しなくても、扉枠３におけるシリンダ本体１３１の位置を任意の位置に変更することが可能となり、扉枠３の装飾の邪魔にならない部位にシリンダ本体１３１（鍵穴１３２）を設けることができ、扉枠３の装飾性の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０２３８】

また、上述したように、扉枠３においてシリンダ本体１３１の位置を変更しても、本体枠４における施錠ユニット６５０を変更する必要がないため、施錠ユニット６５０を流用することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０２３９】
ところで、従来のシリンダ錠１３０Ａでは、シリンダ本体１３１の後方に回転伝達部材１３３が設けられているため、当該構成を知見している不正行為者が、前方からシリンダ本体１３１の後方へ工具を挿入し、当該工具により回転伝達部材１３３を不正に回転させることで、扉枠３を開けて不正行為を行う恐れがある。これに対して、本実施形態のシリンダ錠１３０は、シリンダ本体１３１の軸芯（後方）から離れた位置に回転伝達部材１３３を設けていることから、シリンダ本体１３１の後方に工具を挿入して回転伝達部材１３３を回転させようとしても、当該部位に回転伝達部材１３３が存在していないため、回転伝達部材１３３を回転させることができず、扉枠３や本体枠４等を開けた不正行為が行われることを防止することができる。
【０２４０】
更に、シリンダ錠１３０において、第一アーム１３６に対して第二アーム１３７が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５において９０度の回転角度で離間した部位同士を連結しているため、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の一方の第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５に取付けられている部位が、第一カム部材１３４の中心と第二カム部材１３５の中心とを結んだ直線上に位置しても、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の他方が、第一カム部材１３４の中心と第二カム部材１３５の中心とを結んだ直線から最も離れた部位同士を連結している状態となる。従って、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の一方が、第一カム部材１３４及び第二カム部材１３５の死点に位置することで、第一カム部材１３４からの回転を第二カム部材１３５へ伝達させることができなくても、第一アーム１３６又は第二アーム１３７の他方が、第一カム部材１３４からの回転を第二カム部材１３５へ伝達させることができるため、第一カム部材１３４の回転に大きな抵抗がかかることはなく、鍵穴１３２に挿入されている鍵を滑らかに回転させることができ、開錠・施錠を容易に行うことができると共に、鍵穴に挿入された鍵を無理に回転させられることを回避させることができ、鍵の破損を防止することができる。
【０２４１】
また、第一アーム１３６と第二アーム１３７の二つのアームで鍵穴１３２に挿入された鍵の回転を偏芯した位置に設けられている回転伝達部材１３３へ伝達させるようにしているため、何らかの理由により一方のアームが破損しても、残りのアームにより回転を伝達させることができ、信頼性の高いシリンダ錠１３０を有したパチンコ機１を提供することができる。
【０２４２】
また、滑らかな棒状（帯板状）の第一アーム１３６及び第二アーム１３７により、鍵穴１３２に挿入された鍵の回転を偏芯した位置に設けられている回転伝達部材１３３へ伝達させるようにしているため、ギアにより回転を伝達させるようにした場合では、工具の先端をギアの歯に引掛けることでギアが回転して回転伝達部材１３３が回転させられてしまう恐れがあるが、第一アーム１３６及び第二アーム１３７を表面が滑らかな棒状としていることで、工具の先端を第一アーム１３６や第二アーム１３７に引っ掛かり難くすることができ、第一アーム１３６や第二アーム１３７が動かされることで回転伝達部材１３３が回転させられてしまうことを回避させることができ、施錠ユニット６５０が不正に操作されて扉枠３や本体枠４が開錠させられてしまうことを確実に防止することができる。
【０２４３】
なお、本実施形態のシリンダ錠１３０では、第一カム部材１３４の回転を第二カム部材１３５へ伝達させる回転伝達機構として、第一アーム１３６と第二アーム１３７とを用いたものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、複数の歯車を用いた回転伝達機構、歯車とラックギアを用いた回転伝達機構、スプロケットとチェーンを用いた回転伝達機構、プーリとベルトを用いた回転伝達機構、等としても良い。
【０２４４】
［３－１ｉ．球送給ユニット］
扉枠ベースユニット１００の球送給ユニット１４０について、主に図４４及び図４５を

参照して詳細に説明する。図４４（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。図４５（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から供給される遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給することができると共に、上皿２０１内に貯留された遊技球Ｂを、上皿球抜ボタン２２２の操作によって下皿２０２へ抜くことができるものである。

【０２４５】

球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から遊技球Ｂが供給され前後方向に貫通している進入口１４１ａ、及び進入口１４１ａの下側に開口する球抜口１４１ｂを有し後方が開放された箱状の前カバー１４１と、前カバー１４１の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー１４１の進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂを球発射装置５４０へ供給するための打球供給口１４２ａを有した後カバー１４２と、後カバー１４２及び前カバー１４１の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー１４１の後側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切る仕切部１４３ａを有した球抜部材１４３と、球抜部材１４３の仕切部１４３ａ上の遊技球Ｂを一つずつ後カバー１４２の打球供給口１４２ａへ送り、前カバー１４１と後カバー１４２との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送給部材１４４と、球送給部材１４４を回動させる球送給ソレノイド１４５と、を備えている。

【０２４６】

この球送給ユニット１４０は、図示するように、正面視で、球送給部材１４４が進入口１４１ａの右側に配置されており、球送給部材１４４の左側に球抜部材１４３が、球送給部材１４４の右側に球送給ソレノイド１４５が夫々配置されている。

【０２４７】

球送給ユニット１４０の前カバー１４１は、正面視で球抜口１４１ｂの左側に、球抜部材１４３の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット１４１ｃを備えており、このスリット１４１ｃから後述する球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが前方へ延びだすようになっている。また、前カバー１４１は、進入口１４１ａの上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠３を組立てた際に、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球送給誘導路及び球抜誘導路２４１ｃの上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

【０２４８】

球抜部材１４３は、進入口１４１ａよりも下側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切り上面が球送給部材１４４の方向へ向かって低くなる仕切部１４３ａと、仕切部１４３ａの球送給部材１４４とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口１４１ｂの下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部１４３ｂと、回動棹部１４３ｂの上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹１４３ｃと、作動棹１４３ｃよりも下側で回動棹部１４３ｂの側面から仕切部１４３ａとは反対側へ突出した錘部１４３ｄと、を備えている。球抜部材１４３の作動棹１４３ｃは、前カバー１４１に形成された円弧状のスリット１４１ｃを通して前方へ突出するように形成されている（図４４（ａ）を参照）。作動棹１４３ｃは、扉枠ベース１０１の球送給開口１０１ｅを介して皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって下方へ移動する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端（上面）と当接する。

【０２４９】

球送給部材１４４は、進入口１４１ａ及び球抜部材１４３の仕切部１４３ａの方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部１４４ａと、遮断部１４４ａの後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部１４４ｂと、球保持部１４４ｂの後端から下方へ延出する棒状の棹部１４４ｃと、を備えている。球送給部材１４４における遮断部１４４ａと球保持部１４４ｂは、夫々回転軸芯を中心とした約１８０°の角度範囲内

に隣接して形成されている。また、球送給部材１４４の球保持部１４４ｂは、一つの遊技球Ｂを保持可能な大きさとされている。球送給部材１４４は、球送給ソレノイド１４５の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部１４４ｃが左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【０２５０】

この球送給部材１４４は、遮断部１４４ａが仕切部１４３ａの方向を向くと同時に球保持部１４４ｂが打球供給口１４２ａと連通した方向を向いた供給位置と、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送給部材１４４が供給位置の時には、球保持部１４４ｂに保持された遊技球Ｂが、打球供給口１４２ａから球発射装置５４０へ供給されると共に、進入口１４１ａから仕切部１４３ａ上に進入した遊技球Ｂが、遮断部１４４ａによって球保持部１４４ｂ（打球供給口１４２ａ）側への移動が遮断されて仕切部１４３ａ上に留まった状態となる。一方、球送給部材１４４が保持位置へ回動すると、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向を向くと共に、球保持部１４４ｂの棹部１４４ｃ側の端部が打球供給口１４２ａを閉鎖した状態となり、仕切部１４３ａ上の遊技球Ｂが一つだけ球保持部１４４ｂ内に保持される。

【０２５１】

また、球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送給作動棹１４６と、球送給作動棹１４６における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送給部材１４４を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送給クランク１４７と、を備えている。

【０２５２】

球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５の下方の部位に鉄板１４６ａを備えている。球送給作動棹１４６は、左右に延びており、球送給クランク１４７とは反対側の端部（右端部）が前後に延びた軸周りに回転可能に前カバー１４１及び後カバー１４２に取付けられている。球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５が駆動されると、発生する磁力によって鉄板１４６ａが球送給ソレノイド１４５の方（上方）へ引寄せられ、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が上方へ移動するように回動する。その後、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除されると、磁力が消滅することによって鉄板１４６ａの自重が作用して、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が下方へ移動するように回動して初めの状態に復帰する。これにより、球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５によって、球送給クランク１４７に近い左端部（先端）が上下方向に揺動することとなる。

【０２５３】

球送給クランク１４７は、球送給作動棹１４６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部１４７ａと、係合部１４７ａの球送給作動棹１４６と係合する側とは反対側に配置され前カバー１４１と後カバー１４２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部１４７ｂと、軸部１４７ｂから上方へ延出しており、球送給部材１４４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部１４４ｃ（図４５（ｂ）を参照）と係合する伝達部１４７ｃと、を備えている。

【０２５４】

この球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動により球送給作動棹１４６の先端（左端）を上方へ移動させることで、球送給作動棹１４６を介して球送給クランク１４７を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０２５５】

球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の非駆動時（通常時）では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送給部材１４４が供給位置に位置した状態となる。また、球送給ソレノイド１４５の駆動時では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端に吸引されて先端（左端）が上方へ位置した状態となり、球送給部材１４４が保持位置へ回動する。つまり、球送給ソレノイド１４５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送給部材１４４

が遊技球Ｂを一つ受入れ、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送給部材１４４が受入れた遊技球Ｂを球発射装置５４０側へ送る（供給する）ことができる。この球送給ユニット１４０における球送給ソレノイド１４５の駆動は、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂ（図１２６を参照）により発射ソレノイド５４２の駆動制御と同期して制御される。

【０２５６】

また、球送給ユニット１４０は、回動可能に軸支されている球抜部材１４３か、錘部１４３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっている。しかしながら、球抜部材１４３の前方へ突出している作動棹１４３ｃが、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって動作する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端と当接することで、その回動が規制されているため、通常の状態では、球抜部材１４３の仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置して仕切っており、球抜口１４１ｂ側へ遊技球Ｂが侵入することはない。

【０２５７】

そして、遊技者が、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２を下方へ押圧操作すると、上皿球抜スライダ２４２が作動伝達部２４２ｂと共に下方へスライドし、作動伝達部２４２ｂの下方への移動に伴って作動棹１４３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部２４２ｂと共に作動棹１４３ｃが下方へ移動すると、球抜部材１４３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から移動して仕切りが解除される。これにより、進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂが、球抜口１４１ｂ側へ落下し、球抜口１４１ｂから皿ユニット２００における上皿球抜後ユニット２４０の球抜誘導路２４１ｃへと排出され、下皿球供給口２１１ｃを介して下皿２０２へ排出（供給）させることができる。

【０２５８】

なお、球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが当接する作動伝達部２４２ｂが形成されている上皿球抜スライダ２４２は、バネによって上方へ付勢されているので、仕切部１４３ａ上に遊技球Ｂが勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹１４３ｃを介してバネによって吸収させることができ、球抜部材１４３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球Ｂが仕切部１４３ａで跳ね返るのを防止することができる。

【０２５９】

また、球送給ユニット１４０は、後カバー１４２における打球供給口１４２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部１４２ｂ（図４５（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部１４２ｂ内に不正防止部材１４８が取付けられている。球送給ユニット１４０の不正防止部材１４８は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

【０２６０】

不正防止部材１４８は、正面視の外形が左右に延びた長方形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂと、上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂの互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部１４８ｃと、を備えている。不正防止部材１４８の上片部１４８ａは、不正防止部材１４８の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部１４８ｂは、不正防止部材１４８の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。

【０２６１】

不正防止部材１４８は、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂに取付けられることで、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口１４２ａ内と連通した状態となる。

【０２６２】

この不正防止部材１４８によれば、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを、上皿から球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０により遊技領域５ａ内に打込み、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を操作して、不正な遊技球Ｂを第一始動口２００２等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置５４０により発射（打球）された不正な遊技球Ｂの勢いによって、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとの間に挿入させた上で、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって形成されたＶ字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【０２６３】

［３－１ｊ．ファールカバーユニット］

扉枠ベースユニット１００のファールカバーユニット１５０について、主に図４６及び図４７を参照して詳細に説明する。図４６（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４７は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。ファールカバーユニット１５０は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられている。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、図示するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体１５１と、ユニット本体１５１の前面に取付けられている平板状の蓋部材１５２と、を備えている。

【０２６４】

ファールカバーユニット１５０は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａと皿ユニット２００の上皿球供給口２１１ａとを連通させる貫通球通路１５０ａと、貫通球通路１５０ａの正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂと連通可能な満タン球受口１５０ｂと、を備えている。

【０２６５】

また、ファールカバーユニット１５０は、満タン球受口１５０ｂの正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠４の球発射装置５４０により発射されにも関わらず遊技領域５ａ内へ到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を受けるファール球受口１５０ｃと、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃに受入れられた遊技球Ｂを前方へ放出すると共に皿ユニット２００の下皿球供給口２１１ｃと連通する球放出口１５０ｄと、を備えている。

【０２６６】

更に、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１及び蓋部材１５２によって、満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃと球放出口１５０ｄとの間に形成されており所定量の遊技球Ｂを貯留可能な広さを有している貯留通路１５０ｅを、備えている。

【０２６７】

貫通球通路１５０ａは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２の両方に跨って形成されている。満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃは、ユニット本体１５１に形成されている。球放出口１５０ｄは、蓋部材１５２に形成されている。貯留通路１５０ｅは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２とで形成されている。

【０２６８】

また、ファールカバーユニット１５０は、貯留通路１５０ｅの内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体１５１及び蓋部材１５２に取付けられている平板状の可動片１５３と、可動片１５３の貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ１５４と、可動片１５３を貯留通路１５０ｅ側へ付勢しているバネ１５５

と、を備えている。
【０２６９】
このファールカバーユニット１５０は、皿ユニット２００の下皿２０２内が遊技球Ｂで一杯になって、球放出口１５０ｄから遊技球Ｂが下皿２０２側へ放出されなくなると、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂを貯留することができる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、遊技球Ｂの重さによって可動片１５３の上端がバネ１５５の付勢力に抗して貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向へ移動するように可動片１５３が回動し、その回動が満タン検知センサ１５４によって検知される。これにより、下皿２０２が遊技球Ｂで満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ１５４により満タンが検知されると、これ以上の遊技球Ｂの払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿２０２の満タンを解消させるように促すことができる。
【０２７０】
また、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１の後側で貫通球通路１５０ａの下側に取付けられており、本体枠４の後述する払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０の払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接可能な扉開閉当接部１５０ｆを備えている（図７９を参照）。扉開閉当接部１５０ｆは、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部１５０ｆに払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接することで、払出通路開閉扉６１３を回動させて下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端（前側開口）を開放させることができる。
【０２７１】
［３－２．ガラスユニット］
扉枠３におけるガラスユニット１６０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１６０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖するように、後方からガラスユニット取付部１０１ｈ内に挿入されて着脱可能に取付けられている。このガラスユニット１６０は、扉枠３を本体枠４に対して閉めた時に、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａを遊技者側（前方）から視認可能とすると共に、遊技領域５ａの前方を閉鎖するものである。
【０２７２】
ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１０１ｈに取付可能な枠状のガラス枠１６１と、ガラス枠１６１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１６１に取付けられている透明な二つのガラス板１６２と、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の後側に回転可能に取付けられガラス枠１６１を扉枠ベース１０１に取付けるための一対のガラスユニット取付部材１６３と、を備えている。
【０２７３】
ガラス枠１６１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１６１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１６１ｂと、を有している。ガラス枠１６１の取付片１６１ａは、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂと当接可能とされている。係止片１６１ｂは、中間補強フレーム１１７の上フランジ部１１７ｂに載置されるように、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１７の後フランジ部１１７ｃとの間の空間内に挿入可能とされている（図３７及び図８５を参照）。本実施形態では、係止片１６１ｂの後面が後フランジ部１１７ｃの前面と当接する。二つのガラス板１６２は、ガラス枠１６１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している。
【０２７４】
ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１６３ａと、基部１６３ａから回転軸線に対

して直角方向へ棒状に突出している突出部１６３ｂと、を有している。ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後面における扉窓１０１ａの四隅のうち上側の二つの隅の外側に、夫々回転可能に取付けられる。

【０２７５】

ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１に取付けるには、まず、扉枠ベース１０１に取付けられているガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方に位置するように回転させた状態とする。そして、扉枠ベース１０１の後側から、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１の係止片１６１ｂを、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１７の後フランジ部１１７ｃとの間の隙間に上方から挿入すると共に上フランジ部１１７ｂに載置した上で、ガラス枠１６１の前端を扉枠ベース１０１のガラスユニット取付部１０１ｈの後面に当接させる。その後、ガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも下方に位置するように回転させて、突出部１６３ｂをガラス枠１６１の取付片１６１ａの後面と当接させる。これにより、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１に取付けられる。

【０２７６】

ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１（扉枠ベースユニット１００）に対して着脱可能となっている。

【０２７７】

なお、ガラスユニット１６０では、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂが、基部１６３ａよりも下方に位置している回転位置の時に、突出部１６３ｂによりガラス枠１６１の後方への移動を規制しているため、ガラスユニット取付部材１６３に振動等が作用しても、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方となるように位置へ回転することはない。従って、ガラス枠１６１の後方への移動の規制が自然に解除されることはなく、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１から自然に外れることはない。

【０２７８】

［３－３．防犯カバー］

扉枠３における防犯カバー１７０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の後面下部を覆うように扉枠ベースユニット１００の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー１７０は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部１７１と、本体部１７１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片１７２と、左右に離間して配置され本体部１７１よりも前方に突出し、扉枠ベース１０１の後側に係止可能とされている一対の係止片１７３と、を備えている。

【０２７９】

防犯カバー１７０の本体部１７１は、扉枠ベースユニット１００に取付けた状態で下端がガラスユニット１６０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部１７１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部１７１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

【０２８０】

後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー１７０は、本体部１７１と後方突片１７２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁とは異なる本体部１７１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部１７１の後面の一部から後方に突出している後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０２８１】
なお、後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球Ｂ（球発射装置５４０により発射された遊技球Ｂ）が、防犯カバー１７０の後方突片１７２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球Ｂの打込みを阻害することはない。
【０２８２】
一対の係止片１７３は、扉枠ベースユニット１００（スピーカダクト１０３及びケーブルカバー１０９）の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー１７０は、扉枠ベースユニット１００に対して容易に着脱することができる。
【０２８３】
防犯カバー１７０は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部１７１の前面がガラスユニット１６０の後面（ガラス枠１６１の後端）と当接し、本体部１７１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片１７２が、前構成部材１０００の防犯凹部１００９内に挿入された状態となる。また、防犯カバー１７０は、本体部１７１の下辺から後方に突出している後方突片１７２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー１７０と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー１７０の後方突片１７２と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー１７０と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片１７２や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。
【０２８４】
［３－４ａ．ハンドルユニット］
続いて、扉枠３におけるハンドルユニット１８０について、図４８～図５２等を参照して詳細に説明する。図４８は扉枠におけるハンドルユニットと皿ユニットと演出操作ユニットとを前から見た分解斜視図であり、図４９は扉枠におけるハンドルユニットと皿ユニットと演出操作ユニットとを後ろから見た分解斜視図である。図５０は扉枠におけるハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図５１は扉枠におけるハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図５２（ａ）はハンドルユニットにおけるハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとの関係を斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して斜視図で示す説明図である。図５３は、ハンドルユニットにおけるハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとインナーベースとの関係を後ろから見た斜視図で示す説明図である。なお、図５３では、判り易いようにハンドル復帰バネ１９０における第一取付部１９０ａの位置を変更して示している。
【０２８５】
本実施形態のハンドルユニット１８０は、円筒状のハンドルカバーユニット２９０内において、前方から扉枠ベースユニット１００に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。
【０２８６】
ハンドルユニット１８０は、後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面に取付けられるハンドルベース１８１と、ハンドルベース１８１の前端に回転可能に取付けられるハンドル１９７と、ハンドル１９７の前端側の中央を覆うようにハンドルベース１８１に取付けられる円盤状のカバー台座１８３と、カバー台座１８３の前側に取付けられており前面に複数のＬＥＤ１８４ａが実装されているハンドル装飾基板１８４と、ハンドル装飾基板１８４の前側を覆うようにカバー台座１８３に取付けられているハンドル前レンズ１８５と、を備えている。
【０２８７】
また、ハンドルユニット１８０は、ハンドル１９７の後側でハンドルベース１８１の前

面に取付けられるインナーベース１８６と、前端にハンドル１９７が取付けられると共にインナーベース１８６とハンドルベース１８１とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部１８７ａを有している軸部材１８７と、軸部材１８７の駆動ギア部１８７ａと噛合している伝達ギア１８８と、伝達ギア１８８と一体回転する検知軸１８９ａを有しハンドルベース１８１とインナーベース１８６との間に挟持されているハンドル回転検知センサ１８９と、を備えている。

【０２８８】

更に、ハンドルユニット１８０は、一端側がハンドルベース１８１に取付けられると共に他端側がハンドル１９７に取付けられハンドル１９７を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ１９０と、一端側がインナーベース１８６に取付けられると共に他端側が伝達ギア１８８に取付けられ伝達ギア１８８を介してハンドル回転検知センサ１８９の検知軸１８９ａを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ１９１と、を備えている。

【０２８９】

また、ハンドルユニット１８０は、インナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に取付けられているハンドルタッチセンサ１９２と、先端側がハンドルベース１８１の前端外周面の正面視おける左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に前後へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン１９３と、単発ボタン１９３の押圧操作を検知しハンドルベース１８１に取付けられている単発ボタン操作センサ１９４と、を備えている。

【０２９０】

ハンドルユニット１８０のハンドルベース１８１は、前後に延びた円筒状の基部１８１ａと、基部１８１ａの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部１８１ｂと、円筒状の基部１８１ａの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部１８１ｃと、を備えている。ハンドルベース１８１の基部１８１ａは、外径がハンドルカバーユニット２９０におけるハンドルカバーベース２９１の後筒部の内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部１８１ｃは、ハンドルカバーベース２９１の三つの突条と対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部１８１ｃを三つの突条と一致させた状態で、基部１８１ａをハンドルカバーベース２９１の後筒部内に挿入させることができると共に、三つの溝部１８１ｃ内に夫々突条が挿入されることで、ハンドルベース１８１がハンドルカバーベース２９１に対して相対回転不能な状態となる。

【０２９１】

また、ハンドルベース１８１は、その内部に前方からハンドルタッチセンサ１９２が収容されるセンサ収容凹部１８１ｄと、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａが当接するタブ当接部１８１ｅと、タブ当接部１８１ｅに設けられている取付孔１８１ｆと、を備えている（図５２を参照）。センサ収容凹部１８１ｄにハンドルタッチセンサ１９２を収容させると共に、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａをタブ当接部１８１ｅに当接させた状態にすると共に、前方からインナーベース１８６の後部をハンドルベース１８１に挿入し、インナーベース１８６の取付片１８６ａ（図５３を参照）をタブ状端子１９２ａの前方に位置させる。そして、インナーベース１８６の取付片１８６ａの前方から取付ネジ（図示は省略）を取付孔１８１ｆにねじ込んで締め付けることにより、ハンドルベース１８１にハンドルタッチセンサ１９２をインナーベース１８６と一緒に取付けることができる。この際に、ハンドル復帰バネ１９０の後端側に設けられているＵ字状の第二取付部１９０ｂを、インナーベース１８６の取付片１８６ａとハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａとで一緒に挟むように取付ネジをねじ込むことで、ハンドル復帰バネ１９０の後端側をハンドルベース１８１に取付けることができると共に、ハンドル復帰バネ１９０とハンドルタッチセンサ１９２とを電気的に接続することができる。このハンドルベース１８１におけるタブ当接部１８１ｅの部位は、ハンドル１９７における後述するスリット１９７ｅを通して前方から臨むことができ、そのスリット１９

７ｅを通して工具としてのドライバーを前方からアプローチさせることができる。
【０２９２】
ハンドル１９７は、表面に導電性を有するメッキ層が設けられている。ハンドル１９７は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起１９７ａ、第二突起１９７ｂ、第三突起１９７ｃ、及び第四突起１９７ｄと、回転軸（軸部材１８７）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット１９７ｅと、一方のスリット１９７ｅの一端側でハンドル１９７の中心側へ凹んだ部位で前方へ臨むように設けられているバネ取付片１９７ｆと、バネ取付片１９７ｆを前後に貫通している取付孔１９７ｇと、を備えている。
【０２９３】
ハンドル１９７におけるバネ取付片１９７ｆの上面に、ハンドル復帰バネ１９０における前端に設けられている環状の第一取付部１９０ａを当接させた状態で、前方から取付ネジ（図示は省略）を取付孔１９７ｇにねじ込んで締め付けることにより、ハンドル復帰バネ１９０の前端側を前方から取付けることができると共に、ハンドル１９７の表面のメッキ層とハンドル復帰バネ１９０とを電気的に接続することができる。これにより、金属製のハンドル復帰バネ１９０を介して、ハンドルタッチセンサ１９２とハンドル１９７とが電気的に接続された状態となり、遊技者によるハンドル１９７への接触を検知することが可能となる。
【０２９４】
なお、ハンドル１９７における四つの第一突起１９７ａ、第二突起１９７ｂ、第三突起１９７ｃ、及び第四突起１９７ｄは、正面視において反時計回りの方向に順番に備えられている。
【０２９５】
このように、本実施形態のハンドルユニット１８０によれば、ハンドルタッチセンサ１９２とハンドル１９７とを電気的に接続している金属製のハンドル復帰バネ１９０の両端を、それぞれ取付ネジにより取付けているため、ハンドル復帰バネ１９０の両端を単に接触させているだけの場合と比較して、確実に電気的に接続することができ、接触不良（ハンドルタッチセンサ１９２の検知不具合）を確実に防止することができる。従って、本パチンコ機１を設置している遊技ホールにおいて、清掃の際に使用されるアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が、ハンドルユニット１８０内に侵入したり、薬液からガスなどが発生してハンドル復帰バネ１９０などに付着したりすることにより表面が腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を確実に検知することができる。
【０２９６】
また、本実施形態のハンドルユニット１８０は、ハンドル復帰バネ１９０の両端である第一取付部１９０ａおよび第二取付部１９０ｂに対して、ハンドル１９７のスリット１９７ｅを通して前方から取付ネジを回すためのドライバーをアプローチさせることができるため、ハンドルユニット１８０を組立て易くすることができると共に、メンテナンスが容易である。
【０２９７】
このハンドルユニット１８０は、扉枠ベース１０１のハンドル取付座面に対して、ハンドルカバーユニット２９０を介して取付けられる。この扉枠ベース１０１のハンドル取付座面は、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドルユニット１８０も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機１の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機１の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠３に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１９７が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。
【０２９８】
［３－４ａ－１．ハンドルユニットの変形例］

続いて、ハンドルユニットの変形例について説明する。なお、以下に示す複数の変形例は、一つの変形例のみを用いても良いし、上記の実施形態と共に複数の変形例を適宜組み合わせて用いても良い。

【０２９９】

（変形例１）

上記の実施形態では、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａとハンドル復帰バネ１９０の第二取付部１９０ｂとを、取付ネジで一緒に取付けるものを示したが、これに限定するものではない。例えば、ハンドル１９７に突起部を設けると共に、ハンドル復帰バネ１９０の前端側（第一取付部１９０ａ）の形状をハンドル１９７の突起部の外周の一部に沿った形状とするようにして、ハンドル復帰バネ１９０の前端を突起部に係止させるようにしても良い。これにより、ハンドル復帰バネ１９０の前端側が突起部に対して線接触するようになり、点接触と比較して接触部分が増えることで接触不良の発生を防止することができる。この場合、ハンドル１９７の突起部を、清掃などに使用されるアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液がかかり難い部位に設けることが望ましい。または、アルコールなどの薬液がかからないように当該部位にカバーを設けても良い。

【０３００】

（変形例２）

また、例えば、図５４に示すような構成としても良い。図５４は、ハンドルユニットの変形例でありハンドルベースとハンドルとハンドル復帰バネとハンドルタッチセンサとインナーベースとの関係を後ろから見た斜視図で示す説明図である。この変形例では、ハンドル１９７を本体部１９７Ａと環状のリング部１９７Ｂとで構成しており、リング部１９７Ｂが、金属または表面にメッキ層を有する樹脂で形成されている。ハンドル１９７のリング部１９７Ｂは、ハンドル１９７の後端（ハンドルベース１８１の前端）において外周面が外部へ露出するように設けられている。そして、このリング部１９７Ｂとハンドルタッチセンサ１９２とを電線１９８で電気的に接続するようにしても良い。

【０３０１】

具体的には、両端に丸端子１９８ａが設けられた電線１９８の一方の丸端子１９８ａを、インナーベース１８６の取付片１８６ａとハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａとの間に挟まれるように、それらと一緒に取付ネジでねじ止めし、電線１９８の他方の丸端子１９８ａを、ハンドル１９７におけるリング部１９７Ｂの取付部１９７ｈにねじ止めする。これにより、遊技者がハンドル１９７を握るとその指がリング部１９７Ｂに接触することとなり、リング部１９７Ｂ及び電線１９８を介して接触を検知することができる。従って、上記と同様に、接触不良（ハンドルタッチセンサ１９２の検知不具合）を確実に防止することができるため、本パチンコ機１を設置している遊技ホールにおいて、清掃の際にアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が使用されても、接触不良が発生することはなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を確実に検知することができる。

【０３０２】

なお、ハンドル１９７のリング部１９７Ｂは、本体部１９７Ａに固定されて一体回転可能に設けられていても良いし、本体部１９７Ａまたはハンドルベース１８１にガイドされて相対回転可能に設けられていても良い。また、上記では、環状のリング部１９７Ｂを示したが、Ｃ形状のように一周していない非環状のリング部１９７Ｂでも良い。

【０３０３】

また、上記では、ハンドル１９７が本体部１９７Ａとリング部１９７Ｂとで構成されているものを示したが、これに限定するものではなく、リング部１９７Ｂがハンドル１９７とは別構成の独立したものであっても良い。

【０３０４】

（変形例３）

また、例えば、ハンドルタッチセンサ１９２を別の位置に設け、両端に丸端子１９８ａが設けられた電線１９８を使用して、一方の丸端子１９８ａをタブ状端子１９２ａと一緒

に取付ネジでねじ止めすると共に、他方の丸端子１９８ａをハンドル復帰バネ１９０の第二取付部１９０ｂと一緒に取付ネジでねじ止めするようにしても良い。これによっても、上記と同様に、接触不良（ハンドルタッチセンサ１９２の検知不具合）を確実に防止することができるため、本パチンコ機１を設置している遊技ホールにおいて、清掃の際にアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が使用されても、接触不良が発生することはなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を確実に検知することができる。なお、この場合、ハンドル復帰バネ１９０の前端側（第一取付部１９０ａ）は、ハンドル１９７に対して取付ネジで取付けても良いし、ハンドル１９７に設けた突起部に係止するようにしても良い。

【０３０５】

（変形例４）

また、例えば、ハンドル１９７の裏面に取付孔を設け、両端に丸端子１９８ａが設けられた電線１９８の一方の丸端子１９８ａを、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａと一緒に取付ネジでねじ止めし、他方の丸端子１９８ａをハンドル１９７の取付孔にねじ込まれる取付ネジによりねじ止めするようにしても良い。この際に、電線１９８の長さを、ハンドル１９７が回転できる長さとしておく。なお、ハンドル１９７における電線１９８の丸端子１９８ａがねじ止めされる部位としては、例えば、図５４に示すようなハンドル１９７にリング部１９７Ｂを有する場合、当該リング部１９７Ｂを本体部１９７Ａと一体回転するように設け、そのリング部１９７Ｂの取付部１９７ｈに丸端子１９８ａをねじ止めするようにしても良い。これによっても、上記と同様に、接触不良（ハンドルタッチセンサ１９２の検知不具合）を確実に防止することができるため、本パチンコ機１を設置している遊技ホールにおいて、清掃の際にアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が使用されても、接触不良が発生することはなく、ハンドルタッチセンサ１９２により遊技者の接触を確実に検知することができる。

【０３０６】

（その他の変形例）

上記では、ハンドル１９７に設けられているメッキ層にねじ止めするものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、ハンドル１９７に、金属部が設けられている場合は、その金属部にねじ止めして、ハンドルタッチセンサ１９２と電気的に接続するようにしても良い。この金属部としては、例えば、上記のリング部１９７Ｂを金属製としたものでも良い。

【０３０７】

また、上記では、ハンドルタッチセンサ１９２としてタブ状端子１９２ａを有したものを示したが、これに限定するものではなく、ハンドルタッチセンサにコネクタを有しているものでも良い。この場合、コネクタに接続した電線の先端側を直接、或いは、ハンドル復帰バネ１９０を介して、ハンドル１９７と電気的に接続すれば良い。

【０３０８】

［３－４ａ－２．小括］

上記のハンドルユニット１８０には、以下のような技術的特徴を有している。

（技術的特徴の背景）

遊技機としてのパチンコ機には、遊技領域へ遊技球を発射するために遊技者が操作するハンドルと、遊技者がハンドルに触れていることを検知するためのタッチセンサと、が設けられている（例えば、特許文献：特開２０２０－１３７７９４号公報）。そして、上記特許文献のような従来の遊技機では、ハンドルを元の位置に復帰させるためのバネを介して、タッチセンサとハンドルとを電気的に接続して、遊技者によるハンドルへの接触を検知していた。この種の従来の遊技機では、ハンドルを復帰させるバネにおいて、タッチセンサ側の端部と、ハンドル側の端部とを、当該バネの付勢力を利用して接触させるようにしていた。

【０３０９】

ところで、遊技機を設置している遊技ホールにおいて、遊技機を清掃・消毒する際に、

アルコールや次亜塩素酸ナトリウムのような薬液が使用される場合がある。そして、清掃などに使用された薬液がハンドル内に侵入したり、ガスなどが発生してバネなどに付着すると、バネなどの表面が腐食や酸化して電気的な接触不良が発生する恐れがあり、当該接触不良により遊技球の発射が不安定になったり、遊技球を発射させることができなくなったりして、遊技者の興趣を低下させてしまう恐れがある。

【０３１０】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技者によるハンドルの接触を確実に検知することが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【０３１１】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技球を遊技領域へ発射するためのハンドルユニットを備えた遊技機であって、

前記ハンドルユニットは、

回転可能なハンドルと、

該ハンドルを回転可能に支持しているハンドルベースと、

該ハンドルベースに設けられているタッチセンサと、

該タッチセンサの電極タブ、または、該電極タブもしくは前記タッチセンサのコネクタに接続されている電線の先端、と一緒に一端側がネジ止めされていると共に、前記ハンドルのメッキ部もしくは金属部に他端側が接触しており、線状に形成された金属の線状体とを具備している」ことを特徴とする。

【０３１２】

ここで、「線状体」としては、「バネ」、「電線」、等が挙げられる。

【０３１３】

手段１の構成によると、遊技球を遊技領域へ発射するためのハンドルユニットを備えた遊技機であって、ハンドルユニットは、回転可能なハンドルと、ハンドルを回転可能に支持しているハンドルベースと、ハンドルベースに設けられているタッチセンサと、タッチセンサの電極タブ、または、電極タブもしくはタッチセンサのコネクタに接続されている電線の先端、と一緒に一端側がネジ止めされていると共に、ハンドルのメッキ部もしくは金属部に他端側が接触しており、線状に形成された金属の線状体と、を具備しているものである。（［発明を実施するための形態］では、［３－４ａ．ハンドルユニット］の章、図５０～図５４等の記載を参照）

【０３１４】

本構成では、遊技球を遊技領域へ発射するためのハンドルユニットにおいて、ハンドルのメッキ部もしくは金属部に他端側が接触している金属の線状体の一端側を、ハンドルベースに設けられているタッチセンサの電極タブ、又は、電極タブもしくはタッチセンサのコネクタに接続されている電線の先端、と一緒にネジ止めしている。つまり、線状体の一端側を、タッチセンサの電極タブ、または、電極タブやコネクタを介してタッチセンサと電気的に接続されている電線の先端、に対してネジ止めしている。これにより、線状体の一端側をネジ止めせずに単に接触させているだけの場合と比較して、遊技機の清掃などの際に使用されたアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が、ハンドル内に侵入したり、ガスなどが発生してバネなどに付着したりすることにより表面が腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、線状体を介してタッチセンサにより遊技者のハンドルへの接触を確実に検知することができる。従って、タッチセンサによる検知不具合により遊技球の発射が不安定になったり、遊技球を発射させることができなくなったりすることはなく、遊技者に対して良好な状態で遊技を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【０３１５】

なお、タッチセンサの電極タブをネジ止めすると、タッチセンサがハンドルベースに取付けられるようにすることが望ましい。これにより、線状体の一端側の取付けとタッチセンサの取付けとを同時に行うことができ、組み立てや分解にかかる手間を低減させること

ができる。
【０３１６】
　また、線状体の他端側を、ハンドルから突出している突起部に係止させるようにしても良い。これにより、線状体の他端側をハンドルの突起部に係止させることにより電気的に接続されることとなるため、ハンドルユニットの組立てや分解にかかる手間（工数）を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３１７】
　更に、線状体の他端側を、ハンドルにネジ止めするようにしても良い。これにより、線状体の他端側もハンドルにネジ止めするようにしているため、一端側に加えて他端側でも接触不良が発生し難いものとすることができる。従って、遊技機の清掃の際に、アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液により線状体などが腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、線状体を介してタッチセンサにより遊技者のハンドルへの接触を確実に検知することができる。
【０３１８】
　また、上記のように、線状体の他端側もネジ止めする場合、線状体の一端側と他端側において、それぞれのネジ（取付ネジ）に対して、同じ方向からドライバーなどの工具をアプローチできるようにすることが望ましい。これにより、線状体の両端に対して同じ方向からネジ止めすることができるため、ハンドルユニットの組み立てにかかる手間を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３１９】
　また、線状体を、ハンドルを軸芯周りに付勢しているバネとすることが望ましい。これにより、ハンドルとタッチセンサとを電気的に接続している線状体を、ハンドルを付勢しているバネとしているため、線状体をバネとは別の部材（例えば、電線）とする場合と比較して、ハンドルユニットの部品点数を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３２０】
　手段２：手段１の構成において、
　「前記線状体は、前記他端側が前記ハンドルから突出している突起部に係止されている」ものであることを特徴とする。
【０３２１】
　ここで、「突起部」としては、「ハンドルと一緒に一体成形されているもの」、「ハンドルに対してインサート成形されているもの（例えば、金属ピン）」、「ハンドルとは別体でハンドルに取付けられているもの（例えば、金属ピン、ネジ、など）」、等が挙げられる。
【０３２２】
　手段２の構成によると、線状体の他端側を、ハンドルから突出している突起部に係止させるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、［３－４ａ．ハンドルユニット］の章を参照）
【０３２３】
　これにより、線状体の他端側をハンドルの突起部に係止させることにより電気的に接続されることとなるため、ハンドルユニットの組立てや分解にかかる手間（工数）を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３２４】
　なお、線状体の他端側をハンドルの突起部に係止させた上でネジ止めするようにしても良い。これにより、線状体において、一端側に加えて他端側でも接触不良が発生し難いものとすることができ、タッチセンサにより遊技者によるハンドルの接触を確実に検知することができる。
【０３２５】
　手段３：手段１又は手段２の構成において、
　「前記線状体は、前記他端側が前記ハンドルにネジ止めされている」

ものであることを特徴とする。
【０３２６】
手段３の構成によると、線状体の他端側を、ハンドルにネジ止めするものである。（［発明を実施するための形態］では、ハンドル復帰バネ１９０、及び図５２などの記載を参照）
【０３２７】
これにより、線状体の他端側もハンドルにネジ止めするようにしているため、一端側に加えて他端側でも接触不良が発生し難いものとすることができる。従って、遊技機の清掃の際に、アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液により線状体などが腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、線状体を介してタッチセンサにより遊技者のハンドルへの接触を確実に検知することができる。
【０３２８】
なお、線状体の一端側と他端側とをそれぞれネジ止めするようにしていることから、それぞれのネジ（取付ネジ）に対して、同じ方向からドライバーなどの工具をアプローチできるようにすることが望ましい。これにより、線状体の両端に対して同じ方向からネジ止めすることができるため、ハンドルユニットの組み立てにかかる手間を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３２９】
手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、
「前記線状体は、前記ハンドルを軸芯周りに付勢しているバネである」
ことを特徴とする。
【０３３０】
手段４の構成によると、線状体を、ハンドルを軸芯周りに付勢しているバネとするものである。（［発明を実施するための形態］では、ハンドル復帰バネ１９０の記載を参照）
【０３３１】
これにより、ハンドルとタッチセンサとを電気的に接続している線状体を、ハンドルを付勢しているバネとしているため、線状体をバネとは別の部材（例えば、電線）とする場合と比較して、ハンドルユニットの部品点数を少なくすることができ、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０３３２】
このように、上記の解決手段によれば、遊技者によるハンドルの接触を確実に検知することが可能な遊技機を提供することができる。
【０３３３】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の扉枠３におけるハンドルユニット１８０は上記解決手段のハンドルユニットに、本実施形態におけるハンドルユニット１８０のハンドルベース１８１は上記解決手段のハンドルベースに、本実施形態におけるハンドルユニット１８０のハンドル復帰バネ１９０は上記解決手段の線状体及びバネに、本実施形態におけるハンドルユニット１８０のハンドルタッチセンサ１９２は上記解決手段のタッチセンサに、本実施形態におけるハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａは上記解決手段の電極タブに、本実施形態におけるハンドルユニット１８０のハンドル１９７は上記解決手段のハンドルに、それぞれ相当している。
【０３３４】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、扉枠３における遊技球Ｂを遊技領域５ａへ発射するためのハンドルユニット１８０において、ハンドル１９７のメッキ部に他端側（第一取付部１９０ａ側）が接触している金属の線状体としてのハンドル復帰バネ１９０の一端側（第二取付部１９０ｂ側）を、ハンドルベース１８１に設けられているハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａと一緒にネジ止めしている。つまり、ハンドル復帰バネ１９０の一端側を、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａに対してネジ止め

している。これにより、ハンドル復帰バネ１９０の一端側をネジ止めせずに単に接触させているだけの場合と比較して、パチンコ機１の清掃などの際に使用されたアルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液が、ハンドルユニット１８０内に侵入したり、ガスなどが発生してバネなどに付着したりすることにより表面が腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、ハンドル復帰バネ１９０を介してハンドルタッチセンサ１９２により遊技者のハンドル１９７への接触を確実に検知することができる。従って、ハンドルタッチセンサ１９２による検知不具合により遊技球Ｂの発射が不安定になったり、遊技球Ｂを発射させることができなくなったりすることはなく、遊技者に対して良好な状態で遊技を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０３３５】

また、ハンドルタッチセンサ１９２のタブ状端子１９２ａをネジ止めすると、ハンドルタッチセンサ１９２がハンドルベース１８１に取付けられるようにしているため、ハンドル復帰バネ１９０の一端側（第二取付部１９０ｂ側）の取付けとハンドルタッチセンサ１９２の取付けとを同時に行うことができ、組み立てや分解にかかる手間を低減させることができる。

【０３３６】

更に、ハンドル復帰バネ１９０の他端側（第一取付部１９０ａ側）を、ハンドル１９７にネジ止めするようにしているため、一端側（第二取付部１９０ｂ側）に加えて他端側（第一取付部１９０ａ）でも接触不良が発生し難いものとすることができる。従って、パチンコ機１の清掃の際に、アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの薬液によりハンドル復帰バネ１９０などが腐食や酸化しても、接触不良が発生することはなく、ハンドル復帰バネ１９０を介してハンドルタッチセンサ１９２により遊技者のハンドル１９７への接触を確実に検知することができる。

【０３３７】

また、ハンドル復帰バネ１９０の一端側（第二取付部１９０ｂ側）と他端側（第一取付部１９０ａ側）において、それぞれのネジ（取付ネジ）に対して、同じ方向（ここでは前方）からドライバーなどの工具をアプローチできるようにしており、ハンドル復帰バネ１９０の両端に対して同じ方向からネジ止めすることができるため、ハンドルユニット１８０の組み立てにかかる手間を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０３３８】

また、ハンドル１９７とハンドルタッチセンサ１９２とを電気的に接続する線状体を、ハンドル１９７を付勢しているハンドル復帰バネ１９０としているため、線状体をハンドル復帰バネ１９０とは別の部材（例えば、電線）とする場合と比較して、ハンドルユニット１８０の部品点数を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０３３９】

なお、ハンドル復帰バネ１９０の他端側（第一取付部１９０ａ側）を、ハンドル１９７から後方へ突出している突起部に係止させるようにしても良い。これにより、ハンドル復帰バネ１９０の他端側をハンドル１９７の突起部に係止させることにより電気的に接続されることとなるため、ハンドルユニット１８０の組立てや分解にかかる手間（工数）を少なくすることができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０３４０】

［３－４ｂ．ハンドルカバーユニット］

扉枠３におけるハンドルカバーユニット２９０について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。ハンドルカバーユニット２９０は、ハンドルユニット１８０におけるハンドル１９７よりも後側の外周を覆い、後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面に取付けられるハンドルカバーベース２９１と、ハンドルカバーベース２９１との間に間隔をあけてその外周を覆い、後端が皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付け

られるハンドルカバー２９５と、を備えている。
【０３４１】
ハンドルカバーベース２９１は、ハンドルベース１８１の基部１８１ａを挿入可能な内径で前後に延びている筒状の後筒部と、後筒部の内周から内側へ突出していると共に前後に延びており、周方向におけるハンドルベース１８１の溝部１８１ｃと対応した位置に複数（ここでは三つ）設けられている突条と、を備えている。
【０３４２】
後筒部は、後端が扉枠ベース１０１のハンドル取付座面に取付けられる。この後筒部は、ハンドルベース１８１の基部１８１ａと同じ長さに形成されており、内部にハンドルベース１８１の基部１８１ａが挿入される。三つの突条は、ハンドルベース１８１の三つの溝部１８１ｃと対応しており、溝部１８１ｃ内に挿入されることで、ハンドルベース１８１を相対回転不能とすることができる。
【０３４３】
ハンドルカバー２９５は、前端にハンドル１９７よりも大径の前孔２９５ａを有し、後方へ向かうに従って膨出するような紡錘台（かまくら型、或いは、お椀型、等）の筒状に形成されており、後端から前方へ向かって切欠かれた切欠開口部２９５ｂが周方向へ複数（ここでは四つ）設けられている。ハンドルカバー２９５は、ハンドルカバー２９５の後端は、皿ユニット２００の皿ユニット本体２５２に取付けられる。
【０３４４】
本実施形態のハンドルカバーユニット２９０は、飲み物等の液体や遊技球Ｂ等が筒内に侵入しても、下側の切欠開口部２９５ｂを介してハンドルカバーユニット２９０の下方へ排出させることができる。
【０３４５】
また、ハンドルカバー２９５の下側の切欠開口部２９５ｂは、外枠２の外枠下組立体４０におけるグリル部材４６の羽根部４６ｂの傾斜方向の延長線上に設けられている。これにより、本体枠スピーカ６２２の振動により羽根部４６ｂを介してグリル部材４６から斜め上前方へ放出された風（風圧）を、切欠開口部２９５ｂを通して、筒内へ進入させることができる。従って、遊技者が、ハンドルカバー２９５の筒内に手指を突っ込んで、ハンドル１９７を回転操作（遊技球Ｂの打込装置）している時に、本体枠スピーカ６２２を振動させて前筒部２９１ａ内へ風を送ることで、遊技者を驚かせることができ、これまでにない演出を行うことができる。つまり、ハンドル１９７を操作している遊技者の指に対して、音圧による刺激を付与することができるため、遊技者を驚かせたり、チャンスの到来を予感させたり、ハンドル操作の操作量を変更させたり、することができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【０３４６】
更に、切欠開口部２９５ｂを通してハンドルカバーユニット２９０内に本体枠スピーカ６２２からの音圧（音風）を供給することができるため、ハンドルカバーユニット２９０内を涼しくすることができ、ハンドル１９７を操作している遊技者の手指まわりの環境を快適にすることで、遊技者にかかるストレスを緩和させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【０３４７】
また、上述したように、ハンドルカバーユニット２９０内に指を挿入した状態でハンドル１９７を操作している遊技者の指に対して、ハンドル１９７やハンドルカバーユニット２９０が設けられている扉枠３とは異なる外枠２の外枠下組立体４０に設けられたポート部材４７から前方へ放出される音圧（音風）を、グリル部材４６の複数の羽根部４６ｂにより誘導して刺激を付与するようにしているため、ハンドル１９７に振動装置を設けるようにした場合と比較して、ハンドル１９７に設けられている各種のセンサ（ハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、等）や軸受機構等にダメージを与えることはなく、ハンドルユニット１８０を破損し難くするこ

とが可能となり、ハンドルユニット１８０の破損により遊技者に不快感を与えてしまうことを回避させることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０３４８】

更に、ハンドルカバー２９５に切欠開口部２９５ｂを有しているため、扉枠３や本体枠４を開ける際に、右側の切欠開口部２９５ｂに指を掛けて引っ張ることができ、扉枠３等を開放する時の取っ手とすることができる。

【０３４９】

また、ハンドルカバー２９５に切欠開口部２９５ｂを有しているため、ハンドル１９７と切欠開口部２９５ｂとに指を掛けて掴むようにすることで、ハンドル１９７の回転位置を簡単に固定することができ、手をひねり続けていなくても一定の強さで遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込み続けることができる。このように、多様な方法でハンドル１９７を回転させて遊技球Ｂを打込むことができるため、遊技者に適した打込操作を選択可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０３５０】

また、扉枠３におけるヒンジ側とは反対側の右下隅にハンドル１９７を設けていると共に、ハンドルカバーユニット２９０のハンドルカバー２９５における外周面の右側を向いている部位に切欠開口部２９５ｂを設けているため、当該切欠開口部２９５ｂを、扉枠３を開閉させる時の取っ手に用いることができる。従って、扉枠３に見栄えが悪くなるような取っ手を設ける必要が無く、扉枠３の見栄えを良くすることができる。

【０３５１】

［３－５．皿ユニットの全体構成］

扉枠３における皿ユニット２００について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。皿ユニット２００は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも下側の部位に取付けられる。皿ユニット２００は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留する上皿２０１と、上皿２０１の下側に配置されており上皿２０１やファールカバーユニット１５０から供給される遊技球Ｂを貯留可能な下皿２０２と、を備えている。

【０３５２】

皿ユニット２００は、上皿２０１を有しており扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面に取付けられている皿ベースユニット２１０と、皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており下皿２０２を有している皿装飾ユニット２５０と、皿装飾ユニット２５０及び皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており遊技者が操作可能な演出操作ユニット３００と、を備えている。

【０３５３】

皿ベースユニット２１０は、左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、上皿本体２１２の右方に取付けられており前方へ突出している取付ベース（図示は省略）と、取付ベースの右方に取付けられている皿ユニット中継基板（図示は省略）と、取付ベースの上面に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、取付ベースの下方に取付けられている上皿球抜前ユニット（図示は省略）と、上皿球抜前ユニットの後方に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。

【０３５４】

皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられており下皿２０２を有している下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と、を備えている。

【０３５５】

演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１として、遊技者が押

圧操作可能な押圧操作部３０３と、遊技者が前後方向へのレバー操作が可能なレバー操作部３０４と、遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作ユニット３００は、皿ベースユニット２１０に取付けられるベースユニット４００と、ベースユニット４００に対して左右方向に延びた軸周りに回動可能に取付けられているレバー操作部ユニット４１０と、を備えている。押圧操作部３０３は、ベースユニット４００の上面に設けられている。

【０３５６】

皿ユニット２００は、全体が前方へ膨出しており、左右方向中央において演出操作部３０１の上面が斜め上前方を向くように演出操作ユニット３００が配置されており、上面における演出操作ユニット３００の左側に上皿２０１が演出操作ユニット３００の右側に球貸操作ユニット２２０が配置されていると共に、上皿２０１の下側で演出操作ユニット３００の左側に下皿２０２が配置されている。

【０３５７】

［３－５ａ．上皿］

皿ユニット２００の上皿２０１について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。上皿２０１は、皿ユニットベース２１１と上皿本体２１２とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿２０１（上皿本体２１２）は、扉枠３の左右方向の幅に対して左端から右方へ約１／３の部位が最も前方に膨出している。上皿２０１は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい誘導通路部２０１ａ（図３７を参照）を有している。上皿２０１は、誘導通路部２０１ａを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部２０１ａの正面視右端側が、球貸操作ユニット２２０の下方へ潜り込んでいる。

【０３５８】

上皿２０１は、皿ユニット２００に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａよりも下側の位置から上皿球送給口（図示は省略）の上端に対して遊技球Ｂの外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口２１１ａから前方へ放出された遊技球Ｂが、上皿２０１内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球Ｂを誘導通路部２０１ａの右端側から上皿球送給口を通って球送給ユニット１４０側へ供給させることができる。

【０３５９】

なお、誘導通路部２０１ａには、パチンコ機１において電気的に接地（アース）されている金属製のアース金具が備えられており、遊技球Ｂが接触（転動）することで、遊技球Ｂに帯電した静電気を除去させることができる。

【０３６０】

［３－５ｂ．下皿］

皿ユニット２００の下皿２０２について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。下皿２０２は、上皿２０１の下方で、正面視おいて皿ユニット２００（扉枠３）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿２０２は、下皿本体２５１と皿ユニットベース２１１とで形成されている。下皿２０２は、遊技球Ｂを貯留可能な容器状に形成されており、底壁に上下に貫通し遊技球Ｂを排出可能とされた下皿球抜孔２０２ａを備えている（図２９を参照）。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜蓋によって開閉可能に閉鎖されている。

【０３６１】

下皿２０２は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿２０２は、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが、右端付近の前端付近に配置されている。この下皿２０２は、底面が下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、皿ユニット２００に組立てた状態で、下皿球供給口２１１ｃの前方に対して左寄りで演出操作ユニット３００の下方に位置している。

【０３６２】
下皿２０２は、下皿球抜孔２０２ａを閉鎖している状態で、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを貯留することができると共に、下皿球抜孔２０２ａを開放することで貯留されている遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方（例えば、ドル箱）へ排出させることができる。また、下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａが開放されている状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に配置されていることから、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、最短距離の移動で速やかに下皿球抜孔２０２ａから下方へ排出させることができる。
【０３６３】
［３－５ｃ．皿ベースユニット］
皿ユニット２００における皿ベースユニット２１０について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。皿ベースユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられ左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、皿ユニットベース２１１の後面で右下隅付近に取付けられている皿ユニット中継基板２１４と、を備えている。
【０３６４】
また、皿ベースユニット２１０は、皿ユニットベース２１１の前面の上部に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、球貸操作ユニット２２０の下方で皿ユニットベース２１１の前面に取付けられている上皿球抜前ユニット（図示は省略）と、上皿球抜前ユニットの後方で皿ユニットベース２１１の後側に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。
【０３６５】
［３－５ｃ－１．皿ユニットベース］
皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１について、主に図４８及び図４９を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース２１１は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの下方に取付けられ、扉枠ベース１０１の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。
【０３６６】
皿ユニットベース２１１は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口２１１ａと、上皿球供給口２１１ａの下方で前後に貫通しており前側にパンチングメタルが取付けられているスピーカ口２１１ｂと、正面視左右中央に対して左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口２１１ｃと、下皿球供給口２１１ｃの後方へ筒状に延びている部位の右側壁において遊技球Ｂが通過可能な大きさに切欠かれている切欠部２１１ｄと、下皿球供給口２１１ｃの正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体２１２の右端に位置する上皿球送給口（図示は省略）と、を備えている。
【０３６７】
皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａは、扉枠３に組立てた状態で、前端が上皿２０１の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇを前側から貫通してファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａの前端と接続している。これにより、払出ユニット５６０の払出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、上皿球供給口２１１ａを通って上皿２０１内に供給（払出）される。
【０３６８】
下皿球供給口２１１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、前端が下皿２０２の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の下皿用球通過口１０１ｆを前側から貫通してファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄの前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内を流通する遊技球Ｂが、下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内に供給される。また、下皿球供給口２１１ｃの筒状に延びている部位に形成されている切欠部２１１ｄには、上皿球抜後ユニット２４０の後ベース２４１

における球抜誘導路２４１ｃの下流端が接続されている。これにより、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂが、上皿球抜ボタン２２２の操作により、上皿球送給口、球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂ、上皿球抜後ユニット２４０の球送給誘導路及び球抜誘導路２４１ｃ、及び切欠部２１１ｄを介して、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内に排出される。

【０３６９】

上皿球送給口は、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球受口（図示は省略）の前方に位置しており、上皿２０１内の遊技球Ｂが、上皿球抜後ユニット２４０の球受口から球送給誘導路へ供給される。

【０３７０】

［３－５ｃ－２．上皿本体］

皿ベースユニット２１０の上皿本体２１２について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。上皿本体２１２は、皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニットベース２１１と協働して上皿２０１を形成するものである。上皿本体２１２は、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。上皿本体２１２は、左右に延びており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出している。上皿本体２１２は、最も前方へ膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅に形成されている。上皿本体２１２の底面は、右端が最も低くなるように傾斜している。上皿本体２１２は、右端付近の上方が閉鎖されている。

【０３７１】

上皿本体２１２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、右端付近の上方が閉鎖されている部位が、球貸操作ユニット２２０の下方に潜り込むように取付けられている。また、上皿本体２１２は、上部における左右方向の中間部に、演出操作ユニット取付部２１２ａが形成されており、この演出操作ユニット取付部２１２ａに演出操作ユニット３００の一部が取付けられる。

【０３７２】

［３－５ｃ－３．皿ユニット中継基板］

皿ベースユニット２１０の皿ユニット中継基板２１４は、扉枠ベースユニット１００における扉枠副中継基板１０５（図７２を参照）と、皿左装飾基板、皿右装飾基板、及び回転体装飾基板４１６等との接続を中継するためのものである。皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１の後面における右下隅付近に取付けられる。この皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１に取付けた状態では、後面が皿ユニットベース２１１の後側に臨んでいる。

【０３７３】

［３－５ｃ－４．球貸操作ユニット］

皿ベースユニット２１０の球貸操作ユニット２２０について、主に図４８及び図４９を参照して説明する。この球貸操作ユニット２２０は、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出したり、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、所定数の遊技球Ｂを皿ユニット２００の上皿２０１内へ貸出したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードの残量を表示したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却したり、音量を調節したり、光量を調節したり、するためのものである。

【０３７４】

球貸操作ユニット２２０は、上皿球抜ボタン２２２と、球貸ボタン２２４と、返却ボタン２２５と、球貸表示部２２６と、十字状に配置された四つのボタンからなる調節ボタン２２９と、を備えている。

【０３７５】

上皿球抜ボタン２２２は、円柱状に上方へ突出しており、遊技者が押圧操作することで下方へ移動することができる。球貸ボタン２２４は、円形状に形成されており、上面に「

玉」の文字が施されている。返却ボタン２２５は、三角形状に形成されている。球貸表示部２２６は、三つの７セグメントＬＥＤと一つの砲弾型ＬＥＤにより構成されており、発光している状態で遊技者側から良好に視認することができる。

【０３７６】

球貸操作ユニット２２０は、上皿球抜ボタン２２２を押圧操作することで、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿へ排出することができる。また、球貸機に現金や残金のあるプリペイドカードを投入した上で、球貸ボタン２２４を押圧操作すると、所定数の遊技球Ｂが上皿２０１に供給される。返却ボタン２２５を押圧操作すると、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードに対して、貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却する。球貸表示部２２６には、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードの残量が表示される。また、球貸表示部２２６には、球貸機が故障した時にエラーコードが表示される。

【０３７７】

調節ボタン２２９は、扉枠３のトップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカと、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から出力される音楽、音声、効果音、等の演出用のサウンドの音量を調節したり、扉枠３や遊技盤５に設けられている各種の装飾基板のＬＥＤの光量（輝度）や演出表示装置１６００の表示画面の明るさ等を調節したり、するためのものである。

【０３７８】

ところで、演出操作部３０１の押圧操作部３０３等を用いて音量や光量を調節するようにした場合、演出操作部３０１の操作を必要とする遊技者参加型演出が実行されていない時に、演出操作部３０１を適宜操作して音量や光量等を調節するための設定用のメニューを演出表示装置１６００に表示させて調節する項目を選択した上で、押圧操作部３０３やレバー操作部３０４を操作して音量の大きさや光量の明るさ等を変更することとなり、音量や光量を調節するのに手間（時間）がかかることとなる。これに対して、本実施形態によれば、調節ボタン２２９を操作することで、音量や光量を直接（ダイレクト）に調節することができ、音量や光量の調節にかかる手間を簡略化して短時間で調節することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【０３７９】

［３－５ｃ－５．上皿球抜後ユニット］

皿ベースユニット２１０における上皿球抜前ユニット及び上皿球抜後ユニット２４０について、主に図４９を参照して詳細に説明する。上皿球抜後ユニット２４０は、球貸操作ユニット２２０の上皿球抜ボタン２２２が押圧操作された時に、球送給ユニット１４０と協働して、上皿２０１内に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出させるためのものである。

【０３８０】

上皿球抜後ユニット２４０は、上皿球送給口を後方から閉鎖するように皿ユニットベース２１１の後面に取付けられる後ベース２４１と、後ベース２４１の前面に上下方向へスライド可能に取付けられている上皿球抜スライダ２４２と、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢しているバネ（図示は省略）と、後ベース２４１の後側に取付けられている後カバー２４４と、を備えている。

【０３８１】

後ベース２４１は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付ける部位から上方へ突出していると共に前方へ向かって開口しており遊技球Ｂが通過可能な球受口（図示は省略）と、球受口に受入れられた遊技球Ｂを後ベース２４１の後面において下方へ誘導した後に後方へ誘導する球送給誘導路と、後ベース２４１の後面において球送給誘導路よりも下側の位置から遊技球Ｂを下方へ誘導した後に背面視右方へ誘導する球抜誘導路２４１ｃと、を備えている。

【０３８２】

球受口は、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿２０１の誘導通路部２０１

ａ下流端（正面視右端）において、皿ユニットベース２１１の上皿球送給口を通して前方へ向かって開口する位置に形成されている。球送給誘導路は、扉枠３に組立てた状態で、下部の後方に球送給ユニット１４０の進入口１４１ａが位置するように形成されている。これにより、上皿２０１に供給された遊技球Ｂが、球受口及び球送給誘導路を通って球送給ユニット１４０の進入口１４１ａに進入するようになっている。

【０３８３】

球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付けている部位よりも背面視右方へ突出していると共に、背面視右端側が低くなるように傾斜しており、背面視右側面に開口している。球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、後側が後カバー２４４によって閉鎖される。球抜誘導路２４１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、球送給誘導路の下方で上下に延びている部位の上部が、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂの前方に位置すると共に、左右に延びている部位の背面視右端が皿ユニットベース２１１における下皿球供給口２１１ｃの切欠部２１１ｄに接続されるように形成されている。これにより、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂから排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃ及び切欠部２１１ｄを介して下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出される。

【０３８４】

上皿球抜スライダ２４２は、正面視の形状が四角形に形成されており、左上隅から前方へ突出している作動受部（図示は省略）と、作動受部の後側となる後面から後方へ突出している作動伝達部２４２ｂと、を備えている。作動受部は、上面が平坦に形成されている。また、作動伝達部２４２ｂは、上面が後方へ向かうに従って下方へ位置するように傾斜しており、上面の後端と繋がるように下面が水平に延びている。

【０３８５】

上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動受部が、皿ユニットベース２１１を後側から貫通して前方へ突出していると共に、作動受部の上面に上皿球抜ボタン２２２の下端が当接している。また、上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動伝達部２４２ｂが、後ベース２４１の後方に突出していると共に、上面に球送給ユニット１４０の球抜部材１４３における作動棹１４３ｃが当接している。

【０３８６】

バネは、上端が後ベース２４１に取付けられていると共に、下端が上皿球抜スライダ２４２に取付けられており、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢している。従って、上皿球抜スライダ２４２は、バネの付勢力により上方への移動端に位置しており、バネの付勢力に抗することで下方へ移動することができる。

【０３８７】

上皿球抜後ユニット２４０は、バネの付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていると共に、上皿球抜スライダ２４２の作動受部を介して上皿球抜ボタン２２２を上方への移動端に位置させている。また、バネの付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていることから、作動伝達部２４２ｂの上面に当接している作動棹１４３ｃの下方への移動を阻止しており、球抜部材１４３の仕切部１４３ａを進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置させて、両者の間を仕切っている。

【０３８８】

従って、上皿球抜ボタン２２２を押圧していない状態では、球送給ユニット１４０において進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間が仕切られており、上皿２０１から球受口へ送られた遊技球Ｂを、進入口１４１ａ及び球送給部材１４４を介して打球供給口１４２ａから球発射装置５４０側へ送ることができる。

【０３８９】

一方、上皿球抜ボタン２２２を、バネの付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜スライダ２４２が下方へ移動し、上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上面に当接している球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが下方へ移動できるようになり、球抜部材１

４３の錘部１４３ｄの荷重により球抜部材１４３が回動して仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から後退する。これにより、上皿２０１から球受口及び球送給誘導路を通って進入口１４１ａに進入した遊技球Ｂが、進入口１４１ａの下方に開口している球抜口１４１ｂから前方へ排出されることとなる。そして、球抜口１４１ｂから前方へ排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃを通って切欠部２１１ｄから下皿球供給口２１１ｃ内へ誘導された後に、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出され、上皿２０１内の遊技球Ｂが下皿２０２内へ排出されることとなる。

【０３９０】

上皿球抜ボタン２２２の下方への押圧を解除すると、バネの付勢力により上皿球抜スライダ２４２が上方へ移動し、上皿球抜ボタン２２２が上昇すると共に、作動伝達部２４２ｂと当接している作動棹１４３ｃにより球抜部材１４３が回動して進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に仕切部１４３ａが位置して元の状態に復帰することとなる。

【０３９１】

このように、上皿球抜後ユニット２４０によって、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０側へ送給したり、下皿２０２側へ排出したりすることができる。

【０３９２】

［３－５ｄ．皿装飾ユニット］

皿ユニット２００における皿装飾ユニット２５０について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。皿装飾ユニット２５０は、下皿２０２を有しており皿ベースユニット２１０の前面に取付けられると共に、左右方向中央に前方から演出操作ユニット３００が取付けられるものである。皿装飾ユニット２５０は、皿ユニット２００の略全体を装飾している。

【０３９３】

皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられ皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成する下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と、を備えている。

【０３９４】

［３－５ｄ－１．下皿本体］

皿装飾ユニット２５０における下皿本体２５１について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。下皿本体２５１は、皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成するものである。下皿本体２５１は、左右に延びていると共に、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。この下皿本体２５１は、皿ユニットベース２１１の前面下部における左右方向中央より左側の部位に、開放されている後方が閉鎖されるように取付けられる。

【０３９５】

下皿本体２５１は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿本体２５１には、平面視において、右端の前端付近において、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが形成されている。下皿本体２５１は、底面が、下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜蓋によって開閉可能に閉鎖される。

【０３９６】

下皿本体２５１は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、外周と下面の一部とが皿ユニット本体２５２に覆われた状態となる。また、下皿本体は、皿ユニット２００に組立てた状態で、底面が皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃよりも下方に位置していると共に、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に位置している。これ

により、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、貯留することができる。
【０３９７】
［３－５ｄ－２．皿ユニット本体］
皿装飾ユニット２５０における皿ユニット本体２５２について、主に図４８及び図４９等を参照して詳細に説明する。皿ユニット本体２５２は、皿ベースユニット２１０における皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニット２００の前面を装飾するものである。皿ユニット本体２５２は、上部側では左右方向の中央が前方へ突出するように膨出しており、下部側では左右方向の左側が前方へ突出するように膨出している。また、皿ユニット本体２５２は、上面が、左右方向の中央が最も低くなるように湾曲している。皿ユニット本体２５２は、後方へ開放された箱状に形成されている。
【０３９８】
皿ユニット本体２５２は、上部において左右両端から左右方向中央へ向かうに従って前方へ膨出していると共に下方へ延びており左右に離間している上部サイド膨出部２５２ａと、下部において左右方向中央より左側が下皿本体２５１の外周を被覆するように前方へ膨出している下部前面装飾部と、左側の上部サイド膨出部２５２ａと下部前面装飾部との間で前後に貫通している下皿開口部２５２ｄと、を備えている。左右の上部サイド膨出部２５２ａは、夫々の前面に皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５が取付けられる。
【０３９９】
更に、図示は省略するが、皿ユニット本体２５２は、左右方向中央となる一対の上部サイド膨出部２５２ａの間に形成されており演出操作ユニット３００が取付けられる演出操作ユニット取付部を備えている。演出操作ユニット取付部は、皿ユニット本体２５２の左右方向の幅の約１／３の幅に形成されている。
【０４００】
皿ユニット本体２５２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、皿ベースユニット２１０の前面を全体的に覆うように形成されており、下皿開口部２５２ｄを通してスピーカ口２１１ｂが前方へ臨んだ状態となる。
【０４０１】
［３－５ｄ－３．下皿球抜ユニット］
皿装飾ユニット２５０における下皿球抜ユニット２６０について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。下皿球抜ユニット２６０は、下皿本体２５１の下面に取付けられ、下皿球抜孔２０２ａを開閉させることで、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させたり、下皿２０２から遊技球Ｂを排出させたりするためのものである。
【０４０２】
下皿球抜ユニット２６０は、下皿球抜ボタン２６３と、下皿球抜ボタン２６３の操作により貫通孔を開閉する下皿球抜蓋と、を備えている。
【０４０３】
下皿球抜ユニット２６０は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、下皿球抜ボタン２６３が、皿ユニット本体２５２における下部前面装飾部の前面と一致していると共に、下皿球抜蓋が下皿球抜孔２０２ａを閉鎖している。この通常の状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球抜蓋によって閉鎖されており、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させることができる。
【０４０４】
通常の状態において、下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧すると、下皿球抜蓋が移動して、下皿球抜孔２０２ａが開いた状態となり、下皿球抜孔２０２ａを通して下皿２０２内の遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方へ排出させることができる。
【０４０５】
なお、下皿球抜ボタン２６３の押圧により下皿球抜蓋を移動させると、下皿球抜蓋が移動したままの状態となり、下皿球抜孔２０２ａが開放されたままの状態で維持され、下皿２０２内の遊技球Ｂを連続して下方へ排出させることができる。

【０４０６】
この状態から下皿球抜孔２０２ａを閉鎖するには、下部前面装飾部の前面よりも後退している下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧した後に押圧を放すと、下皿球抜蓋が通常の状態の位置に復帰し、下皿球抜孔２０２ａが閉鎖された状態となる。これにより、下皿２０２内に遊技球Ｂを貯留させることができる。
【０４０７】
［３－５ｄ－４．皿左装飾ユニット及び皿右装飾ユニット］
皿装飾ユニット２５０における皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５について、主に図４８等を参照して詳細に説明する。皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、皿ユニット本体２５２の上部サイド膨出部２５２ａにおける前面の上部に取付けられる。皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、皿ユニット２００の上部で演出操作ユニット３００の左右両側を装飾するものである。
【０４０８】
皿左装飾ユニット２７０は、半円筒状で左右に延びており透光性を有している皿左装飾体２７１と、皿左装飾体２７１の後側に設けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている皿左装飾基板と、を備えている。皿左装飾基板に実装されている複数のＬＥＤは、フルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿左装飾体２７１を発光装飾させることができる。
【０４０９】
皿左装飾体２７１は、左端から右端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、左側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿左装飾体２７１は、前方へ膨出した半円弧が、左端では中心軸が斜め左上に延びていると共に、右端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿左装飾体２７１は、乳白色に形成されている。
【０４１０】
皿左装飾ユニット２７０は、扉枠３に組立てた状態で、左端が扉枠左サイドユニット４２０の下端と連続している。皿左装飾ユニット２７０は、皿左装飾体２７１において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿左装飾基板の複数のＬＥＤを発光させると、皿左装飾体２７１の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。
【０４１１】
皿右装飾ユニット２７５は、半円筒状で左右に延びており透光性を有している皿右装飾体２７６と、皿右装飾体２７６の後側に設けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている皿右装飾基板と、を備えている。皿右装飾基板に実装されている複数のＬＥＤは、フルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿右装飾体２７６を発光装飾させることができる。
【０４１２】
皿右装飾体２７６は、右端から左端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、右側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿右装飾体２７６は、前方へ膨出した半円弧が、右端では中心軸が斜め右上に延びていると共に、左端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿右装飾体２７６は、乳白色に形成されている。
【０４１３】
皿右装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、右端が扉枠右サイドユニット４３０の下端と連続している。皿右装飾ユニット２７５は、皿右装飾体２７６において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿右装飾基板の複数のＬＥＤを発光させると、皿右装飾体２７６の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。
【０４１４】
皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、皿

装飾ユニット２５０の皿ユニット本体２５２における上部サイド膨出部２５２ａの前端よりも一部が上方へ突出しており、上部サイド膨出部２５２ａとの間で皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５側が高くなった段差を形成することができる。これにより、皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差を利用して、遊技者が指を引掛けることができ、上皿２０１内の遊技球Ｂを均したり、後述する演出操作部３０１を操作したり、する際の指掛りとすることができる。また、皿左装飾ユニット２７０及び皿右装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差により、上部サイド膨出部２５２ａ上の遊技球Ｂが、前方へ流出することを防止することができる。

【０４１５】

［３－５ｅ．演出操作ユニット］

続いて、扉枠３における演出操作ユニット３００について、主に図５５～図５９等を参照して詳細に説明する。図５５（ａ）は扉枠において透明部分を不透明にすると共にレバー操作部を突出させていない状態で演出操作ユニットを示す斜視図であり、（ｂ）は（ａ）においてレバー操作部を突出させた状態で演出操作ユニットを示す斜視図である。図５６（ａ）はレバー操作部を突出させていない状態の演出操作ユニットを進退機構と共に右側面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）においてレバー操作部を突出させた状態で示す説明図である。図５７（ａ）は透明部分を透明にした状態で演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の演出操作ユニットの右側面図である。図５８は、図５５の演出操作ユニットにおけるユニット補強フレームを前から見た斜視図である。図５９は、レバー操作部における回転体の回転機構を示す説明図である。

【０４１６】

本実施形態の演出操作ユニット３００は、皿ユニット２００における左右方向中央に備えられており、皿ユニット２００を装飾していると共に、遊技者参加型演出が実行された際に遊技者が操作して演出に参加することができるものである。演出操作ユニット３００は、皿ベースユニット２１０に取付けられている（図４８等を参照）。

【０４１７】

演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作部３０１は、遊技者が押圧操作可能な押圧操作部３０３と、遊技者が前後方向へのレバー操作が可能なレバー操作部３０４と、から構成され、遊技者の操作を受付けたり、演出操作部３０１を可動（振動）させたりすることができ、遊技者に対して遊技球Ｂの打込操作だけでなく、遊技中の演出にも参加することができるようにするものである。演出操作部３０１の押圧操作部３０３は、扉枠３の左右方向中央よりも左側の上面に設けられている。また、レバー操作部３０４は、扉枠３の左右方向中央に設けられている。

【０４１８】

演出操作ユニット３００は、皿ベースユニット２１０に取付けられるベースユニット４００と、ベースユニット４００に対して左右方向に延びた軸周りに回動可能に取付けられているレバー操作部ユニット４１０と、を備えている。押圧操作部３０３は、ベースユニット４００の上面に設けられている。

【０４１９】

ベースユニット４００は、レバー操作部ユニット４１０の後部を収容可能な操作部収容凹部４０１ａを有するユニット本体４０１と、レバー操作部ユニット４１０を前後方向へ回動させることで進退させる進退機構４０２と、レバー操作部ユニット４１０を支持するためのユニット補強フレーム４０３と、を備えている。また、ベースユニット４００は、レバー操作部ユニット４１０を前方へ突出する方向へ付勢しているバネ（図示は省略）を有している。

【０４２０】

ユニット本体４０１は、上皿２０１の前端に設けられている皿左装飾体２７１及び皿右装飾体２７６と連続するように前方へ膨出している上膨出部４０１ｂと、上膨出部４０１ｂの下面から前方且つ下方へ円弧状に延出しており下端が下皿２０２よりも前方へ突出し

ている下膨出部４０１ｃと、を有している。上膨出部４０１ｂにおける操作部収容凹部４０１ａよりも左側の上面に、押圧操作部３０３が設けられている。このユニット本体４０１は、上膨出部４０１ｂが不透明に形成されているのに対して、下膨出部４０１ｃが透明に形成されている。透明な下膨出部４０１ｃを通して内部のユニット補強フレーム４０３や後述する回転体４１２等を視認することができる（図５７を参照）。

【０４２１】

進退機構４０２は、図５６に示すように、ユニット本体４０１における操作部収容凹部４０１ａより右側に設けられている。進退機構４０２は、ユニット本体４０１に取付けられている進退駆動モータ４０２ａと、進退駆動モータ４０２ａの回転軸に取付けられている駆動ギア４０２ｂと、駆動ギア４０２ｂと噛合している大径伝達ギア４０２ｃと、大径伝達ギア４０２ｃと一体回転し大径伝達ギア４０２ｃよりも小径の小径伝達ギア４０２ｄと、を備えている。進退機構４０２の小径伝達ギア４０２ｄは、レバー操作部ユニット４１０の右側面に設けられている円弧状の進退ラックギア４１１ｂと噛合している。

【０４２２】

進退機構４０２は、進退駆動モータ４０２ａにより駆動ギア４０２ｂを適宜方向へ回転させることで、進退ラックギア４１１ｂを介してレバー操作部ユニット４１０を進退（回動軸４０３ｅ周りに回動）させることができる。

【０４２３】

ユニット補強フレーム４０３は、図５８に示すように、平板状の左補強プレート４０３ａと、平板状の右補強プレート４０３ｂと、左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂの後端同士を連結している平板状の後補強プレート４０３ｃと、左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂの上部同士を連結している平板状の上補強プレート４０３ｄと、左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂの下部の前端同士を連結している円柱状の回動軸４０３ｅと、左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂの下部の前後方向中間部同士を連結している円柱状の連結シャフト４０３ｆと、を備えている。

【０４２４】

ユニット補強フレーム４０３の左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂは、前端縁が、上方へ向かうに従って後方へ移動するような円弧状に形成されている。左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂには、左右に貫通している複数の装飾開口部４０３ｇが設けられている。これら装飾開口部４０３ｇは、後述する回転体４１２と沿うような形状に形成されている。これら装飾開口部４０３ｇを通して回転体４１２を視認することができる（図５７を参照）。

【０４２５】

後補強プレート４０３ｃは、左補強プレート４０３ａと一体であり、その後部が右方へ屈曲されることにより形成されている。回動軸４０３ｅは、レバー操作部ユニット４１０の前端下部を、左右方向の軸芯周りに対して回動可能に支持するものである。

【０４２６】

レバー操作部ユニット４１０は、透明なユニットカバー４１１と、ユニットカバー４１１内に設けられている円環状の回転体４１２と、ユニットカバー４１１内に設けられており回転体４１２を回転させるための回転機構４１３と、ユニットカバー４１１内における下端後部に設けられている振動機構４１４と、を備えている。

【０４２７】

レバー操作部ユニット４１０のユニットカバー４１１は、後部がベースユニット４００におけるユニット本体４０１の操作部収容凹部４０１ａ内に収容されるように形成されている。ユニットカバー４１１は、左右方向に延びた軸芯を中心とした円弧状で透明な筒状部４１１ａを有している。この筒状部４１１ａは、遊技者が掴む（握る）ことが可能な太さに形成されており、演出操作部３０１のレバー操作部３０４を構成している。この筒状部４１１ａの内部には、回転体４１２の一部が挿通されている。

【０４２８】

また、ユニットカバー４１１は、右側面に進退ラックギア４１１ｂが設けられている。進退ラックギア４１１ｂは、回動軸４０３ｅを中心とした円弧状に形成されている。更に、ユニットカバー４１１は、左側面や右側面に、組み立てるための取付ビスが取付けられる取付部４１１ｃが複数設けられている。

【０４２９】

ところで、レバー操作部ユニット４１０のユニットカバー４１１の側面に設けられている取付部４１１ｃは、レバー操作部ユニット４１０が後方へ後退している後退位置、前方へ突出している突出位置、の何れにも関わらず、側面視ではユニット本体４０１と重なるように設けられており、当該取付部４１１ｃに対してドライバーのような工具をアプローチさせることはできない（図５６を参照）。一方、レバー操作部ユニット４１０を突出位置の状態にすると、ユニットカバー４１１の側面とベースユニット４００におけるユニット本体４０１の操作部収容凹部４０１ａの内面との間の隙間を通して、当該取付部４１１ｃを視認することができる。これにより、取付部４１１ｃにおける取付ネジの有無や、取付ネジの緩み、等を確認することができる。

【０４３０】

レバー操作部ユニット４１０の回転体４１２は、ユニットカバー４１１内に設けられていると共に、一部が筒状部４１１ａ内を通るように設けられており、ドーナツ状に形成されている。この回転体４１２は、表面に、金属光沢を有するメッキ部と、透光性を有する光透過部と、が設けられている。回転体４１２は、ユニットカバー４１１内に設けられている円環状のリングベース４１５（図３３を参照）の外周縁に沿ってスライドするように設けられており、外周縁をスライドすることにより左右方向の軸芯周りに対して回転するように設けられている。図５９等に示すように、回転体４１２は、内周面に歯車の歯先きを中心へ向けた環状のリングギア４１２ａを有している。このリングギア４１２ａを介して回転機構４１３によって回転させられる。

【０４３１】

ところで、詳細な図示を省略するが、回転体４１２を回転可能に支持しているリングベース４１５（図３３を参照）は、ユニットカバー４１１内において、回転体４１２の左右両外側に設けられている左支持板金と右支持板金とにより支持ステーを介して取付けられている。左支持板金及び右支持板金は、ベースユニット４００におけるユニット補強フレーム４０３の左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂと似たような形状に形成されている。そして、左支持板金及び右支持板金には、左右方向へ貫通している複数の開口部が設けられており、それら開口部を通して側面側から回転体４１２を視認することができる。また、リングベース４１５には、回転体４１２を発光装飾させるための複数のＬＥＤ４１６ａが実装された回転体装飾基板４１６（図３３を参照）が取付けられている。

【０４３２】

レバー操作部ユニット４１０の回転機構４１３は、図５９に示すように、ユニットカバー４１１内に設けられており、回転軸を左右方向へ向けた回転駆動モータ４１３ａと、回転駆動モータ４１３ａの回転軸に取付けられている駆動ギア４１３ｂと、駆動ギア４１３ｂと噛合している第一伝達ギア４１３ｃと、第一伝達ギア４１３ｃと一体回転すると共に第一伝達ギア４１３ｃの歯数の半分の歯数を有する第二伝達ギア４１３ｄと、第二伝達ギア４１３ｄと噛合していると共に回転体４１２のリングギア４１２ａと噛合している第三伝達ギア４１３ｅと、を備えている。第一伝達ギア４１３ｃと第二伝達ギア４１３ｄは、同じ直径である。この回転機構４１３の回転駆動モータ４１３ａにより駆動ギア４１３ｂを回転させることで、回転体４１２を回転させることができる。

【０４３３】

レバー操作部ユニット４１０の振動機構４１４は、図５９に示すように、ユニットカバー４１１に設けられており、回転軸を左右方向へ向けた振動モータ４１４ａと、振動モータ４１４ａの回転軸に取付けられている駆動ギア４１４ｂと、駆動ギア４１４ｂと噛合している従動ギア４１４ｃと、従動ギア４１４ｃと一体回転し回転中心に対して重心が偏芯している分銅４１４ｄと、を備えている。振動機構４１４は、振動モータ４１４ａにより

分銅４１４ｄを回転させることで、振動を発生させることができる。
【０４３４】
本実施形態の演出操作ユニット３００は、レバー操作部ユニット４１０の重心が、回動軸４０３ｅよりも後方に位置しており、通常の状態では、図示しないバネの付勢力に抗して後方へ後退した後退位置の状態となっている。レバー操作部ユニット４１０を進退させる進退機構４０２は、駆動ギア４０２ｂ、大径伝達ギア４０２ｃ、小径伝達ギア４０２ｄが平歯車によって形成されているため、レバー操作部ユニット４１０（レバー操作部３０４）を前方へ引っ張ると、突出位置へ移動させることが可能である。なお、レバー操作部ユニット４１０は、電源が投入されていない状態（或いは、進退駆動モータ４０２ａが駆動されていない状態）で、レバー操作部３０４を前方の突出位置へ引っ張って放すと、自身の自重により後退位置へ戻るようになっている。
【０４３５】
この演出操作ユニット３００では、遊技者参加型演出の実行いかんに関わらず、上面に設けられている押圧操作部３０３を何時でも押圧することができると共に、レバー操作部３０４を進退させることができる。
【０４３６】
演出操作ユニット３００は、ユニット本体４０１の透明部分や透明なユニットカバー４１１を通して、円環状の回転体４１２を外部から視認することができる。また、ユニット補強フレーム４０３の左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂにそれぞれ設けられている複数の装飾開口部４０３ｇを通しても、外部から回転体４１２を視認することができる。この際に、装飾開口部４０３ｇの開口形状が、意匠性を有するような形状に形成されているため、左補強プレート４０３ａ及び右補強プレート４０３ｂが見えても見栄えが悪くなることはない。
【０４３７】
そして、演出操作ユニット３００では、回転機構４１３の回転駆動モータ４１３ａの駆動により回転体４１２を任意の方向へ回転させることができ、回転体４１２の回転による可動演出を楽しませることができる。また、演出操作ユニット３００では、回転体装飾基板４１６に設けられている複数のＬＥＤ４１６ａを発光させることで、回転していても回転体４１２を発光装飾させることができ、回転体４１２の発光演出を楽しませることができる。
【０４３８】
また、演出操作ユニット３００では、遊技者参加型演出の実行に応じて、進退機構４０２の進退駆動モータ４０２ａの駆動によりレバー操作部ユニット４１０（レバー操作部３０４）が前方の突出位置へ移動する。このレバー操作部３０４による演出としては、例えば、遊技者に対してレバー操作部３０４を握るように促し、遊技者がレバー操作部３０４を押したり引いたりした時に、進退駆動モータ４０２ａにより遊技者の操作とは逆方向へ移動するように駆動することでレバー操作部３０４の操作に負荷（操作抵抗）を付与するようにする。これにより、レバー操作部３０４の操作に対して操作感が付与されることとなり、レバー操作部３０４による演出を楽しませることができる。この際に、レバー操作部３０４の操作抵抗を強くしたり、弱くしたりすることにより、遊技（例えば、「大当り」遊技のような遊技者が有利となる有利遊技状態の発生）に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。
【０４３９】
また、レバー操作部３０４を操作する際に、振動機構４１４の振動モータ４１４ａを駆動させることでもレバー操作部３０４に対する操作感を付与することができ、遊技者を楽しませることができる。この際に、振動モータ４１４ａにより強い振動を与えたり、弱い振動を与えたり、所定のリズムを有した振動を与えたりすることにより、遊技に対する期待度を遊技者に示唆させるようにしても良い。
【０４４０】
また、演出操作ユニット３００では、遊技者参加型演出が実行に応じて、押圧操作部３

０３を押すように促し、押圧操作部３０３の押圧操作により演出を変化させることにより、押圧操作部３０３による演出を楽しませることができる。

【０４４１】

［３－６．扉枠左サイドユニット］

扉枠３における扉枠左サイドユニット４２０について、主に図２９、図３０、及び図６０等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイドユニット４２０は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの左外側を装飾するものである。

【０４４２】

扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの左外側に取付けられる扉枠左サイドベース４２１と、扉枠左サイドベース４２１の前面の上部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に配設された複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド上装飾基板４２２と、扉枠左サイドベース４２１の前面の下部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に配設された複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド下装飾基板と、扉枠左サイド上装飾基板４２２の前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている左サイド上リフレクタ４２４と、扉枠左サイド下装飾基板の前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている左サイド下リフレクタと、左サイド上リフレクタ４２４及び左サイド下リフレクタの前側を覆うように扉枠左サイドベース４２１に取付けられている扉枠左サイド装飾体４２６と、を備えている。

【０４４３】

また、扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠左サイド上装飾基板４２２のＬＥＤからの光を前方へ導光する左サイド上導光部材と、扉枠左サイド下装飾基板における上下方向の中央よりも上側のＬＥＤからの光を前方へ導光する左サイド中導光部材と、扉枠左サイド下装飾基板における上下方向の中央よりも下側のＬＥＤからの光を前方へ導光する左サイド下導光部材と、を備えている。

【０４４４】

扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の部位の色が、ハンドルカバー２９５における円形や放射状の模様の部位の色と同じ色に形成されていると共に、扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の外側の部位の色が、ハンドルカバー２９５における円形や放射状の模様の外側の部位の色と同じ色に形成されている。

【０４４５】

扉枠左サイドユニット４２０は、上下方向の中央より上側の部位が、下側の部位よりも前方へやや突出していると共に下端付近が右側に緩く湾曲している。この扉枠左サイドユニット４２０は、上端が扉窓１０１ａよりも上方で扉枠上ヒンジ組立体１２０の下側に位置し、下端が扉窓１０１ａよりも下方で皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１におけるスピーカ口２１１ｂの上側に位置している。また、扉枠左サイドユニット４２０は、上部が扉枠トップユニット４５０の左外側に位置している。扉枠左サイドユニット４２０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの左外側を装飾しており、円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見せている。

【０４４６】

本実施形態の扉枠左サイドユニット４２０によれば、扉枠左サイド装飾体４２６の前面よりも後方へある程度離れた位置に、扉枠左サイド上装飾基板４２２及び扉枠左サイド下装飾基板を設けているため、それらに実装されているＬＥＤからの光が十分に広がった状態で、扉枠左サイド装飾体４２６の裏側に照射されることとなるため、扉枠左サイド装飾体４２６を均一に発光装飾させることができる。

【０４４７】

［３－７．扉枠右サイドユニット］

次に、扉枠３における扉枠右サイドユニット４３０について、主に図２６乃至図３２、

及び図６０等を参照して詳細に説明する。扉枠右サイドユニット４３０は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの右外側を装飾するものである。

【０４４８】

扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの右外側に取付けられる扉枠右サイドベース４３１と、扉枠右サイドベース４３１の前面の上部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に配設された複数のＬＥＤが実装されている扉枠右サイド上装飾基板と、扉枠右サイドベース４３１の前面の下部に取付けられており前面に一定の間隔をあけて上下に配設された複数のＬＥＤが実装されている扉枠右サイド下装飾基板と、扉枠右サイド上装飾基板及び扉枠右サイド下装飾基板の前側を覆うように扉枠右サイドベース４３１に取付けられている右サイドリフレクタと、右サイドリフレクタの前側を覆うように扉枠右サイドベース４３１に取付けられている扉枠右サイド装飾体４３５と、を備えている。

【０４４９】

また、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド上装飾基板のＬＥＤからの光を前方へ導光する右サイド上導光部材と、扉枠右サイド下装飾基板のＬＥＤからの光を前方へ導光する右サイド下導光部材と、を備えている。

【０４５０】

更に、扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイドベース４３１の左側面を覆うように取付けられている扉枠右サイド左側面装飾体と、扉枠右サイド左側面装飾体と扉枠右サイドベース４３１との間に設けられており、透光性を有する右サイド左レンズ４３９と、扉枠右サイドベース４３１の右側面を覆うように覆い取付けられている扉枠右サイド右側面装飾体４４０と、扉枠右サイド右側面装飾体４４０と扉枠右サイドベース４３１との間に設けられており、透光性を有する右サイド右レンズ４４１と、を備えている。

【０４５１】

この扉枠右サイドユニット４３０では、扉枠右サイドベース４３１のリフレクタ部４３１ａが、左右両側面において前方及び左右方向外方へ開放されるように凹んだ形状に形成されている。また、右サイド左レンズ４３９及び右サイド右レンズ４４１の外側面は、突出した部位を有しない平坦に形成されている。更に、扉枠右サイド右側面装飾体４４０は、扉枠右サイドユニット４３０における下端から所定の高さまでの下部付近にのみ設けられている。

【０４５２】

更に、扉枠右サイドユニット４３０は、右サイド左レンズ４３９の左外側において着脱可能に設けられている右サイド左パネル４４２と、右サイド右レンズ４４１の右外側において着脱可能に設けられている右サイド右パネル４４３と、を有している。

【０４５３】

右サイド左パネル４４２は、透明な部材により形成されており、右側面に意匠面を左方へ向けた装飾シールが貼り付けられている。右サイド右パネル４４３は、透明な部材により形成されており、左側面に意匠面を右方へ向けた装飾シールが貼り付けられている。

【０４５４】

右サイド左パネル４４２は、後端がガラスユニット１６０の前面に当接している。この右サイド左パネル４４２は、ガラスユニット１６０を取り外した状態で後方へスライドさせることで扉枠右サイドユニット４３０から取り外すことができる。また、右サイド右パネル４４３は、扉枠ベースユニット１００の背面視左上隅に設けられているロックレバー４４４を操作することで、右方へ取り外すことができる。

【０４５５】

扉枠右サイドユニット４３０は、右サイド左パネル４４２及び右サイド右パネル４４３を取り外すことができるため、パチンコ機１において仕様変更や機種変更等により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５の装飾（コンセプト）と対応している装飾や絵柄が施されている右サイド左パネル４４２及び右サイド右パネル４４３に交換することで、機種変

更等に容易に対応することができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。

【０４５６】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠右サイド左側面装飾体及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０における円形や放射状の模様の部位の色が、ハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の部位の色と同じ色に形成されていると共に、扉枠右サイド左側面装飾体及び扉枠右サイド右側面装飾体４４０における円形や放射状の模様の外側の部位の色が、ハンドルカバー２９５や扉枠左サイドベース４２１における円形や放射状の模様の外側の部位の色と同じ色に形成されている。

【０４５７】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０は、上下方向の中央より上側の部位が、反対側の扉枠左サイドユニット４２０における同じ高さの部位よりも前方へ大きく突出している。この扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠３の上端から下端までと略同じ高さに形成されている。扉枠右サイドユニット４３０は、上部が、扉枠トップユニット４５０の右外側に位置している。

【０４５８】

扉枠右サイドユニット４３０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの右外側を装飾しており、扉枠右サイド装飾体４３５の部位が円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見える。

【０４５９】

扉枠右サイドユニット４３０は、上から略半部の高さの部位までが前方へ大きく突出しており、衝立を形成している。これにより、遊技ホールの島設備において、右側に隣接して設けられているパチンコ機の前方に着座している遊技者から、扉窓１０１ａ（遊技領域５ａ）内を視認し辛くしている。従って、扉枠右サイドユニット４３０を衝立状に形成していることから、近隣に位置している遊技者の視線を遮ることができるため、他の遊技者から遊技領域５ａの全体を見え辛くすることができ、他の遊技者から見られているような感じを受け難くすることで他の遊技者に気兼ねすることなく遊技を行わせることができる。

【０４６０】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４３０によれば、扉枠右サイド装飾体４３５の前面よりも後方へある程度離れた位置に、扉枠右サイド上装飾基板及び扉枠右サイド下装飾基板を設けているため、それらに実装されているＬＥＤからの光が十分に広がった状態で、扉枠右サイド装飾体４３５の裏側に照射されることとなるため、扉枠右サイド装飾体４３５を均一に発光装飾させることができる。

【０４６１】

［３－８．扉枠トップユニット］

扉枠３における扉枠トップユニット４５０について、主に図２４乃至図３３等を参照して説明する。扉枠トップユニット４５０は、扉枠左サイドユニット４２０及び扉枠右サイドユニット４３０の夫々の上部の間に挟まれるように扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられるものである。

【０４６２】

扉枠トップユニット４５０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられる扉枠トップベース４５１と、扉枠トップベース４５１の左右両側と前面上部を覆うように扉枠トップベース４５１に取付けられているトップ上カバー４５２と、トップ上カバー４５２の前端に取付けられている扉枠トップ装飾体４５３と、扉枠トップ装飾体４５３の下端と扉枠トップベース４５１の下端とを連結している扉枠トップ底板（図示は省略）と、を備えている。

【０４６３】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面中央に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠右サイド左側面装飾体と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面における

扉枠右サイド左側面装飾体の左方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ左装飾基板と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面における扉枠右サイド左側面装飾体の右方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ右装飾基板と、を備えている。

【０４６４】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップベース４５１の前面に設けられている一対のトップ中央スピーカ（図示は省略）と、一対のトップ中央スピーカの左右両外側に設けられている一対のトップサイドスピーカ（図示は省略）と、一対のトップ中央スピーカが取付けられている箱状のトップスピーカボックス４５８と、トップ中央スピーカ及びトップサイドスピーカの前方を覆うように扉枠トップ装飾体４５３の下側に取付けられているトップ下カバー４６５と、扉枠トップベース４５１の前面の右端付近に取付けられている扉枠トップ中継基板（図示は省略）と、扉枠トップベース４５１の上方を覆うようにトップ上カバー４５２に取付けられている扉枠トップ天板４６８と、を備えている。

【０４６５】

扉枠トップユニット４５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの上外側を装飾している。扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の左右両端が、扉枠左サイド装飾体４２６及び扉枠右サイド装飾体４３５の上部の内側よりも後方の部位へ前方から沈み込むように接続されている。また、扉枠トップユニット４５０は、一対のトップ中央スピーカ及び一対のトップサイドスピーカによって、音声や音楽等のサウンドを遊技者側へ出力することができる。

【０４６６】

ところで、本実施形態の扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３が扉枠トップ天板４６８と一緒に扉枠トップベース４５１に対して着脱可能に設けられている。扉枠トップ装飾体４５３と扉枠トップ天板４６８とは、図示しないネジを緩めることにより、所定範囲の間で前後方向へ相対的にスライドさせることが可能である。扉枠トップ装飾体４５３及び扉枠トップ天板４６８は、扉枠ベースユニット１００の後方からねじ込まれている手回ネジ４６９を緩めることで前方へ取り外すことができる。この扉枠トップ装飾体４５３には、扉枠上飾体４８０を取付けるための飾取付部４５３ａが設けられている。本実施形態では、飾取付部４５３ａが扉枠トップ装飾体４５３の右端に設けられている。

【０４６７】

［３－８ａ．扉枠上飾体］

扉枠トップユニット４５０に取付けられている扉枠上飾体４８０について、主に図２０乃至図２３等を参照して説明する。扉枠上飾体４８０は、扉枠上飾体４８０は、板面を左右に向けて上下方向へ延出している板状の装飾体４８１と、装飾体４８１の下部後面に設けられており、扉枠トップ装飾体４５３に取付けるための被取付部４８２と、を備えている。装飾体４８１は、矢の先端が上方且つやや前方を向いた矢印形状に形成されており、左右両面に装飾シールが貼り付けられている。

【０４６８】

扉枠上飾体４８０は、その高さが外枠２の高さの約３／４であり、前後方向（奥行）がレバー操作部３０４の前端から裏カバー６４０の後面までの距離と略同じである。従って、扉枠上飾体４８０は、かなり大型であることから、遊技ホールに設置されている状態では、遠くからでも目立つこととなり、遊技者に対して高い訴求力を有している。

【０４６９】

扉枠上飾体４８０は、扉枠３に取付けられている状態では、下端が扉枠トップ装飾体４５３よりも下方に位置していると共に、上端が扉枠トップ装飾体４５３よりも大きく上方に位置している。また、扉枠上飾体４８０の被取付部４８２は、扉枠右サイドユニット４３０における扉枠右サイド装飾体４３５の前面の上部と正面視において重なっている。

【０４７０】

この扉枠上飾体４８０は、扉枠トップ装飾体４５３と一緒に扉枠３から取外すことができると共に、扉枠３から取外した状態で扉枠トップ装飾体４５３の飾取付部４５３ａから

取外すことができる。詳述すると、扉枠３から扉枠トップ装飾体４５３と一緒に取外した状態で、飾取付部４５３ａの右側面に設けられているロックレバー４５３ｂを後方へスライドさせると、ロックが解除されて被取付部４８２が前方へ移動可能な状態となる。この状態で、被取付部４８２の上端側を中心にしてその下端側が前方へ移動するように回動させた上で、上方へ移動させると、被取付部４８２が飾取付部４５３ａから外れて、扉枠上飾体４８０を取外すことができる。

【０４７１】

一方、扉枠上飾体４８０を扉枠トップ装飾体４５３に取付ける場合は、下端側が前方へ位置するように被取付部４８２を斜めにした状態で、飾取付部４５３ａに対して上端側を上方から係止させた上で、下端側を後方へ移動させて、被取付部４８２を垂直な状態にする。その後、ロックレバー４５３ｂを前方へスライドさせると、被取付部４８２の移動がロックされ、扉枠上飾体４８０を扉枠トップ装飾体４５３に取付けることができる。

【０４７２】

このように、扉枠上飾体４８０は、扉枠３から取外されている扉枠トップ装飾体４５３に対して、ロックレバー４５３ｂを前後方向へスライドさせることで、簡単に取外したり取付けたりすることができる。従って、パチンコ機１において仕様変更や機種変更等により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５の装飾（コンセプト）と対応している装飾が施されている扉枠トップ装飾体４５３や扉枠上飾体４８０に交換することで、機種変更等に容易に対応することができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。

【０４７３】

［３－９．扉枠における防犯対策］

続いて、扉枠３における防犯対策について、主に図６０及び図６１を参照して詳細に説明する。図６０は、扉枠におけるガラスユニットなどを使用した防犯対策の一例を横断面で示す説明図である。図６１は、図６０に示すガラスユニットなどを使用した防犯対策を背面から示す説明図である。なお、以下の防犯対策は、変形例も含めてそれぞれを組み合わせて使用可能であることは言うまでもない。

【０４７４】

ガラスユニット１６０が取付けられる扉枠ベース１０１には、枠状の扉枠補強ユニット１１０が後方から取付けられており、この扉枠補強ユニット１１０の枠内にガラスユニット１６０が取付けられる。そして、本実施形態では、扉枠ベース１０１に、扉枠補強ユニット１１０とガラスユニット１６０との間を埋めるように後方へ突出している突条部１０１ｋが設けられている（図６０及び図６１を参照）。詳述すると、扉枠ベース１０１は、扉枠補強ユニット１１０における左補強フレーム１１１とガラスユニット１６０の左辺との間、および、右補強フレーム１１２とガラスユニット１６０の右辺との間、をそれぞれ埋めるように後面から後方へ突出していると共に上下方向に長く延びている突条部１０１ｋを有している。この突条部１０１ｋの部位では、扉枠ベース１０１の前後方向の肉厚がかなり厚くなっている。そして、扉枠３に組み立てた状態では、突条部１０１ｋの両側面に、扉枠補強フレーム１１０（左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２）とガラスユニット１６０とがそれぞれ接している。

【０４７５】

ところで、扉枠右サイドユニット４３０の右サイド左パネル４４２は、前後方向へスライドさせることで着脱可能に設けられているため、その着脱可能としている他の部品（例えば、右サイド左レンズ４３９）との間を手掛かりにしてパチンコ機１内部へ不正な工具が侵入される恐れがある。しかしながら、本実施形態の扉枠３では、右サイド左パネル４４２の後端側に、ガラスユニット１６０（ガラス板１６２）を設けているため、不正工具を侵入させようとしてもガラスユニット１６０により阻止することができる。更に、不正行為の侵入を強行するとガラスユニット１６０のガラス板１６２が割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４７６】
　また、ガラスユニット１６０により不正工具の挿入を阻止するようにしていることから、従来より設けられている扉枠補強ユニット１１０や防犯金具などに加えてガラスユニット１６０を防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較してパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。また、ガラスユニット１６０は正面視における面積が広い（大面積である）ため、扉枠右サイドユニット４３０に挿入した不正工具の先端がガラスユニット１６０に当接することによりその侵入方向が変わった場合、不正工具を更に繰り出しても、面積の広いガラスユニット１６０の表面に沿って単に進むだけであり、不正工具の先端をガラスユニット１６０よりも後方へ侵入させることはできず、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０４７７】
　また、図６１に示すように、扉枠３の後方からガラスユニット１６０のガラス板１６２を通して右サイド左パネル４４２の取付状態を視認することができるため、ガラスユニット１６０を取り外さなくても右サイド左パネル４４２の取付状態を確認することができ、メンテナンスの容易なパチンコ機１を提供することができる。
【０４７８】
　また、詳細な図示は省略するが、右サイド左パネル４４２の後端側において、ガラスユニット１６０が設けられていない部位には、金属からなる扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が後方から保護している。これにより、ガラスユニット１６０がない部位で不正工具を侵入（挿入）させようとしても右補強フレーム１１２により阻止することができる。つまり、扉枠補強ユニット１１０は、上述したように、自身の強度・剛性が高められていることにより前方へ強く引っ張られることに対する高い防犯性能を有しているだけでなく、前方からの不正工具の挿入に対する防犯性能も有している。従って、本実施形態の扉枠３は、ガラスユニット１６０だけでなく、扉枠補強ユニット１１０によっても前方からの不正工具に対する防犯性能が高められている。
【０４７９】
　また、上述したように、扉枠３を補強している扉枠補強ユニット１１０によって前方からの不正工具の挿入を阻止するようにしているため、従来より設けられている扉枠補強ユニットを防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較してパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０４８０】
　更に、右補強フレーム１１２とガラスユニット１６０（の右辺）との間は、扉枠ベース１０１の突条部１０１ｋによって埋められていると共に、当該突条部１０１ｋの前後方向が厚いため、扉枠補強ユニット１１０やガラスユニット１６０よりは硬くない合成樹脂からなる突条部１０１ｋを突破しようとしても、手間がかかることとなり、不正工具の挿入を諦めさせることが可能となる。
【０４８１】
　なお、上記では、前方からの不正工具の侵入（阻止）するものとして、扉枠補強ユニット１１０やガラスユニット１６０を示したが、これに限定するものではなく、金属やガラスのような他の部材よりも硬い硬質のものであれば良い。この硬質のもの（硬質部）としては、例えば、「シリンダ錠１３０（シリンダ錠１３０Ａ）を取付けるための金属のシリンダ取付フレーム１１５（シリンダ取付フレーム１１５Ａ）」、「皿ユニット２００を補強している補強板金（図示は省略）」、「演出操作ユニット３００に設けられている金属のユニット補強フレーム４０３」、「防犯金具」、などの金属部としても良い。また、金属部の他に、「普通の合成樹脂よりも硬い硬質樹脂」、「繊維強化樹脂」、などにより形成されている硬質樹脂部としても良い。
【０４８２】
　また、上記では、突条部１０１ｋを間にしてガラスユニット１６０と扉枠補強ユニット１１０（右補強フレーム１１２）とが接するものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、後方から保護する部位において、ガラスユニット１６０と金属部（例えば、

扉枠補強ユニット１１０）とが正面視で重なるようにしても良い。これにより、前側に設けられているガラスユニット１６０又は金属部が突破されたとしても、その後側に金属部又はガラスユニット１６０が設けられているため、不正工具の挿入を二重に阻止して挿入が非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４８３】

更に、上記の実施形態では、前方からの不正工具の挿入を阻止するものとして扉枠補強ユニット１１０とガラスユニット１６０とを併用するものを示したが、これに限定するものではなく、扉枠補強ユニット１１０のみにより不正工具の挿入を阻止するようにしても良いし、ガラスユニット１６０のみにより不正工具の挿入を阻止するようにしても良い。

【０４８４】

［３－９ａ．扉枠における防犯対策の変形例１］

続いて、扉枠３におけるガラスユニット１６０などを使用した防犯対策の変形例１について、図６２を参照して詳細に説明する。図６２は、図６０及び図６１とは異なる扉枠におけるガラスユニットなどを使用した防犯対策の変形例１を示す説明図である。

【０４８５】

この実施形態では、扉枠ベースユニット１００の前面に扉枠装飾体４７０が取付けられている。この扉枠装飾体４７０の後壁４７０ａには開口部４７０ｂが設けられていると共に、開口部４７０ｂを閉鎖している透明なカバー４７１が取付けられている。扉枠装飾体４７０の内部にはＬＥＤやスピーカ等の電気部品と接続されている配線ケーブル４７２が設けられており、当該配線ケーブル４７２が透明なカバー４７１を通して後方から視認可能に設けられている。

【０４８６】

この実施形態では、扉枠ベースユニット１００に対して後方からガラスユニット１６０を取付けると、カバー４７１の少なくとも一部の後方にガラスユニット１６０が位置し、カバー４７１が後方へ外れることはないと共に、ガラスユニット１６０のガラス板１６２を通して、カバー４７１の取付状態や、カバー４７１により閉鎖されている開口部４７０ｂ内の配線ケーブル４７２を視認することができる。

【０４８７】

また、カバー４７１の少なくとも一部の後方に、扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が位置している。更に、右補強フレーム１１２とガラスユニット１６０とが隙間なく接するように設けられている。つまり、詳細な図示は省略するが、ガラスユニット１６０のサイズは、左補強フレーム１１１および右補強フレーム１１２に対してほぼ隙間なく接するように設定されている。

【０４８８】

本実施形態では、扉枠装飾体４７０の後壁４７０ａの開口部４７０ｂとカバー４７１との間を通してパチンコ機１内部へ不正な工具を侵入させようとしても、カバー４７１の後方に設けられているガラスユニット１６０（ガラス板１６２）により、不正工具の侵入を阻止することができる。更に、不正行為の侵入を強行するとガラスユニット１６０のガラス板１６２が割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４８９】

また、図示するように、後方からガラスユニット１６０のガラス板１６２を通してカバー４７１の取付状態や、扉枠装飾体４７０内の配線ケーブル４７２の様子、等を視認することができるため、ガラスユニット１６０を取り外さなくても確認することができ、メンテナンスの容易なパチンコ機１を提供することができる。

【０４９０】

更に、カバー４７１の後方におけるガラスユニット１６０が設けられていない部位には、金属からなる扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が設けられているため、

ガラスユニット１６０がない部位で不正工具を侵入（挿入）させようとしても右補強フレーム１１２により阻止することができる。

【０４９１】

また、ガラスユニット１６０と金属の右補強フレーム１１２とを隙間なく接するようにしていることから、不正工具をガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２との間を通そうとしても、ガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２の何れも硬いため、それらの間が広がることはなく、不正工具の挿入を非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４９２】

［３－９ｂ．扉枠における防犯対策の変形例２］

続いて、ガラスユニット１６０による防犯対策の変形例２について、図６３を参照して詳細に説明する。図６３は、図６２とは更に異なるガラスユニットなどを使用した防犯対策の変形例２を示す説明図である。

【０４９３】

この実施形態では、扉枠ベースユニット１００の前面に扉枠装飾体４７０が取付けられていると共に、扉枠装飾体４７０にスピーカ４７３が取付けられている。この扉枠装飾体４７０の後壁４７０ａにはスピーカ４７３を後方から取付けるための開口部４７０ｂが設けられていると共に、開口部４７０ｂを閉鎖している透明なカバー４７１が取付けられている。この透明なカバー４７１を通して、スピーカ４７３の裏側やスピーカ４７３の取付部位等を後方から視認することができる。

【０４９４】

この実施形態では、扉枠ベースユニット１００に対して後方からガラスユニット１６０を取付けると、カバー４７１の少なくとも一部の後方にガラスユニット１６０が位置し、カバー４７１が後方へ外れることはないと共に、ガラスユニット１６０のガラス板１６２を通して、カバー４７１の取付状態や、透明なカバー４７１の前方に設けられているスピーカ４７３の裏側の様子や、スピーカ４７３の取付状態、等を視認することができる。

【０４９５】

また、カバー４７１の少なくとも一部の後方に、扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が位置している。更に、右補強フレーム１１２とガラスユニット１６０とが隙間なく接するように設けられている。つまり、詳細な図示は省略するが、ガラスユニット１６０のサイズは、左補強フレーム１１１および右補強フレーム１１２に対してほぼ隙間なく接するように設定されている。

【０４９６】

本実施形態では、扉枠装飾体４７０に取付けられているスピーカ４７３を通してパチンコ機１内部へ不正な工具を侵入させようとしても、スピーカ４７３（カバー４７１）の後方に設けられているガラスユニット１６０（ガラス板１６２）により、不正工具の侵入を阻止することができる。更に、不正行為の侵入を強行するとガラスユニット１６０のガラス板１６２が割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０４９７】

また、図示するように、後方からガラスユニット１６０のガラス板１６２を通してカバー４７１の取付状態や、透明なカバー４７１の前方に設けられているスピーカ４７３の裏側の様子や、スピーカ４７３の取付状態、等を視認することができるため、ガラスユニット１６０を取り外さなくても確認することができ、メンテナンスの容易なパチンコ機１を提供することができる。

【０４９８】

更に、カバー４７１の後方におけるガラスユニット１６０が設けられていない部位には、金属からなる扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が設けられているため、ガラスユニット１６０がない部位で不正工具を侵入（挿入）させようとしても右補強フレ

ーム１１２により阻止することができる。
【０４９９】
　また、ガラスユニット１６０と金属の右補強フレーム１１２とを隙間なく接するようにしていることから、不正工具をガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２との間を通そうとしても、ガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２の何れも硬いため、それらの間が広がることはなく、不正工具の挿入を非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５００】
［３－９ｃ．小括］
　上記のガラスユニット１６０による防犯対策には、以下のような技術的特徴を有している。
（技術的特徴の背景）
　パチンコ機のような遊技機には、遊技領域を有する遊技盤を着脱可能に保持している本体枠と、本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠と、を備えている。この扉枠には遊技領域を前方から視認可能としている窓部が設けられていると共に、窓部周囲の前面にカバー状の装飾体が設けられており、当該装飾体によって遊技機の外観が装飾されている。
【０５０１】
　この種の遊技機として、扉枠に設けられている装飾体（カバー）を交換可能としたものが提案されている（例えば、特許文献：特開２０２１－６５６４９号公報）。この特許文献の技術によれば、仕様変更や機種変更などにより遊技盤を交換する際に、遊技盤と対応したカバーに交換することで、遊技盤と扉枠との一体感を付与して、遊技者に対する訴求力を高めることが可能である。
【０５０２】
　しかしながら、扉枠のカバーを交換可能にすると、扉枠に設けられている部材において、交換される部材（カバー）と交換されない部材（主体部）との間に境が生じることとなり、当該境をガイドにして前方から不正な工具を遊技機内に挿入されてしまう恐れがある。
【０５０３】
　そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、防犯性能の高い遊技機の提供を課題とするものである。
【０５０４】
（技術的特徴の解決手段）
　手段１：遊技機において、
　「遊技球により遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤を前方から着脱可能に支持している本体枠と、
　前記遊技領域を前方から視認可能とする窓部、及び該窓部を閉鎖しているガラスユニットを有し、前記本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠と
を具備している遊技機であって、
　前記扉枠は、
　主体部と、該主体部に取付けられているカバーとを有し、
　該カバーの少なくとも一部が、後方から前記ガラスユニットを含む他の部材よりも硬い硬質部により保護されている」
ことを特徴とする。
【０５０５】
　ここで、「カバー」としては、「主体部との間に設けられる装飾シートを視認可能としているもの」、「外部から主体部内を確認可能としているもの」、「立体的な装飾が施されているもの（例えば、装飾体）」、「主体部内を点検するための開口部（点検口）を覆っているもの」、等が挙げられる。
【０５０６】
　また、「硬質部」としては、ガラスユニット（ガラス）に加えて、「鉄やアルミニウム

のような金属で形成されている金属部」、「普通の合成樹脂よりも硬い硬質樹脂、繊維強化樹脂、などにより形成されている硬質樹脂部」、等が挙げられる。

【０５０７】

手段１の構成によると、遊技球により遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤を前方から着脱可能に支持している本体枠と、遊技領域を前方から視認可能とする窓部、及び窓部を閉鎖しているガラスユニットを有し、本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠とを具備している遊技機であって、扉枠は、主体部と、主体部に取付けられているカバーとを有し、カバーの少なくとも一部が、後方からガラスユニットを含む他の部材よりも硬い硬質部により保護されているものである。（［発明を実施するための形態］では、［３－９．扉枠における防犯対策］の章、図６０～図６３等の記載を参照）

【０５０８】

本構成では、遊技機に、遊技領域を有する遊技盤を前方から着脱可能に支持している本体枠と、本体枠に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠と、が設けられており、この扉枠には、遊技領域を前方から視認可能としている窓部と、窓部を閉鎖しているガラスユニットと、主体部と、主体部に取付けられているカバーと、が設けられている。そして、カバーの少なくとも一部を、後方からガラスユニットのような硬質部により保護するようにしているため、カバーと主体部との間をガイドにして扉枠の前方から不正な工具を遊技機内へ挿入させようとしても、その先端が硬質部に当接して、不正工具の挿入を阻止することができる。これにより、前方からの不正行為に対する防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５０９】

また、硬質部としてのガラスユニットにより不正工具の挿入を阻止するようにしていることから、従来より設けられている補強フレーム（扉枠補強ユニット）や防犯金具などに加えてガラスユニットを防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較して遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。また、硬質部としてのガラスユニットは正面視における面積が広い（大面積である）ため、主体部とカバーとの間に挿入した不正工具の先端がガラスユニットに当接することによりその侵入方向が変わった場合、不正工具を更に繰り出しても、面積の広いガラスユニットの表面に沿って単に進むだけであり、不正工具の先端をガラスユニットよりも後方へ侵入させることはできず、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５１０】

また、上述したように、ガラスユニットのような硬質部によって主体部とカバーとの間を介した不正工具の挿入を阻止することができるため、例えば、カバーを主体部に対して着脱可能な装飾体としても、不正行為に対する防犯効果が低下することはなく、着脱可能な装飾体を扉枠に設けることが可能となる。これにより、仕様変更や機種変更により遊技盤を交換する際に、当該遊技盤と対応した装飾の施されている装飾体と交換することができるため、遊技盤の装飾と扉枠の装飾とが一体となったような遊技機とすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【０５１１】

なお、硬質部に、扉枠を補強している金属の補強フレームを含む金属部が含まれるようにすることが望ましい。これにより、少なくともカバー部の一部を後方から保護する硬質部として、補強フレームを含む金属部が含まれているため、カバーと主体部との間をガイドにして扉枠の前方から不正な工具を遊技機内へ挿入させようとしても、ガラスユニットに加えて金属部によっても阻止することができ、不正行為に対する防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５１２】

また、上記のように、硬質部に金属部が含まれるようにする場合、ガラスユニットと金属部とを隙間なく接するようにすると、上述と同様の作用効果に加えて、不正工具をガラスユニットと金属部との間を通そうとしても、ガラスユニットと金属部の何れも硬いため、それらの間が広がることはなく、不正工具の挿入を非常に困難なものとすることができ

、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。
【０５１３】
更に、上記のように、硬質部に金属部が含まれるようにする場合、硬質部としていの金属部を、扉枠を補強している補強フレームとすると、従来より設けられている補強フレーム（扉枠補強ユニット）を防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較して遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０５１４】
また、上記のように、硬質部に金属部が含まれるようにすると共に、硬質部として、ガラスユニットと金属部とを併用する場合、少なくともカバーを後方から保護する部位において、ガラスユニットと金属部とが正面視で重なるようにしても良い。これにより、前側に設けられているガラスユニット又は金属部が突破されたとしても、その後側には金属部又はガラスユニットが設けられているため、不正工具の挿入を二重に阻止して挿入が非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。
【０５１５】
更に、カバーを通して主体部内を確認可能とするようにしても良い。これにより、カバーを通して主体部内を確認することができるため、主体部内に設けられている電気部品（例えば、ＬＥＤ、センサ、コネクタ、配線ケーブル、スピーカ、基板、等）の確認、主体部あるいは主体部内に設けられている部材の取付状態の確認、などを、カバーを取り外さなくても外部から確認することができ、メンテナンスの容易な遊技機を提供することができる。
【０５１６】
また、少なくともカバーの一部を、ガラスユニットのガラスにより保護するようにしても良い。これにより、カバーの一部を、後方からガラスユニットのガラスにより保護するため、カバーと主体部との間をガイドにして扉枠の前方から不正な工具を遊技機内へ挿入させようとしても、その先端がガラスユニットのガラスに当接して、不正工具の挿入を阻止することができる。そして、更に、不正行為の挿入を強行するとガラスユニットのガラスが割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。
【０５１７】
更に、ガラスユニットのガラスを通して後方からカバーの取付部位を視認可能とするようにしても良い。これにより、ガラスユニットのガラスを通して後方からカバーの取付部位を視認可能としているため、ガラスユニットを取外さなくても、本体枠に対して扉枠を開いて後側から扉枠を見るだけで、ガラスユニットのガラスを通してカバーの取付状態を確認することができ、メンテナンスの容易な遊技機を提供することができる。
【０５１８】
手段２：手段１の構成において、
「前記硬質部は、
前記扉枠を補強している金属の補強フレームを含む金属部が含まれている」
ものであることを特徴とする。
【０５１９】
ここで、硬質部における「金属部」としては、「扉枠を補強している金属の扉枠補強ユニット」、「防犯金具」、「シリンダ錠を取付けるための金属のシリンダ取付フレーム」、「皿ユニットを補強している補強板金」、「演出操作ユニットに設けられている金属のユニット補強フレーム」、等が挙げられる。
【０５２０】
手段２の構成によると、硬質部に、扉枠を補強している金属の補強フレームを含む金属部が含まれているものである。（［発明を実施するための形態］では、扉枠補強ユニット１１０に関する記載を参照）
【０５２１】

これにより、少なくともカバー部の一部を後方から保護する硬質部として、補強フレームを含む金属部が含まれているため、カバーと主体部との間をガイドにして扉枠の前方から不正な工具を遊技機内へ挿入させようとしても、ガラスユニットに加えて金属部によっても阻止することができ、不正行為に対する防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５２２】

また、硬質部に金属部が含まれていることから、ガラスユニットと金属部とを隙間なく接するようにすると、上述と同様の作用効果に加えて、不正工具をガラスユニットと金属部との間を通そうとしても、ガラスユニットと金属部の何れも硬いため、それらの間が広がることはなく、不正工具の挿入を非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５２３】

更に、不正工具の挿入を阻止する硬質部としての金属部を、扉枠を補強している補強フレームとする場合、従来より設けられている補強フレーム（扉枠補強ユニット）を防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較して遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【０５２４】

なお、カバーを後方から保護する硬質部として、ガラスユニットと金属部とを併用する場合、少なくともカバーを後方から保護する部位において、ガラスユニットと金属部とが正面視で重なるようにしても良い。これにより、前側に設けられているガラスユニット又は金属部が突破されたとしても、その後側には金属部又はガラスユニットが設けられているため、不正工具の挿入を二重に阻止して挿入が非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５２５】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記カバーを通して前記主体部内を確認可能としている」

ものであることを特徴とする。

【０５２６】

ここで、「カバー」としては、「無色透明」、「有色透明」、「無色半透明」、「有色半透明」、等が挙げられる。

【０５２７】

手段３の構成によると、カバーを通して主体部内を確認可能としているものである。（［発明を実施するための形態］では、カバー４７１に関する記載を参照）

【０５２８】

これにより、カバーを通して主体部内を確認することができるため、主体部内に設けられている電気部品（例えば、ＬＥＤ、センサ、コネクタ、配線ケーブル、スピーカ、基板、等）の確認、主体部あるいは主体部内に設けられている部材の取付状態の確認、などを、カバーを取り外さなくても外部から確認することができ、メンテナンスの容易な遊技機を提供することができる。

【０５２９】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「少なくとも前記カバーの一部を、前記ガラスユニットのガラスにより保護している」

ものであることを特徴とする。

【０５３０】

手段４の構成によると、少なくともカバーの一部を、ガラスユニットのガラスにより保護しているものである。（［発明を実施するための形態］では、ガラスユニット１６０、右サイド左パネル４４２、及びカバー４７１に関する記載を参照）

【０５３１】

これにより、カバーの一部を、後方からガラスユニットのガラスにより保護するようにしているため、カバーと主体部との間をガイドにして扉枠の前方から不正な工具を遊技機

内へ挿入させようとしても、その先端がガラスユニットのガラスに当接して、不正工具の挿入を阻止することができる。そして、更に、不正行為の挿入を強行するとガラスユニットのガラスが割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高い遊技機を提供することができる。

【０５３２】

手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、

「前記ガラスユニットのガラスを通して後方から前記カバーの取付部位を視認可能としている」

ものであることを特徴とする。

【０５３３】

手段５の構成によると、ガラスユニットのガラスを通して後方からカバーの取付部位を視認可能としているものである。（［発明を実施するための形態］では、ガラスユニット１６０、右サイド左パネル４４２、及びカバー４７１に関する記載を参照）

【０５３４】

これにより、ガラスユニットのガラスを通して後方からカバーの取付部位を視認可能としているため、ガラスユニットを取外さなくても、本体枠に対して扉枠を開いて後側から扉枠を見るだけで、ガラスユニットのガラスを通してカバーの取付状態を確認することができ、メンテナンスの容易な遊技機を提供することができる。

【０５３５】

このように、上記の解決手段によれば、防犯性能の高い遊技機を提供することができる。

【０５３６】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態の扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａは上記解決手段の窓部に、本実施形態における扉枠補強ユニット１１０、シリンダ取付フレーム１１５、シリンダ取付フレーム１１５Ａ、中間補強フレーム１１７、ガラスユニット１６０、ユニット補強フレーム４０３は上記解決手段の硬質部に、本実施形態における左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、シリンダ取付フレーム１１５、シリンダ取付フレーム１１５Ａ、中間補強フレーム１１７、ユニット補強フレーム４０３は上記解決手段の金属部に、本実施形態における扉枠補強ユニット１１０は上記解決手段の補強フレームに、本実施形態の扉枠３におけるガラスユニット１６０は上記解決手段のガラスユニットに、本実施形態におけるガラスユニット１６０のガラス板１６２は上記解決手段のガラスに、本実施形態の扉枠３における扉枠右サイドユニット４３０、扉枠右サイドベース４３１、右サイド左レンズ４３９、および扉枠装飾体４７０は上記解決手段の主体部に、本実施形態における右サイド左パネル４４２およびカバー４７１は上記解決手段のカバーに、それぞれ相当している。

【０５３７】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、パチンコ機１に、遊技領域５ａを有する遊技盤５を前方から着脱可能に支持している本体枠４と、本体枠４に対して前方から開閉可能に設けられている扉枠３と、が設けられており、この扉枠３には、遊技領域５ａを前方から視認可能としている扉窓１０１ａと、扉窓１０１ａを閉鎖しているガラスユニット１６０と、扉枠右サイドユニット４３０（右サイド左レンズ４３９）と、扉枠右サイドユニット４３０に取付けられている右サイド左パネル４４２と、が設けられている。そして、右サイド左パネル４４２の少なくとも一部を、後方からガラスユニット１６０のような硬質部により保護するようにしているため、右サイド左パネル４４２と右サイド左レンズ４３９との間をガイドにして扉枠３の前方から不正な工具をパチンコ機１内へ挿入させようとしても、その先端がガラスユニット１６０（硬質部）に当接して、不正工具の挿入を阻止することができる。これにより、前方からの不正行為に対する防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０５３８】
　また、硬質部としてのガラスユニット１６０により不正工具の挿入を阻止するようにしていることから、従来より設けられている扉枠補強ユニット１１０や防犯金具などに加えてガラスユニット１６０を防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較してパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。また、硬質部としてのガラスユニット１６０は正面視における面積が広い（大面積である）ため、扉枠右サイドユニット４３０に挿入した不正工具の先端がガラスユニット１６０に当接することによりその侵入方向が変わった場合、不正工具を更に繰り出しても、面積の広いガラスユニット１６０の表面に沿って単に進むだけであり、不正工具の先端をガラスユニット１６０よりも後方へ侵入させることはできず、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５３９】
　また、上述したように、ガラスユニット１６０（硬質部）によって右サイド左レンズ４３９と右サイド左パネル４４２との間を介した不正工具の挿入を阻止することができるため、右サイド左パネル４４２を扉枠右サイドユニット４３０から着脱可能にしても、不正行為に対する防犯効果が低下することはない。これにより、仕様変更や機種変更により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５と対応した装飾の施されている右サイド左パネル４４２と交換することができるため、遊技盤５の装飾と扉枠３の装飾とが一体となったようなパチンコ機１とすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５４０】
　更に、少なくとも右サイド左パネル４４２の一部を、硬質部としての金属からなる扉枠補強ユニット１１０の右補強フレーム１１２が後方から保護しているため、右サイド左パネル４４２と右サイド左レンズ４３９との間をガイドにして扉枠３の前方から不正な工具をパチンコ機１内へ挿入させようとしても、ガラスユニット１６０に加えて金属の右補強フレーム１１２によっても阻止することができ、不正行為に対する防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５４１】
　また、ガラスユニット１６０と扉枠補強ユニット１１０（右補強フレーム１１２）とを隙間なく接するようにしているため、上述と同様の作用効果に加えて、不正工具をガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２との間を通そうとしても、ガラスユニット１６０と右補強フレーム１１２の何れも硬いため、それらの間が広がることはなく、不正工具の挿入を非常に困難なものとすることができ、防犯性能の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０５４２】
　また、不正工具の挿入を阻止する硬質部としての金属部を、扉枠３を補強している扉枠補強ユニット１１０としているため、従来より設けられている扉枠補強ユニットを防犯に役立てることができ、新たな防犯部材を設ける場合と比較してパチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【０５４３】
　更に、図６２や図６３に示すように、カバー４７１を通して扉枠装飾体４７０内を確認可能としているため、扉枠装飾体４７０内に設けられている電気部品（例えば、ＬＥＤ、センサ、コネクタ、配線ケーブル４７２、スピーカ４７３、基板、等）の確認、扉枠装飾体４７０あるいは扉枠装飾体４７０内に設けられている部材の取付状態の確認、などを、カバー４７１を取り外さなくても外部から確認することができ、メンテナンスの容易なパチンコ機１を提供することができる。
【０５４４】
　また、少なくとも右サイド左パネル４４２（カバー４７１）の一部を、ガラスユニット１６０のガラス板１６２により保護するようにしているため、右サイド左パネル４４２と右サイド左レンズ４３９（扉枠装飾体４７０）との間をガイドにして扉枠３の前方から不

正な工具をパチンコ機１内へ挿入させようとしても、その先端がガラスユニット１６０のガラス板１６２に当接して、不正工具の挿入を阻止することができる。そして、更に、不正行為の挿入を強行するとガラスユニット１６０のガラス板１６２が割れてしまい、不正行為が行われていることを遊技ホールの係員に気付かせて不正行為を止めさせることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０５４５】

更に、ガラスユニット１６０のガラス板１６２を通して後方からカバー４７１（右サイド左パネル４４２）の取付部位を視認可能としているため、ガラスユニット１６０を取外さなくても、本体枠４に対して扉枠３を開いて後側から扉枠３を見るだけで、ガラスユニット１６０のガラス板１６２を通してカバー４７１などの取付状態を確認することができ、メンテナンスの容易なパチンコ機１を提供することができる。

【０５４６】

［４．本体枠の全体構成］

パチンコ機１における本体枠４の全体構成について、主に図６４乃至図７０を参照して詳細に説明する。図６４はパチンコ機における本体枠の正面図であり、図６５はパチンコ機における本体枠の背面図である。図６６は本体枠を右前から見た斜視図であり、図６７は本体枠を左前から見た斜視図であり、図６８は本体枠を後ろから見た斜視図である。図６９は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図７０は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０５４７】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【０５４８】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の上端に取付けられ外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０が回転可能に取付けられる本体枠上ヒンジ部材５１０と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の下端に取付けられ外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に取付けられる本体枠下ヒンジ組立体５２０と、を備えている。

【０５４９】

また、本体枠４は、本体枠ベースユニット５００の正面視左側面に取付けられる本体枠補強フレーム５３０と、本体枠ベースユニット５００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、本体枠ベースユニット５００の後側における正面視上辺及び左辺に沿って取付けられている逆Ｌ字状の払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０の後側に取付けられており遊技者側へ遊技球Ｂを払出すための払出ユニット５６０と、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている基板ユニット６２０と、本体枠ベースユニット５００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、本体枠ベースユニット５００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。

【０５５０】

本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、扉枠３側と接続するための接続ケーブル５０３を案内する接続ケーブル案内部材５０２と、遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材

５０５と、を備えている。
【０５５１】
払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１と、払出ベース５５１に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、タンクレール５５３の上端に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下流側端に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。
【０５５２】
払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。
【０５５３】
基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、スピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。
【０５５４】
施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１に取付けられるユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。
【０５５５】
［４－１．本体枠ベースユニット］
本体枠４における本体枠ベースユニット５００について、主に図６４乃至図７２等を参照して詳細に説明する。図７１（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。図７２は、本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。本体枠ベースユニット５００は、前方から後部が外枠２の枠内に挿入されると共に、前方から挿入された遊技盤５の外周を保持するものである。
【０５５６】
本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、本体枠ベース５０１の前面における左下隅に取付けられており接続ケーブル５０３を案内する接続ケーブル案内部材５０２と、本体枠ベース５０１の前面下部に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材５０５と、を備えている。
【０５５７】
本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１は、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されているベース本体５０１ａと、ベース本体５０１ａの上端よりやや下側の

位置から全高の約３／４の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤５が前側から挿入される遊技盤挿入口５０１ｂと、遊技盤挿入口５０１ｂの下辺を形成しており遊技盤５が載置される遊技盤載置部５０１ｃと、遊技盤載置部５０１ｃの左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤５の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部５０１ｄと、を備えている。

【０５５８】

また、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａの前面における遊技盤載置部５０１ｃの正面視右下側で後方へ窪んでおり球発射装置５４０を取付けるための発射装置取付部５０１ｅと、発射装置取付部５０１ｅの正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が挿通されるシリンダ挿通口５０１ｆと、遊技盤載置部５０１ｃの正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット６２０におけるスピーカユニット６２０ａの本体枠スピーカ６２２を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部５０１ｇと、本体枠ベース５０１は、スピーカ用開口部５０１ｇの下方で後方へ窪んでいると共に左右に延びており接続ケーブル案内部材５０２が取付けられるケーブル取付凹部５０１ｈと、ケーブル取付凹部５０１ｈの正面視右端上部において前後に貫通しているケーブル挿通口５０１ｉと、を備えている。

【０５５９】

更に、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａにおける遊技盤挿入口５０１ｂの正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット６５０が取付けられると共に、後端に裏カバー６４０が回動可能に取付けられる後方延出部５０１ｊと、ベース本体５０１ａの後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を取付けるための上ヒンジ取付部５０１ｋ及び下ヒンジ取付部５０１ｌと、を備えている。

【０５６０】

また、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａの前面における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が挿通されるシリンダ挿通口５０１ｆの下方の位置に、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出するための扉枠開放スイッチが取り付けられている。扉枠開放スイッチは、本体枠４に対して扉枠３が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて扉枠３の開放を検出することができるようになっている。扉枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ入力されている。また、本体枠ベース５０１は、扉枠開放スイッチが取り付けられた位置よりも下方のベース本体５０１ａの後面において、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチが取り付けられている。本体枠開放スイッチは、外枠２に対して本体枠４が開かれる（開放される）と、その押圧が解除されて本体枠４の開放を検出することができるようになっている。本体枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御基板６３３を介して、主制御基板１３１０へ入力されている。

【０５６１】

本体枠ベース５０１には、前面における遊技盤載置部５０１ｃの下方でスピーカ用開口部５０１ｇの右方の位置に、遊技盤ロック部材５０５が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。遊技盤ロック部材５０５は、遊技盤挿入口５０１ｂに挿通された遊技盤５の前方への移動を規制可能とすることで、遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５を着脱可能としている。

【０５６２】

本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈは、下ヒンジ取付部５０１ｌの右端側からスピーカ用開口部５０１ｇよりも右方で遊技盤ロック部材５０５が取付けられ部位の下方の位置まで左右方向に延びている。ケーブル取付凹部５０１ｈは、接続ケーブル案内部材５０２を収容可能な大きさに形成されており、接続ケーブル案内部材５０２の右端側を上下に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【０５６３】

本体枠ベースユニット５００の接続ケーブル案内部材５０２は、左右に延びた平板状の

案内本体５０２ａと、案内本体５０２ａの上下両辺において夫々前方へ突出していると共に案内本体５０２ａの右端よりも右方へ延出している帯板状の一対の枠片５０２ｂと、一対の枠片５０２ｂの右端同士を連結している円柱状の取付軸５０２ｃと、案内本体５０２ａの上下両端において前後に貫通していると共に左右方向へ列設されている複数の貫通孔５０２ｄと、を備えている。

【０５６４】

接続ケーブル案内部材５０２は、左右方向の長さが、本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈの左右方向の長さよりも若干短い長さとされており、ケーブル取付凹部５０１ｈ内に収容可能な大きさに形成されている。接続ケーブル案内部材５０２は、取付軸５０２ｃが、ケーブル取付凹部５０１ｈ内における右端付近において上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。これにより、接続ケーブル案内部材５０２は、左端側が前方へ突出するように回動（ヒンジ回転）することができる。

【０５６５】

この接続ケーブル案内部材５０２は、接続ケーブル５０３を案内するためのものである。接続ケーブル５０３は、複数の配線コードからなり、一方の端部が基板ユニット６２０のインターフェイス基板６３５に接続されると共に、反対側の端部が扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続される。

【０５６６】

続いて、接続ケーブル案内部材５０２による作用効果について説明する。接続ケーブル案内部材５０２は、図７２等に示すように、本体枠ベース５０１に対して、左右方向における扉枠３をヒンジ回転可能に取付ける側（左側）とは反対側の端部（右側端部）が、扉枠３のヒンジ軸と平行に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。

【０５６７】

そして、本体枠４のインターフェイス基板６３５と扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５とを接続する接続ケーブル５０３は、インターフェイス基板６３５に接続されている側が、接続ケーブル案内部材５０２の案内本体５０２ａの右方から左方へ延びるように案内本体５０２ａの前面に当接させた状態で、案内本体５０２ａの上下両端側に形成されている複数の貫通孔５０２ｄのうち左右方向が同じ位置の一組の貫通孔５０２ｄに挿通した結束バンド５０４により、案内本体５０２ａと一緒に締付けられることで、案内本体５０２ａに取付けられる。

【０５６８】

本体枠４の接続ケーブル案内部材５０２は、パチンコ機１に組立て扉枠３を本体枠４に対して閉じた状態で、扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の後方に位置している（図７２（ａ）を参照）。この状態では、接続ケーブル５０３が、接続ケーブル案内部材５０２から左方へ延び出した後、下ヒンジ取付部５０１ｌの前方で曲げ返されて扉枠３のケーブルホルダ１０３ａを通って扉枠中継基板カバー１０７内へ延出している。扉枠３のケーブルホルダ１０３ａは、接続ケーブル案内部材５０２の左端よりも左方に配置されている。

【０５６９】

この状態で、扉枠３を本体枠４に対して開くようにヒンジ回転させると、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている側によって前方へ引っ張られ、接続ケーブル案内部材５０２が右端の取付軸５０２ｃを中心にして回動することとなる。この際に、本実施形態では、扉枠３の開角度αと、接続ケーブル案内部材５０２の開角度βとの関係が、　α／２≧β　（望ましくは、α／３≧β）　を満たすように形成されている（図７２（ｂ）を参照）。

【０５７０】

接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３が閉じている状態（扉枠３の開角度αが０度の状態）では、０度となっている。接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３を開いて開角度αが大きくなるに従って、大きくなるが、開角度αがある程度（例えば、約９０度）よりも大きくなると、増加が停止するように推移する。本実施形態では

、開角度βの最大角度が、４５度未満とされている。
【０５７１】
このように、扉枠３を開けた時に、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、本体枠ベース５０１よりも前方へ移動するように接続ケーブル案内部材５０２が回動するため、接続ケーブル案内部材５０２に接続ケーブル５０３が案内されることで、扉枠３と本体枠４との間で接続ケーブル５０３が垂れ下がってしまうのを防止することができる。
【０５７２】
開いた扉枠３を閉める時には、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている部位が相対的に後方へ移動することとなるため、接続ケーブル５０３によって接続ケーブル案内部材５０２の左端側が後方へ押圧され、接続ケーブル案内部材５０２が取付軸５０２ｃを中心にして左端側が後方へ移動するように回動することとなる。この際に、接続ケーブル案内部材５０２が、４５度未満の開角度βで開いているため、接続ケーブル案内部材５０２が扉枠３の閉じる方向への移動を阻害することはなく、扉枠３をスムーズに閉めることができる。また、接続ケーブル５０３が接続ケーブル案内部材５０２に案内されているため、扉枠３を閉める際に、接続ケーブル５０３が扉枠３と本体枠４との間に挟まれることはなく、接続ケーブル５０３に不具合が生じるのを防止することができる。
【０５７３】
また、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、接続ケーブル案内部材５０２に案内されている接続ケーブル５０３を、１８０度折返していることから、接続ケーブル５０３の折返している部位に、折り癖を付けることができる。これにより、扉枠３を開くことで、接続ケーブル５０３の１８０度折返されている部位が開くように変化した時に、折り癖により接続ケーブル５０３に対して閉じようとする力が作用することとなるため、扉枠３を閉じる際に、その折り癖により接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）が開く方向へ移動するのを阻止することができると共に、接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）を閉じる方向へ誘導させることができ、扉枠３を円滑に閉じさせることができる。
【０５７４】
更に、扉枠３側において、折返されている接続ケーブル５０３を接続ケーブル案内部材５０２の先端よりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）に近い位置でケーブルホルダ１０３ａによって保持していることから、本体枠４に対して扉枠３を閉じる際に、ケーブルホルダ１０３ａによって保持されている接続ケーブル５０３により、接続ケーブル案内部材５０２の先端側を扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側へ引寄せることができる。
【０５７５】
また、本実施形態では、接続ケーブル案内部材５０２の回転中心を通り、扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）を中心として、スピーカダクト１０３におけるケーブルホルダ１０３ａよりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側で後方へ突出している部位（押圧部）を通る円に接する接線と、本体枠４の前面と交差する角度が、４５度以下となるように構成している。これにより、これにより、本体枠４に対して扉枠３を閉じる時に、押圧部が接続ケーブル５０３に当接することにより、接続ケーブル５０３を介して開いている接続ケーブル案内部材５０２の先端側を閉じる方向へ押圧することができるため、扉枠３の閉方向への移動に伴って接続ケーブル案内部材５０２をスムーズに閉じさせることができ、扉枠３を確実に閉じることができる。また、扉枠３の開閉に伴って回転（開閉）する接続ケーブル案内部材５０２の最大開角度βを、４５度以下とすることができるため、扉枠３を閉じる際に、接続ケーブル案内部材５０２を閉じる方向へ確実に回転させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。
【０５７６】
［４－２．本体枠上ヒンジ部材］
本体枠４における本体枠上ヒンジ部材５１０について、主に図６９及び図７０等を参照

して詳細に説明する。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられ、外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０を回転可能に取付けるものである。

【０５７７】

本体枠上ヒンジ部材５１０は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へＬ字状に折り曲げられている上ヒンジ本体５１１と、上ヒンジ本体５１１の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠上ヒンジ組立体５０に軸支される本体枠上ヒンジピン５１２と、を備えている。上ヒンジ本体５１１は、水平に延びた部位における本体枠上ヒンジピン５１２の正面視左側で上下方向に貫通しており扉枠上ヒンジ組立体１２０を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔５１１ａを備えている。

【０５７８】

本体枠上ヒンジ部材５１０は、上ヒンジ本体５１１における下方へ折り曲げられて上下に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられる。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠上ヒンジピン５１２が、外枠上ヒンジ組立体５０における外枠上ヒンジ部材５１の軸受溝５１ｃ内に挿入されて軸支される。上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａには、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０における扉枠上ヒンジピン１２２が下方から回転可能に挿入される。

【０５７９】

この本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠下ヒンジ組立体５２０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０５８０】

［４－３．本体枠下ヒンジ組立体］

本体枠４における本体枠下ヒンジ組立体５２０について、主に図６９及び図７０等を参照して詳細に説明する。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられ、外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に取付けられる。

【０５８１】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体５２１と、下ヒンジ第一本体５２１の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体５２２と、を備えている。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１の水平に延びている部位から上方へ間隔をあけて下ヒンジ第二本体５２２の水平に延びている部位が配置されていると共に、下ヒンジ第一本体５２１の垂直に延びている部位の前面に、下ヒンジ第二本体５２２の垂直に延びている部位が当接している。

【０５８２】

下ヒンジ第一本体５２１は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており外枠２の外枠下ヒンジ部材６０における外枠下ヒンジピン６０ｃが下方から挿入される外枠用下ヒンジ孔５２１ａを有している。外枠用下ヒンジ孔５２１ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２と同軸上に形成されている。

【０５８３】

下ヒンジ第二本体５２２は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６が上方から挿入される扉枠用下ヒンジ孔５２２ａと、水平に延びている部位の左辺における扉枠用下ヒンジ孔５２２ａよりも後側の位置から上方へ延出しており扉枠３の回動範囲を規制するための規制片５２２ｂと、を備えている。扉枠用下ヒンジ孔５２２ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の上ヒンジ本体５１１における扉枠用上ヒンジ孔５１１ａと同軸上に形成されている。

【０５８４】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１と下ヒンジ第二本体５２２とにおける垂直に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられる。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠上ヒンジ部材５１０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０５８５】

［４－４．本体枠補強フレーム］

本体枠４における本体枠補強フレーム５３０について、主に図６９及び図７０等を参照して詳細に説明する。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の左側面に取付けられる。本体枠補強フレーム５３０は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。本実施形態では、本体枠補強フレーム５３０が、金属の押出型材によって形成されている。

【０５８６】

本体枠補強フレーム５３０には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５が前方及び上下に移動するのを規制する左位置規制部材５３１が、上下に離間して二つ取付けられている。

【０５８７】

本体枠補強フレーム５３０は、平面視において右側が開放されたコ字状に形成されている前側に、右方へ開放されていると共に上下に延びている溝部５３０ａを有している。この溝部５３０ａは、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、扉枠３における扉枠補強ユニット１１０の左補強フレーム１１１の後部左端が挿入されるものである。溝部５３０ａ内に左補強フレーム１１１が挿入されることで、平面視において、本体枠補強フレーム５３０と左補強フレーム１１１との間の隙間が蛇行した状態となり、パチンコ機１の左側面から不正な工具が内部に挿入されることを防止することができる。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の左側（ヒンジ側）を補強していると共に、外枠２と本体枠４の間を通した左側からの本体枠４内（遊技盤５）への不正な工具の差し込みを防止している。

【０５８８】

［４－５．球発射装置］

本体枠４における球発射装置５４０について、主に図７３等を参照して詳細に説明する。図７３（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００の前面下部に取付けられており、扉枠３における皿ユニット２００の上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを、本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むためのものである。球発射装置５４０は、扉枠３の前面右下隅のハンドルユニット１８０のハンドル１９７の回動角度に応じた強さで遊技球Ｂを打込むことができる。

【０５８９】

球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の発射装置取付部５０１ｅに取付けられる平板状の発射ベース５４１と、発射ベース５４１の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース５４１を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド５４２と、発射ソレノイド５４２の回転軸に基端が取付けられている打球槌５４３と、打球槌５４３の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース５４１の前面に取付けられており遊技球Ｂが転動可能な発射レール５４４と、を備えている。

【０５９０】

球発射装置５４０は、扉枠３の球送給ユニット１４０から遊技球Ｂが発射レール５４４の上面右端に供給されるようになっており、発射レール５４４の上面右端に遊技球Ｂが供給されている状態で、ハンドル１９７を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２が駆動して、打球槌５４３により遊技球Ｂを打球する。そして、

打球槌５４３により打たれた遊技球Ｂは、発射レール５４４を通って遊技盤５の外レール１００１及び内レール１００２に案内されて遊技領域５ａ内に打込まれる。

【０５９１】

なお、遊技球Ｂの打込強さ等の関係で、打球した遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に到達しなかった場合は、発射レール５４４と遊技盤５（外レール１００１及び内レール１００２）との間から、下方のファールカバーユニット１５０のファール球受口１５０ｃへ落下し、ファールカバーユニット１５０内を通って下皿２０２に排出される。

【０５９２】

［４－６．払出ベースユニット］

本体枠４における払出ベースユニット５５０について、主に図７４等を参照して詳細に説明する。図７４（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。払出ベースユニット５５０は、逆Ｌ字状に形成されており、本体枠ベースユニット５００の後側に取付けられる。

【０５９３】

払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１を備えている。払出ベース５５１は、前後方向が略一定の幅で左右に延びている天板部５５１ａと、天板部５５１ａの正面視左辺から前後方向の幅が天板部と略同じ幅で下方へ長く延びている左側板部５５１ｂと、天板部５５１ａの正面視右辺から前後方向の幅が天板部５５１ａと略同じ幅で下方へ短く延びている右側板部５５１ｃと、天板部５５１ａの後辺から右側板部５５１ｃの下辺と同じ位置まで下方へ延びている背板上部５５１ｄと、左側板部５５１ｂの後辺よりも前方寄りの位置から右方へ略一定の幅で下端付近まで延びている背板左部５５１ｅと、背板左部５５１ｅの右辺から後方へ左側板部５５１ｂの後辺と同じ位置まで延びている内側板部５５１ｆと、左側板部５５１ｂの下辺の前部から右方へ背板左部５５１ｅの右辺と略同じ位置まで延びている底板部５５１ｇと、底板部５５１ｇの右辺と内側板部５５１ｆの下辺とを連結している連結板部５５１ｈと、を備えている。払出ベース５５１は、正面視において逆Ｌ字状に形成されており、前方とＬ字の内方へ開放された箱状に形成されている。

【０５９４】

払出ベース５５１は、天板部５５１ａが本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂの左右方向の幅と略同じ長さで左右に延びていると共に、左側板部５５１ｂが遊技盤挿入口５０１ｂの上下方向の高さと略同じ長さで上下に延びている。払出ベース５５１は、天板部５５１ａ、左側板部５５１ｂ、及び右側板部５５１ｃの前端が本体枠ベース５０１の後側に取付けられる。

【０５９５】

また、払出ベース５５１は、左側板部５５１ｂ、背板左部５５１ｅ、及び内側板部５５１ｆによって、後方へ開放されており上下に延びている浅い凹部状の部位を備えており、その部位に払出ユニット５６０が取付けられる。また、払出ベース５５１は、内側板部５５１ｆの正面視右側面の上部において右方へ突出しており、裏カバー６４０が取付けられる裏カバー取付部５５１ｉを有している。

【０５９６】

払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上側における球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、を備えている。

【０５９７】

また、払出ベースユニット５５０は、タンクレール５５３の上端における左右方向の途中に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられておりタンクレール５５３の左端まで延びている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タ

ンクレール５５３の下端における正面視左端付近に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。

【０５９８】

球タンク５５２は、左右方向が払出ベース５５１の天板部５５１ａの左右方向の幅の約半分の長さに形成されていると共に、前後方向が天板部５５１ａの前後方向の奥行よりも短い長さに形成されている。球タンク５５２は、天板部５５１ａの上面において、左右方向の右寄りの位置に取付けられている。球タンク５５２の底面は、左端側が低くなるように傾斜している。球タンク５５２は、左端側がタンクレール５５３と連通している。

【０５９９】

タンクレール５５３は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面における左右方向中央より左側の後端付近に取付けられている。タンクレール５５３は、平面視の形状が、球タンク５５２と連通している右端から左方且つ後方へ斜めで前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径の数倍の奥行から略一つ分の奥行になるように延びた後に、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい奥行で左方へ真直ぐに延びた形状に形成されている。タンクレール５５３は、左端側が低くなるように底面が傾斜しており、底面の左端が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい大きさで下方へ向かって開口している。タンクレール５５３の底面の左端の開口が、払出ユニット５６０の球誘導ユニット５７０における誘導通路５７０ａの上端開口と連通している。

【０６００】

また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の上端が、左端側の高さが遊技球Ｂの外径よりも若干大きい高さとなるように、底面よりも水平に対して急な角度で左端側が低くなるように傾斜している。タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の後端が、天板部５５１ａの後辺と略一致するように天板部５５１ａの上面に取付けられる。また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐ延びている部位の上端に、第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、球整流部材５５６、及び球止部材５５７が取付けられる。

【０６０１】

第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３における左方へ真直ぐに延びている部位の上端に取付けられる。第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３の上端の前後方向の奥行が、タンクレール５５３内の遊技球Ｂの圧力によって、広がったり、狭くなったりするのを防止するためのものである。

【０６０２】

球整流部材５５６は、タンクレール５５３の上端における第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５との間に部位において、第一レールカバー５５４側の端部が前後方向に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられている。球整流部材５５６は、タンクレール５５３内へ突出し左右方向に延びている整流片５５６ａを備えている（図８０を参照）。この整流片５５６ａによって上下二段になって流通している遊技球Ｂの上段側の遊技球Ｂの流れを遅らせて、下流側では一段となって流れるように整流することで、タンクレール５５３内の高さが低くなっても球詰りしないようにしている。

【０６０３】

球止部材５５７は、タンクレール５５３の下面における正面視左端付近において、左右方向へスライド可能に取付けられており、左方へスライドさせることで、タンクレール５５３の底面左端の開口を閉鎖して、タンクレール５５３から下流の払出ユニット側へ遊技球Ｂが流通しないようにすることができる。

【０６０４】

更に、払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上面における球タンク５５２の正面視左方に取付けられている外部端子板５５８を、更に備えている。外部端子板５５８は、パチンコ機１とパチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備との間で電気的な接続を行うためのものである。外部端子板５５８は、図示は省略す

るが、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ側へ臨んだアース接続部を備えている。アース接続部には、遊技盤５側から延びたアース線が接続される。

【０６０５】

［４－７．払出ユニットの全体構成］

本体枠４における払出ユニット５６０の全体構成について、主に図７５及び図７６等を参照して詳細に説明する。図７５（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。図７６（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。払出ユニット５６０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面に取付けられるものである。

【０６０６】

払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０の下側に配置されており球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。

【０６０７】

球誘導ユニット５７０は、タンクレール５５３により一列に整列された遊技球Ｂを、払出装置５８０へ供給する。払出装置５８０は、球誘導ユニット５７０から供給された遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａと、払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂとを有しており、通常の状態では、払出制御基板６３３からの指示に基づいて払出通路５８０ａから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出し、球抜レバー５９３が操作される球抜通路５８０ｂから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出するものである。

【０６０８】

上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂと、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂとを、分けて下方へ誘導するものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００を介して、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂを扉枠３側へ誘導し、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂを基板ユニット６２０側へ誘導するものである。

【０６０９】

［４－７ａ．球誘導ユニット］

払出ユニット５６０における球誘導ユニット５７０について、主に図７５及び図７６等を参照して詳細に説明する。球誘導ユニット５７０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面上部に後方から取付けられ、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを受取って払出装置５８０側へ遊技球Ｂを誘導するためのものである。

【０６１０】

球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂが流通可能な蛇行状に延びた誘導通路５７０ａを有しており前方へ開放されている箱状の誘導ユニットベース５７１と、誘導ユニットベース５７１の前側を閉鎖している平板状の誘導通路前蓋５７２と、誘導通路５７０ａ内を流通する遊技球Ｂにより可動する可動片部材５７３と、可動片部材５７３の可動を検知することで誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知する球切検知センサ５７４と、を備えている（図８０を参照）。

【０６１１】

球誘導ユニット５７０は、誘導ユニットベース５７１及び誘導通路前蓋５７２の正面視の形状が、上下に延びた四角形に形成されている。誘導通路５７０ａは、誘導ユニットベース５７１の上面の左端付近において上方へ開口しており、上端から誘導ユニットベース５７１の高さ方向中央付近まで垂直に下方へ延びた後に、右方へ屈曲し、誘導ユニットベ

ース５７１の左右方向の幅の間で折返しを繰返しながら蛇行状に下方へ延びて、誘導ユニットベース５７１の下面の左端付近において下方へ開口している。

【０６１２】

誘導通路５７０ａは、遊技球Ｂが流通する流通方向に対して、前後右方の奥行と、左右方向の幅とが、遊技球Ｂの外径よりも若干大きく形成されており、遊技球Ｂを一列で誘導することができる。

【０６１３】

球誘導ユニット５７０は、上部付近において、可動片部材５７３が誘導通路５７０ａ内へ進退可能に取付けられている。詳しくは、可動片部材５７３は、上部が誘導通路５７０ａの正面視右外側の部位で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、自重により下端の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出するように形成されている。この可動片部材５７３は、誘導通路５７０ａ内へ突出している部位に遊技球Ｂが当接することで、突出している部位が遊技球Ｂに押されて誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない状態となる。

【０６１４】

球切検知センサ５７４は、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出している時には、可動片部材５７３を検知せず、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない時には、可動片部材５７３を検知する。従って、球切検知センサ５７４は、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在している時には検知の状態となり、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在していない時には非検知の状態となる。

【０６１５】

球誘導ユニット５７０は、本体枠４に組立てた状態で、誘導通路５７０ａの上流端が、タンクレール５５３の下流端と連通していると共に、誘導通路５７０ａの下流端が、払出装置５８０の払出通路５８０ａの上流端と連通している。球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂを誘導する誘導通路５７０ａが蛇行状に延びていることから、球誘導ユニット５７０の全高によりも誘導通路５７０ａが長く延びており、誘導通路５７０ａ内に多くの遊技球Ｂを貯留することができる。また、球誘導ユニット５７０は、球切検知センサ５７４によって誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知することができるため、誘導通路５７０ａを介して球タンク５５２内の遊技球Ｂの有無を検知することができる。

【０６１６】

［４－７ｂ．払出装置］

払出ユニット５６０における払出装置５８０について、主に図７５乃至図７８等を参照して詳細に説明する。図７７は、払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図である。図７８（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。払出装置５８０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの後面の球誘導ユニット５７０の下側に後方から着脱可能に取付けられる。

【０６１７】

払出装置５８０は、後方へ開放された箱状で遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａ及び払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂを有している払出装置本体５８１と、払出装置本体５８１を後側から閉鎖している平板状の払出装置後蓋５８２と、払出装置本体５８１の前側に取付けられており後方へ開放された浅い箱状の払出装置前蓋５８３と、を備えている。

【０６１８】

また、払出装置５８０は、払出装置本体５８１の後面に取付けられており回転軸が払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間に突出している払出モータ５８４と、払出モータ５８４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア５８５と、駆動ギア５８５と噛合しており払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア５８６と、第一伝達ギア５８６と噛合しており払出装置本

体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア５８７と、第二伝達ギア５８７と噛合している平歯車状の払出ギア５８８ａ及び払出ギア５８８ａよりも外方へ延出している複数の検知片５８８ｂを有し払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間で回転可能に取付けられている払出ギア部材５８８と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間で払出ギア部材５８８と一体回転し払出通路５８０ａ内に突出している複数の羽根片５８９ａを有した払出羽根５８９と、払出装置本体５８１の後側に取付けられており払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知する羽根回転検知センサ５９０と、を備えている。

【０６１９】

更に、払出装置５８０は、払出通路５８０ａの下流端において払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって取付けられており遊技球Ｂを検知する払出検知センサ５９１と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって払出通路５８０ａから分岐する部位で球抜通路５８０ｂを開閉可能に取付けられている球抜可動片５９２と、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂを閉鎖している位置で保持可能とされており払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって上下方向へスライド可能に取付けられている球抜レバー５９３と、を備えている。

【０６２０】

払出装置５８０は、平面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。払出装置５８０は、左右方向の幅が、球誘導ユニット５７０の左右方向の幅よりも正面視右方へ大きく形成されている。

【０６２１】

払出装置５８０の払出通路５８０ａは、図７７に示すように、背面視において、上流端が左右方向の中央から左寄りの位置で上方へ開口しており、下流端が左右方向の右端付近の位置で下方へ開口している。払出通路５８０ａは、上流端から下方へ向かうに従って少しずつ左方へ移動するように上から全高の約１／３の高さほど下方へ斜めに延び、そこから右方やや斜め下へ折れ曲がった後に、左右の幅の約１／３のところで折れ曲がって払出羽根５８９の中心（回転軸）へ向かうように下方へ略垂直に延びている。そして、払出羽根５８９の中心よりも上側において、遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅で背面視右方へ折れ曲がった後に、払出羽根５８９の外周との間に遊技球Ｂよりも若干大きい隙間が形成されるように払出羽根５８９と同心円の円弧状に下方へ延びた上で、払出羽根５８９の中心よりも背面視右方の位置で下流端まで下方へ垂直に延びている。

【０６２２】

払出通路５８０ａ内において、払出羽根５８９よりも下方で下流端の直上に払出検知センサ５９１が配置されている。

【０６２３】

球抜通路５８０ｂは、払出通路５８０ａ内における上流端から斜め下方へ延びて右方へ折れ曲がっている部位で分岐して、背面視左辺に沿って下端まで垂直に延びており、底面の背面視における左端付近で下方へ開口している。

【０６２４】

払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２は、払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂとが分岐している部位における球抜可動片５９２が取付けられている側において、互いに対向し遊技球Ｂの外径よりも狭い隙間を形成するように夫々から後方及び前方へ突出していると共に、夫々が払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂの背面視における左側壁と連続するように形成されている本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａを備えている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、払出通路５８０ａにおける球抜通路５８０ｂと分岐して上から約１／３の高さの位置で背面視右方へ延びている部位の背面視左方の位置に形成されている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、背面視において左斜め上へ窪むように湾曲しており、主に球抜通路５８０ｂの側壁を構成するように形成されている。本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って球抜可動片５９２が回動する。

【０６２５】
　払出モータ５８４は、払出装置本体５８１における払出通路５８０ａが上流端から斜め下方へ延びている部位の背面視右方に取付けられている。駆動ギア５８５、第一伝達ギア５８６、第二伝達ギア５８７、及び払出ギア部材５８８は、払出装置本体５８１の前方に配置されており、前側が払出装置前蓋５８３によって被覆されている。払出ギア部材５８８は、外方へ延出している平板状の検知片５８８ｂが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。
【０６２６】
　払出羽根５８９は、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間に配置されている。払出羽根５８９は、外方へ平板状に延出している複数の羽根片５８９ａが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。羽根片５８９ａは、払出通路５８０ａ内における上方から回転軸に向かって延びた後に背面視右方へ延びている部位において、払出通路の側壁との間が遊技球Ｂの外径よりも狭くなるように、払出通路５８０ａ内へ突出している。払出羽根５８９は、三つの羽根片５８９ａの間に、中心側へ遊技球Ｂの半径よりも若大きい半径の円弧で窪んだ球収容部５８９ｂを備えている。この球収容部５８９ｂには、遊技球Ｂを一つのみ収容可能とされている。これにより、払出羽根５８９は、羽根片５８９ａによって払出通路５８０ａ内の遊技球Ｂが、払出羽根５８９よりも下流側へ移動するのを規制することができると共に、背面視時計回りの方向へ回転することで球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂを下流側へ移動させることができる。
【０６２７】
　払出ギア部材５８８と払出羽根５８９は、払出装置後蓋５８２と払出装置前蓋５８３とによって同軸上で一体回転可能に取付けられている。羽根回転検知センサ５９０は、背面視において、払出ギア部材５８８の回転軸の背面視左方に配置されている。羽根回転検知センサ５９０は、払出羽根５８９と一体回転する払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知することで、払出羽根５８９の回転を検知するためのものである。
【０６２８】
　球抜可動片５９２は、上端が、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの上端において前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。球抜可動片５９２は、く字状に屈曲しており、窪んでいる側が払出通路５８０ａ内を向くように取付けられている。球抜可動片５９２は、前後方向の奥行が、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間の隙間よりも小さく形成されており、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの間の隙間を通って、球抜通路５８０ｂ内へ突出したり球抜通路５８０ｂ外へ後退したりすることができる。
【０６２９】
　球抜レバー５９３は、球抜可動片５９２の上端付近の背面視左方において上下方向へスライド可能に、払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２に取付けられている。球抜レバー５９３は、一部が払出装置後蓋５８２を貫通して後方へ突出しており、その突出している部位を操作することで、スライドさせることができる。球抜レバー５９３は、下降端に位置させることで、下部が球抜可動片５９２と当接可能となり、球抜可動片５９２の背面視時計回りの方向への回動を規制することができ、球抜可動片５９２によって球抜通路５８０ｂを閉鎖させることができる。また、球抜レバー５９３は、上昇端に位置させることで、球抜可動片５９２を球抜通路５８０ｂの外側へ回動できるようにすることができ、球抜通路５８０ｂを開くことができる（図７８を参照）。
【０６３０】
　球抜レバー５９３を上昇させて球抜可動片５９２を回動可能な状態とすると、球抜可動片５９２の上流側で数珠繋ぎのような状態となっていた遊技球Ｂが、球抜可動片５９２を越えて球抜通路５８０ｂ側へ流下することとなる。この際に、球抜通路５８０ｂが払出通路５８０ａの上流側から真直ぐに直線状に延びているため、払出通路５８０ａの上流から流下してきた遊技球Ｂが、真直ぐに球抜通路５８０ｂ側へ流下すると共に、球抜通路５８０ｂの下流側が島設備側に連通していることから、払出羽根５８９のように遊技球Ｂの流

れを抑制するようなものがないため、遊技球Ｂが払出通路５８０ａ側よりも早く流下することとなる。
【０６３１】
このように、球抜可動片５９２を回動可能としている状態では、球抜通路５８０ｂ内を遊技球Ｂが早い速度で流下することから、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２の下端側に遊技球Ｂが勢い良く当接することとなるが、球抜可動片５９２が払出装置本体５８１の本体側ガイド壁５８１ａと払出装置後蓋５８２の後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの内面よりも外側へ移動することができることから、その当接の力によって球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの外側へ移動することとなるため、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの壁面と遊技球Ｂとの間に挟まれることはなく、遊技球Ｂにより球抜可動片５９２に強い力が作用しないようにすることができ、遊技球Ｂの衝突による球抜可動片５９２の耐久性の低下や破損を抑制させることができる。
【０６３２】
このようなことから、球抜可動片５９２を破損し難くすることができることから、球抜通路５８０ｂの下流側の島設備側へより多くの遊技球Ｂをより早く排出させることができるため、パチンコ機１の交換やメンテナンス等にかかる時間の増加を抑制させることができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【０６３３】
また、球抜可動片５９２が回動可能な状態の時に、球抜可動片５９２が遊技球Ｂよりも狭い間隔の本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの外側へ移動するため、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２に遊技球Ｂが当接することで球抜可動片５９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して外側へ移動する際に、球抜可動片５９２と一緒に遊技球Ｂが本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間側へ移動しても、遊技球Ｂよりも間隔の狭い本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間により、遊技球Ｂのみが外側への移動を阻止することができる。
【０６３４】
そして、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間によって遊技球Ｂの外側への移動が阻止されることで、球抜可動片５９２から遊技球Ｂが離れることとなり、その後の球抜可動片５９２の移動が慣性力によることとなるため、球抜可動片５９２に対して強い力が作用することはなく、球抜可動片５９２を破損し難くすることができると共に、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間から遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂの外側へ飛び出すことはなく、遊技球Ｂを球抜通路５８０ｂの下流側へ確実に流通させることができる。
【０６３５】
［４－７ｃ．上部満タン球経路ユニット］
払出ユニット５６０における上部満タン球経路ユニット６００について、主に図７５及び図７６等を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面下部で払出装置５８０の下側に後方から取付けられる。上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０から下方へ放出され遊技球Ｂを、下部満タン球経路ユニット６１０へ誘導するためのものである。上部満タン球経路ユニット６００は、正面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。
【０６３６】
上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベース５５１に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース６０１と、上部満タンベース６０１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー６０２と、上部満タンカバー６０２の上端付近に回転可能に取付けられており払出装置５８０を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材６０３と、を備えている。上部満タンベース６０１は、正面視右辺から右方へ突出しており、裏カバーを取付けるための裏カバー取付部６０１ａを備えている。

【０６３７】
　また、上部満タン球経路ユニット６００は、上面における正面視左端付近において上方へ開口しており下から全高の約２／３の高さの位置まで左辺に沿って下方へ延出している上部払出球受通路６００ａと、上部払出球受通路６００ａと連通しており正面視右方へ全幅の約３／４ほど延びていると共に下から全高の約１／６の高さまで下方へ延出している上部球貯留通路６００ｂと、上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視左側から下方へ延びており下面において下方へ開口している上部通常払出通路６００ｃと、上部通常払出通路６００ｃと隣接し上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視右側から下方へ延びており下面において下方へ開口している上部満タン払出通路６００ｄと、上面における正面視右端付近において上方へ開口して下方へ略垂直に延びた後に下面の右端付近において下方へ開口している上部球抜通路６００ｅと、を備えている（図８０を参照）。
【０６３８】
　上部満タン球経路ユニット６００は、下面において、正面視左側から、上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅが、順に並んで下方へ開口している。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、上部払出球受通路６００ａの上流端が、払出装置５８０における払出通路５８０ａの下流端の直下で開口しており、上部球抜通路６００ｅの上流端が、払出装置５８０における球抜通路５８０ｂの下流端の直下で開口している。これにより、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出（払出）された遊技球Ｂは、上部払出球受通路６００ａ及び上部球貯留通路６００ｂを通って、上部通常払出通路６００ｃ又は上部満タン払出通路６００ｄの何れかから下方へ放出される。また、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部球抜通路６００ｅを通って下方へ放出される。
【０６３９】
［４－７ｄ．下部満タン球経路ユニット］
　払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０について、主に図７５及び図７６等を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の底板部５５１ｇに載置されると共に、上部満タン球経路ユニット６００の下部に取付けられる。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００から下方へ放出された遊技球Ｂを、扉枠３側へ誘導したり、基板ユニット６２０側へ誘導したりするものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、前端側が低くなるように前後方向に延びていると共に、後端が上方へ延びている。
【０６４０】
　下部満タン球経路ユニット６１０は、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃを有しており前後方向に延びていると共に上方へ開放されている下部満タンベース６１１と、下部満タンベース６１１の上側に取付けられている下部満タンカバー６１２と、下部満タンベース６１１の前端に前後に延びた軸周りに回動可能に取付けられており下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を開閉可能としている払出通路開閉扉６１３と、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を閉鎖する方向へ払出通路開閉扉６１３を付勢している閉鎖バネ６１４と、を備えている。
【０６４１】
　下部満タン球経路ユニット６１０は、後端の上方へ延びている部位の上面に、正面視左から順に、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃが並んだ状態で、夫々の上流端が上方へ向かって開口している。下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂは、左右に並んだ状態で前方へ延びた上で、下部満タン球経路ユニット６１０の前端において前方へ向かって開口している。下部満タン払出通路６１０ｂは、下部通常払出通路６１０ａよりも若干低い状態で前方へ延びている。下部球抜通路６１０ｃは、下部満タン払出通路６１０ｂの正面視右側面に沿って前方へ延びており、前後方向の途中において右方へ向かって開口している。
【０６４２】

払出通路開閉扉６１３は、下部通常払出通路６１０ａと下部満タン払出通路６１０ｂとの夫々の前端開口の間の位置で回動可能に取付けられている。この払出通路開閉扉６１３は、閉鎖バネ６１４によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、通常の状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の前端開口（下流端開口）を閉鎖している。払出通路開閉扉６１３は、前方へ突出している作動突部６１３ａを備えている。作動突部６１３ａは、正面視の形状が、払出通路開閉扉６１３の回動中心を中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近付くに従って前方へ突出するように傾斜している。この作動突部６１３ａは、本体枠４に対して扉枠３を閉めた時に、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接するように形成されている。

【０６４３】

下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、後部上端において上方へ開口している下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、下部球抜通路６１０ｃが、夫々上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅの下流端の直下に位置している。これにより、上部通常払出通路６００ｃから下方へ放出された遊技球Ｂは、下部通常払出通路６１０ａを流通し、上部満タン払出通路６００ｄから下方へ放出された遊技球Ｂは下部満タン払出通路６１０ｂを流通し、上部球抜通路６００ｅから下方へ放出された遊技球Ｂは下部球抜通路６１０ｃを流通することとなる。

【０６４４】

また、下部満タン球経路ユニット６１０は、パチンコ機１に組立てた状態で、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端（下流端）が、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂの直後で開口している。また、下部球抜通路６１０ｃの下流端は、基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂにおける左方へ開口した球抜誘導部６２７と対向するように開口している。

【０６４５】

下部満タン球経路ユニット６１０は、通常の状態（本体枠４に対して扉枠３を閉じている状態）では、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接することで、閉鎖バネ６１４の付勢力に抗して正面視反時計回りの方向へ回動している。これにより、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が開いた状態となっており、ファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂと連通した状態となっている。

【０６４６】

一方、本体枠４に対して扉枠３を開いた状態とすると、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆから離れることとなり、払出通路開閉扉６１３が閉鎖バネ６１４の付勢力によって正面視時計回りの方向へ回動し、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が閉じられた状態となる。この状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂ内の遊技球Ｂが、夫々の前端開口から前方へ移動することができなくなる。これにより、本体枠４に対して扉枠３を開けても、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂから遊技球Ｂがこぼれることはない。

【０６４７】

［４－７ｅ．払出ユニットにおける遊技球Ｂの流れ］

続いて、払出ユニット５６０における遊技球Ｂの流れについて、主に図８０を参照して詳細に説明する。図８０は、本体枠における遊技球の流れを示す説明図である。払出ユニット５６０は、本体枠４に組立てた状態では、払出ベース５５１の後面に取付けられている。通常の状態では、払出装置５８０の球抜レバー５９３が下降端に位置しており、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂを分岐部分において閉鎖している。また、下部満タン球経路ユニット６１０では、払出通路開閉扉６１３が開状態となっている。

【０６４８】

上方へ開放されている球タンク５５２には、パチンコ機１を設置している遊技ホール島設備から、例えば、球誘導ユニット５７０の球切検知センサ５７４による球切れの検知に基づいて、所定数の遊技球Ｂが供給される。球タンク５５２に供給・貯留された遊技球Ｂは、タンクレール５５３によって一列に整列された状態で、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａを通って払出装置５８０の払出通路５８０ａ内へと送られる。払出モータ５８４が回転していない状態では、遊技球Ｂが払出羽根５８９よりも下流側へ移動（流下）することができず、払出羽根５８９よりも上流側に複数の遊技球Ｂが滞留した状態となる。

【０６４９】

そして、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂが可動片部材５７３を押圧し、球切検知センサ５７４が可動片部材５７３を検知することなる。これにより、少なくとも可動片部材５７３から払出羽根５８９までの間の通路内に遊技球Ｂが貯留されていることが判る。

【０６５０】

この状態で、払出モータ５８４により払出羽根５８９が背面視時計周りの方向へ回転すると、球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂが背面視時計回りの方向へ移動し、払出通路５８０ａにおける払出羽根５８９よりも下流側へ放出される。そして、払出羽根５８９（球収容部５８９ｂ）から放出された遊技球Ｂは、払出検知センサ５９１に検知された後に、上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへと送られる。

【０６５１】

上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへ送られた遊技球Ｂは、通常の状態では、上部球貯留通路６００ｂを通って、上部払出球受通路６００ａの直下に配置されている上部通常払出通路６００ｃへと流下する。そして、上部通常払出通路６００ｃへと流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ、扉枠３のファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを通って、皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａから上皿２０１内へ放出される。

【０６５２】

払出装置５８０から多くの遊技球Ｂが払出されて、上皿２０１内が遊技球Ｂで一杯になると、上皿球供給口２１１ａから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなるため、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ内に滞留するようになり、更に遊技球Ｂが払出されると、下部通常払出通路６１０ａと上流側で連通している上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ内にも滞留することとなる。そして、上部通常払出通路６００ｃ内が遊技球Ｂで一杯になった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、上部通常払出通路６００ｃの上流側で連通している上部球貯留通路６００ｂ内に遊技球Ｂが滞留し始める共に、遊技球Ｂが上部通常払出通路６００ｃと隣接している上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下し初める。

【０６５３】

そして、上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂを通って、扉枠３のファールカバーユニット１５０における満タン球受口１５０ｂに受けられる。その後、満タン球受口１５０ｂに受けられた遊技球Ｂは、貯留通路１５０ｅ、球放出口１５０ｄ、及び皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内へ放出される。これにより、上皿２０１が遊技球Ｂで満タンになった状態で、更に遊技球Ｂが払出された場合、遊技球Ｂを自動的に下皿２０２へ払出させることができる。

【０６５４】

なお、下皿２０２が遊技球Ｂで一杯になって、下皿球供給口２１１ｃから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、下皿球供給口２１１ｃの上流側のファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内に遊技球Ｂが滞留して貯留されることとなる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、可動片１５３が可動して満タン検知センサ１５４に検知され、上皿２０１

及び下皿２０２が遊技球Ｂで満杯（満タン）になっていることを遊技者に音声（例えば「球を抜いてください！」等）で案内すると共に、払出装置５８０の払出モータ５８４を、満タン検知センサ１５４が非検知の状態となるまで一時的に停止させる。

【０６５５】

パチンコ機１のメンテナンスや交換等の際に、球タンク５５２内に貯留されている遊技球Ｂをパチンコ機１から排出する場合は、払出装置５８０の球抜レバー５９３を下降端の位置から上方へスライドさせて上昇端の位置の状態とする。その後、球抜可動片５９２の下端側が遊技球Ｂに押されて、背面視時計回りの方向へ回動することとなり、球抜可動片５９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って、球抜通路５８０ｂの外側へ押し出された状態となる。これにより、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂへ遊技球Ｂが進入可能となり、上流側の遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂを通って下方へ放出される。

【０６５６】

この際に、球抜可動片５９２の部位では、流下する遊技球Ｂが、球抜可動片５９２よりも本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａに強く当接するため、球抜可動片５９２が破損し難くなっている。

【０６５７】

そして、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部満タン球経路ユニット６００の上部球抜通路６００ｅ、及び下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃを通って、下部球抜通路６１０ｃの下流端開口から基板ユニット６２０の球抜誘導部６２７へ放出された後に、排出球受部６２８及び球排出口６２９を通ってパチンコ機１の後方外部（遊技ホールの島設備側）に排出される。

【０６５８】

［４－８．基板ユニット］

本体枠４における基板ユニット６２０について、主に図８１乃至図８５等を参照して詳細に説明する。図８１（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。図８２は、基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。図８３は基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図８４は基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図８５は、左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている。

【０６５９】

基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０６６０】

スピーカユニット６２０ａは、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカカバー６２１と、スピーカカバー６２１の後面における正面視左端付近において前方へ向けて取付けられている本体枠スピーカ６２２と、本体枠スピーカ６２２の後側を覆うようにスピーカカバー６２１の後側に取付けられており前方へ開放された容器状のスピーカボックス６２３と、を備えている。

【０６６１】

スピーカカバー６２１は、左右方向へ延びており、正面視左端付近において前後に貫通しており上下に延びた複数のスリットにより構成されている円形状のスピーカ取付部６２

１ａと、スピーカ取付部６２１ａの正面視右方側で後方から前方へ膨出するように窪んでいる空間用前凹部６２１ｂと、空間用前凹部６２１ｂの下面から下方へ突出していると共に左右方向へ延びており斜め下後へ向けて開口している接続部６２１ｃと、を備えている。

【０６６２】

スピーカカバー６２１のスピーカ取付部６２１ａに、後側から本体枠スピーカ６２２が前方へ向けて取付けられる。また、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃは、下端が外枠２の外枠下組立体４０における幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端と一致するように４５度の角度で傾斜している。本体枠スピーカ６２２は、主に低音を出力するコーン型スピーカとされている

【０６６３】

スピーカボックス６２３は、前方へ開放された容器状に形成されており、本体枠スピーカ６２２の後側となる部位が後方へ最も大きく突出しており、正面視右方へ向かうに従って、階段状に後方への突出が小さくなるように形成されている。これにより、スピーカボックス６２３の正面視中央より右側の後方の空間を十分に確保することができ、ベースユニット６２０ｂや電源ユニット６２０ｃ等が配置できるようにしている。スピーカボックス６２３は、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃを除いた後面の全体を被覆する（閉じる）ように形成されている。

【０６６４】

スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１とスピーカボックス６２３とで本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されるサウンドを封じ込めるエンクロージャ６２４の一部を形成している。このエンクロージャ６２４は、スピーカカバー６２１においてスピーカ取付部６２１ａの正面視右方に前方へ膨出した空間用前凹部６２１ｂが形成されていることから、スピーカボックス６２３が右方へ向かうに従って後方への突出量が小さくなるように階段状に形成されていても、本体枠スピーカ６２２よりも右方の空間を充分に広く確保されている。

【０６６５】

スピーカユニット６２０ａは、外枠２に対して本体枠４を閉じた状態とすると、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃがシール部材４８を挟むように接続筒部４３ａに接続され、本体枠スピーカ６２２の後方の空間と、外枠２の幕板内部空間４０ａとが連通した状態となる。従って、本体枠スピーカ６２２の後側に、スピーカカバー６２１、スピーカボックス６２３、幕板前部材４２、及び幕板後部材４３によって、広い空間のエンクロージャ６２４を形成することができ、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ出力（放射）させることができる。

【０６６６】

詳述すると、上述したように、スピーカユニット６２０ａでは、本体枠スピーカ６２２の後方の空間（エンクロージャ６２４の一部）を、比較的広い奥行で正面視右方まで延出させて、接続部６２１ｃ及び接続筒部４３ａを介して外枠下組立体４０側へ連通させていることから、本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されたサウンドにおいて、特に低音域を減衰させることなく、外枠下組立体４０側へ伝達させることができると共に、伝達された低音域を二つのポート部材４７を通すことで共振・増幅させて幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射することができる。

【０６６７】

この際に、幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射されるサウンドは、位相が反転された状態で、放射されるようにしているため、本体枠スピーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されたサウンドに対して、増幅させるように共振することとなり、本体枠スピーカ６２２の口径が小さくても重低音が響く大きなサウンドを出力することができる。

【０６６８】

つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。これにより、本体枠スピ

ーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されるサウンドと、本体枠スピーカ６２２の後面から出力されて外枠２のグリル部材４６から放射されるサウンドとによって、豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。

【０６６９】

また、スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１に、スピーカ取付部６２１ａの下部と空間用前凹部６２１ｂとの間の位置で前後方向に貫通している貫通口６２１ｄが形成されていると共に、スピーカボックス６２３に、貫通口６２１ｄと連通して筒状に延びており前後に貫通している貫通筒６２３ａが形成されている。スピーカユニット６２０ａに組立てた状態では、貫通口６２１ｄと貫通筒６２３ａが互いに連通し、エンクロージャ６２４とは独立した状態となる。これら貫通口６２１ｄ及び貫通筒６２３ａには、接続ケーブル５０３が挿通される。

【０６７０】

基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂは、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられる前ベース６２５と、前ベース６２５の後側に取付けられており後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられる後ベース６２６と、を備えている。

【０６７１】

また、ベースユニット６２０ｂは、前ベース６２５と後ベース６２６とで協働して形成しており、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導する球抜誘導部６２７と、球抜誘導部６２７の下流側で正面視右方において上方へ開口しており遊技盤５から下方に排出された遊技球Ｂを受ける排出球受部６２８と、球抜誘導部６２７及び排出球受部６２８を通った遊技球Ｂを下方へ排出する球排出口６２９と、を備えている。

【０６７２】

球抜誘導部６２７は、上流端が正面視において左側面の上部に左方へ向けて開口しており、下流端が排出球受部６２８の左端側に開口している。球抜誘導部６２７は、本体枠４に組立てた状態で、上流端の開口が、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃの下流端開口と一致するように対向しており、下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って、排出球受部６２８へ誘導することができる。

【０６７３】

排出球受部６２８は、上方へ開放されていると共に、左右に長く延びている。排出球受部６２８の底面は、正面視左端が球抜誘導部６２７の底面と連続しており、右方へ向かうに従って低くなるように傾斜している。

【０６７４】

ベースユニット６２０ｂは、球タンク５５２から抜かれた遊技球Ｂや、遊技盤５から排出された遊技球Ｂを、球抜誘導部６２７や排出球受部６２８によって正面視右方へ誘導した後に、球排出口６２９から下方へ排出するようにしているため、正面視において左右方向中央より左側の空間を広く確保し易くすることができる。これにより、スピーカユニット６２０ａのエンクロージャ６２４の空間を広くすることができ、従来のパチンコ機よりも豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。

【０６７５】

基板ユニット６２０の電源ユニット６２０ｃは、ベースユニット６２０ｂの後ベース６２６の後側に取付けられている電源基板６３０と、電源基板６３０の後側を覆うように後ベース６２６に取付けられている電源基板カバー６３１と、を備えている。

【０６７６】

払出制御ユニット６２０ｄは、電源ユニット６２０ｃにおける電源基板カバー６３１の後側に着脱可能に取付けられる箱状の払出制御基板ボックス６３２と、払出制御基板ボックス６３２内に収容されている払出制御基板６３３（図８５を参照）と、を備えている。払出制御基板６３３は、皿ユニット２００における球貸操作ユニット２２０の球貸ボタン

２２４の押圧操作や、遊技盤５の主制御基板１３１０等からの払出コマンドに応じて、払出装置５８０の払出モータ５８４を制御して、指示された数の遊技球Ｂを遊技者側（上皿２０１又は下皿２０２）に払出すためのものである。払出制御基板ボックス６３２は、開閉の痕跡が残るように形成されている。これにより、払出制御基板６３３に対する不正な改造を察知することができ、不正行為に対する抑止力を高めている。

【０６７７】

インターフェイスユニット６２０ｅは、スピーカユニット６２０ａにおけるスピーカボックス６２３の後側に取付けられている基板ベース６３４と、基板ベース６３４の後面に取付けられているインターフェイス基板６３５と、インターフェイス基板６３５の後側を覆うように基板ベース６３４に取付けられているインターフェイス基板カバー６３６と、を備えている。

【０６７８】

基板ベース６３４は、スピーカボックス６２３の後面における本体枠スピーカ６２２の後方となる後方へ最も突出している部位に取付けられている。インターフェイス基板６３５は、接続ケーブル５０３の一方（本体枠４側）の端部が接続されている。インターフェイス基板６３５は、電源基板６３０、払出制御基板６３３、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、等が接続されると共に、パチンコ機１の外部に設置されているＣＲユニットと接続される。インターフェイス基板カバー６３６は、払出制御ユニット６２０ｄの一部を覆うように基板ベース６３４（インターフェイス基板６３５）よりも正面視右方へ延出している。

【０６７９】

［４－９．裏カバー］

本体枠４における裏カバー６４０について、主に図６４乃至図７０を参照して詳細に説明する。裏カバー６４０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ内に前方から挿入されて取付けられた遊技盤５の後側を覆うものである。裏カバー６４０は、正面視における右辺が、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの上下に延びている後端に、上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられ、左辺が、払出ベース５５１の裏カバー取付部５５１ｉと上部満タン球経路ユニット６００の裏カバー取付部６０１ａとに取付けられる。

【０６８０】

裏カバー６４０は、上下左右に延びた平板の正面視右辺側が前方へ折り曲げられたような形状に形成されており、本体枠４に組立てた状態で、後面が払出ベース５５１の背板上部５５１ｄの後面と略同一面上に位置するように形成されている。裏カバー６４０は、前後に貫通し上下に延びている複数のスリット６４１が形成されている。本実施形態では、裏カバー６４０は、透明な合成樹脂によって形成されており、パチンコ機１の後側から本体枠４内を視認することができる。

【０６８１】

［４－１０．施錠ユニット］

本体枠４における施錠ユニット６５０について、主に図８６を参照して詳細に説明する。図８６（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニットを後ろから見た斜視図である。施錠ユニット６５０は、本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられ、本体枠４と扉枠３、本体枠４と外枠２、との間を施錠するものである。

【０６８２】

施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、ユニットベース６５１の前端下部から前方へ突出しており回転方向によって扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、を備えている。

【０６８３】

また、施錠ユニット６５０は、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、ユニットベース６５１の前端における伝達シリンダ６５４よりも上方の位置から前方へ突出しており下方へスライドさせることで、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。

【０６８４】

施錠ユニット６５０は、本体枠４に組立てた状態で、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２、伝達シリンダ６５４、及び外枠用開錠レバー６５６が、本体枠ベース５０１の前面よりも前方へ突出している。伝達シリンダ６５４は、本体枠ベース５０１のシリンダ挿通口５０１ｆを通って前方へ突出し、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすることで、前端が扉枠３のシリンダ錠１３０の回転伝達部材１３３と係合し、鍵穴１３２に挿入された鍵の回転が伝達されて回転する。

【０６８５】

施錠ユニット６５０は、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠補強ユニット１１０の鉤掛部材１１６に係止され、複数（二つ）の外枠用鉤６５３が、外枠２における外枠右組立体２０の上鉤掛部材２４と下鉤掛部材２５とに係止される。

【０６８６】

施錠ユニット６５０は、パチンコ機１に組立てた状態で、シリンダ錠１３０の鍵穴１３２に対応している鍵を差し込んで、正面視反時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の扉枠用鉤６５２が上方へ移動し、本体枠４に対して扉枠３が開錠される。一方、鍵を正面視時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。本体枠４に対して扉枠３を開いた状態では、外枠用開錠レバー６５６を下方へスライドさせると、複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。このようにして、本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間の施錠を、開錠することができる。

【０６８７】

本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間を施錠する場合は、扉枠用鉤６５２及び外枠用鉤６５３の先端側が細くなるように傾斜しているため、本体枠４に対して扉枠３を閉じたり、外枠２に対して本体枠４を閉じたりすると、扉枠用鉤６５２や外枠用鉤６５３が、鉤掛部材１１６や上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５を乗り越えるように下方や上方へ移動した後に、錠バネ６５５の付勢力によって施錠状態となる。

【０６８８】

［４－１１．基板ユニットの第二実施形態］

次に、上記とは更に異なる第二実施形態の基板ユニット７００について、図８７乃至図９２等を参照して詳細に説明する。図８７（ａ）は電源ユニット、払出制御ユニット、及びインターフェイスユニットを省略して示す第二実施形態の基板ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを左前から見た斜視図である。図８８（ａ）は図８７の基板ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）の基板ユニットを右下後ろから見た斜視図である。図８９（ａ）は図８７の基板ユニットの平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるコ－コ線で切断した断面図であり、（ｃ）は（ａ）におけるサ－サ線で切断した断面図であり、図９０は図８９（ａ）におけるシ－シ線で切断した断面図である。図９１は図８７の基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図９２は図８７の基板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０６８９】

第二実施形態の基板ユニット７００は、上記の基板ユニット６２０とはベースユニット７１０の構成が異なるのみで、その他の構成については同一であるため、ここでは、上記の基板ユニット６２０と同様の構成については、同じ符号を付し、詳細な説明は省略する。また、図８７乃至図９２では、電源ユニット６２０ｃ、払出制御ユニット６２０ｄ、及びインターフェイスユニット６２０ｅの図示を省略している。

【０６９０】
本実施形態の基板ユニット７００は、上記の基板ユニット６２０に換えて、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられるものである。基板ユニット７００は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット７１０と、ベースユニット７１０の後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。
【０６９１】
この基板ユニット７００は、遊技盤５から下方へ放出された遊技球Ｂが流通可能な第一球経路７０１と、第一球経路７０１よりも後方に設けられており遊技盤５から下方へ放出された遊技球Ｂが流通可能な第二球経路７０２と、第一球経路７０１を流通している遊技球Ｂを検知する第一球センサ７０３と、第二球経路７０２を流通している遊技球Ｂを検知する第二球センサ７０４と、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂが流通する球抜通路７０５と、を備えている。第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、夫々入口が上方へ向けて開口しており、夫々において第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４で遊技球Ｂを一つずつ検知した上で下方へ排出する。
【０６９２】
本実施形態では、遊技盤５において、アウト口１００８、サブアウト口２０２３に受入れられた遊技球Ｂが、第一球経路７０１を流通し、遊技盤５において、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂが、第二球経路７０２を流通するように構成されている。つまり、アウト球が第一球経路７０１を流通し、セーフ球が第二球経路７０２を流通するように構成されており、第一球センサ７０３により全てのアウト球の数をカウントすることができると共に、第二球センサ７０４により全てのセーフ球の数をカウントすることができる。これにより、遊技盤５の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６等の入賞口（入賞口センサ）に対して不正行為が行われた場合、遊技盤５側でのセーフ球の数と、第二球センサ７０４によりカウントされるセーフ球の数とが異なることとなり、入賞口に対する不正行為を検知することができる。
【０６９３】
更に詳述すると、基板ユニット７００のベースユニット７１０は、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うようにスピーカカバー６２１の後側に取付けられる前ベース７１１と、前ベース７１１の後側に取付けられていると共に後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられ球抜通路７０５を有している後ベース７１２と、前ベース７１１と後ベース７１２との間に設けられており第一球経路７０１及び第二球経路７０２を有している球経路部材７１３と、第一球経路７０１及び第二球経路７０２内における遊技球Ｂの球詰りを解消させると共に不正工具の侵入を防止するために前ベース７１１及び後ベース７１２に開閉可能に設けられている防犯カバー７１４と、後ベース７１２の後側に取付けられ球抜通路７０５の後端側を閉鎖している通路壁部材７１５と、後ベース７１２の後側に取付けられている枠中継基板７１６と、を備えている。ベースユニット７１０において、前ベース７１１、後ベース７１２、球経路部材７１３、及び通路壁部材７１５は、透明に形成されている。
【０６９４】
前ベース７１１は、後方及び上方に開放された左右に長い箱状に形成されている。前ベース７１１は、内部に球経路部材７１３が後方から収容される。前ベース７１１は、前壁によって球経路部材７１３の第一球経路７０１の前端側を閉鎖している。前ベース７１１は、上側の周壁部において左右方向へ長く開口している球受口７１１ａと、下側の周壁部

の左右方向中央から右寄りの位置において開口している解消口７１１ｂと、を有している。前ベース７１１は、内部に球経路部材７１３を収容した状態で、球受口７１１ａから球経路部材７１３の第一球経路７０１及び第二球経路７０２が上方へ臨んでいる。また、前ベース７１１は、解消口７１１ｂの前端側において、防犯カバー７１４を左右方向に延びた軸周りに回転可能に支持している。

【０６９５】

後ベース７１２は、後方に開放された左右に長い箱状に形成されている。後ベース７１２は、前壁によって球経路部材７１３の第二球経路７０２の後端側を閉鎖している。後ベース７１２は、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導した上で下方へ誘導して排出する球抜通路７０５を、有している。球抜通路７０５は、箱状の後ベース７１２内に設けられており、全体が後方へ開放されている。球抜通路７０５は、通路壁部材７１５によって後端側が閉鎖されている。後ベース７１２の球抜通路７０５におけるスピーカボックス６２３よりも上側に位置している部位（正面視左端側の部位）は、前後方向に貫通しており、前端側が前ベース７１１により閉鎖されていると共に、後側が通路壁部材７１５により閉鎖されている。

【０６９６】

また、後ベース７１２は、球経路部材７１３の第一球経路７０１を流通した遊技球Ｂを受取って後方へ誘導した後に下方へ排出する第一排出誘導部７１２ａと、球経路部材７１３の第二球経路７０２を流通した遊技球Ｂを受取って後方へ誘導した後に下方へ排出する第二排出誘導部７１２ｂと、を有している。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの入口側は、後ベース７１２の前壁よりも前方へ突出しており、第一排出誘導部７１２ａの入口が前方へ向かって開口していると共に、第二排出誘導部７１２ｂの入口が上方へ向かって開口している。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口は、前後方向が同じ位置に設けられている。第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂは、前壁よりも後側が後方へ開放されており、通路壁部材７１５により後端側が閉鎖されている。

【０６９７】

後ベース７１２は、球抜通路７０５、第一排出誘導部７１２ａ、及び第二排出誘導部７１２ｂの夫々の出口が、前ベース７１１の解消口７１１ｂよりも正面視左方に位置しており、左から右へ順番に並んで設けられている。球抜通路７０５の出口は、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口に対して、前端側が前方へ大きく広がっていると共に後端側が後方へ小さく広がっている（図８８（ｂ）を参照）。つまり、球抜通路７０５の出口は、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口よりも前後方向が大きく（広く）形成されている。

【０６９８】

球経路部材７１３は、箱状の前ベース７１１内に後方から挿入されて収容されるものである。球経路部材７１３は、第一球経路７０１と第二球経路７０２とを有している。球経路部材７１３は、右端において上端から下方へ垂直に延出している左壁部７１３ａと、左壁部７１３ａの下端から右方へ向かって低くなるように傾斜している上左棚部７１３ｂと、上左棚部７１３ｂの右端から下方へ垂直に延出している段壁部７１３ｃと、段壁部７１３ｃの下端から右方へ向かって低くなるように傾斜している上右棚部７１３ｄと、上右棚部７１３ｄの右端から斜め左下へ延出している整流壁部７１３ｅと、整流壁部７１３ｅの下端に対して右方へ離隔している位置から右方へ向かって高くなると共に上右棚部７１３ｄよりも右方に延出している下棚部７１３ｆと、下棚部７１３ｆの右端から左壁部７１３ａの上端と略同じ高さまで垂直に上方へ延出している右壁部７１３ｇと、右壁部７１３ｇの上端から上右棚部７１３ｄの右端と同じ位置まで左方へ延出している上壁部７１３ｈと、上壁部７１３ｈの左端に接続されており上方へ開放されたコ字状の溝壁部７１３ｉと、を有している。溝壁部７１３ｉの左端は、上右棚部７１３ｄの左右方向中央に対して右寄りの部位に位置している。

【０６９９】

また、球経路部材７１３は、整流壁部７１３ｅの下端から左方へ延出している下壁部上７１３ｊと、下壁部上７１３ｊの左端から上左棚部７１３ｂの下面まで垂直に上方へ延出している中壁部７１３ｋと、中壁部７１３ｋの左側面の途中から左方へ向かって低くなるように延出している庇部７１３ｌと、下棚部７１３ｆの左端付近から下方へ短く垂直に延出している垂下壁部７１３ｍと、垂下壁部７１３ｍの下端から下壁部上７１３ｊと平行に左方へ延出している下壁部下７１３ｎと、を有している。下壁部下７１３ｎにおける整流壁部７１３ｅの下端と下棚部７１３ｆの左端との間の下方に位置する部位は、遊技球Ｂが通過可能な大きさで上下に切欠かれている。

【０７００】

更に、球経路部材７１３は、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの夫々の下面から下方へ延出しており、左右方向に間隔をあけて設けられている複数の阻害リブ７１３ｏを、有している。また、球経路部材７１３は、左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、下壁部上７１３ｊ、中壁部７１３ｋ、垂下壁部７１３ｍ、下壁部下７１３ｎで囲まれている空間を前後に仕切っている平板状の仕切壁部７１３ｐを、有している。

【０７０１】

また、球経路部材７１３は、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆにおいて、夫々の前端と後端から仕切壁部７１３ｐ側へ向かって凹むように切欠かれている複数の切欠部７１３ｑを、有している。夫々の切欠部７１３ｑは、基板ユニット７００に組立てた時に、前ベース７１１や後ベース７１２との間に、遊技球Ｂの半径よりも前後方向が小さい隙間が形成されるように設けられており、当該隙間を通して第一球経路７０１内や第二球経路７０２内のゴミや塵等を下方へ排出させることができる。

【０７０２】

また、球経路部材７１３は、仕切壁部７１３ｐの前面における整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間の部位に設けられており、左右に延びている複数の案内突条７１３ｒを、有している。

【０７０３】

更に、球経路部材７１３は、仕切壁部７１３ｐよりも前側において、下壁部上７１３ｊ、垂下壁部７１３ｍ、及び下壁部下７１３ｎにより囲まれており、第一球センサ７０３が収容されるセンサ収容部前７１３ｓと、仕切壁部７１３ｐよりも後側において、下壁部上７１３ｊ、垂下壁部７１３ｍ、及び下壁部下７１３ｎにより囲まれており、第二球センサ７０４が収容されるセンサ収容部後７１３ｔと、を有している。

【０７０４】

センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔには、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の検知孔が、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に部位の下方に位置するように、つまり、検知孔を右側にした状態で、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４が収容される。図示は省略するが、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４から延びている配線ケーブルは、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔから中壁部７１３ｋよりも左方へ延出している。

【０７０５】

また、球経路部材７１３は、下壁部下７１３ｎの下面における仕切壁部７１３ｐよりも前方の部位に設けられており、下方へ突出していると共に後方へ開放されている第一球誘導部７１３ｕを、有している。第一球誘導部７１３ｕは、基板ユニット７００に組立てた時に、後端側の右半分が後ベース７１２の前面により閉鎖されると共に、左半分が後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａの入口側に臨んでいる。第一球誘導部７１３ｕは、仕切壁部７１３ｐの前方において、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間から下方へ流下した遊技球Ｂを、右方へ誘導した後に後方へ誘導して、後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａに受け渡すことができる。

【０７０６】

一方、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐよりも後側では、下壁部下７１３ｎの下方へ開放されている部位（センサ収容部後７１３ｔに収容されている第二球センサ７０４の検知孔の部位）の下方には、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂの上方へ向かって開口している入口が位置する。これにより、仕切壁部７１３ｐの後方において、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間から下方へ流下した遊技球Ｂを、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂに受け渡すことができる。

【０７０７】

上左棚部７１３ｂの右端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの左端よりも若干右寄りに位置している。上右棚部７１３ｄの右端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの右端よりも右寄りに位置している。下棚部７１３ｆの左端は、前ベース７１１における解消口７１１ｂの左端よりも左方に位置している。従って、前ベース７１１の解消口７１１ｂの直上の上方は、整流壁部７１３ｅによって覆われている。上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆは、直線状に傾斜している。一方、整流壁部７１３ｅは、曲線状に傾斜しており、左端側が下方へ垂直に向くように湾曲している。整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間の距離（高さ）は、左端側が一つの遊技球Ｂが通過可能な高さとなるように、左方へ向かうに従って狭くなるように傾斜している。この整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとにより複数の遊技球Ｂを一列に整流して下方へ誘導することができる。

【０７０８】

整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間は、上述したように、左方（遊技球Ｂが流通する下流の方向）へ向かうに従って上下の寸法が狭くなるように形成されているため、遊技球Ｂの流通量等によっては複数の遊技球Ｂが整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に噛み込んで、球詰りが発生する恐れがある。この整流壁部７１３ｅは、解消口７１１ｂの上方に位置していることから、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した場合、防犯カバー７１４を開いて解消口７１１ｂを開放させた状態とし、下方から解消口７１１ｂ及び下棚部７１３ｆの切欠部７１３ｑを通して棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入し、その工具より噛み込んだ遊技球Ｂを突くことで球詰りを解消させることができる。

【０７０９】

ところで、下棚部７１３ｆには、球詰りを解消させたりゴミや塵を下方へ落下させたりするための切欠部７１３ｑが設けられているため、ピアノ線やカテーテル等のような線状の不正工具を下方から切欠部７１３ｑを通して下棚部７１３ｆの上方（第一球経路７０１や第二球経路７０２）へ侵入させ、更に不正工具の先端を、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）から上方へ延出させて、上方に設けられている遊技盤５に対して不正行為が行われる恐れがある。このような不正工具の挿入は、下棚部７１３ｆに限らず、切欠部７１３ｑが設けられている上左棚部７１３ｂや上右棚部７１３ｄにおいても同様の危惧がある。

【０７１０】

これに対して、本実施形態では、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面には、左右方向に離隔し下方へ延出している複数の平板状の阻害リブ７１３ｏを設けているため、線状の不正工具の先端が、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面を伝って移動しようとしても、阻害リブ７１３ｏに当接して先端の移動を阻止することができ、これ以上の不正工具の挿入を阻止することができる。従って、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）を通した遊技盤５への不正行為の実行を防止することができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができると共に、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０７１１】

なお、上右棚部７１３ｄと上左棚部７１３ｂにおける中壁部７１３ｋよりも右側の部位では、それらの下方及び左右の側方が、切欠部７１３ｑが設けられていない整流壁部７１

３ｅ、下壁部上７１３ｊ、及び中壁部７１３ｋにより閉鎖されているため、上右棚部７１３ｄと上左棚部７１３ｂの該当部位の切欠部７１３ｑを通して下方から不正工具が挿入されることはなく、当該部位の切欠部７１３ｑを介して不正行為が行わることはない。

【０７１２】

球経路部材７１３は、上述したように、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆに複数の切欠部７１３ｑが設けられているため、切欠部７１３ｑを通してゴミや塵を下方へ排出することができる。上左棚部７１３ｂにおけるセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔの上方に位置している切欠部７１３ｑを通して下方へ排出されたゴミ等は、整流壁部７１３ｅ、下壁部上７１３ｊ、及び中壁部７１３ｋにより囲まれた空間内に収容される。これにより、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔに収容されている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４に対して、ゴミ等が付着することはない。

【０７１３】

また、センサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔに収容されている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の左端側には、配線ケーブルがコネクタにより接続されており、配線ケーブル及びコネクタがセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔから左方へ突出している。つまり、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の配線ケーブル及びコネクタが中壁部７１３ｋよりも左方に突出している。この中壁部７１３ｋでは、左側面におけるセンサ収容部前７１３ｓ及びセンサ収容部後７１３ｔの上方の部位から庇部７１３ｌが左方へ延出しているため、上方の上左棚部７１３ｂに形成されている切欠部７１３ｑを通して下方へ落下したゴミや塵が、庇部７１３ｌの傾斜により左方へ誘導され、中壁部７１３ｋよりも左方に突出している第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４の配線ケーブル及びコネクタに落下することを防止することができ、ゴミ等を起因とする不具合の発生を回避させることができる。

【０７１４】

ベースユニット７１０は、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐの前方側の左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、第一球誘導部７１３ｕ、及び後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａにより第一球経路７０１を形成していると共に、球経路部材７１３における仕切壁部７１３ｐの後方側の左壁部７１３ａ、上左棚部７１３ｂ、段壁部７１３ｃ、上右棚部７１３ｄ、整流壁部７１３ｅ、下棚部７１３ｆ、右壁部７１３ｇ、溝壁部７１３ｉ、及び後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂにより第二球経路７０２を形成している。

【０７１５】

防犯カバー７１４は、平板状に形成されており、前端側が左右方向の軸周りに対して回転可能な状態で前ベース７１１の解消口７１１ｂの前端付近に取付けられている。また、防犯カバー７１４は、後端側に、後ベース７１２に係止される弾性係止部７１４ａを有している。図９０に示すように、この防犯カバー７１４は、弾性係止部７１４ａを後ベース７１２に係止して水平にした状態では、解消口７１１ｂを閉鎖しており、弾性係止部７１４ａの係止を解除して後端側が下方へ位置するように回転させて垂直にした状態では、解消口７１１ｂを開放している。つまり、防犯カバー７１４により、解消口７１１ｂを開閉させることができる。

【０７１６】

防犯カバー７１４は、閉じた状態とすることで前ベース７１１の解消口７１１ｂを閉鎖することができるため、解消口７１１ｂから線状の不正工具が球経路部材７１３内（第一球経路７０１や第二球経路７０２）へ挿入されることを防止することができる。また、防犯カバー７１４は、球経路部材７１３の整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した時に、開いた状態とすることで、前ベース７１１の解消口７１１ｂを開放させることができるため、下方から解消口７１１ｂ及び下棚部７１３ｆの切欠部７１３ｑを通して棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入して遊技球Ｂの球詰

りを解消させることができる。この球詰りの解消作業は、外枠２に対して本体枠４を前方へ開いた状態で実施される。

【０７１７】

この防犯カバー７１４は、解消口７１１ｂを開放させた状態（垂直にした状態）では、下端（弾性係止部７１４ａ側の端部）が、接触危惧物（ここでは、外枠２における幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）の高さ（図９０において一点鎖線で示す高さ）よりも下方に位置している。従って、球経路部材７１３内での遊技球Ｂの球詰りを解消させるために、外枠２に対して本体枠４を前方へ開いた後に、防犯カバー７１４を開けたままの状態で本体枠４を外枠２に対して閉じようとしても、開いている防犯カバー７１４が接触危惧物（幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）に当接し、本体枠４を閉じることができない。これにより、防犯カバー７１４の閉め忘れを回避させることができ、防犯カバー７１４を確実に閉じさせて、防犯カバー７１４による防犯機能を発揮させることができる。

【０７１８】

また、本実施形態では、外枠２に対して本体枠４を閉じている時に、何らかの理由により防犯カバー７１４が開いた場合、そのままの状態で本体枠４を外枠２に対して開いても、開いている防犯カバー７１４に前方から接触危惧物が当接することとなるが、防犯カバー７１４の前端側が左右方向の軸周りに対して回転可能に取付けられていることから、前方から接触危惧物が当接すると防犯カバー７１４が閉じる方向へ回転するため、防犯カバー７１４が接触危惧物に引っ掛かることなく本体枠４を開くことができ、防犯カバー７１４や接触危惧物の破損を回避させることができる。

【０７１９】

なお、本実施形態の防犯カバー７１４は、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間での遊技球Ｂの球詰りの発生が稀であり、閉じたままの状態を基本としているため、開き難いように弾性係止部７１４ａによる係止が硬めに設定されている。

【０７２０】

通路壁部材７１５は、後ベース７１２の後側に取付けられており、後方へ開放されている球抜通路７０５の後端側を閉鎖している。また、通路壁部材７１５は、後ベース７１２における第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂの出口側において後方へ開放されている部位を閉鎖しており、第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂを流通してきた遊技球Ｂを下方へ排出させることができる。更に、通路壁部材７１５は、後ベース７１２とで枠中継基板７１６を挟持していると共に、枠中継基板７１６の後側を覆っている。

【０７２１】

枠中継基板７１６は、後ベース７１２と通路壁部材７１５との間に挟持されている。枠中継基板７１６は、扉枠３のハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、第一球センサ７０３、及び第二球センサ７０４と、主制御基板１３１０との接続を中継するためのものである。

【０７２２】

本実施形態のベースユニット７１０は、図８９（ａ）に示すように、前ベース７１１の球受口７１１ａから、球経路部材７１３の上左棚部７１３ｂと上右棚部７１３ｄの一部とが上方へ臨んでおり、遊技盤５から下方へ放出された全ての遊技球Ｂを受取ることができる。球受口７１１ａを通して上左棚部７１３ｂや上右棚部７１３ｄに落下した遊技球Ｂは、右方へ転動して上右棚部７１３ｄの右端から下棚部７１３ｆ上へ流下する。そして、下棚部７１３ｆに流下した遊技球Ｂは、下棚部７１３ｆを左方へ転動する。この際に、下棚部７１３ｆ上において複数の遊技球Ｂが上下に積み重なっていると、左方へ向かうほど一列になるように上方の整流壁部７１３ｅにより崩される。

【０７２３】

下棚部７１３ｆを左方へ転動した遊技球Ｂは、下棚部７１３ｆの左端から下方へ落下し、仕切壁部７１３ｐよりも前方の場合は、センサ収容部前７１３ｓに収容されている第一球センサ７０３に検知された上で第一球誘導部７１３ｕを通った後に、後ベース７１２の

第一排出誘導部７１２ａを通って下方へ排出される。一方、仕切壁部７１３ｐよりも後方の場合は、センサ収容部後７１３ｔに収容されている第二球センサ７０４に検知された後に、後ベース７１２の第二排出誘導部７１２ｂを通って下方へ排出される。

【０７２４】

このように、本実施形態のベースユニット７１０では、球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐの前後で互いに分離した経路を遊技球Ｂが流通して下方へ排出するようにしており、仕切壁部７１３ｐよりも前側を第一球経路７０１としていると共に、仕切壁部７１３ｐよりも後側を第二球経路７０２としている。従って、遊技盤５から球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐよりも前方へ落下した遊技球Ｂは、第一球経路７０１を流通し、第一球センサ７０３により検知された上で下方へ排出させることができる。一方、遊技盤５から球経路部材７１３の仕切壁部７１３ｐよりも後方へ落下した遊技球Ｂは、第二球経路７０２を流通し、第二球センサ７０４により検知された上で下方へ排出させることができる。

【０７２５】

また、ベースユニット７１０は、球タンク５５２内等の遊技球Ｂを抜くために下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを、後ベース７１２の球抜通路７０５を通して下方へ排出することができる。ベースユニット７１０の第一排出誘導部７１２ａ（第一球経路７０１）、第二排出誘導部７１２ｂ（第二球経路７０２）、及び球抜通路７０５から下方へ排出された遊技球Ｂは、島設備側の遊技球Ｂを回収する部位（アウト受部、バケツ、等）に受け渡される。

【０７２６】

本実施形態の基板ユニット７００におけるベースユニット７１０によれば、上左棚部７１３ｂ、上右棚部７１３ｄ、及び下棚部７１３ｆに複数の切欠部７１３ｑを設けていることから、切欠部７１３ｑを通してゴミや塵を落下させて第一球経路７０１や第二球経路７０２から排除することができるため、ゴミ等が遊技球Ｂの流通を妨げることを回避させることができ、球詰り等の発生を抑制させることができる。

【０７２７】

また、前ベース７１１、後ベース７１２、球経路部材７１３、及び通路壁部材７１５を透明に形成しているため、本体枠４に対して扉枠３を前方へ開くと共に、本体枠４から遊技盤５を取外した状態とすることで、ベースユニット７１０（基板ユニット７００）の上方から、球経路部材７１３（第一球経路７０１及び第二球経路７０２）内での遊技球Ｂの球詰りの有無を容易に確認することができる。そして、球経路部材７１３における整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとにより遊技球Ｂを一列に整列させる部位において、下棚部７１３ｆに切欠部７１３ｑを設けているため、整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間で球詰りが発生した場合、外枠２に対して本体枠４を前方へ開くと共に、防犯カバー７１４を開くことで、解消口７１１ｂ及び切欠部７１３ｑを通して下方から棒状の工具を整流壁部７１３ｅと下棚部７１３ｆとの間に挿入することができ、その工具より球詰りを解消させることができる。

【０７２８】

更に、下棚部７１３ｆにおける整流壁部７１３ｅの下方の部位に、下方へ開放された解消口７１１ｂを設けていると共に、解消口７１１ｂを閉鎖する防犯カバー７１４を設けているため、解消口７１１ｂを通して上記のように球詰りを解消させることができる上に、通常の状態では防犯カバー７１４により解消口７１１ｂを閉鎖しておくことで、解消口７１１ｂから線状の不正工具が第一球経路７０１や第二球経路７０２に挿入されることを阻止することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０７２９】

また、解消口７１１ｂを開閉する防犯カバー７１４を、前端側において左右方向の軸周りに対して回転させることで開閉するようにしていることから、防犯カバー７１４を閉め忘れた状態で本体枠４を外枠２に対して閉めようとすると、防犯カバー７１４が接触危惧物（幕板後部材４３の接続筒部４３ａ）に当接して、本体枠４を閉じることができなくなるため、防犯カバー７１４の閉め忘れに気付かせることができ、防犯カバー７１４を確実

に閉じさせて、防犯カバー７１４による防犯機能を発揮させることができる。
【０７３０】
更に、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面には、左右方向に離隔し下方へ延出している複数の平板状の阻害リブ７１３ｏを設けているため、線状の不正工具の先端が、上左棚部７１３ｂ、下棚部７１３ｆ、及び上壁部７１３ｈの下面を伝って移動しようとしても、阻害リブ７１３ｏに当接して先端の移動を阻止することができ、これ以上の不正工具の挿入を阻止することができる。従って、球経路部材７１３（第一球経路７０１や第二球経路７０２）を通した遊技盤５への不正行為の実行を防止することができ、本パチンコ機１を設置する遊技ホール側の負担を軽減させることができると共に、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０７３１】
また、第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、上記のように、後ベース７１２の第一排出誘導部７１２ａ及び第二排出誘導部７１２ｂや球経路部材７１３により、蛇行したりクランクしたりする複雑な流通経路を構成するようにしているため、第一排出誘導部７１２ａや第二排出誘導部７１２ｂの出口側から線状の不正工具を挿入しても、複雑な経路により侵入を阻むことができ、第一球経路７０１及び第二球経路７０２を通した遊技盤５への不正工具の侵入を阻止することができる。
【０７３２】
また、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４により、遊技盤５から放出された全ての遊技球Ｂを検知（カウント）することができるため、遊技盤５に対して排出される遊技球Ｂを検知するための構成（例えば、アウト球検知ユニット）を設ける必要が無く、遊技盤５にかかるコストを低減させることができると共に、遊技盤５において、排出される遊技球Ｂを検知するための構成の分だけスペースを確保することが可能となり、確保したスペースに演出装置を設けるようにすることで、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１（遊技盤５）とすることができる。
【０７３３】
また、第一球経路７０１をアウト球が、第二球経路７０２をセーフ球が、夫々流通するようにしているため、遊技盤５におけるセーフ球のカウント数と、第二球センサ７０４によるセーフ球のカウント数とを比較することで、遊技盤５に対して不正行為が行われているか否かを判定することができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【０７３４】
更に、所定時間当りのセーフ球数と所定時間当りのアウト球数とから算出した所定時間当りの払出率（出玉率）を、遊技者側から視認できるように表示するようにした場合、遊技者としては多くの遊技球Ｂの払出しを望むことから、表示されている払出率が大きいと、多くの遊技球Ｂが払出される可能性が高いパチンコ機１であると即座に認識することができ、遊技するパチンコ機１を選択させ易くすることができる。また、払出率を、遊技者側から視認可能に表示するようにした場合、遊技球Ｂが多く払出されるような不正行為を行うと、表示されている払出率が通常よりも大きくなることから、他の遊技者やパチンコ機１を設置している遊技ホールの係員等が、不正行為に気付き易くなるため、不正行為の実行を躊躇させることができ、不正行為に対する抑止力の高いパチンコ機１とすることができる。
【０７３５】
また、セーフ球の数とアウト球の数とから算出した払出率を、遊技者側から視認不能な位置に表示するようにした場合、遊技ホールの係員等が見ることで、上記と同様の理由により不正行為を察知することができる。また、パチンコ機１をメンテナンス等する際に、表示されている払出率が通常の値よりも異なる場合は、パチンコ機１内（例えば、障害釘Ｎ、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３、中継基板、コネクタ、配線ケーブル、各種センサ、等）での不具合の可能性が考えられるため、不具合に対して早期に対応することが可能となり、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０７３６】
　また、第一球経路７０１及び第二球経路７０２は、球タンク５５２内の遊技球Ｂを排出するための球抜通路７０５と分離しているため、第一球センサ７０３や第二球センサ７０４において球抜きの遊技球Ｂは計数されない。従って、第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４により、遊技盤５から放出された遊技球Ｂのみを正確に計数することができる。
【０７３７】
　なお、上記の実施形態では、第一球経路７０１をアウト球が、第二球経路７０２をセーフ球が、夫々流通するものを示したが、これに限定するものではなく、第一球経路７０１をセーフ球が第二球経路７０２をアウト球が夫々流通するようにしても良いし、セーフ球及びアウト球に関わらず遊技盤５から排出された遊技球Ｂが第一球経路７０１及び第二球経路７０２の何れかを流通するものとしても良い。
【０７３８】
　また、上記の実施形態では、防犯カバー７１４を回転させることにより解消口７１１ｂを開閉させるものを示したが、これに限定するものではなく、前後又は左右にスライドさせることで解消口７１１ｂを開閉させるものとしても良い。
【０７３９】
　また、上記の実施形態では、一つの仕切壁部７１３ｐにより仕切ることで、遊技盤５から下方へ放出された遊技球Ｂを、第一球経路７０１及び第二球経路７０２の前後に別れた二つの球経路の何れかを通って排出させるものを示したが、これに限定するものではなく、複数の仕切壁部により前後に三つ以上に別れた球経路を備え、何れかの球経路を通って遊技盤５から放出された遊技球Ｂを下方へ排出させるようにしても良い。
【０７４０】
［５．遊技盤］
　次に、パチンコ機１における遊技盤５について、主に図９３乃至図９９等を参照して詳細に説明する。図９３は、透明なセンター役物等を不透明にして示す遊技盤の正面図である。図９４は図９３の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図９５は図９３の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図９６は図９３の遊技盤を後ろから見た斜視図である。図９７は図９３の遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９８は図９３の遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図９９は、遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内を示す遊技盤の正面図である。
【０７４１】
　パチンコ機１の遊技盤５は、遊技者がハンドル１９７を操作することで遊技球Ｂが打込まれる遊技領域５ａを有している。遊技領域５ａには、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定個数の持ち球数の加算）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、が備えられている。この遊技盤５は、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート２００３、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６等に、受入れられる又は通過するように、ハンドル１９７の打込操作と遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流通とを楽しませる遊技を行うためのものである。
【０７４２】
　遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０（図１２６を参照）と、遊技盤５（パチンコ機１）に作用する振動を検知する振動センサ１０４０（図１２６を参照）と、を備えている。遊技パネル１１００の前面における遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球Ｂと当接する複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている。
【０７４３】

また、遊技盤５は、透明な遊技パネル１１００の後方に設けられており遊技領域５ａ内を装飾するフィルム状の装飾セル１１４０と、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３０００の裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０（図１２６等を参照）を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。

【０７４４】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左上隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の後側に配置されており主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続を中継しているパネル中継基板（図示は省略）と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている。

【０７４５】

裏ユニット３０００の後面に演出表示装置１６００が設けられていると共に、演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が設けられている。

【０７４６】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能としており常時開口している複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１と、遊技領域５ａ内の所定位置において遊技球Ｂが通過可能に設けられているゲート２００３と、センター役物２５００の下方における左右方向の中央に設けられており遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置において遊技球Ｂを受入可能に常時開口している普通入賞口２０１１と、遊技球Ｂがゲート２００３を通過する又は遊技球Ｂが普通入賞口２０１１に受入れられることにより抽選される普通図柄の抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別図柄や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第二特別図柄の抽選結果に応じて何れかが遊技球Ｂの受入が可能となる第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、を備えている。また、遊技盤５は、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の磁気センサ１０５０（図１２６等を参照）を、備えている。

【０７４７】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内における最も下流に設けられており、遊技球Ｂを受入可能に常時開口していると共に、受入れた遊技球Ｂを戻すことなく遊技領域５ａ外に排出するアウト口１００８と、遊技領域５ａ内におけるアウト口１００８よりも上流に設けられており、遊技球Ｂを受入可能に常時開口していると共に、受入れた遊技球Ｂを戻すことなく遊技領域５ａ外に排出するサブアウト口２０２３と、を備えている。アウト口１００８は、第一始動口２００２の直下に設けられている。

【０７４８】

更に、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように設けられており三つの一般入賞口２００１と二つのサブアウト口２０２３とを有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に設けられているサイド左上ユニット２３００と、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられており、一つの一般入賞口２００１、ゲート２００３、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、三つのサブアウト口２０２３、を有している枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０７４９】

裏ユニット３０００は、遊技領域５ａ内において不正に作用する磁気を検知する複数の

磁気センサ１０５０と、遊技盤５（パチンコ機１）に作用する振動を検知する振動センサ１０４０と、遊技パネル１１００の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁３０１０ａに四角い開口部３０１０ｂを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後壁に演出表示装置１６００を着脱可能に取付けているロックスライダ３０２０と、演出表示装置１６００の後方に配置されており裏箱３０１０の後壁に取付けられている裏基板ユニット３０４０と、を備えている。

【０７５０】

また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の前端付近の下部に設けられており遊技パネル１１００の後方へ誘導された遊技球Ｂが流通する裏球誘導ユニット３１００と、裏箱３０１０内における前端付近に設けられている裏前装飾ユニット３２００と、裏箱３０１０内における裏前装飾ユニット３２００の後方に設けられている裏第一演出ユニット３３００と、裏箱３０１０内における裏第一演出ユニット３３００に後方に設けられている裏第二演出ユニット３４００と、を備えている。

【０７５１】

［５－１．前構成部材］

遊技盤５における前構成部材１０００について、主に図１００乃至図１０２等を参照して詳細に説明する。図１００（ａ）は図９３の遊技盤において前構成部材、遊技パネル及び表ユニットを有する組立体を前から見た斜視図であり、（ｂ）は図９３の遊技盤において前構成部材、遊技パネル及び表ユニットを有する組立体を後ろから見た斜視図である。図１０１は図１００に示す組立体を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０２は図１００に示す組立体を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０７５２】

前構成部材１０００は、全体が透明に形成されている。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。また、前構成部材１０００は、後側が後端面から前方へ遊技パネル１１００が収まる深さで前方へ凹んでおり、当該凹んでいる部位に遊技パネル１１００が嵌め込まれるように取付けられる。遊技パネル１１００を取付けた状態では、遊技パネル１１００の後面と前構成部材１０００の後端面とが同一面上となっている。

【０７５３】

この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０７５４】

また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１００４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球Ｂが当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０７５５】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０７５６】

更に、前構成部材１０００は、枠内における正面視左右方向中央下部で、アウト誘導部１００３の後端において前後に貫通しているアウト口１００８を備えている。

【０７５７】

また、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００９を備えている。この防犯凹部１００９は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー（図示は省略）の後方へ突出した後方突片（図示は省略）が挿入された状態となる。これにより、防犯カバーと遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバーの後方突片と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバーと前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０７５８】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１０を備えている。この切欠部１０１０は、遊技パネル１１００の切欠部と一致している。この切欠部１０１０は、遊技球を遊技者に払出すタイプのパチンコ機の本体枠に取付けた時に、切欠部１０１０及び切欠部を貫通して下部満タン球経路ユニットの下部通常払出通路及び下部満タン払出通路の前端開口が前方へ臨ませて扉枠の上皿や下皿へ遊技球を供給するためのものである。

【０７５９】

更に、前構成部材１０００は、正面視において左上隅に形成されており、機能表示ユニット１４００が取付けられる機能表示ユニット取付部１０１１と、右下隅に形成されている証紙貼付部１０１２と、右上隅に設けられている遊技盤第一情報表示部１０１５と、左上隅に設けられている遊技盤第二情報表示部１０２０と、左下隅に設けられている遊技盤第三情報表示部１０２５と、を備えている。

【０７６０】

また、前構成部材１０００は、略全体が透明に形成されており、後側に配置されている遊技パネル１１００や裏ユニット３０００等を前方から視認することができる。

【０７６１】

［５－１ａ．遊技盤第一情報表示部］

続いて、前構成部材１０００における遊技盤第一情報表示部１０１５について、主に図１０３等を参照して詳細に説明する。図１０３（ａ）は前構成部材における遊技盤第一情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第一情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第一情報表示部と第一情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第一情報シールが貼り付けられている第一情報シール台座を前から見た斜視図である。

【０７６２】

遊技盤第一情報表示部１０１５には、遊技盤５にかかる情報が記載された第一情報シール１０１７が貼り付けられている第一情報シール台座１０１６が取付けられている。第一情報シール１０１７には、例えば、遊技盤５の機種名やスペックが記載されている。

【０７６３】

遊技盤第一情報表示部１０１５は、前構成部材１０００の前面における右上隅に設けられている。遊技盤第一情報表示部１０１５は、衝止部１００６の右端側から右方且つ下方へ続くように、遊技領域５ａの外周に沿って円弧状に延出している。遊技盤第一情報表示部１０１５は、前構成部材１０００の前面から浅く凹んでいる収容凹部１０１５ａと、収容凹部１０１５ａの底面において四角く前後に貫通している二つの挿通孔１０１５ｂと、収容凹部１０１５ａの底面において丸く貫通している二つの位置決孔１０１５ｃと、が設けられている。

【０７６４】
　また、遊技盤第一情報表示部１０１５には、四角い挿通孔１０１５ｂの夫々において、一つの辺の外側から後方へ平板状に延出している二つの係止リブ１０１５ｄが設けられている。係止リブ１０１５ｄは、前構成部材１０００の奥行の半分程まで後方へ延出している。二つの係止リブ１０１５ｄは、図１０３（ｂ）に示すように、二つの挿通孔１０１５ｂにおける夫々の遠い側の辺の外側から後方へ延出している。換言すると、二つの係止リブ１０１５ｄの間（内側）に挿通孔１０１５ｂが設けられている。
【０７６５】
　第一情報シール台座１０１６は、前面に第一情報シール１０１７が貼り付けられ、遊技盤第一情報表示部１０１５の収容凹部１０１５ａに前方から収容される平板状の台板１０１６ａを備えている。また、第一情報シール台座１０１６は、台板１０１６ａの後面から後方へ延出しており挿通孔１０１５ｂを通って後端が係止リブ１０１５ｄに係止される二つの係止爪１０１６ｂを備えている。係止爪１０１６ｂは、図１０３（ｂ）に示すように、係止リブ１０１５ｄに係止させた状態で、その後端が前構成部材１０００の後端付近まで後方へ延出している。
【０７６６】
　また、第一情報シール台座１０１６は、台板１０１６ａの後面から突出しており位置決孔１０１５ｃに挿入される位置決突起１０１６ｃと、台板１０１６ａの上下両端付近において前後に貫通しているハガシ孔１０１６ｄと、を備えている。ハガシ孔１０１６ｄは、台板１０１６ａの前面に第一情報シール１０１７が貼り付けられている状態で、後側から棒を挿入して第一情報シール１０１７を前方へ押すことにより、第一情報シール１０１７の一部を剥がすことが可能であり、リユースし易くしている。
【０７６７】
　なお、第一情報シール台座１０１６は、前構成部材１０００とは異なる色（例えば、黒色、青色、赤色、等）で設けられている。これにより、遊技盤５の製造において、第一情報シール台座１０１６（第一情報シール１０１７）の付け忘れに気付かせ易くしている。
【０７６８】
　この遊技盤第一情報表示部１０１５は、前方から第一情報シール台座１０１６を着脱可能としているため、前構成部材１０００をリユースする際に、第一情報シール１０１７が貼り付けられている第一情報シール台座１０１６を交換すれば良い。この第一情報シール台座１０１６を取外す場合、二つの係止爪１０１６ｂが二つの係止リブ１０１５ｄの間に位置しているため、前構成部材１０００の後側から二つの係止爪１０１６ｂの後端を指で摘まんで互いに接近させることで、係止リブ１０１５ｄとの係止を容易に解除することができる。なお、図示は省略するが、遊技盤第一情報表示部１０１５の後方は遊技パネル１１００により閉鎖されており、第一情報シール台座１０１６を取外す場合は前構成部材１０００から遊技パネル１１００を取外す必要がある。
【０７６９】
　また、第一情報シール台座１０１６にはハガシ孔１０１６ｄを設けているため、第一情報シール台座１０１６をリユースしたり分別廃棄したりする際に、ハガシ孔１０１６ｄに後ろから棒を差し込んで第一情報シール１０１７を前方へ押すことにより、第一情報シール１０１７を容易に剥がすことができる。
【０７７０】
　更に、第一情報シール台座１０１６の台板１０１６ａを、収容凹部１０１５ａに収容させているため、前方から第一情報シール台座１０１６に対して指や工具等を引っ掛かり難くしている。これにより、正規とは異なる不正な情報が記載された第一情報シール１０１７が貼り付けられている第一情報シール台座１０１６への交換を困難なものとすることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。
【０７７１】
［５－１ｂ．遊技盤第二情報表示部］
　続いて、前構成部材１０００における遊技盤第二情報表示部１０２０について、主に図

１０４等を参照して詳細に説明する。図１０４（ａ）は前構成部材における遊技盤第二情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第二情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第二情報表示部と第二情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第二情報シールが貼り付けられている第二情報シール台座を前から見た斜視図である。

【０７７２】

遊技盤第二情報表示部１０２０には、遊技盤５にかかる情報が記載された第二情報シール１０２２が貼り付けられている第二情報シール台座１０２１が取付けられている。第二情報シール１０２２には、例えば、遊技盤５の版権が記載されている。

【０７７３】

遊技盤第二情報表示部１０２０には、前構成部材１０００の前面における左上隅で機能表示ユニット１４００の上方に設けられている。遊技盤第二情報表示部１０２０は、遊技領域５ａの外周に沿うように、上下に長いひし形に形成されている。この遊技盤第二情報表示部１０２０は、前構成部材１０００の前面から浅く凹んでいる収容凹部１０２０ａと、収容凹部１０２０ａの底面で上辺及び下辺に沿って四角く前後に貫通している二つの挿通孔１０２０ｂと、が設けられている。

【０７７４】

また、遊技盤第二情報表示部１０２０には、上側の挿通孔１０２０ｂにおいて、収容凹部１０２０ａの上辺の外側の部位から後方へ平板状に延出している係止リブ１０２０ｃが設けられている。係止リブ１０２０ｃは、前構成部材１０００の奥行の半分程まで後方へ延出している。更に、遊技盤第二情報表示部１０２０は、係止リブ１０２０ｃの下面側から上方へ凹んでいると共に前方へ開放されている案内凹部１０２０ｄを、備えている。案内凹部１０２０ｄは、図１０４（ｂ）に示すように、後方へ向かうほど下方へ位置するように傾斜している。

【０７７５】

第二情報シール台座１０２１は、前面に第二情報シール１０２２が貼り付けられ、遊技盤第二情報表示部１０２０の収容凹部１０２０ａに前方から収容される平板状の台板１０２１ａを備えている。また、第二情報シール台座１０２１は、台板１０２１ａの後面における上端から後方へ延出しており上側の挿通孔１０２０ｂを通って後端が係止リブ１０２０ｃに係止される係止爪１０２１ｂと、台板１０２１ａの後面における下端から後方へ短く延出した後に下方へ延出しているＬ字状で下側の挿通孔１０２０ｂに挿通される係止部１０２１ｃと、を備えている。係止爪１０２１ｂは、図１０４（ｂ）に示すように、係止リブ１０２０ｃに係止させた状態で、その後端が前構成部材１０００の後端付近まで後方へ延出している。また、係止部１０２１ｃは、Ｌ字状の先端が前構成部材１０００の前面を構成している平板状の部位の裏側に係止される。

【０７７６】

また、第二情報シール台座１０２１は、台板１０２１ａの上下両端付近において前後に貫通しているハガシ孔１０２１ｄを、備えている。ハガシ孔１０２１ｄは、台板１０２１ａの前面に第二情報シール１０２２が貼り付けられている状態で、後側から棒を挿入して第二情報シール１０２２を前方へ押すことにより、第二情報シール１０２２の端部を剥がすことが可能であり、リユースし易くしている。

【０７７７】

なお、第二情報シール台座１０２１は、前構成部材１０００とは異なる色（例えば、黒色、青色、赤色、等）で設けられている。これにより、遊技盤５の製造において、第二情報シール台座１０２１（第二情報シール１０２２）の付け忘れに気付かせ易くしている。

【０７７８】

この遊技盤第二情報表示部１０２０は、前方から第二情報シール台座１０２１を着脱可能としているため、前構成部材１０００をリユースする際に、第二情報シール１０２２が貼り付けられている第二情報シール台座１０２１を交換すれば良い。この第二情報シール台座１０２１を取外す場合は、前方から案内凹部１０２０ｄに、マイナスドライバーのよ

うな工具の先端を差し込むと、その先端が案内凹部１０２０ｄに案内されることで係止爪１０２１ｂを下方へ押圧し、係止リブ１０２０ｃと係止爪１０２１ｂとの係止を解除することができ、第二情報シール台座１０２１を前方へ取外すことができる。なお、工具を使用して前方から第二情報シール台座１０２１を取外した場合、案内凹部１０２０ｄにその痕跡が残り易い。

【０７７９】

第二情報シール台座１０２１のその他の取外しとしては、前構成部材１０００の後側から係止爪１０２１ｂを操作することで、係止リブ１０２０ｃとの係止を解除して取外す。なお、この場合、図示は省略するが、遊技盤第二情報表示部１０２０の後方は遊技パネル１１００により閉鎖されているため、第二情報シール台座１０２１を取外す場合は前構成部材１０００から遊技パネル１１００を取外す必要がある。

【０７８０】

また、第二情報シール台座１０２１にはハガシ孔１０２１ｄを設けているため、第二情報シール台座１０２１をリユースしたり分別廃棄したりする際に、ハガシ孔１０２１ｄに後ろから棒を差し込んで第二情報シール１０２２を前方へ押すことにより、第二情報シール１０２２を容易に剥がすことができる。

【０７８１】

更に、第二情報シール台座１０２１の台板１０２１ａを、収容凹部１０２０ａに収容させているため、前方から第二情報シール台座１０２１に対して指や工具等を引っ掛かり難くしている。これにより、正規とは異なる不正な情報が記載された第二情報シール１０２２が貼り付けられている第二情報シール台座１０２１への交換を困難なものとすることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。

【０７８２】

［５－１ｃ．遊技盤第三情報表示部］

続いて、前構成部材１０００における遊技盤第三情報表示部１０２５について、主に図１０５等を参照して詳細に説明する。図１０５（ａ）は前構成部材における遊技盤第三情報表示部の部位を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は遊技盤第三情報表示部の部位を断面で示す説明図であり、（ｃ）は遊技盤第三情報表示部と第三情報シール台座とを分解して斜視図で示す説明図であり、（ｄ）は第三情報シールが貼り付けられている第三情報シール台座を前から見た斜視図である。

【０７８３】

遊技盤第三情報表示部１０２５には、遊技盤５にかかる情報が記載された第三情報シール１０２７が貼り付けられている第三情報シール台座１０２６が取付けられている。第三情報シール１０２７には、例えば、遊技盤５のメーカー等が記載されている。

【０７８４】

遊技盤第三情報表示部１０２５には、前構成部材１０００の前面における左下隅で切欠部１０１０の上方に設けられている。遊技盤第三情報表示部１０２５は、略正方形に形成されている。この遊技盤第三情報表示部１０２５は、前構成部材１０００の前面から浅く凹んでいる収容凹部１０２５ａと、収容凹部１０２５ａの底面で四角く前後に貫通している三つの挿通孔１０２５ｂと、が設けられている。三つの挿通孔１０２５ｂは、一つが収容凹部１０２５ａの上辺に沿った中央に設けられており、残りの二つが収容凹部１０２５ａの下辺に沿って左右に離隔して設けられている。

【０７８５】

また、遊技盤第三情報表示部１０２５には、上側の挿通孔１０２５ｂにおいて、収容凹部１０２５ａの上辺の外側の部位から後方へ平板状に延出している係止リブ１０２５ｃが設けられている。係止リブ１０２５ｃは、前構成部材１０００の奥行の半分程まで後方へ延出している。更に、遊技盤第三情報表示部１０２５は、係止リブ１０２５ｃの下面側から上方へ凹んでいると共に前方へ開放されている案内凹部１０２５ｄを、備えている。案内凹部１０２５ｄは、図１０５（ｂ）に示すように、後方へ向かうほど下方へ位置するように傾斜している。

【０７８６】
第三情報シール台座１０２６は、前面に第三情報シール１０２７が貼り付けられ、遊技盤第三情報表示部１０２５の収容凹部１０２５ａに前方から収容される平板状の台板１０２６ａを備えている。また、第三情報シール台座１０２６は、台板１０２６ａの後面における上端から後方へ延出しており上側の挿通孔１０２５ｂを通って後端が係止リブ１０２５ｃに係止される係止爪１０２６ｂを、備えている。係止爪１０２６ｂは、図１０５（ｂ）に示すように、係止リブ１０２５ｃに係止させた状態で、その後端が前構成部材１０００の後端付近まで後方へ延出している。
【０７８７】
また、第三情報シール台座１０２６は、台板１０２１ａの後面における下端に沿うように左右方向に離隔しており、後方へ短く延出した後に下方へ延出しているＬ字状の二つの係止部１０２６ｃを、備えている。係止部１０２６ｃは、下側の挿通孔１０２０ｂに挿通された上で、Ｌ字状の先端が前構成部材１０００の前面を構成している平板状の部位の裏側に係止される。
【０７８８】
なお、第三情報シール台座１０２６は、前構成部材１０００とは異なる色（例えば、黒色、青色、赤色、等）で設けられている。これにより、遊技盤５の製造において、第三情報シール台座１０２６（第三情報シール１０２７）の付け忘れに気付かせ易くしている。
【０７８９】
この遊技盤第三情報表示部１０２５は、前方から第三情報シール台座１０２６を着脱可能としているため、前構成部材１０００をリユースする際に、第三情報シール１０２７が貼り付けられている第三情報シール台座１０２６を交換すれば良い。この第三情報シール台座１０２６を取外す場合は、前方から案内凹部１０２５ｄに、マイナスドライバーのような工具の先端を差し込むと、その先端が案内凹部１０２５ｄに案内されることで係止爪１０２６ｂを下方へ押圧し、係止リブ１０２５ｃと係止爪１０２６ｂとの係止を解除することができ、第三情報シール台座１０２６を前方へ取外すことができる。なお、工具を使用して前方から第三情報シール台座１０２６を取外した場合、案内凹部１０２５ｄにその痕跡が残り易い。
【０７９０】
第三情報シール台座１０２６のその他の取外しとしては、前構成部材１０００の後側から係止爪１０２６ｂを操作することで、係止リブ１０２５ｃとの係止を解除して取外す。なお、この場合、図示は省略するが、遊技盤第三情報表示部１０２５の後方は遊技パネル１１００により閉鎖されているため、第三情報シール台座１０２６を取外す場合は前構成部材１０００から遊技パネル１１００を取外す必要がある。
【０７９１】
また、第三情報シール台座１０２６の台板１０２６ａを、収容凹部１０２５ａに収容させているため、前方から第三情報シール台座１０２６に対して指や工具等を引っ掛かり難くしている。これにより、正規とは異なる不正な情報が記載された第三情報シール１０２７が貼り付けられている第三情報シール台座１０２６への交換を困難なものとすることができ、不正行為に対する抑止力を高めることができる。
【０７９２】
［５－２．遊技パネル］
遊技盤５における遊技パネル１１００について、主に図１０１及び図１０２等を参照して詳細に説明する。遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後面に取付けられており、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００が取付けられるものである。遊技パネル１１００は、外周が前構成部材１０００の外周よりもやや小さく形成されていると共に透明な合成樹脂で平板状に形成されている。この遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後側の窪んだ部位に後方から嵌め込まれて取付けられている。なお、図示は省略するが、遊技パネル１１００の前面には、所定のゲージ配列で複数の障害釘が植設されている。
【０７９３】

遊技パネル１１００は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。この遊技パネル１１００の板厚は、木製の遊技パネルの板厚が約２０ｍｍであるのに対しこれよりも薄く、障害釘を前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さが約１０ｍｍとされている。なお、本実施形態では、透明な合成樹脂板によって形成されている。

【０７９４】

遊技パネル１１００には、前後に貫通している複数の開口部１１１２が複数形成されている。各開口部１１１２は、前構成部材１０００のアウト口１００８、表ユニット２０００における始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、センター役物２５００、に対応した部位に設けられている。アウト口１００８と対応している開口部１１１２では、遊技パネル１１００における当該開口部１１１２よりも下側の部位が、後面から前方へ向かって凹んでいる。つまり、当該開口部１１１２の下側の部位の板厚が薄くなっている。

【０７９５】

この遊技パネル１１００は、センター役物２５００を取付けるための大きな開口部１１１２が、正面視において中央よりも上側にオフセットして設けられており、その開口部１１１２の存在により枠状に形成されているが、図示するように、当該枠が途切れていないため、十分な強度・剛性を有している。

【０７９６】

この遊技パネル１１００は、前側に取付けられる前構成部材１０００と共に透明に形成されているため、遊技盤５に組立てた時に、遊技領域５ａの境界が明瞭に見えることを低減させることができ、遊技者に対して開放感を与えることができると共に、実際の遊技領域５ａの大きさが変わらないものの、遊技者に対して遊技領域５ａを大きく（広く）見せることができる。

【０７９７】

また、遊技パネル１１００を、前構成部材１０００と共に透明としているため、演出表示装置１６００、表ユニット２０００や裏ユニット３０００、等からの光を、前方（遊技者側）へ反射させたり屈折させたりすることで発光しているように見せることができ、遊技盤５の全体の装飾性をより高めることができる。

【０７９８】

なお、詳細に説明は省略するが、遊技パネル１１００には、前構成部材１０００、始動口ユニット２１００やセンター役物２５００等のような表ユニット２０００、裏ユニット３０００の裏箱３０１０、等を取付けや位置決めするための複数の取付孔や位置決孔が設けられている。

【０７９９】

［５－３．装飾セル］

遊技盤５における装飾セル１１４０について、主に図１００乃至図１０２等を参照して詳細に説明する。装飾セル１１４０は、透明な遊技パネル１１００を通して前方から視認可能に設けられており、遊技領域５ａ内を装飾するためのものである。

【０８００】

本実施形態の遊技盤５は、遊技パネル１１００における透明な遊技パネル１１００の後側に設けられており、所定の絵柄が施されているフィルム状の装飾セル１１４０を備えている。

【０８０１】

装飾セル１１４０は、遊技領域５ａ内（正面視において枠状の前構成部材１０００の枠内）において、遊技球Ｂが流通する領域の後方に設けられている。装飾セル１１４０は、遊技領域５ａの周縁とセンター役物２５００の枠内との間の環状の領域において、センター役物２５００の第二始動口２００４が設けられている部位を除いた、略全周に設けられている。本実施形態では、装飾セル１１４０は、四つに分割されている。具体的には、装飾セル１１４０は、内レール１００２とセンター役物２５００との間で逆流防止部材１０

０７付近からサイドユニット２２００の左端上方までの領域の部分、右下レール１００４とセンター役物２５００との間でサイドユニット２２００及び始動口ユニット２１００を含んで第一大入賞口２００５よりも左側までの領域の部分、外レール１００１とセンター役物２５００との間で逆流防止部材１００７付近から衝止部１００６までの間の領域の部分、右レール１００５とセンター役物２５００との間で衝止部１００６よりも下方の領域の部分、の四つで構成されている。

【０８０２】

装飾セル１１４０は、外周側の端縁が前構成部材１０００の内周縁と略一致するように形成されていると共に、内周側の端縁が遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周面よりも若干外方へ控えるように形成されている。

【０８０３】

装飾セル１１４０には、複数の取付孔が設けられており、それら取付孔を通して図示しない取付ネジにより、遊技パネル１１００の後面に取付けられる。なお、取付ネジには、装飾セル１１４０の厚さと同じ高さの円筒状の段が設けられており、遊技パネル１１００に対して取付けと同時に位置決めされる。なお、取付孔は、遊技盤５に組立てた時に、前方から見え難い位置に設けられている。

【０８０４】

装飾セル１１４０は、厚さが０．２ｍｍ～０．４ｍｍの合成樹脂のフィルムであり、所定の絵柄が印刷により施されている。なお、装飾セル１１４０の材質としては、「ポリエチレンテレフタレート樹脂」、「ポリカーボネイト樹脂」、「ＡＢＳ樹脂」、「ＡＥＳ樹脂」、「ＰＭＭＡ（ポリメタクリル酸メチル）樹脂」、「ポリプロピレン樹脂」、「ポリエチレン樹脂」、「ポリスチレン樹脂」、「耐衝撃性ポリスチレン樹脂」、「ポリ塩化ビニル」、等が挙げられる。

【０８０５】

本実施形態では、装飾セル１１４０を、遊技パネル１１００の一部に設けるようにしているため、遊技パネル１１００に貼り付けられる従来のセルと比較して、樹脂シートから取れる装飾セル１１４０の数を多くすることができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【０８０６】

また、装飾セル１１４０を取付ネジにより遊技パネル１１００に取付けていることから、装飾セル１１４０を遊技パネル１１００から容易に着脱させることができるため、絵柄異なる装飾セル１１４０に取替えることで、パチンコ機１のスペック変更、機種変更、或いは、設計変更、リユース、等に対して容易に対応することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができると共に、より装飾効果の高い絵柄の装飾セル１１４０に交換することで遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０８０７】

更に、透明な遊技パネル１１００の後側に装飾セル１１４０を設けるようにしているため、遊技パネル１１００の前面に設けるようにした場合と比較して、遊技者から装飾セル１１４０までの距離が遠くなり、遊技者に対する圧迫感を低減させることができる。

【０８０８】

また、装飾セル１１４０に透光性を有するようにすることが望ましく、遊技パネル１１００（装飾セル１１４０）の後方に設けられているＬＥＤからの光により、装飾セル１１４０の絵柄を発光装飾させることができ、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができると共に、装飾セル１１４０の発光装飾により遊技者の関心を強く引付けさせることができ、パチンコ機１の訴求力を高めることができる。

【０８０９】

［５－４．主制御基板ユニット］

遊技盤５における主制御ユニット１３００について、主に図９６乃至図９８等を参照して説明する。主制御ユニット１３００は、裏ユニット３０００における裏箱３０１０の後

面の下部に着脱可能に取付けられている。主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技者への特典の付与等を制御する主制御基板１３１０（図１２６を参照）と、主制御基板１３１０を収容しており裏箱３０１０に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。

【０８１０】

主制御基板ボックス１３２０は、裏箱３０１０に取付けられると共に後面に主制御基板１３１０が取付けられる基板ベース１３３０と、主制御基板１３１０を後方から覆うように基板ベース１３３０に取付けられている基板カバー１３４０と、から構成されている。基板ベース１３３０と基板カバー１３４０とは、透明なポリカーボネイトにより形成されている。基板ベース１３３０と基板カバー１３４０とにより形成される内部空間には、主制御基板１３１０が収容されている。基板ベース１３３０と基板カバー１３４０が透明なポリカーボネイトにより形成されていることによって、主制御基板１３１０の表面側や裏面側の状態（不正な改変が行われているか否か、又は不正ＩＣが実装されているか否か）を、主制御基板ボックス１３２０の外側から確認することができるようになっている。

【０８１１】

また、主制御基板ボックス１３２０は、基板ベース１３３０と基板カバー１３４０とに夫々対応するように複数の封印機構１３５０を備えており、一つの封印機構１３５０を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構１３５０を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。

【０８１２】

主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、払出制御基板６３３、第一球センサ７０３、第二球センサ７０４、周辺制御基板１５１０、等と接続されている。また、主制御基板１３１０は、機能表示ユニット１４００、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２５０２、普通入賞口センサ３００３、ゲートセンサ２５０１、第一大入賞口センサ２５０３、第二大入賞口センサ２５０４、第一大入賞口センサ２５０３、始動口ソレノイド２５４２、第一アタッカソレノイド２５３２、第二アタッカソレノイド２５５２、磁気センサ１０５０、振動センサ１０４０、等と接続されている。

【０８１３】

また、主制御基板１３１０には、四つの７セグメントＬＥＤからなるベースモニタ１３１０ａを有している（図１２６を参照）。ベースモニタ１３１０ａは、透明な基板カバー１３４０を通して後方から視認することができる。このベースモニタ１３１０ａは、球発射装置５４０により発射された遊技球Ｂのうち、遊技領域５ａ内に打込まれた後に遊技盤５から下方へ排出されて、本体枠４の基板ユニット７００に設けられている第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４より検知されることでカウントされた遊技球Ｂの球数を表示するものである。本実施形態のベースモニタ１３１０ａは、１００発発射して第一球センサ７０３及び第二球センサ７０４によりカウントされた球数（遊技ホール側へ戻ってきた球数）を百分率にして表示している。

【０８１４】

［５－５．機能表示ユニット］

遊技盤５における機能表示ユニット１４００について、主に図９３等を参照して詳細に説明する。機能表示ユニット１４００は、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左上隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、パチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の扉窓１０１ａを通して前方（遊技者側）から視認することができる。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通図柄の抽選結果や特別図柄の抽選結果等を表示するものである。

【０８１５】
機能表示ユニット１４００は、詳細な図示は省略するが、遊技状態を表示する三つのＬＥＤからなる状態表示器と、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの受入れにより抽選される普通図柄の抽選結果を表示する二つのＬＥＤからなる普通図柄表示器と、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器と、を備えている。
【０８１６】
また、機能表示ユニット１４００は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別図柄の抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別図柄の抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器と、を備えている。
【０８１７】
更に、機能表示ユニット１４００は、第一特別図柄の抽選結果又は第二特別図柄の抽選結果が「当り」等の時に、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する五つのＬＥＤからなるラウンド表示器、を備えている。
【０８１８】
この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。
【０８１９】
［５－６．周辺制御ユニット］
遊技盤５における周辺制御ユニット１５００について、主に図９６等を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後側に設けられている演出表示装置１６００の後方に設けられている。詳述すると、周辺制御ユニット１５００は、裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後面に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０（図１２６を参照）と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部１５１１と、演出画像を制御するための演出表示制御部１５１２と、を備えている。
【０８２０】
周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０、演出操作ユニット３００、扉枠３側の各種装飾基板、演出表示装置１６００、等と接続されている（図１２６を参照）。周辺制御ユニット１５００は、詳細は後述するが、演出表示装置１６００の後側に取付けられている。
【０８２１】
［５－７．演出表示装置］
遊技盤５における演出表示装置１６００について、主に図９７及び図９８等を参照して説明する。演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁に対して着脱可能に取付けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、透明な遊技パネル１１００や枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。
【０８２２】
演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとした４：３の１９ｉｎｃｈのフ

ルカラーの液晶表示装置であり、横長の状態で裏箱３０１０の後面（後壁）に取付けられる。演出表示装置１６００は、周辺制御基板１５１０に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。

【０８２３】

演出表示装置１６００は、上端面から上方へ突出している二つの上固定片１６０１と、下端面から下方へ突出している一つの下固定片１６０２と、を備えている。演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の開口部３０１０ｂの上内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｄに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの上固定片１６０１を挿入した上で、下固定片１６０２側を前方へ移動させて、下固定片１６０２をロックスライダ３０２０の開口部内に挿入し、ロックスライダ３０２０を背面視において左方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。

【０８２４】

［５－８．表ユニットの全体構成］

遊技盤５における表ユニット２０００について、主に図１００乃至図１０２等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００は、遊技パネル１１００に、前方から取付けられており、前端が遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出していると共に、後端の一部が遊技パネル１１００の開口部１１１２内に突出している。

【０８２５】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能に常時開口している複数（ここでは三つ）の一般入賞口２００１と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂが通過可能なゲート２００３と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂを受入可能に常時開口している普通入賞口２０１１と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技球Ｂがゲート２００３を通過又は遊技球Ｂが普通入賞口２０１１に受入れられることにより抽選される普通図柄の抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別図柄又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第二特別図柄に応じて遊技球Ｂの受入れが何れかにおいて可能となる第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、を備えている。

【０８２６】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを遊技領域５ａ外へ排出するアウト口１００８及びサブアウト口２０２３を、更に備えている。アウト口１００８及びサブアウト口２０２３は、遊技球Ｂを受入可能に常時開口している。また、アウト口１００８は、遊技領域５ａの下流端に設けられている。

【０８２７】

また、表ユニット２０００は、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過を検知するゲートセンサ２５０１、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２５０２と、第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２５０３と、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二大入賞口センサ２５０４と、遊技領域５ａ内に作用する不正な磁気を検知する磁気センサ１０５０と、を備えている。

【０８２８】

複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１は、三つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して左側に配置されており、残り一つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して右側に配置さている。ゲート２００３は、遊技領域５ａ内における右端付近の上下方向中央よりも上側の部位に配置されている。普通入賞口２０１１は、遊技領域５ａ内における右端付近で上下方向中央よりも下側の部位に配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１００８の直上に配置されている。第二始動口２００４は、遊技領域５ａ内における右端付近でゲート２００３と普通入賞口２０１１との間の上下方向中央よりも上側に配置されている。第一大入賞口２０

０５は、遊技領域５ａ内における右上隅で衝止部１００６の下方に配置されている。第二大入賞口２００６は、遊技領域５ａの右下隅に配置されている。

【０８２９】

アウト口１００８は、遊技領域５ａの下流端で第一始動口２００２の直下に配置されている。複数（ここでは六つ）のサブアウト口２０２３は、三つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して左側に配置されており、二つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して右側に配置されており、残り一つが遊技領域５ａ内の左端付近で上下方向の略中央に配置されている。

【０８３０】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように設けられており三つの一般入賞口２００１及び三つのサブアウト口２０２３を有しているサイドユニット２２００と、を備えている。

【０８３１】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられており、一つの一般入賞口２００１、ゲート２００３、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、及び三つのサブアウト口２０２３、を有している枠状のセンター役物２５００を、更に備えている。

【０８３２】

［５－８ａ．始動口ユニット］

次に、表ユニット２０００の始動口ユニット２１００について、主に図９３乃至図９５、及び図９９等を参照して説明する。表ユニット２０００の始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口１００８の直上に配置されており、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。始動口ユニット２１００は、遊技球Ｂが一つのみ受入可能な幅で上方へ向かって常時開口している第一始動口２００２を、有している。

【０８３３】

始動口ユニット２１００は、遊技盤５に組立てた状態で、第一始動口２００２がセンター役物２５００のステージ２５１８における中央放出部２５１８ａの直下に位置しており、中央放出部２５１８ａから放出された遊技球Ｂを高い確率で受入れることができる。この第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導されて、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡された上で、第一始動口センサ３００２に検知された後に、下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。

【０８３４】

［５－８ｂ．サイドユニット］

次に、表ユニット２０００のサイドユニット２２００について、主に図９３乃至図９５、及び図９９等を参照して説明する。表ユニット２０００のサイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿うように延出しており、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。サイドユニット２２００は、遊技球Ｂを常時受入可能に開口している三つの一般入賞口２００１と、遊技球Ｂを常時受入可能に開口している三つのサブアウト口２０２３と、を備えている。

【０８３５】

サイドユニット２２００は、右から左へ向かって内レール１００２に沿うように、一般入賞口２００１とサブアウト口２０２３とが交互に列設されており、左方へ向かうほど高い位置に設けられている。一般入賞口２００１及びサブアウト口２０２３は、それぞれが遊技球Ｂ一つ分の大きさ（幅）で開口している。

【０８３６】

また、サイドユニット２２００は、最も高くなっている左端側に、右方へ向かうに従っ

て低くなるように傾斜している棚部２２０１を有している。棚部２２０１は、遊技盤５に組立てた状態で、ワープ入口２５１５の左方且つ下方に位置している。このサイドユニット２２００の前面には、所定の装飾が施された装飾シール２２０３が貼り付けられている。

【０８３７】

サイドユニット２２００は、遊技盤５に組立てた状態で、三つの一般入賞口２００１とサブアウト口２０２３とが、遊技パネル１１００の前面よりも前方に突出している。このサイドユニット２２００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、遊技パネル１１００の後方に誘導し、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡すことができる。そして、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受渡された遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３００１に検知された上で下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。

【０８３８】

また、サイドユニット２２００は、サブアウト口２０２３に受入れられた遊技球Ｂを、遊技パネル１１００の後方に誘導して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡すことができる。裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受渡された遊技球Ｂは、下方の基板ユニット７００の第一球経路７０１へ排出される。

【０８３９】

［５－８ｃ．センター役物］

次に、表ユニット２０００におけるセンター役物２５００について、主に図１０６及び図１０７等を参照して詳細に説明する。図１０６は遊技盤のセンター役物を前から見た斜視図であり、図１０７は遊技盤のセンター役物を後ろから見た斜視図である。表ユニット２０００のセンター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００の前面に取付けられている。センター役物２５００は、透明な枠状に形成されている。

【０８４０】

センター役物２５００は、詳細は後述するが、遊技球Ｂの通過により普通図柄の抽選が行われるゲート２００３と、遊技球Ｂを受入可能に常時開口しており遊技球Ｂの受入れにより普通図柄の抽選が行われる普通入賞口２０１１と、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの受入れにより抽選された普通図柄の抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別図柄や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別図柄の抽選結果に応じて何れかが遊技球Ｂを受入可能に開閉する第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、受入れられた遊技球Ｂを遊技領域５ａへ戻すことなく排出する三つのサブアウト口２０２３と、を備えている。

【０８４１】

センター役物２５００は、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過を検知するゲートセンサ２５０１と、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２５０２と、第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２５０３と、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二大入賞口センサ２５０４と、を備えている。

【０８４２】

また、センター役物２５００は、遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周縁に沿うように枠状に形成されているセンターフレーム２５１０を備えている。センターフレーム２５１０は、障害釘Ｎの前端と同じような位置まで遊技パネル１１００の前面から前方へ突出している前方突出部２５１１と、前方突出部２５１１の後端から枠の外方へ向かって遊技パネル１１００の前面と平行に延出している板状のフランジ部２５１２と、フランジ部２５１２よりも後方へ突出している後方突出部２５１３と、前方突出部２５１１の後端から枠の内方へ向かって遊技パネル１１００の前面と平行に延出している板状のサポート部２５１４と、を備えている。

【０８４３】

センター役物２５００の前方突出部２５１１は、遊技パネル１１００の開口部１１１２の周縁に沿うように略全周に亘って枠状に設けられている。この前方突出部２５１１によって、遊技パネル１１００の開口部１１１２内への遊技球Ｂの侵入（流入）が阻止されている。フランジ部２５１２は、センターフレーム２５１０を遊技パネル１１００の前面に取付けるためのものである。後方突出部２５１３及びサポート部２５１４は、主にセンターフレーム２５１０を補強するためのものである。

【０８４４】

更に、センター役物２５００は、枠状の前方突出部２５１１における左辺部分において遊技球Ｂが進入可能に開口しているワープ入口２５１５と、ワープ入口２５１５に進入した遊技球Ｂをセンター役物２５００の枠内へ案内するワープ通路２５１６と、ワープ通路２５１６の下流端において開口しているワープ出口２５１７と、ワープ出口２５１７から出てきた遊技球Ｂを左右方向へ転動させた後に前方且つセンター役物２５００の下方へ放出させるステージ２５１８と、を備えている。

【０８４５】

ステージ２５１８は、フランジ部２５１２（遊技パネル１１００の前面）よりも後方で開口部１１１２内に設けられている。ステージ２５１８は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センター役物２５００を遊技パネル１１００の遊技パネル１１００に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状（Ｗ字状）に形成されている。このステージ２５１８は、左右方向中央の左右両側よりも若干高くなっている部位（中央放出部２５１８ａ）と、その左右両側の最も低くなっている部位（サイド放出部２５１８ｂ）とが、前方へ向かって低くなるように傾斜しており、それらの部位から遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【０８４６】

更に、センター役物２５００は、センター役物２５００の下辺部分を形成しステージ２５１８を有するステージユニット２５２０と、センター役物２５００の右上隅部分を形成し第一大入賞口２００５を有する第一アタッカユニット２５３０と、第一アタッカユニット２５３０の下方に設けられゲート２００３、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、及びサブアウト口２０２３を有するゲートユニット２５４０と、センター役物２５００の右下隅部分を形成しステージユニット２５２０の左方且つゲートユニット２５４０の下方に設けられ一般入賞口２００１、第二大入賞口２００６、及びサブアウト口２０２３を有する第二アタッカユニット２５５０と、 センター役物２５００の左辺の一部と上辺部分とを形成しステージユニット２５２０と第一アタッカユニット２５３０とを繋ぐように設けられているセンター左上ユニット２５６０と、を備えている。

【０８４７】

本実施形態のセンター役物２５００は、ステージユニット２５２０、第一アタッカユニット２５３０、ゲートユニット２５４０、第二アタッカユニット２５５０、センター左上ユニット２５６０、により周方向へ五つに分割されている。それに伴って、センターフレーム２５１０も周方向へ五つに分割されている。

【０８４８】

センター役物２５００は、第二始動口２００４を開閉可能な第二始動口扉２５４１と、第二始動口扉２５４１を普通入賞口２０１１における遊技球Ｂの受入れにより抽選された普通抽選結果に応じて開閉させる始動口ソレノイド２５４２と、第一大入賞口２００５を開閉可能な第一大入賞口扉２５３１と、第一大入賞口扉２５３１を第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別図柄の抽選結果又は第二特別図柄の抽選結果に応じて開閉させる第一アタッカソレノイド２５３２と、第二大入賞口２００６を開閉可能な第二大入賞口扉２５５１と、第二大入賞口扉２５５１を第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別図柄の抽選結果又は第二特別図柄の抽選結果に応じて開閉させる第二アタッカソレノイド２５５２と、を備えている。

【０８４９】
　また、センター役物２５００は、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された特別図柄や第四図柄等を表示する図柄表示器２５０５と、を備えている。
【０８５０】
［５－８ｃ－１．ステージユニット］
　センター役物２５００のステージユニット２５２０について、図１０８～図１１２等を参照して詳細に説明する。図１０８（ａ）はセンター役物におけるステージユニットの正面図であり、（ｂ）はセンター役物におけるステージユニットの背面図である。図１０９はステージユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１１０はステージユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１１１は、ステージユニットの要部を拡大して示す正面図である。図１１２（ａ）は図１１１におけるタ－タ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１１１におけるチ－チ線で切断した断面図であり、（ｃ）は図１１１におけるツ－ツ線で切断した断面図であり、（ｄ）は図１１１におけるテ－テ線で切断した断面図である。
【０８５１】
　ステージユニット２５２０は、センター役物２５００における左辺部分の一部と下辺部分の一部とを構成しており、図１０８（ａ）に示すように、正面視の形状が、左下へ膨出するような円弧状に形成されている。
【０８５２】
　このステージユニット２５２０は、遊技パネル１１００の前面に取付けられる第一部材２５２１と、第一部材２５２１の後側に取付けられる第二部材２５２２と、第二部材２５２２を後方から挟むように第一部材２５２１の後側に取付けられている第三部材２５２３と、第一部材２５２１における前面の一部に貼り付けられる装飾シール２５２４と、を備えている。
【０８５３】
　第一部材２５２１は、ステージユニット２５２０全体を形作る大きさであり、後側に第二部材２５２２及び第三部材２５２３が取付けられる。この第一部材２５２１は、センターフレーム２５１０の一部を構成しており、前方突出部２５１１と、フランジ部２５１２と、後方突出部２５１３と、サポート部２５１４と、を有している。
【０８５４】
　詳述すると、第一部材２５２１の前方突出部２５１１は、遊技パネル１１００の前面から障害釘Ｎの前端までの距離と同じような幅の帯板状に形成されていると共に、その幅方向が前後方向を向けられており、左右方向へ間隔をあけて二つに分離して設けられている。右側の前方突出部２５１１（後述する区画部２５１１ａ）は、ステージ２５１８の右方に設けられており、上下方向へ略垂直に延出している。左側の前方突出部２５１１は、ワープ出口２５１７から左方に設けられており、左上方へ延出している。この左側の前方突出部２５１１の途中に、左方へ向けて開口するようにワープ入口２５１５が設けられている。なお、右側の前方突出部２５１１は、左側の前方突出部２５１１よりも前方への突出が短い。
【０８５５】
　第一部材２５２１のフランジ部２５１２は、前方突出部２５１１の後端からセンターフレーム２５１０の枠の外方へ向かって、遊技パネル１１００の前面と平行な平板状に延出しており、左右に分離している二つの前方突出部２５１１を繋ぐように設けられている。フランジ部２５１２は、右端が右側の前方突出部２５１１と一致しており、左端が左側の前方突出部２５１１の下方且つワープ入口２５１５の下方の部位まで設けられている。第一部材２５２１のフランジ部２５１２は、ステージ２５１８及びワープ通路２５１６に沿って、左端側が高くなるように左右方向へ延びている。第一部材２５２１のフランジ部２５１２の前面は、所定範囲において一定の深さで凹んでおり、その凹んでいる部位に所定の装飾が印刷された装飾シール２５２４が貼り付けられる。

【０８５６】
第一部材２５２１の後方突出部２５１３は、フランジ部２５１２の右辺と下辺に沿うように、フランジ部２５１２の後面から後方へ板状に突出するように設けられている。この後方突出部２５１３は、第三部材２５２３の下壁部２５２３ｃと対応するように設けられている。第一部材２５２１のサポート部２５１４は、左側の前方突出部２５１１の後端からセンターフレーム２５１０の枠の内方へ向かって板状に延出している。なお、フランジ部２５１２とサポート部２５１４とのそれぞれの一部は、ワープ通路２５１６の前壁を構成している。
【０８５７】
更に、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２及びサポート部２５１４において貫通しており自身を遊技パネル１１００に取付けるための取付ビスが挿通される取付孔２５２１ａと、フランジ部２５１２及びサポート部２５１４の後面から後方へ突出しており遊技パネル１１００の位置決孔に挿入される板用位置決ピン２５２１ｂと、を有している。
【０８５８】
また、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２の下端辺と左端辺とに設けられており先端へ向かうほど後方へ移動するように傾斜している表傾斜部２５２１ｃと、フランジ部２５１２の後面から後方へ円柱状に突出しており中心にネジ孔が形成されている複数の円柱突出部２５２１ｄと、を有している。複数の円柱突出部２５２１ｄは、第二部材２５２２や第三部材２５２３を取付けるためのものである。複数の円柱突出部２５２１ｄのうち、ステージ２５１８の下方に位置している四つの円柱突出部２５２１ｄは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称に設けられている。
【０８５９】
また、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２を貫通しているシール剥孔２５２１ｅを有している。シール剥孔２５２１ｅは、装飾シール２５２４が貼り付けられる部位に設けられており、後方から棒状の工具を挿入することで、貼り付けられている装飾シール２５２４を前方へ押して、剥がし易くするためのものである。
【０８６０】
第二部材２５２２は、第一部材２５２１と第三部材２５２３との間に挟まれるように設けられている。この第二部材２５２２は、ワープ出口２５１７よりも下方に設けられており、ワープ出口２５１７の左端付近から右方へ延出し、一部にステージ２５１８が設けられている。この第二部材２５２２は、板面を上下方向へ向けて左右方向へ延出しており上面を遊技球Ｂが転動可能な転動面部２５２２ａと、転動面部２５２２ａの前端から上方へ延出している板状の前壁板部２５２２ｂと、転動面部２５２２ａの後端から上方へ延出している板状の後壁板部２５２２ｃと、を備えている。
【０８６１】
転動面部２５２２ａは、左右方向の中央付近から右側がアップダウンを有しながらも略水平に延出しており、当該部位にステージ２５１８が設けられている。一方、転動面部２５２２ａにおけるステージ２５１８よりも左側の部位は、ワープ出口２５１７へ向かって左方へ向かうほど高くなるように傾斜している。
【０８６２】
前壁板部２５２２ｂは、転動面部２５２２ａの前端縁における、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａとサイド放出部２５１８ｂとを除いた部位に設けられている。また、前壁板部２５２２ｂは、ステージ２５１８と対応している部位が、他の部位よりも前方へ突出している。前壁板部２５２２ｂは、転動面部２５２２ａから遊技球Ｂの直径よりも低く上方へ突出している。後壁板部２５２２ｃは、転動面部２５２２ａの後端縁の全長に亘って設けられており、転動面部２５２２ａから遊技球Ｂの直径よりも低く上方へ突出している。
【０８６３】
更に、第二部材２５２２は、転動面部２５２２ａにおけるステージ２５１８よりも左側の部位において、前壁板部２５２２ｂ及び後壁板部２５２２ｃから転動面部２５２２ａ側

へ突出しており、遊技球Ｂの流通方向（左右方向）へ千鳥状に列設されている複数の突起部２５２２ｄを、有している。複数の突起部２５２２ｄは、遊技球Ｂが交互に当接することにより前後に蛇行させて、その流通速度（転動速度）を減速させるためのものである。

【０８６４】

また、第二部材２５２２は、前壁板部２５２２ｂの後面において先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部２５２２ｅと、転動面部２５２２ａの前端付近から下方へ突出している下方突出部２５２２ｆと、を有している。下方突出部２５２２ｆは、転動面部２５２２ａの前端縁の全長に亘って設けられており、その前面が前壁板部２５２２ｂにおけるステージ２５１８と対応している部分を除いた部位の前面と同一面上に設けられている。

【０８６５】

また、第二部材２５２２は、後壁板部２５２２ｃから後方へ円柱状に突出している複数の位置決ピン２５２２ｇを有している。複数の位置決ピン２５２２ｇは、左右方向へ間隔をあけて設けられており、そのうちの一つは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａの中心を通る垂直線上に設けられている。複数の位置決ピン２５２２ｇは、第三部材２５２３と位置決めするためのものであり、第三部材２５２３の位置決孔２５２３ｆに挿入される。

【０８６６】

更に、第二部材２５２２は、転動面部２５２２ａの下方に設けられている複数の取付部２５２２ｈを備えている。複数の取付部２５２２ｈは、自身を第一部材２５２１に取付けるためのものである。複数の取付部２５２２ｈは、第一部材２５２１の円柱突出部２５２１ｄを前方から挿入可能に凹んだ凹部が形成されていると共に、後端面に取付ビスが挿通される皿穴が形成されている。また、複数の取付部２５２２ｈのうち、ステージ２５１８の下方に設けられている四つの取付部２５２２ｈは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称に設けられている。従って、複数の取付部２５２２ｈを対応する円柱突出部２５２１ｄに取付けることにより、第二部材２５２２を第一部材２５２１に対して所定位置に位置決めすることができる。

【０８６７】

第三部材２５２３は、第一部材２５２１との間に第二部材２５２２を挟むように第一部材２５２１の後側に取付けられる。この第三部材２５２３は、板面を前後方向に向けて第二部材２５２２に沿うように左右方向へ延出している後壁部２５２３ａと、後壁部２５２３ａの上端縁から前方へ突出している上壁部２５２３ｂと、後壁部２５２３ａの下端縁から上壁部２５２３ｂよりも短く前方へ突出している下壁部２５２３ｃと、後壁部２５２３ａ及び上壁部２５２３ｂの左端から左方且つ上方へ延出している球通路部２５２３ｄと、を備えている。

【０８６８】

後壁部２５２３ａは、ステージ２５１８を構成している第二部材２５２２の転動面部２５２２ａから遊技球Ｂが後方へ転落するのを防止している。後壁部２５２３ａの上端縁は、転動面部２５２２ａの上面から遊技球Ｂの直径よりも高い位置に設けられている。また、後壁部２５２３ａの下端縁は、第一部材２５２１の後方突出部２５１３と一致するように設けられている。

【０８６９】

上壁部２５２３ｂは、第一部材２５２１における右側の前方突出部２５１１の前端と同じ位置まで前方へ突出しており、ステージ２５１８の上方を覆っている。この上壁部２５２３ｂは、後壁部２５２３ａの上端縁から前方へ向かうほど高くなるように傾斜している。これにより、上方から落下してきたゴミや塵等を遊技領域５ａ内へ落ち難くすることができる。また、何らかの理由によって遊技球Ｂが落下してきた場合、当該遊技球Ｂを後方へ落下させることができ、ガラス板１６２との間に遊技球Ｂが溜まることはない。

【０８７０】

下壁部２５２３ｃは、第一部材２５２１の後方突出部２５１３と一致するように設けら

れている。この下壁部２５２３ｃは、ステージユニット２５２０に組立てた状態で、前端面が第一部材２５２１の後方突出部２５１３の後端面と当接するように設けられている。

【０８７１】

球通路部２５２３ｄは、前方へ開放された樋状に形成されており、その前端の開口が第一部材２５２１のフランジ部２５１２及びサポート部２５１４により閉鎖される。この球通路部２５２３ｄは、ワープ入口２５１５付近からワープ出口２５１７まで延出しており、ワープ通路２５１６の底壁、後壁、及び上壁を構成している。

【０８７２】

また、第三部材２５２３は、球通路部２５２３ｄの前端から後壁部２５２３ａと平行に外方へ延出している取付片２５２３ｅと、後壁部２５２３ａに設けられており第二部材２５２２の位置決ピン２５２２ｇが挿入される位置決孔２５２３ｆと、後壁部２５２３ａ及び取付片２５２３ｅに設けられており自身を第一部材２５２１に取付けるための取付ネジが挿通される取付孔２５２３ｇと、後壁部２５２３ａに設けられており第二部材２５２２を第一部材２５２１に取付けるための取付ネジが通過可能なネジ通過孔２５２３ｈと、を有している。ネジ通過孔２５２３ｈは、背面視において第二部材２５２２の取付部２５２２ｈと重なる部位に設けられている。

【０８７３】

本実施形態のステージユニット２５２０は、第一部材２５２１におけるフランジ部２５１２の後方に、第二部材２５２２がネジ止めされている。具体的には、第二部材２５２２の取付部２５２２ｈには、前方から凹んでいる凹部を有しており、その凹部内に第一部材２５２１の円柱突出部２５２１ｄを挿入させた上で、取付部２５２２ｈの後方から取付ネジを円柱突出部２５２１ｄにねじ込むことにより、第二部材２５２２が第一部材２５２１に取付けられる。

【０８７４】

この際に、円柱突出部２５２１ｄを取付部２５２２ｈの凹部に挿入しているため、それらの嵌め合わせにより第一部材２５２１に対して第二部材２５２２が所定位置に位置決めされる。

【０８７５】

そして、第一部材２５２１に第二部材２５２２を取付けたら、第二部材２５２２の後方に第三部材２５２３を位置させた上で、第三部材２５２３を前方へ移動させて第二部材２５２２の位置決ピン２５２２ｇを第三部材２５２３の位置決孔２５２３ｆに挿入させる。これにより、第二部材２５２２に対して第三部材２５２３が所定位置に位置決めされる。

【０８７６】

そして、第三部材２５２３が第二部材２５２２に対して位置決めされると、第三部材２５２３の取付孔２５２３ｇの軸芯と第一部材２５２１の円柱突出部２５２１ｄの軸芯とが一致した状態となるため、後方から取付孔２５２３ｇを通して取付ネジを円柱突出部２５２１ｄにねじ込むことにより、第三部材２５２３が第一部材２５２１に取付けられる。これにより、ステージユニット２５２０が組立てられた状態となる。

【０８７７】

ステージユニット２５２０を組立てた状態では、図１１２に示すように、第一部材２５２１のフランジ部２５１２の後面に第二部材２５２２の下方突出部２５２２ｆの前面が当接していると共に、第二部材２５２２の後壁板部２５２２ｃの後面が第三部材２５２３の後壁部２５２３ａの前面に当接している。つまり、第二部材２５２２が第一部材２５２１と第三部材２５２３とに挟まれている。

【０８７８】

また、ステージユニット２５２０では、第一部材２５２１の後方突出部２５１３の後端面と、第三部材２５２３の下壁部２５２３ｃの前端面と、が当接している。これら後方突出部２５１３と下壁部２５２３ｃは、第二部材２５２２の転動面部２５２２ａ（ステージ２５１８）の下方に間隔をあけて設けられている。従って、ステージユニット２５２０では、ステージ２５１８の下方に、フランジ部２５１２と、転動面部２５２２ａと、後壁部

２５２３ａと、後方突出部２５１３及び下壁部２５２３ｃと、によって断面が四角い閉鎖空間２５２５ａを有した角パイプ状の補強部２５２５が設けられている（図１１２を参照）。これにより、ステージユニット２５２０の強度・剛性を高めることができるため、遊技球Ｂの重さが作用してもステージ２５１８を歪み難くすることができ、ステージ２５１８における遊技球Ｂの転動（挙動）を安定させて設計通りに転動させることが可能となる。

【０８７９】

ところで、ステージユニット２５２０において、位置決ピン２５２２ｇによりユニット内でのステージ２５１８の位置決め精度が高くても、ステージユニット２５２０と遊技パネル１１００との位置決め精度が低いと、遊技盤５としてはステージ２５１８の精度が低くなってしまい、ステージ２５１８において設計上の作用効果が充分に発揮されない恐れがある。これに対して、本実施形態のステージユニット２５２０では、図１１２に示すように、自身を遊技パネル１１００に位置決めするための板用位置決ピン２５２１ｂの直径ｄ１と、第二部材２５２２と第三部材２５２３とを位置決めしている位置決ピン２５２２ｇの直径ｄ２と、の関係を、　ｄ１＞ｄ２　としている。また、直径だけでなく長さについても板用位置決ピン２５２１ｂの方を長くしている。つまり、位置決ピン２５２２ｇよりも板用位置決ピン２５２１ｂの方が大きく設けられている。これにより、大本となる遊技パネル１１００に対するステージユニット２５２０の位置決め精度を高めることができ、ステージ２５１８において設計の際に想定された作用効果を充分に発揮させることができる。

【０８８０】

また、本実施形態のステージユニット２５２０は、第二部材２５２２において、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂが前方へ放出されるのを阻止可能な前壁板部２５２２ｂの上端縁に裏傾斜部２５２２ｅを設けている。また、第一部材２５２１において、遊技パネル１１００の前面に取付けられるフランジ部２５１２における少なくともステージ２５１８（前壁板部２５２２ｂ）の下方の部位の下端縁に表傾斜部２５２１ｃを設けている。

【０８８１】

図１１２に示すように、裏傾斜部２５２２ｅは、前壁板部２５２２ｂの後面において、先端（上端縁）へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜しており、表傾斜部２５２１ｃは、フランジ部２５１２において、先端（下端縁）へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。

【０８８２】

このように、ステージ２５１８前側の前壁板部２５２２ｂの上端縁に裏傾斜部２５２２ｅを設けているため、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂが裏傾斜部２５２２ｅに案内されることで中央放出部２５１８ａやサイド放出部２５１８ｂ以外の部位でも前方へ落下し易くなる。これにより、遊技球Ｂがステージ２５１８を左右方向へ転動すると、中央放出部２５１８ａやサイド放出部２５１８ｂ以外の部位（前壁板部２５２２ｂ）から落下する恐れがあるため、遊技者に対してステージ２５１８上の遊技球Ｂに注目させることができ、遊技球Ｂが前壁板部２５２２ｂから落下しないことを願わせて遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができる。従って、従来のパチンコ機よりもステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０８８３】

また、フランジ部２５１２の下端縁に表傾斜部２５２１ｃを設けているため、ステージ２５１８や前壁板部２５２２ｂから落下してフランジ部２５１２の前面を転動してきた遊技球Ｂを、スムーズに遊技パネル１１００の前面へ受け渡すことができる。これにより、フランジ部２５１２の下端において遊技球Ｂを跳ね難くすることができ、遊技球Ｂが予想外の動きをしたり下方の部材を破損させたりしてしまうことを抑制させることができる。

【０８８４】

また、本実施形態では、前壁板部２５２２ｂに裏傾斜部２５２２ｅを設けているため、遊技パネル１１００からステージユニット２５２０を取外す際に、前壁板部２５２２ｂと

上壁部２５２３ｂとの間に指を挿入し易くすることができると共に、挿入した指を引っ掛け易くすることができ、ステージユニット２５２０の取外作業を楽にすることができる。
【０８８５】
なお、本実施形態のステージユニット２５２０では、第三部材２５２３における第二部材２５２２の取付部２５２２ｈの後方の部位にネジ挿通孔２５２３ｈを設けているため、リサイクルなどによりステージユニット２５２０を分解する際に、ステージユニット２５２０の後方から全ての取付ネジを取外すことができる。これにより、例えば、ドライバーを持って第三部材２５２３を取付けている取付ネジを取外した後に、ドライバーを置いて第一部材２５２１から第三部材２５２３を取外し、再びドライバーを持って第二部材２５２２を取付けている取付ネジを取外した後に、ドライバーを置いて第一部材２５２１から第二部材２５２２を取外すような作業をしなくて済み、分解時の作業性を高めることができる。
【０８８６】
また、第三部材２５２３にネジ挿通孔２５２３ｈを設けているため、遊技盤５に組立てた状態で、ステージ２５１８の位置ズレが判明した時に、ステージユニット２５２０を遊技パネル１１００から取外さなくても、ドライバーを後方からネジ挿通孔２５２３ｈを通して第二部材２５２２を取付けている取付ネジを緩めることができ、ステージ２５１８を有する第二部材２５２２を微調整してステージ２５１８の位置ズレを解消させることができる。
【０８８７】
また、ステージユニット２５２０は、後方にＬＥＤや演出表示装置１６００等の前方へ光を発することが可能な発光手段が設けられている。これにより、発光手段からの光によって、ステージユニット２５２０や装飾シール２５２４等を明るく発光装飾させることができる。
【０８８８】
ところで、遊技パネル１１００の前面におけるセンター役物２５００の左側を流下する遊技球Ｂは、俗にいう道釘に沿ってセンター役物２５００の下方に設けられている第一始動口２００２に向かって転動して行くが、その際に、道釘等の障害釘Ｎによって上方へ跳ね上がった遊技球Ｂは、上方のフランジ部２５１２に表傾斜部２５２１ｃが設けられているため、その動きが阻害されることはなく、自然な挙動となる。また、フランジ部２５１２の先端に表傾斜部２５２１ｃを設けているため、遊技球Ｂが表傾斜部２５２１ｃの面に当たることでフランジ部２５１２の先端の角には当たることはなく、フランジ部２５１２が欠けたり割れたりすることはない。
【０８８９】
更に、本実施形態のステージユニット２５２０では、ステージ２５１８の前壁部分として第二部材２５２２に裏傾斜部２５２２ｅを有する前壁板部２５２２ｂを設けたものを示したが、これに限定するものではなく、第一部材２５２１にステージ２５１８の前壁部分（前壁板部）を設けるようにしても良い。つまり、表傾斜部と裏傾斜部とが一つの部材に設けられていても良い。
【０８９０】
［５－８ｃ－２．脱型痕跡部］
続いて、ステージユニット２５２０等のセンター役物２５００に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１１３～図１１８を参照して詳細に説明する。図１１３（ａ）～（ｄ）は、脱型痕跡部の様々な態様を示す説明図である。図１１４（ａ）はセンター役物のステージユニットにおける前後両側に脱型痕跡部が設けられている第一部材の正面図であり、ステージユニットにおける前後両側に脱型痕跡部が設けられている第一部材の背面図である。図１１５（ａ）はステージユニットにおける後側のみに脱型痕跡部が設けられている第二部材の正面図であり、（ｂ）はステージユニットにおける後側のみに脱型痕跡部が設けられている第二部材の背面図である。図１１６（ａ）ははステージユニットにおける前側のみに脱型痕跡部が設けられている第三部材の正面図であり、（ｂ）はステー

ジユニットにおける前側のみに脱型痕跡部が設けられている第三部材の背面図である。図１１７（ａ）は図１１５とは異なる部位に脱型痕跡部が設けられている第二部材の平面図であり、（ｂ）は図１１６とは異なる部位に脱型痕跡部が設けられている第三部材の正面図である。図１１８は、前側に脱型痕跡部が設けられているセンター役物を遊技盤と共に模式的に示す説明図である。

【０８９１】

まず、脱型痕跡部２５１９について、図１１３を参照して説明する。脱型痕跡部２５１９は、成形型（金型）を使用して製品を成形した後に、当該製品を成形型から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により製品に付いた押出痕跡のことである。脱型痕跡部２５１９は、隣接する平面部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。ここでは、ステージユニット２５２０に設けられている脱型痕跡部２５１９を例にして説明する。なお、図示では、脱型痕跡部２５１９が判り易いように網掛けを施してある。

【０８９２】

図１１３（ａ）は、フランジ部２５１２のような板状の部位における板面に設けられている脱型痕跡部２５１９を示している。ここでは、円形の脱型痕跡部２５１９を示しているが、三角形、四角形、五角形、六角形、のような多角形、星形、ハート形、のような不定形、としても良い。また、板面に脱型痕跡部２５１９を複数設ける場合は、表面と後面（裏面）に複数の脱型痕跡部２５１９を点在させて配置するようにしてよいし、何れかの面に複数の脱型痕跡部２５１９を集約して配置するようにしても良い。例えば、複数の脱型痕跡部２５１９を、透過性を有する板面の表面と後面（裏面）に点在させて配置することで、外部からの脱型痕跡部２５１９の見栄えに遠近作用を働かせることが可能となり、複数の脱型痕跡部２５１９そのものを用いた立体感のある装飾性を付与することが可能となる。また、脱型痕跡部２５１９の見栄えが遊技機（パチンコ機）全体の装飾を阻害することを懸念するのであれば、例えば、複数の脱型痕跡部２５１９を透過性を有する板面の後面（裏面）に集約して配置するように設けるようにし、且つ、透過性を有する板面の表面に表傾斜部２５２１ｃや装飾シール２５２４や他の部材を後面（裏面）の脱型痕跡部２５１９に重畳するように（重なるように）配置し、外部から脱型痕跡部２５１９を見え辛くすることが望ましい。また、透過性を有する板面の表面に表傾斜部２５２１ｃや装飾シール２５２４や他の部材を後面（裏面）の脱型痕跡部２５１９に重畳するように（重なるように）配置する場合には、複数の脱型痕跡部２５１９を表傾斜部２５２１ｃや装飾シール２５２４によって纏めて見え辛くするようにすることが望ましい。また、透過性を有する板面の前面、あるいは、透過性を有さない板面の前面に複数の脱型痕跡部２５１９を集約して配置するように設ける場合は、その板面の前面に装飾シール２５２４や他の部材等を複数の脱型痕跡部２５１９と直接重畳するように（重なるように）配置してもよく、この場合にも外部から脱型痕跡部２５１９を見え辛くすることができる。

【０８９３】

図１１３（ｂ）～（ｅ）では、板状の部位における端面（板厚方向の面）に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９を示している。ここでは、前方突出部２５１１の前端面を例にしている。図１１３（ａ）に示す脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端面の上下幅に納まらない円形の一部（ここでは半円形）であり、間隔をあけて設けられている。この半円形の脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端面におけるフランジ部２５１２やサポート部２５１４が延出していない側の端辺が、半円の弦の部分と接するように設けられている。換言すると、半円形の脱型痕跡部２５１９では、その半円の中心が、前方突出部２５１１の前端面におけるフランジ部２５１２やサポート部２５１４が延出していない側の端辺に近い部位に設けられている。また、図示は省略するが、前方突出部２５１１の左右端からの所定距離内は脱型痕跡部２５１９を配置しない禁止領域としており、これにより、設計過程で前方突出部２５１１の左右端の一方あるいは両方を他部材と接触させて組み付ける必要が生じた場合等に、脱型痕跡部２５１９の僅かな凹凸が他部材との組付け精度を阻害してしまうことを回避可能にしている。

【０８９４】
図１１３（ｃ）に示す脱型痕跡部２５１９は、四角形であり、間隔をあけて設けられている。ここでは、前方突出部２５１１の長手方向へ長い長方形の脱型痕跡部２５１９を示している。この例の脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端面の上下幅および左右幅内に納まるように設けられている。つまり、この脱型痕跡部２５１９は、何れの辺も前方突出部２５１１の前端面の端辺と接していない。なお、四角形の脱型痕跡部２５１９は、正方形であっても良いし、他の形状であっても良い。
【０８９５】
図１１３（ｄ）に示す脱型痕跡部２５１９は、二点鎖線で示すように、大きな円の一部であり、前方突出部２５１１の前端面に沿った長い形である。この脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端面の上下幅に納まらない大きな円の中心が前方突出部２５１１の前端面上に位置している。また、この脱型痕跡部２５１９は、円弧の部分を除いて、前方突出部２５１１の前端面における両側の端辺にそれぞれ接している。
【０８９６】
図１１３（ｅ）に示す脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端面に沿った長い四角形である。この四角形の脱型痕跡部２５１９は、四つの辺のうちの一つが、前方突出部２５１１の前端面におけるフランジ部２５１２やサポート部２５１４が延出していない側の端辺と接しており、残りの辺は前端面の端辺と接していない。なお、この脱型痕跡部２５１９では、前方突出部２５１１の前端面の両端辺に接するようにしても良い。
【０８９７】
なお、図１１３（ｂ）～（ｅ）では、前方突出部２５１１の前端面が直線状に延びているものを示したが、これに限定するものではなく、曲線状や折れ線状に延びているものとしても良く、その場合でも、上記と同様のパターンで複数の脱型痕跡部２５１９を設けるようにすることが可能である。
【０８９８】
また、図１１３では、同じ形の脱型痕跡部２５１９を複数設けたものを示したが、これに限定するものではなく、形の異なる脱型痕跡部２５１９が混在していても良い。例えば、形の異なる脱型痕跡部２５１９を交互に設けたり、所定のアルゴリズムで設けたりしても良い。これにより、複数の脱型痕跡部２５１９に対して装飾性を付与することができ、脱型痕跡部２５１９が見えても見栄えが悪くなることはない。
【０８９９】
［５－８ｃ－２ａ．ステージユニットの脱型痕跡部］
次に、センター役物２５００のステージユニット２５２０に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１１４～図１１６を参照して詳細に説明する。ステージユニット２５２０の第一部材２５２１には、図１１４に示すように、脱型痕跡部２５１９が前側（表側）と後側（裏側）の両方に設けられている。詳述すると、第一部材２５２１では、図１１４（ａ）に示すように、前方へ突出している二つの前方突出部２５１１のうち、左側の前方突出部２５１１の前端面に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。前方突出部２５１１の前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９は、細長い長方形である。なお、詳細は後述するが、ステージ２５１８の右端にある右側の前方突出部２５１１の前端面には、脱型痕跡部２５１９が意図的に設けられていない。
【０９００】
また、第一部材２５２１では、図１１４（ｂ）に示すように、左側（背面視では右側）の前方突出部２５１１の後端面と、後方突出部２５１３の後端面と、に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。ワープ入口２５１５よりも上側に設けられている脱型痕跡部２５１９は円形であり、その他の脱型痕跡部２５１９は長方形である。第一部材２５２１の裏側に設けられている脱型痕跡部２５１９は、主に前方突出部２５１１の後端面や後方突出部２５１３の後端面に設けられているため、前方突出部２５１１が透過性を有していたとしても、前方突出部２５１１の前後方向の距離による屈折作用や外光等の反射作用、あるいは、第一部材２５２１後方に配置される装飾物（装飾体）による視認阻害作用によ

り、前方突出部２５１１の前方からは見え辛くすることができる。
【０９０１】
　また、第一部材２５２１では、フランジ部２５１２の前面に装飾シール２５２４が貼り付けられるため、フランジ部２５１２の後面や後方突出部２５１３の後端面に設けられている脱型痕跡部２５１９が、装飾シール２５２４により見え辛くなっている。また、装飾シール２５２４には、遊技パネル１１００の後面に設けられている装飾セル１１４０の装飾と一体感のある装飾が施されているため、それらの装飾が目立つことで相対的に脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。なお、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くする手段としては、装飾シール２５２４だけでなく「フランジ部２５１２の前面に凹凸形成したレンズカット部」を適用するようにしても良く、この場合にもレンズカット部の装飾が目立つことで相対的に脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。
【０９０２】
　更に、第一部材２５２１の後方には、動画を含む演出画像が表示される演出表示装置１６００や、発光・点滅する装飾用のＬＥＤが設けられた発光装飾物（発光装飾体）、等が設けられているため、それらからの光により、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。
【０９０３】
　なお、第一部材２５２１の裏側において、円柱突出部２５２１ｄの後端面に脱型痕跡部２５１９を設けても良い。この場合でも、円柱突出部２５２１ｄの存在により前方から脱型痕跡部２５１９を見え辛くすることができると共に、第一部材２５２１を成形型から取出し（脱型）易くすることができる。
【０９０４】
　また、第一部材２５２１において、板面が前後方向を向いているフランジ部２５１２やサポート部２５１４では、その後面に脱型痕跡部２５１９を設けるようにしているため、前方からは当該脱型痕跡部２５１９が見え辛くなっている。一方、第一部材２５２１において、板面が前後方向と直交する方向を向いている前方突出部２５１１や後方突出部２５１３では、前端面や後端面のような幅の狭い部位に脱型痕跡部２５１９を設けるようにしているため、板面に設けられている脱型痕跡部２５１９よりも小さく、前方からは見え辛くなっている。
【０９０５】
　また、第一部材２５２１において、遊技球Ｂが進入可能に開口しているワープ入口２５１５と、ワープ通路２５１６の下流端において開口しているワープ出口２５１７に通ずる球通路とを構成する筒状のカバー部位については、その表面および裏面に脱型痕跡部２５１９を設けないようにしている。これにより、ワープ入口２５１５に進入した遊技球Ｂの視認性が脱型痕跡部２５１９によって阻害されることを回避することができる。
【０９０６】
　なお、本実施形態の第一部材２５２１では、前方突出部２５１１の前端面に脱型痕跡部２５１９を設けているものを示したが、これに限定するものではなく、前方突出部２５１１の前端面に脱型痕跡部２５１９を設けていない第一部材２５２１としても良い。つまり、後面にのみ脱型痕跡部２５１９が設けられている第一部材２５２１としても良い。
【０９０７】
　続いて、センター役物２５００のステージユニット２５２０における第二部材２５２２には、図１１５に示すように、脱型痕跡部２５１９が前後方向の後側（裏側）のみに設けられている。詳述すると、第二部材２５２２では、図１１５（ｂ）に示すように、後壁板部２５２２ｃの後面に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。複数の脱型痕跡部２５１９は、後壁板部２５２２ｃに沿って一定の間隔をあけて設けられている。ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａに近い脱型痕跡部２５１９は、中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称に設けられている。第二部材２５２２に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は円形である。
【０９０８】

この第二部材２５２２は、複数の脱型痕跡部２５１９が後壁板部２５２２ｃの後面に設けられていると共に、その前方には転動面部２５２２ａ及び前壁板部２５２２ｂが存在しているため、前方から脱型痕跡部２５１９が見え辛くなっている。また、仮に、ステージ２５１８の部位で脱型痕跡部２５１９が見えたとしても、中央放出部２５１８ａを中心にして対称に設けているため、脱型痕跡部２５１９が装飾のように見え、見栄えが悪くなることはない。

【０９０９】

また、第二部材２５２２の後方には、動画を含む演出画像が表示される演出表示装置１６００や、発光・点滅する装飾用のＬＥＤが設けられた発光装飾物（発光装飾体）、等が設けられているため、それらからの光により、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。

【０９１０】

この第二部材２５２２によれば、ステージ２５１８（転動面部２５２２ａ）を有していることから、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きを楽しむために、遊技者が第二部材２５２２に注目することとなるが、第二部材２５２２では前方から見え辛い部位（後壁板部２５２２ｃの後面）に脱型痕跡部２５１９を設けているため、本パチンコ機１の前方にいる遊技者から脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部２５１９により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【０９１１】

また、第二部材２５２２には、前述したように、転動面部２５２２ａにおけるステージ２５１８よりも左側の部位において千鳥状に列設されている複数の突起部２５２２ｄを有しており、複数の突起部２５２２ｄの一部または全部を、脱型痕跡部２５１９と前後方向で重なるように配置するようにしてもよい。このように構成することによっても、前方にいる遊技者からは、突起部２５２２ｄによって脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができる。

【０９１２】

また、第二部材２５２２によれば、成形時に形成される脱型痕跡部２５１９を、遊技球Ｂの流通を阻害しない部位（遊技球Ｂと接触しない部位）に設けているため、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きに対して脱型痕跡部２５１９が影響を与えることはなく、第二部材２５２２（ステージ２５１８）における遊技球Ｂの流通精度を高めることができる。従って、ステージ２５１８において転動する遊技球Ｂに対して設計通りの動きをさせることができ、ステージ２５１８から遊技球Ｂを意図した確率で遊技パネル１１００の前面側へ放出させることができる。

【０９１３】

続いて、センター役物２５００のステージユニット２５２０における第三部材２５２３には、図１１６に示すように、脱型痕跡部２５１９が前側（表側）のみに設けられている。詳述すると、第三部材２５２３では、図１１６（ａ）に示すように、上壁部２５２３ｂの前端面と、下壁部２５２３ｃの前端面と、に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。上壁部２５２３ｂの前端面に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は四角形である。上壁部２５２３ｂにおけるステージ２５１８の中央放出部２５１８ａに近い脱型痕跡部２５１９は、中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称に設けられている。一方、下壁部２５２３ｃの前端面に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は、下壁部２５２３ｃの前端面における外側辺に近い部位を中心にした半円形のような円形の一部を有する形状である。

【０９１４】

この第三部材２５２３では、上壁部２５２３ｂの前端面に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は、その前方に見え辛くするような部材が設けられていないため、遊技者から視認することができる。一方、下壁部２５２３ｃの前端面に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は、その前方に第一部材２５２１の後方突出部２５１３が位置し、前方か

ら見え辛くなっている。
【０９１５】
第三部材２５２３では、後壁部２５２３ａの前面及び後面と、上壁部２５２３ｂの上面及び下面と、にそれぞれ脱型痕跡部２５１９を設けていないため、脱型痕跡部２５１９によりステージ２５１８の見栄えが悪くなることはないと共に、ステージ２５１８を転動する遊技球Ｂの動きに影響を与えることはない。
【０９１６】
ところで、第三部材２５２３の後壁部２５２３ａや上壁部２５２３ｂに遊技球Ｂと同じような円形の脱型痕跡部２５１９が設けられていると、ステージ２５１８よりも上方に見える脱型痕跡部２５１９を遊技球Ｂと見間違える恐れがある。また、遊技球Ｂと脱型痕跡部２５１９とが重なることで、脱型痕跡部２５１９が転動している遊技球Ｂの残像のようになって本来とは異なる動きをしているように見えてしまい、ステージ２５１８上での遊技球Ｂの動きに対して不信感を与えてしまう恐れがある。しかしながら、本実施形態の第三部材２５２３は、後壁部２５２３ａの前面及び後面、上壁部２５２３ｂの上面及び下面、のような板面に脱型痕跡部２５１９を設けていないため、脱型痕跡部２５１９を遊技球Ｂと誤認したり、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きがおかしく見えたりすることはなく、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きを確実に楽しませることができる。また、円形の脱型痕跡部２５１９を設ける場合には、遊技球Ｂの直径よりも大きい又は小さい直径からなる円形としておくことで、脱型痕跡部２５１９と遊技球Ｂとの誤認を一層容易に回避することができる。
【０９１７】
また、第三部材２５２３の後方には、動画を含む演出画像が表示される演出表示装置１６００や、発光・点滅する装飾用のＬＥＤが設けられた発光装飾物（発光装飾体）、等が設けられているため、それらからの光により、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。
【０９１８】
この第三部材２５２３によれば、成形時に形成される脱型痕跡部２５１９を、遊技球Ｂが流通する流通領域２５２３ｉよりも外側に設けているため、脱型痕跡部２５１９が流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂと重なって見えることはなく、遊技者に対して流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂを見え易くすることができる。従って、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂの動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。
【０９１９】
また、第三部材２５２３によれば、脱型痕跡部２５１９を流通領域２５２３ｉよりも外側の部位に設けていることから、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂが脱型痕跡部２５１９に接触することはないため、脱型痕跡部２５１９が遊技球Ｂの流通を阻害することはなく、ステージユニット２５２０（センター役物２５００）における遊技球Ｂの流通精度を高めることができる。従って、センター役物２５００において流通する遊技球Ｂに対して設計通りの動きをさせることができ、意図したように遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。
【０９２０】
更に、第三部材２５２３によれば、ワープ通路２５１６やステージ２５１８等を流通している遊技球Ｂの動きを楽しむために、遊技者が第三部材２５２３に注目することとなるが、第三部材２５２３では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、本パチンコ機１の前方にいる遊技者から脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部２５１９により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。
【０９２１】
また、第三部材２５２３によれば、遊技者から脱型痕跡部２５１９が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部

２５１９を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部２５１９が見えてもセンター役物２５００（第三部材２５２３）の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【０９２２】

［５－８ｃ－２ｂ．ステージユニットの脱型痕跡部の別例］

次に、ステージユニット２５２０において上記とは異なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けた別例を、図１１７を参照して説明する。まず、図１１７（ａ）は、第二部材２５２２の平面図である。この図１１７（ａ）においてクロスハッチングで示している領域は、転動する遊技球Ｂが接触する接触領域２５２２ｉである。図示するように、このステージユニット２５２０の第二部材２５２２では、転動面部２５２２ａにおける遊技球Ｂが転動する上面側で、接触領域２５２２ｉよりも外側の部位に、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。本例では、ワープ出口２５１７とステージ２５１８との間の複数の突起部２５２２ｄが設けられている部分に、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。これにより、脱型痕跡部２５１９が遊技球Ｂの転動に影響を及ぼすことはない。また、複数の突起部２５２２ｄの間の部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９が目立ち難い。なお、第二部材２５２２では、図１１７（ａ）において破線で示すように、転動面部２５２２ａの裏側（下面側）に脱型痕跡部２５１９を設けても良い。

【０９２３】

図１１７（ｂ）は、ステージユニット２５２０における第三部材２５２３の正面図である。この図１１７（ｂ）においてクロスハッチングで示している領域は、遊技球Ｂが流通する流通領域２５２３ｉである。図示するように、このステージユニット２５２０の第三部材２５２３では、後壁部２５２３ａの前面における流通領域２５２３ｉよりも下方の部位に複数の円形の脱型痕跡部２５１９が設けられている。これらの脱型痕跡部２５１９は、流通領域２５２３ｉ外に設けているため、遊技球Ｂの流通に影響を及ぼすことはない。また、これら脱型痕跡部２５１９は、ステージユニット２５２０に組立てた状態で、補強部２５２５の閉鎖空間２５２５ａ内に位置しており、前方から見え難くなっている。

【０９２４】

また、この第三部材２５２３によれば、後壁部２５２３ａの前面における流通領域２５２３ｉよりも下方の部位に脱型痕跡部２５１９を設けていることから、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂが脱型痕跡部２５１９に接触することはなく、脱型痕跡部２５１９が遊技球Ｂの流通を阻害することはない。従って、ステージ２５１８における遊技球Ｂの流通精度を高めることができるため、センター役物２５００において流通する遊技球Ｂに対して設計通りの動きをさせることができ、意図したように遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【０９２５】

［５－８ｃ－２ｃ．前方突出部の脱型痕跡部］

続いて、センターフレーム２５１０における前方突出部２５１１の前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１１８を参照して説明する。センター役物２５００のセンターフレーム２５１０は、遊技パネル１１００の前面から障害釘Ｎの前端まで同じような長さで前方へ突出している前方突出部２５１１を有している。パチンコ機１の状態では、前方突出部２５１１の前方に扉枠３のガラス板１６２が設けられている。前方突出部２５１１の前端とガラス板１６２との間には、遊技球Ｂが通過不能な隙間を有している。これにより、遊技球Ｂが前方突出部２５１１を越えて反対側へ移動することはなく、センターフレーム２５１０の枠内への遊技球Ｂの流入を規制して、枠内に遊技球Ｂが侵入することはない。

【０９２６】

この前方突出部２５１１は、ステージユニット２５２０における第二部材２５２２の部位には設けられていないが、第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂが前方突出部２５１１の替わりをしている。従って、ここでは、第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂも前方突出部２５１１として扱うこととする。また、センター役物２５００における第一アタッカ

ユニット２５３０とゲートユニット２５４０では、前方突出部２５１１の前方に前板が設けられており、当該部位では、前方突出部２５１１が前方から隠されている。

【０９２７】

そして、図１１８に示すように、上壁部２５２３ｂの前端面も含めて前方突出部２５１１の前端面には、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。これにより、遊技者から枠状に並んだ複数の脱型痕跡部２５１９が見えることとなる。また、脱型痕跡部２５１９は、前方突出部２５１１の前端の一般面と比較して、微小に凹凸していたり傾斜していたりするため、後方に設けられているＬＥＤや演出表示装置１６００等の発光手段からの光により、他の一般面とは異なる態様で発光することとなる。このようなことから、センターフレーム２５１０（センター役物２５００）における枠状の前方突出部２５１１が目立つこととなり、遊技球Ｂの流入を規制する前方突出部２５１１の存在に気付かせることができると共に、複数の脱型痕跡部２５１９により枠状に装飾することができる。

【０９２８】

ところで、センターフレーム２５１０の前方突出部２５１１には、ステージ２５１８の右端において上下方向へ延出している区画部２５１１ａを有している。この区画部２５１１ａは、上壁部２５２３ｂの右端付近からフランジ部２５１２よりも下方で右下レール１００４付近まで延出しており、センター役物２５００の下方において遊技領域５ａを左右に分割している。そして、本実施形態では、前方突出部２５１１における区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けていない。これにより、遊技者に対して、前方突出部２５１１において区画部２５１１ａの部位は、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている他の部位のように枠を構成する部位ではないと認識させることができ、遊技領域５ａが左右に分割されていることを認識させることが可能となる。

【０９２９】

或いは、前方突出部２５１１の区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けていないため、区画部２５１１ａの存在に気付かせ難くすることができる。これにより、遊技者に対して、区画部２５１１ａの部位を跨いで遊技球Ｂが行き来できると錯覚させることができる。

【０９３０】

なお、区画部２５１１ａとしては、上壁部２５２３ｂの右端付近から右下レール１００４付近まで延出しているものを示したが、上壁部２５２３ｂの右端付近からステージ２５１８下のフランジ部２５１２の下端まで延出しているものとしても良いし、上壁部２５２３ｂの右端付近からフランジ部２５１２を越えて第一始動口２００２又は一般入賞口２００１に入球することのない高さの位置まで延出しているものとしても良い。

【０９３１】

このセンターフレーム２５１０によれば、前方突出部２５１１及び上壁部２５２３ｂの前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９により、センターフレーム２５１０を目立たせることができ、センターフレーム２５１０に遊技者の関心を引き付けさせることができると共に、遊技者に対して、従来とは全く異なるセンターフレーム２５１０が設けられていると認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【０９３２】

また、センターフレーム２５１０によれば、隣接して設けられている脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、センターフレーム２５１１における前方突出部２５１１の前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９を模様のように見せることができ、センターフレーム２５１９の見栄えを良くすることができる。

【０９３３】

更に、センターフレーム２５１０によれば、前方突出部２５１１における区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けないようにしているため、遊技者に対して、当該区画部２５１１ａが前方突出部２５１１における脱型痕跡部２５１９が設けられている部位とは異なる部位であると認識させることが可能となり、区画部２５１１ａが枠を構

成する部位ではないと認識させることができ、遊技領域５ａが左右に分割されていることを認識させることができる。

【０９３４】

或いは、区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けていないため、前方突出部２５１１における脱型痕跡部２５１９が設けられている部位や上壁部２５２３ｂよりも区画部２５１１ａが目立ち難くなるため、区画部２５１１ａの存在に気付かせ難くすることができ、遊技者に対して、区画部２５１１ａの部位を跨いで遊技球Ｂが行き来できると錯覚させることができる。

【０９３５】

［５－８ｃ－３．ステージユニットの第二実施形態］

次に、センター役物２５００における第二実施形態のステージユニット２５２０Ａについて、図１１９～図１２３を参照して詳細に説明する。図１１９は図１０８等とは異なる第二実施形態のステージユニットの一部を示す正面図である。図１２０（ａ）は図１１９のステージユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）のステージユニットを後ろから見た斜視図である。図１２１は図１１９のステージユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１２２は図１１９のステージユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１２３（ａ）は図１１９におけるナ－ナ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１１９におけるニ－ニ線で切断した断面図であり、（ｃ）は図１１９におけるヌ－ヌ線で切断した断面図である。なお、ここでは、第一実施形態のステージユニット２５２０と同じ構成については同じ符号を付して説明する。

【０９３６】

ステージユニット２５２０Ａは、枠状のセンターフレーム２５１０の一部に設けられている。センターフレーム２５１０は、障害釘Ｎの前端と同じような位置まで遊技パネル１１００の前面から前方へ突出している前方突出部２５１１と、前方突出部２５１１の後端から枠の外方へ向かって遊技パネル１１００の前面と平行に延出している板状のフランジ部２５１２と、フランジ部２５１２よりも後方へ突出している後方突出部２５１３と、前方突出部２５１１の後端から枠の内方へ向かって遊技パネル１１００の前面と平行に延出している板状のサポート部２５１４と、を備えている。

【０９３７】

センターフレーム２５１０の前方突出部２５１１は、詳細な図示は省略するが、遊技パネル１１００の開口部１１１２の周縁に沿うように略全周に亘って枠状に設けられている。この前方突出部２５１１によって、遊技パネル１１００の開口部１１１２内への遊技球Ｂの侵入（流入）が阻止されている。フランジ部２５１２は、センターフレーム２５１０を遊技パネル１１００の前面に取付けるためのものである。後方突出部２５１３及びサポート部２５１４は、主にセンターフレーム２５１０を補強するためのものである。

【０９３８】

このステージユニット２５２０Ａには、枠状の前方突出部２５１１における左辺部分において遊技球Ｂが進入可能に開口しているワープ入口２５１５と、ワープ入口２５１５に進入した遊技球Ｂをセンター役物２５００の枠内へ案内するワープ通路２５１６と、ワープ通路２５１６の下流端において開口しているワープ出口２５１７と、ワープ出口２５１７から出てきた遊技球Ｂを左右方向へ転動させた後に前方且つセンター役物２５００の下方へ放出させるステージ２５１８と、を備えている。

【０９３９】

ステージ２５１８は、フランジ部２５１２（遊技パネル１１００の前面）よりも後方で開口部１１１２内に設けられている。ステージ２５１８は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センターフレーム２５１０（センター役物２５００）を遊技パネル１１００の遊技パネル１１００に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状（Ｗ字状）に形成されている。このステージ２５１８は、左右方向中央の左右両側よりも若干高くなっている部位（中央放出部２５１８ａ）と、その左右両側の最も低

くなっている部位（サイド放出部２５１８ｂ）とが、前方へ向かって低くなるように傾斜しており、それらの部位から遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【０９４０】

ステージユニット２５２０Ａは、遊技パネル１１００の前面に取付けられる第一部材２５２１と、第一部材２５２１の後側に設けられている第二部材２５２２と、第二部材２５２２を後方から挟むように第一部材２５２１の後側に取付けられている第三部材２５２３と、を備えている。

【０９４１】

ステージユニット２５２０Ａの第一部材２５２１は、枠状のセンターフレーム２５１０であり、前方突出部２５１１と、フランジ部２５１２と、後方突出部２５１３と、サポート部２５１４と、を備えている。詳述すると、第一部材２５２１の前方突出部２５１１は、遊技パネル１１００の前面から障害釘Ｎの前端までの距離と同じような幅の帯板状に形成されていると共に、その幅方向が前後方向に向けられている。この前方突出部２５１１は、枠状のセンターフレーム２５１０の全周において、ステージ２５１８の部位には設けられていない。

【０９４２】

第一部材２５２１のフランジ部２５１２は、前方突出部２５１１の後端からセンターフレーム２５１０の枠の外方へ向かって、遊技パネル１１００の前面と平行な平板状に延出している。第一部材２５２１の後方突出部２５１３は、フランジ部２５１２の後面から後方へ板状に突出するように設けられている。第一部材２５２１のサポート部２５１４は、ステージ２５１８よりも左側の前方突出部２５１１の後端からセンターフレーム２５１０の枠の内方へ向かって板状に延出している。なお、フランジ部２５１２とサポート部２５１４とのそれぞれの一部は、ワープ通路２５１６の前壁を構成している。

【０９４３】

更に、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２及びサポート部２５１４において貫通しており自身を遊技パネル１１００に取付けるための取付ビスが挿通される取付孔２５２１ａと、フランジ部２５１２及びサポート部２５１４の後面から後方へ突出しており遊技パネル１１００の位置決孔に挿入される板用位置決ピン２５２１ｂと、を有している。

【０９４４】

また、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２の端辺に設けられており先端へ向かうほど後方へ移動するように傾斜している表傾斜部２５２１ｃと、フランジ部２５１２の後面から後方へ円柱状に突出しており中心にネジ孔が形成されている複数の円柱突出部２５２１ｄと、を有している。複数の円柱突出部２５２１ｄは、第三部材２５２３を取付けるためのものである。

【０９４５】

また、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２及びサポート部２５１４の後面から後方へ突出しており、ワープ通路２５１６の上壁及び下壁を構成している球通路部２５２１ｆと、球通路部２５２１ｆ内において後方へ突出している複数の突起部２５２１ｇと、を有している。球通路部２５２１ｆは、後方へ開放された樋状に形成されており、第三部材２５２３の球通路部２５２３ｄと協働してワープ通路２５１６を構成するものである。複数の突起部２５２１ｇは、第三部材２５２３の複数の突起部２５２３ｊと協働して遊技球Ｂの流通速度を減速させるためのものである。

【０９４６】

更に、第一部材２５２１は、フランジ部２５１２におけるステージ２５１８の部位において後方へ円柱状に突出している複数（ここでは四つ）の位置決ピン２５２１ｈを有している。複数の位置決ピン２５２１ｈは、ステージ２５１８における中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称の位置に設けられている。これら位置決ピン２５２１ｈは、第二部材２５２２の位置決孔２５２２ｊに挿入されることで第一部材２５２１に対して第二部材２５２２を所定位置に位置決めしていると共に、第二部材２５２２を取付けている。

【０９４７】

第二部材２５２２は、第一部材２５２１と第三部材２５２３との間に挟まれている。この第二部材２５２２は、ワープ出口２５１７よりも下方に設けられており、上面にステージ２５１８が設けられている。この第二部材２５２２は、板面を上下方向へ向けて左右方向へ延出しており上面を遊技球Ｂが転動可能な転動面部２５２２ａと、転動面部２５２２ａの前端から上方へ延出している板状の前壁板部２５２２ｂと、転動面部２５２２ａの後端から上方へ延出している板状の後壁板部２５２２ｃと、を備えている。転動面部２５２２ａは、上面がステージ２５１８である。

【０９４８】

前壁板部２５２２ｂは、転動面部２５２２ａの前端縁における、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａとサイド放出部２５１８ｂとを除いた部位に設けられている。また、前壁板部２５２２ｂは、その前面が第一部材２５２１のフランジ部２５１２の前面と同一面上になるように設けられている。前壁板部２５２２ｂは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａから左右方向へ遠ざかるほど、その上端が高くなるように設けられている。後壁板部２５２２ｃは、転動面部２５２２ａの後端縁の全長に亘って設けられており、転動面部２５２２ａから遊技球Ｂの直径よりも低く上方へ突出している。

【０９４９】

また、第二部材２５２２は、前壁板部２５２２ｂの後面において先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部２５２２ｅと、転動面部２５２２ａの前端付近から下方へ突出している下方突出部２５２２ｆと、を有している。下方突出部２５２２ｆは、転動面部２５２２ａの前端縁の全長に亘って設けられており、その前面が第一部材２５２１のフランジ部２５１２の後面に当接するように設けられている。

【０９５０】

また、第二部材２５２２は、後壁板部２５２２ｃから後方へ円柱状に突出している複数（ここでは二つ）の位置決ピン２５２２ｇを有している。複数の位置決ピン２５２２ｇは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称の位置に設けられている。複数の位置決ピン２５２２ｇは、第三部材２５２３と位置決めすると共に取付けるためのものであり、第三部材２５２３の位置決孔２５２３ｆに挿入される。

【０９５１】

更に、第二部材２５２２は、下方突出部２５２２ｆに設けられており、第一部材２５２１の複数の位置決ピン２５２１ｈがそれぞれ挿入される複数の位置決孔２５２２ｊを有している。これら複数の位置決孔２５２２ｊは、ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａを中心にして左右対称の位置に設けられている。位置決孔２５２２ｊに第一部材２５２１の位置決ピン２５２１ｈが挿入されることで、第一部材２５２１に対して位置決めされると共に取付けられる。

【０９５２】

第三部材２５２３は、第一部材２５２１との間に第二部材２５２２を挟むように第一部材２５２１の後側に取付けられる。この第三部材２５２３は、板面を前後方向に向けて第二部材２５２２に沿うように左右方向へ延出している後壁部２５２３ａと、後壁部２５２３ａの上端縁から前方へ突出している上壁部２５２３ｂと、後壁部２５２３ａ及び上壁部２５２３ｂの左端から左方且つ上方へ延出している球通路部２５２３ｄと、を備えている。

【０９５３】

後壁部２５２３ａは、ステージ２５１８を構成している第二部材２５２２の転動面部２５２２ａから遊技球Ｂが後方へ転落するのを防止している。後壁部２５２３ａの上端縁は、転動面部２５２２ａの上面から遊技球Ｂの直径よりも高い位置に設けられている。また、後壁部２５２３ａの下端縁は、第一部材２５２１の後方突出部２５１３よりも下方へ突出するように設けられている。

【０９５４】

上壁部２５２３ｂは、第一部材２５２１における前方突出部２５１１の前端と同じ位置まで前方へ突出しており、ステージ２５１８の上方を覆っている。この上壁部２５２３ｂは、後壁部２５２３ａの上端縁から前方へ向かうほど高くなるように傾斜している。これ

により、上方から落下してきたゴミや塵等を遊技領域５ａ内へ落ち難くすることができる。また、何らかの理由によって遊技球Ｂが落下してきた場合、当該遊技球Ｂを後方へ落下させることができ、ガラス板１６２との間に遊技球Ｂが溜まることはない。

【０９５５】

球通路部２５２３ｄは、前方へ開放された浅い樋状に形成されており、第一部材２５２１の球通路部２５２１ｆと協働してワープ通路２５１６を構成するものである。

【０９５６】

また、第三部材２５２３は、球通路部２５２３ｄの前端から後壁部２５２３ａと平行に外方へ延出している取付片２５２３ｅと、後壁部２５２３ａに設けられており第二部材２５２２の位置決ピン２５２２ｇが挿入される位置決孔２５２３ｆと、後壁部２５２３ａ及び取付片２５２３ｅに設けられており自身を第一部材２５２１に取付けるための取付ネジが挿通される取付孔２５２３ｇと、を有している。

【０９５７】

更に、第三部材２５２３は、球通路部２５２３ｄ内において前方へ突出している複数の突起部２５２３ｊを有している。これら突起部２５２３ｊは、第一部材２５２１の突起部２５２１ｇと協働して、遊技球Ｂの流通速度を減速させるためのものである。

【０９５８】

本実施形態のステージユニット２５２０Ａは、組立てられている状態では、第一部材２５２１におけるフランジ部２５１２から後方へ突出している複数の位置決ピン２５２１ｈが、第二部材２５２２の下方突出部２５２２ｆに設けられている複数の位置決孔２５２２ｊにそれぞれ挿入されている。また、第二部材２５２２の後壁板部２５２２ｃから後方へ突出している複数の位置決ピン２５２２ｇが第三部材２５２３の後壁部２５２３ａに設けられている複数の位置決孔２５２３ｆにそれぞれ挿入されている。そして、第三部材２５２３の後方から取付孔２５２３ｇを通して取付ネジが第一部材２５２１の円柱突出部２５２１ｄにねじ込まれている。

【０９５９】

これにより、第一部材２５２１に第三部材２５２３が取付けられていると共に、第一部材２５２１と第三部材２５２３との間に第二部材２５２２が挟まれた状態となっている。また、第一部材２５２１の位置決ピン２５２１ｈと第二部材２５２２の位置決孔２５２２ｊ、及び、第二部材２５２２の位置決ピン２５２２ｇと第三部材２５２３の位置決孔２５２３ｆ、により、第一部材２５２１と第二部材２５２２とが位置決めされていると共に、第二部材２５２２と第三部材２５２３とが位置決めされている。

【０９６０】

ステージユニット２５２０Ａに組立てた状態では、ステージ２５１８を有する第二部材２５２２が第一部材２５２１と第三部材２５２３との間に挟まれているだけであり、ネジ止めされていない。これにより、遊技球Ｂが転動する転動面部２５２２ａ（第二部材２５２２）を、取付ネジにより強制的に固定していないため、転動面部２５２２ａ（ステージ２５１８）に物理的ストレスによる歪みが生じることはなく、設計通りの性能を発揮することができる。

【０９６１】

ところで、ステージユニット２５２０Ａにおいて、位置決ピン２５２１ｈや位置決ピン２５２２ｇによりユニット内でのステージ２５１８の位置決め精度が高くても、ステージユニット２５２０Ａと遊技パネル１１００との位置決め精度が低いと、遊技盤５としてはステージ２５１８の精度が低くなってしまい、ステージ２５１８において設計上の作用効果が充分に発揮されない恐れがある。これに対して、本実施形態のステージユニット２５２０Ａでは、図１２３に示すように、自身を遊技パネル１１００に位置決めするための板用位置決ピン２５２１ｂの直径ｄ１と、位置決ピン２５２１ｈや位置決ピン２５２２ｇの直径ｄ２と、の関係を、　ｄ１＞ｄ２　としている。また、直径だけでなく長さについても板用位置決ピン２５２１ｂの方を長くしている。つまり、位置決ピン２５２２ｇよりも板用位置決ピン２５２１ｂの方が大きく設けられている。これにより、大本となる遊技パネ

ル１１００に対するステージユニット２５２０Ａの位置決め精度を高めることができ、ステージ２５１８において設計の際に想定された作用効果を充分に発揮させることができる。

【０９６２】

また、ステージユニット２５２０Ａでは、第一部材２５２１の後方突出部２５１３の後端面が、第三部材２５２３の後壁部２５２３ａの前面と当接している。この後方突出部２５１３は、第二部材２５２２の転動面部２５２２ａ（ステージ２５１８）の下方に間隔をあけて設けられている。従って、ステージユニット２５２０Ａでは、ステージ２５１８の下方に、フランジ部２５１２と、転動面部２５２２ａと、後壁部２５２３ａと、後方突出部２５１３と、によって断面が四角い閉鎖空間２５２５ａを有した角パイプ状の補強部２５２５が設けられている（図１２３を参照）。これにより、ステージユニット２５２０Ａの強度・剛性を高めることができるため、遊技球Ｂの重さが作用してもステージ２５１８を歪み難くすることができ、ステージ２５１８における遊技球Ｂの転動（挙動）を安定させて設計通りに転動させることが可能となる。

【０９６３】

また、本実施形態のステージユニット２５２０Ａは、第二部材２５２２において、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂが前方へ放出されるのを阻止可能な前壁板部２５２２ｂの上端縁に裏傾斜部２５２２ｅを設けている。また、第一部材２５２１において、遊技パネル１１００の前面に取付けられるフランジ部２５１２における少なくともステージ２５１８（前壁板部２５２２ｂ）の下方の部位の下端縁に表傾斜部２５２１ｃを設けている。

【０９６４】

図１２３に示すように、裏傾斜部２５２２ｅは、前壁板部２５２２ｂの後面において、先端（上端縁）へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜しており、表傾斜部２５２１ｃは、フランジ部２５１２において、先端（下端縁）へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。

【０９６５】

このように、ステージ２５１８前側の前壁板部２５２２ｂの上端縁に裏傾斜部２５２２ｅを設けているため、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂが裏傾斜部２５２２ｅに案内されることで中央放出部２５１８ａやサイド放出部２５１８ｂ以外の部位でも前方へ落下し易くなる。これにより、遊技球Ｂがステージ２５１８を左右方向へ転動すると、中央放出部２５１８ａやサイド放出部２５１８ｂ以外の部位（前壁板部２５２２ｂ）から落下する恐れがあるため、遊技者に対してステージ２５１８上の遊技球Ｂに注目させることができ、遊技球Ｂが前壁板部２５２２ｂから落下しないことを願わせて遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができる。従って、従来のパチンコ機よりもステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０９６６】

また、フランジ部２５１２の下端縁に表傾斜部２５２１ｃを設けているため、ステージ２５１８や前壁板部２５２２ｂから落下してフランジ部２５１２の前面を転動してきた遊技球Ｂを、スムーズに遊技パネル１１００の前面へ受け渡すことができる。これにより、フランジ部２５１２の下端において遊技球Ｂを跳ね難くすることができ、遊技球Ｂが予想外の動きをしたり下方の部材を破損させたりしてしまうことを抑制させることができる。

【０９６７】

また、本実施形態では、前壁板部２５２２ｂに裏傾斜部２５２２ｅを設けているため、遊技パネル１１００からステージユニット２５２０Ａを取外す際に、前壁板部２５２２ｂと上壁部２５２３ｂとの間に指を挿入し易くすることができると共に、挿入した指を引っ掛け易くすることができ、ステージユニット２５２０Ａの取外作業を楽にすることができる。

【０９６８】

更に、本実施形態のステージユニット２５２０Ａでは、第二部材２５２２を第一部材２

５２１と第三部材２５２３との間に挟んでいるだけであるため、第一部材２５２１に第三部材２５２３をネジ止めするだけで第二部材２５２２も一緒に組立てることができ、組立てに係る作業性を高めることができる。また、それとは逆に、第一部材２５２１から第三部材２５２３を取外すと、第二部材２５２２も取外すことができるため、分解時の作業性を高めることができる。

【０９６９】

また、ステージユニット２５２０Ａは、後方にＬＥＤや演出表示装置１６００等の前方へ光を発することが可能な発光手段が設けられている。これにより、発光手段からの光によって、ステージユニット２５２０や装飾シール２５２４等を明るく発光装飾させることができる。

【０９７０】

ところで、遊技パネル１１００の前面におけるセンター役物２５００の左側を流下する遊技球Ｂは、俗にいう道釘に沿ってセンター役物２５００の下方に設けられている第一始動口２００２に向かって転動して行くが、その際に、道釘等の障害釘Ｎによって上方へ跳ね上がった遊技球Ｂは、上方のフランジ部２５１２に表傾斜部２５２１ｃが設けられているため、その動きが阻害されることはなく、自然な挙動となる。また、フランジ部２５１２の先端に表傾斜部２５２１ｃを設けているため、遊技球Ｂが表傾斜部２５２１ｃの面に当たることでフランジ部２５１２の先端の角には当たることはなく、フランジ部２５１２が欠けたり割れたりすることはない。

【０９７１】

なお、本実施形態のステージユニット２５２０Ａ（センターフレーム２５１０）においても、上記と同様の脱型痕跡部２５１９が設けられており、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０９７２】

また、本実施形態のステージユニット２５２０Ａでは、ステージ２５１８の前壁部分として第二部材２５２２に裏傾斜部２５２２ｅを有する前壁板部２５２２ｂを設けたものを示したが、これに限定するものではなく、第一部材２５２１にステージ２５１８の前壁部分（前壁板部）を設けるようにしても良い。つまり、表傾斜部と裏傾斜部とが一つの部材に設けられていても良い。

【０９７３】

［５－８ｃ－４．小括］

上記のステージユニット２５２０（ステージユニット２５２０Ａ）には、以下のような技術的特徴を有している。

【０９７４】

［５－８ｃ－４ａ．小括Ａ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、遊技球を左右方向へ転動させ、所定の確率で特定部位から下方へ遊技球が放出されると、始動口のような入賞口に入球する可能性が高いステージを設けたものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１６６８４１号公報）。このステージは、複数の部材によって構成されており、それぞれが遊技板の前面に取付けられる部材にネジ止めされている。

【０９７５】

しかしながら、ステージにおける遊技球が転動する部材がネジ止めされていると、当該部材がネジ止めによって強制的に固定されることで、物理的ストレスにより歪みが生じ、遊技球が設計通りに転動しなくなったり、遊技球が設計通りの確率で所定部位から放出されなくなったりする恐れがあった。

【０９７６】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、ステージにおける遊技球の転動および放出の精度を高めることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【０９７７】

（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技板の開口内への遊技球の侵入を阻止し、遊技球を左右方向へ転動させた後に遊技板の前方へ落下させるステージ部材を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記ステージ部材は、
自身が遊技板に取付けられ、遊技板の面と平行な方向に遊技球が転動する球流路の前壁を兼ねている第一部材と、
前記球流路の底壁を構成している第二部材と、
前記球流路の後壁および上壁を構成している第三部材と
を備え、
前記第一部材と前記第三部材とがネジ止めされており、
前記第二部材は、前記第一部材と前記第三部材とに挟まれていると共に、それぞれに対して位置決ピンと位置決孔とからなる位置決手段により位置決めされている」
ことを特徴とする。
【０９７８】
ここで、「ステージ部材」としては、遊技板の開口の縁に沿った枠状のセンター役物に設けられているものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った枠状のセンター役物が開口の縁に沿って複数に分割されておりその分割された一つを構成しているものであっても良い。
【０９７９】
また、「球流路」としては、「遊技球が左右方向に転動するステージを有するもの」、「遊技球が左右方向に転動するステージと、遊技板の前方の遊技領域内から遊技球をステージに供給するためのワープ通路と、を有するもの」、等が挙げられる。
【０９８０】
更に、第一部材と第三部材との「ネジ止め」としては、取付ネジが前方から第一部材を通して第三部材にねじ込まれていても良いし、取付ネジが後方から第三部材を通して第一部材にねじ込まれていても良い。
【０９８１】
また、第一部材と第二部材との間の「位置決手段」としては、第一部材に位置決ピンが設けられていると共に第二部材に位置決孔が設けられていても良いし、第一部材に位置決孔が設けられていると共に第二部材に位置決ピンが設けられていても良い。
【０９８２】
更に、第二部材と第三部材との間の「位置決手段」としては、第二部材に位置決ピンが設けられていると共に第三部材に位置決孔が設けられていても良いし、第二部材に位置決孔が設けられていると共に第三部材に位置決ピンが設けられていても良い。
【０９８３】
手段１の構成によると、遊技板の開口内への遊技球の侵入を阻止し、遊技球を左右方向へ転動させた後に遊技板の前方へ落下させるステージ部材を有する遊技盤を備えた遊技機であって、ステージ部材は、自身が遊技板に取付けられ、遊技板の面と平行な方向に遊技球が転動する球流路の前壁を兼ねている第一部材と、球流路の底壁を構成している第二部材と、球流路の後壁および上壁を構成している第三部材と、を備え、第一部材と第三部材とがネジ止めされており、第二部材は、第一部材と第三部材とに挟まれていると共に、それぞれに対して位置決ピンと位置決孔とからなる位置決手段により位置決めされているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－３．ステージユニットの第二実施形態］の章、ステージユニット２５２０Ａ、図１１９～図１２３等の記載を参照）。
【０９８４】
このステージ部材は、第二部材が球流路の底壁を構成していることから、当該第二部材に遊技球が左右方向へ転動するステージが設けられている。この第二部材は、遊技板に取付けられる第一部材と、第一部材に対してネジ止めされる第三部材との間に挟まれていると共に、第一部材と第二部材との間、及び、第二部材と第三部材との間、はそれぞれ位置

決ピンと位置決孔とによる位置決手段によって位置決めされている。そして、第二部材は、第一部材及び第三部材の何れにもネジ止めされていない。これにより、ステージが設けられている第二部材が、ネジ止めによって強制的に固定されていないため、物理的ストレスによる歪みが生じることはなく、設計通りの性能を発揮させることができる。

【０９８５】

また、ステージ部材では、第一部材とで第二部材を挟む第三部材に球流路の後壁と上壁とを設けていると共に、第三部材を第一部材に対してネジ止めしているため、球流路の後壁と上壁とが強固に固定されることとなり、遊技球がステージの後方や上方へ脱落することはない。

【０９８６】

なお、位置決ピンを、ステージ部材を遊技板に位置決めする板用位置決ピンよりも小さくすることが望ましい。換言すると、板用位置決ピンを位置決ピンよりも大きくすることが望ましい。これにより、遊技板に対するステージ部材（第一部材）の位置決め精度をより高くすることができると共に、ステージ部材を遊技板に強固に固定することができ、設計通りの性能を発揮させることができる。

【０９８７】

また、上記のように、位置決ピンを、ステージ部材を遊技板に位置決めする板用位置決ピンよりも小さくする場合、ステージ部材において位置決ピンを目立ち難くすることができ、見栄えの悪化を抑制させることができる。

【０９８８】

手段２：手段１の構成において、

「前記位置決ピンは、

前記ステージ部材を遊技板に位置決めする板用位置決ピンよりも小さい」

ものであることを特徴とする。

【０９８９】

ここで、位置決ピンが板用位置決ピンよりも「小さい」としては、「位置決ピンの直径が板用位置決ピンの直径よりも小さい」、「位置決ピンの長さが板用位置決ピンの長さよりも小さい（短い）」、等が挙げられる。

【０９９０】

ところで、ステージ部材において、位置決手段により第一部材に対して第二部材や第三部材が精度良く位置決めされていても、遊技板に対する第一部材の位置決め精度が低いと、設計上の性能が発揮されない恐れがある。

【０９９１】

手段２の構成によると、位置決ピンは、ステージ部材を遊技板に位置決めする板用位置決ピンよりも小さいものである（［発明を実施するための形態］では、ステージユニット２５２０Ａにおける板用位置決ピン２５２１ｂ、位置決ピン２５２１ｈ、位置決ピン２５２２ｇ、及び図１２３等の記載を参照）。

【０９９２】

本手段では、第一部材及び第三部材に第二部材を位置決めするための位置決手段の位置決ピンを、ステージ部材（第一部材）を遊技板に位置決めするための板用位置決ピンよりも小さくしている。つまり、板用位置決ピンを位置決ピンよりも大きくしている。これにより、遊技板に対するステージ部材（第一部材）の位置決め精度をより高くすることができると共に、ステージ部材を遊技板に強固に固定することができ、設計通りの性能を発揮させることができる。

【０９９３】

また、位置決ピンを板用位置決ピンよりも小さくしているため、ステージ部材において位置決ピンを目立ち難くすることができ、見栄えの悪化を抑制させることができる。

【０９９４】

このように、上記の解決手段によれば、ステージにおける遊技球の転動および放出の精度を高めることが可能な遊技機を提供することができる。

【０９９５】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００及びステージユニット２５２０Ａは上記解決手段のステージ部材に、本実施形態におけるワープ通路２５１６及びステージ２５１８は上記解決課題の球流路に、本実施形態におけるセンターフレーム２５１０及び第一部材２５２１は上記解決手段の第一部材に、本実施形態におけるセンターフレーム２５１０のフランジ部２５１２は上記解決手段の前壁に、それぞれ相当している。
【０９９６】
また、本実施形態における第一部材２５２１の板用位置決ピン２５２１ｂは上記解決課題の位置用位置決ピンに、本実施形態における第一部材２５２１の位置決ピン２５２１ｈ、第二部材２５２２の位置決ピン２５２２ｇ及び位置決孔２５２２ｊ、第三部材２５２３の位置決孔２５２３ｆは上記解決課題の位置決手段に、本実施形態における第二部材２５２２の転動面部２５２２ａは上記解決課題の底壁に、本実施形態における第三部材２５２３の後壁部２５２３ａは上記解決課題の後壁に、本実施形態における第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂは上記解決課題の上壁に、それぞれ相当している。
【０９９７】
（技術的特徴の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００のステージユニット２５２０Ａにおいて、第二部材２５２２の転動面部２５２２ａが球流路の底壁を構成していることから、当該第二部材２５２２に遊技球Ｂが左右方向へ転動するステージ２５１８が設けられている。この第二部材２５２２は、遊技パネル１１００に取付けられる第一部材２５２１と、第一部材２５２１に対してネジ止めされる第三部材２５２３との間に挟まれていると共に、第一部材２５２１と第二部材２５２２との間、及び、第二部材２５２２と第三部材２５２３との間、はそれぞれ位置決ピン２５２１ｈと位置決孔２５２２ｊ及び位置決ピン２５２２ｇと位置決孔２５２３ｆとによる位置決手段によって位置決めされている。そして、第二部材２５２２は、第一部材２５２１及び第三部材２５２３の何れにもネジ止めされていない。これにより、ステージ２５１８が設けられている第二部材２５２２が、ネジ止めによって強制的に固定されていないため、物理的ストレスによる歪みが生じることはなく、設計通りの性能を発揮させることができる。
【０９９８】
また、ステージユニット２５２０Ａでは、第一部材２５２１とで第二部材２５２２を挟む第三部材２５２３に球流路としてのステージ２５１８の後壁部２５２３ａと上壁部２５２３ｂとを設けていると共に、第三部材２５２３を第一部材２５２１に対してネジ止めしているため、ステージ２５１８の後壁部２５２３ａと上壁部２５２３ｂとが強固に固定されることとなり、遊技球Ｂがステージ２５１８の後方や上方へ脱落することはない。
【０９９９】
更に、第一部材２５２１及び第二部材２５２２の位置決ピン２５２１ｈ及び位置決ピン２５２２ｇを、ステージユニット２５２０Ａを遊技パネル１１００に位置決めする板用位置決ピン２５２１ｂよりも小さくしている。つまり、板用位置決ピン２５２１ｂを、位置決ピン２５２１ｈ及び２５２２ｇよりも大きくしている。これにより、遊技パネル１１００に対するステージユニット２５２０Ａ（第一部材２５２１）の位置決め精度をより高くすることができると共に、ステージユニット２５２０Ａを遊技パネル１１００に強固に固定することができ、設計通りの性能を発揮させることができる。
【１０００】
また、位置決ピン２５２１ｈ及び位置決ピン２５２２ｇを、ステージユニット２５２０Ａを遊技パネル１１００に位置決めする板用位置決ピン２５２１ｂよりも小さくしているため、ステージユニット２５２０Ａにおいて位置決ピン２５２１ｈ及び位置決ピン２５２２ｇを目立ち難くすることができ、見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１００１】
［５－８ｃ－４ｂ．小括Ｂ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、前方を遊技球が流通する遊技板に枠状のセンターフレームが設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１３６７３号公報）。センターフレームには、ステージが設けられており、遊技球の転動を楽しませることができると共に、枠内を通して後方の表示画面や可動装飾体等がよく見え、画像演出や可動演出なども楽しませることができる。
【１００２】
このセンターフレームは、金型を使用した射出成形により形成されているため、射出成形後に金型から取出すためにセンターフレームを押し出した痕跡が残されている。そして、センターフレームは、遊技盤の中央に設けられていることから、遊技者からはセンターフレームがよく見えるため、センターフレーム成形時の脱型の痕跡が遊技者から見えると、見栄えが悪くなる問題があった。
【１００３】
そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、センターフレームにおける脱型の痕跡による見栄えの悪化を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【１００４】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技板の開口縁に取付けられるセンターフレームを有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記センターフレームは、
自身が遊技板に取付けられる第一部材を備え、
該第一部材は、後面における前方から見え辛い部位に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【１００５】
ここで、「センターフレーム」としては、いわゆるセンター役物の少なくとも一部を構成しているものであり、遊技板の開口の縁に沿った枠状に形成されているものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った方向へ複数に分割されているものであっても良い。
【１００６】
また、「第一部材」としては、「遊技板の前面に当接可能なフランジ部を有しているもの」、「遊技板の前面から前方へ延出している前方突出部と、前方突出部の後端から遊技板の前面に沿って延出しているフランジ部と、を有しているもの」、「遊技板の前面から前方へ延出している前方突出部と、前方突出部の後端から遊技板の前面に沿って延出しているフランジ部と、前方突出部の後端又はフランジ部の後面から後方へ突出している後方突出部と、を有しているもの」、「遊技板の前面に当接可能なフランジ部と、フランジ部の後面から後方へ突出している後方突出部と、を有しているもの」、等が挙げられる。
【１００７】
更に、「脱型痕跡部」は、センターフレームを成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）によりセンターフレームに付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【１００８】
また、「前方から見え辛い部位」としては、「板状の部位の後面で前面側が面取り状に傾斜している部位」、「板状の部位の後面で前面側に装飾シールが貼り付けられる部位」、「板状の部位の後面で前面側に無数の凹凸からなるシボが設けられている部位」、「後方へ板状に突出している後方突出部の後端面」、等が挙げられる。

【１００９】
手段１の構成によると、遊技板の開口縁に取付けられるセンターフレームを有する遊技盤を備えた遊技機であって、センターフレームは、自身が遊技板に取付けられる第一部材を備え、第一部材には、後面における前方から見え辛い部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－２．脱型痕跡部］の章、脱型痕跡部２５１９、ステージユニット２５２０の第一部材２５２１、図１１３及び図１１４等の記載を参照）。
【１０１０】
これにより、センターフレームを構成している第一部材は、自身が遊技板に取付けられることから、遊技者に近い位置に設けられており、遊技者から良く見えることとなる。そして、第一部材では、成形時に形成される脱型痕跡部を、後面に設けているため、前方から見え難くすることができる。更に、脱型痕跡部を、第一部材の後面における前方から見え辛い部位に設けるようにしているため、本遊技機の前方にいる遊技者から脱型痕跡部を見え難くすることができ、脱型痕跡部による見栄えの悪化を抑制させることができる。従って、センターフレームにおいて脱型痕跡部が目立たないことで、当該センターフレームを有する遊技盤（遊技機）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１０１１】
また、センターフレームに遊技球を転動させた後に遊技板の前面側へ放出させるステージが設けられている場合、ステージを転動する遊技球の動きを楽しむために、遊技者がステージに注目すると、遊技板に取付けられている第一部材におけるステージ付近の部位も視野に入ることとなるが、第一部材の後面の見え辛い部位に脱型痕跡部を設けているため、脱型痕跡部が目立って遊技者に違和感を与えることはなく、ステージでの遊技球の動きを違和感なく楽しませることができる。
【１０１２】
なお、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を、揃えるようにすることが望ましい。これにより、遊技者から第一部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンターフレームの見栄えが悪化することはない。
【１０１３】
手段２：手段１の構成において、
「隣接して設けられている前記脱型痕跡部は、形態が揃えられている」
ものであることを特徴とする。
【１０１４】
ここで、「形態が揃えられている」としては、「脱型痕跡部の形状が揃えられている」、「脱型痕跡部の大きさが揃えられている」、「脱型痕跡部の間隔が揃えられている」、等が挙げられる。
【１０１５】
手段２の構成によると、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態が揃えられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－２．脱型痕跡部］の章、脱型痕跡部２５１９、図１１３等の記載を参照）。
【１０１６】
これにより、遊技者から第一部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンターフレームの見栄えが悪化することはない。
【１０１７】
このように、上記の解決手段によれば、センターフレームにおける脱型の痕跡による見栄えの悪化を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【１０１８】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００のセンターフレーム２５１０は上記解決手段のセンターフレームに、本実施形態のセンターフレームにおけるステージユニット２５２０の第一部材２５２１は上記解決手段の第一部材に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。

【１０１９】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００のセンターフレーム２５１０を構成しているステージユニット２５２０の第一部材２５２１は、自身が遊技パネル１１００に取付けられることから、遊技者に近い位置に設けられており、遊技者から良く見えることとなる。そして、第一部材２５２１では、成形時に形成される脱型痕跡部２５１９を、後面に設けているため、前方から見え難くすることができる。更に、脱型痕跡部２５１９を、第一部材２５２１の後面における前方から見え辛い部位に設けるようにしているため、本パチンコ機１の前方にいる遊技者から脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができる。従って、センターフレーム２５１０において脱型痕跡部２５１９が目立たないことで、当該センターフレーム２５１０を有する遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１０２０】

また、センターフレーム２５１０のステージユニット２５２０に遊技球Ｂを転動させた後に遊技パネル１１００の前面側へ放出させるステージ２５１８を設けているため、ステージ２５１８を転動する遊技球Ｂの動きを楽しむために、遊技者がステージ２５１８に注目すると、遊技パネル１１００に取付けられている第一部材２５２１におけるステージ２５１８付近の部位も視野に入ることとなるが、第一部材２５２１の後面の見え辛い部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９が目立って遊技者に違和感を与えることはなく、ステージ２５１８での遊技球Ｂの動きを違和感なく楽しませることができる。

【１０２１】

また、遊技者から第一部材２５２１の脱型痕跡部２５１９が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部２５１９を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部２５１９が見えてもセンターフレーム２５１０の見栄えが悪化することはない。

【１０２２】

［５－８ｃ－４ｃ．小括Ｃ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、前方を遊技球が流通する遊技板に枠状のセンター役物が設けられていると共に、そのセンター役物に遊技球を左右方向へ転動させた後に遊技板の前面側へ放出させるステージが設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１３６７３号公報）。この種の遊技機では、ステージにおいて転動している遊技球の動きを楽しませることができる。

【１０２３】

このセンター役物を構成している各部材（成形品）は、金型を使用した射出成形により形成されているため、射出成形後に金型から取出すために成形品を押し出した痕跡が残されている。そして、センター役物において、ステージのような遊技球が流通する流通領域の底面に、当該部材の成形時における脱型の痕跡が設けられていると、当該痕跡が遊技球の流通を阻害して、設計通りに遊技球が転動しなくなる恐れがある。

【１０２４】

そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、センター役物において遊技球の流通精度を高めることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【１０２５】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記センター役物は、
遊技球が流通する流通領域の底面を構成している底壁部材を備え、
該底壁部材は、遊技球の流通を阻害しない部位に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【１０２６】
ここで、「センター役物」としては、遊技板の開口の縁に沿った枠状のセンターフレームを備えているものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った方向へ複数のユニット（例えば、ステージユニット、アタッカユニット、等）に分割されているものであっても良い。
【１０２７】
また、遊技球が流通する「流通領域」としては、「左右方向へ遊技球が転動すると共に遊技板の前面側へ遊技球を放出可能なステージ」、「センター役物の外周の所定位置からステージまで遊技球を誘導するワープ通路」、等が挙げられる。
【１０２８】
また、「底壁部材」としては、「遊技板に取付けられる前部材（第一部材）に取付けられるもの」、「遊技板に取付けられる前部材（第一部材）と、前部材に取付けられる後部材（第三部材）と、に挟まれているもの」、「自身が遊技板に取付けられるもの」、等が挙げられる。
【１０２９】
更に、「脱型痕跡部」は、成形品を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により成形品に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【１０３０】
また、「流通を阻害しない部位」としては、「遊技球と接触しない後方を向いている面」、「遊技球と接触しない前方を向いている面」、「遊技球と接触しない上方を向いている面」、「下方を向いている面」、「遊技球が転動する転動面ではあるが遊技球とは接触しない部位」、等が挙げられる。
【１０３１】
手段１の構成によると、遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、センター役物は、遊技球が流通する流通領域の底面を構成している底壁部材を備え、底壁部材は、遊技球の流通を阻害しない部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－２．脱型痕跡部］の章、脱型痕跡部２５１９、ステージユニット２５２０の第二部材２５２２、接触領域２５２２ｉ、図１１３、図１１５、及び図１１７等の記載を参照）。
【１０３２】
これにより、センター役物の底壁部材は、遊技球が流通する流通領域の底面を構成していることから、底壁部材の底面上を遊技球が転動するため、転動する遊技球の動きによって遊技者を楽しませることができる。この際に、底壁部材では、成形時に形成される脱型痕跡部を、遊技球の流通を阻害しない部位に設けているため、流通領域の底面上を転動している遊技球の動きに対して脱型痕跡部が影響を与えることはなく、センター役物（底壁部材）における遊技球の流通精度を高めることができる。従って、センター役物において転動する遊技球に対して設計通りの動きをさせることができ、意図したように遊技者を楽しませられる遊技機を提供することができる。

【１０３３】
　また、センター役物の底壁部材に遊技球が流通する流通領域の底面を設けていることから、当該底面をステージの底面とする場合、上述したように、遊技球の流通を妨げない部位に脱型痕跡部を設けているため、脱型痕跡部がステージを転動している遊技球の動きに影響を与えることはない。従って、センター役物のステージにおいて、転動している遊技球に設計通りの動きをさせることができ、ステージから遊技球を意図した確率で遊技板の前面側へ放出させることができる。
【１０３４】
　なお、脱型痕跡部を、前方から見え辛い部位に設けることが望ましい。これにより、底壁部材の流通領域を流通している遊技球の動きを楽しむために、遊技者が底壁部材に注目することとなるが、底壁部材では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部を設けているため、本遊技機の前方にいる遊技者から脱型痕跡部を見え難くすることができ、脱型痕跡部による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物において脱型痕跡部が目立たないことで、当該センター役物を有する遊技盤（遊技機）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１０３５】
　また、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を揃えるようにすることが望ましい。これにより、遊技者から底壁部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンター役物の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。
【１０３６】
　手段２：手段１の構成において
　「前記脱型痕跡部は、前方から見え辛い部位に設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１０３７】
　ここで、「前方から見え辛い部位」としては、「板面が前後方向を向いた板状の部位の後面」、「前方に設けられている他の部材（例えば、第一部材、装飾シール、など）と前後方向が重なる部位」、「板面が前後方向を向いた板状の部位の前面で、前方に設けられている他の部材と前後方向が重なる部位」、「板面が上下方向を向いた板状の部位の下面」、「板面が上下方向を向いた板状の部位の上面」、「板面が前後方向に対して直交する方向を向いている板状の部位における端面」、等が挙げられる。
【１０３８】
　ところで、遊技者から脱型痕跡部が見えると、底壁部材（センター役物）の見栄えが悪くなり、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまう恐れがある。
【１０３９】
　手段２の構成によると、脱型痕跡部は、前方から見え辛い部位に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、脱型痕跡部２５１９、第二部材２５２２、図１１５等の記載を参照）。
【１０４０】
　これにより、底壁部材の流通領域を流通している遊技球の動きを楽しむために、遊技者が底壁部材に注目することとなるが、底壁部材では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部を設けているため、本遊技機の前方にいる遊技者から脱型痕跡部を見え難くすることができ、脱型痕跡部による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物（底壁部材）において脱型痕跡部が目立たないことで、当該センター役物を有する遊技盤（遊技機）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１０４１】

なお、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を揃えるようにすることが望ましい。これにより、遊技者から底壁部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンター役物の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【１０４２】

このように、上記の解決手段によれば、センター役物において遊技球の流通精度を高めることが可能な遊技機を提供することができる。

【１０４３】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００及びステージユニット２５２０は上記解決手段のセンター役物に、本実施形態のステージユニット２５２０の第二部材２５２２は上記解決手段の底壁部材に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。

【１０４４】

また、本実施形態におけるワープ通路２５１６、ステージ２５１８、及び接触領域２５２２ｉは上記解決手段の流通領域に、本実施形態における第二部材２５２２の転動面部２５２２ａの上面は上記解決手段の底面に、それぞれ相当している。

【１０４５】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５のセンター役物２５００におけるステージユニット２５２０の第二部材２５２２は、転動面部２５２２ａ上において遊技球Ｂが流通（転動）する流通領域としてのステージ２５１８の底面を構成していることから、ステージ２５１８を転動する遊技球Ｂの動きによって遊技者を楽しませることができる。この際に、第二部材２５２２では、成形時に形成される脱型痕跡部２５１９を、遊技球Ｂの流通を阻害しない部位に設けているため、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂの動きに対して脱型痕跡部２５１９が影響を与えることはなく、センター役物２５００（第二部材２５２２）における遊技球Ｂの流通精度を高めることができる。従って、センター役物２５００のステージ２５１８において転動する遊技球Ｂに対して設計通りの動きをさせることができ、ステージ２５１８から遊技球Ｂを意図した確率で遊技パネル１１００の前面側へ放出させることができると共に、意図したように遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【１０４６】

また、第二部材２５２２の流通領域（ステージ２５１８）を流通（転動）している遊技球Ｂの動きを楽しむために、遊技者が第二部材２５２２に注目することとなるが、第二部材２５２２では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、本パチンコ機１の前方にいる遊技者から脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部２５１９により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物２５００において脱型痕跡部２５１９が目立たないことで、当該センター役物２５００を有する遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１０４７】

また、遊技者から第二部材２５２２の脱型痕跡部２５１９が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部２５１９を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部２５１９が見えてもセンター役物２５００（第二部材２５２２）の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【１０４８】
［５－８ｃ－４ｄ．小括Ｄ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、前方を遊技球が流通する遊技板に枠状のセンター役物が設けられていると共に、そのセンター役物に遊技球を左右方向へ転動させた後に遊技板の前面側へ放出させるステージが設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１３６７３号公報）。この種の遊技機では、ステージにおいて転動している遊技球の動きを楽しませることができる。
【１０４９】
このセンター役物には、ステージのような遊技球が流通する流通領域を流通している遊技球が後方へ脱落することを防止するための後壁部材が設けられている。この後壁部材（成形品）は、金型を使用した射出成形により形成されており、射出成形後に金型から取出すために成形品を押し出した痕跡が残されている。そのため、後壁部材において脱型痕跡部が設けられている部位によっては、脱型痕跡部が遊技球と重なって見えることで、遊技球の動きに違和感や不快感を与えてしまう恐れがある。
【１０５０】
そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、センター役物において流通している遊技球を見え易くすることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【１０５１】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記センター役物は、
遊技球が流通する流通領域の後面及び上面を構成している後壁部材を備え、
該後壁部材は、前記流通領域よりも外側に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【１０５２】
ここで、「センター役物」としては、遊技板の開口の縁に沿った枠状のセンターフレームを備えているものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った方向へ複数のユニット（例えば、ステージユニット、アタッカユニット、等）に分割されているものであっても良い。
【１０５３】
また、遊技球が流通する「流通領域」としては、「左右方向へ遊技球が転動すると共に遊技板の前面側へ遊技球を放出可能なステージ」、「センター役物の外周の所定位置からステージまで遊技球を誘導するワープ通路」、等が挙げられる。
【１０５４】
また、「後壁部材」としては、「遊技板に取付けられる前部材（第一部材）に取付けられるもの」、「遊技板に取付けられる前部材（第一部材）に取付けられ、前部材との間に流通領域の底面を構成する底壁部材（第二部材）を挟むもの」、「自身が遊技板に取付けられるもの」、等が挙げられる。
【１０５５】
更に、「脱型痕跡部」は、成形品を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により成形品に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【１０５６】
手段１の構成によると、遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、センター役物は、遊技球が流通する流通領域の後面及び上面を構

成している後壁部材を備え、後壁部材は、流通領域よりも下方に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－２．脱型痕跡部］の章、脱型痕跡部２５１９、ステージユニット２５２０の第三部材２５２３、流通領域２５２３ｉ、図１１３、図１１６、及び図１１７等の記載を参照）。

【１０５７】

これにより、センター役物には、ステージやワープ通路のような遊技球が流通する流通領域が設けられていると共に、センター役物の後壁部材は、流通領域の後面及び上面を構成しているため、流通領域を流通している遊技球が後方や上方へ脱落することはなく、流通領域を流通（転動）している遊技球の動きによって遊技者を楽しませることができる。この際に、後壁部材では、成形時に形成される脱型痕跡部を、遊技球が流通する流通領域よりも外側に設けているため、脱型痕跡部が流通領域を流通している遊技球と重なって見えることはなく、遊技者に対して流通領域を流通している遊技球を見え易くすることができる。従って、流通領域を流通している遊技球の動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球の動きを楽しませることができる。

【１０５８】

また、後壁部材において、脱型痕跡部を流通領域よりも外側の部位に設けていることから、流通領域を流通している遊技球が脱型痕跡部に接触することはないため、脱型痕跡部が遊技球の流通を阻害することはなく、センター役物における遊技球の流通精度を高めることができる。従って、センター役物において流通する遊技球に対して設計通りの動きをさせることができ、意図したように遊技者を楽しませられる遊技機を提供することができる。

【１０５９】

なお、脱型痕跡部を、前方から見え辛い部位に設けることが望ましい。これにより、後壁部材の流通領域を流通している遊技球の動きを楽しむために、遊技者が後壁部材に注目することとなるが、後壁部材では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部を設けているため、本遊技機の前方にいる遊技者から脱型痕跡部を見え難くすることができ、脱型痕跡部による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物（後壁部材）において脱型痕跡部が目立たないことで、当該センター役物を有する遊技盤（遊技機）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１０６０】

また、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を揃えるようにすることが望ましい。これにより、遊技者から後壁部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンター役物の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【１０６１】

手段２：手段１の構成において、

「前記脱型痕跡部は、前方から見え辛い部位に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１０６２】

ここで、「前方から見え辛い部位」としては、「板面が前後方向を向いた板状の部位の後面」、「前方に設けられている他の部材（例えば、第一部材、第二部材、装飾シール、など）と前後方向が重なる部位」、「板面が前後方向を向いた板状の部位の前面で、前方に設けられている他の部材と前後方向が重なる部位」、「板面が前後方向に対して直交する方向を向いている板状の部位における端面」、等が挙げられる。

【１０６３】

ところで、遊技者から脱型痕跡部が見えると、後壁部材（センター役物）の見栄えが悪くなり、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまう恐れがある。

【１０６４】

手段２の構成によると、脱型痕跡部は、前方から見え辛い部位に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、脱型痕跡部２５１９、第三部材２５２３、図１１６、及び図１１７等の記載を参照）。

【１０６５】

これにより、後壁部材の流通領域を流通している遊技球の動きを楽しむために、遊技者が後壁部材に注目することとなるが、後壁部材では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部を設けているため、本遊技機の前方にいる遊技者から脱型痕跡部を見え難くすることができ、脱型痕跡部による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物（後壁部材）において脱型痕跡部が目立たないことで、当該センター役物を有する遊技盤（遊技機）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１０６６】

なお、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を揃えるようにすることが望ましい。これにより、遊技者から後壁部材の脱型痕跡部が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部が見えてもセンター役物の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【１０６７】

このように、上記の解決手段によれば、センター役物において流通している遊技球を見え易くすることが可能な遊技機を提供することができる。

【１０６８】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００及びステージユニット２５２０は上記解決手段のセンター役物に、本実施形態のステージユニット２５２０の第三部材２５２３は上記解決手段の後壁部材に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。

【１０６９】

また、本実施形態におけるワープ通路２５１６、ステージ２５１８、球通路部２５２３ｄ、及び流通領域２５２３ｉは上記解決手段の流通領域に、本実施形態における第三部材２５２３の後壁部２５２３ａの前側の面は上記解決手段の後面に、実施形態における第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂの下側の面は上記解決手段の上面に、それぞれ相当している。

【１０７０】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５のセンター役物２５００には、ステージ２５１８やワープ通路２５１６のような遊技球Ｂが流通する流通領域２５２３ｉが設けられていると共に、センター役物２５００（ステージユニット２５２０）の第三部材２５２３の後壁部２５２３ａ及び上壁部２５２３ｂは、流通領域２５２３ｉの後面及び上面を構成しているため、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂが後方や上方へ脱落することはなく、流通領域２５２３ｉを流通（転動）している遊技球Ｂの動きによって遊技者を楽しませることができる。この際に、第三部材２５２３では、成形時に形成される脱型痕跡部２５１９を、遊技球Ｂが流通する流通領域２５２３ｉよりも外側に設けているため、脱型痕跡部２５１９が流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂと重なって見えることはなく、遊技者に対して流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂを見え易くすることができる。従って、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂの動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１０７１】

また、第三部材２５２３において、脱型痕跡部２５１９を流通領域２５２３ｉよりも外側の部位に設けていることから、流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂが脱型痕跡部２５１９に接触することはないため、脱型痕跡部２５１９が遊技球Ｂの流通を阻害することはなく、センター役物２５００における遊技球Ｂの流通精度を高めることができる。従って、センター役物２５００において流通する遊技球Ｂに対して設計通りの動きをさせることができ、意図したように遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【１０７２】

更に、第三部材２５２３の流通領域２５２３ｉを流通している遊技球Ｂの動きを楽しむために、遊技者が第三部材２５２３に注目することとなるが、第三部材２５２３では前方から見え辛い部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、本パチンコ機１の前方にいる遊技者から脱型痕跡部２５１９を見え難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができると共に、脱型痕跡部２５１９により遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。従って、センター役物２５００（第三部材２５２３）において脱型痕跡部２５１９が目立たないことで、当該センター役物２５００を有する遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１０７３】

また、遊技者から第三部材２５２３の脱型痕跡部２５１９が見えてしまっても、隣接している脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、当該脱型痕跡部２５１９を模様のように感じさせることができ、脱型痕跡部２５１９が見えてもセンター役物２５００（第三部材２５２３）の見栄えが悪化することはないと共に、遊技者に対して違和感や不快感を与えてしまうことはない。

【１０７４】

［５－８ｃ－４ｅ．小括Ｅ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、前方を遊技球が流通する遊技板の前面よりも前方へ突出している突出壁部を有する枠状のセンターフレームが設けられており、突出壁部によって枠内への遊技球の侵入を阻止すると共に、枠よりも外側の部位に遊技球が流通する領域を形成して、遊技球の動きを楽しませられるようにしたものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１３６７３号公報）。

【１０７５】

しかしながら、この種の遊技機では、機種やメーカーが違っても似たような形態のセンターフレームが設けられているため、代わり映えがせず、センターフレームだけでは他の遊技機との差別化を図ることが困難であった。

【１０７６】

そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、遊技者に対する訴求力を高めることが可能なセンターフレームを備えた遊技機の提供を課題とするものである。

【１０７７】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技板の開口縁に取付けられるセンターフレームを有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記センターフレームは、

遊技板の前面よりも前方に突出している突出壁部を備え、

該突出壁部の前端面に脱型痕跡部が設けられている」

ことを特徴とする。

【１０７８】

ここで、「センターフレーム」としては、センター役物を構成しているものであり、遊技板の開口の縁に沿った枠状のものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った方向へ

複数に分割されているものであっても良い。また、「センターフレーム」としては、一つの部材で構成されていても良いし、複数の部材で構成されていても良い。

【１０７９】

また、「突出壁部」としては、「遊技板の前面から遊技球の半径（或いは、直径）よりも長く前方に突出しているもの」、「遊技板の前面から、遊技板に植設されている障害釘の前端までと、同じような長さで前方に突出しているもの」、等が挙げられる。

【１０８０】

更に、「脱型痕跡部」は、成形品を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により成形品に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。

【１０８１】

手段１の構成によると、遊技板の開口縁に取付けられるセンターフレームを有する遊技盤を備えた遊技機であって、センターフレームは、遊技板の前面よりも前方に突出している突出壁部を備え、突出壁部の前端面に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－２ｃ．前方突出部の脱型痕跡部］の章、脱型痕跡部２５１９、センターフレーム２５１０、前方突出部２５１１、図１１３及び図１１８等の記載を参照）。

【１０８２】

これにより、遊技板の開口縁に取付けられているセンターフレームに、前方へ突出している突出壁部が設けられているので、当該突出壁部により遊技板の開口内へ遊技球が脱落（侵入）することを阻止することができると共に、遊技板の前面におけるセンターフレームよりも外側の部位において、遊技球が流下する領域（遊技領域）を形成することができ、当該領域を流下する遊技球の動きによって遊技者を楽しませることができる。そして、センターフレームの突出壁部の前端面に、センターフレーム（成形品）の成形時に形成された脱型痕跡部を設けているため、脱型痕跡部が見えることでセンターフレームを目立たせることができ、センターフレームに遊技者の関心を引き付けさせることができる。従って、センターフレームにおける突出壁部の前端面に設けられている脱型痕跡部により、遊技者に対して、従来とは全く異なるセンターフレームが設けられていると認識させて、遊技者の関心を強く引き付けさせることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１０８３】

また、脱型痕跡部は、センターフレームにおけるその他の部位と比較して形態が異なっているため、後方に設けられている液晶表示装置やＬＥＤなどからの光が当たると、他の部位とは異なった光方をすることとなる。これにより、センターフレームにおける突出壁部の前端面において、脱型痕跡部が他の部位とは異なった光方をすることで目立つこととなり、遊技者の関心を強く引き付けさせることができると共に、脱型痕跡部か光ることでセンターフレームを奇麗に見せることができる。

【１０８４】

なお、突出壁部に、遊技球が流通する遊技領域を二つに区画している区画部を有するようにした上で、その区画部の前端面には脱型痕跡部が設けないようにしても良い。これにより、センターフレームの突出壁部のうち遊技領域を二つに区画している区画部の前端面には、脱型痕跡部を設けていないため、遊技者に対して、当該区画部が突出壁部における脱型痕跡部が設けられている部位とは異なる部位であると認識させることが可能となり、区画部が枠を構成する部位ではないと認識させることができ、遊技領域５ａが左右に分割されていることを認識させることができる。

【１０８５】

また、上記のように区画部の前端面には脱型痕跡部を設けない場合、突出壁部における

脱型痕跡部が設けられている部位よりも区画部が目立ち難くなるため、区画部の存在に気付かせ難くすることができ、遊技者に対して、区画部の部位を跨いで遊技球が行き来できると錯覚させることができる。

【１０８６】

また、隣接して設けられている脱型痕跡部の形態を揃えるようにすることが望ましい。これにより、センターフレームにおける突出壁部の前端面に設けられている脱型痕跡部を模様のように見せることができ、センターフレームの見栄えを良くすることができる。

【１０８７】

手段２：手段１の構成において、

「前記突出壁部は、

遊技球が流通する遊技領域を二つに区画している区画部を有しており、該区画部の前端面には前記脱型痕跡部が設けられていない」

ものであることを特徴とする。

【１０８８】

ここで、「区画部」としては、「センターフレームの枠内に設けられているステージの端部（例えば右端）に設けられている上下に延びている部位」、「センターフレームから下方へ延出している部位」、「センターフレームの左辺側又は右辺側において、複数の球通路を区画している部位」、等が挙げられる。

【１０８９】

手段２の構成によると、突出壁部は、遊技球が流通する遊技領域を二つに区画している区画部を有しており、区画部の前端面には脱型痕跡部が設けられていないものである（［発明を実施するための形態］では、前方突出部２５１１の区画部２５１１ａの記載を参照）。

【１０９０】

これにより、センターフレームの突出壁部のうち遊技領域を二つに区画している区画部の前端面には、脱型痕跡部を設けていないため、遊技者に対して、当該区画部が突出壁部における脱型痕跡部が設けられている部位とは異なる部位であると認識させることが可能となり、区画部が枠を構成する部位ではないと認識させることができ、遊技領域５ａが左右に分割されていることを認識させることができる。

【１０９１】

或いは、区画部の前端面には脱型痕跡部を設けていないため、突出壁部における脱型痕跡部が設けられている部位よりも区画部が目立ち難くなり、区画部の存在に気付かせ難くすることができ、遊技者に対して、区画部の部位を跨いで遊技球が行き来できると錯覚させることができる。

【１０９２】

このように、上記の解決手段によれば、遊技者に対する訴求力を高めることが可能なセンターフレームを備えた遊技機を提供することができる。

【１０９３】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００のセンターフレーム２５１０及びステージユニット２５２０の第一部材２５２１は上記解決手段のセンターフレームに、本実施形態におけるセンターフレーム２５１０の前方突出部２５１１及び第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂは上記解決手段の突出壁部に、本実施形態における前方突出部２５１１の区画部２５１１ａは上記解決手段の区画部に、それぞれ相当している。

【１０９４】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５における遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周縁に取付けられているセンター役物２５００のセンターフレーム２５１０に

、前方へ突出している前方突出部２５１１が設けられているので、当該前方突出部２５１１により遊技パネル１１００の開口部１１１２内へ遊技球Ｂが脱落（侵入）することを阻止することができると共に、遊技パネル１１００の前面におけるセンターフレーム２５１０よりも外側の部位において、遊技球Ｂが流下する遊技領域５ａを形成することができ、当該遊技領域５ａを流下する遊技球Ｂの動きによって遊技者を楽しませることができる。そして、センターフレーム２５１０の前方突出部２５１１及び第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂの前端面に、センターフレーム２５１１（成形品）等の成形時に形成された脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９が見えることでセンターフレーム２５１０を目立たせることができ、センターフレーム２５１０に遊技者の関心を引き付けさせることができる。従って、センターフレーム２５１０における前方突出部２５１１等の前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９により、遊技者に対して、従来とは全く異なるセンターフレーム２５１０が設けられていると認識させて、遊技者の関心を強く引き付けさせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１０９５】

また、脱型痕跡部２５１９は、センターフレーム２５１０におけるその他の部位と比較して形態が異なっているため、後方に設けられている演出表示装置１６００やＬＥＤなどからの光が当たると、他の部位とは異なった光方をすることとなる。これにより、センターフレーム２５１０における前方突出部２５１１の前端面において、脱型痕跡部２５１９が他の部位とは異なった光方をすることで目立つこととなり、遊技者の関心を強く引き付けさせることができると共に、脱型痕跡部２５１９か光ることでセンターフレーム２５１０を奇麗に見せることができる。

【１０９６】

更に、前方突出部２５１１に、遊技球Ｂが流通する遊技領域５ａを二つに区画している区画部２５１１ａを有するようにした上で、その区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けないようにしているため、遊技者に対して、当該区画部２５１１ａが前方突出部２５１１における脱型痕跡部２５１９が設けられている部位とは異なる部位であると認識させることが可能となり、区画部２５１１ａが枠を構成する部位ではないと認識させることができ、遊技領域５ａが左右に分割されていることを認識させることができる。

【１０９７】

また、或いは、区画部２５１１ａの前端面には脱型痕跡部２５１９を設けていないため、前方突出部２５１１における脱型痕跡部２５１９が設けられている部位や上壁部２５２３ｂよりも区画部２５１１ａが目立ち難くなるため、区画部２５１１ａの存在に気付かせ難くすることができ、遊技者に対して、区画部２５１１ａの部位を跨いで遊技球Ｂが行き来できると錯覚させることができる。

【１０９８】

また、隣接して設けられている脱型痕跡部２５１９の形態を揃えるようにしているため、センターフレーム２５１１における前方突出部２５１１の前端面に設けられている脱型痕跡部２５１９を模様のように見せることができ、センターフレーム２５１９の見栄えを良くすることができる。

【１０９９】

［５－８ｃ－４ｆ．小括Ｆ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、前方を遊技球が流通する遊技板に取付けられる枠状のセンター役物に、遊技球を左右に転動させた後に遊技板の前面側に放出するステージが設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２１－１３６７３号公報）。この種の遊技機では、ステージを転動する遊技球が、ステージにおける所望の部位から放出されるか否かによって遊技者を楽しませられるようにしている。

【１１００】

しかしながら、従来の遊技機では、センター役物のステージにおいて、予め決められた

複数か所（例えば、３か所）の部位の何れかから遊技球が放出されるようにしているため、センター役物での遊技球の動きが単調になり易く、遊技者によっては遊技球の動きに飽きて興趣が低下してしまう恐れがあった。

【１１０１】

そこで、以下の解決手段では、センター役物での遊技球の動きを楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【１１０２】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記センター役物は、

遊技板の前面に当接する取付板部と、遊技球が転動する転動面の前方に設けられている前壁板部と、を備え、

前記取付板部には、先端へ向かうほど後方へ移動するように傾斜している表傾斜部が設けられていると共に、前記前壁板部には、先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部が設けられている」

ことを特徴とする。

【１１０３】

ここで、「センター役物」としては、遊技板の開口の縁に沿った枠状のものであっても良いし、遊技板の開口の縁に沿った方向へ複数に分割されているものであっても良い。また、「センター役物」としては、一つの部材で構成されていても良いし、複数の部材（ユニット）で構成されていても良い。

【１１０４】

また、取付板部と前壁板部との関係としては、取付板部と前壁板部とが一体に形成されていても良いし、取付板部と前壁板部とが別体に形成されていても良い。

【１１０５】

手段１の構成によると、遊技板の開口縁に取付けられるセンター役物を有する遊技盤を備えた遊技機であって、センター役物は、遊技板の前面に当接する取付板部と、遊技球が転動する転動面の前方に設けられている前壁板部と、を備え、取付板部には、先端へ向かうほど後方へ移動するように傾斜している表傾斜部が設けられていると共に、前壁板部には、先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［５－８ｃ－１．ステージユニット］及び［５－８ｃ－３．ステージユニットの第二実施形態］の章、ステージユニット２５２０及びステージユニット２５２０Ａ、表傾斜部２５２１ｃ、裏傾斜部２５２２ｅ、図１１２及び図１２３等の記載を参照）。

【１１０６】

これにより、センター役物に設けられている転動面を遊技球が転動することにより、当該遊技球の動きを遊技者に楽しませることができる。この際に、転動面の前方に設けられている前壁板部に、先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部が設けられているため、転動面を転動している遊技球が前壁板部の後面に当接すると、当該遊技球の勢いによっては裏傾斜部を上り、前壁板部を越えて転動面から前方へこぼれることとなる。従って、遊技球が転動面の思わぬ部位から前壁板部を乗り越えて前方へこぼれるため、遊技者を驚かせることができ、遊技球の動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、遊技板の前面におけるセンター役物の左側を流下する遊技球は、俗にいう道釘に沿って第一始動口に向かって転動して行くが、その際に、道釘等の障害釘によって上方へ跳ね上がった遊技球は、上方の取付板部に表傾斜部が設けられているため、その動きが阻害されることはなく、自然な挙動となる。

【１１０７】

また、センター役物における取付板部の先端に表傾斜部を設けているため、遊技球が表傾斜部の面に当たることで取付板部の先端の角には当たることはなく、取付板部が欠けた

り割れたりすることはない。
【１１０８】
　また、センター役物の前壁板部に裏傾斜部を設けているため、遊技板からセンター役物を取外す際に、前壁板部の先端が薄くなっていることで指を引っ掛け易くすることができ、センター役物の取外作業を楽にすることができる。
【１１０９】
　なお、センター役物において、裏傾斜部の下方に表傾斜部が設けられていることが望ましい。これにより、裏傾斜部の下方に表傾斜部を有した取付板部を設けるようにしているため、転動面を転動している遊技球が、裏傾斜部により前壁板部を越えて前方へこぼれると、必ず取付板部の前面を流下（転動）した上で、表傾斜部を転動して遊技板の前面側へ受け渡すことができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能な遊技機を提供することができる。
【１１１０】
　また、前壁板部における裏傾斜部が設けられている上方に上壁部を設ける場合、前壁板部と上壁部との間に遊技球が通過可能な空間を設けるようにすることが望ましい。これにより、転動面を転動している遊技球が裏傾斜部により上方へ案内されて前壁板部を乗り越えようとした時に、当該遊技球が前壁板部と上壁部との間を通って確実に前方へこぼれることができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能な遊技機を提供することができる。
【１１１１】
　また、上記のように、前壁板部の上方に遊技球が通過可能な空間をあけて上壁部が設けられている場合、遊技板からセンター役物を取外す時に、前壁板部と上壁部との間に指を挿入して引っ張ることが可能となる。この際に、前壁板部の先端に裏傾斜部を設けていることから、前壁板部の先端が薄くなっているため、前壁板部と上方の部材との間に指が挿入し易くなっており、前壁板部の先端に指を引っ掛けて容易に引っ張ることができ、センター役物の取外作業を楽に行うことができる。
【１１１２】
　手段２：手段１の構成において、
　「前記裏傾斜部の下方には前記表傾斜部が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１１１３】
　手段２の構成によると、裏傾斜部の下方に表傾斜部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、表傾斜部２５２１ｃ、裏傾斜部２５２２ｅ、図１１２及び図１２３等の記載を参照）。
【１１１４】
　これにより、裏傾斜部の下方に表傾斜部を有した取付板部を設けるようにしているため、転動面を転動している遊技球が、裏傾斜部により前壁板部を越えて前方へ放出されると、必ず取付板部の前面を流下（転動）した上で、表傾斜部を転動して遊技板の前面側へ受け渡すことができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能な遊技機を提供することができる。
【１１１５】
　このように、上記の解決手段によれば、センター役物での遊技球の動きを楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【１１１６】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
　本実施形態のパチンコ機１の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における遊技パネル１１００の開口部１１１２は上記解決手段の開口に、本実施形態におけるセンター役物２５００、ステージユニット２５２０及びステージユニット２５２０Ａは上記解決手段のセンター役物に、本実施形態におけるセンターフレーム２５１０のフランジ部２５１２は上記解決手段の取付板部に、本実施形態におけるス

テージ２５１８及び第二部材２５２２の転動面部２５２２ａは上記解決手段の転動面に、本実施形態における第一部材２５２１の表傾斜部２５２１ｃは上記解決手段の表傾斜部に、本実施形態における第二部材２５２２の前壁板部２５２２ｂは上記解決手段の前壁板部に、本実施形態における第二部材２５２２の裏傾斜部２５２２ｅは上記解決手段の裏傾斜部に、それぞれ相当している。

【１１１７】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５のセンター役物２５００に設けられている転動面としてのステージ２５１８を遊技球Ｂが転動することにより、当該遊技球Ｂの動きを遊技者に楽しませることができる。この際に、ステージ２５１８の前方に設けられている第二部材２５２１の前壁板部２５２２ｂに、先端へ向かうほど前方へ移動するように傾斜している裏傾斜部２５２２ｅが設けられているため、ステージ２５１８を転動している遊技球Ｂが前壁板部２５２２ｂの後面に当接すると、当該遊技球Ｂの勢いによっては裏傾斜部２５２２ｅを上り、前壁板部２５２２ｂを越えてステージ２５１８から前方へこぼれることとなる。従って、遊技球Ｂがステージ２５１８の思わぬ部位から前壁板部２５２２ｂを乗り越えて前方へこぼれるため、遊技者を驚かせることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、遊技パネル１１００の前面におけるセンター役物２５００の左側を流下する遊技球Ｂは、俗にいう道釘に沿ってセンター役物２５００の下方に設けられている第一始動口２００２に向かって転動して行くが、その際に、道釘等の障害釘Ｎによって上方へ跳ね上がった遊技球Ｂは、上方のフランジ部２５１２に表傾斜部２５２１ｃが設けられているため、その動きが阻害されることはなく、自然な挙動となる。

【１１１８】

また、センター役物２５００におけるフランジ部２５１２の先端に表傾斜部２５２１ｃを設けているため、遊技球Ｂが表傾斜部２５２１ｃの面に当たることでフランジ部２５１２の先端の角には当たることはなく、フランジ部２５１２が欠けたり割れたりすることはない。

【１１１９】

また、前壁板部２５２２ｂにおける裏傾斜部２５２２ｅが設けられている部位と、その上方に設けられている第三部材２５２３の上壁部２５２３ｂとの間に、遊技球Ｂが通過可能な空間を設けているため、遊技球Ｂが前壁板部２５２２ｂと上壁部２５２３ｂとの間を通って確実に前方へこぼれることができる。

【１１２０】

また、前壁板部２５２２ｂと上壁部２５２３ｂとの間に遊技球Ｂが通過可能な空間を設けているため、遊技パネル１１００からセンター役物２５００（ステージユニット２５２０、ステージユニット２５２０Ａ）を取外す時に、前壁板部２５２２ｂと上壁部２５２３ｂとの間に指を挿入して引っ張ることが可能となる。この際に、前壁板部２５２２ｂの先端に裏傾斜部２５２２ｃを設けていることから、前壁板部２５２２ｂの先端が薄くなっているため、前壁板部２５２２ｂと上壁部２５２３ｂとの間に指が挿入し易くなっており、前壁板部２５２２ｂの先端に指を引っ掛けて容易に引っ張ることができ、センター役物の取外作業を楽に行うことができる。

【１１２１】

［５－８ｃ－５．第一アタッカユニット］

次に、センター役物２５００における第一アタッカユニット２５３０について、主に図９９、図１０６及び図１０７等を参照して説明する。第一アタッカユニット２５３０は、センター役物における右上隅の部位を構成している。第一アタッカユニット２５３０は、ステージユニット２５２０と同様にセンターフレーム２５１０の一部を有している。この第一アタッカユニット２５３０は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの入球により抽選された第一特別図柄や第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球により抽選された第二特別図柄等の抽選結果に応じて遊技球Ｂを受入可能に開閉する第一大入賞口２００５と、第一大

入賞口２００５に入球した遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２５０３と、第一大入賞口２００５を開閉可能としている第一大入賞口扉２５３１と、第一大入賞口扉２５３１を進退させる第一アタッカソレノイド２５３２と、を有している。

【１１２２】

第一大入賞口扉２５３１は、板面を上下方向へ向けた平板状で、左右方向に延出している。この第一大入賞口扉２５３１は、前後方向へ進退可能に設けられており、前進位置の状態では、第一大入賞口２００５への遊技球Ｂの入球を不能とし、後退位置の状態では、第一大入賞口２００５への遊技球Ｂの入球が可能となる。

【１１２３】

第一アタッカソレノイド２５３２は、第一始動口２００２への入球により抽選された第一特別図柄、第二始動口２００４への入球により抽選された第二特別図柄、等の抽選結果に応じて第一大入賞口扉２５３１を進退させて、第一大入賞口２００５を開閉させるためのものである。この第一アタッカソレノイド２５３２は、非通電時には、図示しないバネの付勢力により、第一大入賞口扉２５３１が前進して第一大入賞口２００５が閉鎖されている。

【１１２４】

この第一アタッカユニット２５３０は、第一大入賞口２００５に入球して第一大入賞口センサ２５０３に検知された遊技球Ｂを後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。第一アタッカユニット２５３０から受け渡された遊技球Ｂは、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。一方、第一大入賞口２００５に入球しなかった遊技球Ｂは、下方に設けられているゲートユニット２５４０へ放出される。

【１１２５】

［５－８ｃ－６．ゲートユニット］

次に、センター役物２５００におけるゲートユニット２５４０について、主に図９９、図１０６及び図１０７等を参照して説明する。ゲートユニット２５４０は、センター役物２５００における右辺の上下方向中央部分の部位を構成している。ゲートユニット２５４０は、上方に第一アタッカユニット２５３０が設けられていると共に、下方に第二アタッカユニット２５５０が設けられている。つまり、ゲートユニット２５４０は、第一アタッカユニット２５３０と第二アタッカユニット２５５０との間に設けられている。

【１１２６】

ゲートユニット２５４０は、ステージユニット２５２０等と同様にセンターフレーム２５１０の一部を有している。ゲートユニット２５４０は、遊技球Ｂが通過可能なゲート２００３と、遊技球Ｂを受入可能に常時開口している普通入賞口２０１１と、ゲート２００３における遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの入球により抽選された普通図柄の抽選結果に応じて開閉する第二始動口２００４と、入球した遊技球Ｂを遊技領域５ａ外へ排出するサブアウト口２０２３と、を有している。

【１１２７】

また、ゲートユニット２５４０は、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過を検知するゲートセンサ２５０１と、第二始動口２００４に入球した遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２５０２と、第二始動口２００４を開閉可能としている第二始動口扉２５４１と、第二始動口扉２５４１を進退させる始動口ソレノイド２５４２と、を備えている。第二始動口２００４は、ゲート２００３の直下に設けられている。

【１１２８】

第二始動口扉２５４１は、板面を上下方向へ向けた平板状で、左右方向に延出している。第二始動口扉２５４１は、前後方向へ進退可能に設けられており、前進位置の状態では、第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球を可能とし、後退位置の状態では、第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球を不能としている。

【１１２９】

始動口ソレノイド２５４２は、ゲート２００３における遊技球Ｂの通過により抽選され

た普通図柄、普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの入球により抽選された普通図柄、の抽選結果に応じて第二始動口扉２５４１を進退させて、第二始動口２００４を開閉させるためのものである。この始動口ソレノイド２５４２は、非通電時には、図示しないバネの付勢力により、第二始動口扉２５４１が後退して第二始動口２００４が入球不能（閉鎖）されている。

【１１３０】

ゲートユニット２５４０は、第二始動口２００４に入球して第二始動口センサ２５０２により検知された遊技球Ｂを、後方へ案内し、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。第二始動口センサ２５０２に検知されて裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。また、ゲートユニット２５４０は、普通入賞口２０１１に入球した遊技球Ｂを、後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。普通入賞口２０１１に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、普通入賞口センサ３００３に検知された後に、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。

【１１３１】

また、ゲートユニット２５４０は、サブアウト口２０２３に入球した遊技球Ｂを、後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。サブアウト口２０２３に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第一球経路７０１に排出される。

【１１３２】

一方、ゲートユニット２５４０において、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、の何れにも入球しなかった遊技球Ｂは、下方へ誘導されて下方に設けられている第二アタッカユニット２５５０へ放出される。

【１１３３】

［５－８ｃ－７．第二アタッカユニット］

次に、センター役物２５００における第二アタッカユニット２５５０について、主に図９９、図１０６及び図１０７等を参照して説明する。第二アタッカユニット２５５０は、センター役物２５００における右下隅の部位を構成しており、左側にステージユニット２５２０が隣接していると共に、上側にゲートユニット２５４０が隣接している。

【１１３４】

第二アタッカユニット２５５０は、ステージユニット２５２０等と同様にセンターフレーム２５１０の一部を有している。第二アタッカユニット２５５０は、一つの一般入賞口２００１と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの入球により抽選された第一特別図柄や第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球により抽選された第二特別図柄等の抽選結果に応じて遊技球Ｂを受入可能に開閉する第二大入賞口２００６と、二つのサブアウト口２０２３と、を有している。

【１１３５】

この第二アタッカユニット２５５０は、第二大入賞口２００６に入球した遊技球Ｂを検知する第二大入賞口センサ２５０４と、第二大入賞口２００６を開閉可能としている第二大入賞口扉２５５１と、第二大入賞口扉２５５１を進退させる第二アタッカソレノイド２５５２と、を有している。

【１１３６】

第二大入賞口扉２５５１は、板面を上下方向へ向けた平板状で、左右方向に延出している。この第二大入賞口扉２５５１は、前後方向へ進退可能に設けられており、前進位置の状態では、第二大入賞口２００６への遊技球Ｂの入球を不能とし、後退位置の状態では、第二大入賞口２００６への遊技球Ｂの入球が可能となる。

【１１３７】

第二アタッカソレノイド２５５２は、第一始動口２００２への入球により抽選された第一特別図柄、第二始動口２００４への入球により抽選された第二特別図柄、等の抽選結果に応じて第二大入賞口扉２５５１を進退させて、第二大入賞口２００６を開閉させるためのものである。この第二アタッカソレノイド２５５２は、非通電時には、図示しないバネの付勢力により、第二大入賞口扉２５５１が前進して第二大入賞口２００６が閉鎖されている。

【１１３８】

この第二アタッカユニット２５５０は、一般入賞口２００１に入球した遊技球Ｂを後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。一般入賞口２００１に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３００１に検知された上で、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。第二大入賞口２００６に入球して第二大入賞口センサ２５０４に検知された遊技球Ｂを後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。第二大入賞口２００６に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。

【１１３９】

また、第二アタッカユニット２５５０は、サブアウト口２０２３に入球した遊技球Ｂを、後方へ案内して、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡す。サブアウト口２０２３に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、裏球誘導ユニット３１００を通って本体枠４における基板ユニット７００の第一球経路７０１に排出される。

【１１４０】

一方、第二アタッカユニット２５５０において、一般入賞口２００１、第二大入賞口２００６、サブアウト口２０２３、の何れにも入球しなかった遊技球Ｂは、第二アタッカユニット２５５０の左方の遊技領域５ａ内に放出されるが、他のユニットの入賞口に入球することなくアウト口１００８に受入れられて、遊技領域５ａ外に排出される。

【１１４１】

［５－８ｃ－８．センター左上ユニット］

次に、センター役物２５００におけるセンター左上ユニット２５６０について、主に図９９、図１０６及び図１０７等を参照して説明する。センター左上ユニット２５６０は、枠状のセンター役物２５００における上辺の部位と左辺上部の部位とを構成しており、ステージユニット２５２０の左上端部と第一アタッカユニット２５３０の上端とを結ぶように設けられている。

【１１４２】

このセンター左上ユニット２５６０は、ステージユニット２５２０等と同様にセンターフレーム２５１０の一部を有している。

【１１４３】

［５－９．遊技領域内での遊技球の流れ］

次に、遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流れについて、主に図９９等を参照して詳細に説明する。遊技盤５に組立てた状態では、センター役物２５００が遊技領域５ａの略中央に設けられている。図示は省略するが、遊技領域５ａ内において、センター役物２５００の左外側の部位と下側の部位、及び、ゲートユニット２５４０における普通入賞口２０１１の上方の部位、に複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている。また、センター役物２５００の左側でサイドユニット２２００の左端上方に、遊技球Ｂの当接により回転する風車（図示は省略）が設けられている。

【１１４４】

センター役物２５００の左側へ打込まれた遊技球Ｂは、複数の障害釘Ｎに当接することで案内されて、或る程度の確率でワープ入口２５１５に進入する。ワープ入口２５１５に進入した遊技球Ｂは、ワープ通路２５１６を通ってセンター役物２５００の枠内に設けら

れているワープ出口２５１７から右方へ放出され、第二部材２５２２の複数の突起部２５２２ｄに当接することで減速されてステージ２５１８に供給される。

【１１４５】

ステージ２５１８に供給された遊技球Ｂは、ステージ２５１８上を左右方向へ転動し、中央放出部２５１８ａ又はサイド放出部２５１８ｂの何れかから遊技領域５ａ内へ還流するように放出される。ステージ２５１８の中央放出部２５１８ａは、遊技領域５ａ内の左右方向中央で第一始動口２００２の直上に設けられているため、中央放出部２５１８ａから放出された遊技球Ｂは、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。中央放出部２５１８ａの左右両側のサイド放出部２５１８ｂから放出された遊技球Ｂは、或る程度の確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【１１４６】

第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導されて、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡される。第一始動口２００２に入球して裏球誘導ユニット３１００に受け渡された遊技球Ｂは、第一始動口センサ３００２に検知された後に、裏球誘導ユニット３１００から下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。第一始動口センサ３００２により遊技球Ｂが検知されると、所定個数の遊技球Ｂが払出される特典が付与されると共に、所定条件を充足している状態（例えば、第一特別図柄の保留数が４未満の状態）で、遊技者に有利となる有利遊技状態の発生を可能としている第一特別図柄の抽選が実行される。なお、抽選された第一特別図柄を、第一特別抽選結果とも称する。

【１１４７】

ステージ２５１８から放出されて第一始動口２００２に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８に受入れられて遊技領域５ａ外へ排出される。アウト口１００８に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された上で、下方の基板ユニット７００の第一球経路７０１へ排出される。

【１１４８】

センター役物２５００の左外側へ打込まれ、ワープ入口２５１５に進入しなかった遊技球Ｂは、風車の中心よりも右側を流通した場合では、高い確率で、センター役物２５００の下辺に沿って斜めに列設されている道釘に沿うように右方へ流下する。風車の中心よりも右側を流通した遊技球Ｂは、第一始動口２００２やサイドユニット２２００に設けられている一般入賞口２００１やサブアウト口２０２３に受入れられる可能性がある。また、風車の中心よりも右側を流通した遊技球Ｂは、サイドユニット２２００に設けられている一般入賞口２００１やサブアウト口２０２３に受入れられることがある。第一始動口２００２、一般入賞口２００１、及びサブアウト口２０２３に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８に受入れられて遊技領域５ａ外へ排出される。

【１１４９】

サイドユニット２２００に設けられている一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された上で裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡される。この遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３００１に検知された上で、下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２へ排出される。一般入賞口センサ３００１に遊技球Ｂが検知されると、所定個数の遊技球Ｂを払出す特典が付与される。

【１１５０】

一方、サイドユニット２２００に設けられているサブアウト口２０２３に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方に誘導された後に、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡され、裏球誘導ユニット３１００から下方へ排出される。サイドユニット２２００において、一般入賞口２００１及びサブアウト口２０２３の何れにも受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８に受入れられて遊技領域５ａ外へ排出される。

【１１５１】

続いて、センター役物２５００の右側には、上下に長い球通路が設けられており、その

球通路には上から順に、第一大入賞口２００５、ゲート２００３、第二始動口２００４、サブアウト口２０２３、普通入賞口２０１１、第二大入賞口２００６、一般入賞口２００１及びサブアウト口２０２３、が設けられている。センター役物２５００の右側では、普通入賞口２０１１の直上に夫々複数の障害釘Ｎが植設されている。

【１１５２】

遊技領域５ａ内へ右打ちされてセンター役物２５００の右側に進入した遊技球Ｂは、初めに第一アタッカユニット２５３０の第一大入賞口２００５を閉鎖している第一大入賞口扉２５３１上を転動する。この第一大入賞口２００５は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別図柄（第一特別抽選結果）、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別図柄（第二特別抽選結果）、に応じて（例えば、抽選された特別図柄（特別抽選結果）が、「大当り」、「中当り」、「小当り」、等の時）、第一アタッカソレノイド２５３２により第一大入賞口扉２５３１が後退して開放される。第一大入賞口２００５の開閉パターンは、第一特別図柄や第二特別図柄の抽選結果に応じて異なっている。

【１１５３】

従って、第一大入賞口２００５が開放されているタイミングで、遊技球Ｂが流通（転動）してくると、当該遊技球Ｂが第一大入賞口２００５に受入れられる。これにより、第一大入賞口２００５が開閉する特別図柄が抽選されると、遊技者に対して、遊技球Ｂが第一大入賞口２００５に受入れられるように、第一大入賞口２００５が設けられているセンター役物２５００の右側を遊技球Ｂが流通するように、「右打ち」を行わせることができる。

【１１５４】

第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂは、下方に設けられている第一大入賞口センサ２５０３に検知される。第一大入賞口センサ２５０３により遊技球Ｂが検知されると、所定数の遊技球Ｂを払出す特典が付与される。また、第一大入賞口センサ２５０３に検知された遊技球Ｂは、後方の裏球誘導ユニット３１００に受け渡され、裏球誘導ユニット３１００から下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２に排出される。

【１１５５】

第一アタッカユニット２５３０において第一大入賞口２００５に受入れられなかった遊技球Ｂは、下方に設けられているゲートユニット２５４０に進入する。ゲートユニット２５４０では、上から順に、ゲート２００３、第二始動口２００４、サブアウト口２０２３、普通入賞口２０１１、が設けられている。従って、ゲートユニット２５４０では、遊技球Ｂがゲート２００３を通過する可能性があると共に、第二始動口２００４や普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、に入球する可能性がある。ゲート２００３は、遊技球Ｂが常時通過できるように設けられている。また、普通入賞口２０１１とサブアウト口２０２３は、遊技球Ｂを常時受入可能に開口している。一方、第二始動口２００４は、通常の状態では受入不能に閉鎖されている。

【１１５６】

遊技球Ｂがゲート２００３を通過すると、その下方に設けられている第二始動口扉２５４１へ向かって流下することとなる。この際に、ゲート２００３の通過により遊技球Ｂがゲートセンサ２５０１に検知されると、所定条件を充足している状態（例えば、普通図柄の保留数が４未満の状態）で、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れを可能とする普通図柄の抽選が実行される。なお、抽選された普通図柄を、普通抽選結果とも称する。

【１１５７】

そして、ゲート２００３を通過した遊技球Ｂは、第二始動口扉２５４１が設けられている部位へ向かって流下することとなるが、通常の状態では、第二始動口扉２５４１は後退しており、遊技球Ｂが第二始動口扉２５４１上に当接することはない。従って、遊技球Ｂは、第二始動口扉２５４１の部位を素通りして第二始動口２００４に入球することなく流下する。

【１１５８】

一方、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への入球、により抽選

された普通図柄の抽選結果として、「普通当り」が抽選されると、始動口ソレノイド２５４２により第二始動口扉２５４１が前進して、第二始動口２００４が受入可能な開放された状態となる。この状態で、遊技球Ｂが第二始動口扉２５４１に当接すると、その第二始動口扉２５４１に案内されて遊技球Ｂが第二始動口２００４に入球する。

【１１５９】

第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂは、第二始動口センサ２５０２に検知された後に、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡された上で、裏球誘導ユニット３１００から下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２に排出される。第二始動口センサ２５０２により遊技球Ｂが検知されると、所定個数の遊技球Ｂを払出す特典が付与されると共に、所定条件を充足している状態（例えば、第二特別図柄の保留数が４未満の状態）で、遊技者に有利となる有利遊技状態の発生を可能としている第二特別図柄の抽選が実行される。なお、抽選された第二特別図柄を、第二特別抽選結果とも称する。

【１１６０】

第二始動口扉２５４１の部位を通過して流下した遊技球Ｂは、所定の確率でサブアウト口２０２３や普通入賞口２０１１に入球する。この遊技球Ｂが普通入賞口２０１１に入球すると、後方へ誘導されて裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡され、普通入賞口センサ３００３により検知された上で、裏球誘導ユニット３１００から下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２に排出される。普通入賞口センサ３００３に遊技球Ｂが検知されると、所定個数の遊技球Ｂを払出す特典が付与されると共に、所定条件を充足している状態（例えば、普通図柄の保留数が４未満の状態）で、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れを可能とする普通図柄の抽選が実行される。

【１１６１】

従って、上流のゲート２００３において、遊技球Ｂが通過した際に、普通図柄の抽選結果として「普通当り」が抽選されなかった場合でも、下流の普通入賞口２０１１に入球すると、普通図柄の抽選が行われるため、一つの遊技球Ｂで普通図柄の抽選の機会が二度あることとなり、遊技者を楽しませることができる。

【１１６２】

一方、サブアウト口２０２３に入球した遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方に誘導された後に、裏ユニット３０００の裏球誘導ユニット３１００に受け渡され、裏球誘導ユニット３１００から下方へ排出される。

【１１６３】

このゲートユニット２５４０において、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、の何れにも入球しなかった遊技球Ｂは、ゲートユニット２５４０から下方の第二アタッカユニット２５５０へ流下する。

【１１６４】

第二アタッカユニット２５５０へ流下してきた遊技球Ｂは、高い確率で第二大入賞口扉２５５１側へ流下すると、第二大入賞口扉２５５１側へ流下しなかった遊技球Ｂは、サブアウト口２０２３に入球し、後方の裏球誘導ユニット３１００を通して下方へ排出される。

【１１６５】

第二大入賞口扉２５５１は、通常の状態では前方へ突出して第二大入賞口２００６を閉鎖している。そのため、通常の状態で第二大入賞口扉２５５１に流下してきた遊技球Ｂは、第二大入賞口扉２５５１上を左方へ転動した後に、第二アタッカユニット２５５０から遊技領域５ａ内に放出される。第二アタッカユニット２５５０から遊技領域５ａ内に放出する部位は、第一始動口２００２の左方で第一始動口２００２よりも若干高い位置に設けられており、当該位置から下方へ放出される。この部位の下方には、第二アタッカユニット２５５０において左方へ張り出している一般入賞口２００１とサブアウト口２０２３とが左右に並んで設けられており、何れかに入球する可能性がある。また、第二大入賞口扉２５５１上を左方へ転動して、第二アタッカユニット２５５０の一般入賞口２００１及びサブアウト口２０２３に入球しなかった遊技球Ｂは、アウト口１００８から外部に排出される。

【１１６６】
第二アタッカユニット２５５０の第二大入賞口２００６は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別図柄（第一特別抽選結果）、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別図柄（第二特別抽選結果）、に応じて（例えば、抽選された特別図柄（特別抽選結果）が、「大当り」、「中当り」、「小当り」、等の時）、第二アタッカソレノイド２５５２により第二大入賞口扉２５５１が後退して開放される。第二大入賞口２００６の開閉パターンは、第一特別図柄や第二特別図柄の抽選結果に応じて異なっている。
【１１６７】
この第二大入賞口２００６が開放されているタイミングで、遊技球Ｂが流通（転動）してくると、当該遊技球Ｂが第二大入賞口２００６に受入れられる。これにより、第二大入賞口２００６が開閉する特別図柄が抽選されると、遊技者に対して、遊技球Ｂが第二大入賞口２００６に受入れられるように、第二大入賞口２００６が設けられているセンター役物２５００の右側を遊技球Ｂが流通するように、「右打ち」を行わせることができる。
【１１６８】
第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂは、下方に設けられている第二大入賞口センサ２５０４に検知される。第二大入賞口センサ２５０４により遊技球Ｂが検知されると、所定数の遊技球Ｂを払出す特典が付与される。第二大入賞口センサ２５０４に検知された遊技球Ｂは、後方の裏球誘導ユニット３１００に受け渡され、裏球誘導ユニット３１００から下方の基板ユニット７００の第二球経路７０２に排出される。
【１１６９】
本実施形態では、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６が開閉して遊技者が有利となる有利遊技状態が発生する第一特別図柄や第二特別図柄の特別図柄の抽選において、第一始動口２００２が遊技球Ｂを受入可能に常時開口しているのに対して、第二始動口２００４がゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの受入れにより抽選される普通抽選が「普通当り」の時のみ所定パターンで遊技球Ｂを受入可能にしている。これにより、第二始動口２００４よりも第一始動口２００２の方が、遊技球Ｂが受入れられる可能性が高くなっている。
【１１７０】
このようなことから、通常の状態では、遊技者に対して、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられるように、センター役物２５００の左側を遊技球Ｂが流下するように、遊技球Ｂの打込操作を行わせることができ、複数の障害釘により案内される遊技球Ｂの動きを見せて、遊技球Ｂによるパチンコ機１本来の遊技を楽しませることができると共に、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。
【１１７１】
そして、第一始動口２００２へ遊技球Ｂが受入れられることで、第一特別図柄の抽選結果として「当り」（例えば、「小当り」、「中当り」、「大当り」、「役物当り」、等）が抽選されると、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６が所定のパターンで開閉するため、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６に遊技球Ｂが受入れられるように、センター役物２５００の右側を狙った遊技球Ｂの打込操作（所謂、「右打ち」）を楽しませることができる共に、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。
【１１７２】
このセンター役物２５００の右側には、ゲート２００３と普通入賞口２０１１が設けられており、ゲート２００３での遊技球Ｂの通過や普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの入球により第二始動口２００４が受入可能となる普通図柄の抽選が行われるため、右側に打込んだ遊技球Ｂがゲート２００３を通過するか否か、普通入賞口２０１１に入球するか否か、によって遊技者を楽しませることができると共に、第二始動口２００４が受入可能となった時に、第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられるか否かによっても遊技者を楽しませることができる。

【１１７３】
［５－１０．裏ユニット］
次に、遊技盤５における裏ユニット３０００について、主に図９７及び図９８等を参照して詳細に説明する。裏ユニット３０００は、遊技盤５（パチンコ機１）に作用する振動を検知する振動センサ１０４０（図１２６を参照）と、一般入賞口２００１に受入れられて遊技パネル１１００の後方に誘導された遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３００１と、第一始動口２００２に受入れられて遊技パネル１１００の後方に誘導された遊技球Ｂを検知する第一始動口センサ３００２と、普通入賞口２０１１に受入れられて遊技パネル１１００の後方に誘導された遊技球Ｂを検知する普通入賞口センサ３００３と、を備えている。
【１１７４】
裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁３０１０ａに演出表示装置１６００を取付けるための四角い開口部３０１０ｂを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後壁３０１０ａに左右方向へスライド可能に設けられており演出表示装置１６００を着脱させるためのロックスライダ３０２０と、裏箱３０１０の後壁にヒンジ回転可能に取付けられている裏基板ユニット３０４０と、を備えている。
【１１７５】
また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端付近で下辺と右辺とに沿うように設けられており遊技パネル１１００の後方へ案内された遊技球Ｂを誘導して下方への基板ユニット７００に排出する裏球誘導ユニット３１００と、裏箱３０１０の前端付近に設けられており所定の装飾が施されている枠状の裏前装飾ユニット３２００と、裏球誘導ユニット３１００及び裏前装飾ユニット３２００の後方で裏箱３０１０内に設けられている裏第一演出ユニット３３００と、裏第一演出ユニット３３００と裏箱３０１０の後壁３０１０ａとの間に設けられている裏第二演出ユニット３４００と、を有している。
【１１７６】
裏箱３０１０は、開口部３０１０ｂが、演出表示装置１６００の外形と対応した大きさに形成されており、演出表示装置１６００を後方から挿入可能に設けられている。裏箱３０１０の後壁３０１０ａにおける開口部３０１０ｂよりも下方の後面には、主制御ユニット１３００が取付けられる。
【１１７７】
また、裏箱３０１０は、前端から外方へ延出しており遊技パネル１１００に取付けるための固定片部３０１０ｃと、開口部３０１０ｂの上辺において上方へ向かって凹んでいる二つの固定溝３０１０ｄを有している。これら固定溝３０１０ｄには、演出表示装置１６００の上固定片１６０１がそれぞれ挿入される。
【１１７８】
更に、裏箱３０１０は、後壁３０１０ａにおける開口部３０１０ｂよりも右側（背面視において左側）に、裏基板ユニット３０４０の軸部３０４１ａが上方から挿入される軸支部３０１０ｅと、開口部３０１０ｂよりも左側に、裏基板ユニット３０４０の係止爪３０４１ｂが係止される係止部３０１０ｆと、を有している。
【１１７９】
ロックスライダ３０２０は、裏箱３０１０の後壁３０１０ａの後面における開口部３０１０ｂよりも下側の部位において、左右方向へスライド可能に取付けられている。このロックスライダ３０２０は、裏箱３０１０の開口部３０１０ｂに演出表示装置１６００を挿入した状態で、左右の所定方向へスライドさせると、演出表示装置１６００の下固定片１６０２の移動をロックさせて、演出表示装置１６００が裏箱３０１０から外れないようにロックすることができる。
【１１８０】
裏基板ユニット３０４０は、正面視の形状がＬ字型で前後に薄い箱状の基板ボックス３０４１と、基板ボックス３０４１内に収容されているパネル中継基板及び演出駆動基板（

図示は省略）と、を備えている。基板ボックス３０４１は、Ｌ字型の上下に延びている部位の外側辺に、裏箱３０１０の軸支部３０１０ｅに回転可能に支持される二つの軸部３０４１ａを有している。また、基板ボックス３０４１は、Ｌ字型の左右に延びている部位の先端に、裏箱３０１０の係止部（図示は省略）に係止される係止爪３０４１ｂを有している。

【１１８１】

裏球誘導ユニット３１００は、アウト口１００８、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、センター役物２５００、により遊技パネル１１００の前面側から後方へ案内された遊技球Ｂを、下方に設けられている本体枠４の基板ユニット７００へ排出するためのものである。この裏球誘導ユニット３１００には、一般入賞口センサ３００１、第一始動口センサ３００２、普通入賞口センサ３００３、が設けられている。

【１１８２】

また、裏球誘導ユニット３１００は、アウト口１００８及びサブアウト口２０２３に入球した遊技球Ｂを誘導して下方に設けられている基板ユニット７００の第一球経路７０１に排出するアウト球誘導路３１０１と、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、普通入賞口２０１１、に入球した遊技球Ｂを誘導して下方に設けられている基板ユニット７００の第二球経路７０２に排出するセーフ球誘導路３１０２と、を有している。

【１１８３】

裏前装飾ユニット３２００は、裏箱３０１０内における前端縁付近に取付けられており、裏箱３０１０の内面に沿うように枠状に形成されている。裏前装飾ユニット３２００の下辺と右辺は、裏球誘導ユニット３１００の後方に位置している。裏前装飾ユニット３２００は、裏箱３０１０の上辺に沿って左右に延びている裏前上装飾体３２１０と、裏箱３０１０の左辺に沿って上下に延びている裏前左装飾体３２２０と、を有している。

【１１８４】

また、裏前装飾ユニット３２００は、図示は省略するが、裏前上装飾体３２１０の後方に設けられ前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前上装飾基板と、裏前左装飾体３２２０の後方に設けられ前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前左装飾基板と、を有している。裏前装飾ユニット３２００は、裏前上装飾基板のＬＥＤにより裏前上装飾体３２１０を発光装飾させることができると共に、裏前左装飾基板のＬＥＤにより裏前左装飾体３２２０を発光装飾させることができる。

【１１８５】

更に、裏前装飾ユニット３２００は、裏前左装飾体３２２０におけるセンター役物２５００のワープ入口２５１５付近の部位に、磁気センサ１０５０を有している。

【１１８６】

裏第一演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における裏前装飾ユニット３２００の後方に設けられている。裏第一演出ユニット３３００は、裏箱３０１０の内面に沿って枠状に形成されており裏第二演出ユニット３４００の裏第二ベースに取付けられる裏第一ベース（図示は省略）と、裏第一ベースの枠内において左右方向へ跨ると共に上下方向へスライド（昇降）可能に設けられている裏第一昇降装飾体３３１０と、裏第一昇降装飾体３３１０の左右方向中央において前後方向に延びた軸芯周り回転可能に設けられている円形の裏第一回転装飾体３３２０と、を有している。

【１１８７】

また、図示は省略するが、裏第一演出ユニット３３００は、裏第一昇降装飾体３３１０の後方で裏第一回転装飾体３３２０よりも左右両外側にそれぞれ設けられておりそれぞれの前面に複数のＬＥＤが実装されている裏第一左装飾基板及び裏第一右装飾基板と、裏第一回転装飾体３３２０の後方に設けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏第一中装飾基板と、を有している。裏第一演出ユニット３３００は、裏第一左装飾基板のＬＥＤにより裏第一昇降装飾体３３１０の左側部分を発光装飾させることができると共に、裏第一右装飾基板のＬＥＤにより裏第一昇降装飾体３３１０の右側部分を発光装飾させる

ことができる。また、裏第一演出ユニット３３００は、裏第一中装飾基板のＬＥＤにより裏第一回転装飾体３３２０を発光装飾させることができる。

【１１８８】

更に、図示は省略するが、裏第一演出ユニット３３００は、裏第一昇降装飾体３３１０を昇降させるための裏第一昇降機構と、裏第一回転装飾体３３２０を回転させるための裏第一回転機構と、を有している。

【１１８９】

この裏第一演出ユニット３３００は、裏第一昇降機構によって、裏第一昇降装飾体３３１０が、最も下方へ移動して枠状のセンター役物２５００の下辺から一部が枠内に突出している待機位置の状態（図９３を参照）と、センター役物２５００の上辺から一部が枠内に突出している上昇位置の状態と、の間で昇降することができる。

【１１９０】

また、裏第一演出ユニット３３００は、裏第一昇降装飾体３３１０が何れの位置においても、裏第一回転機構により裏第一回転装飾体が前後方向に延びた軸芯周りに回転することができる。

【１１９１】

裏第二演出ユニット３４００は、裏第一演出ユニット３３００と裏箱３０１０の後壁３０１０ａとの間に設けられ、裏箱３０１０内に取付けられている。この裏第二演出ユニット３４００の前側には裏第一演出ユニット３３００が取付けられる。裏第二演出ユニット３４００は、裏箱３０１０の内面に沿った枠状で裏箱３０１０に取付けられる裏第二ベース（図示は省略）と、裏第二ベースの枠内において左右方向へ跨ると共に上下方向へスライド（昇降）可能に設けられている裏第二昇降装飾体３４１０と、裏第二ベースの上辺に沿うように設けられている裏後上装飾体３４２０と、を有している。裏後上装飾体３４２０は、正面視において、その上端が裏前上装飾体３２１０の下端よりも上方に位置するように設けられており、前後方向において裏前上装飾体３２１０とは一部が重なっている（図９３等を参照）。

【１１９２】

また、図示は省略するが、裏第二演出ユニット３４００は、裏第二昇降装飾体３４１０の後方に設けられ前面に複数のＬＥＤが実装されている裏第二装飾基板と、裏第二昇降装飾体３４１０を昇降させるための裏第二昇降機構と、を有している。

【１１９３】

裏第二演出ユニット３４００は、裏第二装飾基板のＬＥＤにより裏第二昇降装飾体３４１０を発光装飾させることができる。また、裏第二演出ユニット３４００は、裏第二昇降機構によって、裏第二昇降装飾体３４１０が、裏第一昇降装飾体３３１０の後方において、最も下方へ移動して枠状のセンター役物２５００の下辺から一部が枠内に突出している待機位置の状態（図１２４を参照）と、センター役物２５００の上辺から一部が枠内に突出している上昇位置の状態と、の間で昇降することができる。

【１１９４】

［５－１１．遊技盤による演出］

続いて、遊技盤５による演出について、主に図９３、図１２４及び図１２５を参照して詳細に説明する。図１２４は、通常の状態から裏第一昇降装飾体を下端の待機位置から上端の上昇位置までの間の中間の位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１２５は、通常の状態から裏第二昇降装飾体を下端の待機位置から上端の上昇位置までの間の中間の位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【１１９５】

本実施形態の遊技盤５は、図９３等に示すように、主にセンター役物２５００の枠内を通して、後方に設けられている裏ユニット３０００や演出表示装置１６００の表示画面等が視認可能となっている。詳述すると、センター役物２５００の枠内における上辺の部位では、裏前上装飾体３２１０と裏後上装飾体３４２０とが上下に並んで視認可能に設けられている。また、センター役物２５００の枠内における下辺の部位では、裏第一昇降装飾

体３３１０の上部の一部が視認可能となっている。なお、裏第二昇降装飾体３４１０は、裏第一昇降装飾体３３１０の後方に位置して視認不能となっている。

【１１９６】

この通常の状態では、センター役物２５００の枠内を通して演出表示装置１６００に表示されている演出画像を充分に視認することができる。

【１１９７】

本実施形態の遊技盤５は、裏ユニット３０００の裏第一演出ユニット３３００を使用して図１２４に示すような演出（可動演出）を実行することができる。この演出は、裏第一昇降装飾体３３１０を下端の待機位置から上昇させて、例えば、センター役物２５００の枠内の上下方向中央に位置させる。これにより、裏第一昇降装飾体３３１０が、後方に設けられている演出表示装置１６００の表示画面の中央に位置するため、遊技者を驚かせることができると共に、何か良いことがあるのではないかと思わせることができる。

【１１９８】

また、図１２４の状態では、裏第一昇降装飾体３３１０により演出表示装置１６００の表示画面が上下二つに分割された状態となるため、裏第一昇降装飾体３３１０の上側と下側とで異なる演出画像を表示させることで、遊技者を楽しませることができる。

【１１９９】

そして、この状態で、裏第一昇降装飾体３３１０の中央に設けられている裏第一回転装飾体３３２０を回転させると、遊技者を更に驚かせることができ、遊技者に対してチャンスが到来したと思わせることができる。

【１２００】

続いて、本実施形態の遊技盤５は、裏ユニット３０００の裏第二演出ユニット３４００を使用して図１２５に示すような演出（可動演出）を実行することができる。この演出は、裏第二昇降装飾体３４１０を下端の待機位置から上昇させて、例えば、センター役物２５００の枠内の上下方向中央に位置させる。これにより、当初の待機位置では裏第一昇降装飾体３３１０の後方に隠れて視認不能になっていた裏第二昇降装飾体３４１０が上昇して視認可能な状態となるため、裏第二昇降装飾体３４１０の出現により遊技者を驚かせることができ、チャンスが到来したと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１２０１】

また、図１２５の状態では、裏第二昇降装飾体３４１０により演出表示装置１６００の表示画面が上下二つに分割された状態となるため、裏第二昇降装飾体３４１０の上側と下側とで異なる演出画像を表示させることで、遊技者を楽しませることができる。

【１２０２】

なお、図示は省略するが、本実施形態の遊技盤５では、裏第一昇降装飾体３３１０の昇降と、裏第二昇降装飾体３４１０の昇降と、を組み合わせた演出（可動演出）を実行することができる。

【１２０３】

［５－１２．制御構成］

次に、遊技盤５の各種制御を行う制御構成について、図１２６を参照して説明する。図１２６は、遊技盤の制御構成を概略で示すブロック図である。なお、図１２６では、払出制御基板６３３に接続されているセンサ、ソレノイド、モータ、ＬＥＤ、等の電子部品の一部を省略して示している。

【１２０４】

パチンコ機１の主な制御構成は、図示するように、遊技盤５に取付けられる主制御基板１３１０及び周辺制御基板１５１０と、本体枠４に取付けられる払出制御基板６３３と、から構成されており、夫々の制御が分担されている。主制御基板１３１０は、遊技動作（遊技の進行）を制御する。周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて遊技中の各種演出を制御する周辺制御部１５１１と、周辺制御部１５１１からのコマンドに基づいて演出表示装置１６００での演出画像の表示を制御する演出表示制御

部１５１２と、を備えている。
【１２０５】
払出制御基板６３３は、遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御部６３３ａと、ハンドル１９７の回転操作による遊技球Ｂの発射を制御する発射制御部６３３ｂと、を備えている。払出制御基板６３３には、満タン検知センサ１５４、ハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、球切検知センサ５７４、羽根回転検知センサ５９０、払出検知センサ５９１、等が接続されている。また、払出制御基板６３３には、球送球ソレノイド１４５、発射ソレノイド５４２、払出モータ５８４、等が接続されている。
【１２０６】
主制御基板は、四つの７セグメントＬＥＤからなるベースモニタ１３１０ａを有している。この主制御基板１３１０には、アウト球を検知する第一球センサ７０３、セーフ球を検知する第二球センサ７０４、一般入賞口センサ３００１、ゲートセンサ２５０１、普通入賞口センサ３００３、第一始動口センサ３００２、第二始動口センサ２５０２、第一大入賞口センサ２５０３、第二大入賞口センサ２５０４、等が接続されている。また、主制御基板１３１０には、磁気センサ１０５０、振動センサ１０４０、等が接続されている。更に、主制御基板１３１０には、始動口ソレノイド２５４２、第一アタッカソレノイド２５３２、第二アタッカソレノイド２５５２、等が接続されている。
【１２０７】
周辺制御基板１５１０には、進退駆動モータ４０２ａ、回転駆動モータ４１３ａ、本体枠スピーカ６２２、演出表示装置１６００、等の他に、各種の装飾基板や駆動モータ、移動を検知するセンサ、等が接続されている。
【１２０８】
［６－１．第二実施形態のセンター役物］
次に、図１０６のような第一実施形態のセンター役物２５００とは異なる第二実施形態のセンター役物２５００Ａについて、主に図１２７～図１２９を参照して説明する。図１２７は、第二実施形態のセンター役物を概略で示す正面図である。図１２８は第二実施形態のセンター役物を前から見た斜視図であり、図１２９は第二実施形態のセンター役物を後ろから見た斜視図である。第一実施形態のセンター役物２５００と同じ構成については、同じ符号を付して説明する。
【１２０９】
センター役物２５００Ａは、詳細は後述するが、遊技球Ｂを受入可能に常時開口しており遊技球Ｂの受入れにより普通図柄の抽選が行われる普通入賞口２０１１と、普通入賞口２０１１への遊技球Ｂの受入れにより抽選された普通図柄の抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別図柄や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別図柄の抽選結果に応じて遊技球Ｂを受入可能に開閉する役物入賞口としての第一大入賞口２００５（以下では単に大入賞口２００５と称す）と、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂのみが受入可能となるＶ入賞口２０１０と、大入賞口２００５に受入れられた後にＶ入賞口２０１０に受入れられなかった遊技球Ｂが受入れられるハズレ口２００９と、を備えている。
【１２１０】
センター役物２５００Ａは、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２５０２と、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２５０３（以下では単に大入賞口センサ２５０３と称す）と、Ｖ入賞口２０１０に受入れられた遊技球を検知するＶ入賞口センサ２５０７と、ハズレ口２００９に受入れられた遊技球Ｂを検知するハズレ口センサ２５０９と、を備えている。
【１２１１】
センター役物２５００Ａは、枠状に形成されているセンターフレーム２５１０と、第二始動口２００４を開閉可能な第二始動口扉２５４１と、第二始動口扉２５４１を普通入賞

口２０１１における遊技球Ｂの受入れにより抽選された普通抽選結果に応じて開閉させる始動口ソレノイド２５４２と、大入賞口２００５を開閉可能な第一大入賞口扉２５３１（以下では単に大入賞口扉２５３１と称す）と、大入賞口扉２５３１を第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて開閉させる第一アタッカソレノイド２５３２（以下では単にアタッカソレノイド２５３２と称す）と、を備えている。

【１２１２】

また、センター役物２５００Ａは、大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂをハズレ口２００９又はＶ入賞口２０１０の何れかに振り分ける振分羽根２５６７と、振分羽根２５６７を可動させるための振分ソレノイド２５６８と、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された特別図柄や第四図柄等を表示する図柄表示器２５０５と、を備えている。

【１２１３】

センター役物２５００Ａは、右縁に沿うように上下に長く設けられている球通路２５７７を有している。換言すると、球通路２５７７は、入口が衝止部１００６の下端付近において開口しており、そこから右レール１００５に沿うようにその下端まで延出した後に、右下レール１００４に沿って左方へ延出し、出口が第一始動口２００２よりも下方でアウト口１００８付近において開口している。

【１２１４】

球通路２５７７は、後壁がセンターフレーム２５１０のフランジ部２５１２又は遊技パネル１１００により形成されており、前壁が装飾体２５７０の前板２５７１により形成されている。この球通路２５７７には、上から大入賞口２００５、第二始動口２００４、普通入賞口２０１１、が設けられている。

【１２１５】

球通路２５７７は、大別すると、入口から続き大入賞口２００５が設けられているアタッカ通路部２５７７ａと、センター役物２５００Ａの右縁（右レール１００５）に沿って円弧状に下方へ延出している右縁通路部２５７７ｂと、右縁通路部２５７７ｂと第二始動口２００４との間に設けられており障害釘が植設されている第一有釘通路部２５７７ｃと、第二始動口２００４の左側を通って下方へ延出している左通路部２５７７ｄと、第二始動口２００４の右側を通って下方へ延出している右通路部２５７７ｅと、左通路部２５７７ｄ及び右通路部２５７７ｅと普通入賞口２０１１との間に設けられており障害釘が植設されている第二有釘通路部２５７７ｆと、普通入賞口２０１１に受入れられなかった遊技球Ｂが流通し出口まで延出している出口通路部２５７７ｇと、を有している。

【１２１６】

球通路２５７７は、詳細は後述するが、球通路２５７７を装飾すると共に遊技球Ｂの流通速度を減速させることが可能な通路装飾部２５９０が設けられている。

【１２１７】

球通路２５７７は、右縁通路部２５７７ｂの左側壁における振分羽根２５６７の上端よりもやや高い位置の部位に、複数（ここでは二つ）の装飾凸部２５１１ｂが設けられている。装飾凸部２５１１ｂは、前後に延びた半円柱状に形成されており、遊技盤５に設けられている装飾用のＬＥＤからの光を反射・屈折させることで光ることができる。この装飾凸部２５１１ｂが光ることで、遊技者の視線を振分羽根２５６７へ向けさせることが可能となり、遊技球ＢがＶ入賞口２０１０へ振分けられるか否かを楽しませることができる。また、複数の装飾凸部２５１１ｂは、右縁通路部２５７７ｂにおける遊技球Ｂが転動する転動面の一部を構成しているため、複数の装飾凸部２５１１ｂにより遊技球Ｂの流通速度を減速させることが可能である。

【１２１８】

また、センター役物２５００Ａのセンターフレーム２５１０には、左上隅の下方に設けられており、遊技球Ｂが流通可能な二つの通路からなる案内通路群２５８０を、備えている。案内通路群２５８０は、ワープ入口２５１５が開口している領域の上方へ遊技球Ｂを

案内するものである。案内通路群２５８０は、後壁がセンターフレーム２５１０により形成されており、前壁が装飾体２５７０の前板２５７１により形成されている。この案内通路群２５８０にも、通路装飾部２５９０が設けられている。

【１２１９】

案内通路群２５８０は、センターフレーム２５１０の前方突出部２５１１の枠外に設けられており、上部の入口が内レール１００２の上端の右側に隣接している部位に設けられている第一案内通路２５８１と、上部の入口が第一案内通路２５８１の入口の右側に隣接して設けられている第二案内通路２５８２と、から構成されている。案内通路群２５８０（第一案内通路２５８１及び第二案内通路２５８２）は、何れも無色透明な部材により形成されており、内部を流通する遊技球Ｂを、前方から視認することができる。

【１２２０】

［６－１ａ．通路装飾部］

センター役物２５００等に設けられている通路装飾部２５９０について、主に図１３０乃至図１３６等を参照して詳細に説明する。図１３０（ａ）は図１２７のセンター役物において役物入賞口が設けられている左上隅の部位を拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の部位を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は図１２７のセンター役物の球通路における役物入賞口の部位を断面で示す説明図である。図１３１（ａ）は図１２７のセンター役物の右端の上部を拡大して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）を後ろから見た斜視図で示す説明図であり、（ｃ）は図１２７のセンター役物の球通路における上下に延出している部位を断面で模式的に示す説明図である。

【１２２１】

図１３２（ａ）は通路装飾部が設けられているアタッカユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）のアタッカユニットにおける通路装飾部の部位を切断して断面で示す説明図である。図１３３は、通路装飾部の一例を断面で示す説明図である。図１３４（ａ）～（ｃ）は通路装飾部における凹部の形状例を示す説明図であり、図１３５（ａ）～（ｃ）は通路装飾部における凸部の形状例を示す説明図であり、図１３６（ａ）～（ｃ）は通路装飾部に異なる形態の凸部及び凹部を複数備えたもの示す説明図である。

【１２２２】

通路装飾部２５９０は、球通路２５７７のような遊技球Ｂが流通する球通路２５９１を、当該球通路２５９１の内壁を構成している後板部２５９２や前板部２５９３に設けられている凸部２５９４や凸部２５９４の裏側の凹部２５９５等の立体形状を使用して装飾するものである。また、通路装飾部２５９０は、球通路２５９１内に突出している凸部２５９４により遊技球Ｂの流通速度を減速（減衰）させることが可能である。

【１２２３】

通路装飾部２５９０として、例えば、図１３０に示すように、球通路２５７７（球通路２５９１）のアタッカ通路部２５７７ａに設けるようにしても良い。まず、アタッカ通路部２５７７ａは、フランジ部２５１２（後板部２５９２）と、フランジ部２５１２との間を遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけてフランジ部２５１２の前方で対向するように設けられている前板２５７１（前板部２５９３）と、で構成されている。そして、通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａと、前板２５７１（前板部２５９３）から後方へ突出している前板凸部２５９４ｂと、前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている前板凹部２５９５ｂと、を有している。

【１２２４】

アタッカ通路部２５７７ａの後板凸部２５９４ａは、アタッカ通路部２５７７ａの流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。後板凸部２５９４ａは、正面視の形状が流通方向へ長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が前方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。アタッカ通路部２５７７ａの後板凸部２５９４ａは、通路底面からの高さが、遊技球Ｂの直径の半分を含む（例えば、１１／２ｍｍ）高さに設けられている。アタッカ通路部２５７７ａの後板凹部２５９５ａは、各後板凸部２５９

４ａに設けられており、後板凸部２５９４ａの形状と略相似形の三角形に前方へ向かって凹んでいる。

【１２２５】

アタッカ通路部２５７７ａの前板凸部２５９４ｂは、前後方向が後板凸部２５９４ａと互い違いになるように、アタッカ通路部２５７７ａの流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。前板凸部２５９４ｂは、正面視の形状が流通方向へ長く上下が後板凸部２５９４ａよりも短く全体が細長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が後方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。アタッカ通路部２５７７ａの前板凸部２５９４ｂは、通路底面からの高さが、遊技球Ｂの直径の半分を含む（例えば、１１／２ｍｍ）高さに設けられている。アタッカ通路部２５７７ａの前板凹部２５９５ｂは、各前板凸部２５９４ｂに設けられており、前板凸部２５９４ｂの形状と略相似形の三角形に後方へ向かって凹んでいる。

【１２２６】

アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０は、図１３０（ｃ）に示すように、フランジ部２５１２の後方に指が入らない大きさの隙間を開けてＬＥＤ基板のような特定部材２５７９が設けられている。この特定部材２５７９は、後板凹部２５９５ａの後方を覆っており、後板凹部２５９５ａを指触不能としている。これにより、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることで、後板凹部２５９５ａが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、特定部材２５７９が設けられているため、後板凹部２５９５ａにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１２２７】

アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０は、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａが設けられているフランジ部２５１２と、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂが設けられている前板２５７１と、が透明な部材により形成されているため、夫々において遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂのような凸部２５９４や、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂのような凹部２５９５を光らせて発光装飾させることができる。従って、アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０を発光装飾させることで、遊技者の視線をアタッカ通路部２５７７ａへ向けさせることができるため、アタッカ通路部２５７７ａに設けられている大入賞口２００５への入賞に対する遊技者の期待感を高めさせることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１２２８】

また、アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０では、前板２５７１に設けられている前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂを、細長いものとしているため、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂにより、その後方を流通する遊技球Ｂの視認性を妨げることはない。

【１２２９】

更に、アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、前板２５７１から後方へ突出している複数の前板凸部２５９４ｂとが、遊技球Ｂの流通方向に対して千鳥状（交互）に設けられているため、遊技球Ｂが前後に蛇行しながら流通することとなり、遊技球Ｂの流通速度を低減させることができる。これにより、アタッカ通路部２５７７ａの底面の一部を構成している大入賞口扉２５３１上において、多くの遊技球Ｂを長い時間滞留させることが可能となる。つまり、アタッカ通路部２５７７ａの後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、遊技球Ｂの転動速度を減速させることによって大入賞口扉２５３１上に多くの遊技球Ｂを滞留せることを目的としている。

【１２３０】

このアタッカ通路部２５７７ａの後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、夫々の凸形状が三角形であり、後述するアタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６に設けられている後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂと比較して、小さく突出している。これにより、アタッカ通路部２５７７ａ（大入賞口扉２５３１上）では、通路が前後方向へ軽く（小さく）蛇行している。

【１２３１】

従って、例えば、「右打ち」により勢いよく衝止部１００６に当接して速い速度でアタッカ通路部２５７７ａに遊技球Ｂが進入しても、複数の後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの存在により、遊技球Ｂが大入賞口２００５（大入賞口扉２５３１）に至るまでに十分に減速させて、遊技球Ｂを見え易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。また、大入賞口扉２５３１上を転動している遊技球Ｂの速度を遅くすることができるため、遊技球Ｂが大入賞口扉２５３１上を転動しているタイミングで大入賞口扉２５３１が開くか否かによって遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、大入賞口２００５への入賞に対する期待感を高めて興趣の低下を抑制させることができる。

【１２３２】

また、通路装飾部２５９０として、例えば、図１３１に示すように、球通路２５７７（球通路２５９１）の右縁通路部２５７７ｂに設けるようにしても良い。まず、右縁通路部２５７７ｂは、フランジ部２５１２（後板部２５９２）と、フランジ部２５１２との間を遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけてフランジ部２５１２の前方で対向するように設けられている前板２５７１（前板部２５９３）と、で構成されている。そして、通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａと、前板２５７１（前板部２５９３）から後方へ突出している前板凸部２５９４ｂと、前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている前板凹部２５９５ｂと、を有している。

【１２３３】

右縁通路部２５７７ｂの後板凸部２５９４ａは、右縁通路部２５７７ｂの円弧状の流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。後板凸部２５９４ａは、正面視の形状が円弧の半径方向へ長い長方形であり、その長方形の短辺が延びている方向の中央が前方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。右縁通路部２５７７ｂにおける複数の後板凸部２５９４ａは、流通方向へ略等間隔に設けられている。右縁通路部２５７７ｂの後板凹部２５９５ａは、各後板凸部２５９４ａに設けられており、後板凸部２５９４ａの形状と略相似形の三角形に前方へ向かって凹んでいる。

【１２３４】

右縁通路部２５７７ｂの前板凸部２５９４ｂは、前後方向が後板凸部２５９４ａと互い違いになるように、右縁通路部２５７７ｂの円弧状の流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。前板凸部２５９４ｂは、正面視の形状が円弧の半径方向へ長い長方形であり、その長方形の短辺の延びている方向の中央が後方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。右縁通路部２５７７ｂにおける複数の前板凸部２５９４ｂは、流通方向へ略等間隔に設けられている。右縁通路部２５７７ｂの前板凹部２５９５ｂは、各前板凸部２５９４ｂに設けられており、前板凸部２５９４ｂの形状と略相似形の三角形に後方へ向かって凹んでいる。

【１２３５】

右縁通路部２５７７ｂの通路装飾部２５９０は、図１３１（ｃ）に示すように、フランジ部２５１２の後面には特定部材２５７９としての遊技パネル１１００が当接している。この遊技パネル１１００により後板凹部２５９５ａの後方が覆われており、後板凹部２５９５ａが指触不能とされている。これにより、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることで、後板凹部２５９５ａが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、特定部材２５７９が設けられているため、後板凹部２５９５ａにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させるこ

とができる。なお、図１３１（ｃ）では、特定部材２５７９がフランジ部２５１２の後面に接しているものを示したが、フランジ部２５１２との間に指が入らない大きさの隙間が設けられていても良い。つまり、隙間が設けられていても指が入らなければ良い。

【１２３６】

右縁通路部２５７７ｂの通路装飾部２５９０では、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂが、後方や前方から凹んだ形状であり、フランジ部２５１２の周側面や前板２５７１の周側面には開放されていない。換言すると、右縁通路部２５７７ｂの後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂは、フランジ部２５１２や前板２５７１の側面までは延出しておらず、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの裏側からのみ凹んでいる。

【１２３７】

右縁通路部２５７７ｂの通路装飾部２５９０は、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａが設けられているフランジ部２５１２と、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂが設けられている前板２５７１と、が透明な部材により形成されているため、夫々において遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂのような凸部２５９４や、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂのような凹部２５９５を光らせて発光装飾させることができる。従って、アタッカ通路部２５７７ａの通路装飾部２５９０を発光装飾させることで、遊技者の視線を右縁通路部２５７７ｂへ向けさせることができる。

【１２３８】

また、右縁通路部２５７７ｂの通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、前板２５７１から後方へ突出している複数の前板凸部２５９４ｂとが、遊技球Ｂの流通方向に対して千鳥状（交互）に設けられているため、遊技球Ｂが前後に蛇行しながら流通することとなり、遊技球Ｂの流通速度を低減させることができる。従って、右縁通路部２５７７ｂが略垂直に近い状態であっても、遊技球Ｂの流通速度（流下速度）が速くなりすぎることはなく、下流の第一有釘通路部２５７７ｃに対して適正な速度で遊技球Ｂを流下させることができる。

【１２３９】

また、右縁通路部２５７７ｂにおいて、複数の後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂにより、遊技球Ｂの落下速度を減速させることができるため、右縁通路部２５７７ｂを流通している遊技球Ｂを見え易くすることができると共に、右縁通路部２５７７ｂの下端のクランク状の部位が遊技球Ｂの当接による衝撃によって破損してしまうことを回避させることができる。つまり、右縁通路部２５７７ｂの後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、上記のアタッカ通路部２５７７ａの後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂとは異なり、遊技球Ｂの落下速度を減速させて他の部材の破損防止や遊技球Ｂを遊技者に見せると言うようなことを目的としている。

【１２４０】

更に、通路装飾部２５９０として、例えば、球通路２５７７（球通路２５９１）の出口通路部２５７７ｇに設けるようにしても良い。まず、出口通路部２５７７ｇにおける通路装飾部２５９０が設けられている部位は、前板２５７１（前板部２５９３）が設けられておらず、フランジ部２５１２（後板部２５９２）のみが設けられている。なお、図示は省略するが、出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０に前方には、前板部２５９３として扉枠３のガラス板１６２が設けられている。

【１２４１】

出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０は、図１２７において拡大して示すように、普通入賞口２０１１の下方に設けられており、小さいＶ字状の後板凸部２５９４ａの外側を、大きいＶ字状の後板凸部２５９４ａが囲むように設けられている。夫々の後板凸部２５９４ａでは、Ｖ字に折れ曲がっている部位が最も前方へ突出しており、Ｖ字の両端へ向かうほど前方への突出が小さくなっている。つまり、各後板凸部２５９４ａは、その前面が下方へ向かうほど前方へ突出するように傾斜している。また、大小二つの後板凸部２

５９４ａは、小さい後板凸部２５９４ａよりも大きい後板凸部２５９４ａの方が、前方へ大きく突出している。

【１２４２】

なお、図示は省略するが、出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０における後板凸部２５９４ａの裏側にも、後板凹部２５９５ａが設けられている。また、出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０では、フランジ部２５１２の後面に特定部材２５７９としての遊技パネル１１００が当接している。この遊技パネル１１００により後板凹部２５９５ａの後方が覆われており、後板凹部２５９５ａが指触不能とされている。これにより、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることで、後板凹部２５９５ａが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、特定部材２５７９が設けられているため、後板凹部２５９５ａにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１２４３】

この出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０は、後板凸部２５９４ａが設けられているフランジ部２５１２が透明な部材により形成されているため、遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａのような凸部２５９４や、後板凹部２５９５ａのような凹部２５９５を光らせて発光装飾させることができる。従って、出口通路部２５７７ｇにおける普通入賞口２０１１の近くに設けられている通路装飾部２５９０を発光装飾させることで、遊技者の視線を普通入賞口２０１１へ向けさせることができる。

【１２４４】

また、出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０では、大小二つの後板凸部２５９４ａが夫々Ｖ字状に形成されているため、矢印のように見えることで遊技者の関心を近くの普通入賞口２０１１へ向けさせることができ、普通入賞に対する期待感を高めさせることができる。

【１２４５】

また、出口通路部２５７７ｇの通路装飾部２５９０では、突出量の異なる大小の後板凸部２５９４ａを設けているため、大きい方の後板凸部２５９４ａへ向かうほど前方のガラス板１６２との隙間が小さくなる。これにより、遊技球Ｂが勢いよく流下してきても充分に減速させることができ、右下レール１００４へ与える衝撃を低減させることができる。

【１２４６】

また、通路装飾部２５９０として、例えば、詳細な図示は省略するが、センター役物２５００の左側の案内通路群２５８０に設けるようにしても良い。まず、案内通路群２５８０は、フランジ部２５１２（後板部２５９２）と、フランジ部２５１２との間を遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけてフランジ部２５１２の前方で対向するように設けられている前板２５７１（前板部２５９３）と、で構成されている。そして、通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している後板凸部２５９４ａと、前板２５７１（前板部２５９３）から後方へ突出している前板凸部２５９４ｂと、を有している。

【１２４７】

案内通路群２５８０の後板凸部２５９４ａは、遊技球Ｂの流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている（図１２７を参照）。後板凸部２５９４ａは、正面視の形状が流通方向へ長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が前方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。

【１２４８】

案内通路群２５８０の前板凸部２５９４ｂは、前後方向が後板凸部２５９４ａと互い違いになるように、遊技球Ｂの流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。前板凸部２５９４ｂは、正面視の形状が流通方向へ長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が後方へ突出した三角形（三角屋根形状）に形成されている。

【１２４９】

案内通路群２５８０の通路装飾部２５９０は、後板凸部２５９４ａが設けられているフランジ部２５１２と、前板凸部２５９４ｂが設けられている前板２５７１と、が透明な部材により形成されているため、夫々において遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂのような凸部２５９４を光らせて発光装飾させることができる。従って、案内通路群２５８０の通路装飾部２５９０を発光装飾させることで、遊技者の視線を案内通路群２５８０へ向けさせることができる。

【１２５０】

また、案内通路群２５８０の通路装飾部２５９０は、フランジ部２５１２から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、前板２５７１から後方へ突出している複数の前板凸部２５９４ｂとが、遊技球Ｂの流通方向に対して千鳥状（交互）に設けられているため、遊技球Ｂが前後に蛇行しながら流通することとなり、遊技球Ｂの流通速度を低減させることができる。従って、案内通路群２５８０が略垂直に近い状態であっても、遊技球Ｂの流通速度（流下速度）が速くなりすぎることはなく、ワープ入口２５１５等が設けられている下流の領域に対して適正な速度で遊技球Ｂを流下させることができる。

【１２５１】

なお、案内通路群２５８０の通路装飾部２５９０においても、上記と同様に、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂの裏側に後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂを設けるようにしても良い。これにより、後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂにおいても装飾光を反射させることができ、装飾効果をより高めることができる。

【１２５２】

また、通路装飾部２５９０として、図１３２に示すように、アタッカユニット２４００に設けるようにしても良い。まず、アタッカユニット２４００について説明する。このアタッカユニット２４００は、例えば、センター役物２５００とは独立して設けられるものである。本実施形態のアタッカユニット２４００は、第二始動口２００４、大入賞口２００５、及びサブアウト口２０２３を有している。

【１２５３】

アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４へ遊技球Ｂを誘導可能な第二始動口扉２５４１と、第二始動口扉２５４１をゲート２００３における遊技球Ｂの通過により抽選される普通抽選結果に応じて開閉させる始動口ソレノイド２５４２と、大入賞口２００５を開閉可能な大入賞口扉２５３１と、大入賞口扉２５３１を第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて開閉させるアタッカソレノイド２５３２と、を備えている。

【１２５４】

アタッカユニット２４００は、正面視において、右上隅付近から左方へ低くなるように延びている第一棚部２４２１と、第一棚部２４２１の左端から左方へ遊技球Ｂの直径よりも若干長く間隔をあけると共に第一棚部２４２１の左端よりも低い位置から左方へ低くなるように第一棚部２４２１よりも短く延びており、第一棚部２４２１との間で第二始動口２００４を形成している第二棚部２４２２と、第二棚部２４２２の左端よりも左方で遊技球Ｂの直径よりも低い位置から左方へ低くなるように第二棚部２４２２よりも短く延びている第三棚部２４２３と、第三棚部２４２３の左端から左方へ遊技球Ｂの直径の４倍～６倍の長さの間隔をあけると共に第三棚部２４２３よりも低い位置から左方へ低くなるように延びており、第三棚部２４２３との間で第一大入賞口２００５を形成している第四棚部２４２４と、を有している。

【１２５５】

また、アタッカユニット２４００は、上辺に沿って左方へ低くなるように階段状に延びており、第二棚部２４２２及び第三棚部２４２３の間で遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて設けられている上棚部２４３６を、有している。上棚部２４３６は、右端が第一棚部２４２１の左端の直上に位置しており、左端が第四棚部２４２４の右端よりも若干右方に位置している。また、上棚部２４３６は、右端付近が右方へ低くなるように傾斜している。

【１２５６】
このアタッカユニット２４００は、大入賞口２００５（大入賞口扉２５３１）の上側に扉上通路部２４１６が設けられている。アタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６は、台板２４４１（後板部２５９２）と、台板２４４１との間を遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて台板２４４１の前方で対向するように設けられている前板２４４２（前板部２５９３）と、で構成されている。そして、通路装飾部２５９０は、台板２４４１から前方へ突出している後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａと、前板２４４２（前板部２５９３）から後方へ突出している前板凸部２５９４ｂと、前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている前板凹部２５９５ｂと、を有している。

【１２５７】
扉上通路部２４１６の後板凸部２５９４ａは、扉上通路部２４１６の流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。後板凸部２５９４ａは、正面視の形状が流通方向へ長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が前方へ突出し先端が台板２４４１と平行な平坦に形成された平面視において台形に形成されている。扉上通路部２４１６の後板凸部２５９４ａは、通路底面からの高さが、遊技球Ｂの直径の半分を含む（例えば、１１／２ｍｍ）高さに設けられている。扉上通路部２４１６の後板凹部２５９５ａは、各後板凸部２５９４ａに設けられており、後板凸部２５９４ａの形状と略相似形の台形に前方へ向かって凹んでいる。

【１２５８】
扉上通路部２４１６の前板凸部２５９４ｂは、前後方向が後板凸部２５９４ａと互い違いになるように、扉上通路部２４１６の流通方向に沿うように間隔をあけて複数設けられている。前板凸部２５９４ｂは、正面視の形状が流通方向へ長い長方形であり、その長方形の長手方向の中央が後方へ突出し先端が前板２４４２と平行な平坦に形成された平面視において台形に形成されている。扉上通路部２４１６の前板凸部２５９４ｂは、通路底面からの高さが、遊技球Ｂの直径の半分を含む（例えば、１１／２ｍｍ）高さに設けられている。扉上通路部２４１６の前板凹部２５９５ｂは、各前板凸部２５９４ｂに設けられており、前板凸部２５９４ｂの形状と略相似形の台形に後方へ向かって凹んでいる。

【１２５９】
扉上通路部２４１６の通路装飾部２５９０は、図１３２（ｂ）に示すように、台板２４４１の後方に指が入らない大きさの隙間を開けて特定部材２５７９としてのアタッカ装飾基板２４４３及び基板カバー２４４４が設けられている。この特定部材２５７９は、後板凹部２５９５ａの後方を覆っており、後板凹部２５９５ａを指触不能としている。これにより、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることで、後板凹部２５９５ａが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、特定部材２５７９が設けられているため、後板凹部２５９５ａにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１２６０】
また、扉上通路部２４１６の通路装飾部２５９０は、前板２４４２の前面に所定の装飾が施された透光性を有するシールからなる装飾部材２４４５が貼り付けられている。この装飾部材２４４５は、前板凹部２５９５ｂの前方を覆っており、前板凹部２５９５ｂを指触不能としている。これにより、遊技盤５の製造時に作業者の指が前板凹部２５９５ｂに触れることで、前板凹部２５９５ｂが汚れてしまうことを防止することができ、前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、装飾部材２４４５が設けられているため、前板凹部２５９５ｂにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１２６１】
扉上通路部２４１６の通路装飾部２５９０は、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａが設けられている台板２４４１と、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂが設

けられている前板２４４２と、が透明な部材により形成されているため、夫々において遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂのような凸部２５９４や、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂのような凹部２５９５を光らせて発光装飾させることができる。従って、扉上通路部２４１６の通路装飾部２５９０を発光装飾させることで、遊技者の視線を扉上通路部２４１６へ向けさせることができるため、扉上通路部２４１６に設けられている大入賞口２００５への入賞に対する遊技者の期待感を高めさせることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１２６２】

また、扉上通路部２４１６の通路装飾部２５９０は、台板２４４１から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、前板２４４２から後方へ突出している複数の前板凸部２５９４ｂとが、遊技球Ｂの流通方向に対して千鳥状（交互）に設けられているため、遊技球Ｂが前後に蛇行しながら流通することとなり、遊技球Ｂの流通速度を低減させることができる。これにより、扉上通路部２４１６の底面の一部を構成している大入賞口扉２５３１上において、多くの遊技球Ｂを長い時間滞留させることが可能となる。つまり、扉上通路部２４１６の後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、遊技球Ｂの転動速度を減速させることによって大入賞口扉２５３１上に多くの遊技球Ｂを滞留せることを目的としている。

【１２６３】

扉上通路部２４１６では、後板部２５９２としての台板２４４１に後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａが設けられている。つまり、扉上通路部２４１６では、センター役物２５００のフランジ部２５１２とは異なる部材（台板２４４１）に、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａが設けられている。また、扉上通路部２４１６では、台板２４４１における大入賞口扉２５３１の部位が、台板２４４１の一般面（遊技パネル１１００の前面）よりも後方へ凹んでいる。この扉上通路部２４１６の後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、夫々の凸形状が台形であり、上述したセンター役物２５００におけるアタッカ通路部２５７７ａに設けられている後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂと比較して、大きく突出している。これにより、扉上通路部２４１６（大入賞口扉２５３１上）では、通路が前後方向へ大きく蛇行している。

【１２６４】

従って、大入賞口扉２５３１上を転動している遊技球Ｂの速度を遅くすることができるため、遊技球Ｂが大入賞口扉２５３１上を転動しているタイミングで大入賞口扉２５３１が開くか否かによって遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、大入賞口２００５への入賞に対する期待感を高めて興趣の低下を抑制させることができる。

【１２６５】

なお、上記では、台板２４４１のような後板部２５９２の後方にアタッカ装飾基板２４４３のような特定部材２５７９を設けると共に、前板２４４２のような前板部２５９３の前方に装飾シールのような装飾部材２４４５を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、図１３３に示すような構成としても良い。

【１２６６】

図１３３に示す例は、後板部２５９２の後方の特定部材２５７９として、シート状の後装飾部２５７３と、とＬＥＤ基板２５７９ａと、を設けたものである。また、図１３３に示す例では、前板部２５９３の前方の装飾部材２４４５をシート状の前装飾部２５７２としている。これら前装飾部２５７２及び後装飾部２５７３は、夫々が透光性を有している。図１３３に示す例でも上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１２６７】

また、上記では、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂ等の凸部２５９４、後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂのような凹部２５９５、の平面視の形状が長方形のものを示したが、これに限定するものではなく、円形、長円形、ひし形、六角形、八角形、ダイヤモンド形、等の様々な正面形状としても良い。

【１２６８】
なお、複数の後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂを設ける場合、遊技球Ｂが通路を流通することができるように、それらの配置を以下のようにする。後板凸部２５９４ａの先端から対向している前板部２５９３の後面までの間隔、前板凸部２５９４ｂの先端から対向している後板部２５９２の前面までの間隔、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂにおける最も近い同士の間の間隔（例えば、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの形状が三角形や台形の場合、対向するように設けられている夫々の傾斜面同士の間の間隔）、を遊技球Ｂの直径Ｄよりも大きくする。例えば、上記夫々の間隔を、１２ｍｍとする。これにより、遊技球Ｂが流通できなくなるような不具合を回避させることができる。また、上記の間隔を遊技球Ｂの直径Ｄに近付けるほど、減速効果を高めることができる。
【１２６９】
上記のように、本実施形態の通路装飾部２５９０によれば、センター役物２５００Ａにおける流下領域を形成しているフランジ部２５１２（後板部２５９２）において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域（球通路２５９１）を発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００のフランジ部２５１２に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、フランジ部２５１２が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【１２７０】
また、後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。
【１２７１】
また、遊技球Ｂが流下する流下領域（球通路２５９１）に後板凸部２５９４ａを設けているため、当該流下領域で後板凸部２５９４ａにより遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、当該後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられており、その後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により流下領域を流下している遊技球Ｂをシルエット状に見せることができ、遊技球Ｂの動きをより見え易くすることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１２７２】
更に、本実施形態によれば、センター役物２５００Ａにおける流下領域（球通路２５９１）を形成しているフランジ部２５１２と対向するように設けられている装飾体２５７０の前板２５７１において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている前板凹部２５９５ｂによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００Ａの前板２５７１に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、前板２５７１が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【１２７３】
また、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、前方から見

た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１２７４】

また、遊技球Ｂが流下する流下領域に前板凸部２５９４ｂを設けているため、当該流下領域で前板凸部２５９４ｂにより遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、当該前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂが設けられており、その前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしていると共に、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂを流下領域（球通路２５９１）の前方の前板２５７１に設けているため、流下領域を流下している遊技球Ｂの前方が発光装飾されることとなり、遊技球Ｂがキラキラ光っているように見せることができる。

【１２７５】

更に、本実施形態によれば、センター役物２５００Ａにおいて、フランジ部２５１２に後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａと、を設けていると共に、フランジ部２５１２の前方の前板２５７１に前板凸部２５９４ｂと、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂと、を設けている。これにより、フランジ部２５１２に設けられている後板凹部２５９５ａによる反射光と、前板２５７１に設けられている前板凹部２５９５ｂによる反射光とで、遊技球Ｂが流通する流下領域（球通路２５９１）の後ろと前とを発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００のフランジ部２５１２と前板２５７１とが発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１２７６】

また、上記のように、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２と前板２５７１とに、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａと前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂを設けているため、前方から見た時に、フランジ部２５１２における後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状、更に、前板２５７１における前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１２７７】

また、上記のように、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２と前板２５７１とに、後板凸部２５９４ａと前板凸部２５９４ｂとを遊技球Ｂの流下方向に対して交互（千鳥状）に設けているため、前側の前板凸部２５９４ｂと後側の後板凸部２５９４ａとにより遊技球Ｂを前後に揺動させることが可能となり、一方のみに凸部を設ける場合と比較して遊技球Ｂの流下速度を更に減速させることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられていると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側には前板凹部２５９５ｂが設けており、それら後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、後板凹部２５９５ａの発光装飾により遊技球Ｂをシルエット状に見せつつ、前板凹部２５９５ｂの発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技球Ｂの動きと共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１２７８】

また、センター役物２５００Ａにおいて、フランジ部２５１２では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２５７１では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、センター役物２５００Ａを軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａに

かかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａを軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材２５７９により後板凹部２５９５ａを指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることはないため、後板凹部２５９５ａが汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１２７９】

更に、本実施形態によれば、センター役物２５００Ａとは異なるアタッカユニット２４００における流下領域（扉上通路部２４１６）を形成している台板２４４１及び前板２４４２において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす凸部２５９４の裏側に設けられている凹部２５９５によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、アタッカユニット２４００の台板２４４１や前板２４４２に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、台板２４４１や前板２４４２が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１２８０】

また、アタッカユニット２４００の台板２４４１及び前板２４４２において、凸部２５９４の裏側に凹部２５９５を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部２５９４の形状と凹部２５９５の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１２８１】

また、アタッカユニット２４００における大入賞口扉２５３１の上方の扉上通路部２４１６に凸部２５９４を設けているため、大入賞口扉２５３１の部位で凸部２５９４により遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができると共に、そのタイミングで大入賞口扉２５３１が開くと大入賞口２００５に入賞させ易くすることができる。この際に、当該凸部２５９４の裏側には凹部２５９５が設けられており、その凹部２５９５において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により大入賞口扉２５３１上を流下（転動）している遊技球Ｂをシルエット状に見せつつキラキラ光っているように見せることができ、遊技球Ｂの動きによる大入賞口２００５への入賞に対する期待感を高めることができると共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１２８２】

更に、アタッカユニット２４００において、台板２４４１では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２４４２では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、アタッカユニット２４００を軽量化することができると共に、アタッカユニット２４００にかかるコストを低減させることができる。また、アタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、アタッカ装飾基板２４４３や装飾部材２４４５により後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂを指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂに触れることはないため、後板凹部２５９５ａが汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１２８３】

また、アタッカユニット２４００の台板２４４１とアタッカ装飾基板２４４３との間に隙間を設けているため、アタッカ装飾基板２４４３が台板２４４１から後方へ離れることで、アタッカ装飾基板２４４３に実装されているＬＥＤや抵抗器のような電子部品を見え難くすることができ、凸部２５９４と凹部２５９５とによる装飾効果を発揮させ易くすることができると共に、台板２４４１とアタッカ装飾基板２４４３との間の隙間により、複数のＬＥＤからの熱を逃がし易くすることができる。

【１２８４】

更に、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２や前板２５７１、アタッカユニット２４００の台板２４４１や前板２４４２において、凸部２５９４の裏側に凹部２５９５を設けているため、凹部２５９５を設けていない場合と比較してセンター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１２８５】

なお、上記の実施形態では、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００において、遊技球Ｂの流通に影響を及ぼす凸部２５９４と、凸部２５９４の裏側に設けられている凹部２５９５と、からなる通路装飾部２５９０を設けているものを示したが、これに限定するものではなく、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット、等に通路装飾部２５９０を設けても良い。

【１２８６】

また、複数の凸部２５９４（後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂ）において、全てに凹部２５９５（後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂ）を設けているものを示したが、これに限定するものではなく、複数の凸部２５９４において、裏側に凹部２５９５が設けられていない特定凸部２５９６を混在させるようにしても良い。これにより、特定凸部２５９６の裏側では凹部２５９５のように装飾光を反射させることができないため、凸部２５９４の部位と特定凸部２５９６の部位とで発光装飾の態様を異ならせることができる。また、この場合、裏側に凹部２５９５を有する凸部２５９４と、裏側に凹部２５９５を有しない特定凸部２５９６とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部２５９５を有する凸部２５９４のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。

【１２８７】

［６－１ａ－１．凹部の変形例］

続いて、通路装飾部２５９０における凹部２５９５の変形例について、主に図１３４を参照して詳細に説明する。図１３４では、凸部２５９４の形状を三角形とし、凸部２５９４の形状と凹部２５９５の形状との関係を示している。具体的には、例えば、図１３４（ａ）に示すように、形状が三角形の凸部２５９４に対して、その裏側の凹部２５９５の形状を凸部２５９４の形状と相似した三角形としたものである。この例でも、上記と同様に、凹部２５９５や凸部２５９４において装飾光を反射させたり屈折されたりすることができる。また、凹部２５９５の形状を凸部２５９４の形状に対して相似させた場合、凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられている部材の板厚が、略一定となるため、成形時における部分的なヒケや歪みを低減させることができる。

【１２８８】

また、図１３４（ｂ）に示すように、形状が三角形の凸部２５９４に対して、その裏側の凹部２５９５の形状を凸部２５９４の形状とは異なる四角形としたものである。なお、凹部２５９５は、断面が四角形であれば良いため、凹部２５９５の正面視の形状を、四角形、円形、長円形、等としても良い。また、凹部２５９５の断面の形状が凸部２５９４の断面の形状と異なっていれば良いため、凹部２５９５の正面視の形状は、凸部２５９４の正面視の形状に対して、相似していても良いし、異なっていても良い。この例では、凸部

２５９４の形状と凹部２５９５の形状とが異なっているため、夫々において装飾光の反射方向が異なることとなり、凸部２５９４と凹部２５９５とで様々な方向へ装飾光を反射させることができ、よりキラキラした発光装飾を見せることが可能となる。また、この例では、凸部２５９４の表面から凹部２５９５の表面までの距離が場所によって異なるため、装飾光を様々な方向へ屈折させることができ、プリズムのような装飾効果を発揮させることが可能となる。

【１２８９】

更に、図１３４（ｃ）に示すように、形状が三角形の凸部２５９４に対して、その裏側の凹部２５９５の形状を凸部２５９４の形状とは異なる半円形としたものである。なお、凹部２５９５は、断面が四角形であれば良いため、凹部２５９５の正面視の形状を、円形、長円形、四角形、等としても良い。また、凹部２５９５の断面の形状が凸部２５９４の断面の形状と異なっていれば良いため、凹部２５９５の正面視の形状は、凸部２５９４の正面視の形状に対して、相似していても良いし、異なっていても良い。この例では、凸部２５９４の形状と凹部２５９５の形状とが異なっているため、夫々において装飾光の反射方向が異なることとなり、凸部２５９４と凹部２５９５とで様々な方向へ装飾光を反射させることができ、よりキラキラした発光装飾を見せることが可能となる。また、この例では、凸部２５９４の表面から凹部２５９５の表面までの距離が場所によって異なるため、装飾光を様々な方向へ屈折させることができ、プリズムのような装飾効果を発揮させることが可能となる。

【１２９０】

なお、図１３４では、凸部２５９４の形状を三角形としたものを示したが、これに限定するものではなく、四角形、五角形、六角形、のような多角形、ひし形、半円形、星形、その他の不定形、等としても良い。

【１２９１】

［６－１ａ－２．凸部の変形例］

続いて、通路装飾部２５９０における凸部２５９４の変形例について、主に図１３５を参照して詳細に説明する。例えば、図１３５（ａ）に示すように、凸部２５９４の形状を、三角形の頂点付近を平坦にした台形としても良い。この例では、凸部２５９４の裏側の凹部２５９５の形状を、凸部２５９４の形状に対して略相似した三角形としている。この例でも、上記と同様に、凹部２５９５や凸部２５９４において装飾光を反射させたり屈折されたりすることができる。

【１２９２】

また、図１３５（ｂ）に示すように、凸部２５９４の形状を半円状としても良い。この例では、凸部２５９４の裏側の凹部２５９５の形状を、凸部２５９４の形状に対して略相似した半円形としていると共に、凹部２５９５の基端部分の角をＲ加工したような円弧形状としている。

【１２９３】

更に、図１３５（ｃ）に示すように、凸部２５９４の形状を基端部分がＲ加工したような円弧形状の四角形としても良い。この例では、凸部２５９４の裏側の凹部２５９５の形状を、凸部２５９４の形状と略相似した細長い四角形としている。また、凸部２５９４の裏側には、凸部２５９４における円弧形状の部分に倣うように凸部２５９４の先端の平坦な部分まで円弧状に窪んでいる外凹部２５９５ｃを有しており、外凹部２５９５ｃと凹部２５９５との間に凸部２５９４の先端と平行な座面状の平坦部２５９５ｄを有している。凹部２５９５は平坦部２５９５ｄから凹んでいる。この例でも、上記と同様に、凹部２５９５や凸部２５９４において装飾光を反射させたり屈折されたりすることができる。

【１２９４】

また、外凹部２５９５ｃでも装飾光を反射させたり屈折させたりすることが可能であるため、凹部２５９５や凸部２５９４と合わせて、よりきらびやかな発光装飾を見せることができる。また、平坦部２５９５ｄを有していることから、平坦部２５９５ｄによりＬＥＤ等からの光を入射させて、凸部２５９４へ導光させて凸部２５９４の先端を発光させる

ようにしても良い。また、平坦部２５９５ｄを、成形時において型抜きの際に使用されるエジェクタピンの当接部分にすることも可能であり、製品の一般面の目立つ部位にピンの痕が残ることはなく、見栄えを良くすることができる。更に、凹部２５９５をビス孔にすると共に平坦部２５９５ｄをビスの座面とすることも可能であり、別途に取付け用のビス孔を設けなくても良くなる。

【１２９５】

なお、図１３５に示す例においても、凸部２５９４の正面視の形状と、凹部２５９５の正面視の形状とが、相似していても良いし、異なっていても良い。

【１２９６】

［６－１ａ－３．通路装飾部の変形例］

次に、上記の通路装飾部２５９０では、同じような形態の凸部２５９４（凹部２５９５）が複数設けられているものを示したが、これに限定するものではなく、図１３６に示すように、一つの通路装飾部２５９０において異なる形態の凸部２５９４（凹部２５９５）が設けられていても良い。具体的には、例えば、図１３６（ａ）に示すように、三角形の複数の凸部２５９４において、裏側に凹部２５９５を設けたものと凹部２５９５を設けていない特定凸部２５９６とを混在させるようにしても良い。この通路装飾部２５９０でも上記と同様の作用効果を奏することができる。加えて、裏側に凹部２５９５が設けられている凸部２５９４の部位と、凹部２５９５が設けられていない凸部２５９４（特定凸部２５９６）の部位とでは、装飾光による反射や屈折等の光具合が異なるため、通路装飾部２５９０の発光装飾に対して変化を付与することができる。

【１２９７】

また、図１３６（ｂ）に示すように、三角形の凸部２５９４と半円形の凸部２５９４とを混在させるようにしても良い。ここでは、夫々の凸部２５９４の裏側には、夫々の凸部２５９４の形状に相似した凹部２５９５を設けている。この通路装飾部２５９０でも上記と同様の作用効果を奏することができる。加えて、夫々の凸部２５９４（凹部２５９５）の形状が異なっているため、装飾光により発光装飾されていない状態でも、それらの形状の違いにより通路装飾部２５９０の装飾に変化を付与することができ、装飾効果をより高めることが可能となる。また、凸部２５９４（凹部２５９５）の形状の違いによって、装飾光による反射や屈折等の光具合が異なるため、通路装飾部２５９０の発光装飾に対して変化を付与することができる。更に、凸部２５９４の形状が異なっていることから、凸部２５９４によって遊技球Ｂに対する減速具合が異なることとなるため、遊技球Ｂの流れに緩急のような変化を付与することができ、遊技者に対して遊技球Ｂの動きをより楽しませることが可能となる。

【１２９８】

更に、図１３６（ｃ）に示すように、異なる形態の凸部２５９４（凹部２５９５）として、突出量（大きさ）の異なる凸部２５９４を混在させるようにしても良い。ここでは、夫々の凸部２５９４を三角形とし、夫々の凸部２５９４の裏側の凹部２５９５を夫々の凸部２５９４の形状に相似した凹部２５９５としている。この通路装飾部２５９０でも上記と同様の作用効果を奏することができる。加えて、夫々の凸部２５９４（凹部２５９５）の大きさが異なっているため、装飾光により発光装飾されていない状態でも、それらの大きさの違いにより通路装飾部２５９０の装飾に変化を付与することができ、装飾効果をより高めることが可能となる。また、凸部２５９４（凹部２５９５）の大きさの違いによって、装飾光による反射や屈折等の光具合が異なるため、通路装飾部２５９０の発光装飾に対して変化を付与することができる。更に、凸部２５９４の大きさが異なっていることから、凸部２５９４によって遊技球Ｂに対する減速具合が異なることとなるため、遊技球Ｂの流れに緩急のような変化を付与することができ、遊技者に対して遊技球Ｂの動きをより楽しませることが可能となる。

【１２９９】

なお、図１３６では、断面形状において形状（形態）の異なる凸部２５９４（凹部２５９５）を混在させたものを示したが、これに限定するものではなく、平面視の形状が異な

る凸部２５９４（凹部２５９５）を混在させるようにしても良い。
【１３００】
［６－１ａ－４．通路装飾部の別の実施形態］
次に、上記とは異なる実施形態の通路装飾部２５９０Ａについて、主に図１３７乃至図１３９等を参照して詳細に説明する。図１３７（ａ）は第一凸部に同じ形態の第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第一凸部に突出量の異なる第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｃ）は第一凸部に形態の異なる第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｄ）は第一凸部における傾斜面にも第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図である。図１３８（ａ１）は第一凸部に同じ形態の第二凸部が設けられている通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ａ２）は（ａ１）を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ２）とは異なる形態の凹部が設けられている通路装飾部を正面から示す説明図である。図１３９（ａ）は遊技パネルの開口部に嵌め込まれている形態の通路装飾部を断面で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）とは異なる形態の通路装飾部を断面で示す説明図である。
【１３０１】
図１３７（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、アタッカユニット２４００の台板２４４１や、センター役物２５００のフランジ部２５１２、のような遊技パネル１１００の前面に接している後板部２５９２から所定範囲が前方へ突出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第一凹部２５９５ｅと、第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第二凹部２５９５ｆと、を有している。
【１３０２】
第一凸部２５９４ｃは、前面が平坦である。この第一凸部２５９４ｃは、後板部２５９２との境の傾斜している部位も含んでいる。第二凸部２５９４ｄは、断面が半円形状で、遊技球Ｂの流通方向（紙面）に対して交差する方向へ延出している。第一凹部２５９５ｅは、第一凸部２５９４ｃの形状と相似した形状に凹んでいる。第二凹部２５９５ｆは、第二凸部２５９４ｄの形状と相似した形状に凹んでいる。
【１３０３】
なお、第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、少なくとも一つの第二凸部２５９４ｄにおいて、裏側に第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い（図１３７（ｂ）を参照）。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。
【１３０４】
図１３７（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにより遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。
【１３０５】
また、図１３７（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を

更に減速させることができる。従って、通路装飾部２５９０Ａでは遊技球Ｂの流通速度が遅くなることから、遊技球Ｂを見え易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１３０６】

また、図１３７（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。

【１３０７】

図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、アタッカユニット２４００の台板２４４１や、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、のような遊技パネル１１００の前面に接している後板部２５９２から所定範囲が前方へ突出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第一凹部２５９５ｅと、一部の第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第二凹部２５９５ｆと、を有している。

【１３０８】

図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａの第一凸部２５９４ｃは、前面が平坦である。この第一凸部２５９４ｃは、後板部２５９２との境の傾斜している部位も含んでいる。第二凸部２５９４ｄは、断面が半円形状で、遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向へ延出している。図１３７（ｂ）に示すように、一部の第二凸部２５９４ｄは、前方への突出量が異なっており、突出量の小さい第二凸部２５９４ｄを裏側に第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としている。第一凹部２５９５ｅは、第一凸部２５９４ｃの形状と相似した形状に凹んでいる。また、第二凹部２５９５ｆは、前方への突出量が大きい第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられている。

【１３０９】

なお、図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａでは、複数の第二凸部２５９４ｄの前方を遊技球Ｂが流通可能とされている。従って、突出量の大きい第二凸部２５９４ｄの前方でも遊技球Ｂが流通する。また、第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、全ての第二凸部２５９４ｄにおいて、裏側に第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。

【１３１０】

図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの裏側と一部の第二凸部２５９４ｄの裏側とに、第一凹部２５９５ｅや第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該第一凹部２５９５ｅや第二凹部２５９５ｆにより遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３１１】

また、図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２

５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を更に減速させることができる。従って、通路装飾部２５９０Ａでは遊技球Ｂの流通速度が遅くなることから、遊技球Ｂを見え易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１３１２】

また、図１３７（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。

【１３１３】

図１３７（ｃ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、アタッカユニット２４００の台板２４４１や、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、のような遊技パネル１１００の前面に接している後板部２５９２から所定範囲が前方へ突出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第一凹部２５９５ｅと、少なくとも一部の第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第二凹部２５９５ｆと、を有している。

【１３１４】

図１３７（ｃ）に示す通路装飾部２５９０Ａの第一凸部２５９４ｃは、前面が平坦である。この第一凸部２５９４ｃは、後板部２５９２との境の傾斜している部位も含んでいる。第二凸部２５９４ｄは、断面が半円形状で遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向へ延出している形態のものと、前方へ長く突出している形態のものとが混在している。前方へ長く突出している第二凸部２５９４ｄは、その前方を遊技球Ｂが流通することができないような長さで前方へ突出していると共に、遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向（左右方向）へは短く形成されており、その左右両外側において遊技球Ｂが流通可能とされている。第一凹部２５９５ｅは、第一凸部２５９４ｃの形状と相似した形状に凹んでいる。第二凹部２５９５ｆは、第二凸部２５９４ｄの形状と相似した形状に凹んでいる。

【１３１５】

なお、第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、少なくとも一つの第二凸部２５９４ｄにおいて、裏側に第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。

【１３１６】

図１３７（ｃ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにより遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３１７】

また、図１３７（ｃ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を

更に減速させることができる。この際に、左右方向が短く前方へ長く突出している第二凸部２５９４ｄを混在されているため、当該第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通方向を左右方向へ変化させることができ、遊技球Ｂに対して複雑な動きを付与することができる。従って、通路装飾部２５９０Ａでは遊技球Ｂの流通速度が遅くなることから、遊技球Ｂを見え易くすることができると共に、遊技球Ｂが左右方向へも複雑に動くこととなるため、遊技球Ｂの動きをより楽しませることができる。

【１３１８】

また、図１３７（ｃ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。

【１３１９】

図１３７（ｄ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、アタッカユニット２４００の台板２４４１や、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、のような遊技パネル１１００の前面に接している後板部２５９２から前方へ突出している後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる後板凹部２５９５ａと、後板部２５９２における所定範囲が前方へ突出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第一凹部２５９５ｅと、第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第二凹部２５９５ｆと、を有している。後板凸部２５９４ａは、断面が半円形状で、遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向へ延出している。

【１３２０】

第一凸部２５９４ｃは、前面が平坦である。この第一凸部２５９４ｃは、後板部２５９２との境の傾斜している部位も含んでいる。第二凸部２５９４ｄは、断面が半円形状で、遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向へ延出している。図１３７（ｄ）に示すように、一部の第二凸部２５９４ｄは、後板部２５９２と第一凸部２５９４ｃとにかかるように設けられている。この後板部２５９２にかかるように設けられている第二凸部２５９４ｄは、遊技球Ｂの流通方向に対して交差する方向（左右方向）へは短く形成されており、当接した遊技球Ｂの流通方向を左右方向へ変化させることが可能である。第一凹部２５９５ｅは、第一凸部２５９４ｃの形状と相似した形状に凹んでいる。

【１３２１】

なお、第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、後板凸部２５９４ａ及び第二凸部２５９４ｄの少なくとも一つにおいて、後板凹部２５９５ａ及び第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。

【１３２２】

図１３７（ｄ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板凸部２５９４ａ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにより遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３２３】
　また、図１３７（ｄ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を更に減速させることができる。この際に、後板部２５９２にかかるように設けられている第二凸部２５９４ｄに当接すると、当該第二凸部２５９４ｄの左右方向が短く形成されているため、遊技球Ｂの流通方向を左右方向へ変化させることができ、遊技球Ｂに対して複雑な動きを付与することができる。従って、通路装飾部２５９０Ａでは遊技球Ｂの流通速度が遅くなることから、遊技球Ｂを見え易くすることができると共に、遊技球Ｂが左右方向へも複雑に動くこととなるため、遊技球Ｂの動きをより楽しませることができる。
【１３２４】
　また、図１３７（ｄ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。
【１３２５】
　なお、図１３７（ａ）～（ｄ）では、半円形状に突出している後板凸部２５９４ａや第二凸部２５９４ｄを示したが、これに限定するものではなく、もちろん、三角形状や台形状の後板凸部２５９４ａや第二凸部２５９４ｄとしても良い。
【１３２６】
　続いて、図１３８（ａ１）及び（ａ２）に示す通路装飾部２５９０Ａは、アタッカユニット２４００の台板２４４１や、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、のような遊技パネル１１００の前面に接している後板部２５９２から所定範囲が前方へ突出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第一凹部２５９５ｅと、第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられており前方へ向かって凹んでいる第二凹部２５９５ｆと、を有している。第一凸部２５９４ｃは、前面が平坦である。この第一凸部２５９４ｃは、後板部２５９２との境の傾斜している部位も含んでいる。第二凸部２５９４ｄは、断面が半円形状で、遊技球Ｂの流通方向（紙面）に対して交差する方向へ延出している。
【１３２７】
　この通路装飾部２５９０Ａの第一凹部２５９５ｅは、図１３８（ａ２）に示すように、正面視の形状が下向きの矢印形状で凹んでいる。
【１３２８】
　なお、第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、少なくとも一つの第二凸部２５９４ｄにおいて、裏側に第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。
【１３２９】
　図１３８（ａ１）及び（ａ２）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにより遊技盤５に備えられているＬＥＤ基板のＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部

２５９０Ａが発光装飾されることとなる。この際に、第一凹部２５９５ｅが矢印形状に凹んでいるため、当該矢印が発光装飾それることで、遊技者の関心を通路装飾部２５９０Ａに対して強く引き付けさせることができ、何か良いことがあるのではないかと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３３０】

また、図１３８（ａ１）及び（ａ２）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を更に減速させることができる。従って、通路装飾部２５９０Ａでは遊技球Ｂの流通速度が遅くなることから、遊技球Ｂを見え易くすることができ、遊技球Ｂの動きを楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１３３１】

また、図１３８（ａ１）及び（ａ２）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。

【１３３２】

なお、上記では、矢印形状に凹んだ第一凹部２５９５ｅを示したが、これに限定するものではなく、様々な形状で凹んだ第一凹部２５９５ｅとしても良い。例えば、図１３８（ｂ）に示すように、第一凹部２５９５ｅの正面視の形状を星形状としても良い。これにより、通路装飾部２５９０Ａの装飾効果を高めることが可能となる。

【１３３３】

この第一凹部２５９５ｅとしては、一つの凹部で構成するようにしても良いし、複数の凹部により構成するようにしても良い。また、第一凹部２５９５ｅの正面視の形状としては、上記の矢印形状や星形状の他に、ハート形状、幾何学模様形状、所定のロゴ文字からなる文字形状、所定のキャラクタを模したキャラクタ形状、所定の絵柄を模した絵柄形状、等としても良い。なお、これらの図形（第一凹部２５９５ｅ）を目立たせるために後板部２５９２の端面などから光を入射し、後板部２５９２を導光板として用いても良い。その際に、これらの図形をシボ加工で構成しても良い。そうすると入射した光がシボ加工部分で出射して図形が光って見える。また、シボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。

【１３３４】

また、図１３８に示す通路装飾部２５９０Ａでは、第二凸部２５９４ｄを半円形状としていることから角部分がない（少ない）ため、前方から第一凹部２５９５ｅの形状を見え易くできる。もちろん、三角形状や台形状の第二凸部２５９４ｄとしても良い。

【１３３５】

次に、図１３９（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、遊技パネル１１００に設けられている開口部１１１２に挿入されている後板部２５９２と、後板部２５９２から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａと、後板凹部２５９５ａの後方を覆って後板凹部２５９５ａを指触不能とする特定部材２５７９としてのＬＥＤ基板２５７９ａと、を有している。ここでは、一部の後板凸部２５９４ａを、裏側に後板凹部２５９５ａが設けられていない特定凸部２５９６としている。

【１３３６】

なお、後板部２５９２にはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。後

板部２５９２等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、全ての後板凸部２５９４ａにおいて、裏側に後板凹部２５９５ａが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２の前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。

【１３３７】

また、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間には隙間が設けられているが、図１３９（ａ）に示すように、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとが、遊技パネル１１００の開口部１１１２に挿入されているため、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａと間の隙間の外周が、開口部１１１２の内周面により囲まれている。従って、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間の隙間が、指が入る大きさであっても、その隙間の外周が囲まれているため、外部から後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間に指を挿入することはできず、後板部２５９２の後板凹部２５９５ａを指触不能とされている。

【１３３８】

図１３９（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けているため、当該後板凹部２５９５ａにより後方に設けられているＬＥＤ基板２５７９ａのＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａによる装飾光の反射等と、後板凹部２５９５ａよる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３３９】

また、図１３９（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、特定部材２５７９としてのＬＥＤ基板２５７９ａにより後板凹部２５９５ａの後方を覆って後板凹部２５９５ａを指触不能としているため、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることで、後板凹部２５９５ａが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、後板凹部２５９５ａを覆うＬＥＤ基板２５７９ａが設けられているため、後板凹部２５９５ａにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１３４０】

また、図１３９（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、複数の後板凸部２５９４ａを設けているため、当該後板凸部２５９４ａに遊技球Ｂが当接することで、遊技球Ｂの流通速度を減速させることができ、遊技球Ｂを見え易くすることができる。また、後板部２５９２の後方にＬＥＤ基板２５７９ａを設けていることから、ＬＥＤ基板２５７９ａのＬＥＤを発光させることで通路装飾部２５９０Ａを発光装飾させることができるため、その発光装飾により通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂをシルエット状に見せることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くして遊技者を楽しませることができる。

【１３４１】

また、図１３９（ａ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、後板凸部２５９４ａの大きさや形状によっては、後板凸部２５９４ａに当接した遊技球Ｂが前方へ跳ねてガラス板１６２に当たるのでその衝突音が聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことが可能となる。

【１３４２】

図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａは、遊技パネル１１００に設けられている開口部１１１２に挿入されている後板部２５９２と、後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａと、後板凹部２５９５ａの後方を覆って後板凹部２５９５ａを指触不能とする特定部材２５７９としてのＬＥＤ基板２５７９ａと、後板部２５９２から前方へ突出している複数の後板凸部２５９４ａと、後板部２５９２から前方へ突出していると共に遊技パネル１１００の前方へ延出している第一凸部２５９４ｃと、第一凸部２

５９４ｃから前方へ突出している複数の第二凸部２５９４ｄと、第一凸部２５９４ｃの裏側に設けられている第一凹部２５９５ｅと、第二凸部２５９４ｄの裏側に設けられている第二凹部２５９５ｆと、を有している。

【１３４３】

図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａでは、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとが、遊技パネル１１００の開口部１１１２に挿入されている。そして、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間には隙間が設けられているが、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａと間の隙間の外周が、開口部１１１２の内周面により囲まれている。従って、後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間の隙間が、指が入る大きさであっても、その隙間の外周が囲まれているため、外部から後板部２５９２とＬＥＤ基板２５７９ａとの間に指を挿入することはできず、後板部２５９２の後板凹部２５９５ａが指触不能とされている。

【１３４４】

なお、後板部２５９２や第一凸部２５９４ｃにはシボ加工のような微細な凹凸による装飾を施しても良い。後板部２５９２や第一凸部２５９４ｃ等にシボ加工を設ける場合、シボ加工により後方の配線や部材等を隠すことが可能である。また、少なくとも一つの後板凸部２５９４ａ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄにおいて、裏側に後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆが設けられていない特定凸部２５９６としても良い。更に、後板部２５９２や第一凸部２５９４ｃの前方には、遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて扉枠３のガラス板１６２が設けられているが、前板部２５９３を設けても良い。

【１３４５】

図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板凸部２５９４ａ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、当該後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにより後方に設けられているＬＥＤ基板２５７９ａのＬＥＤからの光（装飾光）を反射させたり屈折させたりすることができる。これにより、後板凸部２５９４ａ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄによる装飾光の反射等と、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆによる装飾光の反射等とにより通路装飾部２５９０Ａが発光装飾されることとなるため、遊技者の視線を通路装飾部２５９０Ａへ向けさせることができ、通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１３４６】

また、図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、特定部材２５７９としてのＬＥＤ基板２５７９ａにより後板凹部２５９５ａの後方を覆っていると共に、特定部材２５７９としての遊技パネル１１００により第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆの後方を覆っており、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを指触不能としているため、遊技盤５の製造時に作業者の指が後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆに触れることで、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆが汚れてしまうことを防止することができ、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにおいて装飾光を確実に反射させたり屈折されたりすることができる。また、後板凹部２５９５ａ第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを覆う特定部材２５７９が設けられているため、後板凹部２５９５ａ、第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆにゴミや埃等の侵入し難くすることができ、ゴミ等の汚れにより見栄えが悪くなることを回避させることができる。

【１３４７】

更に、図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、第一凸部２５９４ｃの存在により、第一凸部２５９４ｃと前方の部材（例えば、ガラス板１６２、前板部２５９３、等）との前後方向の隙間が狭くなるため、通路装飾部２５９０Ａへ進入した遊技球Ｂの流通速度を減速させることができる。そして、第一凸部２５９４ｃには複数の第二凸部２

５９４ｄが設けられているため、それら第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂの流通速度を更に減速させることができる。この際に、後板部２５９２の後方にＬＥＤ基板２５７９ａを設けていることから、ＬＥＤ基板２５７９ａのＬＥＤを発光させることで通路装飾部２５９０Ａを発光装飾させることができるため、その発光装飾により通路装飾部２５９０Ａを流通している遊技球Ｂをシルエット状に見せることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くして遊技者を楽しませることができる。

【１３４８】

また、図１３９（ｂ）に示す通路装飾部２５９０Ａによれば、後板部２５９２の前方にはガラス板１６２のみが設けられているため、第一凸部２５９４ｃと第二凸部２５９４ｄとを組み合わせることで、ガラス板１６２と第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄとの間で遊技球Ｂが減速することとなる。この際に、比較的強くガラス板１６２に遊技球Ｂが当たるので衝突音が大きく聞こえ、これによって遊技者の気を惹くことができる。

【１３４９】

なお、図１３９（ａ）及び（ｄ）では、半円形状に突出している後板凸部２５９４ａや第二凸部２５９４ｄを示したが、これに限定するものではなく、もちろん、三角形状や台形状の後板凸部２５９４ａや第二凸部２５９４ｄとしても良い。

【１３５０】

［６－１ａ－５．小括］

上記の通路装飾部２５９０には、以下のような技術的特徴を有している。

【１３５１】

［６－１ａ－５ａ．小括Ａ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機では、遊技する遊技機として遊技者に選択させ易くするために、大きな装飾体を設けて遊技者に対する訴求力を高めるようにしたものが提案されている（特許文献：特開２０１６－１５４７２８号公報）。しかしながら、前記特許文献のような従来の遊技機では、大きな装飾体により初めのインパクトが高い分、遊技者によっては早期に見慣れてしまい、遊技する遊技機として選択され難くなってしまう恐れがあった。また、大きな装飾体は製造コストが高くなる上に、重量が重くなることから装飾体を設けるための補強が必要となり、遊技機にかかるコストが増加する問題があった。

【１３５２】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機の提供を課題とするものである。

【１３５３】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、

該開口部にはセンター役物を備え、

該センター役物は、

前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、

正面視で該周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、

該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を有し、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」

ものであることを特徴とする。

【１３５４】

ここで、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可

能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。
【１３５５】
また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。
【１３５６】
手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、図１２７等の記載を参照）。
【１３５７】
本構成によれば、センター役物における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、延出部が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１３５８】
また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。
【１３５９】
また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられており、その凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により流下領域を流下している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１３６０】
更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【１３６１】
手段２：遊技機において、
「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、
前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、
該開口部にはセンター役物を備え、
該センター役物は、

前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、
正面視で該周壁部の外側に延出しているフランジ部と、
を備え、
前記センター役物とは異なる部材であり前記遊技板に固定される前部材を備え、
該前部材は、
前記遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、
該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、
を有し、
該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」
ものであることを特徴とする。

【１３６２】

ここで、「前部材」としては、「少なくとも大入賞口が設けられているもの（例えば、アタッカユニット）」、「少なくとも役物入賞口が設けられているもの（例えば、役物入賞口ユニット）」、「少なくとも始動入賞口が設けられているもの（例えば、始動口ユニット）」、「少なくともゲートが設けられている（例えば、ゲートユニット）」、「少なくとも一般入賞口や普通入賞口が設けられているもの（例えば、入賞口ユニット）」、等が挙げられる。

【１３６３】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１３６４】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１３６５】

手段２の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出しているフランジ部と、を備え、センター役物とは異なる部材であり遊技板に固定される前部材を備え、前部材は、遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、図１３２等の記載を参照）。

【１３６６】

本構成によれば、センター役物とは異なる前部材における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、前部材の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、延出部が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１３６７】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１３６８】
　また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられており、その凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により流下領域を流下している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１３６９】
　更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して前部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、前部材にかかるコストを低減させることができる。また、前部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【１３７０】
　手段３：遊技機において、
　「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、
　前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、
　該開口部にはセンター役物を備え、
　該センター役物は、
　前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、
　正面視で該周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、
　該延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、
　該前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、
を有し、
　該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」
ものであることを特徴とする。
【１３７１】
　ここで、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。
【１３７２】
　また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。
【１３７３】
　手段３の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、図１３１等の記載を参照）。
【１３７４】
　本構成によれば、センター役物における流下領域を形成している延出部と対向するよう

に設けられている前板において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物の前板に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、延出部が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１３７５】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１３７６】

また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側に凹部が設けられており、その凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしていると共に、凸部及び凹部を流下領域の前方の前板に設けているため、流下領域を流下している遊技球の前方が発光装飾されることとなり、遊技球がキラキラ光っているように見せることができる。

【１３７７】

更に、センター役物における前板の凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１３７８】

なお、センター役物の延出部に、遊技球の流下速度に影響を及ぼす延出部凸部と、延出部凸部の裏側に装飾光を反射可能な延出部凹部と、を更に設けるようにしても良い。これにより、延出部に設けられている延出部凹部でも装飾光を反射させて発光装飾させることが可能であるため、凹部による反射光と延出部凹部による反射光とで遊技球が流通する流下領域の前と後ろとを発光装飾させることができる。従って、延出部と前板とが発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１３７９】

また、上記のように、センター役物の延出部に、延出部凸部と延出部凸部の裏側に延出部凹部とを設ける場合、前方から見た時に、前板における凸部の形状と凹部の形状、更に、延出部における延出部凸部の形状と延出部凹部の形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１３８０】

また、上記のように、センター役物の延出部に延出部凸部を設ける場合、前側の凸部と後側の延出部凸部とにより遊技球を前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球の流下速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、凸部の裏側には凹部が設けられていると共に、延出部凸部の裏側には延出部凹部が設けており、それら凹部及び延出部凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、延出部凹部の発光装飾により遊技球をシルエット状に見せつつ、凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技球の動きと共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。なお、この場合、前板の凸部と延出部の延出部凸部とを、遊技球の流下方向に対して交互（千鳥状）に設けることが望ましい。

【１３８１】

手段４：手段１又は手段２の構成において、
「前記延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、
該前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、
を有し、
該第二凸部の裏側には第二凹部を設け、該第二凹部の表面で装飾光を反射可能としている」
ものであることを特徴とする。
【１３８２】
ここで、「第二凸部」としては、延出部に設けられている凸部と相似した同じような形状であっても良いし、凸部とは相違した異なる形状であっても良い。また、「第二凹部」としては、第二凸部と相似した形状であっても良いし、第二凸部とは相違した異なる形状であっても良い。
【１３８３】
手段４の構成によると、延出部に凸部及び凹部が設けられている場合、延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、前板に形成され遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、を有し、第二凸部の裏側には第二凹部を設け、第二凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、前板２５７１、前板凸部２５９４ｂ、前板凹部２５９５ｂに関する記載を参照）。
【１３８４】
本構成によれば、センター役物や前部材に備えられている延出部には凸部が設けられていると共に、その凸部の裏側に装飾光を反射可能な凹部が設けられており、更に、延出部の前方に前板を設け、その前板に第二凸部を設けると共に、第二凸部の裏側に装飾光を反射可能な第二凹部を設けているため、凹部による反射光と第二凹部による反射光とで遊技球が流通する流下領域の後と前とを発光装飾させることができる。従って、センター役物や前部材の延出部と前板とには、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、延出部と前板とが発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１３８５】
また、流下領域の後方の延出部に、凸部と凸部の裏側に凹部とを設けていると共に、流下領域の前方の前板に、第二凸部と第二凸部の裏側に第二凹部とを設けているため、前方から見た時に、凸部の形状と凹部の形状、更に、第二凸部の形状と第二凹部の形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。
【１３８６】
また、遊技球が流下する流下領域の後壁を構成している延出部に凸部を設けていると共に、流下領域の前壁を構成している前板に第二凸部を設けているため、凸部と第二凸部とにより遊技球を前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球の流下速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、凸部の裏側には凹部が設けられていると共に、第二凸部の裏側には第二凹部が設けており、それら凹部及び第二凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、凹部の発光装飾により遊技球をシルエット状に見せつつ、第二凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技球の動きと共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１３８７】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「前記凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に前記凹部が設けられていない特定凸部を有している」
ものであることを特徴とする。

【１３８８】
手段５の構成によると、凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に凹部が設けられていない特定凸部を有しているものである（［発明を実施するための形態］では、特定凸部２５９６に関する記載を参照）。
【１３８９】
本構成によれば、複数の凸部の一部において、裏側に凹部を設けていない特定凸部を有するようにしている。つまり、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない凸部（特定凸部）と、を混在させるようにしている。これにより、特定凸部の裏側では凹部のように装飾光を反射させることができないため、凸部の部位と特定凸部の部位とで発光装飾の態様を異ならせることができる。
【１３９０】
また、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない特定凸部とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部を有する凸部のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。
【１３９１】
このように、上記の解決手段によれば、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機を提供することができる。
【１３９２】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態のアタッカユニット２４００は上記解決手段の前部材に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６、センター役物２５００Ａの球通路２５７７のアタッカ通路部２５７７ａ、右縁通路部２５７７ｂ、出口通路部２５７７ｇ、及び、球通路２５９１は上記解決手段の流下領域に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の台板２４４１、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、後板部２５９２は上記解決手段の延出部に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の前板２４４２、センター役物２５００Ａの装飾体２５７０の前板２５７１は上記解決手段の前板に、夫々相当している。
【１３９３】
また、本実施形態におけるセンター役物２５００Ａの前方突出部２５１１は上記解決手段の周壁部に、本実施形態における凸部２５９４、後板凸部２５９４ａ、前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の凸部に、本実施形態における前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の第二凸部に、本実施形態における凹部２５９５、後板凹部２５９５ａ、前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の凹部に、本実施形態における前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の第二凹部に、夫々相当している。
【１３９４】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００Ａにおける流下領域を形成している後板部２５９２（フランジ部２５１２）において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす後板凸部２５９４ａの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域（球通路２５９１）を発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００Ａの後板部２５９２に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、後板部２５９２が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【１３９５】
また、後板部２５９２における後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状とにより複雑な形状が見えることとなり

、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。
【１３９６】
　また、遊技球Ｂが流下する流下領域（球通路２５９１）に後板凸部２５９４ａを設けているため、当該流下領域で後板凸部２５９４ａにより遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、当該後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられており、その後板凹部２５９５ａにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により流下領域を流下している遊技球Ｂをシルエット状に見せることができ、遊技球Ｂの動きをより見え易くすることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１３９７】
　更に、センター役物２５００Ａにおける流下領域（球通路２５９１）を形成している後板部２５９２と対向するように設けられている装飾体２５７０の前板部２５９３（前板２５７１）において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている前板凹部２５９５ｂによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００の前板部２５９３に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、前板部２５９３が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【１３９８】
　また、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。
【１３９９】
　また、遊技球Ｂが流下する流下領域に前板凸部２５９４ｂを設けているため、当該流下領域で前板凸部２５９４ｂにより遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、当該前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂが設けられており、その前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしていると共に、前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９５ｂを流下領域（球通路２５９１）の前方の前板部２５９３に設けているため、流下領域を流下している遊技球Ｂの前方が発光装飾されることとなり、遊技球Ｂがキラキラ光っているように見せることができる。
【１４００】
　更に、センター役物２５００Ａにおいて、後板部２５９２に後板凸部２５９４ａと、後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａと、を設けていると共に、後板部２５９２の前方の前板部２５９３に前板凸部２５９４ｂと、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂと、を設けている。これにより、後板部２５９２に設けられている後板凹部２５９５ａによる反射光と、前板部２５９３に設けられている前板凹部２５９５ｂによる反射光とで、遊技球Ｂが流通する流下領域（球通路２５９１）の後ろと前とを発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００Ａの後板部２５９２と前板部２５９３とが発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。
【１４０１】
　また、上記のように、センター役物２５００Ａの後板部２５９２と前板部２５９３とに、後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａと前板凸部２５９４ｂ及び前板凹部２５９

５ｂを設けているため、前方から見た時に、後板部２５９２における後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状、更に、前板部２５９３における前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１４０２】

また、上記のように、センター役物２５００Ａの後板部２５９２と前板部２５９３とに、後板凸部２５９４ａと前板凸部２５９４ｂとを遊技球Ｂの流下方向に対して交互（千鳥状）に設けているため、前側の前板凸部２５９４ｂと後側の後板凸部２５９４ａとにより遊技球Ｂを前後に揺動させることが可能となり、一方のみに凸部を設ける場合と比較して遊技球Ｂの流下速度を更に減速させることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられていると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側には前板凹部２５９５ｂが設けており、それら後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、後板凹部２５９５ａの発光装飾により遊技球Ｂをシルエット状に見せつつ、前板凹部２５９５ｂの発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技球Ｂの動きと共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４０３】

更に、センター役物２５００Ａとは異なるアタッカユニット２４００における流下領域（扉上通路部２４１６）を形成している後板部２５９２（台板２４４１）及び前板部２５９３（前板２４４２）において、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす凸部２５９４の裏側に設けられている凹部２５９５によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、アタッカユニット２４００の後板部２５９２や前板部２５９３に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、後板部２５９２や前板部２５９３が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４０４】

また、アタッカユニット２４００の後板部２５９２及び前板部２５９３において、凸部２５９４の裏側に凹部２５９５を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部２５９４の形状と凹部２５９５の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１４０５】

また、アタッカユニット２４００における大入賞口扉２５３１の上方の扉上通路部２４１６に凸部２５９４を設けているため、大入賞口扉２５３１の部位で凸部２５９４により遊技球Ｂの流下速度を減速させることができ、遊技球Ｂの流下速度が遅くなることで遊技球Ｂの動きを見え易くすることができると共に、そのタイミングで大入賞口扉２５３１が開くと大入賞口２００５に入賞させ易くすることができる。この際に、当該凸部２５９４の裏側には凹部２５９５が設けられており、その凹部２５９５において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により大入賞口扉２５３１上を流下（転動）している遊技球Ｂをシルエット状に見せつつキラキラ光っているように見せることができ、遊技球Ｂの動きによる大入賞口２００５への入賞に対する期待感を高めることができると共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４０６】

更に、センター役物２５００Ａの後板部２５９２や前板部２５９３、アタッカユニット２４００の後板部２５９２や前板部２５９３において、凸部２５９４の裏側に凹部２５９５を設けているため、凹部２５９５を設けていない場合と比較してセンター役物２５００

Ａやアタッカユニット２４００の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

［６－１ａ－５ｂ．小括Ｂ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機では、遊技する遊技機として遊技者に選択させ易くするために、大きな装飾体を設けて遊技者に対する訴求力を高めるようにしたものが提案されている（特許文献：特開２０１６－１５４７２８号公報）。しかしながら、特許文献のような従来の遊技機では、大きな装飾体により初めのインパクトが高い分、遊技者によっては早期に見慣れてしまい、遊技する遊技機として選択され難くなってしまう恐れがあった。また、大きな装飾体は製造コストが高くなる上に、重量が重くなることから装飾体を設けるための補強が必要となり、遊技機にかかるコストが増加する問題があった。

【１４０７】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機の提供を課題とするものである。

【１４０８】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、

該開口部にはセンター役物を備え、

該センター役物は、

前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、

正面視で該周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、

該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を有し、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部は前記遊技板と異なる特定部材により覆われ、前記凹部は指触不能とされている」

ものであることを特徴とする。

【１４０９】

ここで、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１４１０】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１４１１】

更に、「特定部材」としては、「複数のＬＥＤが実装されているＬＥＤ基板」、

【１４１２】

また、「指触不能」としては、作業者等の指が凹部に触れることができない構成であれば良く、「延出部と特定部材とが互いに接してそれらの間に隙間が設けられていないもの」、「延出部と特定部材との間に隙間が設けられていても指が入らないもの（指が入らない大きさの隙間が設けられているもの）」、「延出部と特定部材との間に指が入る大きさ

の隙間が設けられているが、その外周が特定部材又は他の部材により囲まれていることでその隙間に指が入らないもの」、等が挙げられる。

【１４１３】

ところで、延出部に形成されている凸部の裏側に凹部を設ける場合、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部の内面に触れることで凹部内が汚れてしまうと、見栄えが悪くなる。また、凹部内が汚れた場合、凹んでいることから汚れの拭き取りに手間がかかるため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要があり、無駄に作業時間が長くなることでコストが増加する恐れがある。

【１４１４】

手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部は遊技板と異なる特定部材により覆われ、凹部は指触不能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章のセンター役物２５００Ａ、特定部材２５７９、図１３１等の記載を参照）。

【１４１５】

本構成によれば、センター役物における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。この際に、特定部材により凹部を指触不能としているため、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部に触れて汚れてしまうことはなく、見栄えを良くして凹部による装飾効果を確実に発揮させることかできる。従って、センター役物の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１４１６】

また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられていることから、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後方を装飾することができ、遊技球を目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４１７】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部に触れることはないため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４１８】

また、凸部の裏側に凹部を設けていることから、凹部の表面において装飾光を反射させることが可能となる。これにより、凹部において反射した反射光により遊技球が流通する

流下領域を発光装飾させることができ、延出部の発光装飾により遊技者の関心を強く引き付けさせることが可能となる。また、延出部の凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにすると、延出部の前方を流下する遊技球を後方から発光装飾させることとなり、遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。

【１４１９】

手段２：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、

該開口部にはセンター役物を備え、

該センター役物は、

前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、

正面視で該周壁部の外側に延出しているフランジ部と、

を備え、

前記センター役物とは異なる部材であり前記遊技板に固定される前部材を備え、

該前部材は、

前記遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、

該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を有し、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部は前記遊技板と異なる特定部材により覆われ、前記凹部は指触不能とされている」

ものであることを特徴とする。

【１４２０】

ここで、「前部材」としては、「少なくとも大入賞口が設けられているもの（例えば、アタッカユニット）」、「少なくとも役物入賞口が設けられているもの（例えば、役物入賞口ユニット）」、「少なくとも始動入賞口が設けられているもの（例えば、始動口ユニット）」、「少なくともゲートが設けられている（例えば、ゲートユニット）」、「少なくとも一般入賞口や普通入賞口が設けられているもの（例えば、入賞口ユニット）」、等が挙げられる。

【１４２１】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１４２２】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１４２３】

更に、「特定部材」としては、「複数のＬＥＤが実装されているＬＥＤ基板」、「所定の装飾が施されている装飾シート又は装飾セル」、「立体状の装飾が施されている装飾体」、「遊技板の後方において遊技球を排出するための球誘導部材」、「可動装飾体を可動させるための駆動機構」、等が挙げられる。

【１４２４】

また、「指触不能」としては、作業者等の指が凹部に触れることができない構成であれば良く、「延出部と特定部材とが互いに接してそれらの間に隙間が設けられていないもの」、「延出部と特定部材との間に隙間が設けられていても指が入らないもの（指が入らない大きさの隙間が設けられているもの）」、「延出部と特定部材との間に指が入る大きさの隙間が設けられているが、その外周が特定部材又は他の部材により囲まれていることで

その隙間に指が入らないもの」、等が挙げられる。
【１４２５】
ところで、延出部に形成されている凸部の裏側に凹部を設ける場合、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部の内面に触れることで凹部内が汚れてしまうと、見栄えが悪くなる。また、凹部内が汚れた場合、凹んでいることから汚れの拭き取りに手間がかかるため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要があり、無駄に作業時間が長くなることでコストが増加する恐れがある。
【１４２６】
手段２の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出しているフランジ部と、を備え、センター役物とは異なる部材であり遊技板に固定される前部材を備え、前部材は、遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部は遊技板と異なる特定部材により覆われ、凹部は指触不能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章のアタッカユニット２４００、特定部材２５７９、図１３２等の記載を参照）。
【１４２７】
本構成によれば、センター役物とは異なる前部材における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。この際に、特定部材により凹部を指触不能としているため、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部に触れて汚れてしまうことはなく、見栄えを良くして凹部による装飾効果を確実に発揮させることかできる。従って、前部材の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１４２８】
また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられていることから、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後方を装飾することができ、遊技球を目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１４２９】
更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して前部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、前部材にかかるコストを低減させることができる。また、前部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部に触れることはないため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。
【１４３０】
また、凸部の裏側に凹部を設けていることから、凹部の表面において装飾光を反射させることが可能となる。これにより、凹部において反射した反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができ、延出部の発光装飾により遊技者の関心を強く引き

付けさせることが可能となる。また、延出部の凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにすると、延出部の前方を流下する遊技球を後方から発光装飾させることとなり、遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。

【１４３１】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、

該前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、

を備え、

該第二凸部の裏側には第二凹部を設け、該第二凹部の裏側には装飾部材を設け、前記第二凹部は指触不能とされている」

ものであることを特徴とする。

【１４３２】

ここで、「第二凸部」としては、延出部に設けられている凸部と相似した同じような形状であっても良いし、凸部とは相違した異なる形状であっても良い。また、「第二凹部」としては、第二凸部と相似した形状であっても良いし、第二凸部とは相違した異なる形状であっても良い。

【１４３３】

また、「装飾部材」としては、「所定の装飾が施されているシート状の装飾シール」、「所定の装飾が施されている板状の装飾パネル」、等が挙げられる。

【１４３４】

手段３の構成によると、遊技機に、延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、を備え、第二凸部の裏側には第二凹部を設け、第二凹部の裏側には装飾部材を設け、第二凹部は指触不能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、前板２５７１、前板凸部２５９４ｂ、前板凹部２５９５ｂ、及び、前装飾部２５７２、に関する記載を参照）。

【１４３５】

本構成によれば、センター役物や前部材に備えられている延出部には凸部が設けられていると共に、その凸部の裏側に凹部が設けられており、更に、延出部の前方に前板を設け、その前板に第二凸部を設けると共に、第二凸部の裏側に第二凹部を設けているため、前方から見た時に、凸部の形状と凹部の形状、更に、第二凸部の形状と第二凹部の形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。この際に、特定部材により凹部を指触不能としていると共に、装飾部材により第二凹部を指触不能としているため、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部や第二凹部に触れて汚れてしまうことはなく、見栄えを良くして凹部及び第二凹部による装飾効果を確実に発揮させることかできる。従って、センター役物や前部材の延出部と前板とには、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、更には、装飾部材、によるこれまでにない装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１４３６】

また、遊技球が流下する流下領域の後壁を構成している延出部に凸部を設けていると共に、流下領域の前壁を構成している前板に第二凸部を設けているため、凸部と第二凸部とにより遊技球を前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球の流下速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、凸部の裏側には凹部が設けられていると共に、第二凸部の裏側には第二凹部が設けられていることから、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、によるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後

方、及び、前方を装飾することができ、遊技球を目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４３７】

更に、前板において第二凸部の裏側に第二凹部を設けているため、第二凹部を設けていない場合と比較して前板の重量を軽減させることができ、センター役物や前部材を軽量化することができると共に、センター役物や前部材にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物や前部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていると共に、装飾部材により第二凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部や第二凹部に触れることはないため、凹部や第二凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４３８】

また、前板における第二凸部の裏側に第二凹部を設けていることから、第二凹部の表面において装飾光を反射させることが可能となる。これにより、第二凹部において反射した反射光により遊技球が流通する流下領域の前方を発光装飾させることができ、流下領域を流下している遊技球を第二凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができる。この際に、前板の後方の延出部に設けられている凹部においても装飾光を反射させるようにすると、第二凹部による反射光と凹部による反射光とで遊技球が流通する流下領域の後と前とを発光装飾させることができる。これにより、凹部の発光装飾により遊技球をシルエット状に見せつつ、第二凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技球の動きと共に発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４３９】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「前記延出部と前記特定部材との間には隙間が設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１４４０】

手段４の構成によると、延出部と特定部材との間には隙間が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、特定部材２５７９に関する記載を参照）。

【１４４１】

本構成によれば、延出部と特定部材との間に隙間を設けているため、特定部材として装飾性を有している場合、凸部と凹部とによる装飾に対して、特定部材による装飾が後方へ離れることで奥行き感を付与することができ、装飾効果をより高めることができる。また、特定部材として複数のＬＥＤが実装されているＬＥＤ基板とする場合、ＬＥＤ基板が延出部から後方へ離れることで、ＬＥＤ基板に実装されている電子部品を見え難くすることができ、凸部と凹部とによる装飾効果を発揮させ易くすることができると共に、延出部と特定部材との間の隙間により、複数のＬＥＤからの熱を逃がし易くすることができる。

【１４４２】

手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、

「前記凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に前記凹部が設けられていない特定凸部を有している」

ものであることを特徴とする。

【１４４３】

手段５の構成によると、凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に凹部が設けられていない特定凸部を有しているものである（［発明を実施するための形態］では、特定凸部２５９６に関する記載を参照）。

【１４４４】

本構成によれば、複数の凸部の一部において、裏側に凹部を設けていない特定凸部を有

するようにしている。つまり、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない凸部（特定凸部）と、を混在させるようにしている。これにより、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない特定凸部とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部を有する凸部のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。

【１４４５】

また、凹部において装飾光を反射させるようにする場合、特定凸部の裏側では凹部のように装飾光を反射させることができないため、凸部の部位と特定凸部の部位とで発光装飾の態様を異ならせることができる。

【１４４６】

このように、上記の解決手段によれば、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機を提供することができる。

【１４４７】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態のアタッカユニット２４００は上記解決手段の前部材に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６、センター役物２５００Ａの球通路２５７７のアタッカ通路部２５７７ａ、右縁通路部２５７７ｂ、出口通路部２５７７ｇ、及び、球通路２５９１は上記解決手段の流下領域に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の台板２４４１、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、後板部２５９２は上記解決手段の延出部に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の前板２４４２、センター役物２５００Ａの装飾体２５７０の前板２５７１は上記解決手段の前板に、夫々相当している。

【１４４８】

また、本実施形態におけるセンター役物２５００Ａの前方突出部２５１１は上記解決手段の周壁部に、本実施形態における凸部２５９４、後板凸部２５９４ａ、前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の凸部に、本実施形態における前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の第二凸部に、本実施形態における凹部２５９５、後板凹部２５９５ａ、前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の凹部に、本実施形態における前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の第二凹部に、本実施形態におけるアタッカ装飾基板２４４３、基板カバー２４４４、特定部材２５７９、後装飾部２５７３、は上記解決手段の特定部材に、本実施形態における装飾部材２４４５、前装飾部２５７２、は上記解決手段の装飾部材に、夫々相当している。

【１４４９】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５のセンター役物２５００Ａに備えられているフランジ部２５１２（後板部２５９２）には後板凸部２５９４ａが設けられていると共に、その後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａが設けられており、更に、フランジ部２５１２の前方に前板２５７１を設け、その前板２５７１に前板凸部２５９４ｂを設けると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、前方から見た時に、後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状、更に、前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。この際に、特定部材２５７９により後板凹部２５９５ａを指触不能としているため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造の際に、作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れて汚れてしまうことはなく、見栄えを良くして後板凹部２５９５ａによる装飾効果を確実に発揮させることかできる。従って、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２及び前板２５７１に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、フランジ部２５１２及び前板２５７１において、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、によるこれまでにない装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認

識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４５０】

また、センター役物２５００Ａにおいて、遊技球Ｂが流下する流下領域（球通路２５９１）の後壁を構成しているフランジ部２５１２に後板凸部２５９４ａを設けていると共に、流下領域の前壁を構成している前板２５７１に前板凸部２５９４ｂを設けているため、後板凸部２５９４ａと前板凸部２５９４ｂとにより遊技球Ｂを前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球Ｂの流下速度を更に減速させることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられていると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側には前板凹部２５９５ｂが設けられていることから、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、によるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球Ｂの後方、及び、前方を装飾することができ、遊技球Ｂを目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５１】

また、センター役物２５００Ａにおいて、フランジ部２５１２では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２５７１では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、センター役物２５００Ａを軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａにかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材２５７９により後板凹部２５９５ａを指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が後板凹部２５９５ａに触れることはないため、後板凹部２５９５ａが汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４５２】

更に、遊技盤５のアタッカユニット２４００に備えられている台板２４４１（後板部２５９２）には後板凸部２５９４ａが設けられていると共に、その後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａが設けられており、更に、台板２４４１の前方に前板２４４２を設け、その前板２４４２に前板凸部２５９４ｂを設けると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、前方から見た時に、後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状、更に、前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状、が見えることとなり、それらの形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。この際に、アタッカ装飾基板２４４３により後板凹部２５９５ａを指触不能としていると共に、装飾部材２４４５により前板凹部２５９５ｂを指触不能としているため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造の際に、作業者の指が後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂに触れて汚れてしまうことはなく、見栄えを良くして後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによる装飾効果を確実に発揮させることかできる。従って、アタッカユニット２４００の台板２４４１及び前板２４４２に、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、アタッカユニット２４００において、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、更には、装飾部材２４４５、によるこれまでにない装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４５３】

また、アタッカユニット２４００において、遊技球Ｂが流下する流下領域（扉上通路部２４１６）の後壁を構成している台板２４４１に後板凸部２５９４ａを設けていると共に、流下領域の前壁を構成している前板２４４２に前板凸部２５９４ｂを設けているため、後板凸部２５９４ａと前板凸部２５９４ｂとにより遊技球Ｂを前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球Ｂの流下速度を更に減速させることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くすることができる。この際に、後板凸部２５９４ａの裏側には後板凹部２５９５ａが設けられていると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側には前板凹部２５９５ｂが設けられていることから、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、によるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球Ｂの後方、及び、前方を装飾することができ、遊技球Ｂを目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５４】

また、アタッカユニット２４００において、台板２４４１では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２４４２では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、アタッカユニット２４００を軽量化することができると共に、アタッカユニット２４００にかかるコストを低減させることができる。また、アタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、アタッカ装飾基板２４４３や装飾部材２４４５により後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂを指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂに触れることはないため、後板凹部２５９５ａが汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４５５】

更に、アタッカユニット２４００の台板２４４１とアタッカ装飾基板２４４３との間に隙間を設けているため、アタッカ装飾基板２４４３が台板２４４１から後方へ離れることで、アタッカ装飾基板２４４３に実装されているＬＥＤや抵抗器のような電子部品を見え難くすることができ、凸部２５９４と凹部２５９５とによる装飾効果を発揮させ易くすることができると共に、台板２４４１とアタッカ装飾基板２４４３との間の隙間により、複数のＬＥＤからの熱を逃がし易くすることができる。

【１４５６】

［６－１ａ－５ｃ．小括Ｃ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機では、遊技する遊技機として遊技者に選択させ易くするために、大きな装飾体を設けて遊技者に対する訴求力を高めるようにしたものが提案されている（特許文献：特開２０１６－１５４７２８号公報）。しかしながら、特許文献のような従来の遊技機では、大きな装飾体により初めのインパクトが高い分、遊技者によっては早期に見慣れてしまい、遊技する遊技機として選択され難くなってしまう恐れがあった。また、大きな装飾体は製造コストが高くなる上に、重量が重くなることから装飾体を設けるための補強が必要となり、遊技機にかかるコストが増加する問題があった。

【１４５７】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機の提供を課題とするものである。

【１４５８】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、
前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、
該開口部にはセンター役物を備え、
該センター役物は、
前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、
正面視で該周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、
該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、
を有し、
該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の凹形状は前記凸部の凸形状と略相似形としている」
ものであることを特徴とする。

【１４５９】

ここで、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１４６０】

手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の凹形状は凸部の凸形状と略相似形としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章のセンター役物２５００Ａの後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａ、図１３１等の記載を参照）。

【１４６１】

本構成によれば、センター役物における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に凹部を設け、凹部の凹形状を凸部の突形状と略相似形状としているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と相似した凹部の形状とが重なることで凸部が二重に見えることとなる。そして、凸部と凹部とでは前後方向が離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、重なっている凸部の形状と凹部の形状とのズレ具合が変化することとなり、凸部と凹部とによる装飾が動いているように見える。従って、センター役物の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部とによるこれまでにないような動きのある装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１４６２】

また、センター役物の延出部において、凹部の形状を凸部の形状に対して略相似形状としていることから、凸部の表面から凹部の表面までの厚さが略一定になるため、遊技球の当接により凸部に衝撃が加えられた時に、その衝撃が一部に集中することを抑制することができ、凸部（延出部）を破損し難くすることができる。また、凸部と凹部との間の厚さを略一定にしているため、センター役物の成形時において、樹脂のヒケを低減させることができ、歪みの少ないセンター役物とすることができると共に、遊技者から近くて目立つセンター役物を歪みの少ない見栄えの良いものとすることができる。

【１４６３】

また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の

動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられていることから、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後方を装飾することができ、遊技球を目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４６４】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部に触れることはないため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４６５】

手段２：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、

該開口部にはセンター役物を備え、

該センター役物は、

前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、

正面視で該周壁部の外側に延出しているフランジ部と、

を備え、

前記センター役物とは異なる部材であり前記遊技板に固定される前部材を備え、

該前部材は、

前記遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、

該延出部に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を有し、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の凹形状は前記凸部の凸形状と略相似形としている」

ものであることを特徴とする。

【１４６６】

ここで、「前部材」としては、「少なくとも大入賞口が設けられているもの（例えば、アタッカユニット）」、「少なくとも役物入賞口が設けられているもの（例えば、役物入賞口ユニット）」、「少なくとも始動入賞口が設けられているもの（例えば、始動口ユニット）」、「少なくともゲートが設けられている（例えば、ゲートユニット）」、「少なくとも一般入賞口や普通入賞口が設けられているもの（例えば、入賞口ユニット）」、等が挙げられる。

【１４６７】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１４６８】

手段２の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出しているフランジ部と、を備え、センター役物とは異なる部材であり遊技板に固定される前部材を備え、前部材は、遊技板に沿って延出し、前面側に遊技球が流下する流下領域を有する延出部と、延出部に形

成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を有し、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の凹形状は凸部の凸形状と略相似形としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章のアタッカユニット２４００の後板凸部２５９４ａ及び後板凹部２５９５ａ、図１３２等の記載を参照）。

【１４６９】

本構成によれば、センター役物とは異なる前部材における流下領域を形成している延出部において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす凸部の裏側に凹部を設け、凹部の凹形状を凸部の突形状と略相似形状としているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と相似した凹部の形状とが重なることで凸部が二重に見えることとなる。そして、凸部と凹部とでは前後方向が離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、重なっている凸部の形状と凹部の形状とのズレ具合が変化することとなり、凸部と凹部とによる装飾が動いているように見える。従って、前部材の延出部に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部とによるこれまでにない動きのある装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【１４７０】

また、前部材の延出部において、凹部の形状を凸部の形状に対して略相似形状としていることから、凸部の表面から凹部の表面までの厚さが略一定になるため、遊技球の当接により凸部に衝撃が加えられた時に、その衝撃が一部に集中することを抑制することができ、凸部（延出部）を破損し難くすることができる。また、凸部と凹部との間の厚さを略一定にしているため、前部材の成形時において、樹脂のヒケを低減させることができ、歪みの少ない見栄えの良いものとすることができる。

【１４７１】

また、遊技球が流下する流下領域に凸部を設けているため、当該流下領域で凸部により遊技球の流下速度を減速させることができ、遊技球の流下速度が遅くなることで遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられていることから、凸部と凹部とによるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後方を装飾することができ、遊技球を目立たせることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４７２】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して前部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、前部材にかかるコストを低減させることができる。また、前部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部に触れることはないため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。

【１４７３】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、

該前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、

を備え、

該第二凸部の裏側には第二凹部を設け、該第二凹部の凹形状は前記第二凸部の凸形状と略相似形としている」

ものであることを特徴とする。

【１４７４】

ここで、「第二凸部」としては、延出部に設けられている凸部と相似した同じような形状であっても良いし、凸部とは相違した異なる形状であっても良い。

【１４７５】
手段３の構成によると、遊技機に、延出部の前方で遊技球が流下可能な間隔をあけて対向している前板と、前板に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす第二凸部と、を備え、第二凸部の裏側には第二凹部を設け、第二凹部の凹形状は第二凸部の凸形状と略相似形としているものである（［発明を実施するための形態］では、前板２５７１、前板凸部２５９４ｂ、前板凹部２５９５ｂ、に関する記載を参照）。
【１４７６】
本構成によれば、センター役物や前部材に備えられている延出部には凸部が設けられていると共に、その凸部の裏側に凹部が設けられており、更に、延出部の前方に前板を設け、その前板に第二凸部を設けると共に、第二凸部の裏側に第二凹部を設け、凹部の凹形状を凸部の突形状と略相似形状としていると共に、第二凹部の凹形状を第二凸部の突形状と略相似形状としているため、前方から見た時に、凸部の形状と相似した凹部の形状とが重なることで凸部が二重に見えると共に、第二凸部の形状と相似した第二凹部の形状とが重なることで第二凸部が二重に見えることとなる。そして、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、とでは夫々において前後方向が離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、重なっている凸部の形状と凹部の形状とのズレ具合や、重なっている第二凸部の形状と第二凹部の形状とのズレ具合、が夫々において変化することとなり、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、による装飾が動いているように見える。従って、センター役物や前部材の延出部と前板とには、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、によるこれまでにない動きのある装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１４７７】
また、センター役物や前部材の延出部の前方に設けられている前板において、第二凹部の形状を第二凸部の形状に対して略相似形状としていることから、第二凸部の表面から第二凹部の表面までの厚さが略一定になるため、遊技球の当接により第二凸部に衝撃が加えられた時に、その衝撃が一部に集中することを抑制することができ、第二凸部（前板）を破損し難くすることができる。また、第二凸部と第二凹部との間の厚さを略一定にしているため、前板の成形時において、樹脂のヒケを低減させることができ、遊技者から近くて目立つ前板を歪みの少ない見栄えの良いものとすることができる。
【１４７８】
更に、前板において第二凸部の裏側に第二凹部を設けているため、第二凹部を設けていない場合と比較して前板の重量を軽減させることができ、センター役物や前部材を軽量化することができると共に、センター役物や前部材にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物や前部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。更に、特定部材により凹部を指触不能に覆っていると共に、装飾部材により第二凹部を指触不能に覆っていることから、製造時において作業者の指が凹部や第二凹部に触れることはないため、凹部や第二凹部が汚れないように慎重に作業する必要はなく、作業が楽になることでコストの増加を抑制することができる。
【１４７９】
また、センター役物や前部材において、遊技球が流下する流下領域の後壁を構成している延出部に凸部を設けていると共に、流下領域の前壁を構成している前板に第二凸部を設けているため、凸部と第二凸部とにより遊技球を前後に揺動させることが可能となり、凸部のみを設ける場合と比較して遊技球の流下速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、凸部の裏側には凹部が設けられていると共に、第二凸部の裏側には第二凹部が設けられていることから、凸部と凹部、及び、第二凸部と第二凹部、によるこれまでにない装飾を見せることができるため、当該装飾により流下領域を流下している遊技球の後方、及び、前方を装飾することができ、遊技球を目立た

せることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１４８０】
手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、
「前記凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に前記凹部が設けられていない特定凸部を有している」
ものであることを特徴とする。
【１４８１】
手段４の構成によると、凸部が複数設けられており、そのうちの一部の裏側に凹部が設けられていない特定凸部を有しているものである（［発明を実施するための形態］では、特定凸部２５９６に関する記載を参照）。
【１４８２】
本構成によれば、複数の凸部の一部において、裏側に凹部を設けていない特定凸部を有するようにしている。つまり、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない凸部（特定凸部）と、を混在させるようにしている。これにより、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない特定凸部とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部を有する凸部のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。
【１４８３】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「前記凹部は、表面で装飾光を反射可能とされている」
ものであることを特徴とする。
【１４８４】
手段５の構成によると、凹部は、表面で装飾光を反射可能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、後板凹部２５９５ａに関する記載を参照）。
【１４８５】
本構成によれば、センター役物や前部材の延出部に設けられている凹部の表面で装飾光を反射させることができるため、凹部において反射させた該反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物や前部材の延出部に、凸部と凹部とによるこれまでにない動きのある装飾が見えると共に、凹部が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１４８６】
また、センター役物や前部材では、流下領域に設けられている凸部により遊技球の流下速度を遅くして、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、当該凸部の裏側には凹部が設けられており、その凹部において装飾光を反射させて発光装飾させるようにしているため、当該発光装飾により流下領域を流下している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。これらのことから、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１４８７】
このように、上記の解決手段によれば、これまでにない装飾により遊技者に対する訴求力を高めつつ軽量化することが可能な装飾を備えた遊技機を提供することができる。
【１４８８】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態のアタッカユニット２４００は上記解決手段の前部材に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６、センター役物２５００Ａの球通路２５７７のアタッカ通路部２５７７ａ、右縁通路部２５７７ｂ、出口通路部２５７７ｇ、及び、球通

路２５９１は上記解決手段の流下領域に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の台板２４４１、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２、後板部２５９２は上記解決手段の延出部に、本実施形態におけるアタッカユニット２４００の前板２４４２、センター役物２５００Ａの装飾体２５７０の前板２５７１は上記解決手段の前板に、夫々相当している。

【１４８９】

また、本実施形態におけるセンター役物２５００Ａの前方突出部２５１１は上記解決手段の周壁部に、本実施形態における凸部２５９４、後板凸部２５９４ａ、前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の凸部に、本実施形態における前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の第二凸部に、本実施形態における凹部２５９５、後板凹部２５９５ａ、前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の凹部に、本実施形態における前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の第二凹部に、夫々相当している。

【１４９０】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００Ａに備えられているフランジ部２５１２には後板凸部２５９４ａが設けられていると共に、その後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａが設けられており、更に、フランジ部２５１２の前方に前板２５７１を設け、その前板２５７１に前板凸部２５９４ｂを設けると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設け、後板凹部２５９５ａの凹形状を後板凸部２５９５ａの突形状と略相似形状としていると共に、前板凹部２５９５ｂの凹形状を前板凸部２５９５ｂの突形状と略相似形状としているため、前方から見た時に、後板凸部２５９４ａの形状と相似した後板凹部２５９５ａの形状とが重なることで後板凸部２５９４ａが二重に見えると共に、前板凸部２５９４ｂの形状と相似した前板凹部２５９５ｂの形状とが重なることで前板凸部２５９４ｂが二重に見えることとなる。そして、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、とでは夫々において前後方向が離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、重なっている後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状とのズレ具合や、重なっている前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状とのズレ具合、が夫々において変化することとなり、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、による装飾が動いているように見える。従って、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２と前板２５７１とには、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、によるこれまでにない動きのある装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４９１】

また、センター役物２５００Ａのフランジ部２５１２や前板２５７１において、後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂの形状を後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂの形状に対して略相似形状としていることから、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂの表面から後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂの表面までの厚さが略一定になるため、遊技球Ｂの当接により後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂに衝撃が加えられた時に、その衝撃が一部に集中することを抑制することができ、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂ（フランジ部２５１２や前板２５７１）を破損し難くすることができる。また、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂと、後板凹部２５９５ａと前板凹部２５９５ｂとの間の厚さを略一定にしているため、センター役物２５００Ａや前板２５７１の成形時において、樹脂のヒケを低減させることができ、歪みの少ないセンター役物２５００Ａや前板２５７１とすることができると共に、遊技者から近くて目立つセンター役物２５００Ａや前板２５７１を歪みの少ない見栄えの良いものとすることができる。

【１４９２】

また、センター役物２５００Ａにおいて、フランジ部２５１２では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２５７１では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、センター役物２５００Ａを軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａにかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａを軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１４９３】

更に、アタッカユニット２４００に備えられている台板２４４１には後板凸部２５９４ａが設けられていると共に、その後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａが設けられており、更に、台板２４４１の前方に前板２４４２を設け、その前板２４４２に前板凸部２５９４ｂを設けると共に、前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設け、後板凹部２５９５ａの凹形状を後板凸部２５９５ａの突形状と略相似形状としていると共に、前板凹部２５９５ｂの凹形状を前板凸部２５９５ｂの突形状と略相似形状としているため、前方から見た時に、後板凸部２５９４ａの形状と相似した後板凹部２５９５ａの形状とが重なることで後板凸部２５９４ａが二重に見えると共に、前板凸部２５９４ｂの形状と相似した前板凹部２５９５ｂの形状とが重なることで前板凸部２５９４ｂが二重に見えることとなる。そして、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、とでは夫々において前後方向が離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、重なっている後板凸部２５９４ａの形状と後板凹部２５９５ａの形状とのズレ具合や、重なっている前板凸部２５９４ｂの形状と前板凹部２５９５ｂの形状とのズレ具合、が夫々において変化することとなり、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、による装飾が動いているように見える。従って、アタッカユニット２４００の台板２４４１と前板２４４２とには、従来のパチンコ機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａ、及び、前板凸部２５９４ｂと前板凹部２５９５ｂ、によるこれまでにない動きのある装飾が見えるため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４９４】

また、アタッカユニット２４００の台板２４４１や前板２４４２において、後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂの形状を後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂの形状に対して略相似形状としていることから、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂの表面から後板凹部２５９５ａや前板凹部２５９５ｂの表面までの厚さが略一定になるため、遊技球Ｂの当接により後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂに衝撃が加えられた時に、その衝撃が一部に集中することを抑制することができ、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂ（台板２４４１や前板２４４２）を破損し難くすることができる。また、後板凸部２５９４ａや前板凸部２５９４ｂと、後板凹部２５９５ａと前板凹部２５９５ｂとの間の厚さを略一定にしているため、台板２４４１や前板２４４２の成形時において、樹脂のヒケを低減させることができ、歪みの少ない台板２４４１や前板２４４２とすることができると共に、遊技者から近くて目立つ台板２４４１や前板２４４２を歪みの少ない見栄えの良いものとすることができる。

【１４９５】

また、アタッカユニット２４００において、台板２４４１では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２４４２では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、アタッカユニット２４００を軽量化することができると共に、アタッカユニット２４００に

かかるコストを低減させることができる。また、アタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１４９６】

更に、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００のフランジ部２５１２や台板２４４１に設けられている後板凹部２５９５ａの表面で装飾光を反射させることができるため、後板凹部２５９５ａにおいて反射させた該反射光により遊技球Ｂが流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物２５００Ａやアタッカユニット２４００のフランジ部２５１２や台板２４４１に、後板凸部２５９４ａと後板凹部２５９５ａとによるこれまでにない動きのある装飾が見えると共に、後板凹部２５９５ａが発光装飾するため、遊技者に対してこれまでのパチンコ機とは全く異なる装飾が設けられているパチンコ機１であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１４９７】

［６－１ａ－５ｄ．小括Ｄ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機として、入賞口への遊技球の入賞が容易な入賞容易状態と、入賞が不能な入賞不能状態との間で可動する可動片を有するアタッカユニットのような入賞装置を備えているもの知られている（特許文献：特開２０１７－１１８９８９号公報）。特許文献の技術では、入賞口の後方にＬＥＤ基板を設け、ＬＥＤ基板のＬＥＤの発光態様によって遊技者を楽しませられるようにしている。しかしながら、特許文献のような従来の技術では、単にＬＥＤが光るだけであるため、遊技者によっては早期に見飽きてしまい、入賞口への関心が薄れて遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。

【１４９８】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技者の関心を入賞口に引き付けることで遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【１４９９】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞装置を備え、

該入賞装置は、

遊技球が入賞可能な入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、

遊技球の流下方向に変化を与える凸部と、

を備え、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」

ものであることを特徴する。

【１５００】

ここで、「入賞口」としては、「遊技球の入賞により少数の遊技球が払出されると共に特別図柄の抽選が行われる始動入賞口（第二始動口）」、「遊技球の入賞により多数の遊技球が払出される大入賞口」、「遊技球の入賞により所定数の遊技球が払出されると共に入賞した遊技球をＶ入賞口又はハズレ口へ供給可能な役物入賞口」、等が挙げられる。

【１５０１】

また、「入賞装置」としては、「入賞口として大入賞口を備え、遊技球が始動入賞することにより抽選された特別図柄の抽選結果に応じて可動片が可動して大入賞口を開閉するアタッカユニット」、「入賞口として役物入賞口を備え、遊技球が始動入賞することにより抽選された特別図柄の抽選結果に応じて可動片が可動して役物入賞口を開閉する役物入賞装置」、「入賞口として第二始動口を備え、遊技球のゲートの通過又は普通入賞するこ

とにより抽選された普通図柄の抽選結果に応じて可動片が可動して第二始動口を開閉する始動口ユニット」、等が挙げられる。

【１５０２】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１５０３】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１５０４】

更に、「凸部及び凹部」としては、「遊技板の前面に沿って延出している延出部（例えば、フランジ部、台板、等）に設けられているもの」、「遊技板の前方に配置され遊技板との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板に設けられているもの」、「遊技板の前面に沿って延出している延出部（例えば、フランジ部、台板、等）と、延出部の前方に配置され延出部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板と、の両方に設けられているもの」、等が挙げられる。

【１５０５】

手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞装置を備え、入賞装置は、遊技球が入賞可能な入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、遊技球の流下方向に変化を与える凸部と、を備え、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、アタッカユニット２４００、図１３２等の記載を参照）。

【１５０６】

本構成によれば、遊技球の入賞により特典を付与する入賞装置において、遊技球の流下方向に変化を与える凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により入賞装置における遊技球が流下する部位を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を入賞装置、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。また、裏側に凹部が設けられている凸部は、遊技球の流下方向へ変化を与えることができることから、遊技球の流下方向を入賞口（可動片）へ向けさせたり、入賞口（可動片）の付近において遊技球の流下速度を減速させたりすることが可能となる。このようなことから、凹部の反射光により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目することで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５０７】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、入賞装置の見栄えを良くすることができる。

【１５０８】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して入賞装置の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、入賞装置にかかるコストを低減させることができる。また、入賞装置を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５０９】
手段２：遊技機において、
「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、
前記遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、
該入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、
該可動片の可動により前記入賞口と連通し、遊技球が流通可能な球通路と、
該球通路に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、
を備え、
該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」
ものであることを特徴する。
【１５１０】
ここで、「入賞口」としては、「遊技球の入賞により少数の遊技球が払出されると共に特別図柄の抽選が行われる始動入賞口（第二始動口）」、「遊技球の入賞により多数の遊技球が払出される大入賞口」、「遊技球の入賞により所定数の遊技球が払出されると共に入賞した遊技球をＶ入賞口又はハズレ口へ供給可能な役物入賞口」、等が挙げられる。
【１５１１】
また、「球通路」としては、「遊技板の開口部に備えられるセンター役物に設けられているもの」、「センター役物とは異なる前部材に設けられているもの」、等が挙げられる。また、「球通路」としては、可動片の上流側であっても良いし、可動片の下流側であっても良い。
【１５１２】
更に、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。
【１５１３】
また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。
【１５１４】
更に、「凸部及び凹部」としては、「球通路の後壁を形成している後板部（例えば、フランジ部、台板、等）に設けられているもの」、「球通路の前壁を形成している前板部（例えば、前板）に設けられているもの」、「球通路の後壁を形成している後板部例えば、フランジ部、台板、等）と、球通路の前壁を形成している前板部（例えば、前板）と、の両方に設けられているもの」、等が挙げられる。
【１５１５】
手段２の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、可動片の可動により入賞口と連通し、遊技球が流通可能な球通路と、球通路に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を備え、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、アタッカ通路部２５７７ａ、図１３０等の記載を参照）。
【１５１６】
本構成によれば、遊技球が流通する遊技領域に設けられている入賞口と連通可能な球通路において、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球が流通する球通路を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を球通路、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。また、裏側に凹部が設けられて

いる凸部は、遊技球の流下速度に影響を及ぼすことができるため、球通路を流通している遊技球の流通速度を減速させて遅くすることができ、球通路を流通している遊技球を見え易くすることができる。このようなことから、凹部の反射光により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目することで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５１７】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、球通路が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１５１８】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して球通路が設けられている部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、球通路が設けられている部材にかかるコストを低減させることができる。また、球通路が設けられている部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５１９】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記凸部の裏側に装飾部材を備え、該装飾部材により前記凹部は指触不能とされている」

ものであることを特徴とする。

【１５２０】

ここで、「装飾部材」としては、「所定の装飾が施されているシート状の装飾シール」、「所定の装飾が施されている板状の装飾パネル」、「所定の装飾が施されている装飾シート又は装飾セル」、「立体状の装飾が施されている装飾体」、等が挙げられる。

【１５２１】

また、「指触不能」としては、作業者等の指が凹部に触れることができない構成であれば良く、「凸部の裏側面と装飾部材とが互いに接してそれらの間に隙間が設けられていないもの」、「凸部の裏側面と装飾部材との間に隙間が設けられていても指が入らないもの（指が入らない大きさの隙間が設けられているもの）」、「凸部の裏側面と装飾部材との間に指が入る大きさの隙間が設けられているが、その外周が装飾部材又は他の部材により囲まれていることでその隙間に指が入らないもの」、等が挙げられる。

【１５２２】

ところで、凸部の裏側に凹部を設ける場合、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部の内面に触れることで凹部内が汚れてしまうと、見栄えが悪くなる。また、凹部内が汚れた場合、凹んでいることから汚れの拭き取りに手間がかかるため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要があり、無駄に作業時間が長くなることでコストが増加する恐れがある。

【１５２３】

手段３の構成によると、遊技機に、凸部の裏側に装飾部材を備え、装飾部材により凹部は指触不能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、装飾部材２４４５に関する記載を参照）。

【１５２４】

本構成によれば、遊技球の入賞により特典を付与する入賞装置や遊技球が流通する遊技領域に設けられている入賞口と連通可能な球通路において、遊技球の流下方向に変化を与えたり流下速度に影響を及ぼしたりする凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により入賞装置における遊技球が流下する部位や球通路を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため

、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を入賞装置や球通路、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。この際に、装飾部材により凹部を指触不能としているため、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部に触れて汚れてしまうことはなく、凹部において装飾光を良好に反射させることができ、発光装飾による装飾効果を確実に発揮させることができる。そして、裏側に凹部が設けられている凸部は、遊技球の流下方向へ変化を与えたり流下速度に影響を及ぼしたりすることができることから、遊技球の流下方向を入賞口（可動片）へ向けさせたり、入賞口（可動片）の付近において遊技球の流下速度を減速させたりすることが可能となる。このようなことから、凹部の反射光により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目することで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５２５】

また、凸部の形状と凹部の形状とによる装飾に加えて、装飾部材によっても装飾されるため、入賞装置や球通路が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１５２６】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「前記遊技板と平行に延出している延出部を更に備え、該延出部に前記凸部及び前記凹部が設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１５２７】

ここで、「延出部」としては、「遊技板の前面に沿って延出している後板部（例えば、フランジ部、台板、等）」、「遊技板の前方に配置され遊技板との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部（例えば、前板）」、「遊技板の前面に沿って延出している後板部（例えば、フランジ部、台板、等）と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部（例えば、前板）と、の両方」、等が挙げられる。

【１５２８】

手段４の構成によると、遊技機に、遊技板と平行に延出している延出部を更に備え、延出部に凸部及び凹部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、後板部２５９２及び前板部２５９３に関する記載を参照）。

【１５２９】

本構成によれば、凸部及び凹部が設けられる延出部を遊技板に沿って設けられている後板部（フランジ部や台板）とする場合、流通している遊技球よりも後方に凸部及び凹部が設けられることとなり、その凹部が装飾光を反射させて発光装飾されるため、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせつつ、当該発光装飾により前方を流通している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。一方、凸部及び凹部が設けられる延出部を遊技板に沿って設けられている前板部（前板）とする場合、流通している遊技球よりも前方に凸部及び凹部が設けられることとなり、その凹部が装飾光を反射させて発光装飾されるため、流通している遊技球の前方に設けられている凹部の反射光により遊技球がキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができる。更に、凸部及び凹部が設けられる延出部を、遊技板の前面に沿って延出している後板部と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部と、の両方とする場合、流通している遊技球の前後に凸部及び凹部が設けられることとなるため、後板部に設けられている凹部の発光装飾により遊技球をシルエット状に見せつつ、前板部に設けられている凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１５３０】

また、凸部及び凹部が設けられる延出部を、遊技板の前面に沿って延出している後板部

と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部と、の両方とすると共に、後板部の凸部と前板部の凸部とを、遊技球の流通方向に対して交互（千鳥状）に設ける場合、上述したように、凹部の発光装飾により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができる上に、入賞口付近において遊技球の流通速度を大きく減速させることができ、例えば、可動片上における遊技球の滞留時間を長くすることが可能となる。これにより、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５３１】

手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、

「前記凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に前記凹部が設けられていない特定凸部を有している」

ものであることを特徴とする。

【１５３２】

手段５の構成によると、凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に凹部が設けられていない特定凸部を有しているものである（［発明を実施するための形態］では、特定凸部２５９６に関する記載を参照）。

【１５３３】

本構成によれば、複数の凸部の一部において、裏側に凹部を設けていない特定凸部を有するようにしている。つまり、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない凸部（特定凸部）と、を混在させるようにしている。これにより、特定凸部の裏側では凹部のように装飾光を反射させることができないため、凸部の部位と特定凸部の部位とで発光装飾の態様を異ならせることができる。

【１５３４】

また、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない特定凸部とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部を有する凸部のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。

【１５３５】

このように、上記の解決手段によれば、遊技者の関心を入賞口に引き付けることで遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１５３６】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における第二始動口２００４及び大入賞口２００５は上記解決手段の入賞口に、本実施形態のアタッカユニット２４００は上記解決手段の入賞装置に、本実施形態における第二始動口扉２５４１及び大入賞口扉２５３１は上記解決手段の可動片に、本実施形態における扉上通路部２４１６及びセンター役物２５００Ａのアタッカ通路部２５７７ａは上記解決手段の球通路に、本実施形態における台板２４４１、前板２４４２、フランジ部２５１２、前板２５７１は上記解決手段の延出部に、本実施形態におけるアタッカ装飾基板２４４３、装飾部材２４４５、前装飾部２５７２は上記解決手段の装飾部材に、夫々相当している。

【１５３７】

また、本実施形態における凸部２５９４、後板凸部２５９４ａ、前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の凸部に、本実施形態における凹部２５９５、後板凹部２５９５ａ、前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の凹部に、夫々相当している。

【１５３８】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂの入賞により特典を付与するアタッカユニット２４００において、遊技球Ｂの流下方向に変化を与える後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂに

よって装飾光を反射させることができるため、当該反射光によりアタッカユニット２４００における遊技球Ｂが流下する扉上通路部２４１６を発光装飾させることができる。この発光装飾は後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによる反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心をアタッカユニット２４００、ひいては、大入賞口２００５へ向けさせることができる。また、裏側に後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂが設けられている後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、遊技球Ｂの流下方向へ変化を与えることができることから、遊技球Ｂの流下方向を大入賞口２００５（大入賞口扉２５３１）の付近において遊技球Ｂの流下速度を減速させすることが可能となる。このようなことから、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの反射光により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が大入賞口２００５を注目することで、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５３９】

また、本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００Ａにおける遊技球Ｂが流通し大入賞口２００５が設けられている球通路２５７７（アタッカ通路部２５７７ａ）において、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼす後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球Ｂが流通するアタッカ通路部２５７７ａを発光装飾させることができる。この発光装飾は後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによる反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心をアタッカ通路部２５７７ａ、ひいては、大入賞口２００５へ向けさせることができる。また、裏側に後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂが設けられている後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼすことができるため、アタッカ通路部２５７７ａを流通している遊技球Ｂの流通速度を減速させて遅くすることができ、アタッカ通路部２５７７ａを流通している遊技球Ｂを見え易くすることができる。このようなことから、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの反射光により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が大入賞口２００５を注目することで、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５４０】

また、アタッカユニット２４００やセンター役物２５００Ａの大入賞口２００５が設けられている扉上通路部２４１６やアタッカ通路部２５７７ａにおいて、遊技球Ｂの流下方向に変化を与えたり流下速度に影響を及ぼしたりする後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの裏側に設けられている後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによって装飾光を反射させることができるため、当該反射光によりアタッカユニット２４００の扉上通路部２４１６やアタッカ通路部２５７７ａを発光装飾させることができる。この発光装飾は後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂによる反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を大入賞口２００５へ向けさせることができる。この際に、装飾部材２４４５等により後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂを指触不能としているため、パチンコ機１の製造の際に、作業者の指が後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂに触れて汚れてしまうことはなく、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂにおいて装飾光を良好に反射させることができ、発光装飾による装飾効果を確実に発揮させることができる。そして、裏側に後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂが設けられている後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂは、遊技球Ｂの流下方向へ変化を与えたり流下速度に影響を及ぼしたりすることができることから、大入賞口２００５（大入賞口扉２５３１）の付近に

おいて遊技球Ｂの流下速度を減速させることが可能となる。このようなことから、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの反射光により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が大入賞口２００５を注目することで、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５４１】

また、後板凸部２５９４ａ及び前板凸部２５９４ｂの形状と後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの形状とによる装飾に加えて、装飾部材２４４５等によっても装飾されるため、アタッカユニット２４００やアタッカ通路部２５７７ａが設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１５４２】

更に、遊技パネル１１００の前面に沿って延出している台板２４４１やフランジ部２５１２のような後板部２５９２と、後板部２５９２の前方に配置され後板部２５９２との間に遊技球Ｂが流通可能な空間が形成される前板２４４２や前板２５７１のような前板部２５９３との両方に、凸部２５９４及び凹部２５９５を設けており、流通している遊技球Ｂの前後に凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられることとなるため、後板部２５９２に設けられている後板凹部２５９５ａの発光装飾により遊技球Ｂをシルエット状に見せつつ、前板部２５９３に設けられている前板凹部２５９５ｂの発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１５４３】

また、後板部２５９２の後板凸部２５９４ａと前板部２５９３の前板凸部２５９４ｂとを、遊技球Ｂの流通方向に対して交互（千鳥状）に設けているため、上述したように、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの発光装飾により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができる上に、大入賞口２００５付近において遊技球Ｂの流通速度を大きく減速させることができ、大入賞口扉２５３１上における遊技球Ｂの滞留時間を長くすることが可能となる。これにより、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５４４】

更に、アタッカユニット２４００において、台板２４４１では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２４４２では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、アタッカユニット２４００を軽量化することができると共に、アタッカユニット２４００にかかるコストを低減させることができる。また、アタッカユニット２４００を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５４５】

また、センター役物２５００Ａにおいて、フランジ部２５１２では後板凸部２５９４ａの裏側に後板凹部２５９５ａを設けており、更に、前板２５７１では前板凸部２５９４ｂの裏側に前板凹部２５９５ｂを設けているため、夫々において凹部を設けていない場合と比較して後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの分、重量を軽減させることができ、センター役物２５００Ａを軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａにかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａを軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５４６】
［６－１ａ－５ｅ．小括Ｅ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機として、遊技球が流下する領域において、遊技球の流下速度を減速させるために複数の凸部を設けることが知られている（例えば、特許文献：特開２０１７－１９６２０４号公報）。しかしながら、特許文献のような従来の技術では、遊技球の流下速度を減速させることはできるものの、同じような突出量の凸部が並んでいるだけであるため、遊技球の動きとしては単調であり、遊技者を楽しませられるようなものではなかった。
【１５４７】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技球の流下速度を減速させつつその動きを楽しませることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【１５４８】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、
前記遊技板は前後に貫通している開口部を有し、
該開口部にはセンター役物を備え、
該センター役物は、
前記遊技板よりも前方へ延出しており、前記開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、
正面視で該周壁部の外側に延出している延出部と、
前記周壁部の外側に設けられており遊技球が流下する流下領域と、
を備え、
該流下領域には、前記遊技板よりも前方へ突出し前面を遊技球が流下する第一凸部と、該第一凸部の前面から更に突出しており遊技球の流通に影響を及ぼす第二凸部と、を設けている」
ものであることを特徴とする。
【１５４９】
ここで、「第一凸部」としては、「前方へ突出している前面が平滑で平坦なもの」、「前方へ突出している前面がシボ加工等により微細な凹凸を有する平坦なもの」、等が挙げられる。また、第一凸部としては、裏側に前方へ凹んでいる第一凹部が設けられていても良いし、裏側に凹んでいる第一凹部が設けられていなくても良い。更に、第一凸部としては、遊技球の流通方向へ遊技球１個以上の大きさを有していることが望ましい。
【１５５０】
また、「第二凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。また、第二凸部としては、第一凸部に一つのみ設けられていても良いし、第一凸部に複数設けられていても良いし、延出部と第一凸部とに跨るように設けられていても良い。また、第二凸部としては、遊技球が乗越え可能な大きさとしても良いし、遊技球が乗越え不能な大きさとしても良い。更に、第二凸部としては、裏側に前方へ凹んでいる第二凹部が設けられていても良いし、裏側に凹んでいる第二凹部が設けられていなくても良い。
【１５５１】
更に、「第一凸部及び第二凸部」としては、遊技球の流下領域に設けられていれば良く、センター役物の延出部（例えば、フランジ部）に設けられていても良いし、センター役物の延出部とは異なる部位に設けられていても良い。また、延出部としては、前方に遊技球が流通可能な隙間を開けて前板が設けられていても良いし、前板が設けられていなくても良い。
【１５５２】

手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技板は前後に貫通している開口部を有し、開口部にはセンター役物を備え、センター役物は、遊技板よりも前方へ延出しており、開口部の内側への遊技球の侵入を阻止している周壁部と、正面視で周壁部の外側に延出している延出部と、周壁部の外側に設けられており遊技球が流下する流下領域と、を備え、流下領域には、遊技板よりも前方へ突出し前面を遊技球が流下する第一凸部と、第一凸部の前面から更に突出しており遊技球の流通に影響を及ぼす第二凸部と、を設けているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ－４．通路装飾部の別の実施形態］の章、通路装飾部２５９０Ａ、図１３７乃至図１３９等の記載を参照）。

【１５５３】

本構成によれば、センター役物における遊技球が流下する流下領域に、遊技球の流通速度に影響を及ぼす第一凸部を設けていることから、第一凸部の上流端の段に遊技球が当接すると共に、第一凸部の存在により第一凸部の前面側における前後方向の奥行が小さくなるため、遊技球の流通速度を減速させて、遊技球を見え易くすることができる。更に、第一凸部の前面には第二凸部が設けられているため、第一凸部に当接した上で、更に第二凸部に当接することで、遊技球の流通速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができると共に、遊技者に対して遊技球の動きを楽しませることができる。

【１５５４】

また、遊技球が第一凸部や第二凸部に当接すると、当該遊技球が前方へ跳ねて前方のガラスや前板に衝突することとなるため、その衝突音により遊技者の関心を第一凸部の部位へ向けさせることができ、第一凸部及び第二凸部を流通している遊技球に注目させて遊技球の動きを楽しませることができる。なお、第一凸部の前方にガラスのみが設けられている場合、遊技球の衝突音が大きくなるため、より一層、遊技者の関心を第一凸部―向けさせることができる。また、第一凸部の前方に前板が設けられている場合でも、遊技球が衝突すると音が出るような前板とすることで、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５５５】

また、第一凸部の前面に第二凸部を設けているため、前方から見た時に、単に第一凸部又は第二凸部のみを設ける場合と比較して、第一凸部の形状と第二凸部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１５５６】

なお、第一凸部の裏側には第一凹部が設けられていることが望ましい。これにより、第一凸部の裏側に第一凹部を設けているため、前方から見た時に、単に第一凸部のみが設けられている場合と比較して、第一凸部の形状と第一凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができ、センター役物の見栄えを良くすることができる。

【１５５７】

また、上記のように、第一凸部の裏側に第一凹部を設ける場合、第二凹部の面により装飾光を反射可能とすることが望ましい。これにより、第一凸部の裏側の第一凹部で装飾光を反射可能としていることから、その反射光により第一凸部を後方から発光装飾させることができるため、当該発光装飾により第一凸部を流下している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。従って、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１５５８】

また、第一凸部における遊技球の流通方向の大きさを、遊技球１個よりも大きくすることが望ましい。これにより、遊技球の流下領域において、前後方向の奥行が狭く遊技球を減速させることが可能な領域をある程度確保することが可能となると共に、第一凸部において第二凸部を複数設けることが可能となるため、第一凸部により遊技球の流通速度を充分に減速させつつ、複数の第二凸部により遊技球に様々な動きを付与することができ、遊

技球の動きをより楽しませることが可能な遊技機を提供することができる。
【１５５９】
手段２：遊技機において、
「前記第一凸部の裏側には第一凹部が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１５６０】
ここで、「第一凹部」としては、第一凸部の凸形状と略類似した凹形状としても良いし、第一凸部の凸形状とは相違した全く異なる凹形状としても良い。また、第一凹部の凹形状としては、矢印形状、星形状、幾何学模様の形状、文字の形状、キャラクタの形状、等が挙げられる。また、第一凹部として、装飾光を反射可能としても良いし、シボ加工が施されていても良い。
【１５６１】
手段２の構成によると、第一凸部の裏側には第一凹部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、第一凹部２５９５ｅに関する記載を参照）。
【１５６２】
本構成によれば、第一凸部の裏側に第一凹部を設けているため、前方から見た時に、単に第一凸部のみが設けられている場合と比較して、第一凸部の形状と第一凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができ、センター役物の見栄えを良くすることができる。
【１５６３】
また、第一凸部の裏側に第一凹部を設けているため、第一凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【１５６４】
手段３：手段１又は手段２の構成において、
「前記第一凸部は、
遊技球の流通方向へ遊技球１個以上の大きさを有している」
ものであることを特徴とする。
【１５６５】
手段３の構成によると、第一凸部は、遊技球の流通方向へ遊技球１個以上の大きさを有しているものである（［発明を実施するための形態］では、第一凸部２５９４ｃに関する記載を参照）。
【１５６６】
本構成によれば、第一凸部を遊技球の流通方向へ遊技球１個以上の大きさとしているため、遊技球の流下領域において、前後方向の奥行が狭く遊技球を減速させることが可能な領域をある程度確保することが可能となると共に、第一凸部において第二凸部を複数設けることが可能となる。これにより、第一凸部により遊技球の流通速度を充分に減速させつつ、複数の第二凸部により遊技球に様々な動きを付与することができ、遊技球の動きをより楽しませることが可能な遊技機を提供することができる。
【１５６７】
手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、
「前記第一凸部の裏側の面で装飾光を反射可能としている」
ものであることを特徴とする。
【１５６８】
ここで、装飾光を反射可能としては、第一凸部の裏側に装飾光を反射させる第二凹部を設けても良いし、第一凸部の裏側に反射率の高いシートを設けても良い。
【１５６９】
手段４の構成によると、第一凸部の裏側の面で装飾光を反射可能としているものである

（［発明を実施するための形態］では、第一凹部２５９５ｅに関する記載を参照）。
【１５７０】
本構成によれば、センター役物における遊技球が流下する流下領域に、遊技球の流通速度に影響を及ぼす第一凸部を設けていることから、第一凸部の上流端の段に遊技球が当接すると共に、第一凸部の存在により第一凸部の前面側における前後方向の奥行が小さくなるため、遊技球の流通速度を減速させることができる。更に、第一凸部の前面には第二凸部が設けられているため、第一凸部に当接した上で、更に第二凸部に当接することで、遊技球の流通速度を更に減速させることができ、遊技球の動きを見え易くすることができる。この際に、第一凸部の裏側の面では装飾光を反射可能としていることから、その反射光により第一凸部を後方から発光装飾させることができるため、当該発光装飾により第一凸部を流下している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。従って、遊技者に対して流下領域を流下している遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１５７１】
また、センター役物における遊技球が流下する流下領域において、遊技球の流通速度に影響を及ぼす第一凸部の裏側で装飾光を反射させることができるため、当該反射光により遊技球が流通する流下領域を発光装飾させることができる。従って、センター役物に設けられている流下領域に、従来の遊技機のようなこれ見よがしの装飾体が設けられていないにも関わらず、当該流下領域が発光装飾するため、遊技者に対してこれまでの遊技機とは全く異なる装飾が設けられている遊技機であると認識させることが可能となり、遊技者の関心を強く引き付けることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。
【１５７２】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「前記第二凸部の裏側には第二凹部が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１５７３】
ここで、「第二凹部」としては、凹んでいれば良く、「第二凸部の形状と相似した形状」、「第二凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「第二凹部」としては、装飾光を反射可能なものとしても良い。
【１５７４】
手段５の構成によると、第二凸部の裏側には第二凹部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、第二凹部２５９５ｆに関する記載を参照）。
【１５７５】
本構成によれば、第二凸部の裏側に第二凹部を設けているため、前方から見た時に、単に第二凸部のみが設けられている場合と比較して、第二凸部の形状と第二凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができ、センター役物の見栄えを良くすることができる。
【１５７６】
また、第二凸部の裏側に第二凹部を設けているため、第二凹部を設けていない場合と比較してセンター役物の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物にかかるコストを低減させることができる。また、センター役物を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【１５７７】
このように、上記の解決手段によれば、遊技球の流下速度を減速させつつその動きを楽しませることが可能な遊技機を提供することができる。
【１５７８】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態におけるセンター役物２５００Ａのフランジ部２５１２及び後板部２５９２は上記解

決手段の延出部に、本実施形態における前方突出部２５１１は上記解決手段の周壁部に、本実施形態における球通路２５９１は上記解決手段の流下領域に、本実施形態における第一凸部２５９４ｃは上記解決手段の第一凸部に、本実施形態における第二凸部２５９４ｄは上記解決手段の第二凸部に、本実施形態における第一凹部２５９５ｅは上記解決手段の第一凹部に、本実施形態における第二凹部２５９５ｆは上記解決手段の第二凹部に、夫々相当している。

【１５７９】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、センター役物２５００Ａにおける遊技球Ｂが流下する球通路２５９１に、遊技球Ｂの流通速度に影響を及ぼす第一凸部２５９４ｃを設けていることから、第一凸部２５９４ｃの上流端の段に遊技球Ｂが当接すると共に、第一凸部２５９４ｃの存在により第一凸部２５９４ｃの前面側における前後方向の奥行が小さくなるため、遊技球Ｂの流通速度を減速させて、遊技球Ｂを見え易くすることができる。更に、第一凸部２５９４ｃの前面には第二凸部２５９４ｄが設けられているため、第一凸部２５９４ｃに当接した上で、更に第二凸部２５９４ｄに当接することで、遊技球Ｂの流通速度を更に減速させることができ、遊技球Ｂの動きを見え易くすることができると共に、遊技者に対して遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【１５８０】

また、遊技球Ｂが第一凸部２５９４ｃや第二凸部２５９４ｄに当接すると、当該遊技球こが前方へ跳ねて前方のガラスに衝突することとなるため、その衝突音により遊技者の関心を第一凸部２５９４ｃの部位へ向けさせることができ、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄを流通している遊技球Ｂに注目させて遊技球の動きを楽しませることができる。

【１５８１】

また、第一凸部２５９４ｃの前面に第二凸部２５９４ｄを設けているため、前方から見た時に、単に第一凸部２５９４ｃ又は第二凸部２５９４ｄのみを設ける場合と比較して、第一凸部２５９４ｃの形状と第二凸部２５９４ｄの形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができる。

【１５８２】

更に、第一凸部２５９４ｃの裏側に第一凹部２５９５ｅを設けているため、前方から見た時に、単に第一凸部２５９４ｃのみが設けられている場合と比較して、第一凸部２５９４ｃの形状と第一凹部２５９５ｅの形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、装飾効果をより高めることができ、センター役物２５００Ａの見栄えを良くすることができる。

【１５８３】

また、第一凸部２５９４ｃの裏側の第一凹部２５９５ｅで装飾光を反射可能としていることから、その反射光により第一凸部２５９４ｃを後方から発光装飾させることができるため、当該発光装飾により第一凸部２５９４ｃの前方を流下している遊技球Ｂをシルエット状に見せることができ、遊技球Ｂの動きをより見え易くすることができる。従って、遊技者に対して球通路２５９１を流下している遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１５８４】

また、第一凸部２５９４ｃにおける遊技球Ｂの流通方向の大きさを、遊技球Ｂ１個よりも大きくしているため、遊技球Ｂの流下領域（球通路２５９１）において、前後方向の奥行が狭く遊技球Ｂを減速させることが可能な領域をある程度確保することが可能となると共に、第一凸部２５９４ｃにおいて第二凸部２５９４ｄを複数設けることが可能となる。従って、第一凸部２５９４ｃにより遊技球Ｂの流通速度を充分に減速させつつ、複数の第二凸部２５９４ｄにより遊技球Ｂに様々な動きを付与することができ、遊技球Ｂの動きをより楽しませることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１５８５】

また、第一凸部２５９４ｃ及び第二凸部２５９４ｄの裏側に第一凹部２５９５ｅ及び第二凹部２５９５ｆを設けているため、第一凹部２５９５ｅや第二凹部２５９５ｆを設けていない場合と比較してセンター役物２５００Ａの重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、センター役物２５００Ａにかかるコストを低減させることができる。また、センター役物２５００Ａを軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５８６】

［６－１ａ－５ｆ．小括Ｆ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機として、入賞口への遊技球の入賞が容易な入賞容易状態と、入賞が不能な入賞不能状態との間で可動する可動片を有するアタッカユニットのような入賞装置を備えているもの知られている（特許文献：特開２０１７－１１８９８９号公報）。特許文献の技術では、入賞口の後方にＬＥＤ基板を設け、ＬＥＤ基板のＬＥＤの発光態様によって遊技者を楽しませられるようにしている。しかしながら、特許文献のような従来の技術では、単にＬＥＤが光るだけであるため、遊技者によっては早期に見飽きてしまい、入賞口への関心が薄れて遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。

【１５８７】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技者の関心を入賞口に引き付けることで遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【１５８８】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、

該入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、

該可動片よりも上流側に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を備え、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」

ものであることを特徴する。

【１５８９】

ここで、「入賞口」としては、「遊技球の入賞により少数の遊技球が払出されると共に特別図柄の抽選が行われる始動入賞口（第二始動口）」、「遊技球の入賞により多数の遊技球が払出される大入賞口」、「遊技球の入賞により所定数の遊技球が払出されると共に入賞した遊技球をＶ入賞口又はハズレ口へ供給可能な役物入賞口」、等が挙げられる。

【１５９０】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１５９１】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１５９２】

更に、「凸部及び凹部」としては、「遊技板の前面に沿って延出している薄板状の後板部（例えば、フランジ部、台板、等）に設けられているもの」、「遊技板の前方に配置され遊技板との間に遊技球が流通可能な空間が形成される薄板状の前板部（例えば、前板）に設けられているもの」、「遊技板の前面に沿って延出している薄板状の後板部（例えば

、フランジ部、台板、等）と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される薄板状の前板部（例えば、前板）と、の両方に設けられているもの」、等が挙げられる。

【１５９３】

手段１の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、可動片よりも上流側に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を備え、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、アタッカユニット２４００の通路装飾部２５９０、図１３２等の記載を参照）。

【１５９４】

本構成によれば、遊技球が流通する遊技領域に設けられている入賞口を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片の上流側に、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部を設けていると共に、凸部の裏側に装飾光を反射させる凹部を設けていることから、当該凹部により装飾光を反射させることができるため、当該反射光により可動片付近を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を可動片、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。また、裏側に凹部が設けられている凸部は、可動片の上流側に設けられていると共に、遊技球の流下速度に影響を及ぼすことができるため、遊技球の流通速度を減速させて遅くすることができ、可動片（入賞口）へ向かって流通している遊技球を見え易くすることができる。また、凸部を可動片の上流側に設けているため、例えば、可動片上における遊技球の滞留時間を長くすることが可能となる。このようなことから、凹部の反射光により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目することで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５９５】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、凸部及び凹部が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１５９６】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して凸部及び凹部が設けられている部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、凸部及び凹部が設けられている部材にかかるコストを低減させることができる。また、凸部及び凹部が設けられている部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５９７】

手段２：遊技機において、

「前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、

前記遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、

該入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、

該可動片よりも下流側に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、

を備え、

該凸部の裏側には凹部を設け、該凹部の表面で装飾光を反射可能としている」

ものであることを特徴する。

【１５９８】

ここで、「入賞口」としては、「遊技球の入賞により少数の遊技球が払出されると共に

特別図柄の抽選が行われる始動入賞口（第二始動口）」、「遊技球の入賞により多数の遊技球が払出される大入賞口」、「遊技球の入賞により所定数の遊技球が払出されると共に入賞した遊技球をＶ入賞口又はハズレ口へ供給可能な役物入賞口」、等が挙げられる。

【１５９９】

また、「凸部」としては、遊技球の当接によりその流下速度に影響を及ぼすことが可能な形状であれば良く、側面の断面形状が、「半円形」、「三角形」、「台形」、「四角形」、「五角形や六角形のような多角形」、「自由曲線による不定形」、等が挙げられる。

【１６００】

また、「凹部」としては、凹んでいれば良く、「凸部の形状と相似した形状」、「凸部の形状とは相違した異なる形状」、等が挙げられる。また、「凹部」としては、曲面、又は、角度の異なる複数の平面、を有していることが望ましく、これにより様々な方向へ光を反射させることが可能となる。

【１６０１】

更に、「凸部及び凹部」としては、「遊技板の前面に沿って延出している薄板状の後板部（例えば、フランジ部、台板、等）に設けられているもの」、「遊技板の前方に配置され遊技板との間に遊技球が流通可能な空間が形成される薄板状の前板部（例えば、前板）に設けられているもの」、「遊技板の前面に沿って延出している薄板状の後板部（例えば、フランジ部、台板、等）と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される薄板状の前板部（例えば、前板）と、の両方に設けられているもの」、等が挙げられる。

【１６０２】

手段２の構成によると、前面側に遊技球が流通する遊技領域が設けられる遊技板を備えた遊技機であって、遊技領域には遊技球の入賞により遊技者に特典を付与する入賞口と、入賞口の状態を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片と、可動片よりも下流側に形成され、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部と、を備え、凸部の裏側には凹部を設け、凹部の表面で装飾光を反射可能としているものである（［発明を実施するための形態］では、［６－１ａ．通路装飾部］の章、アタッカ通路部２５７７ａ及び右縁通路部２５７７ｂ、図１３０等の記載を参照）。

【１６０３】

本構成によれば、遊技球が流通する遊技領域に設けられている入賞口を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片の下流側に、遊技球の流下速度に影響を及ぼす凸部を設けていると共に、凸部の裏側に装飾光を反射させる凹部を設けていることから、当該凹部により装飾光を反射させることができるため、当該反射光により可動片付近を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を可動片、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。

【１６０４】

また、凸部を可動片よりも下流側に設けていることから、凸部及び凹部を、遊技領域における入賞口よりも下流側の部位で、更に、可動片よりも下流側に別の入賞口を設けているような場合では、凹部により可動片のある入賞口と別の入賞口との間の部位が発光装飾されることとなり、遊技者の関心を両方の入賞口へ向けさせることができる。そして、遊技球が可動片のある入賞口に入賞しなかった場合でも、下流側の別の入賞口に入賞する可能性があり、引き続き遊技者を楽しませることができる。この際に、裏側に凹部が設けられている凸部は、別の入賞口の上流側に設けられているため、当該凸部により別の入賞口へ向かって流通している遊技球の流通速度を減速させて遅くすることができ、別の入賞口への入賞に対する期待感を高めさせることができる。

【１６０５】

更に、凸部を可動片よりも下流側に設けていることから、凸部及び凹部を、入賞口の内部に設ける場合では、凹部による反射光により入賞口を発光装飾させることができ、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目する

ことで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、裏側に凹部が設けられている凸部を入賞口の内部に設ける場合、凸部によって入賞口に入賞した遊技球の流通速度を減速させることで、入賞口（の内部）を破損し難くすることができる。

【１６０６】

また、凸部の裏側に凹部を設けているため、前方から見た時に、単に凸部のみが設けられている場合と比較して、凸部の形状と凹部の形状とにより複雑な形状が見えることとなり、当該形状が装飾として作用することで、凸部及び凹部が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１６０７】

更に、凸部の裏側に凹部を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して凸部及び凹部が設けられている部材の重量を軽減させることができ、軽量化することができると共に、凸部及び凹部が設けられている部材にかかるコストを低減させることができる。また、凸部及び凹部が設けられている部材を軽量化することが可能となるため、従来の遊技機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１６０８】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記凸部の裏側に装飾部材を備え、該装飾部材により前記凹部は指触不能とされている」

ものであることを特徴とする。

【１６０９】

ここで、「装飾部材」としては、「所定の装飾が施されているシート状の装飾シール」、「所定の装飾が施されている板状の装飾パネル」、「所定の装飾が施されている装飾シート又は装飾セル」、「立体状の装飾が施されている装飾体」、等が挙げられる。

【１６１０】

また、「指触不能」としては、作業者等の指が凹部に触れることができない構成であれば良く、「凸部の裏側面と装飾部材とが互いに接してそれらの間に隙間が設けられていないもの」、「凸部の裏側面と装飾部材との間に隙間が設けられていても指が入らないもの（指が入らない大きさの隙間が設けられているもの）」、「凸部の裏側面と装飾部材との間に指が入る大きさの隙間が設けられているが、その外周が装飾部材又は他の部材により囲まれていることでその隙間に指が入らないもの」、等が挙げられる。

【１６１１】

ところで、凸部の裏側に凹部を設ける場合、遊技機の製造の際に、作業者の指が凹部の内面に触れることで凹部内が汚れてしまうと、見栄えが悪くなる。また、凹部内が汚れた場合、凹んでいることから汚れの拭き取りに手間がかかるため、凹部が汚れないように慎重に作業する必要があり、無駄に作業時間が長くなることでコストが増加する恐れがある。

【１６１２】

手段３の構成によると、遊技機に、凸部の裏側に装飾部材を備え、装飾部材により凹部は指触不能とされているものである（［発明を実施するための形態］では、装飾部材２４４５に関する記載を参照）。

【１６１３】

本構成によれば、入賞口を入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える可動片付近において、遊技球の流下方向に変化を与えたり流下速度に影響を及ぼしたりする凸部の裏側に設けられている凹部によって装飾光を反射させることができるため、当該反射光により可動片（入賞口）付近を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を可動片、ひいては、入賞口へ向けさせることができる。この際に、装飾部材により凹部を指触不能としているため、遊技機の製造の際に、作業者の指が

凹部に触れて汚れてしまうことはなく、凹部において装飾光を良好に反射させることができ、発光装飾による装飾効果を確実に発揮させることができる。そして、裏側に凹部が設けられている凸部は、遊技球の流下速度に影響を及ぼすことができることから、遊技球の流下方向を入賞口（可動片）へ向けさせたり、入賞口（可動片）の付近において遊技球の流下速度を減速させたりすることが可能となる。このようなことから、凹部の反射光により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が入賞口を注目することで、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６１４】

また、凸部の形状と凹部の形状とによる装飾に加えて、装飾部材によっても装飾されるため、凸部及び凹部が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１６１５】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「前記遊技板と平行に延出している薄板状の通路板部を更に備え、該通路板部に前記凸部及び前記凹部が設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１６１６】

ここで、「通路板部」としては、「遊技板の前面に沿って延出している後板部（例えば、フランジ部、台板、等）」、「遊技板の前方に配置され遊技板との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部（例えば、前板）」、「遊技板の前面に沿って延出している後板部（例えば、フランジ部、台板、等）と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部（例えば、前板）と、の両方」、等が挙げられる。

【１６１７】

手段４の構成によると、遊技機に、遊技板と平行に延出している薄板状の通路板部を更に備え、通路板部に凸部及び凹部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、後板部２５９２及び前板部２５９３に関する記載を参照）。

【１６１８】

本構成によれば、凸部及び凹部が設けられる通路板部を遊技板に沿って設けられている後板部（フランジ部や台板）とする場合、流通している遊技球よりも後方に凸部及び凹部が設けられることとなり、その凹部が装飾光を反射させて発光装飾されるため、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせつつ、当該発光装飾により前方を流通している遊技球をシルエット状に見せることができ、遊技球の動きをより見え易くすることができる。一方、凸部及び凹部が設けられる通路板部を遊技板に沿って設けられている前板部（前板）とする場合、流通している遊技球よりも前方に凸部及び凹部が設けられることとなり、その凹部が装飾光を反射させて発光装飾されるため、流通している遊技球の前方に設けられている凹部の反射光により遊技球がキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができる。更に、凸部及び凹部が設けられる通路板部を、遊技板の前面に沿って延出している後板部と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部と、の両方とする場合、流通している遊技球の前後に凸部及び凹部が設けられることとなるため、後板部に設けられている凹部の発光装飾により遊技球をシルエット状に見せつつ、前板部に設けられている凹部の発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができると共に遊技球の動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１６１９】

また、凸部及び凹部が設けられる通路板部を、遊技板の前面に沿って延出している後板部と、後板部の前方に配置され後板部との間に遊技球が流通可能な空間が形成される前板部と、の両方とすると共に、可動片よりも上流側において、後板部の凸部と前板部の凸部

とを、遊技球の流通方向に対して交互（千鳥状）に設ける場合、上述したように、凹部の発光装飾により遊技者の関心を入賞口へ強く引き付けさせることができる上に、入賞口付近において遊技球の流通速度を大きく減速させることができ、可動片上における遊技球の滞留時間を長くすることが可能となる。これにより、可動片の可動により入賞口が入賞容易状態となるタイミングで遊技球が入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６２０】

手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、

「前記凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に前記凹部が設けられていない特定凸部を有している」

ものであることを特徴とする。

【１６２１】

手段５の構成によると、凸部は複数設けられており、そのうちの一部の裏側に凹部が設けられていない特定凸部を有しているものである（［発明を実施するための形態］では、特定凸部２５９６に関する記載を参照）。

【１６２２】

本構成によれば、複数の凸部の一部において、裏側に凹部を設けていない特定凸部を有するようにしている。つまり、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない凸部（特定凸部）と、を混在させるようにしている。これにより、特定凸部の裏側では凹部のように装飾光を反射させることができないため、凸部の部位と特定凸部の部位とで発光装飾の態様を異ならせることができる。

【１６２３】

また、裏側に凹部を有する凸部と、裏側に凹部を有しない特定凸部とでは、前方から見える形状が異なることとなるため、裏側に凹部を有する凸部のみを複数設ける場合と比較して、前方から見える装飾に変化をつけることができる。

【１６２４】

このように、上記の解決手段によれば、遊技者の関心を入賞口に引き付けることで遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１６２５】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態の遊技盤５における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における第二始動口２００４及び大入賞口２００５は上記解決手段の入賞口に、本実施形態における第二始動口扉２５４１及び大入賞口扉２５３１は上記解決手段の可動片に、本実施形態における台板２４４１、前板２４４２、フランジ部２５１２、前板２５７１は上記解決手段の通路板部に、本実施形態におけるアタッカ装飾基板２４４３、装飾部材２４４５、前装飾部２５７２は上記解決手段の装飾部材に、夫々相当している。

【１６２６】

また、本実施形態における凸部２５９４、後板凸部２５９４ａ、前板凸部２５９４ｂは上記解決手段の凸部に、本実施形態における凹部２５９５、後板凹部２５９５ａ、前板凹部２５９５ｂは上記解決手段の凹部に、夫々相当している。

【１６２７】

（技術的特徴の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂが流通する遊技領域５ａに設けられている大入賞口２００５を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える大入賞口扉２５３１の上流側に、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼす凸部２５９４を設けていると共に、凸部２５９４の裏側に装飾光を反射させる凹部２５９５を設けていることから、当該凹部２５９５により装飾光を反射させることができるため、当該反射光により大入賞口扉２５３１付近を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部２５９５による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を大入賞口扉２５３１、ひいては、大入賞口２００５へ向けさせること

ができる。また、裏側に凹部２５９５が設けられている凸部２５９４は、大入賞口扉２５３１の上流側に設けられていると共に、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼすことができるため、遊技球Ｂの流通速度を減速させて遅くすることができ、大入賞口扉２５３１（大入賞口２００５）へ向かって流通している遊技球Ｂを見え易くすることができる。また、凸部２５９４を大入賞口扉２５３１の上流側に設けているため、大入賞口扉２５３１上における遊技球Ｂの滞留時間を長くすることが可能となる。このようなことから、凹部２５９５の反射光により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が大入賞口２００５を注目することで、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６２８】

また、本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂが流通する遊技領域５ａに設けられている第二始動口２００４又は大入賞口２００５を、入賞容易状態と入賞不能状態に切り替える第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１の下流側に、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼす凸部２５９４を設けていると共に、凸部２５９４の裏側に装飾光を反射させる凹部２５９５を設けていることから、当該凹部２５９５により装飾光を反射させることができるため、当該反射光により第二始動口扉２５４１（第二始動口２００４）付近や大入賞口扉２５３１（大入賞口２００５）付近を発光装飾させることができる。この発光装飾は凹部２５９５による反射光であるため、従来のようなＬＥＤからの直接光によるものとは全く異なる発光装飾を見せることができ、遊技者の関心を第二始動口扉２５４１や大入賞口扉２５３１、ひいては、第二始動口２００４や大入賞口２００５へ向けさせることができる。

【１６２９】

また、凸部２５９４を第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１よりも下流側に設けていることから、凸部２５９４及び凹部２５９５を、遊技領域５ａにおける第二始動口２００４又は大入賞口２００５よりも下流側の部位で、更に、第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１よりも下流側に別の入賞口（例えば、普通入賞口２０１１、第二始動口２００４、大入賞口２００５、等）を設けているような場合では、凹部２５９５により第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１のある第二始動口２００４又は大入賞口２００５と別の入賞口との間の部位が発光装飾されることとなり、遊技者の関心を両方の入賞口へ向けさせることができる。そして、遊技球Ｂが第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１のある第二始動口２００４又は大入賞口２００５に入賞しなかった場合でも、下流側の別の入賞口に入賞する可能性があり、引き続き遊技者を楽しませることができる。この際に、裏側に凹部２５９５が設けられている凸部２５９４は、別の入賞口の上流側に設けられているため、当該凸部により別の入賞口へ向かって流通している遊技球Ｂの流通速度を減速させて遅くすることができ、別の入賞口への入賞に対する期待感を高めさせることができる。

【１６３０】

更に、凸部２５９４を第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１よりも下流側に設けていることから、凸部２５９４及び凹部２５９５を、第二始動口２００４又は大入賞口２００５の内部に設ける場合では、凹部２５９５による反射光により第二始動口２００４又は大入賞口２００５を発光装飾させることができ、遊技者の関心を第二始動口２００４又は大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が第二始動口２００４又は大入賞口２００５を注目することで、第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１の可動により第二始動口２００４又は大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、裏側に凹部２５９５が設けられている凸部２５９４を第二始動口２００４又は大入賞口２００５の内部に設ける場合、凸部２５９４によって第二始動口２００４又は大入賞口２００５に入賞した遊技球Ｂの

流通速度を減速させることで、第二始動口２００４又は大入賞口２００５を破損し難くすることができる。

【１６３１】

また、装飾部材２４４５や前装飾部２５７２等により凹部２５９５を指触不能としているため、パチンコ機１の製造の際に、作業者の指が凹部２５９５に触れて汚れてしまうことはなく、凹部２５９５において装飾光を良好に反射させることができ、発光装飾による装飾効果を確実に発揮させることができる。そして、裏側に凹部２５９５が設けられている凸部２５９４は、遊技球Ｂの流下速度に影響を及ぼすことができることから、第二始動口２００４又は大入賞口２００５（第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１）の付近において遊技球Ｂの流下速度を減速させることが可能となる。このようなことから、凹部２５９５の反射光により遊技者の関心を第二始動口２００４又は大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に、遊技者が第二始動口２００４又は大入賞口２００５を注目することで、第二始動口扉２５４１又は大入賞口扉２５３１の可動により第二始動口２００４又は大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６３２】

また、凸部２５９４の形状と凹部２５９５の形状とによる装飾に加えて、装飾部材２４４５等によっても装飾されるため、凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられている部材の見栄えを良くすることができる。

【１６３３】

更に、遊技パネル１１００の前面に沿って設けられている後板部２５９２と、後板部２５９２の前方に配置され後板部２５９２との間に遊技球Ｂが流通可能な空間が形成される前板部２５９３との両方に、凸部２５９４及び凹部２５９５を設けており、流通している遊技球Ｂの前後に凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられることとなるため、後板部２５９２に設けられている後板凹部２５９５ａの発光装飾により遊技球Ｂをシルエット状に見せつつ、前板部２５９３に設けられている前板凹部２５９５ｂの発光装飾によりキラキラ光っているように見せることができ、遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができると共に遊技球Ｂの動きを楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１６３４】

また、大入賞口扉２５３１の上流側において、後板凸部２５９４ａと前板部２５９３の前板凸部２５９４ｂとを、遊技球Ｂの流通方向に対して交互（千鳥状）に設けているため、上述したように、後板凹部２５９５ａ及び前板凹部２５９５ｂの発光装飾により遊技者の関心を大入賞口２００５へ強く引き付けさせることができる上に、大入賞口２００５付近において遊技球Ｂの流通速度を大きく減速させることができ、大入賞口扉２５３１上における遊技球Ｂの滞留時間を長くすることが可能となる。これにより、大入賞口扉２５３１の可動により大入賞口２００５が入賞容易状態となるタイミングで遊技球Ｂが入賞するか否かに対してハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６３５】

更に、凸部２５９４の裏側に凹部２５９５を設けているため、凹部を設けていない場合と比較して凹部２５９５の分、重量を軽減させることができ、凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられている部材を軽量化することができると共に、凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられている部材にかかるコストを低減させることができる。また、凸部２５９４及び凹部２５９５が設けられている部材を軽量化することが可能となるため、従来のパチンコ機では必要としていた補強を不要にすることが可能となり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１６３６】

［７．入球口表記］

［７－１．アウト口表記の構成］
　続いて、遊技盤５に設けられている入球口表記としてのアウト口表記２０５０について、図１４０を参照して詳細に説明する。図１４０は、アウト口表記を拡大して示す説明図である。
【１６３７】
　アウト口表記２０５０は、遊技盤５に設けられているアウト口（例えば、アウト口１００８、サブアウト口２０２３、等）を表記するものであり、遊技者が当該アウト口表記２０５０を見ることで、当該入球口がアウト口であることを認識させるものである。詳細は後述するが、本実施形態の遊技盤５ではサブアウト口２０２３が複数設けられており、それぞれのサブアウト口２０２３の付近に設けられているアウト口表記２０５０により入賞口（例えば、一般入賞口２００１）との誤認を抑制させることが可能である。
【１６３８】
　アウト口表記２０５０は、図示するように、文字や記号からなる表記本体２０５１と、表記本体２０５１の周縁に設けられている周縁部２０５２と、から構成されている。アウト口表記２０５０の少なくとも表記本体２０５１が、アウト口表記２０５０の周囲（例えば、アウト口表記２０５０が設けられている部材、絵柄や模様などの装飾、など）よりも透光性が低く形成されている。また、アウト口表記２０５０は、周縁部２０５２の色が、表記本体２０５１の色とは異なっている。この周縁部２０５２は、透明であっても良い。
【１６３９】
　また、アウト口表記２０５０は、第一始動口２００２の前板２１０１に「ＩＮ」の文字として設けられているような入賞口表記部２０６０よりも小さく設けられている。
【１６４０】
　アウト口表記２０５０は、「装飾用の絵柄と一緒に印刷されているもの」、「シールに印刷されて貼り付けられているもの」、「部材の成形と一緒に凸状や凹状に形成されているもの」、等が挙げられる。
【１６４１】
　また、アウト口表記２０５０としては、「アルファベット」、「平仮名」、「片仮名」、「漢字」、等の文字の他に、アウト口を意味する記号やピクトグラム、等としても良い。
【１６４２】
　更に、アウト口表記２０５０が設けられる部位としては、「アウト口を構成している部材の前板」、「アウト口を構成している部材における遊技パネルの前面に当接している台板」、「遊技パネルの前面」、「透明な遊技パネルの後面」、「遊技パネルよりも後方に設けられている部材」、等が挙げられる。
【１６４３】
　なお、アウト口表記２０５０を構成している表記本体２０５１と周縁部２０５２との関係として、上記では色（色彩）が異なることを説明したが、その他の関係としては、表記本体２０５１と周縁部２０５２とで、光透過度（透光性）を異ならせても良い。例えば、アウト口表記２０５０の周囲、周縁部２０５２、表記本体２０５１、の順に光透過度が小さくなるようにする場合、アウト口表記２０５０の後方が明るくなると（例えば、後方に設けられているＬＥＤが点灯すると）、光のグラデーションのように見せることができる。
【１６４４】
　また、アウト口表記２０５０は、アウト口表記２０５０を構成している表記本体２０５１及び周縁部２０５２の少なくとも一方の光透過度を、アウト口表記２０５０の周囲の光透過度よりも高くしても良い。これにより、アウト口表記２０５０の後方が明るくなると、アウト口表記２０５０が光ることとなり、アウト口表記２０５０を認識し易くなる。
【１６４５】
　また、アウト口表記２０５０は、ＬＥＤなどからの光が当たった時に、発光しない（輝かない）ようにしても良い。この場合のアウト口表記２０５０としては、「黒色」、「暗色」、「つや消しの色」、「アウト口表記２０５０の周りよりも光の反射率が低いもの」、などが挙げられる。

【１６４６】
更に、アウト口表記２０５０は、ＬＥＤなどからの光により発光する（輝く）ようにしても良い。この場合、アウト口表記２０５０の後方に設けられたＬＥＤからの光によって発光するようにしても良いし、アウト口表記２０５０の側方または前方に設けられたＬＥＤからの光によって発光するようにしても良い。或いは、アウト口表記２０５０が設けられている透明部材を導光板として、アウト口表記２０５０が発光するようにしても良い。この場合のアウト口表記２０５０としては、「透明」、「有色透明」、「メッキ色」、「ラメ色」、「無数の微小なプリズムを有しているもの」、等が挙げられる。
【１６４７】
本実施形態のアウト口表記２０５０は、後述するように、様々な実施形態（使用例）において設けることが可能であり、遊技盤５において、一つの実施形態のみを設けても良いし、複数の実施形態を組み合わせて設けても良い。
【１６４８】
［７－２ａ．アウト口表記の使用例１］
次に、遊技盤５におけるアウト口表記２０５０の使用例について、図１４１等を参照して詳細に説明する。図１４１（ａ）はアウト口表記が施されている遊技盤における下部正面図であり、（ｂ）は（ａ）を前から見た斜視図である。まず、遊技盤５には、図１４１に示すように、センター役物２５００におけるステージ２５１８の中央放出部２５１８ａの下方に設けられている第一始動口２００２と、第一始動口２００２の下方で遊技領域５ａの下流端（最下端）に設けられているアウト口１００８と、第一始動口２００２の左方に設けられている一般入賞口２００１と、アウト口１００８とは異なる複数（ここでは三つ）のサブアウト口２０２３と、を備えている。
【１６４９】
この遊技盤５は、前方に遊技領域５ａが設けられている遊技パネル１１００の前面にパネル装飾１１１３が施されている。本実施形態のパネル装飾１１１３は、ひび割れのような模様が施されている。
【１６５０】
サブアウト口２０２３は、常時開口しており、入球した遊技球Ｂがアウト球として遊技盤５から排出される。つまり、アウト口１００８と同様に、サブアウト口２０２３に遊技球Ｂが入球しても特典が付与されることはない。複数のサブアウト口２０２３は、右から第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、第三アウト口２０２３ｃ、の三つから構成されている。なお、以下では、第一アウト口２０２３ａ～第三アウト口２０２３ｃを、総称して単にサブアウト口２０２３とも称する。
【１６５１】
第一始動口２００２は、始動口ユニット２１００に設けられている。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２の前端を構成している前板２１０１の前面に「ＩＮ」の文字からなる入賞口表記部２０６０が設けられている。この入賞口表記部２０６０は、前方へ突出するようにレリーフ状に形成されており、始動口ユニット２１００と一体成形されている。なお、入賞口表記部２０６０は、文字の他に、図案や絵柄のようなシンボルであっても良い。
【１６５２】
一般入賞口２００１及び一部のサブアウト口２０２３（ここでは、第二アウト口２０２３ｂ及び第三アウト口２０２３ｃ）は、始動口ユニット２１００の左方のサイドユニット２２００に設けられている。一般入賞口２００１は、第二アウト口２０２３ｂと第三アウト口２０２３ｃとの間に設けられている。このサイドユニット２２００では、第二アウト口２０２３ｂが開口を上方へ向けて設けられていると共に、第三アウト口２０２３ｃが開口を斜め左上方へ向けて設けられている。
【１６５３】
残りのサブアウト口２０２３（第一アウト口２０２３ａ）は、始動口ユニット２１００の右方のアタッカユニット２４００（詳細は省略）に設けられている。この第一アウト口

２０２３ａは、図示しない大入賞口２００５から離れた位置で、台板２４４１から前方へ突出するように設けられている。アタッカユニット２４００では、第一アウト口２０２３ａが開口を斜め右上方へ向けて設けられている。

【１６５４】

本実施形態では、アウト口表記２０５０は、第一アウト口２０２３ａを表記する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂを表記する第二アウト口表記２０５０ｂと、第三アウト口２０２３ｃを表記する第三アウト口表記２０５０ｃと、を有している。第一アウト口表記２０５０ａ～第三アウト口表記２０５０ｃは、それぞれの態様が異なっている。なお、以下では、第一アウト口表記２０５０ａ～第三アウト口表記２０５０ｃを総称して単にアウト口表記２０５０とも称する。

【１６５５】

各アウト口表記２０５０について詳述する。まず、第一アウト口表記２０５０ａは、図１４１に示すように、アタッカユニット２４００の台板２４４１から前方へ突出して第一アウト口２０２３ａを形成している受部２４５０の前板２４５０ａに設けられている。詳述すると、第一アウト口表記２０５０ａは、前板２４５０ａに貼り付けられている装飾シール２４４６に印刷されている。この第一アウト口表記２０５０ａは、第一アウト口２０２３ａの開口の傾斜に合わせて、文字列が斜めになるように設けられている。この第一アウト口表記２０５０ａは、第一始動口２００２の入賞口表記部２０６０によりも後方に設けられている。

【１６５６】

第二アウト口表記２０５０ｂは、遊技パネル１１００の前面における第二アウト口２０２３ｂの直上の部位に設けられている。第二アウト口表記２０５０ｂは、パネル装飾１１１３と一緒に施されている（印刷されている）。この第二アウト口表記２０５０ｂは、文字列が水平に設けられている。

【１６５７】

第三アウト口表記２０５０ｃは、遊技パネル１１００の前面における第三アウト口２０２３ｃの左上の部位に設けられている。第三アウト口表記２０５０ｃは、パネル装飾１１１３と一緒に施されている（印刷されている）。この第三アウト口表記２０５０ｃは、「ＯＵＴ」の文字が「Ｏ」「Ｕ」「Ｔ」に分割された上で、第三アウト口２０２３ｃの斜めになった開口に沿うように、右上から左下へ斜めに並べて設けられている。

【１６５８】

第二アウト口表記２０５０ｂおよび第三アウト口表記２０５０ｃは、図示するように、遊技パネル１１００のパネル装飾１１１３の絵柄（模様）と重なるように設けられている。これにより、第二アウト口表記２０５０ｂおよび第三アウト口表記２０５０ｃが、パネル装飾１１１３の模様と一緒にあるように見え、それらアウト口表記２０５０が目立ち難くなると共に、パネル装飾１１１３の装飾性が損なわれることはない。

【１６５９】

また、第二アウト口表記２０５０ｂおよび第三アウト口表記２０５０ｃは、周縁部２０５２が白色である。これにより、表記本体２０５１が白色の周縁部２０５２によりパネル装飾１１１３の模様から離された状態となり、表記本体２０５１の文字（アウト口表記２０５０）が読み辛くなることはない。

【１６６０】

更に、第一アウト口表記２０５０ａ、第二アウト口表記２０５０ｂ、および第三アウト口表記２０５０ｃは、入賞口表記部２０６０よりも後方に設けているため、入賞口表記部２０６０よりも目立ち難くしつつ、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を一般入賞口２００１等の入賞口と勘違いしてしまうことを低減させることができる。

【１６６１】

この使用例１によれば、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂに対応している第一アウト口表記２０５０ａや第二アウト口表記２０５０ｂを、異なる識別態様で設

けているため、それぞれのアウト口表記２０５０を、サブアウト口２０２３の開口方向と対応させたり、サブアウト口２０２３が設けられている部位の装飾と対応させたり、することが可能となり、アウト口表記２０５０を表示しつつ目立ち難くすることができる。具体的には、第一アウト口２０２３ａが右斜め上方向へ向かって開口し、第二アウト口２０２３ｂが上方向へ向かって開口しているような場合、第一アウト口表記２０５０ａを斜め書きにし、第二アウト口表記２０５０ｂを横書きにしているため、それぞれのアウト口表記２０５０が対応しているサブアウト口２０２３の開口縁に沿った状態となり、それぞれのアウト口表記２０５０が目立ち難くなると共に、アウト口表記２０５０に対して違和感を与え難くすることができる。これにより、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６６２】

また、第一アウト口表記２０５０ａを装飾シール２４４６に施しているため、第一アウト口表記２０５０ａが施（印刷）された装飾シール２４４６を、対応する第一アウト口２０２３ａの受部２４５０の前板２４５０ａに貼り付けることで、アウト口表記２０５０を設けることができる。

【１６６３】

また、アウト口表記２０５０の施された装飾シール２２０３（装飾シール２４４６）を、遊技球Ｂと接触しない前板２２０２に貼り付けているため、遊技球Ｂの接触によって装飾シール２２０３が剥がれることはない。

【１６６４】

更に、アウト口表記２０５０を、周辺よりも透光性を低くしていることから、アウト口表記２０５０の周囲が明るくなるとアウト口表記２０５０が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０を認識可能（視認可能）としつつ見え辛くすることができ、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１６６５】

また、大入賞口２００５を有するアタッカユニット２４００に設けられている第一アウト口２０２３ａの第一アウト口表記２０５０ａと、一般入賞口２００１を有するサイドユニット２２００に設けられている第二アウト口２０２３ｂの第二アウト口表記２０５０ｂとでは、第一アウト口表記２０５０ａを第二アウト口表記２０５０ｂよりも前方に設けるようにしている。これにより、第一アウト口２０２３ａの第一アウト口表記２０５０ａを第二アウト口表記２０５０ｂよりも前方に設けても、第一アウト口表記２０５０ａ（第一アウト口２０２３ａ）の近くに大入賞口２００５が設けられていることから、前方に配置されることで第一アウト口表記２０５０ａが目立っても遊技者の関心が大入賞口２００５へ強く向けられるため、相対的に第一アウト口表記２０５０ａに対する関心が低くなり、第一アウト口表記２０５０ａが気にならなくなって第一アウト口表記２０５０ａが周囲の装飾を阻害することはない。一方、第二アウト口表記２０５０ｂは、第一アウト口表記２０５０ａよりも後方に設けているため、第二アウト口表記２０５０ｂを第一アウト口表記２０５０ａよりも目立ち難くすることができる。従って、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６６６】

換言すると、遊技球Ｂの入球によりより多くの特典が付与される大入賞口２００５に近いサブアウト口２０２３に対応するアウト口表記２０５０ほど前方に設けるようにしている。これにより、大入賞口２００５では、遊技者の関心が強く向けられることから、その大入賞口２００５の近くに設けられている第一アウト口２０２３ａの第一アウト口表記２０５０ａに対しては、相対的に関心が低くなり、当該第一アウト口表記２０５０ａを他の第二アウト口表記２０５０ｂや第三アウト口表記２０５０ｃよりも前方に設けることで目

立つようになっても気になることはなく、第一アウト口表記２０５０ａが周囲の装飾を阻害することはない。従って、上記した作用効果を奏することができる。
【１６６７】
更に、複数のアウト口表記２０５０を、第一始動口２００２に対応する入賞口表記部２０６０よりも後方に設けるようにしている。これにより、第一始動口２００２に対応する入賞口表記部２０６０が設けられているため、入賞口表記部２０６０により第一始動口２００２の存在を遊技者に気付かせることができ、第一始動口２００２への遊技球Ｂの入球を強く願わせることができる。そして、第一始動口２００２とは別に設けられている複数のサブアウト口２０２３では、対応するアウト口表記２０５０を入賞口表記部２０６０よりも後方に設けているため、アウト口表記２０５０を入賞口表記部２０６０よりも目立ち難くすることができ、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在を認識させつつ、アウト口表記２０５０によるパチンコ機１（遊技盤５）の見栄えの悪化を抑制することができる。これにより、アウト口表記２０５０が設けられていても遊技者に対して違和感を与えることはないため、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。
【１６６８】
［７－２ｂ．アウト口表記の使用例２］
続いて、上記とは異なるアウト口表記２０５０の使用例について、図１４２を参照して詳細に説明する。図１４２は、装飾部の模様に沿うようにアウト口表記を使用した遊技盤の一部を正面から示す説明図である。本実施形態の遊技盤５は、図示すように、センター役物２５００におけるステージ２５１８の中央放出部２５１８ａの下方に設けられている第一始動口２００２と、第一始動口２００２の下方に設けられておりゲート２００３を遊技球Ｂが通過することにより抽選される普通図柄の抽選結果に応じて開閉する第二始動口２００４と、第二始動口２００４の下方で遊技領域５ａの下流端（最下端）に設けられているアウト口１００８と、第二始動口２００４の左方に設けられている複数の一般入賞口２００１と、第二始動口２００４の右方に設けられているサブアウト口２０２３と、を備えている。
【１６６９】
第一始動口２００２及び第二始動口２００４は、始動口ユニット２１００に設けられている。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２の前端を構成している前板上２１０１ａと、第二始動口２００４の前端を構成している前板下２１０１ｂと、を有している。前板上２１０１ａの前面には、「始」の文字からなる第一入賞口表記部２０６０ａが設けられている。一方、前板下２１０１ｂの前面には、複数の円の図案からなるシンボル状の第二入賞口表記部２０６０ｂが設けられている。これら第一入賞口表記部２０６０ａ及び第二入賞口表記部２０６０ｂは、凹凸を有するレリーフ状に形成されており、始動口ユニット２１００と一体成形されている。
【１６７０】
複数の一般入賞口２００１は、サイドユニット２２００に設けられている。サイドユニット２２００は、各一般入賞口２００１の前端を構成している前板２２０２を有している。これら前板２２０２の前面には、渦巻状の図案（シンボル）からなる第三入賞口表記部２０６０ｃが設けられている。この第三入賞口表記部２０６０ｃは、凹凸を有するレリーフ状に形成されており、サイドユニット２２００と一体成形されている。
【１６７１】
サブアウト口２０２３は、上方へ向かって常時開口しており、入球した遊技球Ｂがアウト球として遊技盤５から排出される。つまり、アウト口１００８と同様に、サブアウト口２０２３に遊技球Ｂが入球しても特典が付与されることはない。このサブアウト口２０２３は、アタッカユニット２４００（詳細は省略）に設けられている。アタッカユニット２４００は、台板２４４１から前方へ突出してサブアウト口２０２３を形成している受部２４５０を備えている。この受部２４５０は、サブアウト口２０２３の前端を構成している

前板２４５０ａを有している。この前板２４５０ａの前面には、第三入賞口表記部２０６０ｃと同じような渦巻状の図案（模様）からなる装飾部２４５０ｂが設けられている。装飾部２４５０ｂは、凹凸を有するレリーフ状に形成されており、受部２４５０（前板２４５０ａ）と一体成形されている。このように、装飾部２４５０ｂの図案（模様）を第三入賞口表記部２０６０ｃの図案（模様）に似せることによりデザイン上はサブアウト口２０２３を一般入賞口２００１のように見せることが可能である。

【１６７２】

本実施形態のアウト口表記２０５０は、図示するように、装飾部２４５０ｂの渦巻状の模様と沿うように「Ｏ」「Ｕ」「Ｔ」のそれぞれの文字が配置されている。これにより、アウト口表記２０５０が、装飾部２４５０ｂの模様と一体的に見え、アウト口表記２０５０を表示しつつ目立ち難くして、装飾部２４５０ｂの装飾性が損なわれることはない。

【１６７３】

本実施形態の遊技盤５によれば、アウト口表記２０５０を、第三入賞口表記部２０６０ｃの図案と同じような模様の装飾部２４５０ｂに設けているため、遠くから見た時に、一般入賞口２００１が沢山あるように錯覚させることが可能となり、遊技するパチンコ機１として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。一方、一般入賞口２００１であると思っていた入球口を良く見ると、アウト口表記２０５０が表記されているため、アウト口（サブアウト口２０２３）であると認識させることができ、誤認による興趣の低下を抑制させることができる。

【１６７４】

また、アウト口表記２０５０の文字列を、アタッカユニット２４００における受部２４５０の前板２４５０ａに施されている装飾部２４５０ｂに沿うように設けているため、アウト口表記２０５０を装飾の一部のように見せることが可能となり、アウト口表記２０５０よりサブアウト口２０２３であることを遊技者に認識させつつ目立ち難くすることができ、遊技盤５に施されている装飾の装飾性が損なわれることはなく、アウト口表記２０５０を設けても見栄えが悪くなることはない。

【１６７５】

更に、アウト口表記２０５０を、対応するサブアウト口２０２３を形成しているアタッカユニット２４００（受部２４５０）に一体成形するようにしているため、シールの貼り付けによりアウト口表記２０５０を設ける場合と比較して、シールの貼り付け忘れが生じることはなく、アウト口表記２０５０を確実に表記することができると共に、シールを貼り付ける手間が不要であり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１６７６】

また、アウト口表記２０５０を受部２４５０と一体成形しているため、シールや印刷（塗装）によりアウト口表記２０５０を設ける場合と比較して、遊技球Ｂや作業者が接触しても剥がれることはない。

【１６７７】

また、アウト口表記２０５０を、周辺よりも透光性を低くしていることから、アウト口表記２０５０の周囲が明るくなるとアウト口表記２０５０が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０を認識可能（視認可能）としつつ見え辛くすることができ、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１６７８】

［７－２ｃ．アウト口表記の使用例３］

続いて、上記とは更に異なるアウト口表記２０５０の使用例について、図１４３を参照して詳細に説明する。図１４３は、複数のアウト口表記においてそれぞれの目立ち具合を異ならせて使用した遊技盤の一部を正面から示す説明図である。本実施形態の遊技盤５は、図示するように、遊技領域５ａの左右方向中央の下部に設けられ遊技球Ｂの入球により特別図柄が抽選される第一始動口２００２と、第一始動口２００２の左方に設けられている複数の一般入賞口２００１と、第一始動口２００２の方に設けられ第一始動口２００２

や第二始動口２００４（図示は省略）への入球により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて開閉する大入賞口２００５と、遊技領域５ａの下流端（最下端）に設けられているアウト口１００８と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられている複数のサブアウト口２０２３と、を備えている。

【１６７９】

第一始動口２００２は、始動口ユニット２１００に設けられている。始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２の前端を構成している前板２１０１を有している。前板２１０１の前面には、「ＩＮ」の文字からなる入賞口表記部２０６０が設けられている。本実施形態では、入賞口表記部２０６０がシールにより形成されている。

【１６８０】

複数の一般入賞口２００１は、サイドユニット２２００に設けられている。複数の一般入賞口２００１は、左右方向へ並んで設けられている。サイドユニット２２００は、各一般入賞口２００１のそれぞれの前端を構成している一枚の前板２２０２を有している。この前板２２０２の前面には、所定の装飾が印刷された装飾シール２２０３が貼り付けられている。装飾シール２２０３には、複数の三角形からなる幾何学模様の装飾が施されている。

【１６８１】

大入賞口２００５は、アタッカユニット２４００に設けられている。アタッカユニット２４００は、大入賞口２００５よりも前方に位置する前板２４４２を有している。この前板２４４２の前面には、所定の装飾が印刷された装飾シール２４４６が貼り付けられている。装飾シール２４４６には、サイドユニット２２００の装飾シール２２０３と同様に、複数の三角形からなる幾何学模様の装飾が施されている。

【１６８２】

サブアウト口２０２３は、常時開口しており、入球した遊技球Ｂがアウト球として遊技盤５から排出される。つまり、アウト口１００８と同様に、サブアウト口２０２３に遊技球Ｂが入球しても特典が付与されることはない。複数のサブアウト口２０２３は、右から第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、第三アウト口２０２３ｃ、の三つから構成されている。なお、以下では、第一アウト口２０２３ａ～第三アウト口２０２３ｃを、総称して単にサブアウト口２０２３とも称する。

【１６８３】

第一アウト口２０２３ａと第二アウト口２０２３ｂはアタッカユニット２４００に設けられており、第三アウト口２０２３ｃはサイドユニット２２００に設けられている。詳述すると、第一アウト口２０２３ａは、大入賞口２００５の上流でアタッカユニット２４００の上端辺の右隅において上方へ向かって開口している。第二アウト口２０２３ｂは、大入賞口２００５の下流でアタッカユニット２４００の左端辺の下部付近において左方へ向かって開口している。第三アウト口２０２３ｃは、サイドユニット２２００における一般入賞口２００１よりも左方の部位において、上方へ向かって開口している。なお、サイドユニット２２００における第三アウト口２０２３ｃの部位では、前板２２０２の上端辺が左方へ低くなるように斜めに傾斜している。

【１６８４】

本実施形態では、複数のサブアウト口２０２３は、遊技パネル１１００の前面に植設されている複数の障害釘Ｎによりそれぞれの入球確率が異なるように設けられており、第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、第三アウト口２０２３ｃの順に遊技球Ｂの入球確率が小さい。つまり、第一アウト口２０２３ａよりも第三アウト口２０２３ｃの方が入球し易くなっている。

【１６８５】

本実施形態では、アウト口表記２０５０は、第一アウト口２０２３ａを表記する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂを表記する第二アウト口表記２０５０ｂと、第三アウト口２０２３ｃを表記する第三アウト口表記２０５０ｃと、を有している。第一アウト口表記２０５０ａ～第三アウト口表記２０５０ｃは、それぞれの態様が異な

っている。なお、以下では、第一アウト口表記２０５０ａ～第三アウト口表記２０５０ｃを総称して単にアウト口表記２０５０とも称する。

【１６８６】

各アウト口表記２０５０について詳述する。第一アウト口表記２０５０ａは、第一アウト口２０２３ａよりも上側で、アタッカユニット２４００の前板２４４２における右上隅に設けられている。第一アウト口表記２０５０ａは、左右に並んだ「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。この第一アウト口表記２０５０ａは、入賞口表記部２０６０の文字よりは小さいものの、目立つように比較的大きな文字で構成されている。第一アウト口表記２０５０ａは、アタッカユニット２４００の前板２４４２に貼り付けられている装飾シール２４４６の装飾（幾何学模様）に上から重なるように、当該装飾と一緒に印刷されている。第一アウト口表記２０５０ａは、周縁部２０５２の色が白色であり、装飾シール２４４６の装飾と重なっていても、認識する（読む）ことができる。

【１６８７】

第二アウト口表記２０５０ｂは、第二アウト口２０２３ｂよりも上側で、アタッカユニット２４００の前板２４４２に貼り付けられている装飾シール２４４６に設けられている。第二アウト口表記２０５０ｂは、左右に並んだ「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。この第二アウト口表記２０５０ｂは、第一アウト口表記２０５０ａよりも小さい文字により構成されている。第二アウト口表記２０５０ｂは、装飾シール２４４６の装飾（幾何学模様）に上から重なるように、当該装飾と一緒に印刷されている。第二アウト口表記２０５０ｂは、周縁部２０５２の色が白色であり、装飾シール２４４６の装飾と重なっていても、認識する（読む）ことができる。

【１６８８】

第三アウト口表記２０５０ｃは、第三アウト口２０２３ｃの前方で、サイドユニット２２００の前板２２０２に貼り付けられている装飾シール２２０３に設けられている。第三アウト口表記２０５０ｃは、「ＯＵＴ」の文字が「Ｏ」「Ｕ」「Ｔ」に分解されて、前板２２０２における上端辺の斜めになっている部位に沿って斜めに列設されている。この第三アウト口表記２０５０ｃは、第一アウト口表記２０５０ａ及び第二アウト口表記２０５０ｂよりも小さい文字で構成されている。第三アウト口表記２０５０ｃは、装飾シール２２０３の装飾（幾何学模様）に上から重なるように、当該装飾と一緒に印刷されている。第三アウト口表記２０５０ｃは、周縁部２０５２の色が白色であり、装飾シール２２０３の装飾と重なっていても、認識する（読む）ことができる。

【１６８９】

本実施形態では、第一始動口２００２や第二始動口２００４（ここでの図示は省略）への始動入賞により特別図柄として「大当り」等が抽選されると、大入賞口２００５が所定の開閉パターンで開閉する。この大入賞口２００５は、センター役物２５００の下方で遊技領域５ａの左右方向中央よりも右方の部位に設けられているため、遊技球Ｂがセンター役物２５００の右側を流下するように「右打ち」を行うこととなる。この「右打ち」された遊技球Ｂのルート上（大入賞口２００５の上流）には、第一アウト口２０２３ａが設けられていると共に、第一アウト口２０２３ａを表記している第一アウト口表記２０５０ａが目立つように設けられている。これにより、遊技者に対して第一アウト口２０２３ａの存在に気付かせることができ、「右打ち」された遊技球Ｂが第一アウト口２０２３ａに入球しないように願わせることが可能となる。この第一アウト口２０２３ａは、他の第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃよりも入球確率が低く設定されているため、第一アウト口表記２０５０ａが目立つほどには入球することはない。そして、第一アウト口２０２３ａに遊技球Ｂが入球しても、遊技者は予め第一アウト口２０２３ａの存在を充分に認識しているため、興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【１６９０】

また、本実施形態では、第二アウト口２０２３ｂを大入賞口２００５の下流に設けているため、第二アウト口表記２０５０ｂにより第二アウト口２０２３ｂの存在を認識してい

ても、大入賞口２００５に入球しなかった遊技球Ｂへの関心が薄く、第二アウト口２０２３ｂに入球しても興趣が低下することはない。

【１６９１】

更に、本実施形態では、第三アウト口２０２３ｃをサイドユニット２２００において一般入賞口２００１の左方に設けていると共に、第三アウト口表記２０５０ｃを他よりも目立ち難くしているため、遊技者に対して第三アウト口２０２３ｃへの関心を低くしている。そして、第三アウト口２０２３ｃが、他の第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂよりも入球確率が高く設定されていても、第三アウト口２０２３ｃへの入球を気付かせ難くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１６９２】

このように、本実施形態によれば、複数のサブアウト口２０２３を備えていても、各サブアウト口２０２３に対応するアウト口表記２０５０をそれぞれ設けているため、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。そして、入球し難い第一アウト口２０２３ａと対応している第一アウト口表記２０５０ａを他のアウト口表記２０５０よりも目立つようにしているため、遊技者の関心を入球し難い第一アウト口２０２３ａへ引き付けさせることができ、入球し易い第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃへの入球に気付かせ難くして、サブアウト口２０２３への入球による興趣の低下を抑制させることができる。

【１６９３】

また、複数設けられているサブアウト口２０２３に対応しているそれぞれのアウト口表記２０５０を、異なる識別態様で設けているため、それぞれのアウト口表記２０５０を、サブアウト口２０２３の開口方向と対応させたり、サブアウト口２０２３が設けられている部位の装飾と対応させたり、することが可能となり、アウト口表記２０５０を表示しつつ目立ち難くすることができる。具体的には、第一アウト口２０２３ａが上方向へ向かって開口し、第三アウト口２０２３ｃが左斜め上方向へ向かって開口しており、第一アウト口表記２０５０ａを横書きにし、第三アウト口表記２０５０ｃを斜め書きにしている。これにより、それぞれのアウト口表記２０５０が対応しているサブアウト口２０２３の開口縁に沿った状態となり、それぞれのアウト口表記２０５０が目立ち難くなると共に、アウト口表記２０５０に対して違和感を与え難くすることができる。これにより、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６９４】

また、アウト口表記２０５０の文字列を、装飾シール２２０３や装飾シール２４４６に施されている装飾に沿うように設けているため、アウト口表記２０５０を装飾の一部のように見せることが可能となり、アウト口表記２０５０よりサブアウト口２０２３であることを遊技者に認識させつつ目立ち難くすることができ、遊技盤５に施されている装飾の装飾性が損なわれることはなく、アウト口表記２０５０を設けても見栄えが悪くなることはない。

【１６９５】

また、アウト口表記２０５０を装飾シール２２０３や装飾シール２４４６に施しているため、アウト口表記２０５０が施（印刷）された装飾シール２２０３や装飾シール２４４６を、対応するサブアウト口２０２３の前板２２０２や前板２４５０ａに貼り付けることで、アウト口表記２０５０を設けることができる。また、例えば、同じサイドユニット２２００であっても仕様や機種によって一般入賞口２００１としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２２０３を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【１６９６】

更に、アウト口表記２０５０の施された装飾シール２２０３や装飾シール２４４６を、

遊技球Ｂと接触しない前板２２０２や前板２４５０ａに貼り付けているため、遊技球Ｂの接触によって装飾シール２２０３や装飾シール２４４６が剥がれることはない。

【１６９７】

また、アウト口表記２０５０を、周辺よりも透光性を低くしていることから、アウト口表記２０５０の周囲が明るくなるとアウト口表記２０５０が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０を認識可能（視認可能）としつつ見え辛くすることができ、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１６９８】

また、他よりも入球し易いサブアウト口２０２３（ここでは、第三アウト口２０２３ｃ）ほど、対応するアウト口表記２０５０（第三アウト口表記２０５０ｃ）を流通する遊技球Ｂよりも前方に設けている。つまり、第三アウト口表記２０５０ｃをサイドユニット２２００の前板２２０２に設けている。これにより、頻繁に第三アウト口２０２３ｃに遊技球Ｂが入球しても、入球する遊技球Ｂにより第三アウト口表記２０５０ｃが隠れて視認（読み）辛くなることはなく、第三アウト口表記２０５０ｃを確実に視認させて第三アウト口２０２３ｃの存在を認識させることができる。

【１６９９】

［７－２ｄ．アウト口表記の使用例４］

続いて、上記とは更に異なるアウト口表記２０５０の使用例について、図１４４を参照して詳細に説明する。図１４４（ａ）は正面視において演出操作ユニットと重なるようにアウト口表記が設けられているパチンコ機を模式的に示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）のパチンコ機を左右方向中央で切断して模式的に示す縦断面図である。

【１７００】

本実施形態のパチンコ機１は、遊技盤５の下部に、第一始動口２００２と二つのサブアウト口２０２３とを有した始動口ユニット２１００が設けられている。二つのサブアウト口２０２３は、第一始動口２００２よりも下方で第一始動口２００２を間にして左右両側に設けられている。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２やサブアウト口２０２３の前端を構成している前板２１０１を有している。前板２１０１の前面におけるサブアウト口２０２３の前方の部位には、「ＯＵＴ」の文字からなるアウト口表記２０５０が設けられている。本実施形態では、アウト口表記２０５０がシールとして貼り付けられている。

【１７０１】

遊技盤５の始動口ユニット２１００は、扉枠３における扉窓１０１ａの下端よりも上方に設けられている。つまり、始動口ユニット２１００（アウト口表記２０５０）は、正面視において、扉窓１０１ａから前方へ臨む部位に設けられている。

【１７０２】

また、本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３における扉窓１０１ａの下方且つ前方に設けられている皿ユニット２００に、前方体としての演出操作ユニット３００が設けられている。演出操作ユニット３００は、遊技者参加型演出が実行された時に、遊技者が操作して演出に参加することが可能となる演出操作部３０１を有している。なお、ここでの演出操作ユニット３００は、全体が球形状に形成されており、上端が扉窓１０１ａの下端よりも上方へ突出している。

【１７０３】

図１４４（ａ）に示すように、正面視において、始動口ユニット２１００の二つのアウト口表記２０５０が前方体としての演出操作ユニット３００の後方に位置しており、正面からは視認することができない。これにより、他の遊技者からはアウト口表記２０５０を視認し難くすることができるため、アウト口表記２０５０が見えることによる遊技盤５の見栄えの低下を抑制させることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【１７０４】

ところで、このパチンコ機１では、演出操作ユニット３００と始動口ユニット２１００

（アウト口表記２０５０）との間に空間部２０５５が設けられている。そして、本パチンコ機１の前方に遊技者が着座すると、この空間部２０５５を通してアウト口表記２０５０を視認することが可能となる。これにより、複数のサブアウト口２０２３が設けられていても、前方に着座した遊技者からはサブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０が見えるため、サブアウト口２０２３の存在を認識させることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。

【１７０５】

なお、前方体としては、演出操作ユニット３００（演出操作部３０１）に限定するものではなく、皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１、皿ユニット２００に設けられている装飾体、扉枠右サイドユニット４３０に設けられている装飾体、等が挙げられる。そして、前方体におけるアウト口表記２０５０を隠している部位の形態（形状）に応じて、アウト口表記２０５０の表記の態様を変更するようにしても良い。つまり、前方体によるアウト口表記２０５０の隠れ方に応じてアウト口表記２０５０の表記を変えるようにしても良い。具体的には、例えば、正面の演出操作ユニット３００では横方向にアウト口表記２０５０を隠しているため、当該アウト口表記２０５０を横書きにする。また、縦長の扉枠右サイドユニット４３０の装飾体では縦方向にアウト口表記２０５０が隠れることとなるため、当該アウト口表記２０５０を縦書きにする。

【１７０６】

また、上記では、アウト口表記２０５０が正面視において前方体により完全に隠れるものを示したが、これに限定するものではなく、正面視においてアウト口表記２０５０の一部が隠れるものであっても良い。この場合、前方体によりアウト口表記２０５０を隠す方向と同じ方向へ長いアウト口表記２０５０としても良いが、前方体によりアウト口表記２０５０を隠す方向に対して、交差する方向へ長いアウト口表記２０５０として一部が隠れるようにしても良い。具体的には、例えば、前方体が横方向に隠している場合（演出操作ユニット３００の場合）はアウト口表記２０５０を縦書きにし、前方体が縦方向に隠している場合（扉枠右サイドユニット４３０の場合）はアウト口表記２０５０を横書きにする。

【１７０７】

更に、演出操作ユニット３００としては、皿ユニット２００に対して着脱可能に設けられていても良い。これにより、パチンコ機１において仕様変更や機種変更等により遊技盤５を交換する際に、当該遊技盤５の装飾や演出などのコンセプトと対応している演出操作ユニットに交換することで、機種変更等に容易に対応することができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供し易くすることができる。

【１７０８】

この使用例によれば、アウト口表記２０５０の少なくとも一部が、正面からは前方体としての演出操作ユニット３００と重なって視認不能としていると共に、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者からは空間部２０５５を通して視認可能としているため、本パチンコ機１において遊技している遊技者に対してはアウト口表記２０５０による上記のような作用効果を発揮させつつ、他の遊技者に対しては演出操作ユニット３００によりアウト口表記２０５０を目立ち難くすることで、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を回避させることができる。従って、他の遊技者に対しては、アウト口表記２０５０が設けられていても見え辛いため、違和感を与えることはなく、本パチンコ機１に施されている装飾による装飾効果を充分に発揮させることができ、遊技するパチンコ機として選択され易いパチンコ機１を提供することができる。

【１７０９】

また、アウト口表記２０５０を、遊技領域５ａを前方から視認可能にしている扉窓１０１ａの周縁に接近するように設けているため、アウト口表記２０５０が目立ち難くなり、アウト口表記２０５０により遊技者に違和感を与えることはなく、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１７１０】

また、アウト口表記２０５０を、前方体としての演出操作ユニット３００と正面視にお

いて重なる部位の長手方向と同じ方向へ長く延出するように設けている。具体的には、演出操作ユニット３００と重なる部位が左右に長いため、アウト口表記２０５０を横書きにしている。これにより、アウト口表記２０５０が演出操作ユニット３００によって確実に隠されることとなるため、他の遊技者からアウト口表記２０５０を見え辛くすることができ、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【１７１１】

［７－３ａ．アウト口表記とＬＥＤとの関係１］

次に、遊技盤５において、アウト口表記２０５０と、後方の装飾基板２０５６等に実装されているＬＥＤ２０５６ａとの関係について、図１４５を参照して詳細に説明する。図１４５（ａ）は正面視におけるアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図であり、（ｂ）は前方に着座した遊技者とアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図である。なお、ここでは、サブアウト口２０２３がサイドユニット２２００に設けられていると共に、サブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０が遊技パネル１１００の前面に設けられているものを例として説明する。

【１７１２】

本実施形態の遊技盤５は、サブアウト口２０２３を有し透明な遊技パネル１１００に取付けられているサイドユニット２２００と、遊技パネル１１００の前面に設けられサブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０と、遊技パネル１１００の後方に設けられ複数のＬＥＤ２０５６ａが前面に実装されている装飾基板２０５６と、を備えている。この遊技盤５では、装飾基板２０５６の複数のＬＥＤ２０５６ａを発光させることで、遊技パネル１１００やサイドユニット２２００を発光装飾させることができる。

【１７１３】

図１４５（ａ）は、正面視においてアウト口表記２０５０の後方にはＬＥＤ２０５６ａが設けられていない例である。換言すると、アウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとが正面視において重ならないように互いが設けられている。これにより、透光性（光透過度）の低いアウト口表記２０５０によりＬＥＤ２０５６ａからの光が遮られることはなく、ＬＥＤ２０５６ａの発光による演出効果を確実に発揮させることができる。そして、ＬＥＤ２０５６ａからの光により明るく発光装飾させることができるため、アウト口表記２０５０が相対的に暗くなって見え辛くなり、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１７１４】

図１４５（ｂ）は、前方に着座した遊技者がアウト口表記２０５０を見た時に、その視線上にＬＥＤ２０５６ａを設けていない例である。換言すると、着座した遊技者から、アウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとが重ならないようにしたものである。これにより、透光性（光透過度）の低いアウト口表記２０５０によりＬＥＤ２０５６ａからの光が遮られることはなく遊技者の目に届くこととなり、ＬＥＤ２０５６ａの発光演出を確実に楽しませることができる。また、遊技者の目にＬＥＤ２０５６ａからの光が届き易くなることで、発光演出を眩しく見せることが可能となるため、その眩しさによりアウト口表記２０５０が相対的に暗くなって見え辛くすることができ、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１７１５】

なお、上記では、遊技パネル１１００にアウト口表記２０５０を設けた例を示したが、これに限定するものではなく、サブアウト口２０２３の前端を構成しているサイドユニット２２００の前板２１０１にアウト口表記２０５０を設けても良い。

【１７１６】

また、上記では、サイドユニット２２００にサブアウト口２０２３が設けられているものを示したが、これに限定するものではなく、始動口ユニット２１００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００、等にサブアウト口２０２３が設けられていても良い。

【１７１７】

更に、遊技パネル１１００の前面に、所定の装飾が施されているパネル装飾１１１３を

設けても良い。この場合、パネル装飾１１１３として、後述する高透過度部１１１３ａと低透過度部１１１３ｂとを有するものとしても良い（図１４６（ａ）を参照）。
【１７１８】
　また、上記の実施形態では、図１４５において二点鎖線で示すように、アウト口表記２０５０の少なくとも一部を、遊技盤５よりも前方に設けられている前方体（例えば、演出操作ユニット３００）と正面視で重なる箇所に設け、前方体と遊技盤５との間に、アウト口表記２０５０のうちの前方体と正面視で重なっている部位を遊技者に視認可能にする空間部２０５５を設けるようにしても良い。これにより、上述したアウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとの関係による作用効果に加えて、本パチンコ機１において遊技している遊技者に対してはアウト口表記２０５０を視認可能としてサブアウト口２０２３の存在を認識させつつ、他の遊技者に対しては演出操作ユニット３００によりアウト口表記２０５０を目立ち難くすることで、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を回避させることができる。
【１７１９】
［７－３ｂ．アウト口表記とＬＥＤとの関係２］
　続いて、遊技盤５におけるアウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとの上記とは異なる関係について、図１４６を参照して詳細に説明する。図１４６（ａ）は正面視において遊技盤におけるアウト口表記が設けられている部位を拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の遊技盤において正面視におけるアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図であり、（ｃ）は（ａ）の遊技盤において前方に着座した遊技者とアウト口表記とＬＥＤとの関係を示す説明図である。なお、ここでは、サブアウト口２０２３がサイドユニット２２００に設けられていると共に、サブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０が遊技パネル１１００の前面に設けられているものを例として説明する。
【１７２０】
　本実施形態の遊技盤５は、サブアウト口２０２３を有し透明な遊技パネル１１００に取付けられているサイドユニット２２００と、遊技パネル１１００の前面に設けられサブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０と、遊技パネル１１００の後方に設けられ複数のＬＥＤ２０５６ａが前面に実装されている装飾基板２０５６と、を備えている。この遊技盤５では、遊技パネル１１００の前面に装飾が施されたパネル装飾１１１３が設けられている。また、遊技盤５では、装飾基板２０５６の複数のＬＥＤ２０５６ａを発光させることで、遊技パネル１１００やサイドユニット２２００を発光装飾させることができる。
【１７２１】
　本実施形態では、図１４６（ａ）に示すように、遊技パネル１１００の前面に設けられているパネル装飾１１１３の装飾は、光透過度の高い高透過度部１１１３ａと、光透過度の低い低透過度部１１１３ｂ（網掛け部分）と、を有している。そして、アウト口表記２０５０は、パネル装飾１１１３の装飾における光透過度の低い部分と重なるように設けられている。これにより、ぱっと見では、アウト口表記２０５０がパネル装飾１１１３の装飾の一部のように見え、アウト口表記２０５０が目立ち難くなっている。
【１７２２】
　図１４６（ｂ）に示す例は、正面視においてアウト口表記２０５０の後方にＬＥＤ２０５６ａを設けたものである。換言すると、正面視において、アウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとが重なるようにしたものである。これにより、ＬＥＤ２０５６ａを発光させていない状態では、正面のアウト口表記２０５０によりＬＥＤ２０５６ａを隠すことができ、ＬＥＤ２０５６ａが見えることによる見栄えの悪化を抑制することができる。そして、ＬＥＤ２０５６ａを発光させると、その正面へ照射された光がアウト口表記２０５０により遮られることとなるが、パネル装飾１１１３におけるアウト口表記２０５０の周囲には光透過度の高い高透過度部１１１３ａが設けられているため、アウト口表記２０５０の周囲が明るく光ることとなり、その明るさによりアウト口表記２０５０が相対的に暗くなって見え辛くなる。従って、ＬＥＤ２０５６ａによる発光演出の際に、アウト口表記２

０５０を見え難くすることができ、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの悪化を抑制しつつ、ＬＥＤ２０５６ａによる発光演出の演出効果を確実に発揮させることができる。

【１７２３】

図１４６（ｃ）に示す例は、前方に着座した遊技者がアウト口表記２０５０を見た時に、その視線上にＬＥＤ２０５６ａが設けられているものである。換言すると、着座した遊技者から、アウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとが重なるようにしたものである。これにより、ＬＥＤ２０５６ａを発光させていない状態では、アウト口表記２０５０によりＬＥＤ２０５６ａを隠すことができ、ＬＥＤ２０５６ａが見えることによる見栄えの悪化を抑制することができる。そして、ＬＥＤ２０５６ａを発光させると、遊技者へ向かって照射された光がアウト口表記２０５０により遮られることとなるが、パネル装飾１１１３におけるアウト口表記２０５０の周囲には光透過度の高い高透過度部１１１３ａが設けられているため、アウト口表記２０５０の周囲が明るく光ることとなり、その明るさによりアウト口表記２０５０が相対的に暗くなって見え辛くなる。従って、ＬＥＤ２０５６ａによる発光演出の際に、アウト口表記２０５０を見え難くすることができ、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの悪化を抑制しつつ、ＬＥＤ２０５６ａによる発光演出の演出効果を確実に発揮させることができる。

【１７２４】

なお、上記では、遊技パネル１１００にアウト口表記２０５０を設けた例を示したが、これに限定するものではなく、サブアウト口２０２３の前端を構成しているサイドユニット２２００の前板２１０１にアウト口表記２０５０を設けても良い。

【１７２５】

また、上記では、サイドユニット２２００にサブアウト口２０２３が設けられているものを示したが、これに限定するものではなく、始動口ユニット２１００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００、等にサブアウト口２０２３が設けられていても良い。

【１７２６】

また、上記の実施形態では、図１４６において二点鎖線で示すように、アウト口表記２０５０の少なくとも一部を、遊技盤５よりも前方に設けられている前方体（例えば、演出操作ユニット３００）と正面視で重なる箇所に設け、前方体と遊技盤５との間に、アウト口表記２０５０のうちの前方体と正面視で重なっている部位を遊技者に視認可能にする空間部２０５５を設けるようにしても良い。これにより、上述したアウト口表記２０５０とＬＥＤ２０５６ａとの関係による作用効果に加えて、本パチンコ機１において遊技している遊技者に対してはアウト口表記２０５０を視認可能としてサブアウト口２０２３の存在を認識させつつ、他の遊技者に対しては演出操作ユニット３００によりアウト口表記２０５０を目立ち難くすることで、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を回避させることができる。

【１７２７】

［７－４．入球口表記と入球口部材との関係］

続いて、アウト口表記２０５０や入賞口表記部２０６０のような入球口表記と、アウト口や入賞口のような入球口が設けられている入球口部材（例えば、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００、等）との関係について、図１４７～図１５０等を参照して詳細に説明する。図１４７（ａ）は複数のアウト口表記が施されている入球口部材の正面図であり、（ｂ）は（ａ）の入球口部材の背面図である。図１４８（ａ）は図１４７とは異なる態様のアウト口表記が施されている入球口部材におけるアウト口表記の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の背面図である。図１４９（ａ）は図１４７および図１４８とは更に異なり両面印刷されたアウト口表記が施されている入球口部材におけるアウト口表記の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の背面図である。図１５０は、貼り付けられている装飾シールにアウト口表記と透明部とが施されている透明な入球口部材の一部を示す正面図である。

【１７２８】
［７－４ａ．入球口表記と入球口部材との関係例１］
まず、図１４７に示す実施形態について説明する。ここでは、サイドユニット２２００を入球口部材としたものであり、二つの一般入賞口２００１と、二つのサブアウト口２０２３とを有している。詳述すると、このサイドユニット２２００は、サブアウト口２０２３として左右に離隔している第一アウト口２０２３ａと第二アウト口２０２３ｂとを有しており、それら第一アウト口２０２３ａと第二アウト口２０２３ｂとの間に、二つの一般入賞口２００１が設けられている。
【１７２９】
このサイドユニット２２００は、透明な部材により形成されている。サイドユニット２２００は、前後方向へ延出している樋状の四つの樋部２２０４と、前後方向へ延出している枠状の棚部２２０１と、四つの樋部２２０４と棚部２２０１の前端側を閉鎖している平板状の前板２２０２と、前板２２０２よりも後方で前板２２０２と平行に延出しているフランジ部２２０５と、前板２２０２を貫通しているシール剥孔２２０６と、各樋部２２０４の底から上方へ延出している案内リブ２２０７と、前板２２０２の前面に貼り付けられている装飾シール２２０３と、を有している。
【１７３０】
樋部２２０４は、断面がＵ字状に形成されている。四つの樋部２２０４は、左右方向に列設されており、左方へ向かうほど高い位置に設けられている。各樋部２２０４は、後部がフランジ部２２０５よりも後方へ突出している。棚部２２０１は、正面視右端の樋部２２０４の右方に設けられており、上面が右方へ向かって低くなるように傾斜している。棚部２２０１は、前後方向の長さ（奥行）が四つの樋部２２０４よりも短い。
【１７３１】
フランジ部２２０５は、前後方向の位置が棚部２２０１の後端と同じであり、四つの樋部２２０４と棚部２２０１とを間にして左右二つに分けられている。左側のフランジ部２２０５は、正面視左端の樋部２２０４から左上へ延出するように設けられており、右側のフランジ部２２０５は、棚部２２０１の右下隅から右下へ延出するように設けられている。
【１７３２】
シール剥孔２２０６は、前板２２０２の前面に貼り付けられている装飾シール２２０３によって前端側が閉鎖されている。このシール剥孔２２０６は、製造時において装飾シール２２０３を貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりする場合に、前板２２０２から装飾シール２２０３を剥がすためのものである。詳述すると、サイドユニット２２００の裏側からシール剥孔２２０６に棒状部材を挿入し、その先端により装飾シール２２０３の裏面を前方へ押圧すると、装飾シール２２０３の一部が前板２２０２から剥がれて前方へ持ち上がることとなり、装飾シール２２０３の持ち上がった部位を引っ張ることで、前板２２０２から装飾シール２２０３を容易に剥がすことができる。
【１７３３】
案内リブ２２０７は、前端が前板２２０２の後面に接しており、後方へ向かうほど低くなるように傾斜している。この案内リブ２２０７により、一般入賞口２００１やサブアウト口２０２３に上方から入球した遊技球Ｂを後方へ案内することができる。
【１７３４】
装飾シール２２０３は、図示するように、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定の絵柄が施（印刷）されている絵柄部２２０３ａと、絵柄部２２０３ａの裏側において白色や灰色のような所定色で施されている裏打部２２０３ｂ（図１４７（ｂ）において網掛けで示す部位）と、を有している。
【１７３５】
また、装飾シール２２０３には、サブアウト口２０２３（第一アウト口２０２３ａおよび第二アウト口２０２３ｂ）と対応する部位に、「ＯＵＴ」の文字列からなるアウト口表記２０５０（第一アウト口表記２０５０ａおよび第二アウト口表記２０５０ｂ）が施されている。第一アウト口表記２０５０ａは、第一アウト口２０２３ａの上端縁に沿うように

、文字列が水平に対して傾斜している。第二アウト口表記２０５０ｂは、文字列が水平である。これらアウト口表記２０５０は、絵柄部２２０３ａよりも前に施されている。
【１７３６】
装飾シール２２０３の裏打部２２０３ｂは、表側の絵柄部２２０３ａの発色を良くするためのものである。この裏打部２２０３ｂと絵柄部２２０３ａとにより、前方から前板２２０２の後方を視認不能としている。つまり、前方からは、棚部２２０１、樋部２２０４、シール剥孔２２０６、および案内リブ２２０７が、見えないようになっている。
【１７３７】
本実施形態では、裏打部２２０３ｂが、第一アウト口表記２０５０ａの裏側（後方）にも施されており、サイドユニット２２００の裏側からは第一アウト口表記２０５０ａが視認困難となっている。一方、第二アウト口表記２０５０ｂの裏側（後方）には、裏打部２２０３ｂが施されておらず、図示するように、透明な前板２２０２を通してサイドユニット２２００の裏側から第二アウト口表記２０５０ｂが視認可能となっている。詳述すると、サイドユニット２２００を裏側から見ると、第二アウト口表記２０５０ｂの部位に「ＴＵＯ」の文字列が見える。この文字列は、「ＯＵＴ」がミラー表示されているものであると容易に類推することができ、第二アウト口表記２０５０ｂの存在を認識することができる。換言すると、裏側からは「ＴＵＯ」の文字列が見えるが、当該文字列は「ＯＵＴ」の鏡文字であると容易に推定することができ、違う文字または違う文字列として読んだり、文字列を逆に読んだりすることはなく、裏側からでも「ＯＵＴ」と正しく読むことができる。つまり、裏側からでも第二アウト口表記２０５０ｂが判読可能である。なお、第二アウト口表記２０５０ｂの後方に裏打部２２０３ｂを設ける場合は、裏打部２２０３ｂを薄くしたり色を変えたりして、裏側から裏打部２２０３ｂを通して第二アウト口表記２０５０ｂを視認可能（認識可能）とすることが望ましい。
【１７３８】
このように、本実施形態によれば、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側から入球口表記としての第二アウト口表記２０５０ｂを視認することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立作業において、第二アウト口表記２０５０ｂをサイドユニット２２００の取付方向の目安にすることができる。
【１７３９】
また、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側からもアウト口表記２０５０を認識することができるため、裏側からもサブアウト口２０２３を有する部材であることを判別することができる。具体的には、例えば、同じサイドユニット２２００であっても仕様や機種によって入球口を一般入賞口２００１としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側からもアウト口表記２０５０を認識することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立ての際に、当該サイドユニット２２００が入球口を一般入賞口２００１としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。
【１７４０】
更に、アウト口表記２０５０を、透明な前板２２０２に貼り付けられる装飾シール２２０３に施しているため、アウト口表記２０５０が施（印刷）された装飾シール２２０３を、前板２２０２に貼り付けることで、サブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０を設けることができると共に、透明な前板２２０２を通して裏側から第二アウト口表記２０５０ｂを認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じサイドユニット２２００であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２２０３を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。
【１７４１】
また、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側からは、第一アウト口表記２０５０ａを視認困難としつつ、第二アウト口表記２０５０ｂを視認可能（視認容易）としている。つまり、複数のサブアウト口２０２３が設けられていると共に、それぞれのサブ

アウト口２０２３に対応しているアウト口表記２０５０が設けられている入球口部材において、裏側から視認可能なアウト口表記２０５０（第二アウト口表記２０５０ｂ）と視認不能なアウト口表記２０５０（第一アウト口表記２０５０ａ）とを混在させている。これにより、サイドユニット２２００の表側と裏側とでは、視認できるアウト口表記２０５０の数が異なっているため、サイドユニット２２００の表裏を容易に判別することができ、組立作業が楽になる。

【１７４２】

更に、第二アウト口表記２０５０ｂでは、後方に装飾シール２２０３の絵柄の発色を良くするための裏打部２２０３ｂを設けていないため、裏打部２２０３ｂが設けられている部位（絵柄部２２０３ａの部位や第一アウト口表記２０５０ａの部位）よりも光が透過し易くなっている。つまり、サイドユニット２２００の後方が明るくなると、装飾シール２２０３において、第二アウト口表記２０５０ｂの部位が、他の部位よりも明るくなる。従って、後方に裏打部２２０３ｂが設けられて裏側から視認困難な第一アウト口表記２０５０ａよりも、後方に裏打部２２０３ｂが設けられていないことで裏側から視認可能な第二アウト口表記２０５０ｂを明るく見せて、第二アウト口表記２０５０ｂを目立たせることができる。

【１７４３】

従って、例えば、サイドユニット２２００に設けられている第一アウト口２０２３ａと第二アウト口２０２３ｂにおいて、第一アウト口２０２３ａへの入球確率よりも第二アウト口２０２３ｂへの入球確率を低くする。そして、上記のように裏打部２２０３ｂが設けられていないことにより第二アウト口表記２０５０ｂが明るくなって目立つことから、遊技者に対して第二アウト口２０２３ｂの存在に気付かせて、第二アウト口２０２３ｂに遊技球Ｂが入球しないように願わせることが可能となる。この第二アウト口２０２３ｂは、第一アウト口２０２３ａよりも入球確率が低く設定されているため、第二アウト口表記２０５０ｂが目立つほどには入球することはない。そして、第二アウト口２０２３ｂに遊技球Ｂが入球しても、遊技者は予め第二アウト口２０２３ｂの存在を充分に認識しているため、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【１７４４】

上記のようなことから、複数のサブアウト口２０２３（アウト口表記２０５０）が設けられている入球口部材において、例えば、各サブアウト口２０２３への入球確率が同じに設定されている入球口部材では、前側から見ても後側から見ても視認可能なアウト口表記２０５０の数が同じ、或いは、後側から見ると全てのアウト口表記２０５０が視認困難、とする。一方、各サブアウト口２０２３への入球確率が異なるように設定されている入球口部材では、前側からと後側からとでは視認可能なアウト口表記２０５０の数を異ならせる。換言すると、裏側から見た時に視認困難なアウト口表記２０５０と視認可能なアウト口表記２０５０とを混在させる。このようにする場合、入球口部材を裏側から見た時に、視認可能なアウト口表記２０５０と視認困難なアウト口表記２０５０とが混在していると、作業者に対して当該入球口部材は、複数設けられているサブアウト口２０２３の入球確率が異なっている入球口部材であることを認識させることができる。これにより、例えば、パチンコ機１の組立現場において、機種や仕様の異なる多品種の遊技盤５が製造ライン上を流れていても、入球口部材を裏側から見ることで、入球確率が異なっている用の入球口部材であるか否かを容易に判別することができ、仕様に応じた入球口部材の取付け間違えを回避させることができる。

【１７４５】

また、遊技盤５の遊技領域５ａには、一般入賞口２００１のような複数の入賞口と、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂのような複数のサブアウト口２０２３と、が設けられており、第一アウト口２０２３ａと対応する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂと対応する第二アウト口表記２０５０ｂと、を互いに異なる識別態様で設けるようにしている。これにより、第一アウト口２０２３ａと対応した第一ア

ウト口表記２０５０ａや第二アウト口２０２３ｂに対応した第二アウト口表記２０５０ｂのようなアウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂを一般入賞口２００１と誤認することはないため、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂへの遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の遊技に対する興趣が低下することはない。

【１７４６】

ところで、本実施形態では、第一アウト口表記２０５０ａが後方へ延出している延出部としての案内リブ２２０７の前方に設けられており、第一アウト口表記２０５０ａが案内リブ２２０７と前後に重なるように設けられている。そして、上述したように、第一アウト口表記２０５０ａの裏側には、裏打部２２０３ｂが設けられているため、前側からは案内リブ２２０７が透けて見えることはなく、案内リブ２２０７が見えることによる見栄えの悪化が抑制されている。

【１７４７】

一方、第二アウト口表記２０５０ｂは、案内リブ２２０７とは前後に重ならないように設けられている。この第二アウト口表記２０５０ｂの裏側には裏打部２２０３ｂが設けられていないため、上述したように、第二アウト口表記２０５０ｂは第一アウト口表記２０５０ａよりも透光性（光の透過度）が高くなっており、後方が透けて見え易くなっているが、第二アウト口表記２０５０ｂの後方には案内リブ２２０７が設けられていないため、前側から案内リブ２２０７が透けて見えることはなく、案内リブ２２０７が見えることによる見栄えの悪化が抑制されている。

【１７４８】

また、第一アウト口表記２０５０ａの裏側には裏打部２２０３ｂが設けられているのに対して、第二アウト口表記２０５０ｂの裏側には裏打部２２０３ｂが設けられていないため、（前方が明るいと）第一アウト口表記２０５０ａの方が第二アウト口表記２０５０ｂよりも奇麗に（明瞭に）見えることとなり、第一アウト口表記２０５０ａを目立たせることができ、第一アウト口表記２０５０ａと対応している第一アウト口２０２３ａに遊技者の関心を引き付けさせることができる。つまり、裏側から見た時に、視認可能な第二アウト口表記２０５０ｂと視認不能（視認困難）な第一アウト口表記２０５０ａとを混在させると、前方が明るい状態では第二アウト口表記２０５０ｂよりも第一アウト口表記２０５０ａを目立たせることが可能となる。従って、例えば、サイドユニット２２００に設けられている第一アウト口２０２３ａと第二アウト口２０２３ｂにおいて、第二アウト口２０２３ｂへの入球確率よりも第一アウト口２０２３ａへの入球確率を低くする。そして、上記のように裏打部２２０３ｂが設けられていることにより前方からの光によって第一アウト口表記２０５０ａが奇麗に見えて目立つことから、遊技者に対して第一アウト口２０２３ａの存在に気付かせて、第一アウト口２０２３ａに遊技球Ｂが入球しないように願わせることが可能となる。この第一アウト口２０２３ａは、第二アウト口２０２３ｂよりも入球確率が低く設定されているため、第一アウト口表記２０５０ａが目立つほどには入球することはない。そして、第一アウト口２０２３ａに遊技球Ｂが入球しても、遊技者は予め第一アウト口２０２３ａの存在を充分に認識しているため、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【１７４９】

なお、上記では、入球口としてのサブアウト口２０２３と対応する入球口表記としてのアウト口表記２０５０が裏側からも視認できるものを示したが、これに限定するものではなく、入球口としての一般入賞口２００１と対応する入球口表記としての入賞口表記部２０６０を設け、当該入賞口表記部２０６０が裏側からも視認できるようにしても良い。

【１７５０】

また、複数の一般入賞口２００１（入賞口）に対して、それぞれに対応する入賞口表記部２０６０を設ける場合、裏側から視認可能な入賞口表記部２０６０と裏側から視認不能な入賞口表記部２０６０とを混在させるようにしても良い。この場合、例えば、他の入賞

口よりも入球確率の高い入賞口の入賞口表記部２０６０を、裏側から視認可能とすると共にその他の部位に裏打部２２０３ｂを設けると、当該入賞口表記部２０６０が後方からの光によって上記と同様の理由により他の部位よりも明るくなるため、入球確率の高い入賞口を目立たせることができる。

【１７５１】

更に、上記では、アウト口表記２０５０として「ＯＵＴ」の文字列（各文字が左右対称のアルファベットの文字列）からなるものを示したが、これに限定するものではなく、「アウト」や「あうと」のような文字列（片仮名や平仮名の文字列）からなるアウト口表記２０５０としても良い。この場合、裏側から見ると左右反転して表側からとは異なる態様の鏡文字となるが、全体、または、一部分、が見えることにより正しく読むことが可能であり、鏡文字であっても間違えることなく「アウト」や「あうと」と正しく判読することができ、裏側からでもアウト口表記２０５０を認識することができる。

【１７５２】

［７－４ｂ．入球口表記と入球口部材との関係例２］

続いて、図１４８に示す実施形態について説明する。ここでは、遊技球Ｂが入球可能な入球口として左右方向（ここでは左方）へ向かって開口しているサブアウト口２０２３を有する入球口部材２０７０を例にして説明する。入球口部材２０７０は、透明な部材によって形成されている。この入球口部材２０７０は、サブアウト口２０２３の前端側を構成している平板状の前板２０７１と、前板２０７１の前面に貼り付けられている装飾シール２０７２と、を備えている。前板２０７１には、前後に貫通しているシール剥孔２０７１ａが設けられている。シール剥孔２０７１ａは、前板２０７１の前面に貼り付けられている装飾シール２０７２によって前端側が閉鎖されている。

【１７５３】

シール剥孔２０７１ａは、製造時において装飾シール２０７２を貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりする場合に、前板２０７１から装飾シール２０７２を剥がすためのものである。詳述すると、入球口部材２０７０の裏側からシール剥孔２０７１ａに棒状部材を挿入し、その先端により装飾シール２０７２の裏面を前方へ押圧すると、装飾シール２０７２の一部が前板２０７１から剥がれて前方へ持ち上がることとなり、装飾シール２０７２の持ち上がった部位を引っ張ることで、前板２０７１から装飾シール２０７２を容易に剥がすことができる。

【１７５４】

装飾シール２０７２は、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定の絵柄が施されている絵柄部２０７２ａと、絵柄部２０７２ａの裏側において白色や灰色のような所定色で施されている裏打部２０７２ｂ（図１４８（ｂ）において網掛けで示す部位）と、を有している。裏打部２０７２ｂは、絵柄部２０７２ａの発色を良くするためのものである。この裏打部２０７２ｂと絵柄部２０７２ａとにより、前方から前板２０７１の後方を視認不能としている。つまり、前方からは、前板２０７１の後方に設けられている樋部や案内リブ、シール剥孔２０７１ａなどが、見えないようになっている。

【１７５５】

また、装飾シール２０７２には、サブアウト口２０２３と対応する部位に、「ＯＵＴ」の文字列からなるアウト口表記２０５０が施されている。このアウト口表記２０５０は、サブアウト口２０２３における上下に延びている端縁に沿って、縦書きの「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。このアウト口表記２０５０の裏側には、裏打部２０７２ｂが施されていない（図１４８（ｂ）を参照）。これにより、透明な前板２０７１を通して入球口部材２０７０の裏側からアウト口表記２０５０が視認可能となっている。詳述すると、入球口部材２０７０を裏側から見ると、アウト口表記２０５０の部位に縦書きで「ＯＵＴ」の文字列が見える。この縦書きの文字列は、ミラー表示されているが、文字列を構成している各文字が左右対称文字であるため、ミラー表示されていても「ＯＵＴ」と正しく判読することができ、アウト口表記２０５０を認識することができる。つまり、裏側からでもアウト口表記２０５０が判読可能である。なお、アウト口表記２０５０の後方に裏打

部２０７２ｂを設ける場合は、裏打部２２０３ｂを薄くしたり色を変えたりして、裏側から裏打部２０７２ｂを通してアウト口表記２０５０を視認可能とすることが望ましい。
【１７５６】
　このように、本実施形態によれば、入球口部材２０７０の裏側から入球口表記としてのアウト口表記２０５０を視認することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立作業において、アウト口表記２０５０を入球口部材２０７０の取付方向の目安にすることができる。
【１７５７】
　また、アウト口表記２０５０を構成している各文字を左右対称の文字とすると共に、縦書きとしているため、入球口部材２０７０の裏側からアウト口表記２０５０を見ても、当該文字列を容易に判読することができ、裏側からでも入球口部材２０７０がサブアウト口２０２３を有していることを認識させることができる。
【１７５８】
　また、入球口部材２０７０の裏側からもアウト口表記２０５０を認識（判読）することができるため、裏側からもサブアウト口２０２３を有する部材であることを判別することができる。具体的には、例えば、同じ入球口部材２０７０であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側からもアウト口表記２０５０を認識することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立ての際に、当該入球口部材２０７０が入球口を入賞口としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。
【１７５９】
　更に、アウト口表記２０５０を、透明な前板２０７１に貼り付けられる装飾シール２０７２に施しているため、アウト口表記２０５０が施（印刷）された装飾シール２０７２を、前板２０７１に貼り付けることで、サブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０を設けることができると共に、透明な前板２０７１を通して裏側からアウト口表記２０５０を認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材２０７０であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２０７２を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。
【１７６０】
　また、サブアウト口２０２３に対応したアウト口表記２０５０を設けているため、アウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、サブアウト口２０２３を一般入賞口２００１などの入賞口と誤認することはないため、サブアウト口２０２３への遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の遊技に対する興趣が低下することはない。
【１７６１】
　なお、上記では、入球口としてのサブアウト口２０２３と対応する入球口表記としてのアウト口表記２０５０が裏側からも視認できるものを示したが、これに限定するものではなく、入球口としての入賞口と対応する入球口表記としての入賞口表記部２０６０を設け、当該入賞口表記部２０６０が裏側からも視認できるようにしても良い。
【１７６２】
　更に、上記では、アウト口表記２０５０として「ＯＵＴ」の文字列（各文字が左右対称のアルファベットの文字列）からなるものを示したが、これに限定するものではなく、「アウト」や「あうと」のような文字列（片仮名や平仮名の文字列）からなるアウト口表記２０５０としても良い。この場合、縦書きであるため、文字列の各文字のみが左右反転した鏡文字となり上下には反転しないため、表側からとは異なる態様であっても、全体、または、一部分、が見えれば間違えることなく「アウト」や「あうと」と正しく読む（判読する）ことができ、裏側からでもアウト口表記２０５０を認識することができる。
【１７６３】

［７－４ｃ．入球口表記と入球口部材との関係例３］
続いて、図１４９に示す実施形態について説明する。ここでは、入球口部材としてサイドユニット２２００を例にして説明する。このサイドユニット２２００は、図１４７に示すサイドユニット２２００に対して、装飾シール２２０３における第二アウト口表記２０５０ｂの部位が異なっているのみで、その他の構成は同じであり、詳細な説明は省略する。とはいえ、図１４９に示すサイドユニット２２００の構成について説明する。サイドユニット２２００は、図示は省略するが、左右に列設されている二つの一般入賞口２００１と、二つの一般入賞口２００１を間にして左右両外側に設けられているサブアウト口２０２３としての第一アウト口２０２３ａおよび第二アウト口２０２３ｂと、を有している。
【１７６４】
サイドユニット２２００は、透明な部材により形成されており、前後方向へ延出している樋状の四つの樋部２２０４と、前後方向へ延出している枠状の棚部２２０１と、四つの樋部２２０４と棚部２２０１の前端側を閉鎖している平板状の前板２２０２と、前板２２０２よりも後方で前板２２０２と平行に延出しているフランジ部２２０５（図示は省略）と、前板２２０２を貫通しているシール剥孔２２０６（図示は省略）と、各樋部２２０４の底から上方へ延出している案内リブ２２０７と、前板２２０２の前面に貼り付けられている装飾シール２２０３と、を有している。
【１７６５】
樋部２２０４は、断面がＵ字状に形成されている。棚部２２０１は、上面が右方へ向かって低くなるように傾斜している。シール剥孔２２０６は、前板２２０２の前面に貼り付けられている装飾シール２２０３によって前端側が閉鎖されており、前板２２０２から装飾シール２２０３を剥がすためのものである。案内リブ２２０７は、前端が前板２２０２の後面に接しており、後方へ向かうほど低くなるように傾斜している。
【１７６６】
装飾シール２２０３は、図示するように、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定の絵柄が施（印刷）されている絵柄部２２０３ａと、絵柄部２２０３ａの裏側において白色や灰色のような所定色で施されている裏打部２２０３ｂ（図１４９（ｂ）において網掛けで示す部位）と、を有している。裏打部２２０３ｂは、表側の絵柄部２２０３ａの発色を良くするためのものである。この裏打部２２０３ｂと絵柄部２２０３ａとにより、前方から前板２２０２の後方を視認不能としている。つまり、前方からは、棚部２２０１、樋部２２０４、シール剥孔２２０６、および案内リブ２２０７が、見えないようになっている。
【１７６７】
また、装飾シール２２０３には、サブアウト口２０２３（第一アウト口２０２３ａおよび第二アウト口２０２３ｂ）と対応する部位に、「ＯＵＴ」の文字列からなるアウト口表記２０５０（第一アウト口表記２０５０ａおよび第二アウト口表記２０５０ｂ）が施されている。ここでの図示は省略するが、第一アウト口表記２０５０ａは、第一アウト口２０２３ａの上端縁に沿うように、文字列が水平に対して傾斜している（図１４７（ａ）を参照）。第二アウト口表記２０５０ｂは、文字列が水平である。これらアウト口表記２０５０は、絵柄部２２０３ａよりも前に施されている。
【１７６８】
本実施形態では、図１４７の実施形態と同様に、裏打部２２０３ｂが、第一アウト口表記２０５０ａの裏側（後方）にも施されており、サイドユニット２２００の裏側からは第一アウト口表記２０５０ａが視認困難となっている。一方、第二アウト口表記２０５０ｂの裏側（後方）には、裏打部２２０３ｂが施されておらず、図１４９（ｂ）に示すように、透明な前板２２０２を通してサイドユニット２２００の裏側から第二アウト口表記２０５０ｂが視認可能となっている。
【１７６９】
詳述すると、第二アウト口表記２０５０ｂの裏側には裏表記部２０５３が設けられている。裏表記部２０５３は、第二アウト口表記２０５０ｂと同じく、左から並んだ「ＯＵＴ

」の文字列により構成されている。従って、第二アウト口表記２０５０ｂの部位では、図示するように、裏側から見ても、裏表記部２０５３により表側と同じく左から並んだ「ＯＵＴ」の文字列が見える。第二アウト口表記２０５０ｂと裏側の裏表記部２０５３とは、両面印刷されており、表側から見ても裏側から見ても、左から横書きの「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。従って、サイドユニット２２００を裏側から見ると、第二アウト口表記２０５０ｂの部位に、左から横書きで「ＯＵＴ」の文字列が見え、そのまま「ＯＵＴ」と正しく判読することができる（図１４９（ｂ）を参照）。

【１７７０】

なお、第二アウト口表記２０５０ｂの後方に裏打部２２０３ｂを設ける場合は、裏打部２２０３ｂを薄くしたり色を変えたりして、裏側から裏打部２２０３ｂを通して第二アウト口表記２０５０ｂを視認可能（認識可能）とすることが望ましい。また、第二アウト口表記２０５０ｂの後方に裏打部２２０３ｂを設ける場合、裏打部２２０３ｂの後方に裏表記部２０５３を設けることが望ましい。

【１７７１】

このように、本実施形態によれば、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側から入球口表記としての第二アウト口表記２０５０ｂ（裏表記部２０５３）を視認することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立作業において、第二アウト口表記２０５０ｂをサイドユニット２２００の取付方向の目安にすることができる。

【１７７２】

また、第二アウト口表記２０５０ｂの裏側に、第二アウト口表記２０５０ｂと同じ表記を後方へ向けた裏表記部２０５３を設けているため、サイドユニット２２００の裏側から第二アウト口表記２０５０ｂの部位を見ると、裏表記部２０５３のミラー表示でない正しく書かれた「ＯＵＴ」の文字列が見え、当該文字列を容易に判読することができ、裏側からでもサイドユニット２２００がサブアウト口２０２３を有していることを認識させることができる。

【１７７３】

更に、サイドユニット２２００の裏側からも第二アウト口表記２０５０ｂ（裏表記部２０５３）を認識（判読）することができるため、裏側からもサブアウト口２０２３を有する部材であることを判別することができる。具体的には、例えば、同じサイドユニット２２００であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側からもアウト口表記２０５０を認識することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立ての際に、当該サイドユニット２２００が入球口を入賞口としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【１７７４】

また、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側からは、第一アウト口表記２０５０ａを視認困難としつつ、第二アウト口表記２０５０ｂを視認可能（視認容易）としている。つまり、複数のサブアウト口２０２３が設けられていると共に、それぞれのサブアウト口２０２３に対応しているアウト口表記２０５０が設けられている入球口部材において、裏側から視認可能なアウト口表記２０５０（第二アウト口表記２０５０ｂ）と視認不能なアウト口表記２０５０（第一アウト口表記２０５０ａ）とを混在させている。これにより、サイドユニット２２００の表側と裏側とでは、視認できるアウト口表記２０５０の数が異なっているため、サイドユニット２２００の表裏を容易に判別することができ、組立作業が楽になる。

【１７７５】

また、遊技盤５の遊技領域５ａには、一般入賞口２００１のような複数の入賞口と、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂのような複数のサブアウト口２０２３と、が設けられており、第一アウト口２０２３ａと対応する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂと対応する第二アウト口表記２０５０ｂと、を互いに異なる識別態様で設けるようにしている。これにより、第一アウト口２０２３ａと対応した第一ア

ウト口表記２０５０ａや第二アウト口２０２３ｂに対応した第二アウト口表記２０５０ｂのようなアウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂを一般入賞口２００１と誤認することはないため、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂへの遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１７７６】

なお、上記では、入球口としてのサブアウト口２０２３と対応する入球口表記としてのアウト口表記２０５０が裏側からも視認できるものを示したが、これに限定するものではなく、入球口としての一般入賞口２００１と対応する入球口表記としての入賞口表記部２０６０を設け、当該入賞口表記部２０６０が裏側からも視認できるようにしても良い。

【１７７７】

また、入球口としての一般入賞口２００１のような入賞口に対応する入賞口表記部２０６０を設けると共に、当該入賞口表記部２０６０をサイドユニット２２００の裏側から視認可能とする場合、当該入賞口表記部２０６０の後方に、入賞口表記部２０６０と同じ文字列を後方へ向けた裏表記部を設けるようにしても良い。これにより、サイドユニット２２００における当該入賞口表記部２０６０の部位を裏側から見ても、裏表記部によりミラー表示ではない正しい表示の文字列が見えることとなり、裏側からも入賞口表記部２０６０を判読することができる。

【１７７８】

また、複数の一般入賞口２００１（入賞口）に対して、それぞれに対応する入賞口表記部２０６０を設ける場合、裏側から視認可能な入賞口表記部２０６０と裏側から視認不能な入賞口表記部２０６０とを混在させるようにしても良い。この場合、例えば、他の入賞口よりも入球確率の高い入賞口の入賞口表記部２０６０を、裏側から視認可能とすると共にその他の部位に裏打部２２０３ｂを設けると、当該入賞口表記部２０６０が後方からの光によって上記と同様の理由により他の部位よりも明るくなるため、入球確率の高い入賞口を目立たせることができる。

【１７７９】

更に、上記では、アウト口表記２０５０および裏表記部２０５３として「ＯＵＴ」の文字列（アルファベットの文字列）からなるものを示したが、これに限定するものではなく、「アウト」や「あうと」のような文字列（片仮名や平仮名の文字列）からなるアウト口表記２０５０および裏表記部２０５３としても良い。或いは、表側のアウト口表記２０５０と裏側の裏表記部２０５３とを異ならせても良い。具体的には、アウト口表記２０５０を「ＯＵＴ」とし裏表記部２０５３を「アウト」や「あうと」としたり、アウト口表記２０５０を「アウト」や「あうと」とし裏表記部２０５３を「ＯＵＴ」としたり、アウト口表記２０５０を「アウト」とし裏表記部２０５３を「あうと」としたり、しても良い。アウト口表記２０５０と裏表記部２０５３とを異ならせる場合、サイドユニット２２００（入球口部材）の表裏が判別し易くなる。

【１７８０】

［７－４ｄ．入球口表記と入球口部材との関係例４］

続いて、図１５０に示す実施形態について説明する。ここでは、遊技球Ｂが入球可能な入球口として上方へ向かって開口しているサブアウト口２０２３を有する入球口部材２０７０を例にして説明する。入球口部材２０７０は、透明な部材によって形成されている。この入球口部材２０７０は、サブアウト口２０２３の前端側を構成している平板状の前板２０７１と、前板２０７１の前面に貼り付けられている装飾シール２０７２と、前板２０７１の後面から後方へ延出している延出部２０７３と、を備えている。前板２０７１には、前後に貫通しているシール剥孔２０７１ａが設けられている。シール剥孔２０７１ａは、前板２０７１の前面に貼り付けられている装飾シール２０７２によって前端側が閉鎖されている。

【１７８１】

シール剥孔２０７１ａは、製造時において装飾シール２０７２を貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりした場合に、前板２０７１から装飾シール２０７２を剥がすためのものである。詳述すると、入球口部材２０７０の裏側からシール剥孔２０７１ａに棒状部材を挿入し、その先端により装飾シール２０７２の裏面を前方へ押圧すると、装飾シール２０７２の一部が前板２０７１から剥がれて前方へ持ち上がることとなり、装飾シール２０７２の持ち上がった部位を引っ張ることで、前板２０７１から装飾シール２０７２を容易に剥がすことができる。

【１７８２】

装飾シール２０７２は、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプトに沿った所定の絵柄が施されている絵柄部２０７２ａと、絵柄部２０７２ａが施されていない透明部２０７２ｃと、を有している。なお、絵柄部２０７２ａの裏側に、白色や灰色のような所定色の裏打部を設けるようにしても良い。裏打部を設けることで、絵柄部２０７２ａの発色を良くすることができる。また、裏打部を設けることで、絵柄部２０７２ａが透けて見えることを低減させることができ、絵柄部２０７２ａを通して後方の延出部２０７３や部材を見え難して隠すことができる。

【１７８３】

また、装飾シール２０７２には、サブアウト口２０２３と対応する部位に、「ＯＵＴ」の文字列からなるアウト口表記２０５０が施されている。このアウト口表記２０５０は、前板２０７１の上端縁に沿って、縦書きの「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。なお、図示は省略するが、アウト口表記２０５０は、透明な前板２０７１を通して入球口部材２０７０の裏側から視認可能である。

【１７８４】

なお、アウト口表記２０５０の裏側に、白色や灰色のような所定色の裏打部を設けるようにしても良い。裏打部を設けることで、アウト口表記２０５０の発色を良くすることができる。また、裏打部を設けることで、アウト口表記２０５０が透けて見えることを低減させることができ、アウト口表記２０５０を通して後方の延出部２０７３や部材を見え難して隠すことができる。

【１７８５】

延出部２０７３は、前板２０７１の後面から後方へ延出している。延出部２０７３は、上方からサブアウト口２０２３に入球した遊技球Ｂを後方へ案内するための複数の案内リブ２０７３ａと、正面視が枠状で上面がサブアウト口２０２３へ向かって低くなるように傾斜している棚部２０７３ｂと、を有している。案内リブ２０７３ａは、上端が後方へ向かうに従って低くなるように形成されており、左右方向へ間隔をあけて設けられている。複数の案内リブ２０７３ａや棚部２０７３ｂのような延出部２０７３は、装飾シール２０７２の絵柄部２０７２ａやアウト口表記２０５０と前後方向に重なるように設けられている。

【１７８６】

このように、本実施形態によれば、透明な前板２０７１から後方へ延出している延出部２０７３の前方に重なるようにアウト口表記２０５０と装飾シール２０７２の絵柄部２０７２ａとを設けているため、アウト口表記２０５０と絵柄部２０７２ａとによって前方から延出部２０７３を見え難くすることができ、延出部２０７３が見えることによる見栄えの低下を抑制させて見栄えを良くすることができる。

【１７８７】

また、入球口部材２０７０の裏側から入球口表記としてのアウト口表記２０５０を視認することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立作業において、アウト口表記２０５０を入球口部材２０７０の取付方向の目安にすることができる。

【１７８８】

また、サブアウト口２０２３に対応したアウト口表記２０５０を設けているため、アウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、サブアウト口２０２３を一般入賞口２００１などの入賞口と誤認

することはないため、サブアウト口２０２３への遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。
【１７８９】
更に、アウト口表記２０５０を、透明な前板２０７１に貼り付けられる装飾シール２０７２に施しているため、アウト口表記２０５０が施（印刷）された装飾シール２０７２を、前板２０７１に貼り付けることで、サブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０を設けることができると共に、透明な前板２０７１を通して裏側からアウト口表記２０５０を認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材２０７０であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２０７２を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。
【１７９０】
なお、上記の実施形態では、入球口部材２０７０にサブアウト口２０２３が設けられているものを示したが、これに限定するものではなく、サブアウト口２０２３を通常のアウト口１００８としても良いし、サブアウト口２０２３を一般入賞口２００１のような入賞口としても良い。サブアウト口２０２３を入賞口する場合は、アウト口表記２０５０を入賞口表記部２０６０にする。
【１７９１】
また、上記の実施形態では、アウト口表記２０５０として「ＯＵＴ」の文字列（アルファベットの文字列）からなるものを示したが、これに限定するものではなく、「アウト」や「あうと」のような文字列（片仮名や平仮名の文字列）からなるアウト口表記２０５０としても良い。
【１７９２】
また、上記の実施形態において、図１４７～図１４９の実施形態と同様に、入球口部材２０７０の裏側から入球口表記としてのアウト口表記２０５０を認識可能（判読可能）としても良い。
【１７９３】
ところで、入球口部材２０７０の開発段階では、設けられている複数の入球口のうち特定の入球口がサブアウト口２０２３であることを示すような表記を設けていないため、サブアウト口２０２３の位置を把握できない問題があった。これに対して、本実施形態では、入球口部材２０７０における入球口表記と前後方向に重なる位置の裏側に、特定形状からなる特定形状部（例えば、延出部２０７３）を形成している。これにより、入球口部材２０７０の表側に入球口表記としてのアウト口表記２０５０が設けられていないような開発段階でも、入球口部材２０７０を裏側から見ると特定形状部としての延出部２０７３が見えるため、当該延出部２０７３が設けられている部位が、アウト口表記２０５０が設けられる特定の入球口（ここでは、サブアウト口２０２３）であることが判り、当該入球口（サブアウト口２０２３）の位置を容易に把握することができる。
【１７９４】
なお、特定形状部としては、上述した延出部２０７３（案内リブ２０７３ａ、棚部２０７３ｂ）の他に、「入球口を示すような文字からなる凹凸のレリーフ状のもの」、「入球口を示すような記号や矢印からなる凹凸のレリーフ状のもの」、「円形の段差状のもの（例えば、エジェクタピン跡）」、「前後方向へ円柱状に延出しているもの（例えば、位置決突起）」、「前後方向に貫通しているもの（例えば、シール剥孔２０７１ａ）」、「断面がＵ字状で前後方向へ延出しているもの（例えば、樋部）」、等が挙げられる。
【１７９５】
また、本実施形態の入球口部材２０７０は、透過性を有する透明な部材としていることから、装飾シール２０７２が貼り付けられていない状態では、入球口部材２０７０の前方から特定形状部を視認することができる。換言すると、前板２０７１に装飾シール２０７２を貼り付けると特定形状部を前方から視認不能（視認困難）とすることができ、装飾シール２０７２（アウト口表記２０５０）により特定形状部を前方から見え難くして隠すこ

とができる。従って、例えば、開発段階において特定形状部を有するように設計した入球口部材２０７０に対して、特定形状部を削除するような設計変更をしなくても、アウト口表記２０５０が施されている装飾シール２０７２を貼り付けることにより、特定形状部を前方から見えないように隠すことができるため、開発段階の入球口部材２０７０を完成段階においてそのまま利用することが可能となり、設計変更を不要にすることができる。

【１７９６】

また、入球口部材２０７０の裏側に特定形状部としての延出部２０７３を設けているため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造工場などにおいて、装飾シール２０７２の貼り付けによりアウト口表記２０５０を設ける際に、特定形状部によりアウト口表記２０５０を設ける位置（サブアウト口２０２３の位置）を把握することができ、アウト口表記２０５０を所望の部位に確実に設けることができる。また、入球口部材２０７０の裏側に特定形状部を設けているため、アウト口表記２０５０を設けた後で、入球口部材２０７０の表裏を見ることで、特定形状部の前方にアウト口表記２０５０が設けられているか否かを確認することができる。

【１７９７】

［７－５．入球口表記と可動体との関係］

次に、アウト口表記２０５０や入賞口表記部２０６０のような入球口表記と、可動体との関係について、図１５１～図１５３等を参照して説明する。図１５１（ａ）は演出操作部としてポップアップ式の押圧操作部が通常の位置の状態でパチンコ機の下部を正面図から示す説明図であり、（ｂ）はポップアップ式の押圧操作部が上昇位置の状態でパチンコ機の下部を正面図から示す説明図である。図１５２（ａ）は振分片が前進位置の状態でセンター役物の一部を正面から示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態におけるサブアウト口の部位で切断して断面で示す説明図であり、（ｃ）は振分片が後退位置の状態でセンター役物の要部を正面から示す説明図である。図１５３（ａ）は第一始動口と第二始動口とを有する始動口ユニットを通常の状態で示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の始動口ユニットの縦断面図であり、（ｃ）は（ａ）の状態における第二始動口の部位を示す斜視図であり、（ｄ）は（ｃ）の状態から羽根が開いた状態で第二始動口の部位を示す斜視図である。

【１７９８】

［７－５ａ．入球口表記と可動体との関係例１］

まず、図１５１に示す実施形態について説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の皿ユニット２００に、可動体として、遊技者参加型演出が実行された時に、遊技者が操作することで演出に参加することが可能な押圧操作部３０３が設けられている。押圧操作部３０３は、演出操作部昇降機構（図示は省略）により、下降した通常位置と上昇した上昇位置との間で移動可能に設けられている。詳述すると、押圧操作部３０３は、通常の状態では正面視において扉枠３の扉窓１０１ａよりも下方に位置している通常位置と、通常位置から上昇して一部（上部）が正面視において扉枠３の扉窓１０１ａと重なる上昇位置、との間で移動可能に設けられている。この押圧操作部３０３は、いわゆるポップアップボタンである。

【１７９９】

また、パチンコ機１は、遊技盤５の下部に、第一始動口２００２と二つのサブアウト口２０２３とを有した始動口ユニット２１００が設けられている。二つのサブアウト口２０２３は、第一始動口２００２よりも下方で第一始動口２００２を間にして左右両側に設けられている。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２やサブアウト口２０２３の前端を構成している前板２１０１を有している。前板２１０１の前面におけるサブアウト口２０２３の前方の部位には、「ＯＵＴ」の横書きの文字からなるアウト口表記２０５０が設けられている。本実施形態では、アウト口表記２０５０がシールとして貼り付けられている。

【１８００】

遊技盤５の始動口ユニット２１００は、扉枠３における扉窓１０１ａの下端よりも上方

に設けられている。つまり、始動口ユニット２１００（アウト口表記２０５０）は、正面視において、扉窓１０１ａから前方へ臨む部位に設けられている。

【１８０１】

そして、通常の状態では、上述したように、通常位置の押圧操作部３０３が正面視において扉窓１０１ａよりも下方に位置しているため、始動口ユニット２１００に設けられているアウト口表記２０５０を正面から視認することができる（図１５１（ａ）を参照）。これにより、複数のサブアウト口２０２３が設けられていても、遊技者からはサブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０が見えるため、サブアウト口２０２３の存在を認識させることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。

【１８０２】

一方、遊技者参加型演出が実行されて押圧操作部３０３が通常位置から上昇位置へ移動する（ポップアップする）と、図１５１（ｂ）に示すように、押圧操作部３０３の上部が、正面視において始動口ユニット２１００の前方に位置し、始動口ユニット２１００に設けられている複数のアウト口表記２０５０が視認不能な状態となる。このように、本実施形態では、可動体としての押圧操作部３０３の移動位置に応じて、アウト口表記２０５０の視認性が変化する。

【１８０３】

ところで、遊技者参加型演出が始まる際に、閃光を発するような発光演出、演出が開始されることを示唆する演出画像の表示、演出が開始されることを示唆するサウンド（効果音やＢＧＭ）、などにより、他の遊技者が本パチンコ機１に注目することとなる。この際に、押圧操作部３０３が上昇位置に移動することで、押圧操作部３０３がアウト口表記２０５０を隠して他の遊技者からは視認し難くなるため、アウト口表記２０５０が見えることによる遊技盤５の見栄えの低下を抑制させることができ、他の遊技者に対して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【１８０４】

このように、本実施形態によれば、可動体を、遊技者参加型演出が実行された時に上昇して遊技者が押圧操作することにより当該演出に参加することが可能となる押圧操作部３０３（ポップアップボタン）としている。この押圧操作部３０３が下方へ移動している通常の状態では、アウト口表記２０５０と押圧操作部３０３とが重なっていないため、アウト口表記２０５０を視認することができ、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。この通常の状態では、他の遊技者からもアウト口表記２０５０が見えるが、遊技が通常の状態であることから、他の遊技者は本パチンコ機１を凝視せずにパッと見るだけであるため、アウト口表記２０５０に気付き難く、パチンコ機１の見栄えが悪く見えることはない。一方、遊技者参加型演出が実行されて押圧操作部３０３が上昇すると、アウト口表記２０５０と押圧操作部３０３とが重なってアウト口表記２０５０が見え難くなるが、本パチンコ機１で遊技している遊技者は、通常の状態においてサブアウト口２０２３の存在を認識しているため、アウト口表記２０５０が見えなくてもサブアウト口２０２３を入賞口と勘違いすることはない。これに対して他の遊技者は、遊技者参加型演出の実行により、当該演出が開始されることを示唆する発光やサウンドなどの演出により本パチンコ機１に注目することとなるが、押圧操作部３０３が上昇することによりアウト口表記２０５０と重なってアウト口表記２０５０が見え難くなるため、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えを良くすることができる。そして、他の遊技者からは遊技者参加型演出が見えるため、当該演出により他の遊技者を引き付けることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【１８０５】

また、アウト口表記２０５０を、遊技領域５ａの左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近にアウト口表記２０５０が位置することで目立ち易くなる一方、可動体（押圧操作部３０３）の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１８０６】
なお、上記では、可動体として、ポップアップする押圧操作部３０３を示したが、これに限定するものではなく、上部が正面視において扉窓１０１ａと重なるように設けられている演出操作部（例えば、操縦桿のように操作可能なステックタイプの演出操作部（レバー操作部３０４））としても良い。
【１８０７】
また、上記では、横書きのアウト口表記２０５０を示したが、これに限定するものではなく、可動体におけるアウト口表記２０５０を隠している部位の形態（形状）に応じて、アウト口表記２０５０の表記の態様を変更するようにしても良い。つまり、可動体によるアウト口表記２０５０の隠れ方に応じてアウト口表記２０５０の表記を変えるようにしても良い。具体的には、例えば、可動体の上端縁に近い部位では横方向にアウト口表記２０５０が隠れるため、当該アウト口表記２０５０を横書きにする。また、可動体の側端縁に近い部位では縦方向にアウト口表記２０５０が隠れることとなるため、当該アウト口表記２０５０を縦書きにする。
【１８０８】
また、上記では、アウト口表記２０５０が正面視において上昇位置の可動体により完全に隠れるものを示したが、これに限定するものではなく、正面視においてアウト口表記２０５０の一部が隠れるものであっても良い。この場合、可動体によりアウト口表記２０５０を隠す方向と同じ方向へ長いアウト口表記２０５０としても良いが、可動体によりアウト口表記２０５０を隠す方向に対して、交差する方向へ長いアウト口表記２０５０として一部が隠れるようにしても良い。具体的には、例えば、可動体が横方向に隠している場合はアウト口表記２０５０を縦書きにし、可動体が縦方向に隠している場合はアウト口表記２０５０を横書きにする。
【１８０９】
更に、上記では、入球口表記としてアウト口表記２０５０を示したが、これに限定するものではなく、第一始動口２００２に対応している入賞口表記部２０６０としても良い。
【１８１０】
［７－５ｂ．入球口表記と可動体との関係例２］
続いて、図１５２に示す実施形態について説明する。本実施形態の遊技盤５に設けられているセンター役物２５００は、ステージ２５１８へ遊技球Ｂを供給するためのワープ通路（図示は省略）とは別に設けられている第二ワープ通路（図示は省略）を流通した遊技球Ｂが流通する第一通路２５８５と、第一通路２５８５に対して右方へ間隔をあけて設けられている第二通路２５８６と、第一通路２５８５から第二通路２５８６へ遊技球Ｂを橋渡し可能な振分片２５８７と、第一通路２５８５および第二通路２５８６の前端側を区画している平板状の透明な振分前板２５８８と、を有している。
【１８１１】
また、センター役物２５００は、第一通路２５８５から振分片２５８７上を通って第二通路２５８６へ流通した遊技球Ｂが入球可能に設けられている入賞口としての第一サブ始動口（図示は省略）と、第一通路２５８５と第二通路２５８６との間に落下した遊技球Ｂが入球するサブアウト口２０２３と、サブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０と、を備えている。なお、第二通路２５８６を流通し、第一サブ始動口に入球しなかった遊技球Ｂは、遊技領域５ａに戻されて遊技領域５ａを流下する。サブアウト口２０２３は、ステージ２５１８よりも上方に設けられている。
【１８１２】
第一通路２５８５は、左右方向へ延出しており、右端側が低くなるように傾斜している。第一通路２５８５は、ステージ２５１８よりも上方に設けられており、右端がステージ２５１８の左端付近の上方に位置している。第二通路２５８６は、第一通路２５８５の右端よりも下方に設けられていると共に、左右方向へ延出しており、右端側が低くなるように傾斜している。第二通路２５８６は、ステージ２５１８よりも上方に設けられており、左端がステージ２５１８の右端付近の上方に位置している。従って、第一通路２５８５と

第二通路２５８６は、ステージ２５１８を間にして左右に離隔している。
【１８１３】
振分片２５８７は、ステージ２５１８の上方で、第一通路２５８５と第二通路２５８６との間に設けられている。振分片２５８７は、上面が第一通路２５８５と第二通路２５８６との間の高さに位置しており、右方（第二通路２５８６）へ向かって低くなるように傾斜している。この振分片２５８７は、不透明な平板状に形成されている。
【１８１４】
振分片２５８７は、図示しない駆動機構により、所定の周期で前後方向へ進退可能に設けられている。この振分片２５８７が前方へ移動している前進位置の状態（図１５２（ａ）および（ｂ）を参照）では、第一通路２５８５を流通してきた遊技球Ｂが、振分片２５８７の上面を右方へ転動させて第二通路２５８６に受け渡すことが可能である。第二通路２５８６に受け渡された遊技球Ｂは、高い確率で第一サブ始動口に入球し、第一特別図柄の抽選が行われる。一方、振分片２５８７が後方へ移動している後退位置の状態では、第一通路２５８５を流通してきた遊技球Ｂが、第一通路２５８５と第二通路２５８６との間の空間へ落下し、下方に設けられているサブアウト口２０２３に入球して、遊技領域５ａに戻されることなく外部へ排出される。
【１８１５】
従って、振分片２５８７が前進位置のタイミングで、第一通路２５８５から振分片２５８７側へ遊技球Ｂが流通すると、振分片２５８７および第二通路２５８６を通って、高い確率で第一サブ始動口に入球する。換言すると、前進位置のタイミングで振分片２５８７上へ遊技球Ｂが供給されると、振分片２５８７により第一サブ始動口側へ振分けられる。これにより、遊技者に対して、振分片２５８７により第一サブ始動口側へ遊技球Ｂが振分けられるタイミングで、第二ワープ通路へ遊技球Ｂを進入させるような遊技球Ｂの打込操作をさせることができ、遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができる。そして、遊技球Ｂが第二ワープ通路に進入すると、振分片２５８７により第一サブ始動口側へ振分けられるか否かによって、遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませることができる。
【１８１６】
振分前板２５８８は、センター役物２５００における遊技パネル１１００の前面に当接するフランジ部２５１２と、前後方向が同一面上に設けられている。
【１８１７】
アウト口表記２０５０は、振分前板２５８８における振分片２５８７とサブアウト口２０２３との間の高さの部位に設けられている。このアウト口表記２０５０は、横書きの「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。詳述すると、本実施形態のアウト口表記２０５０は、表記本体２０５１が透明に中抜きされたフレーム状の文字からなり、周縁部２０５２が透明である（図１５２（ｃ）を参照）。
【１８１８】
本実施形態では、振分片２５８７が不透明で透光性が低いため、振分片２５８７が前進位置の状態では、振分片２５８７の陰によりその下方（第一通路２５８５と第二通路２５８６との間の空間）が暗くなり、アウト口表記２０５０の後方が暗くなる。これにより、図１５２（ａ）に示すように、アウト口表記２０５０が見え辛くなる。一方、振分片２５８７が後退位置の状態では、第一通路２５８５と第二通路２５８６との間の空間の上方に位置していた振分片２５８７がなくなることで当該空間に光が入るため、当該空間が明るくなり、アウト口表記２０５０の後方が明るくなる。これにより、アウト口表記２０５０が見え易くなる（図１５２（ｃ）を参照）。
【１８１９】
上記のように、本実施形態では、可動体としての振分片２５８７の移動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性が変化する。
【１８２０】
本実施形態によれば、振分片２５８７の移動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認

性が変化すると共に、当該振分片２５８７が所定周期で進退しているため、振分片２５８７が後退位置の時にアウト口表記２０５０が見え易くなることで、遊技者に対してサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。

【１８２１】

また、振分片２５８７が後退位置の状態、つまり、遊技球Ｂがサブアウト口２０２３へ振分けられる状態では、アウト口表記２０５０が見え易くなるため、遊技者に対してサブアウト口２０２３の存在を充分に認識させることができ、遊技球Ｂがサブアウト口２０２３へ振分けられても、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【１８２２】

また、振分片２５８７が前進位置の状態、つまり、遊技球Ｂが第一サブ始動口側へ振分けられる状態では、アウト口表記２０５０が見え辛くなるため、遊技者に対してサブアウト口２０２３に対する意識を低下させることができ、第一サブ始動口側への振分けに対する期待感を高めさて楽しませることができる。

【１８２３】

更に、振分片２５８７の進退によりアウト口表記２０５０の視認性が周期的に変化するため、他の遊技者に対してアウト口表記２０５０を気付かせ難くすることができる。これにより、他の遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、他の遊技者に対して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【１８２４】

また、本実施形態によれば、アウト口表記２０５０をセンター役物２５００における透明な振分前板２５８８に設けると共に、後方に設けられている可動体としての振分片２５８７の可動位置によってアウト口表記２０５０の後方を明るくしたり暗くしたりすることができるようにしているため、振分片２５８７の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができる。詳述すると、アウト口表記２０５０を、透明に中抜きされたフレーム状の黒文字のような暗い感じの表記にしている。これにより、振分片２５８７の後退位置への可動（移動）によってアウト口表記２０５０の後方を明るくすると、暗いアウト口表記２０５０の周囲が明るくなるため、アウト口表記２０５０が目立って見え易くなる。一方、振分片２５８７の前進位置への可動によってアウト口表記２０５０の後方を暗くすると、暗いアウト口表記２０５０の周囲が暗くなるため、アウト口表記２０５０が周囲の暗さに溶け込んで見え難くなる。このように、振分片２５８７の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【１８２５】

また、アウト口表記２０５０を遊技領域５ａの左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近にアウト口表記２０５０が位置することで目立ち易くなる一方、可動体（振分片２５８７）の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１８２６】

なお、アウト口表記２０５０を、白文字のような明るい感じの表記にしても良い。この場合、振分片２５８７の後退位置への可動（移動）によってアウト口表記２０５０の後方を明るくすると、明るいアウト口表記２０５０の周囲が明るくなるため、アウト口表記２０５０が周囲の明るさに溶け込んで見え難くなる。一方、振分片２５８７の前進位置への可動によってアウト口表記２０５０の後方を暗くすると、明るいアウト口表記２０５０の周囲が暗くなるため、アウト口表記２０５０が目立って見え易くなる。このように、振分片２５８７の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【１８２７】
　また、上記では、振分片２５８７による振分先の一つをサブアウト口２０２３にすると共に、サブアウト口２０２３に対応しているアウト口表記２０５０が振分片２５８７の移動位置に応じて視認性が変化するものを示したが、これに限定するものではなく、サブアウト口２０２３を入賞口に替えると共に、当該入賞口に対応している入賞口表記部２０６０の視認性を振分片２５８７の移動位置に応じて変化させるようにしても良い。
【１８２８】
　また、上記では、後方に設けられている可動体（振分片２５８７）の可動位置により、アウト口表記２０５０の後方を明るくしたり暗くしたりすることで、アウト口表記２０５０の視認性を変化させるものを示したが、これに限定するものではない。例えば、アウト口表記２０５０を透明な部材に設けると共に、後方の可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置と重ならない位置との間で可動するようにすると、可動体の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、アウト口表記２０５０に対して可動体を同じような色または溶け込むような装飾とする場合、可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に可動体の色や装飾が見えることで、アウト口表記２０５０が可動体の色や装飾に溶け込んで見え難くなる。一方、可動体をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に可動体が見えなくなることで、相対的にアウト口表記２０５０が目立つようになり、アウト口表記２０５０が見え易くなる。或いは、アウト口表記２０５０に対して可動体を異なる色や装飾とする場合、可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に可動体の異なる色や装飾が見えることで、アウト口表記２０５０が目立つようになり、アウト口表記２０５０が見え易くなる。一方、可動体をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に異なる色や装飾の可動体が見えなくなることで、相対的にアウト口表記２０５０が目立ち難くなり、アウト口表記２０５０が見え難くなる。このように、可動体の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。
【１８２９】
［７－５ｃ．入球口表記と可動体との関係例３］
　次に、図１５３に示す実施形態について説明する。本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２と第二始動口２００４とを有する始動口ユニット２１００を備えている。
【１８３０】
　詳述すると、始動口ユニット２１００は、遊技パネル１１００の前面に当接可能な透明平板状の台板２１１１と、台板２１１１から前方へ突出しており上方へ向かって開放されていると共に入球した遊技球Ｂを台板２１１１の後方へ誘導可能な入球口２１１２と、台板２１１１の後側において入球口２１１２と連通しており左右に離隔して下方へ延出している一対の分岐通路２１１３と、一対の分岐通路２１１３のそれぞれの下流端に設けられている一対の第一始動口２００２と、一対の第一始動口２００２の間に設けられており一対の分岐通路２１１３と連通しているサブアウト口２０２３と、入球口２１１２の直下で一対の第一始動口２００２およびサブアウト口２０２３よりも下方において台板２１１１から前方へ突出しており上方へ向かって開放されている第二始動口２００４と、第二始動口２００４の上端における左右両外側において拡開可能に設けられている一対の羽根２１１４と、を備えている。
【１８３１】
　一対の羽根２１１４は、それぞれの下端側が前後方向へ延びた軸芯に対して回転可能に支持されており、それぞれが直立している第一位置と、それぞれの上端同士が第一位置よりも遠ざかるように離隔している第二位置と、の間で拡開可能に設けられている。一対の羽根２１１４は、不透明な部材により形成されている。一対の羽根２１１４は、第一位置の状態では、一対の羽根２１１４の上端同士の間隔が、遊技球Ｂの直径よりもやや大きい幅の間隔であり、第二位置の状態では、一対の羽根２１１４の上端同士の間隔が、遊技球

Ｂの直径の４～５倍の幅の間隔である。つまり、第二始動口２００４は、一対の羽根２１１４の拡開により、遊技球Ｂの入球確率が変化するものである。

【１８３２】

本実施形態の始動口ユニット２１００は、透明な台板２１１１を通して、一対の分岐通路２１１３を流通している遊技球Ｂを前方から視認することができる。この始動口ユニット２１００は、入球口２１１２に入球した遊技球Ｂが、高い確率で一対の第一始動口２００２の何れかに受入れられる。また、一対の分岐通路２１１３は、それぞれがサブアウト口２０２３側と連通しているため、入球口２１１２に入球した遊技球Ｂは、低い確率でサブアウト口２０２３に受入れられる。従って、入球口２１１２に遊技球Ｂが入球した場合、当該遊技球Ｂがサブアウト口２０２３に入球せずに、第一始動口２００２に入球することを強く願わせることができ、遊技者をハラハラ・ドキドキさせて楽しませることができる。

【１８３３】

また、第二始動口２００４は、常時開口しているものの、一対の羽根２１１４が第一位置の状態では入球確率が低く、一対の羽根２１１４が第二位置の状態になると入球確率が高くなる。この一対の羽根２１１４は、通常は第一位置の状態であり、ゲート（図示は省略）における遊技球Ｂの通過、或いは、普通入賞口（図示は省略）への遊技球Ｂの入球、により抽選される普通図柄の抽選結果に応じて、第一位置から所定時間の間、第二位置の状態になる。

【１８３４】

また、始動口ユニット２１００は、一対の第一始動口２００２と対応する一対の入賞口表記部２０６０と、サブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０とが、台板２１１１の前面に設けられている。入賞口表記部２０６０は横書きの「ＩＮ」の文字によって構成されており、アウト口表記２０５０は横書きの「ＯＵＴ」の文字によって構成されている。

【１８３５】

アウト口表記２０５０は、第一位置の時の一対の羽根２１１４における上部同士の間の高さの部位に設けられている（図１５３（ａ）を参照）。一対の入賞口表記部２０６０は、アウト口表記２０５０と同じ高さで、第一位置の時の一対の羽根２１１４の上部よりも左右両外側に設けられている。つまり、アウト口表記２０５０と一対の入賞口表記部２０６０は、一対の羽根２１１４よりも後方で、第一位置の時の一対の羽根２１１４の上端よりも低い位置に設けられている。

【１８３６】

そして、可動体としての一対の羽根２１１４が第一位置の状態では、図１５３（ａ）および同図（ｃ）に示すように、本パチンコ機１の正面に着座している遊技者からは、アウト口表記２０５０と一対の入賞口表記部２０６０とを視認することができる。これにより、当該遊技者に対しては、視認できるアウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。

【１８３７】

また、正面に着座している遊技者からはアウト口表記２０５０を視認することができるため、遊技者に対してサブアウト口２０２３の存在を充分に認識させることができ、入球口２１１２に入球した遊技球Ｂがサブアウト口２０２３へ入球しても、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【１８３８】

また、一対の羽根２１１４が第一位置の状態では、本パチンコ機１に対して正面よりも横に位置している遊技者、つまり、他の遊技者からは、図１５３（ｃ）に示すように、アウト口表記２０５０と、一対の入賞口表記部２０６０のうち遠い側の入賞口表記部２０６０と、が羽根２１１４と重なって視認不能となる。これにより、他の遊技者からはアウト口表記２０５０が見えないため、アウト口表記２０５０が見えることによる遊技盤５の見栄えの低下を抑制させることができ、他の遊技者に対して遊技するパチンコ機として本パ

チンコ機１を選択させ易くすることができる。
【１８３９】
更に、一対の羽根２１１４が第一位置の状態では、図１５３（ｃ）に示すように、他の遊技者からは「ＩＮ」の文字からなる入賞口表記部２０６０しか見えない。そして、その入賞口表記部２０６０は、直立している羽根２１１４の外側に設けられているため、羽根２１１４が拡開する（開く）と遊技球Ｂが第二始動口２００４に入球可能となることを直感的に他の遊技者に認識させることができ、羽根２１１４の拡開に対する期待感を高めさせて遊技を楽しませることができる。
【１８４０】
一方、一対の羽根２１１４が拡開して第二位置の状態になると、図１５３（ｄ）に示すように、他の遊技者からもアウト口表記２０５０と一対の入賞口表記部２０６０とが視認可能となり、一対の第一始動口２００２の間にサブアウト口２０２３が存在していることを認識させることができる。
【１８４１】
一対の羽根２１１４が拡開して第二位置の状態になると、視認可能となったアウト口表記２０５０と一対の入賞口表記部２０６０とが第二始動口２００４の上方に設けられているため、第二始動口２００４と、第一始動口２００２およびサブアウト口２０２３との位置関係を知らない遊技者に対して驚かせることができ、「どういうことだろうか？」と遊技者の関心を強く引き付けさせることができ。
【１８４２】
このように、本実施形態によれば、可動体としての一対の羽根２１１４の移動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、本パチンコ機１で遊技している遊技者に対してはアウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在を認識させつつ、他の遊技者に対してはアウト口表記２０５０による見栄えの悪化を回避させることで見栄えを良くして遊技するパチンコ機としての魅力（訴求力）を高めることができる。
【１８４３】
また、アウト口表記２０５０を遊技領域５ａの左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近にアウト口表記２０５０が位置することで目立ち易くなる一方、可動体（羽根２１１４）の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【１８４４】
更に、アウト口表記２０５０を、可動体としての一対の羽根２１１４よりも後方に設けているため、羽根２１１４をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、前方の羽根２１１４によりアウト口表記２０５０を隠して見え難くすることができる。一方、羽根２１１４をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０を見えるようにすることができる。従って、羽根２１１４の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を具現化することができる。
【１８４５】
なお、上記では、一対の第一始動口２００２の間にサブアウト口２０２３を備えたものを示したが、これに限定するものではなく、サブアウト口２０２３の替わりに第一始動口２００２よりも遊技者が有利となる特典が付与される入賞口としても良い。この場合、アウト口表記２０５０は当該入賞口と対応する入賞口表記部２０６０にする。
【１８４６】
［７－６．アウト口表記と遊技領域との関係］
次に、アウト口表記２０５０と遊技領域５ａとの関係について、主に図１５４などを参照して詳細に説明する。図１５４は、遊技領域の下部において第一領域と第二領域とに分離している遊技盤の下部を概略で示す説明図である。ここでは、上記の遊技盤５などと同様の構成については同じ符号を付して説明する。

【１８４７】
本実施形態の遊技盤５は、遊技球Ｂが流下する遊技領域５ａの下部が、センター役物２５００を間にするようにして第一領域５ａ１と第二領域５ａ２とに分離している。第一領域５ａ１を流下している遊技球Ｂは第二領域５ａ２へ進入することはなく、第二領域５ａ２を流下している遊技球Ｂは第一領域５ａ１へ進入することはない。
【１８４８】
本実施形態の遊技盤５は、遊技領域５ａにおける左右方向中央の下部に設けられている始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の右方に設けられているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に設けられているサイド左上ユニット２３００と、始動口ユニット２１００の右方に設けられているアタッカユニット２４００と、遊技領域５ａの中央に設けられているセンター役物２５００と、を備えている。
【１８４９】
また、遊技盤５は、始動口ユニット２１００の下方に設けられている第一アウト口としてのアウト口１００８と、アウト口１００８の右方でアタッカユニット２４００に設けられている第二アウト口としてのサブアウト口２０２３と、を備えている。
【１８５０】
始動口ユニット２１００は、上方へ向かって常時開口している第一始動口２００２が設けられている。第一始動口２００２は、遊技球Ｂの入球により特典として所定数の遊技球Ｂを払出すと共に、第一特別図柄の抽選が行われる。
【１８５１】
サイドユニット２２００は、常時開口している三つの一般入賞口２００１が設けられている。三つの一般入賞口２００１は、左右方向へ間隔をあけて設けられている。最も左側の一般入賞口２００１は左上へ向かって斜めに開口しており、残り二つの一般入賞口２００１は上方へ向かって開口している。一般入賞口２００１は、遊技球Ｂの入球により特典として所定数の遊技球Ｂを払出す。
【１８５２】
サイド左上ユニット２３００は、右方へ低くなるように傾斜している棚部２３０１を有している。棚部２３０１の左端は内レール１００２に接近している。
【１８５３】
アタッカユニット２４００は、右レール１００５とセンター役物２５００との間の部位に設けられているゲート２００３と、ゲート２００３の下方に設けられている第二始動口２００４と、第二始動口２００４の左下に設けられている大入賞口２００５と、大入賞口２００５の左下に設けられている一つの一般入賞口２００１と、一般入賞口２００１の右側に設けられている第二アウト口としてのサブアウト口２０２３と、を備えている。
【１８５４】
また、アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４を開閉させるために進退可能に設けられている第二始動口扉２５４１と、ゲート２００３を遊技球Ｂが通過することで抽選される普通図柄の抽選結果に応じて第二始動口扉２５４１を進退させる始動口ソレノイドと、大入賞口２００５を開閉させるために進退可能に設けられている大入賞口扉２５３１と、第一始動口２００２または第二始動口２００４への遊技球Ｂの入球により抽選される第一特別図柄または第二特別図柄の抽選結果に応じて大入賞口扉２５３１を進退させるアタッカソレノイドと、を備えている。
【１８５５】
また、アタッカユニット２４００は、遊技パネル１１００の前面に当接する平板状の台板２４４１と、台板２４４１と間隔をあけて前方に設けられている透明平板状の前板２４４２と、台板２４４１の左端辺と前板２４４２の左端辺とを繋いでいると共にセンター役物２５００の前方突出部２５１１から右下レール１００４付近まで延出している隔壁部２４４７と、を備えている。隔壁部２４４７は、遊技領域５ａにおけるセンター役物２５００を間にして遊技領域５ａを、左側の第一領域５ａ１と右側の第二領域５ａ２とに区画し

ている。
【１８５６】
　更に、アタッカユニット２４００は、透明な前板２４４２におけるサブアウト口２０２３の前方の部位に、サブアウト口２０２３と対応しているアウト口表記２０５０が設けられている（図１５４を参照）。このアウト口表記２０５０は、横書きの「ＯＵＴ」の文字列により構成されている。このアウト口表記２０５０により、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。なお、アウト口表記２０５０は、シールに施されており、当該シールは前板２４４２の前面に貼り付けられている。
【１８５７】
　センター役物２５００は、前後方向に延びている枠状の前方突出部２５１１と、前方突出部２５１１の後端外周から突出しており遊技パネル１１００の前面に当接する平板状のフランジ部２５１２と、を有している。前方突出部２５１１は、遊技盤５に組立てた状態で、前端が遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂがセンター役物２５００の外側から枠内の内側への侵入を防止している。
【１８５８】
　また、センター役物２５００は、前方突出部２５１１の左側面の外側から枠の内側へ遊技球Ｂを誘導可能なワープ通路２５１６と、センター役物２５００の枠内における下辺部に設けられておりワープ通路２５１６を流通した遊技球Ｂを左右方向へ転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出させるステージ２５１８と、を備えている。
【１８５９】
　ステージ２５１８は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センター役物２５００を遊技パネル１１００の遊技パネル１１００に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状（Ｗ字状）に形成されている。このステージ２５１８は、左右方向中央の左右両側よりも若干高くなっている部位（中央放出部２５１８ａ）と、その左右両側の最も低くなっている部位（サイド放出部２５１８ｂ）とが、前方へ向かって低くなるように傾斜しており、それらの部位から遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ放出させることができる。
【１８６０】
　このステージ２５１８は、遊技盤５に組立てた状態で、その左右方向中央の高くなっている部位（中央放出部２５１８ａ）が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上に位置している。これにより、ステージ２５１８の中央の中央放出部２５１８ａから遊技球Ｂが放出されると、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。
【１８６１】
　このセンター役物２５００は、遊技領域５ａの中央に設けられている。そして、本実施形態では、アタッカユニット２４００とセンター役物２５００とにより、遊技領域５ａを、遊技球Ｂがセンター役物２５００の左外側を流下する第一領域５ａ１と、センター役物２５００の右外側を流下する第二領域５ａ２と、に分割している。
【１８６２】
　この遊技盤５は、大入賞口２００５が所定のパターンで開閉する有利遊技状態を発生（例えば、大当り、中当り、小当り、確変当り、時短当り、など）させる特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の抽選が行われる第一始動口２００２と第二始動口２００４とを備えている。第一始動口２００２は第一領域５ａ１に設けられており、常時開口している。一方、第二始動口２００４は第二領域５ａ２に設けられており、通常は第二始動口扉２５４１により閉鎖されている。この第二始動口２００４は、第二領域５ａ２に設けられているゲート２００３を遊技球Ｂが通過することにより抽選される普通図柄の抽選結果に応じて開放される。
【１８６３】
　従って、通常の状態では、第二始動口２００４よりも第一始動口２００２の方が遊技球Ｂの入球確率が高いため、第一始動口２００２へ入球させるために、センター役物２５０

０の左側（第一領域５ａ１）を遊技球Ｂが流下するような打込操作（所謂、左打ち）をする。そして、第一始動口２００２に入球した上で、有利遊技状態が発生する特別図柄が抽選されると、第二領域５ａ２に設けられている大入賞口２００５が所定のパターンで開放されるため、センター役物２５００の右側（第二領域５ａ２）を遊技球Ｂが流下するような打込操作（所謂、右打ち）をする。

【１８６４】

この右打ちにより、第二領域５ａ２に設けられているゲート２００３を遊技球Ｂが通過する可能性が高くなるため、第二始動口２００４が開放される普通図柄が抽選され易くなり、第二始動口２００４への入球確率が高くなる。つまり、有利遊技状態が発生して右打ちすると、第二始動口２００４の入球確率が変化して通常よりも高くなる。この有利遊技状態では、大入賞口２００５が所定のパターンで開放されるため、第二領域５ａ２に打ち込まれた遊技球Ｂは、第二始動口２００４や大入賞口２００５に入球し易くなり、サブアウト口２０２３に入球する遊技球Ｂが相対的に減少する。

【１８６５】

換言すると、本実施形態では、遊技領域５ａにおけるセンター役物２５００の左側の領域を含む第一領域５ａ１と、同じく遊技領域５ａにおけるセンター役物２５００の右側の領域を含む第二領域５ａ２と、を有している。そして、第一領域５ａ１に発射された（所謂、左打ち）遊技球Ｂが入球可能な第一始動口２００２と、第二領域５ａ２に発射された（所謂、右打ち）遊技球Ｂが入球可能な第二始動口２００４と、が設けられている。更に、第一領域５ａ１には遊技球Ｂを排出する第一アウト口としてのアウト口１００８が設けられ、第二領域５ａ２には遊技球Ｂを排出する第二アウト口としてのサブアウト口２０２３が設けられている。

【１８６６】

通常の遊技状態では、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは、第一始動口２００２に導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高く、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂは、第二始動口２００４に導かれる可能性よりもサブアウト口２０２３に導かれる可能性の方が高い。

【１８６７】

一方、特定の遊技状態（例えば、時短遊技状態）では、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは、第一始動口２００２に導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高いが、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂは、サブアウト口２０２３に導かれる可能性よりも第二始動口２００４に導かれる可能性の方が高い。

【１８６８】

そして、上記のように遊技状態によって入球可能性（入球確率）が変化するサブアウト口２０２３には、第二領域５ａ２における対応する部位（ここでは、アタッカユニット２４００の前板２４４２）に、特定アウト表示としてのアウト口表記２０５０が設けられ、アウト口１００８を含む第一領域５ａ１側にはアウト口１００８と対応するアウト口表記２０５０（特定アウト表示）が設けられていない。

【１８６９】

このように、入球可能性が変化しないアウト口１００８にはアウト口表記２０５０を設けずに、入球可能性が変化するサブアウト口２０２３にはアウト口表記２０５０を設けているため、遊技者がアウト口表記２０５０を見ることで、サブアウト口２０２３がアウト口１００８とは異なる特別なアウト口であると認識させることが可能となり、当該サブアウト口２０２３が設けられている第二領域５ａ２が特別な領域であると認識させることができる。従って、遊技者に対して第二領域５ａ２での遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１８７０】

また、第二領域５ａ２のサブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０を設けているため、遊技者が当該アウト口表記２０５０を見ることで、通常のアウト口１００８の他に設けられているサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、当該サブア

ウト口２０２３を入賞口と誤認することはない。
【１８７１】
更に説明すると、本実施形態では、第一領域５ａ１の第一始動口２００２、または、第二領域５ａ２の第二始動口２００４、に遊技球Ｂが入球して第一特別図柄または第二特別図柄として特定遊技状態（例えば、時短遊技状態）が発生する特別図柄が抽選されると、第二始動口２００４へ遊技球Ｂが入球し易くなる。詳述すると、特定遊技状態が発生する特別図柄の抽選結果（図柄の組合せ）として、例えば、「時短大当り」が抽選されると、第二領域５ａ２に設けられている大入賞口２００５（可変入賞口）が所定のパターンで開閉する大当り遊技が開始されるため、大入賞口２００５に入球させようと多くの遊技球Ｂを第二領域５ａ２へ打ち込む（ここでは、右打ちする）こととなる。そして、大入賞口２００５の開閉が終了（大当り遊技が終了）すると、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球により抽選される特別図柄の変動時間が通常よりも短くなる時短遊技状態（特定遊技状態）となる。この時短遊技状態では、変動時間を短くすることに加えて、変動が保留されている特別図柄がある場合、第一始動口２００２による第一特別図柄よりも第二始動口２００４による第二特別図柄の方を優先して変動させるようにしている。そのため、第二特別図柄の変動が保留されている状態で第一領域５ａ１の第一始動口２００２に入球させても、第一特別図柄の変動が開始されないばかりか保留数の上限（例えば４つ）により破棄されてしまうため、第二領域５ａ２の第二始動口２００４へ入球するように、大当り遊技に引き続き、多くの遊技球Ｂを第二領域５ａ２へ打ち込むこととなり、第二始動口２００４に遊技球Ｂが入球し易くなる。
【１８７２】
換言すると、特定遊技状態（時短遊技状態）でない状態（通常の状態）では、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは第一始動口２００２へ導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高く、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂは第二始動口２００４へ導かれる可能性よりもサブアウト口２０２３に導かれる可能性の方が高い。一方、特定遊技状態（時短遊技状態）になると、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは第一始動口２００２へ導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高く、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂはサブアウト口２０２３に導かれる可能性よりも第二始動口２００４に導かれる可能性の方が高くなる。つまり、時短遊技状態のような特定遊技状態になると、第一始動口２００２に入球する可能性は変化しないが、第二始動口２００４に入球する可能性が高くなるように変化する。
【１８７３】
このように、本実施形態によれば、通常の状態から特定遊技状態になると、第二領域５ａ２に設けられている第二始動口２００４への入球の可能性が変化するため、遊技者が第二領域５ａ２に注目することとなる。この際に、第二領域５ａ２のサブアウト口２０２３の近傍には、アウト口１００８には設けられていないアウト口表記２０５０が設けられているため、当該アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３に入球しないように強く願わせつつ、第二始動口２００４への入球の期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【１８７４】
なお、上記では、特定遊技状態となる特別図柄の抽選結果（図柄の組合せ）として、「時短大当り」を例に示したが、これに限定するものではなく、「時短中当り」、「時短小当り」、「時短当り（大入賞口２００５や役物入賞口が開閉することなく時短遊技状態になるもの）」、としても良い。
【１８７５】
また、上記では、特定の特別図柄が抽選されると、特定遊技状態（時短遊技状態）が発生するものを示したが、これに限定するものではなく、特別図柄の抽選結果として「ハズレ」が所定回数（例えば、２００回～１０００回）連続した場合に時短遊技状態を発生させるようにしても良い（所謂、遊タイム）。

【１８７６】
　また、アタッカユニット２４００の前板２４４２におけるサブアウト口２０２３の前方の部位に、遊技球Ｂを後方へ案内するための案内リブを設け、当該案内リブを隠すように前板２４４２の前面にアウト口表記２０５０を設けても良い。また、前板２４４２の前面に、アウト口表記２０５０に加えて、装飾のための絵柄部を設けても良い。
【１８７７】
［７－７．その他］
　次に、アウト口表記２０５０などのその他の例について説明する。なお、以下ではサブアウト口２０２３などを、単にアウト口と称して説明する。
【１８７８】
（その他１）
　遊技盤５において、センター役物２５００などにより遊技球Ｂが流下する遊技領域５ａが複数の流下領域により構成されていると共に、各流下領域に少なくとも一つのアウト口がそれぞれ設けられているような場合、各アウト口と対応しているアウト口表記２０５０を、流下領域に応じてその態様を異ならせるようにしても良い。例えば、遊技領域５ａが、センター役物２５００のような部材により左流下領域と右流下領域とで構成され、右流下領域に大入賞口２００５のような有利遊技状態の時に開閉する入賞口が設けられているような場合、通常の遊技状態では左流下領域を遊技球Ｂが流下するように打込み（左打ち）、「大当り」のような有利遊技状態の時は大入賞口２００５のある右流下領域を遊技球Ｂが流下するように打込む（右打ち）こととなる。そのため、有利遊技状態（右打ち）では、短時間に多数の遊技球Ｂを打込む必要があるため、通常の遊技状態よりもスピード感や高揚感が異なることとなり、それに合わせて左流下領域のアウト口表記２０５０の態様と右流下領域のアウト口表記２０５０の態様とを異ならせる。例えば、左流下領域のアウト口表記２０５０の書体をゴシック体とし、右流下領域のアウト口表記２０５０の書体をポップ体とする。これにより、遊技者には不利なアウト口の存在を表記しているにも関わらず、ポップ体のアウト口表記２０５０により興趣の低下を抑制させることができ、遊技者を楽しませることができる。
【１８７９】
（その他２）
　遊技盤５において、アウト口表記２０５０を、作業者や遊技球Ｂが接触しない部位に設けることが望ましい。詳述すると、透明な部材にアウト口表記２０５０を設ける（シールの貼付け、印刷、部材との一体成形、など）場合、当該部材の裏側にアウト口表記２０５０を設けるようにする。これにより、作業者や遊技球Ｂが、アウト口表記２０５０に対して正面側から接触不能とすることができるため、遊技球Ｂの通過や作業者の接触によりアウト口表記２０５０の剥離を回避させることができる。
【１８８０】
（その他３）
　遊技盤５において、複数のアウト口表記２０５０を、遊技パネル１１００に設けられているパネル装飾１１１３や装飾シール２２０３などの所定の絵柄や模様が施されている部位に設けるに当たり、アウト口表記２０５０の周囲の絵柄や模様などの色彩に応じて、アウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩を変更することが望ましい。具体的には、例えば、第１のアウト口表記２０５０の周囲の色彩が白色で、第２のアウト口表記２０５０の周囲の色彩が黄色の場合、第１のアウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩を黄色に、第２のアウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩を白色にする。これにより、一見するとアウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩とアウト口表記２０５０の周囲の色彩とが同じように見えるため、アウト口表記２０５０により周囲の色彩を阻害することはなく、パネル装飾１１１３などの絵柄や模様による装飾効果を確実に発揮させることができる。
【１８８１】
　この場合、アウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩は、アウト口表記２０５０の

表記本体２０５１の色彩と、アウト口表記２０５０の周囲の色彩（パネル装飾１１１３などの絵柄や模様の色彩）との何れとも異なる色にすることが望ましい。これにより、周縁部２０５２の色彩によりアウト口表記２０５０の表記本体２０５１がパネル装飾１１１３などの色彩と一体化して目立たなくなることはない。

【１８８２】

なお、アウト口表記２０５０の周縁部２０５２の色彩と、アウト口表記２０５０の周囲の色彩とを異ならせるに当たり、互いの色彩の明度を同じような明度にしても良い。これにより、アウト口表記２０５０がパネル装飾１１１３などの絵柄や模様の色彩を阻害し難くすることができる。

【１８８３】

（その他４）

遊技盤５において、アウト口表記２０５０の一部が遊技パネル１１００に設けられている孔（例えば、障害釘Ｎが植設される釘孔、遊技パネル１１００の前面に設けられる部材の取付孔、遊技パネル１１００を貫通しており部材や球通路などが挿入される開口部、など）にかかっていても良い。これにより、アウト口表記２０５０の一部に障害釘Ｎなどが刺さっていても、残りの部位によりアウト口表記２０５０を認識することができ、アウト口であることを類推することが可能である。

【１８８４】

（その他５）

遊技盤５において、複数のアウト口表記２０５０を、それぞれが対応しているアウト口の開口の大きさに応じて異ならせるようにしても良い。具体的には、例えば、アウト口の開口の大きさに応じて、アウト口表記２０５０の色彩を異ならせるようにしても良い。例えば、開口が遊技球Ｂ一個分の大きさの第１のアウト口ではアウト口表記２０５０の周縁部２０５２を白色とし、第１のアウト口よりも開口が大きい第２のアウト口ではアウト口表記２０５０の周縁部２０５２を黄色にする。

【１８８５】

また、アウト口の開口が広いほど、アウト口表記２０５０の文字を大きくしても良い。或いは、それぞれのアウト口表記２０５０の文字の大きさは同じであるが、アウト口の開口の幅に合わせてアウト口表記２０５０の文字同士の間隔を狭くしたり広くしたりしても良い。

【１８８６】

このように、アウト口の大きさに応じてアウト口表記２０５０を異ならせているため、複数のアウト口に対して、対応しているアウト口表記２０５０を見るだけで該当するアウト口への入球のし易さなどを認識させることが可能である。

【１８８７】

（その他６）

遊技盤５において、アウト口を前方から視認不能とする前装飾体を設け、その前装飾体におけるアウト口の入口付近の部位にアウト口表記２０５０を設けるようにしても良い。この際に、アウト口の開口が左方や右方を向いている場合は、アウト口表記２０５０の文字列を縦書きにして、アウト口の開口部分の前方に設けるようにしても良い。なお、前装飾体としては、「前板に貼り付けられている装飾シール」、「前板に施されているメッキ層や印刷層」、「前板に形成されているレリーフ状の凹凸」、等が挙げられる。

【１８８８】

このように、前装飾体によってアウト口が見えなくても、前装飾体に設けられているアウト口表記２０５０によりアウト口の存在に気付かせることができる。また、アウト口表記２０５０によりアウト口の存在に気付かせることができるため、アウト口が前方から見えるようにする場合と比較して、前装飾体の装飾範囲を広くすることが可能となり、見栄えを良くすることができる。

【１８８９】

（その他７）

遊技盤５において、透明部材に設けられているアウト口の後方に可動体が設けられており、当該可動体の移動範囲の前方に透明部材のアウト口と対応しているアウト口表記２０５０を設けるようにしても良い。具体的には、例えば、可動体を振分部材のような規則的に可動する可動役物とすると共に、アウト口表記２０５０を透明に対して僅かに透光性を低くする。この場合、アウト口表記２０５０の表記本体２０５１を透明にし、周縁部２０５２を透明に対して僅かに透光性を低くするようにしても良い。これにより、アウト口表記２０５０の後方に可動役物が位置している状態ではアウト口表記２０５０が視認し辛くなり、後方に可動役物が位置していない状態ではアウト口表記２０５０が視認可能となる。従って、アウト口表記２０５０の透光性を高くすることで、アウト口表記２０５０が少々見え辛くなっていても、可動役物の１周期の中で視認可能となる時期があるため、アウト口の存在を認識させることができる。

【１８９０】

また、上記では、アウト口表記２０５０の透光性を高くしたものを示したが、例えば、アウト口表記２０５０の色彩を、後方に設けられている可動体の色彩と同じにしても良い。これにより、後方に可動体が位置している状態ではアウト口表記２０５０の色彩が可動体の色彩に溶け込んでアウト口表記２０５０が見え辛くなり、後方に可動体が位置していない状態ではアウト口表記２０５０の色彩と後方の部材の色彩とが異なることでアウト口表記２０５０が見えるようになり、上記と同様の作用効果を奏する。

【１８９１】

なお、上記では、可動体が後方に位置するとアウト口表記２０５０が見え辛くなるものを示したが、これに限定するものではなく、可動体が後方に位置するとアウト口表記２０５０が見え易くなるようにしても良い。

【１８９２】

（その他８）

遊技盤５において、アウト口表記２０５０を構成している文字列を文字ごとに分解し、各文字の前後方向の位置を異ならせるようにしても良い。具体的には、例えば、アウト口表記２０５０が、「ＯＵＴ」の文字からなる場合、「Ｏ」と「ＵＴ」に分解し、「Ｏ」を前板に、「ＵＴ」を遊技パネルにそれぞれ設け、真正面、または、前方に着座している遊技者、から見ると「ＯＵＴ」に見えるようにする。これにより、他の遊技者からはアウト口表記２０５０が意味をなさず、絵柄や模様の一部のように見せることができ、本パチンコ機１で遊技している遊技者からはアウト口表記２０５０が意味をなして見えることとなり、アウト口の存在を認識させることができる。

【１８９３】

（その他９）

遊技盤５において、複数設けられている入賞口表記部２０６０を、対応している入賞口に応じて異ならせるようにしても良い。つまり、入賞口表記部２０６０の文字、シンボルやピクトグラムにより、遊技者に与える利益のランクを示すようにしても良い。具体的には、例えば、第一始動口２００２（始動入賞口）の入賞口表記部２０６０は「ＧＯ」や「ＩＮ」、Ｖ入賞口２０１０は「Ｖ」や「ｖｉｃｔｒｙ」、一般入賞口２００１は単なる「模様」や「マーク」、などとしても良い。

【１８９４】

或いは、特定の入賞口（例えば、Ｖ入賞口）に対して遊技球Ｂの入球を邪魔するように一般入賞口が設けられている場合、当該一般入賞口の入賞口表記部２０６０をアウト口であるかのような表記（例えば、「×」、「ドクロ」、など）とするようにしても良い。これにより、遊技者に対してＶ入賞口への入球を強く願わせることができる上に、アウト口に見える一般入賞口に入球すると特典が得られるため、遊技者の興趣を低下させてしまうことはない。なお、この場合、Ｖ入賞口への入球を邪魔する一般入賞口と、それ以外の一般入賞口とは、互いの入賞口表記部２０６０が異なるようにすると良い。

【１８９５】

［７－８．小括］

上記のアウト口表記２０５０に関しては、以下のような様々な技術的特徴を有している。
【１８９６】
［７－８ａ．小括Ａ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、打込まれた遊技球が流下する遊技領域に、遊技球の入球により所定の特典を付与する複数の入賞口と、遊技領域の下端において開口しており何れの入賞口にも入球しなかった遊技球を遊技領域から排出するアウト口と、が設けられている。この種の遊技機として、遊技領域の下端に設けられているアウト口の他に、遊技領域の途中にアウト口が複数設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０１９－１３６１３４号公報）。
【１８９７】
しかしながら、アウト口が複数設けられていると、入賞口とアウト口との区別が付き難くなり、遊技者によってはアウト口を入賞口と勘違いして、入球したのに特典が付与されないことで苛立ちを覚え、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。このような問題に対して、アウト口であることを表記することが考えられるが、アウト口の表記が目立つと、遊技者に対して違和感を与えてしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【１８９８】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【１８９９】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、
前記遊技盤には、前記第一アウト口に対応する第一アウト表記と、前記第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、
前記第一アウト表記と前記第二アウト表記は、異なる識別態様で設けられている」
ことを特徴とする。
【１９００】
ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【１９０１】
また、第一アウト表記および第二アウト表記のような「アウト表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、

「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、アウト表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。アウト表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。更に、アウト表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材のような部材と一体成形されていても良い。

【１９０２】

また、「異なる識別態様」としては、「アルファベットや片仮名のような文字が異なるもの」、「文字、記号、ピクトグラム、などの外観（意匠）が異なるもの」、「色彩が異なるもの」、「大きさが異なるもの」、「横書き、縦書き、斜め書き、のような文字列の方向が異なるもの」、「透光性が異なるもの」、「光の反射率が異なるもの」、「シールの貼付け、印刷、入球口部材との一体成形、などの形成態様が異なるもの」、等が挙げられる。

【１９０３】

手段１の構成によると、遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、遊技盤には、第一アウト口に対応する第一アウト表記と、第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、第一アウト表記と第二アウト表記は、異なる識別態様で設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７．入球口表記］の章、図１４０～図１４３等の記載を参照）

【１９０４】

本構成では、遊技盤の遊技領域には、複数の入賞口と、第一アウト口や第二アウト口のような複数のアウト口と、が設けられており、第一アウト口と対応する第一アウト表記と、第二アウト口と対応する第二アウト表記と、を互いに異なる識別態様で設けるようにしている。これにより、第一アウト口と対応した第一アウト表記や第二アウト口に対応した第二アウト表記を設けているため、当該表記（アウト表記）を遊技者が視認することで、アウト口の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口や第二アウト口を入賞口と誤認することはないため、第一アウト口や第二アウト口への遊技球の入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１９０５】

そして、第一アウト口や第二アウト口に対応している第一アウト表記や第二アウト表記を、異なる識別態様で設けているため、それぞれのアウト表記を、アウト口の開口方向と対応させたり、アウト口が設けられている部位の装飾と対応させたり、することが可能となり、アウト表記を表示しつつ目立ち難くすることができる。具体的には、例えば、第一アウト口が上方向へ向かって開口し、第二アウト口が左右方向へ向かって開口しているような場合、第一アウト口と対応する第一アウト表記を横書きにし、第二アウト表記を縦書きにすると、それぞれのアウト表記が対応しているアウト口の開口縁に沿った状態となり、それぞれのアウト表記が目立ち難くなると共に、アウト表記に対して違和感を与え難くすることができる。これにより、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９０６】

なお、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、少なくとも一つが遊技盤に施されている装飾に沿った文字列により構成することが望ましい。これにより、アウト表記の文字列を、遊技盤に施されている装飾に沿うように設けているため、アウト表記を装飾の一部のように見せることが可能となり、アウト表記よりアウト口であることを遊技者に認識させつつ目立ち難くすることができ、遊技盤に施されてい

る装飾の装飾性が損なわれることはなく、アウト表記を設けても見栄えが悪くなることはない。

【１９０７】

また、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記の少なくとも一つを、シールに施すようにしても良い。これにより、アウト表記が施（印刷）されたシールを、対応するアウト口の周辺に貼り付けることで、アウト表記を設けることができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【１９０８】

また、上記のようにアウト表記をシールに施す場合、アウト表記の施されたシールは、遊技球と接触しない部位（例えば、透明部材の裏側、アウト口を形成している部材の前板、など）に貼り付けることが望ましい。これにより、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。また、シールを貼り付ける部位として、遊技球の他に作業者が触れ難い部位（例えば、透明部材の裏側）に貼り付けることが望ましく、遊技機のメンテナンスなどの際に作業者がシールに触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。

【１９０９】

更に、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記の少なくとも一つを、対応するアウト口を形成している入球口部材に一体成形するようにしても良い。これにより、アウト表記を、アウト口を形成している入球口部材と一体成形しているため、シールの貼り付けによりアウト表記を設ける場合と比較して、シールの貼り付け忘れが生じることはなく、アウト表記を確実に表記することができると共に、シールを貼り付ける手間が不要であり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１９１０】

また、上記のように、アウト表記を入球口部材と一体成形する場合、シールや印刷（塗装）によりアウト表記を設ける場合と比較して、遊技球や作業者が接触しても剥がれることはない。なお、アウト表記は、遊技球と接触しない部位（例えば、前板の前面、台板の裏面、など）に設けることが望ましい。

【１９１１】

また、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、周辺よりも透光性を低くするようにしても良い。これにより、アウト表記を、周囲よりも透光性を低くしていることから、アウト表記の周囲が明るくなるとアウト表記が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト表記を認識可能としつつ見え辛くすることができ、アウト表記による見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１９１２】

更に、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、対応しているアウト口が入球し難いほど目立つようにしても良い。これにより、例えば、有利遊技状態の発生により多くの遊技球を入球させることが可能となるような入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）の上流付近に入球し難いアウト口を設けると共に、そのアウト口に対応するアウト表記を目立つようにすると、入賞口と一緒に当該アウト口の存在を強く認識させることができ、当該アウト口に遊技球が入球しないように強く願わせることができる。このアウト口には遊技球が入球する可能性は低いものの、対応しているアウト表記が目立つため、予め当該アウト口の存在を充分に認識しており、当該アウト口に遊技球が入球しても、興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技球による遊技を楽しませることができる。

【１９１３】

また、上記のように、入球し難いアウト口のアウト表記ほど目立つようにする場合、例えば、有利遊技状態の発生により多くの遊技球を入球させることが可能となるような入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）の下流側や、遊技球が入球しても有利遊技状態が発生しないような入賞口（例えば、一般入賞口）の付近に、遊技球が入球し易いアウ

ト口を設けると共に、そのアウト口に対応するアウト表記を目立たないようにすると、当該アウト口付近を流通している遊技球に対しては関心が低くなるため、アウト表記によりアウト口の存在を認識しても強く記憶されることはなく、入球し易いアウト口に対する関心を低くすることができる。これにより、入球し易いアウト口への遊技球の入球に気付き難くなり、当該アウト口に遊技球が入球しても興趣が低下することはない。

【１９１４】

従って、上記のように、入球し難いアウト口のアウト表記ほど目立つようにすると、アウト表記によりアウト口の存在に気付かせることができるため、アウト口を入賞口と勘違いしてしまうことはなく、アウト口に入球することで特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはないと共に、入球のし難いアウト口のアウト表記を目立つようにしているため、遊技者に対して違和感を与えることはなく、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１９１５】

手段２：手段１の構成において、

「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、

少なくとも一つが前記遊技盤に施されている装飾に沿った文字列により構成されている」

ものであることを特徴とする。

【１９１６】

手段２の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、少なくとも一つが遊技盤に施されている装飾に沿った文字列により構成するものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、及び図１４２等の記載を参照）

【１９１７】

これにより、アウト表記の文字列を、遊技盤に施されている装飾に沿うように設けているため、アウト表記を装飾の一部のように見せることが可能となり、アウト表記よりアウト口であることを遊技者に認識させつつ目立ち難くすることができ、遊技盤に施されている装飾の装飾性が損なわれることはなく、アウト表記を設けても見栄えが悪くなることはない。

【１９１８】

手段３：手段１または手段２の構成において、

「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、

少なくとも一つがシールに施されている」

ものであることを特徴とする。

【１９１９】

手段３の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記の少なくとも一つを、シールに施すようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、第一アウト口表記２０５０ａ、及び図１４１等の記載を参照）

【１９２０】

これにより、アウト表記が施（印刷）されたシールを、対応するアウト口の周辺に貼り付けることで、アウト表記を設けることができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【１９２１】

なお、アウト表記の施されたシールは、遊技球と接触しない部位（例えば、透明部材の裏側、アウト口を形成している部材の前板、など）に貼り付けることが望ましい。これにより、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。また、シールを貼り付ける部位として、遊技球の他に作業者が触れ難い部位（例えば、透明部材の裏側）に貼り付けることが望ましく、遊技機のメンテナンスなどの際に作業者がシールに触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。

【１９２２】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、
「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、
少なくとも一つが対応する前記アウト口を形成している入球口部材に一体成形されている」
ものであることを特徴とする。
【１９２３】
手段４の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記の少なくとも一つを、対応するアウト口を形成している入球口部材に一体成形するものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、アタッカユニット２４００の受部２４５０、及び図１４２等の記載を参照）
【１９２４】
これにより、アウト表記を、アウト口を形成している入球口部材と一体成形しているため、シールの貼り付けによりアウト表記を設ける場合と比較して、シールの貼り付け忘れが生じることはなく、アウト表記を確実に表記することができると共に、シールを貼り付ける手間が不要であり、遊技機にかかるコストの増加を抑制させることができる。
【１９２５】
また、アウト表記を入球口部材と一体成形しているため、シールや印刷（塗装）によりアウト表記を設ける場合と比較して、遊技球や作業者が接触しても剥がれることはない。なお、アウト表記は、遊技球と接触しない部位（例えば、前板の前面、台板の裏面、など）に設けることが望ましい。
【１９２６】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、
周辺よりも透光性を低くしている」
ものであることを特徴とする。
【１９２７】
手段５の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、周辺よりも透光性を低くしているものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０の記載を参照）
【１９２８】
これにより、アウト表記を、周囲よりも透光性を低くしていることから、アウト表記の周囲が明るくなるとアウト表記が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト表記を認識可能としつつ見え辛くすることができ、アウト表記による見栄えの悪化を抑制させることができる。
【１９２９】
手段６：手段１から手段５までの何れか一つの構成において、
「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、
対応している前記アウト口が入球し難いほど目立つように設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１９３０】
手段６の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、対応しているアウト口が入球し難いほど目立つように設けているものである。（［発明を実施するための形態］では、第一アウト口表記２０５０ａ、第二アウト口表記２０５０ｂ、第三アウト口表記２０５０ｃ、及び図１４３等の記載を参照）
【１９３１】
これにより、例えば、有利遊技状態の発生により多くの遊技球を入球させることが可能となるような入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）の上流付近に入球し難いアウト口を設けると共に、そのアウト口に対応するアウト表記を目立つようにすると、入賞口と一緒に当該アウト口の存在を強く認識させることができ、当該アウト口に遊技球が入球しないように強く願わせることができる。このアウト口には遊技球が入球する可能性は

低いものの、対応しているアウト表記が目立つため、予め当該アウト口の存在を充分に認識しており、当該アウト口に遊技球が入球しても、興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技球による遊技を楽しませることができる。

【１９３２】

また、例えば、有利遊技状態の発生により多くの遊技球を入球させることが可能となるような入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）の下流側や、遊技球が入球しても有利遊技状態が発生しないような入賞口（例えば、一般入賞口）の付近に、遊技球が入球し易いアウト口を設けると共に、そのアウト口に対応するアウト表記を目立たないようにすると、当該アウト口付近を流通している遊技球に対しては関心が低くなるため、アウト表記によりアウト口の存在を認識しても強く記憶されることはなく、入球し易いアウト口に対する関心を低くすることができる。これにより、入球し易いアウト口への遊技球の入球に気付き難くなり、当該アウト口に遊技球が入球しても興趣が低下することはない。

【１９３３】

このようなことから、アウト表記によりアウト口の存在に気付かせることができるため、アウト口を入賞口と勘違いしてしまうことはなく、アウト口に入球することで特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはないと共に、入球のし難いアウト口のアウト表記を目立つようにしているため、遊技者に対して違和感を与えることはなく、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１９３４】

このように、上記の解決手段によれば、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９３５】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態における一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、Ｖ入賞口２０１０は上記解決手段の入賞口に、本実施形態におけるアウト口１００８、ハズレ口２００９、サブアウト口２０２３は上記解決手段のアウト口に、本実施形態における第一アウト口２０２３ａおよび第二アウト口２０２３ｂは上記解決手段の第一アウト口および第二アウト口に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０は上記解決手段のアウト表記に、本実施形態における第一アウト口表記２０５０ａおよび第二アウト口表記２０５０ｂは上記解決手段の第一アウト表記および第二アウト表記に、それぞれ相当している。

【１９３６】

また、本実施形態における始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、アタッカユニット２４００は上記解決手段の入球口部材に、本実施形態における装飾シール２２０３および装飾シール２４４６は上記解決手段のシールに、それぞれ相当している。

【１９３７】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５の遊技領域５ａには、一般入賞口２００１のような複数の入賞口と、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂのような複数のサブアウト口２０２３と、が設けられており、第一アウト口２０２３ａと対応する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂと対応する第二アウト口表記２０５０ｂと、を互いに異なる識別態様で設けるようにしている。これにより、第一アウト口２０２３ａと対応した第一アウト口表記２０５０ａや第二アウト口２０２３ｂに対応した第二アウト口表記２０５０ｂのようなアウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂを入賞口と誤認することはないため、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂへの遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１９３８】

そして、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂに対応している第一アウト

口表記２０５０ａや第二アウト口表記２０５０ｂを、異なる識別態様で設けているため、それぞれのアウト口表記２０５０を、サブアウト口２０２３の開口方向と対応させたり、サブアウト口２０２３が設けられている部位の装飾と対応させたり、することが可能となり、アウト口表記２０５０を表示しつつ目立ち難くすることができる。具体的には、例えば、図１４１に示すように、第一アウト口２０２３ａが右斜め上方向へ向かって開口し、第二アウト口２０２３ｂが上方向へ向かって開口しているような場合、第一アウト口表記２０５０ａを斜め書きにし、第二アウト口表記２０５０ｂを横書きにすると、それぞれのアウト口表記２０５０が対応しているサブアウト口２０２３の開口縁に沿った状態となり、それぞれのアウト口表記２０５０が目立ち難くなると共に、アウト口表記２０５０に対して違和感を与え難くすることができる。これにより、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１９３９】

また、図１４２に示すように、アウト口表記２０５０の文字列を、遊技盤５（ここでは、アタッカユニット２４００における受部２４５０の前板２４５０ａ）に施されている装飾部２４５０ｂに沿うように設けているため、アウト口表記２０５０を装飾の一部のように見せることが可能となり、アウト口表記２０５０よりサブアウト口２０２３であることを遊技者に認識させつつ目立ち難くすることができ、遊技盤５に施されている装飾の装飾性が損なわれることはなく、アウト口表記２０５０を設けても見栄えが悪くなることはない。

【１９４０】

また、図１４１に示すように、アウト口表記２０５０（ここでは、第一アウト口表記２０５０ａ）が施（印刷）された装飾シール２４４６を、対応するサブアウト口２０２３（第一アウト口２０２３ａ）の周辺（受部２４５０の前板２４５０ａ）に貼り付けることで、アウト口表記２０５０を設けることができる。また、例えば、同じ入球口部材（ここでは図１４３に示すサイドユニット２２００）であっても仕様や機種によって一般入賞口２００１としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２２０３を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【１９４１】

また、アウト口表記２０５０の施された装飾シール２２０３（装飾シール２４４６）を、遊技球Ｂと接触しない前板２２０２（前板２４５０ａ）に貼り付けているため、遊技球Ｂの接触によって装飾シール２２０３（装飾シール２４４６）が剥がれることはない。なお、装飾シール２２０３（装飾シール２４４６）を貼り付ける部位として、遊技球Ｂの他に作業者が触れ難い部位（例えば、透明部材（例えば、台板２４４１）の裏側）に貼り付けることが望ましく、パチンコ機１のメンテナンスなどの際に作業者が装飾シール２２０３（装飾シール２４４６）に触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。

【１９４２】

更に、図１４２に示すように、アウト口表記２０５０を、対応するサブアウト口２０２３を形成しているアタッカユニット２４００（受部２４５０）に一体成形するようにしているため、シールの貼り付けによりアウト口表記２０５０を設ける場合と比較して、シールの貼り付け忘れが生じることはなく、アウト口表記２０５０を確実に表記することができると共に、シールを貼り付ける手間が不要であり、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１９４３】

また、アウト口表記２０５０を受部２４５０と一体成形しているため、シールや印刷（塗装）によりアウト口表記２０５０を設ける場合と比較して、遊技球Ｂや作業者が接触しても剥がれることはない。

【１９４４】
　また、図１４１などに示すように、アウト口表記２０５０を、周辺よりも透光性を低くしていることから、アウト口表記２０５０の周囲が明るくなるとアウト口表記２０５０が相対的に暗くなるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０を認識可能（視認可能）としつつ見え辛くすることができ、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を抑制させることができる。
【１９４５】
　更に、アウト口表記２０５０を、対応しているサブアウト口２０２３が入球し難いほど目立つようにしている。例えば、図１４３に示すように、有利遊技状態の発生により多くの遊技球Ｂを入球させることが可能となるような大入賞口２００５の上流付近に入球し難い第一アウト口２０２３ａを設けると共に、その第一アウト口２０２３ａに対応する第一アウト口表記２０５０ａを目立つようにしている。これにより、大入賞口２００５と一緒に第一アウト口２０２３ａの存在を強く認識させることができ、第一アウト口２０２３ａに遊技球Ｂが入球しないように強く願わせることができる。この第一アウト口２０２３ａには遊技球Ｂが入球する可能性は低いものの、対応している第一アウト口表記２０５０ａが目立つため、予め第一アウト口２０２３ａの存在を充分に認識しており、第一アウト口２０２３ａに遊技球Ｂが入球しても、興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技球Ｂによる遊技を楽しませることができる。
【１９４６】
　一方、有利遊技状態の発生により多くの遊技球Ｂを入球させることが可能となるような大入賞口２００５の下流側や、遊技球Ｂが入球しても有利遊技状態が発生しないような一般入賞口２００１の付近、に遊技球Ｂが入球し易い第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃを設けると共に、その第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃに対応する第二アウト口表記２０５０ｂや第三アウト口表記２０５０ｃを第一アウト口表記２０５０ａよりも目立たないようにしており、第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃの付近を流通している遊技球Ｂに対しては関心が低くなるため、第二アウト口表記２０５０ｂや第三アウト口表記２０５０ｃにより第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃの存在を認識しても強く記憶されることはなく、入球し易い第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃに対する関心を低くすることができる。これにより、入球し易い第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃへの遊技球Ｂの入球に気付き難くなり、当該第二アウト口２０２３ｂや第三アウト口２０２３ｃに遊技球Ｂが入球しても興趣が低下することはない。
【１９４７】
　従って、図１４３の例では、入球し難いサブアウト口２０２３のアウト口表記２０５０ほど目立つようにすると、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができるため、サブアウト口２０２３を入賞口と勘違いしてしまうことはなく、サブアウト口２０２３に入球することで特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはないと共に、入球のし難いサブアウト口２０２３のアウト口表記２０５０を目立つようにしているため、遊技者に対して違和感を与えることはなく、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【１９４８】
［７－８ｂ．小括Ｂ］
（技術的特徴の背景）
　パチンコ機のような遊技機には、打込まれた遊技球が流下する遊技領域に、遊技球の入球により所定の特典を付与する複数の入賞口と、遊技領域の下端において開口しており何れの入賞口にも入球しなかった遊技球を遊技領域から排出するアウト口と、が設けられている。この種の遊技機として、遊技領域の下端に設けられているアウト口の他に、遊技領域の途中にアウト口が複数設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０１９－１３６１３４号公報）。
【１９４９】

しかしながら、アウト口が複数設けられていると、入賞口とアウト口との区別が付き難くなり、遊技者によってはアウト口を入賞口と勘違いして、入球したのに特典が付与されないことで苛立ちを覚え、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。このような問題に対して、アウト口であることを表記することが考えられるが、アウト口の表記が目立つと、遊技者に対して違和感を与えてしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。

【１９５０】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【１９５１】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、

前記遊技盤には、前記第一アウト口に対応する第一アウト表記と、前記第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、

前記第一アウト表記と前記第二アウト表記は、前後方向の位置が異なる箇所に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１９５２】

ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。

【１９５３】

また、第一アウト表記および第二アウト表記のようなアウト表記としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、アウト表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。アウト表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、複数のアウト表記は、同じ識別態様であっても良いし、異なる識別態様であっても良い。更に、アウト表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材のような部材と一体成形されていても良い。

【１９５４】

手段１の構成によると、遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を

流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、遊技盤には、第一アウト口に対応する第一アウト表記と、第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、第一アウト表記と第二アウト表記は、前後方向の位置が異なる箇所に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－２ａ．アウト口表記の使用例１］の章、アウト口表記２０５０、図１４０及び図１４１等の記載を参照）

【１９５５】

本構成では、遊技盤の遊技領域には、複数の入賞口と、第一アウト口や第二アウト口のような複数のアウト口と、が設けられており、第一アウト口と対応する第一アウト表記と、第二アウト口と対応する第二アウト表記と、を設けるようにしている。これにより、第一アウト口と対応した第一アウト表記や第二アウト口に対応した第二アウト表記のようなアウト表記を遊技者が視認することで、アウト口の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口や第二アウト口を入賞口と誤認することはないため、第一アウト口や第二アウト口への遊技球の入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１９５６】

そして、第一アウト口や第二アウト口に対応している第一アウト表記や第二アウト表記を、前後方向の位置が異なる箇所に設けているため、それぞれのアウト表記を、対応するアウト口と入賞口（入賞口の種類）との位置関係に応じて前後方向の位置を異ならせたり、前方に着座している遊技者からの距離に応じて前後方向の位置を異ならせたり、対応するアウト口への遊技球の入球確率（入球し易さ）に応じて前後方向の位置を異ならせたり、することが可能となり、アウト表記を表示しつつ目立ち難くすることができる。

【１９５７】

具体的には、例えば、入賞口として大入賞口を有するアタッカユニットに設けられている第一アウト口の第一アウト表記と、入賞口として一般入賞口を有するサイドユニットに設けられている第二アウト口の第二アウト表記とでは、第一アウト表記を第二アウト表記よりも前方に設けるようにする。これにより、第一アウト口の第一アウト表記を第二アウト表記よりも前方に設けても、第一アウト表記（第一アウト口）の近くに大入賞口が設けられていることから、前方に配置されることで第一アウト表記が目立っても遊技者の関心が大入賞口へ強く向けられるため、相対的に第一アウト表記に対する関心が低くなり、第一アウト表記が気にならなくなって第一アウト表記が周囲の装飾を阻害することはない。一方、第二アウト表記は、第一アウト表記よりも後方に設けているため、第二アウト表記を第一アウト表記よりも目立ち難くすることができる。

【１９５８】

或いは、例えば、遊技者から遠い第一アウト口の第一アウト表記と、遊技者から近い第二アウト口の第二アウト表記とでは、第一アウト表記を第二アウト表記よりも前方に設けるようにする。これにより、第一アウト口（第一アウト表記）は遊技者から遠いため、前方に設けても目立つことはない。一方、第二アウト口は遊技者から近いため、第二アウト表記を第一アウト表記よりも後方に配置することで、第二アウト表記が遊技者から遠くなり、第二アウト表記を目立ち難くすることが可能となる。

【１９５９】

このようなことから、第一アウト表記と第二アウト表記の前後方向の位置を異ならせることで、何れのアウト表記も目立ち難くすることが可能となるため、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９６０】

なお、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、入賞口に対応する入賞表記よりも後方に設けるようにしても良い。これにより、入賞口に対応する入賞表記が設けられているため、入賞表記により入賞口の存在を遊技者に気付かせ

ることができ、当該入賞口への遊技球の入球を強く願わせることができる。そして、入賞口とは別に設けられている複数のアウト口では、対応するアウト表記を入賞表記よりも後方に設けているため、アウト表記を入賞表記よりも目立ち難くすることができ、アウト表記によりアウト口の存在を認識させつつ、アウト表記による遊技機（遊技盤）の見栄えの悪化を抑制することができる。これにより、アウト表記が設けられていても遊技者に対して違和感を与えることはないため、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９６１】

また、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、入球し易いアウト口ほど流通する遊技球よりも前方に設けるようにすることが望ましい。これにより、入球し易いアウト口ほど、対応するアウト表記を、流通する遊技球よりも前方に設けているため、頻繁に当該アウト口に遊技球が入球しても、入球する遊技球によりアウト表記が隠れて視認（読み）辛くなることはなく、アウト表記を確実に視認させてアウト口の存在を認識させることができる。

【１９６２】

更に、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、遊技球の入球によりより多くの特典が付与される入賞口に近いアウト口に対応するアウト表記ほど前方に設けるようにしても良い。これにより、遊技球の入球によりより多くの特典が付与される入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、Ｖ入賞口、など）では、遊技者の関心が強く向けられることから、その入賞口の近くに設けられているアウト口のアウト表記に対しては、相対的に関心が低くなり、当該アウト表記を他のアウト表記よりも前方に設けることで目立つようになっても気になることはなく、当該アウト表記が周囲の装飾を阻害することはない。従って、アウト表記が設けられていても、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９６３】

手段２：手段１の構成において、

「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、

前記入賞口に対応する入賞表記よりも後方に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【１９６４】

ここで、「入賞表記」としては、「入賞口の名称」、「［ＩＮ］［ＧＯ］［Ｖ］のようなアルファベット、［始］［賞］［当］のような漢字、などの文字」、「入球による払出数や序列を示すような数字」、「模様やシンボルやピクトグラムのような図案」、等が挙げられる。

【１９６５】

手段２の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、入賞口に対応する入賞表記よりも後方に設けるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、及び図１４１等の記載を参照）

【１９６６】

本構成では、入賞口に対応する入賞表記が設けられているため、入賞表記により入賞口の存在を遊技者に気付かせることができ、当該入賞口への遊技球の入球を強く願わせることができる。そして、入賞口とは別に設けられている複数のアウト口では、対応するアウト表記を入賞表記よりも後方に設けているため、アウト表記を入賞表記よりも目立ち難くすることができ、アウト表記によりアウト口の存在を認識させつつ、アウト表記による遊技機（遊技盤）の見栄えの悪化を抑制することができる。これにより、アウト表記が設けられていても遊技者に対して違和感を与えることはないため、遊技領域内に設けられてい

る装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【１９６７】
手段３：手段１又は手段２の構成において、
「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、
入球し易い前記アウト口ほど流通する遊技球よりも前方に設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１９６８】
手段３の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、入球し易いアウト口ほど流通する遊技球よりも前方に設けるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０の記載を参照）
【１９６９】
これにより、入球し易いアウト口ほど、対応するアウト表記を、流通する遊技球よりも前方（例えば、入球口部材の前板）に設けているため、頻繁に当該アウト口に遊技球が入球しても、入球する遊技球によりアウト表記が隠れて視認（読み）辛くなることはなく、アウト表記を確実に視認させてアウト口の存在を認識させることができる。
【１９７０】
手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、
「少なくとも前記第一アウト表記および前記第二アウト表記を含む複数のアウト表記は、
遊技球の入球によりより多くの特典が付与される前記入賞口に近い前記アウト口に対応する前記アウト表記ほど前方に設けられている」
ものであることを特徴とする。
【１９７１】
手段４の構成によると、少なくとも第一アウト表記および第二アウト表記を含む複数のアウト表記を、遊技球の入球によりより多くの特典が付与される入賞口に近いアウト口に対応するアウト表記ほど前方に設けるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、及び図１４１等の記載を参照）
【１９７２】
これにより、遊技球の入球によりより多くの特典が付与される入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、Ｖ入賞口、など）では、遊技者の関心が強く向けられることから、その入賞口の近くに設けられているアウト口のアウト表記に対しては、相対的に関心が低くなり、当該アウト表記を他のアウト表記よりも前方に設けることで目立つようになっても気になることはなく、当該アウト表記が周囲の装飾を阻害することはない。従って、アウト表記が設けられていても、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【１９７３】
このように、上記の解決手段によれば、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【１９７４】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態における一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、Ｖ入賞口２０１０は上記解決手段の入賞口に、本実施形態におけるアウト口１００８、ハズレ口２００９、サブアウト口２０２３は上記解決手段のアウト口に、本実施形態における第一アウト口２０２３ａは上記解決手段の第一アウト口に、本実施形態における第二アウト口２０２３ｂおよび第三アウト口２０２３ｃは上記解決手段の第二アウト口に、それぞれ相当している。
【１９７５】
また、本実施形態におけるアウト口表記２０５０は上記解決手段のアウト表記に、本実

施形態における第一アウト口表記２０５０ａは上記解決手段の第一アウト表記に、本実施形態における第二アウト口表記２０５０ｂおよび第三アウト口表記２０５０ｃは上記解決手段の第二アウト表記に、本実施形態における入賞口表記部２０６０は上記解決手段の入賞表記に、それぞれ相当している。

【１９７６】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５の遊技領域５ａには、一般入賞口２００１や第一始動口２００２のような複数の入賞口と、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂのような複数のサブアウト口２０２３と、が設けられており、第一アウト口２０２３ａと対応する第一アウト口表記２０５０ａと、第二アウト口２０２３ｂと対応する第二アウト口表記２０５０ｂと、を設けるようにしている。これにより、第一アウト口表記２０５０ａや第二アウト口表記２０５０ｂのようなアウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂを入賞口と誤認することはないため、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂへの遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１９７７】

そして、第一アウト口２０２３ａや第二アウト口２０２３ｂに対応している第一アウト口表記２０５０ａや第二アウト口表記２０５０ｂを、前後方向の位置が異なる箇所に設けているため、それぞれのアウト口表記２０５０を、対応するサブアウト口２０２３と入賞口（入賞口の種類）との位置関係に応じて前後方向の位置を異ならせたり、前方に着座している遊技者からの距離に応じて前後方向の位置を異ならせたり、対応するサブアウト口２０２３への遊技球Ｂの入球確率（入球し易さ）に応じて前後方向の位置を異ならせたり、することが可能となり、アウト口表記２０５０を表示しつつ目立ち難くすることができる。

【１９７８】

具体的には、例えば、図１４１に示すように、入賞口として大入賞口２００５を有するアタッカユニット２４００に設けられている第一アウト口２０２３ａの第一アウト口表記２０５０ａと、入賞口として一般入賞口２００１を有するサイドユニット２２００に設けられている第二アウト口２０２３ｂの第二アウト口表記２０５０ｂとでは、第一アウト口表記２０５０ａを第二アウト口表記２０５０ｂよりも前方に設けるようにする。これにより、第一アウト口２０２３ａの第一アウト口表記２０５０ａを第二アウト口表記２０５０ｂよりも前方に設けても、第一アウト口表記２０５０ａ（第一アウト口２０２３ａ）の近くに大入賞口２００５が設けられていることから、前方に配置されることで第一アウト口表記２０５０ａが目立っても遊技者の関心が大入賞口２００５へ強く向けられるため、相対的に第一アウト口表記２０５０ａに対する関心が低くなり、第一アウト口表記２０５０ａが気にならなくなって第一アウト口表記２０５０ａが周囲の装飾を阻害することはない。一方、第二アウト口表記２０５０ｂは、第一アウト口表記２０５０ａよりも後方に設けているため、第二アウト口表記２０５０ｂを第一アウト口表記２０５０ａよりも目立ち難くすることができる。

【１９７９】

或いは、例えば、図示は省略するが、遊技者から遠い第一のサブアウト口２０２３の第一のアウト口表記２０５０と、遊技者から近い第二のサブアウト口２０２３の第二のアウト口表記２０５０とでは、第一のアウト口表記２０５０を第二のアウト口表記２０５０よりも前方に設けるようにする。これにより、第一のサブアウト口２０２３（第一のアウト口表記２０５０）は遊技者から遠いため、前方に設けても目立つことはない。一方、第二のサブアウト口２０２３は遊技者から近いため、第二のアウト口表記２０５０を第一のアウト口表記２０５０よりも後方に配置することで、第二のアウト口表記２０５０が遊技者から遠くなり、第二のアウト口表記２０５０を目立ち難くすることが可能となる。

【１９８０】

このようなことから、第一アウト口表記２０５０ａと第二アウト口表記２０５０ｂの前後方向の位置を異ならせることで、何れのアウト口表記２０５０も目立ち難くすることが可能となるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１９８１】

更に、図１４１に示すように、複数のアウト口表記２０５０を、第一始動口２００２に対応する入賞口表記部２０６０よりも後方に設けるようにしている。これにより、第一始動口２００２に対応する入賞口表記部２０６０が設けられているため、入賞口表記部２０６０により第一始動口２００２の存在を遊技者に気付かせることができ、第一始動口２００２への遊技球Ｂの入球を強く願わせることができる。そして、第一始動口２００２とは別に設けられている複数のサブアウト口２０２３では、対応するアウト口表記２０５０を入賞口表記部２０６０よりも後方に設けているため、アウト口表記２０５０を入賞口表記部２０６０よりも目立ち難くすることができ、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在を認識させつつ、アウト口表記２０５０によるパチンコ機１（遊技盤５）の見栄えの悪化を抑制することができる。これにより、アウト口表記２０５０が設けられていても遊技者に対して違和感を与えることはないため、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１９８２】

また、入球し易いサブアウト口２０２３（例えば、図１４３における第三アウト口２０２３ｃ）ほど、対応するアウト口表記２０５０（第三アウト口表記２０５０ｃ）を流通する遊技球Ｂよりも前方（前板２２０２）に設けているため、頻繁に当該サブアウト口２０２３に遊技球Ｂが入球しても、入球する遊技球Ｂによりアウト口表記２０５０が隠れて視認（読み）辛くなることはなく、アウト口表記２０５０を確実に視認させてサブアウト口２０２３の存在を認識させることができる。

【１９８３】

更に、遊技球Ｂの入球によりより多くの特典が付与される入賞口（例えば、大入賞口２００５、役物入賞口、Ｖ入賞口２０１０、など）に近いサブアウト口２０２３に対応するアウト口表記２０５０ほど前方に設けるようにしている。これにより、大入賞口２００５などでは、遊技者の関心が強く向けられることから、その大入賞口２００５などの近くに設けられているサブアウト口２０２３のアウト口表記２０５０に対しては、相対的に関心が低くなり、当該アウト口表記２０５０（例えば、図１４１における第一アウト口表記２０５０ａ）を他のアウト口表記２０５０（例えば、図１４１における第二アウト口表記２０５０ｂや第三アウト口表記２０５０ｃ）よりも前方に設けることで目立つようになっても気になることはなく、当該アウト口表記２０５０が周囲の装飾を阻害することはない。従って、アウト口表記２０５０が設けられていても、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１９８４】

［７－８ｃ．小括Ｃ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、打込まれた遊技球が流下する遊技領域に、遊技球の入球により所定の特典を付与する複数の入賞口と、遊技領域の下端において開口しており何れの入賞口にも入球しなかった遊技球を遊技領域から排出するアウト口と、が設けられている。この種の遊技機として、遊技領域の下端に設けられているアウト口の他に、遊技領域の途中にアウト口が複数設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開

２０１９－１３６１３４号公報）。
【１９８５】
しかしながら、アウト口が複数設けられていると、入賞口とアウト口との区別が付き難くなり、遊技者によってはアウト口を入賞口と勘違いして、入球したのに特典が付与されないことで苛立ちを覚え、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。このような問題に対して、アウト口であることを表記することが考えられるが、アウト口の表記が目立つと、遊技者に対して違和感を与えてしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【１９８６】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【１９８７】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、
前記遊技盤には、前記第一アウト口に対応する第一アウト表記と、前記第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、
該第二アウト表記の少なくとも一部は、前記遊技盤よりも前方に設けられている前方体と正面視で重なる箇所に設けられており、
前記前方体と前記遊技盤との間には、前記第二アウト表記のうちの前記前方体と正面視で重なっている部位を遊技者に視認可能にする空間部が設けられている」
ことを特徴とする。
【１９８８】
ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【１９８９】
また、第一アウト表記および第二アウト表記のような「アウト表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、アウト表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。アウト表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、複数のアウト表記は、同じ識別態様であっても良いし、異なる識別態様であっても良い。更に、アウト表記は、シール

に設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材のような部材と一体成形されていても良い。

【１９９０】

また、「前方体」としては、「遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている窓部を有する扉枠における窓枠部」、「遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている窓部を有する扉枠において、窓部の下側に設けられている皿ユニットの装飾体」、「遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている窓部を有する扉枠において、窓部の下側且つ前側に設けられており遊技者が操作可能な演出操作ユニット（演出操作部）」、「遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている窓部を有する扉枠において、窓部の右外側に設けられている扉枠右サイドユニットの装飾体」、「遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている窓部を有する扉枠において、窓部の左外側に設けられている扉枠左サイドユニットの装飾体」、等が挙げられる。

【１９９１】

手段１の構成において、遊技領域を流下した遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下した遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、遊技盤には、第一アウト口に対応する第一アウト表記と、第二アウト口に対応する第二アウト表記とが設けられており、第二アウト表記の少なくとも一部は、遊技盤よりも前方に設けられている前方体と正面視で重なる箇所に設けられており、前方体と遊技盤との間には、第二アウト表記のうちの前方体と正面視で重なっている部位を遊技者に視認可能にする空間部が設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－２ｄ．アウト口表記の使用例４］の章、アウト口表記２０５０、図１４４等の記載を参照）

【１９９２】

本構成では、遊技盤の遊技領域には、複数の入賞口と、第一アウト口や第二アウト口のような複数のアウト口と、が設けられており、第一アウト口と対応する第一アウト表記と、第二アウト口と対応する第二アウト表記と、を設けるようにしている。これにより、第一アウト口と対応した第一アウト表記や第二アウト口に対応した第二アウト表記のようなアウト表記を遊技者が視認することで、アウト口の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口や第二アウト口を入賞口と誤認することはないため、第一アウト口や第二アウト口への遊技球の入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【１９９３】

そして、第二アウト表記の少なくとも一部が、正面からは前方体と重なって視認不能としていると共に、本遊技機の前方に着座している遊技者からは空間部を通して視認可能としているため、本遊技機において遊技している遊技者に対しては第一アウト表記や第二アウト表記による上記のような作用効果を発揮させつつ、他の遊技者に対しては前方体により第二アウト表記を目立ち難くすることで、第二アウト表記による見栄えの悪化を回避させることができる。従って、他の遊技者に対しては、アウト表記が設けられていても見え辛いため、違和感を与えることはなく、本遊技機に施されている装飾による装飾効果を充分に発揮させることができ、遊技する遊技機として選択され易い遊技機を提供することができる。

【１９９４】

なお、少なくとも第二アウト表記を、正面視で後方に設けられている光源と重ならない箇所、又は、後方に設けられている光源と空間部との両方に重ならない箇所、に設けるようにしても良い。これにより、少なくとも第二アウト表記が、後方に設けられている光源からの光を遮ることはないため、光源による発光演出の際に、遊技者が感じる刺激を損なうことはなく、発光演出による演出効果を確実に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。この際に、光源からの光により少なくとも第二アウト表記が相対的に暗くなり、第二アウト表記が見え辛くなるため、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装

飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９９５】

或いは、少なくとも第二アウト表記を、正面視で後方に設けられている光源と重なる箇所、又は、後方に設けられている光源と空間部との両方に重なる箇所、に周囲よりも透光性を低く設けるようにしても良い。これにより、少なくとも第二アウト表記を、後方に設けられている光源からの光を遮るように設けているが、第二アウト表記を周囲よりも透光性を低くしているため、光源からの光によって第二アウト表記の周囲が明るく光ることとなり、相対的に第二アウト表記が暗くなって第二アウト表記を見え辛くすることができる。従って、遊技者に対してアウト表記による違和感を与えることはないため、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９９６】

また、上記のように、少なくとも第二アウト表記を、光源と重なるようにすると共に、周囲よりも透光性を低くする場合、光源からの光によって第二アウト表記よりも透光性の高い周囲が明るく光ることとなるため、第二アウト表記が暗くても光源による発光演出に影響を与えることはなく、発光演出による演出効果を充分に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【１９９７】

更に、少なくとも第二アウト表記を、遊技領域を前方から視認可能にしている窓部の周縁に接近するように設けるようにしても良い。これにより、少なくとも第二アウト表記が窓部の縁に接近しているため、第二アウト表記が目立ち難くなり、アウト表記により遊技者に違和感を与えることはなく、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１９９８】

また、少なくとも第二アウト表記を、前方体と正面視において重なる部位の長手方向と同じ方向へ長く延出するように設けるようにしても良い。具体的には、例えば、前方体と重なる部位が左右に長い場合は、第二アウト表記を横書きにし、前方体と重なる部位が上下に長い場合は、第二アウト表記を縦書きにするようにしても良い。これにより、第二アウト表記が前方体によって確実に隠されることとなるため、他の遊技者から第二アウト表記を見え辛くすることができ、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【１９９９】

手段２：手段１の構成において、

「少なくとも前記第二アウト表記は、

正面視で後方に設けられている光源と重ならない箇所、又は、後方に設けられている光源と前記空間部との両方に重ならない箇所、に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２０００】

ここで、「光源」としては、「ＬＥＤ」、「演出表示装置」、「電灯」、「蛍光灯」、「冷陰極管」、等が挙げられる。また、光源としては、自光するものの他に、鏡のような光を反射させるものであっても良いし、プリズムのような光を屈折させるものであっても良い。

【２００１】

手段２の構成によると、少なくとも第二アウト表記を、正面視で後方に設けられている光源と重ならない箇所、又は、後方に設けられている光源と空間部との両方に重ならない箇所、に設けるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－３ａ．アウト口表記とＬＥＤとの関係１］の章、及び図１４５等の記載を参照）

【２００２】

これにより、少なくとも第二アウト表記が、後方に設けられている光源からの光を遮る

ことはないため、光源による発光演出の際に、遊技者が感じる刺激を損なうことはなく、発光演出による演出効果を確実に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。この際に、光源からの光により少なくとも第二アウト表記が相対的に暗くなり、第二アウト表記が見え辛くなるため、遊技者に対してアウト表記により違和感を与えることはなく、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２００３】

手段３：手段１の構成において、

「少なくとも前記第二アウト表記は、

正面視で後方に設けられている光源と重なる箇所、又は、後方に設けられている光源と前記空間部との両方に重なる箇所、に周囲よりも透光性が低く設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２００４】

手段３の構成によると、少なくとも第二アウト表記を、正面視で後方に設けられている光源と重なる箇所、又は、後方に設けられている光源と空間部との両方に重なる箇所、に周囲よりも透光性を低く設けるようにするものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－３ｂ．アウト口表記とＬＥＤとの関係２］の章、及び図１４６等の記載を参照）

【２００５】

これにより、少なくとも第二アウト表記を、後方に設けられている光源からの光を遮るように設けているが、第二アウト表記を周囲よりも透光性を低くしているため、光源からの光によって第二アウト表記の周囲が明るく光ることとなり、相対的に第二アウト表記が暗くなって第二アウト表記を見え辛くすることができる。従って、遊技者に対してアウト表記による違和感を与えることはないため、遊技領域内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２００６】

また、光源からの光によって第二アウト表記よりも透光性の高い周囲が明るく光ることとなるため、第二アウト表記が暗くても光源による発光演出に影響を与えることはなく、発光演出による演出効果を充分に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２００７】

手段４：手段１から手段３までの何れか一つの構成において、

「少なくとも前記第二アウト表記は、

前記遊技領域を前方から視認可能にしている窓部の周縁に接近するように設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２００８】

手段４の構成によると、少なくとも第二アウト表記を、遊技領域を前方から視認可能にしている窓部の周縁に接近するように設けるものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－２ｄ．アウト口表記の使用例４］の章、アウト口表記２０５０、図１４４等の記載を参照）

【２００９】

これにより、少なくとも第二アウト表記が窓部の縁に接近しているため、第二アウト表記が目立ち難くなり、アウト表記により遊技者に違和感を与えることはなく、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２０１０】

なお、第二アウト表記などのアウト表記を、窓部の周縁に沿うように設けても良い。具体的には、例えば、窓部の下縁付近に設ける場合はアウト表記を横書きにし、窓部の右縁

付近や左縁付近に設ける場合はアウト表記を縦書きにするようにしても良い。
【２０１１】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「少なくとも前記第二アウト表記は、
前記前方体と正面視において重なる部位の長手方向と同じ方向へ長く延出するように設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２０１２】
手段５の構成によると、少なくとも第二アウト表記を、前方体と正面視において重なる部位の長手方向と同じ方向へ長く延出するように設けるものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－２ｄ．アウト口表記の使用例４］の章、アウト口表記２０５０、図１４４等の記載を参照）
【２０１３】
本構成では、第二アウト表記と前方体とが重なる部位の長手方向と、第二アウト表記の長手方向と、を同じにしている。具体的には、例えば、前方体と重なる部位が左右に長い場合は、第二アウト表記を横書きにし、前方体と重なる部位が上下に長い場合は、第二アウト表記を縦書きにするものである。これにより、第二アウト表記が前方体によって確実に隠されることとなるため、他の遊技者から第二アウト表記を見え辛くすることができ、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。
【２０１４】
このように、上記の解決手段によれば、複数設けられているアウト口を違和感なく表記することで興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２０１５】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態における一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、Ｖ入賞口２０１０は上記解決手段の入賞口に、本実施形態におけるアウト口１００８、ハズレ口２００９、サブアウト口２０２３は上記解決手段のアウト口に、本実施形態における左右に離隔している二つのサブアウト口２０２３は上記解決手段の第一アウト口及び第二アウト口に、本実施形態における左右に離隔している二つのアウト口表記２０５０は上記解決手段の第一アウト表記及び第二アウト表記に、それぞれ相当している。
【２０１６】
また、本実施形態における扉枠３の扉窓１０１ａは上記解決手段の窓部に、本実施形態における演出操作ユニット３００は上記解決手段の前方体に、本実施形態における空間部２０５５は上記解決手段の空間部に、本実施形態における装飾基板２０５６のＬＥＤ２０５６ａは上記解決手段の光源に、それぞれ相当している。
【２０１７】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技盤５の遊技領域５ａには、第一始動口２００２を含む複数の入賞口と、左側のサブアウト口２０２３や右側のサブアウト口２０２３のような複数のサブアウト口２０２３と、が設けられており、左側のサブアウト口２０２３と対応する左側のアウト口表記２０５０と、右側のサブアウト口２０２３と対応する右側のアウト口表記２０５０と、を設けるようにしている。これにより、サブアウト口２０２３と対応したアウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、サブアウト口２０２３を第一始動口２００２などの入賞口と誤認することはないため、サブアウト口２０２３への遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。
【２０１８】
そして、図１４４に示すように、アウト口表記２０５０の少なくとも一部が、正面から

は前方体としての演出操作ユニット３００と重なって視認不能としていると共に、本パチンコ機１の前方に着座している遊技者からは空間部２０５５を通して視認可能としているため、本パチンコ機１において遊技している遊技者に対してはアウト口表記２０５０による上記のような作用効果を発揮させつつ、他の遊技者に対しては演出操作ユニット３００によりアウト口表記２０５０を目立ち難くすることで、アウト口表記２０５０による見栄えの悪化を回避させることができる。従って、他の遊技者に対しては、アウト口表記２０５０が設けられていても見え辛いため、違和感を与えることはなく、本パチンコ機１に施されている装飾による装飾効果を充分に発揮させることができ、遊技するパチンコ機として選択され易いパチンコ機１を提供することができる。

【２０１９】

また、図１４５に示すように、アウト口表記２０５０を、正面視で後方に設けられている光源（ＬＥＤ２０５６ａ）と重ならない箇所、又は、後方に設けられている光源（ＬＥＤ２０５６ａ）と空間部２０５５との両方に重ならない箇所、に設けるようにする。これにより、アウト口表記２０５０が、後方に設けられているＬＥＤ２０５６ａからの光を遮ることはないため、ＬＥＤ２０５６ａによる発光演出の際に、遊技者が感じる刺激を損なうことはなく、発光演出による演出効果を確実に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。この際に、ＬＥＤ２０５６ａからの光により少なくともアウト口表記２０５０が相対的に暗くなり、アウト口表記２０５０が見え辛くなるため、遊技者に対してアウト口表記２０５０により違和感を与えることはなく、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２０２０】

或いは、図１４６に示すように、アウト口表記２０５０を、正面視で後方に設けられている光源（ＬＥＤ２０５６ａ）と重なる箇所、又は、後方に設けられている光源（ＬＥＤ２０５６ａ）と空間部２０５５との両方に重なる箇所、に周囲よりも透光性を低く設けるようにする。これにより、アウト口表記２０５０を、後方に設けられているＬＥＤ２０５６ａからの光を遮るように設けているが、アウト口表記２０５０を周囲よりも透光性を低くしているため、ＬＥＤ２０５６ａからの光によってアウト口表記２０５０の周囲が明るく光ることとなり、相対的にアウト口表記２０５０が暗くなってアウト口表記２０５０を見え辛くすることができる。従って、遊技者に対してアウト口表記２０５０による違和感を与えることはないため、遊技領域５ａ内に設けられている装飾による装飾効果を確実に発揮させることができ、見栄えを良くすることができると共に、遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２０２１】

また、上記のように、アウト口表記２０５０を、ＬＥＤ２０５６ａと重なるようにすると共に、周囲よりも透光性を低くする場合、ＬＥＤ２０５６ａからの光によってアウト口表記２０５０よりも透光性の高い周囲が明るく光ることとなるため、アウト口表記２０５０が暗くてもＬＥＤ２０５６ａによる発光演出に影響を与えることはなく、発光演出による演出効果を充分に発揮させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【２０２２】

更に、図１４４に示すように、アウト口表記２０５０を、遊技領域５ａを前方から視認可能にしている扉窓１０１ａの周縁に接近するように設ける。これにより、アウト口表記２０５０が扉窓１０１ａの縁に接近しているため、アウト口表記２０５０が目立ち難くなり、アウト口表記２０５０により遊技者に違和感を与えることはなく、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２０２３】

また、図１４４に示すように、アウト口表記２０５０を、前方体としての演出操作ユニット３００と正面視において重なる部位の長手方向と同じ方向へ長く延出するように設け

る。具体的には、演出操作ユニット３００と重なる部位が左右に長いため、アウト口表記２０５０を横書きにする。これにより、アウト口表記２０５０が演出操作ユニット３００によって確実に隠されることとなるため、他の遊技者からアウト口表記２０５０を見え辛くすることができ、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。
【２０２４】
［７－８ｄ．小括Ｄ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口や、入球しても特典を付与することなく遊技領域から排出するアウト口のような入球口を有する入球口部材を備えている。この入球口部材として、入賞口として複数の一般入賞口を有しているサイドユニットが知られている（例えば、特許文献：特開２０１７－０１８１８５号公報）。
【２０２５】
しかしながら、上記の特許文献のような従来の遊技機では、サイドユニットのような入球口部材が透明であるため、遊技機を組立てる際に、入球口部材の向きが判り辛く、組立に手間がかかる問題があった。
【２０２６】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、組立てを容易にすることが可能な入球口部材を備えた遊技機の提供を課題とするものである。
【２０２７】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記遊技盤には、前記入球口と対応する入球口表記が設けられており、
該入球口表記は、前記入球口を有する入球口部材の裏側からも認識可能に設けられている」
ことを特徴とする。
【２０２８】
ここで、「入球口」としては、「遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口」、「遊技球が入球しても特典を付与せずに遊技領域から排出するアウト口」、「入球した遊技球を遊技領域内の別の位置へ誘導して放出するワープ入口」、等が挙げられる。
【２０２９】
また、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【２０３０】

また、「入球口表記」としては、「入賞口と対応している入賞口表記（入賞口表記部）」、「アウト口と対応しているアウト口表記」、「ワープ入口と対応しているワープ口表記」、等が挙げられる。

【２０３１】

更に、「入球口表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「正や負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、入球口表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。入球口表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、複数の入球口表記を有する場合は、同じ識別態様であっても良いし、異なる識別態様であっても良い。更に、入球口表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材と一体成形されていても良い。

【２０３２】

また、「入球口部材」としては、「始動口（始動入賞口）を有する始動口ユニット」、「一般入賞口を有するサイドユニット」、「大入賞口や役物入賞口を有するアタッカユニット」、「ワープ入口を有するセンター役物」、等が挙げられる。

【２０３３】

更に、裏側から「認識可能」としては、「入球口表記の裏側に発色を良くするための裏打部を設けずに、或いは、裏打部を設けても入球口表記が裏側から透けて見えるようにして、裏側から見ると入球口表記が左右反転して見えるもの」、「入球口表記の裏側に、両面印刷などにより表側と同様の入球口表記（裏表記部）を設け、裏側から見ても入球口表記が反転せずに表側と同じように見えるもの」、「文字により構成されている入球口表記が裏側から判読可能なもの」、「裏側からは入球口表記の一部分が（左右反転して）見えるが、その見える部分から入球口表記であると推定可能（類推可能）なもの、或いは、入球口表記であると判別可能（判断可能）なもの、若しくは、入球口表記であると特定可能なもの、更には、入球口表記であると判読可能なもの」、「入球口表記が特定の色により構成されており、裏側からは入球口表記そのものを見ることはできないものの特定の色が見えることで、入球口表記であると判別できるもの」、等が挙げられる。

【２０３４】

また、上記の「判読可能」とは、入球口表記を構成している文字や文字列（単語や文章）を正しく読むことができることである。換言すると、入球口表記を構成している文字や文字列を、違う文字または違う文字列として読んだり、文字列を逆に読んだりして、間違えることなく正しく読むことができることである。この「判読可能」な構成としては、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏表記部として両面印刷などにより裏側にも同じように設けられていることで正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは左右反転して（鏡文字に）見えていても、全体が見えることにより正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは一部分が左右反転（鏡文字）または正しく見えるように設けると共に、当該見える部分は、見えない部分を補う（推定する）ことができる程度に設けることで、一部分しか見えなくても正しく読むことができるもの」、等が挙げられる。

【２０３５】

手段１の構成によると、遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技盤には、入球口と対応する入球口表記が設けられており、入球口表記は、入球口を有する入球口部材の裏側からも認識可能に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－４．入球口表記と入球口部材との関係］の章、アウト口表記２０５０、図１４７～図１４９等の記載を参照）

【２０３６】

これにより、入球口部材の裏側からも入球口表記を認識することができる。具体的には

、例えば、入球口表記の裏側に発色を良くするための白色や灰色のような特定の色の裏打部を設けない、或いは、裏打部を設けても入球口表記が裏側から透けて見えるようにすることで、裏側からも入球口表記を認識することができる。或いは、入球口表記の裏側に、両面印刷などにより表側と同様の入球口表記（裏表記部）を設けることで、裏側からも入球口表記を認識することができる。このように、裏側からも入球口表記を認識することができるため、遊技機を組立てる際に、入球口部材の取付位置や取付方向などに対して当該入球口表記を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０３７】

また、入球口部材の裏側からも入球口表記を認識することができるため、裏側からも入球口を有する部材であることを判別することができる。具体的には、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、裏側からも入球口表記を認識することができるため、遊技機の組立ての際に、当該入球口部材が入球口を入賞口としたものかアウト口としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０３８】

また、入球口と対応する入球口表記を設けているため、当該入球口表記により入球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球が入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球の打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球が入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球の動きを楽しませたりすることができる。

【２０３９】

或いは、入球口が複数設けられているアウト口の場合、入球口表記としてのアウト口表記によりアウト口の存在に気付かせることができ、アウト口を入賞口と誤認することを回避させることができ、アウト口に入球することで特典が付与されなくてもアウト口であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２０４０】

なお、入球口表記は、透明な入球口部材に貼り付けられるシールに施されているものとしても良い。これにより、入球口表記が施（印刷）されたシールを、対応する入球口の周辺に貼り付けることで、入球口表記を設けることができると共に、透明な入球口部材を通して裏側から入球口表記を認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【２０４１】

また、上記のように入球口表記をシールに施す場合、入球口表記の施されたシールは、遊技球と接触しない部位（例えば、入球口部材の前板の前面、入球口部材の台板の後面、など）に貼り付けることが望ましい。これにより、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。また、シールを貼り付ける部位として、遊技球の他に作業者が触れ難い部位（例えば、台板の裏面、透明部材の裏側、など）に貼り付けることが望ましく、遊技機のメンテナンスなどの際に作業者がシールに触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。

【２０４２】

更に、入球口表記は、入球口部材の裏側から判読可能に設けられているものとしても良い。これにより、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、裏側からも入球口表記をそのまま正しく読むことができるため、遊技機の組立ての際に、当該入球口部材が入球口を入賞口としたものかアウト口としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０４３】
　また、上記のように、入球口表記を裏側から判読可能にする場合、入球口部材の裏側から入球口表記をそのまま正しく読むことができるため、遊技機の組立の際に、当該入球口表記を入球口部材の取付方向などの目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。
【２０４４】
　手段２：手段１の構成において、
　「前記入球口表記は、透明な前記入球口部材に貼り付けられるシールに施されている」ものであることを特徴とする。
【２０４５】
　手段２の構成によると、入球口表記は、透明な入球口部材に貼り付けられるシールに施されているものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、装飾シール２０７２、装飾シール２２０３等の記載を参照）
【２０４６】
　これにより、入球口表記が施（印刷）されたシールを、対応する入球口の周辺に貼り付けることで、入球口表記を設けることができると共に、透明な入球口部材を通して裏側から入球口表記を認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。
【２０４７】
　なお、入球口表記の施されたシールは、遊技球と接触しない部位（例えば、入球口部材の前板の前面、入球口部材の台板の後面、など）に貼り付けることが望ましい。これにより、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。また、シールを貼り付ける部位として、遊技球の他に作業者が触れ難い部位（例えば、台板の裏面、透明部材の裏側、など）に貼り付けることが望ましく、遊技機のメンテナンスなどの際に作業者がシールに触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。
【２０４８】
　手段３：手段１又は手段２の構成において、
　「前記入球口表記は、前記入球口部材の裏側から判読可能に設けられている」ものであることを特徴とする。
【２０４９】
　ここで、「判読可能」とは、入球口表記を構成している文字や文字列（単語や文章）を正しく読むことができることである。換言すると、入球口表記を構成している文字や文字列を、違う文字または違う文字列として読んだり、文字列を逆に読んだりして、間違えることなく正しく読むことができることである。この「判読可能」な構成としては、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏表記部として両面印刷などにより裏側にも同じように設けられていることで正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは左右反転して（鏡文字に）見えていても、全体が見えることにより正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは一部分が左右反転（鏡文字）または正しく見えるように設けると共に、当該見える部分は、見えない部分を補う（推定する）ことができる程度に設けることで、一部分しか見えなくても正しく読むことができるもの」、等が挙げられる。
【２０５０】
　手段３の構成によると、入球口表記は、入球口部材の裏側から判読可能に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－４ｃ．入球口表記と入球口部材との関係例３］の章、第二アウト口表記２０５０ｂ、裏表記部２０５３、図１４８及び図１４９等の記載を参照）
【２０５１】

これにより、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、裏側からも入球口表記をそのまま正しく読むことができるため、遊技機の組立ての際に、当該入球口部材が入球口を入賞口としたものかアウト口としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０５２】

また、入球口部材の裏側から入球口表記をそのまま正しく読むことができるため、遊技機の組立の際に、当該入球口表記を入球口部材の取付方向などの目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０５３】

このように、上記の解決手段によれば、組立てを容易にすることが可能な入球口部材を備えた遊技機を提供することができる。

【２０５４】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態におけるアウト口１００８、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、ハズレ口２００９、Ｖ入賞口２０１０、普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、ワープ入口２５１５は上記解決手段の入球口に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０、第一アウト口表記２０５０ａ、第二アウト口表記２０５０ｂ、入賞口表記部２０６０は上記解決手段の入球口表記に、本実施形態における入球口部材２０７０、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００は上記解決手段の入球口部材に、本実施形態における装飾シール２０７２および装飾シール２２０３は上記解決手段のシールに、それぞれ相当している。

【２０５５】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、入球口部材２０７０やサイドユニット２２００のような入球口部材の裏側からも入球口表記としてのアウト口表記２０５０を認識することができる。具体的には、例えば、入球口表記（アウト口表記２０５０、第二アウト口表記２０５０ｂ）の裏側に発色を良くするための白色や灰色のような特定の色の裏打部（裏打部２０７２ｂ、裏打部２２０３ｂ）を設けない、或いは、裏打部を設けても入球口表記が裏側から透けて見えるようにすることで、裏側からも入球口表記を認識することができる。或いは、入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）の裏側に、両面印刷などにより表側と同様の入球口表記（裏表記部２０５３）を設けることで、裏側からも入球口表記を認識することができる。このように、裏側からも入球口表記（アウト口表記２０５０）を認識することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）を組立てる際に、入球口部材の取付位置や取付方向などに対して当該入球口表記を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０５６】

また、入球口部材２０７０やサイドユニット２２００のような入球口部材の裏側からも入球口表記としてのアウト口表記２０５０を認識することができるため、裏側からも入球口（サブアウト口２０２３）を有する部材であることを判別することができる。具体的には、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側からもアウト口表記２０５０や入賞口表記部２０６０のような入球口表記を認識することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立ての際に、当該入球口部材が入球口を入賞口としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０５７】

また、入球口（入賞口またはサブアウト口２０２３）と対応する入球口表記（入賞口表記部２０６０またはアウト口表記２０５０）を設けているため、当該入球口表記により入

球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記部２０６０により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球Ｂが入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球Ｂの打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球が入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球Ｂの動きを楽しませたりすることができる。

【２０５８】

或いは、入球口が複数設けられているサブアウト口２０２３の場合、入球口表記としてのアウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することを回避させることができ、サブアウト口２０２３に入球することで特典が付与されなくてもサブアウト口２０２３であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２０５９】

また、入球口表記を、透明な入球口部材に貼り付けられる装飾シール２０７２や装飾シール２２０３のようなシールに施すようにしているため、入球口表記が施（印刷）されたシールを、対応する入球口の周辺に貼り付けることで、入球口表記を設けることができると共に、透明な入球口部材を通して裏側から入球口表記を認識することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２０６０】

また、上記のように入球口表記をシールに施す場合、入球口表記の施されたシールは、遊技球Ｂと接触しない部位（例えば、入球口部材の前板の前面、入球口部材の台板の後面、など）に貼り付けることが望ましい。これにより、遊技球Ｂの接触によってシールが剥がれることはない。また、シールを貼り付ける部位として、遊技球Ｂの他に作業者が触れ難い部位（例えば、台板の裏面、透明部材の裏側、など）に貼り付けることが望ましく、パチンコ機１のメンテナンスなどの際に作業者がシールに触れて捲れたり剥がれたりすることを回避させることができる。

【２０６１】

更に、入球口表記としての第二アウト口表記２０５０ｂを、入球口部材としてのサイドユニット２２００の裏側から判読可能に設けているため、例えば、同じサイドユニット２２００であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側からもアウト口表記２０５０（第二アウト口表記２０５０ｂ、裏表記部２０５３）をそのまま正しく読むことができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立ての際に、当該サイドユニット２２００が入球口を入賞口としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０６２】

また、第二アウト口表記２０５０ｂを裏表記部２０５３により裏側から判読可能にしていることから、サイドユニット２２００の裏側からアウト口表記２０５０をそのまま正しく読むことができるため、パチンコ機１（遊技盤５）の組立の際に、当該アウト口表記２０５０（裏表記部２０５３）をサイドユニット２２００の取付方向などの目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２０６３】

［７－８ｅ．小括Ｅ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機には、遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口や、入球しても特典を付与することなく遊技領域から排出するアウト口のような入球口を有す

る入球口部材が設けられている。この入球口部材として、例えば、一般入賞口のような入球口が複数設けられているサイドユニットが知られている（例えば、特許文献：特開２０１７－０１８１８５号公報）。このサイドユニットには、入球口に入球した遊技球を後方へ案内するための案内リブが設けられている。

【２０６４】

しかしながら、特許文献１のような従来の遊技機では、サイドユニットのような入球口部材を、透明な部材により形成していると共に、案内リブを入球口の前端側を構成している透明な前板から後方へ延出させているため、前方から透明な前板を通して案内リブが見えてしまい、遊技機の見栄えが悪くなる問題があった。

【２０６５】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、入球口部材の見栄えを良くすることで遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【２０６６】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記遊技盤には、前記入球口と対応する入球口表記が設けられており、

該入球口表記は、入球口部材の透明な前板から後方へ延出している延出部と前後方向に重なるように設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２０６７】

ここで、「入球口」としては、「遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口」、「遊技球が入球しても特典を付与せずに遊技領域から排出するアウト口」、「入球した遊技球を遊技領域内の別の位置へ誘導して放出するワープ入口」、等が挙げられる。

【２０６８】

また、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。

【２０６９】

また、「入球口表記」としては、「入賞口と対応している入賞口表記（入賞口表記部）」、「アウト口と対応しているアウト口表記」、「ワープ入口と対応しているワープ口表記」、等が挙げられる。

【２０７０】

更に、「入球口表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「正や負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、

等が挙げられる。また、入球口表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。入球口表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、複数の入球口表記を有する場合は、同じ識別態様であっても良いし、異なる識別態様であっても良い。更に、入球口表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材と一体成形されていても良い。

【２０７１】

また、「入球口部材」としては、「始動口（始動入賞口）を有する始動口ユニット」、「一般入賞口を有するサイドユニット」、「大入賞口や役物入賞口を有するアタッカユニット」、「ワープ入口を有するセンター役物」、等が挙げられる。

【２０７２】

更に、「延出部」としては、「遊技球を後方へ案内するための案内リブ」、「遊技球を後方へ案内する樋状の樋部」、「遊技球を左方または右方へ転動させる棚部」、「補強リブ」、「位置決突起」、等が挙げられる。

【２０７３】

手段１の構成において、遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技盤には、入球口と対応する入球口表記が設けられており、入球口表記は、入球口部材の透明な前板から後方へ延出している延出部と前後方向に重なるように設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－４ｄ．入球口表記と入球口部材との関係例４］の章、アウト口表記２０５０、入球口部材２０７０、延出部２０７３、図１５０等の記載を参照）

【２０７４】

これにより、入球口表記を、透明な前板から後方へ延出している延出部と前後方向に重なるように設けているため、入球口表記により延出部を前方から隠して見え難くすることが可能となり、延出部が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２０７５】

また、前板から後方へ延出している延出部と前後方向に重なるように入球口表記を設けていることから、入球口表記を延出部の前方に位置させているため、透明な延出部が導光部材の働きをすることで、延出部により後方の光を導光して入球口表記を後方から明るくする（光らせる）ことが可能となる。これにより、入球口表記を目立たせることができ、対応している入球口の存在に気付かせ易くすることができる。

【２０７６】

また、入球口と対応する入球口表記を設けているため、当該入球口表記により入球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球が入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球の打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球が入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球の動きを楽しませたりすることができる。

【２０７７】

或いは、入球口が複数設けられているアウト口の場合、入球口表記としてのアウト口表記によりアウト口の存在に気付かせることができ、アウト口を入賞口と誤認することを回避させることができ、アウト口に入球することで特典が付与されなくてもアウト口であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２０７８】

なお、入球口表記は、前板に貼り付けられるシールに施されていても良い。これにより、入球口表記が施（印刷）されたシールを、前板における対応する入球口の周辺に貼り付けることで、入球口表記を設けることができると共に、当該シールにより前板から後方へ延出している延出部を前方から隠すことができ、上述と同様の作用効果を奏することがで

きる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【２０７９】

また、上記のようにも入球口表記をシールに施す場合、入球口表記の施されたシールを前板に貼り付けているため、当該シールに遊技球が接触することはなく、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。

【２０８０】

更に、入球口表記を、前板に絵柄部と一緒に設けるようにしても良い。これにより、絵柄部によっても透明な前板から後方へ延出している延出部を前方から隠すことが可能となるため、延出部を前方からより一層、見え難くすることが可能となり、延出部が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２０８１】

また、上記のように、入球口表記を、前板に絵柄部と一緒に設ける場合、前板に絵柄部を設けているため、絵柄部による装飾効果によって見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【２０８２】

更に、入球口表記が施されているシールによって前板を貫通しているシール剥孔を閉鎖するようにしても良い。これにより、入球口表記が施されているシールによってシール剥孔を閉鎖しているため、当該シールによりシール剥孔を目立ち難くすることができ、シール剥孔が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができる。

【２０８３】

また、上記のように前板に貼り付けられているシールによりシール剥孔を閉鎖する場合、シール剥孔を利用して前板に貼り付けられているシールを剥がすことができる。詳述すると、製造時においてシールを貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりする場合に、前板からシールを剥がす際に、入球口部材の裏側からシール剥孔に棒状部材を挿入し、その先端によりシールの裏面を前方へ押圧すると、シールの一部が前板から剥がれて前方へ持ち上がることとなる。そして、シールの持ち上がった部位を引っ張ることで、前板からシールを容易に剥がすことができる。

【２０８４】

更に、前板に、入球口表記として少なくとも第一入球口表記と第二入球口表記とを設け、前板の裏側からは、第一入球口表記を認識可能に設けると共に、第二入球口表記を認識不能に設けるようにしても良い。これにより、第一入球口表記と第二入球口表記とが施されているそれぞれの部位において、後方に設けられている延出部を前方から隠すことができ、延出部による入球口部材の見栄えの悪化を抑制させることができる。

【２０８５】

また、上記のように第一入球口表記と第二入球口表記とを設ける場合、第一入球口表記と第二入球口表記とにおいて、第二入球口表記を裏側から視認不能としていることから、当該第二入球口表記を前方から見ると、その後側が透けて見えることはないため、特に第二入球口表記の部位において後方の延出部を隠して見え難くすることができる。一方、第一入球口表記は、裏側から視認可能としていることから、第二入球口表記と比較して後側の延出部が透けて見え易くなる。つまり、第一入球口表記よりも第二入球口表記の方が、前方からは明瞭に見えることとなる。このようなことから、同じような入球口表記であっても見え方が異なるため、明瞭に見える第二入球口表記により遊技者の関心を第二入球口へ強く引き付けさせることができる。

【２０８６】

更に、上記のように第一入球口表記と第二入球口表記とを設ける場合、第一入球口表記と第二入球口表記とにおいて、裏側から第一入球口表記を視認可能としつつ第二入球口表記を視認不能としていることから、第一入球口表記が第二入球口表記よりも光の透過度が

高くなる。これにより、入球口部材の後方が明るくなると、第一入球口表記が第二入球口表記よりも明るくなるため、第一入球口表記を目立たせることができ、明るく光る第一入球口表記により遊技者の関心を第一入球口へ強く引き付けさせることができる。

【２０８７】

このように、上記のように第一入球口表記と第二入球口表記とを設ける場合、入球口部材に対する光の当り具合によって第一入球口表記を目立たせたり第二入球口表記を目立たせたりすることができるため、例えば、第一入球口と第二入球口とをそれぞれ入賞口とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の高い入球口の入球口表記を目立たせるようにすると、遊技者の関心を当該入球口へ強く引き付けさせることができ、当該入球口に遊技球が入球するか否かによって遊技者を楽しませることができる。

【２０８８】

或いは、第一入球口と第二入球口とをそれぞれアウト口（サブアウト口）とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の低い入球口の入球口表記を目立たせるようにすると、当該入球口表記によりアウト口の存在に気付かせて当該アウト口に入球しないことを強く願わせることが可能となる。ところが、当該アウト口は入球確率が低いため、入球口表記が目立つほどには遊技球が入球することはない。そして、当該アウト口に遊技球が入球しても、遊技者は予め当該アウト口の存在を充分に認識しているため、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【２０８９】

上記のようなことから、例えば、第一入球口と第二入球口とで入球確率が同じに設定されている入球口部材では、前側から見ても後側から見ても視認可能な入球口表記の数が同じ、或いは、後側から見ると全ての入球口表記が視認困難、とする。一方、第一入球口と第二入球口とで入球確率が異なるように設定されている入球口部材では、前側からと後側からとでは視認可能な入球口表記の数を異ならせる。換言すると、裏側から見た時に視認可能な第一入球口表記と視認不能（視認困難）な第二入球口表記とを混在させる。このようにする場合、入球口部材を表側と裏側とから見た時に、裏側は視認可能な入球口表記と視認困難な入球口表記とが混在していると、作業者に対して当該入球口部材は、複数設けられている入球口の入球確率が異なっている入球口部材であることを認識させることができる。これにより、例えば、遊技機（遊技盤）の組立現場において、機種や仕様の異なる多品種の遊技盤が製造ライン上を流れていても、入球口部材を表側と裏側とから見ることで、入球確率が異なっている用の入球口部材であるか否かを容易に判別することができ、仕様に応じた入球口部材の取付け間違えを回避させることができる。

【２０９０】

また、上記のように第一入球口表記と第二入球口表記とを設ける場合、入球口部材には、裏側から視認可能な第一入球口表記を設けているため、遊技機を組立てる際に、入球口部材の取付位置や取付方向などに対して裏側から視認可能な第一入球口表記を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。また、入賞口部材の表側と裏側とでは、視認できる入球口表記の数が異なっているため、入球口部材の表裏を容易に判別することができ、組立作業が楽になる。

【２０９１】

手段２：手段１の構成において、

「前記入球口表記は、前記前板に貼り付けられるシールに施されている」

ものであることを特徴とする。

【２０９２】

手段２の構成によると、入球口表記は、前板に貼り付けられるシールに施されているものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、装飾シール２０７２、装飾シール２２０３等の記載を参照）

【２０９３】

これにより、入球口表記が施（印刷）されたシールを、前板における対応する入球口の周辺に貼り付けることで、入球口表記を設けることができると共に、当該シールにより前板から後方へ延出している延出部を前方から隠すことができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、シールを貼り替えることで対応することができ、遊技機にかかるコストを低減させることができる。

【２０９４】

また、入球口表記の施されたシールを前板に貼り付けているため、当該シールに遊技球が接触することはなく、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。

【２０９５】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記入球口表記は、前記前板に絵柄部と一緒に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２０９６】

手段３の構成によると、入球口表記は、前板に絵柄部と一緒に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、装飾シール２０７２等の記載を参照）

【２０９７】

これにより、絵柄部によっても透明な前板から後方へ延出している延出部を前方から隠すことが可能となるため、延出部を前方からより一層、見え難くすることが可能となり、延出部が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２０９８】

また、前板に絵柄部を設けているため、絵柄部による装飾効果によって見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【２０９９】

なお、入球口表記は、絵柄部の前方に設けられていて絵柄部と重なっていても良いし、絵柄部とは離れて絵柄部とは重なっていなくても良い。また、絵柄部は、裏側に発色を良くするための裏打部が設けられていても良い。

【２１００】

手段４：手段２又は手段３の構成において、

「前記入球口表記が施されている前記シールは、前記前板を貫通しているシール剥孔を閉鎖する」

ものであることを特徴とする。

【２１０１】

手段４の構成によると、入球口表記が施されているシールは、前板を貫通しているシール剥孔を閉鎖するものである。（［発明を実施するための形態］では、シール剥孔２０７１ａ、装飾シール２０７２等の記載を参照）

【２１０２】

これにより、入球口表記が施されているシールによってシール剥孔を閉鎖しているため、当該シールによりシール剥孔を目立ち難くすることができ、シール剥孔が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができる。

【２１０３】

また、前板に貼り付けられているシールによりシール剥孔を閉鎖しているため、シール剥孔を利用して前板に貼り付けられているシールを剥がすことができる。詳述すると、製造時においてシールを貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりする場合に、前板からシールを剥がす際に、入球口部材の裏側からシール剥孔に棒状部材を挿入し、その先端によりシールの裏面を前方へ押圧すると、シールの一部が前板から剥がれて前方へ持ち上がることとなる。そして、シールの持ち上がった部位を引っ張ることで、前板からシールを容易に剥がすことができる。

【２１０４】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「前記前板には、前記入球口表記として少なくとも第一入球口表記と第二入球口表記とが設けられており、
前記前板の裏側からは、前記第一入球口表記が認識可能に設けられていると共に、前記第二入球口表記が認識不能に設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２１０５】
ここで、裏側から「認識可能」としては、「入球口表記の裏側に発色を良くするための裏打部を設けずに、或いは、裏打部を設けても入球口表記が裏側から透けて見えるようにして、裏側から見ると入球口表記が左右反転して見えるもの」、「入球口表記の裏側に、両面印刷などにより表側と同様の入球口表記（裏表記部）を設け、裏側から見ても入球口表記が反転せずに表側と同じように見えるもの」、「文字により構成されている入球口表記が裏側から判読可能なもの」、「裏側からは入球口表記の一部分が（左右反転して）見えるが、その見える部分から入球口表記であると推定可能（類推可能）なもの、或いは、入球口表記であると判別可能（判断可能）なもの、若しくは、入球口表記であると特定可能なもの、更には、入球口表記であると判読可能なもの」、「入球口表記が特定の色により構成されており、裏側からは入球口表記そのものを見ることはできないものの特定の色が見えることで、入球口表記であると判別できるもの」、等が挙げられる。
【２１０６】
また、上記の「判読可能」とは、入球口表記を構成している文字や文字列（単語や文章）を正しく読むことができることである。換言すると、入球口表記を構成している文字や文字列を、違う文字または違う文字列として読んだり、文字列を逆に読んだりして、間違えることなく正しく読むことができることである。この「判読可能」な構成としては、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏表記部として両面印刷などにより裏側にも同じように設けられていることで正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは左右反転して（鏡文字に）見えていても、全体が見えることにより正しく読むことができるもの」、「文字または文字列により構成されている入球口表記が、裏側からは一部分が左右反転（鏡文字）または正しく見えるように設けると共に、当該見える部分は、見えない部分を補う（推定する）ことができる程度に設けることで、一部分しか見えなくても正しく読むことができるもの」、等が挙げられる。
【２１０７】
手段５の構成によると、前板には、入球口表記として少なくとも第一入球口表記と第二入球口表記とが設けられており、前板の裏側からは、第一入球口表記が認識可能に設けられていると共に、第二入球口表記が認識不能に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、第一アウト口表記２０５０ａ、第二アウト口表記２０５０ｂ、図１４７等の記載を参照）
【２１０８】
これにより、第一入球口表記と第二入球口表記とが施されているそれぞれの部位において、後方に設けられている延出部を前方から隠すことができ、延出部による入球口部材の見栄えの悪化を抑制させることができる。
【２１０９】
また、第一入球口表記と第二入球口表記とにおいて、第二入球口表記を裏側から視認不能としていることから、当該第二入球口表記を前方から見ると、その後側が透けて見えることはないため、特に第二入球口表記の部位において後方の延出部を隠して見え難くすることができる。一方、第一入球口表記は、裏側から視認可能としていることから、第二入球口表記と比較して後側の延出部が透けて見え易くなる。つまり、第一入球口表記よりも第二入球口表記の方が、前方からは明瞭に見えることとなる。このようなことから、同じような入球口表記であっても見え方が異なるため、明瞭に見える第二入球口表記により遊

技者の関心を第二入球口へ強く引き付けさせることができる。
【２１１０】
更に、第一入球口表記と第二入球口表記とにおいて、裏側から第一入球口表記を視認可能としつつ第二入球口表記を視認不能としていることから、第一入球口表記が第二入球口表記よりも光の透過度が高くなる。これにより、入球口部材の後方が明るくなると、第一入球口表記が第二入球口表記よりも明るくなるため、第一入球口表記を目立たせることができ、明るく光る第一入球口表記により遊技者の関心を第一入球口へ強く引き付けさせることができる。
【２１１１】
このように、入球口部材に対する光の当り具合によって第一入球口表記を目立たせたり第二入球口表記を目立たせたりすることができるため、例えば、第一入球口と第二入球口とをそれぞれ入賞口とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の高い入球口の入球口表記を目立たせるようにすると、遊技者の関心を当該入球口へ強く引き付けさせることができ、当該入球口に遊技球が入球するか否かによって遊技者を楽しませることができる。
【２１１２】
或いは、第一入球口と第二入球口とをそれぞれアウト口（サブアウト口）とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の低い入球口の入球口表記を目立たせるようにすると、当該入球口表記によりアウト口の存在に気付かせて当該アウト口に入球しないことを強く願わせることが可能となる。ところが、当該アウト口は入球確率が低いため、入球口表記が目立つほどには遊技球が入球することはない。そして、当該アウト口に遊技球が入球しても、遊技者は予め当該アウト口の存在を充分に認識しているため、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。
【２１１３】
上記のようなことから、例えば、第一入球口と第二入球口とで入球確率が同じに設定されている入球口部材では、前側から見ても後側から見ても視認可能な入球口表記の数が同じ、或いは、後側から見ると全ての入球口表記が視認困難、とする。一方、第一入球口と第二入球口とで入球確率が異なるように設定されている入球口部材では、前側からと後側からとでは視認可能な入球口表記の数を異ならせる。換言すると、裏側から見た時に視認可能な第一入球口表記と視認不能（視認困難）な第二入球口表記とを混在させる。このようにする場合、入球口部材を表側と裏側とから見た時に、裏側は視認可能な入球口表記と視認困難な入球口表記とが混在していると、作業者に対して当該入球口部材は、複数設けられている入球口の入球確率が異なっている入球口部材であることを認識させることができる。これにより、例えば、遊技機（遊技盤）の組立現場において、機種や仕様の異なる多品種の遊技盤が製造ライン上を流れていても、入球口部材を表側と裏側とから見ることで、入球確率が異なっている用の入球口部材であるか否かを容易に判別することができ、仕様に応じた入球口部材の取付け間違えを回避させることができる。
【２１１４】
また、入球口部材には、裏側から視認可能な第一入球口表記を設けているため、遊技機を組立てる際に、入球口部材の取付位置や取付方向などに対して裏側から視認可能な第一入球口表記を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。また、入賞口部材の表側と裏側とでは、視認できる入球口表記の数が異なっているため、入球口部材の表裏を容易に判別することができ、組立作業が楽になる。
【２１１５】
このように、上記の解決手段によれば、入球口部材の見栄えを良くすることで遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２１１６】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態におけるアウト口１００８、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第

二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、ハズレ口２００９、Ｖ入賞口２０１０、普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、ワープ入口２５１５は上記解決手段の入球口に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０、入賞口表記部２０６０は上記解決手段の入球口表記に、本実施形態における入球口部材２０７０、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００は上記解決手段の入球口部材に、本実施形態における装飾シール２０７２および装飾シール２２０３は上記解決手段のシールに、それぞれ相当している。

【２１１７】

本実施形態における入球口部材２０７０の前板２０７１およびサイドユニット２２００の前板２２０２は上記解決手段の前板に、本実施形態におけるシール剥孔２０７１ａおよびシール剥孔２２０６は上記解決手段のシール剥孔に、本実施形態における延出部２０７３、案内リブ２０７３ａ、棚部２０７３ｂ、棚部２２０１、樋部２２０４、案内リブ２２０７は上記解決手段の延出部に、本実施形態における絵柄部２０７２ａおよび絵柄部２２０３ａは上記解決手段の絵柄部に、それぞれ相当している。

【２１１８】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、入球口部材２０７０において、透明な前板２０７１から後方へ延出している延出部２０７３（案内リブ２０７３ａ）と前後方向に重なるように設けているため、入球口表記としてのアウト口表記２０５０により延出部２０７３を前方から隠して見え難くすることが可能となり、延出部２０７３が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材２０７０の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２１１９】

また、入球口部材２０７０の前板２０７１から後方へ延出している延出部２０７３と前後方向に重なるようにアウト口表記２０５０を設けていることから、アウト口表記２０５０を延出部２０７３の前方に位置させているため、透明な延出部２０７３が導光部材の働きをすることで、延出部２０７３により後方の光を導光してアウト口表記２０５０を後方から明るくする（光らせる）ことが可能となる。これにより、アウト口表記２０５０を目立たせることができ、対応しているサブアウト口２０２３の存在に気付かせ易くすることができる。

【２１２０】

また、入球口と対応する入球口表記を設けているため、当該入球口表記により入球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記部２０６０により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球Ｂが入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球Ｂの打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球Ｂが入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球Ｂの動きを楽しませたりすることができる。

【２１２１】

或いは、入球口が複数設けられているサブアウト口２０２３の場合、入球口表記としてのアウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することを回避させることができ、サブアウト口２０２３に入球することで特典が付与されなくてもサブアウト口２０２３であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１２２】

更に、入球口表記（アウト口表記２０５０）を、入球口部材２０７０の前板２０７１に貼り付けられる装飾シール２０７２に施しているため、アウト口表記２０５０が施（印刷）された装飾シール２０７２を、前板２０７１における対応するサブアウト口２０２３の周辺に貼り付けることで、アウト口表記２０５０を設けることができると共に、当該装飾

シール２０７２により前板２０７１から後方へ延出している延出部２０７３を前方から隠すことができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。また、例えば、同じ入球口部材２０７０であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、装飾シール２０７２を貼り替えることで対応することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【２１２３】

また、入球口表記（アウト口表記２０５０）の施された装飾シール２０７２を前板２０７１の前面に貼り付けているため、当該装飾シール２０７２に遊技球Ｂが接触することはなく、遊技球Ｂの接触によって装飾シール２０７２が剥がれることはない。

【２１２４】

更に、入球口表記（アウト口表記２０５０）を、前板２０７１に装飾シール２０７２の絵柄部２０７２ａと一緒に設けていることから、絵柄部２０７２ａによっても透明な前板２０７１から後方へ延出している延出部２０７３を前方から隠すことが可能となるため、延出部２０７３を前方からより一層、見え難くすることが可能となり、延出部２０７３が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材２０７０の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２１２５】

また、前板２０７１に装飾シール２０７２の絵柄部２０７２ａを設けているため、絵柄部２０７２ａによる装飾効果によって見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２１２６】

更に、入球口表記としてのアウト口表記２０５０が施されている装飾シール２０７２によってシール剥孔２０７１ａを閉鎖しているため、当該装飾シール２０７２によりシール剥孔２０７１ａを目立ち難くすることができ、シール剥孔２０７１ａが見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができる。

【２１２７】

また、前板２０７１に貼り付けられている装飾シール２０７２によりシール剥孔２０７１ａを閉鎖しているため、シール剥孔２０７１ａを利用して前板２０７１に貼り付けられている装飾シール２０７２を剥がすことができる。詳述すると、製造時において装飾シール２０７２を貼り損ねたり、再利用や分別廃棄したりする場合に、前板２０７１から装飾シール２０７２を剥がす際に、入球口部材２０７０の裏側からシール剥孔２０７１ａに棒状部材を挿入し、その先端により装飾シール２０７２の裏面を前方へ押圧すると、装飾シール２０７２の一部が前板２０７１から剥がれて前方へ持ち上がることとなる。そして、装飾シール２０７２の持ち上がった部位を引っ張ることで、前板２０７１から装飾シール２０７２を容易に剥がすことができる。

【２１２８】

更に、入球口部材（サイドユニット２２００）の前板２２０２に、入球口表記として少なくとも第一入球口表記（第二アウト口２０２３ｂ）と第二入球口表記（第一アウト口表記２０５０ａ）とを設け、前板２２０２の裏側からは、第二アウト口表記２０５０ｂを認識可能に設けると共に、第一アウト口表記２０５０ａを認識不能に設けるようにしているため、第一アウト口表記２０５０ａと第二アウト口表記２０５０ｂとが施されているそれぞれの部位において、後方に設けられている延出部（樋部２２０４や案内リブ２２０７）を前方から隠すことができ、延出部によるサイドユニット２２００の見栄えの悪化を抑制させることができる。

【２１２９】

また、第一アウト口表記２０５０ａと第二アウト口表記２０５０ｂとにおいて、第一アウト口表記２０５０ａを裏側から視認不能としていることから、当該第一アウト口表記２０５０ａを前方から見ると、その後側が透けて見えることはないため、特に第一アウト口表記２０５０ａの部位において後方の延出部（案内リブ２２０７）を隠して見え難くすることができる。一方、第二アウト口表記２０５０ｂは、裏側から視認可能としていること

から、第一アウト口表記２０５０ａと比較して後側が透けて見え易くなる。つまり、第二アウト口表記２０５０ｂよりも第一アウト口表記２０５０ａの方が、前方からは明瞭に見えることとなる。このようなことから、同じようなアウト口表記２０５０であっても見え方が異なるため、明瞭に見える第一アウト口表記２０５０ａにより遊技者の関心を第一アウト口２０２３ａへ強く引き付けさせることができる。

【２１３０】

更に、第一アウト口表記２０５０ａと第二アウト口表記２０５０ｂとにおいて、裏側から第二アウト口表記２０５０ｂを視認可能としつつ第一アウト口表記２０５０ａを視認不能としていることから、第二アウト口表記２０５０ｂが第一アウト口表記２０５０ａよりも光の透過度が高くなる。これにより、入球口部材（サイドユニット２２００）の後方が明るくなると、第二アウト口表記２０５０ｂが第一アウト口表記２０５０ａよりも明るくなるため、第二アウト口表記２０５０ｂを目立たせることができ、明るく光る第二アウト口表記２０５０ｂにより遊技者の関心を第二アウト口２０２３ｂへ強く引き付けさせることができる。

【２１３１】

このように、入球口部材に対する光の当り具合によって第一入球口表記を目立たせたり第二入球口表記を目立たせたりすることができるため、例えば、第一入球口と第二入球口とをそれぞれアウト口（サブアウト口２０２３）とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の低い入球口（第二アウト口２０２３ｂ）の入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）を目立たせるようにすると、当該第二アウト口表記２０５０ｂにより第二アウト口２０２３ｂの存在に気付かせて当該第二アウト口２０２３ｂに入球しないことを強く願わせることが可能となる。ところが、当該第二アウト口２０２３ｂは入球確率が低いため、第二アウト口表記２０５０ｂが目立つほどには遊技球Ｂが入球することはない。そして、当該第二アウト口２０２３ｂに遊技球Ｂが入球しても、遊技者は予め当該第二アウト口２０２３ｂの存在を充分に認識しているため、遊技に対する興趣が大きく削がれてしまうことはなく、引き続き遊技を楽しませることができる。

【２１３２】

或いは、第一入球口と第二入球口とをそれぞれ入賞口とすると共に、第一入球口と第二入球口とで入球確率を異ならせて、入球確率の高い入球口の入賞口表記部２０６０を目立たせるようにすると、遊技者の関心を当該入球口へ強く引き付けさせることができ、当該入球口に遊技球Ｂが入球するか否かによって遊技者を楽しませることができる。

【２１３３】

上記のようなことから、例えば、第一入球口と第二入球口とで入球確率が同じに設定されている入球口部材では、前側から見ても後側から見ても視認可能な入球口表記の数が同じ、或いは、後側から見ると全ての入球口表記が視認困難、とする。一方、第一入球口（第二アウト口２０２３ｂ）と第二入球口（第一アウト口２０２３ａ）とで入球確率が異なるように設定されている入球口部材（サイドユニット２２００）では、前側からと後側からとでは視認可能な入球口表記（アウト口表記２０５０）の数を異ならせる。換言すると、裏側から見た時に視認可能な第一入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）と視認不能（視認困難）な第二入球口表記（第一アウト口表記２０５０ａ）とを混在させる。このようにする場合、入球口部材（サイドユニット２２００）を表側と裏側とから見た時に、裏側は視認可能な入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）と視認困難な入球口表記（第一アウト口表記２０５０ａ）とが混在していると、作業者に対して当該入球口部材（サイドユニット２２００）は、複数設けられている入球口（サブアウト口２０２３）の入球確率が異なっている入球口部材（サイドユニット２２００）であることを認識させることができる。これにより、例えば、パチンコ機１（遊技盤５）の組立現場において、機種や仕様の異なる多品種の遊技盤５が製造ライン上を流れていても、入球口部材（サイドユニット２２００）を表側と裏側とから見ることで、入球確率が異なっている用の入球口部材（サイドユニット２２００）であるか否かを容易に判別することができ、仕様に応じた入球口部材（サイドユニット２２００）の取付け間違えを回避させることができる。

【２１３４】
　また、上記のように第一入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）と第二入球口表記（第一アウト口表記２０５０ａ）とを設ける場合、入球口部材（サイドユニット２２００）には、裏側から視認可能な第一入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）を設けているため、パチンコ機１を組立てる際に、入球口部材（サイドユニット２２００）の取付位置や取付方向などに対して裏側から視認可能な第一入球口表記（第二アウト口表記２０５０ｂ）を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。また、入賞口部材（サイドユニット２２００）の表側と裏側とでは、視認できる入球口表記（アウト口表記２０５０）の数が異なっているため、入球口部材（サイドユニット２２００）の表裏を容易に判別することができ、組立作業が楽になる。
【２１３５】
［７－８ｆ．小括Ｆ］
（技術的特徴の背景）
　パチンコ機のような遊技機には、遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口や、入球しても特典を付与することなく遊技領域から排出するアウト口のような入球口を有している。この種の遊技機として、複数の入球口が設けられているサイドユニットのような入球口部材が知られている（例えば、特許文献：特開２０１７－０１８１８５号公報）。
【２１３６】
　しかしながら、上記特許文献のような従来の遊技機では、例えば、入球口部材に設けられている複数の入球口の一部をアウト口とするような場合、アウト口であることを示すような表記を設けていない開発段階では、何れの入球口をアウト口としているのかが把握できない問題があった。
【２１３７】
　そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、入球口部材に設けられている特定の入球口を容易に把握することが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２１３８】
（技術的特徴の解決手段）
　手段１：遊技機において、
　「遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
　前記遊技盤には、前記入球口と対応する入球口表記が設けられており、
　前記入球口を有する入球口部材の裏側には、特定形状からなる特定形状部が形成されており、
　該特定形状部は、前記入球口表記と前後方向に重なる位置に形成されている」
ものであることを特徴とする。
【２１３９】
　ここで、「入球口」としては、「遊技球の入球により所定の特典を付与する入賞口」、「遊技球が入球しても特典を付与せずに遊技領域から排出するアウト口」、「入球した遊技球を遊技領域内の別の位置へ誘導して放出するワープ入口」、等が挙げられる。
【２１４０】
　また、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所

定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。

【２１４１】

また、「入球口表記」としては、「入賞口と対応している入賞口表記（入賞口表記部）」、「アウト口と対応しているアウト口表記」、「ワープ入口と対応しているワープ口表記」、等が挙げられる。

【２１４２】

更に、「入球口表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「正や負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、入球口表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。入球口表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、複数の入球口表記を有する場合は、同じ識別態様であっても良いし、異なる識別態様であっても良い。更に、入球口表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材と一体成形されていても良い。

【２１４３】

また、「入球口部材」としては、「始動口（始動入賞口）を有する始動口ユニット」、「一般入賞口を有するサイドユニット」、「大入賞口や役物入賞口を有するアタッカユニット」、「ワープ入口を有するセンター役物」、等が挙げられる。

【２１４４】

更に、「特定形状部」としては、「入球口を示すような文字からなる凹凸のレリーフ状のもの」、「入球口を示すような記号や矢印からなる凹凸のレリーフ状のもの」、「円形の段差状のもの（例えば、エジェクタピン跡）」、「前後方向へ円柱状に延出しているもの（例えば、位置決突起）」、「前後方向に貫通しているもの（例えば、シール剥孔）」、「上下方向および前後方向へリブ状に延出しているもの（例えば、案内リブ）」、「左右方向および前後方向へ棚状に延出しているもの（例えば、棚部）」、「断面がＵ字状で前後方向へ延出しているもの（例えば、樋部）」、等が挙げられる。

【２１４５】

手段１の構成によると、遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球口を有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技盤には、入球口と対応する入球口表記が設けられており、入球口を有する入球口部材の裏側には、特定形状からなる特定形状部が形成されており、特定形状部は、入球口表記と前後方向に重なる位置に形成されているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－４ｄ．入球口表記と入球口部材との関係例４］の章、アウト口表記２０５０、入球口部材２０７０、延出部２０７３、図１５０等の記載を参照）

【２１４６】

これにより、入球口部材の裏側に特定形状部が設けられているため、当該特定形状部を見ることで、特定の入球口の位置を、入球口部材の裏側から容易に把握することができる。詳述すると、例えば、入球口部材の表側に入球口表記が設けられていないような開発段階でも、入球口部材を裏側から見ると特定形状部が見えるため、当該特定形状部が設けられている部位が、入球口表記が設けられる特定の入球口（例えば、アウト口）であることが判り、当該入球口の位置を容易に把握することができる。

【２１４７】

また、入球口部材の裏側に特定形状部を設けているため、遊技機（遊技盤）の製造工場などにおいて、シールの貼り付けや塗装などにより入球口表記を設ける際に、特定形状部

により入球口表記を設ける位置（特定の入球口の位置）を把握することができ、入球口表記を所望の部位に確実に設けることができる。また、入球口部材の裏側に特定形状部を設けているため、入球口表記を設けた後で、入球口部材の表裏を見ることで、特定形状部の前方に入球口表記が設けられているか否かを確認することができる。

【２１４８】

更に、入球口部材の裏側に特定形状部を設けているため、遊技機を組立てる際に、入球口部材の取付位置や取付方向などに対して当該特定形状部を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２１４９】

また、入球口部材の裏側に特定形状部を設けているため、例えば、入球口表記（入球口）の種類によって特定形状部の態様を異ならせておくと、裏側の特定形状部を見るだけで、当該入球口部材がどのような種類の入球口を備えているのかを容易に判別することができる。具体的には、例えば、同じ入球口部材であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりアウト口としたりするような場合、裏側の特定形状部の態様によって判別できるため、遊技機の組立ての際に、当該入球口部材が入球口を入賞口としたものかアウト口としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２１５０】

また、入球口と対応する入球口表記を設けているため、当該入球口表記により入球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球が入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球の打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球が入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球の動きを楽しませたりすることができる。

【２１５１】

或いは、入球口が複数設けられているアウト口の場合、入球口表記としてのアウト口表記によりアウト口の存在に気付かせることができ、アウト口を入賞口と誤認することを回避させることができ、アウト口に入球することで特典が付与されなくてもアウト口であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１５２】

なお、入球口表記を、入球口部材の前板に貼り付けられるシールに施し、入球口部材を、透過性を有する部材とすると共に、特定形状部を、シールが貼り付けられていない状態で入球口部材の前方から視認可能とするようにしても良い。これにより、透過性（透光性）を有する入球口部材の前板にシールを貼り付けていない状態では前方から特定形状部を視認可能としているため、前板にシールを貼り付けると特定形状部を前方から視認不能（視認困難）とすることができ、シール（入球口表記）により特定形状部を前方から見え難くして隠すことができる。従って、例えば、開発段階において特定形状部を有するように設計した入球口部材に対して、特定形状部を削除するような設計変更をしなくても、入球口表記が施されているシールを貼り付けることにより、特定形状部を前方から見えないように隠すことができるため、開発段階の入球口部材を完成段階においてそのまま利用することが可能となり、設計変更を不要にすることができる。

【２１５３】

また、上記のように、入球口表記をシールに施して、透過性を有する入球口部材の前板に貼り付けるようにする場合、入球口部材が透過性（透光性）を有していることから、シールを貼り付けていない状態では前方から裏側に設けられている特定形状部を視認することができるため、入球口表記が施されているシールを、前板における特定形状部が見える位置に貼り付けることで所望の位置に貼り付けることができ、シールの貼り付けにかかる手間を低減させることができる。

【２１５４】

また、上記のように、入球口表記をシールに施して、透過性を有する入球口部材の前板に貼り付けるようにする場合、以下のような作用効果を奏することができる。詳述すると、入球口部材を透明のような透過性を有する部材により形成する場合、透明な前板を通して後方が見えることとなり、裏側に設けられている特定形状部が見えると、遊技機の見栄えが悪くなる問題がある。これに対して、特定形状部の前方に入球口表記が施されているシールを貼り付けるようにしていることから、当該シール（入球口表記）により特定形状部を前方から見え難くして隠すことができるため、前方から特定形状部が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２１５５】

また、上記のように、透過性を有する入球口部材の前板に入球口表記の施されたシールを貼り付ける場合、当該シールに遊技球が接触することはなく、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。

【２１５６】

手段２：手段１の構成において、

「前記入球口表記は、前記入球口部材の前板に貼り付けられるシールに施されており、

前記入球口部材は、透過性を有する部材であり、

前記特定形状部は、前記シールが貼り付けられていない状態で前記入球口部材の前方から視認可能とされる」

ものであることを特徴とする。

【２１５７】

手段２の構成によると、入球口表記は、入球口部材の前板に貼り付けられるシールに施されており、入球口部材は、透過性を有する部材であり、特定形状部は、シールが貼り付けられていない状態で入球口部材の前方から視認可能とされているものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口表記２０５０、装飾シール２０７２等の記載を参照）

【２１５８】

これにより、透過性（透光性）を有する入球口部材の前板にシールを貼り付けていない状態では前方から特定形状部を視認可能としているため、前板にシールを貼り付けると特定形状部を前方から視認不能（視認困難）とすることができ、シール（入球口表記）により特定形状部を前方から見え難くして隠すことができる。従って、例えば、開発段階において特定形状部を有するように設計した入球口部材に対して、特定形状部を削除するような設計変更をしなくても、入球口表記が施されているシールを貼り付けることにより、特定形状部を前方から見えないように隠すことができるため、開発段階の入球口部材を完成段階においてそのまま利用することが可能となり、設計変更を不要にすることができる。

【２１５９】

また、入球口部材が透過性（透光性）を有していることから、シールを貼り付けていない状態では前方から裏側に設けられている特定形状部を視認することができるため、入球口表記が施されているシールを、前板における特定形状部が見える位置に貼り付けることで所望の位置に貼り付けることができ、シールの貼り付けにかかる手間を低減させることができる。

【２１６０】

ところで、入球口部材を透明のような透過性を有する部材により形成する場合、透明な前板を通して後方が見えることとなり、裏側に設けられている特定形状部が見えると、遊技機の見栄えが悪くなる問題がある。これに対して、本構成では、特定形状部の前方に入球口表記が施されているシールを貼り付けるようにしていることから、当該シール（入球口表記）により特定形状部を前方から見え難くして隠すことができるため、前方から特定形状部が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２１６１】

また、入球口部材の前板に入球口表記の施されたシールを貼り付けているため、当該シールに遊技球が接触することはなく、遊技球の接触によってシールが剥がれることはない。
【２１６２】
このように、上記の解決手段によれば、入球口部材に設けられている特定の入球口を容易に把握することが可能な遊技機を提供することができる。
【２１６３】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態におけるアウト口１００８、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５、役物入賞口、ハズレ口２００９、Ｖ入賞口２０１０、普通入賞口２０１１、サブアウト口２０２３、第一アウト口２０２３ａ、第二アウト口２０２３ｂ、ワープ入口２５１５は上記解決手段の入球口に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０、入賞口表記部２０６０は上記解決手段の入球口表記に、本実施形態における入球口部材２０７０、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、アタッカユニット２４００、センター役物２５００は上記解決手段の入球口部材に、本実施形態における装飾シール２０７２は上記解決手段のシールに、本実施形態における入球口部材２０７０の前板２０７１は上記解決手段の前板に、本実施形態におけるシール剥孔２０７１ａ、延出部２０７３、案内リブ２０７３ａ、棚部２０７３ｂ、は上記解決手段の特定形状部に、それぞれ相当している。
【２１６４】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、入球口部材２０７０の裏側に特定形状部としての延出部２０７３が設けられているため、当該特定形状部を見ることで、特定の入球口の位置を、入球口部材２０７０の裏側から容易に把握することができる。詳述すると、例えば、入球口部材２０７０の表側に入球口表記としてのアウト口表記２０５０が設けられていないような開発段階でも、入球口部材２０７０を裏側から見ると特定形状部としての延出部２０７３が見えるため、当該延出部２０７３が設けられている部位が、アウト口表記２０５０が設けられる特定の入球口（ここでは、サブアウト口２０２３）であることが判り、当該入球口（サブアウト口２０２３）の位置を容易に把握することができる。
【２１６５】
また、入球口部材２０７０の裏側に特定形状部としての延出部２０７３を設けているため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造工場などにおいて、装飾シール２０７２の貼り付けによりアウト口表記２０５０を設ける際に、延出部２０７３によりアウト口表記２０５０を設ける位置（サブアウト口２０２３の位置）を把握することができ、アウト口表記２０５０を所望の部位に確実に設けることができる。また、入球口部材２０７０の裏側に延出部２０７３を設けているため、アウト口表記２０５０を設けた後で、入球口部材２０７０の表裏を見ることで、延出部２０７３の前方にアウト口表記２０５０が設けられているか否かを確認することができる。
【２１６６】
更に、入球口部材２０７０の裏側に延出部２０７３を設けているため、パチンコ機１を組立てる際に、入球口部材２０７０の取付位置や取付方向などに対して当該延出部２０７３を目安にすることができ、組立にかかる手間を低減させることができる。
【２１６７】
また、入球口部材２０７０の裏側に特定形状部としての延出部２０７３を設けているため、例えば、アウト口表記２０５０や入賞口表記部２０６０のような入球口表記（サブアウト口２０２３や入賞口）の種類によって特定形状部の態様を異ならせておくと、裏側の特定形状部を見るだけで、当該入球口部材２０７０がどのような種類の入球口（入賞口またはサブアウト口）を備えているのかを容易に判別することができる。具体的には、例えば、同じ入球口部材２０７０であっても仕様や機種によって入球口を入賞口としたりサブアウト口２０２３としたりするような場合、裏側の特定形状部（延出部２０７３）の態様によって判別できるため、パチンコ機１の組立ての際に、当該入球口部材２０７０が入球

口を入賞口としたものかサブアウト口２０２３としたものかを確認するために、わざわざ表側にして見直す必要はなく、組立にかかる手間を低減させることができる。

【２１６８】

また、入賞口やサブアウト口のような入球口と対応する入球口表記（入賞口表記部２０６０やアウト口表記２０５０）を設けているため、当該入球口表記により入球口の存在と共にその種類を遊技者に認識させることができる。具体的には、例えば、入球口が入賞口の場合、入球口表記としての入賞口表記部２０６０により入賞口の存在を認識させることができるため、当該入賞口に遊技球Ｂが入球することを強く願わせることができ、当該入賞口を狙った遊技球Ｂの打込操作を楽しませたり、当該入賞口に遊技球Ｂが入球するか否かによってハラハラ・ドキドキさせて遊技球の動きを楽しませたりすることができる。

【２１６９】

或いは、入球口が複数設けられているサブアウト口２０２３の場合、入球口表記としてのアウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することを回避させることができ、サブアウト口２０２３に入球することで特典が付与されなくてもサブアウト口２０２３であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１７０】

更に、入球口表記としてのアウト口表記２０５０を、入球口部材２０７０の前板２０７１に貼り付けられる装飾シール２０７２に施し、入球口部材２０７０を、透過性を有する透明な部材とすると共に、特定形状部としての延出部２０７３を、装飾シール２０７２が貼り付けられていない状態で入球口部材２０７０の前方から視認可能とするようにしている。これにより、前板２０７１に装飾シール２０７２を貼り付けると延出部２０７３を前方から視認不能（視認困難）とすることができ、装飾シール２０７２（アウト口表記２０５０）により延出部２０７３（案内リブ２０７３ａ）を前方から見え難くして隠すことができる。従って、例えば、開発段階において延出部２０７３を有するように設計した入球口部材２０７０に対して、延出部２０７３を削除するような設計変更をしなくても、アウト口表記２０５０が施されている装飾シール２０７２を貼り付けることにより、延出部２０７３を前方から見えないように隠すことができるため、開発段階の入球口部材２０７０を完成段階においてそのまま利用することが可能となり、設計変更を不要にすることができる。

【２１７１】

また、入球口部材２０７０が透過性（透光性）を有していることから、装飾シール２０７２を貼り付けていない状態では前方から裏側に設けられている特定形状部としての延出部２０７３を視認することができるため、アウト口表記２０５０が施されている装飾シール２０７２を、前板２０７１における延出部２０７３が見える位置に貼り付けることで所望の位置に貼り付けることができ、装飾シール２０７２の貼り付けにかかる手間を低減させることができる。

【２１７２】

ところで、入球口部材２０７０を透明のような透過性を有する部材により形成する場合、透明な前板２０７１を通して後方が見えることとなり、裏側に設けられている特定形状部としての延出部２０７３が見えると、パチンコ機１の見栄えが悪くなる問題がある。これに対して、本実施形態では、延出部２０７３の前方にアウト口表記２０５０が施されている装飾シール２０７２を貼り付けるようにしていることから、当該装飾シール２０７２（アウト口表記２０５０や絵柄部２０７２ａ）により延出部２０７３を前方から見え難くして隠すことができるため、前方から延出部２０７３が見えることによる見栄えの悪化を抑制させることができ、入球口部材２０７０の見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２１７３】

また、透過性を有する（透明な）入球口部材２０７０の前板２０７１にアウト口表記２０５０の施された装飾シール２０７２を貼り付けているため、当該装飾シール２０７２に

遊技球Ｂが接触することはなく、遊技球Ｂの接触によって装飾シール２０７２が剥がれることはない。
【２１７４】
［７－８ｇ．小括Ｇ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、打込まれた遊技球が流下する遊技領域に、遊技球の入球により所定の特典を付与する複数の入賞口と、遊技球が入球しても特典を付与することなく遊技機外へ排出するアウト口と、が設けられている。この種の遊技機として、アウト口が複数設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０１９－１３６１３４号公報）。
【２１７５】
しかしながら、アウト口が複数設けられていると、入賞口とアウト口との区別が付き難くなり、遊技者によってはアウト口を入賞口と勘違いして、入球したのに特典が付与されないことで苛立ちを覚え、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。
【２１７６】
そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、複数設けられているアウト口を入賞口と勘違いするのを防止して遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２１７７】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下する遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記遊技領域は、少なくともそれぞれの下流において分離している第一領域と第二領域とを有し、
前記アウト口は、前記第一領域に設けられている第一アウト口と前記第二領域に設けられている第二アウト口とを少なくとも有し、
前記遊技盤には、前記第一アウト口または前記第二アウト口の一方のみに対応しているアウト口表記が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２１７８】
ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【２１７９】
また、「第一領域」および「第二領域」としては、「第一領域には遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる始動口（第一始動口）が設けられ、第二領域には抽選された特

別図柄の抽選結果に応じて入球可能となる可変入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）が設けられているもの」、「第一領域には遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる第一始動口が設けられ、第二領域には遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる第二始動口が設けられ、特別図柄の抽選結果として第二始動口へ入球し易くなる特定遊技状態が発生する抽選結果を含むもの」、「第一領域には遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる第一始動口が設けられ、第二領域には遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる第二始動口と、遊技球の通過により普通図柄の抽選が行われるゲートとが設けられ、普通図柄の抽選結果に応じて第二始動口が入球し易くなるもの」、等が挙げられる。

【２１８０】

また、「アウト口表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、アウト口表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。アウト口表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、アウト口表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材と一体成形されていても良い。

【２１８１】

手段１の構成によると、遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下する遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技領域は、少なくともそれぞれの下流において分離している第一領域と第二領域とを有し、アウト口は、第一領域に設けられている第一アウト口と第二領域に設けられている第二アウト口とを少なくとも有し、遊技盤には、第一アウト口または第二アウト口の一方のみに対応しているアウト口表記が設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－６．アウト口表記と遊技領域との関係］の章、第一領域５ａ１、第二領域５ａ２、アウト口表記２０５０、アタッカユニット２４００、図１５４等の記載を参照）

【２１８２】

これにより、入賞口が設けられている遊技領域が第一領域と第二領域とに分離しているため、遊技者による遊技球の打込操作に応じて、当該遊技球が第一領域を流下したり第二領域を流下したりすることとなるが、何れの領域においても入賞口に遊技球が入球するか否かによって遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませることができる。この際に、第一領域と第二領域のそれぞれには第一アウト口と第二アウト口とが設けられていると共に、第一アウト口または第二アウト口の一方のみに対応しているアウト口表記が設けられているため、当該アウト口表記が設けられているアウト口を入賞口と勘違い（誤認）することはない。従って、第一アウト口と第二アウト口のようにアウト口が複数設けられていても、アウト口表記により対応する第一アウト口または第二アウト口の存在に気付かせることができるため、当該アウト口を入賞口と誤認することを回避させることができ、当該アウト口に入球することで特典が付与されなくてもアウト口であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１８３】

ところで、本遊技機で遊技している遊技者に対しては遊技領域が第一領域と第二領域とに分離していることを気付くことが可能であるが、他の遊技者からは遊技領域が第一領域と第二領域とに分離していることに気付き難い。そして、第一アウト口または第二アウト口の一方のみにアウト口表記を設けているため、他の遊技者に対しては、アウト口表記が設けられていない第一アウト口または第二アウト口を入賞口であると錯覚させることができ、遊技者の関心を強く引き付けさせることが可能な訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【２１８４】

なお、第一領域には、第一アウト口よりも下方に別のアウト口が設けられておらず、第

二領域には、第二アウト口よりも下方に別のアウト口が設けられていないものとしても良い。換言すると、第一領域では最も下方のアウト口を第一アウト口とし、第二領域では最も下方のアウト口を第二アウト口とするようにしても良い。これにより、第一領域において最も下方に設けられているアウト口を第一アウト口としていると共に、第二領域において最も下方に設けられているアウト口を第二アウト口としているため、第一アウト口と第二アウト口の一方を、従来の遊技盤において最も下方に設けられているアウト口と同じもののように見せることが可能となる。従って、例えば、第一アウト口が従来の遊技盤のアウト口と同じものに見える場合は、第二アウト口と対応するようにアウト口表記を設けるようにする。このようにすることで、第一アウト口は従来の遊技盤のアウト口と同じに見えるため、第一アウト口に対応するアウト口表記が設けられていなくても、第一アウト口を入賞口と誤認することはない。一方、従来のアウト口と同じものに見えない方の第二アウト口は、入賞口と誤認する恐れがあるが、第二アウト口と対応するアウト口表記が設けられているため、当該アウト口表記により第二アウト口を入賞口と誤認することはないと共に、アウト口表記が設けられていることにより第二アウト口が特別なアウト口であると認識させることが可能となり、第二領域が特別な領域であると認識させることができる。従って、第一アウト口と第二アウト口の二つのアウト口に対して、一方にのみ対応するアウト口表記を設けても、アウト口表記が設けられていないアウト口を入賞口と誤認することはなく、上述した作用効果を確実に奏することができる上に、一方にのみアウト口表記が設けられていることで、当該アウト口表記が設けられている第一領域または第二領域が特別な領域であると認識させることが可能となり、遊技者に対して当該領域での遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１８５】

また、第一領域には、入賞口として遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる始動口が設けられ、第二領域には、入賞口として始動口への入球により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて遊技球が入球可能となる可変入賞口が設けられ、アウト口表記は、第二アウト口の近傍に設けられているようにしても良い。これにより、第一領域に設けられている始動口に遊技球を入球させて所望の特別図柄が抽選されると、第二領域に設けられている可変入賞口が入球可能となるため、遊技者に対して、初めは第一領域を遊技球が流下するような遊技（打込操作）を行わせ、所望の特別図柄が抽選されると第二領域を遊技球が流下するような遊技（打込操作）を行わせることができ、遊技が変化することで遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。換言すると、特別図柄の抽選結果に応じて可変入賞口が入球可能な状態になると、第二領域における入賞口（可変入賞口）への入球の可能性が変化するため、遊技者の関心を第二領域へ引き付けさせることができる。この際に、第二領域に設けられている第二アウト口の近傍にアウト口表記を設けているため、遊技者に対して第二アウト口の存在に気付かせることができ、第二アウト口に遊技球が入球しないように強く願うようになる。しかしながら、第二アウト口のある第二領域では、可変入賞口が入球可能となっているため、第二アウト口への入球よりも可変入賞口への入球の方をより強く願わせることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１８６】

更に、上記のように、第一領域に始動口を設けると共に、第二領域に可変入賞口を設ける場合、第一領域には、始動口として遊技球の入球により特別図柄としての第一特別図柄の抽選が行われる第一始動口が設けられ、第二領域には、始動口として遊技球の入球により特別図柄としての第二特別図柄の抽選が行われる第二始動口が設けられ、特別図柄の抽選結果として、第二始動口へ入球し易くなる特定遊技状態の発生を有し、第二アウト口の近傍には、第一領域側には設けられていないアウト口表記が設けられているようにすることが望ましい。これにより、第一領域の第一始動口、または、第二領域の第二始動口、に遊技球が入球して第一特別図柄または第二特別図柄として特定遊技状態が発生する特別図柄が抽選されると、第二始動口へ遊技球が入球し易くなる。詳述すると、特定遊技状態が

発生する特別図柄の抽選結果（図柄の組合せ）として、例えば、「時短大当り」が抽選されると、第二領域に設けられている可変入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）が所定のパターンで開閉する大当り遊技が開始されるため、可変入賞口に入球させようと多くの遊技球を第二領域へ打ち込むこととなる。そして、可変入賞口の開閉が終了（大当り遊技が終了）すると、第一始動口や第二始動口への入球により抽選される特別図柄の変動時間が通常よりも短くなる時短遊技状態（特定遊技状態）となる。この時短遊技状態では、変動時間を短くすることに加えて、変動が保留されている特別図柄がある場合、第一始動口による第一特別図柄よりも第二始動口による第二特別図柄の方を優先して変動させるようにしている。そのため、第二特別図柄の変動が保留されている状態で第一領域の第一始動口に入球させても、第一特別図柄の変動が開始されないばかりか保留数の上限により破棄されてしまうため、第二領域の第二始動口へ入球するように、大当り遊技に引き続き、多くの遊技球を第二領域へ打ち込むこととなり、第二始動口に遊技球が入球し易くなる。換言すると、特定遊技状態でない状態（通常の状態）では、第一領域を流下する遊技球は第一始動口へ導かれる可能性よりも第一アウト口に導かれる可能性の方が高く、第二領域を流下する遊技球は第二始動口へ導かれる可能性よりも第二アウト口に導かれる可能性の方が高い。一方、特定遊技状態になると、第一領域を流下する遊技球は第一始動口へ導かれる可能性よりも第一アウト口に導かれる可能性の方が高く、第二領域を流下する遊技球は第二アウト口に導かれる可能性よりも第二始動口に導かれる可能性の方が高くなる。つまり、時短遊技状態のような特定遊技状態になると、第一始動口に入球する可能性は変化しないが、第二始動口に入球する可能性が高くなるように変化する。このように、通常の状態から特定遊技状態になると、第二領域に設けられている第二始動口への入球の可能性が変化するため、遊技者が第二領域に注目することとなる。この際に、第二領域の第二アウト口の近傍には、第一アウト口には設けられていないアウト口表記が設けられているため、当該アウト口表記により第二アウト口の存在に気付かせることができ、第二アウト口に入球しないように強く願わせつつ、第二始動口への入球の期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２１８７】

また、第一アウト口と第二アウト口は、接近して設けられていても良い。これにより、第一領域に設けられている第一アウト口と、第二領域に設けられている第二アウト口とが、接近して設けられているため、何れか一方が入賞口であると錯覚し易くなるが、第一アウト口の第一領域と第二アウト口の第二領域とが分離していると共に、一方にのみ対応しているアウト口表記を設けているため、入賞口と誤認することはなく、何れも入賞口ではなくてアウト口であると認識させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２１８８】

手段２：手段１の構成において、

「前記第一領域には、前記第一アウト口よりも下方に別の前記アウト口が設けられておらず、

前記第二領域には、前記第二アウト口よりも下方に別の前記アウト口が設けられていない」

ものであることを特徴とする。

【２１８９】

手段２の構成によると、第一領域には、第一アウト口よりも下方に別のアウト口が設けられておらず、第二領域には、第二アウト口よりも下方に別のアウト口が設けられていないものである。換言すると、第一領域では最も下方のアウト口を第一アウト口とし、第二領域では最も下方のアウト口を第二アウト口とするものである。（［発明を実施するための形態］では、アウト口１００８、サブアウト口２０２３、図１５４等の記載を参照）

【２１９０】

これにより、第一領域において最も下方に設けられているアウト口を第一アウト口としていると共に、第二領域において最も下方に設けられているアウト口を第二アウト口とし

ているため、第一アウト口と第二アウト口の一方を、従来の遊技盤において最も下方に設けられているアウト口と同じもののように見せることが可能となる。従って、例えば、第一アウト口が従来の遊技盤のアウト口と同じものに見える場合は、第二アウト口と対応するようにアウト口表記を設けるようにする。このようにすることで、第一アウト口は従来の遊技盤のアウト口と同じに見えるため、第一アウト口に対応するアウト口表記が設けられていなくても、第一アウト口を入賞口と誤認することはない。一方、従来のアウト口と同じものに見えない方の第二アウト口は、入賞口と誤認する恐れがあるが、第二アウト口と対応するアウト口表記が設けられているため、当該アウト口表記により第二アウト口を入賞口と誤認することはないと共に、アウト口表記が設けられていることにより第二アウト口が特別なアウト口であると認識させることが可能となり、第二領域が特別な領域であると認識させることができる。従って、第一アウト口と第二アウト口の二つのアウト口に対して、一方にのみ対応するアウト口表記を設けても、アウト口表記が設けられていないアウト口を入賞口と誤認することはなく、上述した作用効果を確実に奏することができる上に、一方にのみアウト口表記が設けられていることで、当該アウト口表記が設けられている第一領域または第二領域が特別な領域であると認識させることが可能となり、遊技者に対して当該領域での遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１９１】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記第一領域には、前記入賞口として遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる始動口が設けられ、

前記第二領域には、前記入賞口として前記始動口への入球により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて遊技球が入球可能となる可変入賞口が設けられ、

前記アウト口表記は、前記第二アウト口の近傍に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２１９２】

ここで、「可変入賞口」としては、「大入賞口」、「役物入賞口」、等が挙げられる。

【２１９３】

手段３の構成によると、第一領域には、入賞口として遊技球の入球により特別図柄の抽選が行われる始動口が設けられ、第二領域には、入賞口として始動口への入球により抽選された特別図柄の抽選結果に応じて遊技球が入球可能となる可変入賞口が設けられ、アウト口表記は、第二アウト口の近傍に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、第一領域５ａ１、第二領域５ａ２、第一始動口２００２、大入賞口２００５、図１５４等の記載を参照）

【２１９４】

これにより、第一領域に設けられている始動口に遊技球を入球させて所望の特別図柄が抽選されると、第二領域に設けられている可変入賞口が入球可能となるため、遊技者に対して、初めは第一領域を遊技球が流下するような遊技（打込操作）を行わせ、所望の特別図柄が抽選されると第二領域を遊技球が流下するような遊技（打込操作）を行わせることができ、遊技が変化することで遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。換言すると、特別図柄の抽選結果に応じて可変入賞口が入球可能な状態になると、第二領域における入賞口（可変入賞口）への入球の可能性が変化するため、遊技者の関心を第二領域へ引き付けさせることができる。この際に、第二領域に設けられている第二アウト口の近傍にアウト口表記を設けているため、遊技者に対して第二アウト口の存在に気付かせることができ、第二アウト口に遊技球が入球しないように強く願うようになる。しかしながら、第二アウト口のある第二領域では、可変入賞口が入球可能となっているため、第二アウト口への入球よりも可変入賞口への入球の方をより強く願わせることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２１９５】

手段４：手段３の構成において、

「前記第一領域には、前記始動口として遊技球の入球により前記特別図柄としての第一特別図柄の抽選が行われる第一始動口が設けられ、
前記第二領域には、前記始動口として遊技球の入球により前記特別図柄としての第二特別図柄の抽選が行われる第二始動口が設けられ、
前記特別図柄の抽選結果として、前記第二始動口へ入球し易くなる特定遊技状態の発生を有し、
前記第二アウト口の近傍には、前記第一領域側には設けられていない前記アウト口表記が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２１９６】
ここで、第二始動口へ入球し易くなる特定遊技状態が発生する「特別図柄の抽選結果」としては、「大入賞口や役物入賞口のような可変入賞口が所定の開閉パターンで開閉した後に、特別図柄の変動時間を通常よりも短くして時間当りの抽選回数を増加可能なもの（例えば、時短大当り、時短中当り、時短小当り、など）」、「大入賞口や役物入賞口のような可変入賞口が開閉することなく、特別図柄の変動時間を通常よりも短くして時間当りの抽選回数を増加可能なもの（例えば、時短当り）」、「遊技者に対して特典を付与しない抽選結果（所謂、ハズレ）が所定回数連続した時に、特別図柄の変動時間を通常よりも短くして時間当りの抽選回数を増加可能なもの（遊タイム）」、等が挙げられる。
【２１９７】
手段４の構成によると、第一領域には、始動口として遊技球の入球により特別図柄としての第一特別図柄の抽選が行われる第一始動口が設けられ、第二領域には、始動口として遊技球の入球により特別図柄としての第二特別図柄の抽選が行われる第二始動口が設けられ、特別図柄の抽選結果として、第二始動口へ入球し易くなる特定遊技状態の発生を有し、第二アウト口の近傍には、第一領域側には設けられていないアウト口表記が設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、第一領域５ａ１、第二領域５ａ２、第一始動口２００２、第二始動口２００４、アウト口表記２０５０、図１５４等の記載を参照）
【２１９８】
これにより、第一領域の第一始動口、または、第二領域の第二始動口、に遊技球が入球して第一特別図柄または第二特別図柄として特定遊技状態が発生する特別図柄が抽選されると、第二始動口へ遊技球が入球し易くなる。詳述すると、特定遊技状態が発生する特別図柄の抽選結果（図柄の組合せ）として、例えば、「時短大当り」が抽選されると、第二領域に設けられている可変入賞口（例えば、大入賞口、役物入賞口、など）が所定のパターンで開閉する大当り遊技が開始されるため、可変入賞口に入球させようと多くの遊技球を第二領域へ打ち込むこととなる。そして、可変入賞口の開閉が終了（大当り遊技が終了）すると、第一始動口や第二始動口への入球により抽選される特別図柄の変動時間が通常よりも短くなる時短遊技状態（特定遊技状態）となる。この時短遊技状態では、変動時間を短くすることに加えて、変動が保留されている特別図柄がある場合、第一始動口による第一特別図柄よりも第二始動口による第二特別図柄の方を優先して変動させるようにしている。そのため、第二特別図柄の変動が保留されている状態で第一領域の第一始動口に入球させても、第一特別図柄の変動が開始されないばかりか保留数の上限により破棄されてしまうため、第二領域の第二始動口へ入球するように、大当り遊技に引き続き、多くの遊技球を第二領域へ打ち込むこととなり、第二始動口に遊技球が入球し易くなる。換言すると、特定遊技状態でない状態（通常の状態）では、第一領域を流下する遊技球は第一始動口へ導かれる可能性よりも第一アウト口に導かれる可能性の方が高く、第二領域を流下する遊技球は第二始動口へ導かれる可能性よりも第二アウト口に導かれる可能性の方が高い。一方、特定遊技状態になると、第一領域を流下する遊技球は第一始動口へ導かれる可能性よりも第一アウト口に導かれる可能性の方が高く、第二領域を流下する遊技球は第二アウト口に導かれる可能性よりも第二始動口に導かれる可能性の方が高くなる。つまり、時短遊技状態のような特定遊技状態になると、第一始動口に入球する可能性は変化しないが

、第二始動口に入球する可能性が高くなるように変化する。
【２１９９】
このように、通常の状態から特定遊技状態になると、第二領域に設けられている第二始動口への入球の可能性が変化するため、遊技者が第二領域に注目することとなる。この際に、第二領域の第二アウト口の近傍には、第一アウト口には設けられていないアウト口表記が設けられているため、当該アウト口表記により第二アウト口の存在に気付かせることができ、第二アウト口に入球しないように強く願わせつつ、第二始動口への入球の期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【２２００】
手段５：手段１から手段４までの何れか一つの構成において、
「前記第一アウト口と前記第二アウト口は、接近して設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２２０１】
手段５の構成によると、第一アウト口と第二アウト口は、接近して設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、第一領域５ａ１、第二領域５ａ２、アウト口１００８、サブアウト口２０２３、図１５４等の記載を参照）
【２２０２】
これにより、第一領域に設けられている第一アウト口と、第二領域に設けられている第二アウト口とが、接近して設けられているため、何れか一方が入賞口であると錯覚し易くなるが、第一アウト口の第一領域と第二アウト口の第二領域とが分離していると共に、一方にのみ対応しているアウト口表記を設けているため、入賞口と誤認することはなく、何れも入賞口ではなくてアウト口であると認識させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【２２０３】
このように、上記の解決手段によれば、複数設けられているアウト口を入賞口と勘違いするのを防止して遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２２０４】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５の遊技領域５ａにおける第一領域５ａ１および第二領域５ａ２は上記解決手段の第一領域および第二領域に、本実施形態におけるアウト口１００８は上記解決手段の第一アウト口に、本実施形態におけるサブアウト口２０２３は上記解決手段の第二アウト口に、本実施形態における一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、および大入賞口２００５は上記解決手段の入賞口に、本実施形態における第一始動口２００２は上記解決手段の第一始動口に、本実施形態における第二始動口２００４は上記解決手段の第二始動口に、本実施形態における大入賞口２００５は上記解決手段の可変入賞口に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０は上記解決手段のアウト口表記に、それぞれ相当している。
【２２０５】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、一般入賞口２００１などの入賞口が設けられている遊技領域５ａが第一領域５ａ１と第二領域５ａ２とに分離しているため、遊技者による遊技球Ｂの打込操作に応じて、当該遊技球Ｂが第一領域５ａ１を流下したり第二領域５ａ２を流下したりすることとなるが、何れの領域においても入賞口に遊技球Ｂが入球するか否かによって遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませることができる。この際に、第一領域５ａ１と第二領域５ａ２のそれぞれには第一アウト口（アウト口１００８）と第二アウト口（サブアウト口２０２３）とが設けられていると共に、サブアウト口２０２３のみに対応しているアウト口表記２０５０が設けられているため、当該アウト口表記２０５０が設けられているサブアウト口２０２３を入賞口と勘違い（誤認）することはない。従って、アウト口１００８とサブアウト口２０２３のようにアウト口

が複数設けられていても、アウト口表記２０５０により対応するサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができるため、当該サブアウト口２０２３を入賞口と誤認することを回避させることができ、当該サブアウト口２０２３に入球することで特典が付与されなくてもアウト口であることを認識していることで損した気分にはならず、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２２０６】

ところで、本パチンコ機１で遊技している遊技者に対しては遊技領域５ａが第一領域５ａ１と第二領域５ａ２とに分離していることを気付くことが可能であるが、他の遊技者からは遊技領域５ａが第一領域５ａ１と第二領域５ａ２とに分離していることに気付き難い。そして、サブアウト口２０２３のみにアウト口表記２０５０を設けているため、他の遊技者に対しては、アウト口表記２０５０が設けられていないアウト口１００８を入賞口であると錯覚させることができ、遊技者の関心を強く引き付けさせることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【２２０７】

また、第一領域５ａ１において最も下方に設けられているアウト口をアウト口１００８としていると共に、第二領域５ａ２において最も下方に設けられているアウト口をサブアウト口２０２３としているため、アウト口１００８を、従来の遊技盤において最も下方に設けられているアウト口と同じもののように見せることが可能となる。そして、サブアウト口２０２３と対応するようにアウト口表記２０５０を設けるようにしている。これにより、アウト口１００８は従来の遊技盤のアウト口と同じに見えるため、アウト口１００８に対応するアウト口表記が設けられていなくても、アウト口１００８を入賞口と誤認することはない。一方、従来のアウト口と同じものに見えない方のサブアウト口２０２３は、入賞口と誤認する恐れがあるが、サブアウト口２０２３と対応するアウト口表記２０５０が設けられているため、当該アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３を入賞口と誤認することはないと共に、アウト口表記２０５０が設けられていることによりサブアウト口２０２３が特別なアウト口であると認識させることが可能となり、第二領域５ａ２が特別な領域であると認識させることができる。従って、アウト口１００８とサブアウト口２０２３の二つのアウト口に対して、一方（サブアウト口２０２３）にのみ対応するアウト口表記２０５０を設けても、アウト口表記２０５０が設けられていないアウト口１００８を入賞口と誤認することはなく、上述した作用効果を確実に奏することができる上に、一方にのみアウト口表記２０５０が設けられていることで、当該アウト口表記２０５０が設けられている第二領域５ａ２が特別な領域であると認識させることが可能となり、遊技者に対して当該第二領域５ａ２での遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２２０８】

また、第一領域５ａ１に設けられている第一始動口２００２に遊技球Ｂを入球させて所望の特別図柄（例えば、「大当り」）が抽選されると、第二領域５ａ２に設けられている可変入賞口（大入賞口２００５）が入球可能となるため、遊技者に対して、初めは第一領域５ａ１を遊技球Ｂが流下するような遊技（打込操作）を行わせ、所望の特別図柄が抽選されると第二領域５ａ２を遊技球Ｂが流下するような遊技（打込操作）を行わせることができ、遊技が変化することで遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。換言すると、特別図柄の抽選結果に応じて大入賞口２００５が入球可能な状態になると、第二領域５ａ２における大入賞口２００５への入球の可能性が変化するため、遊技者の関心を第二領域５ａ２へ引き付けさせることができる。この際に、第二領域５ａ２に設けられているサブアウト口２０２３の近傍にアウト口表記２０５０を設けているため、遊技者に対してサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３に遊技球Ｂが入球しないように強く願うようになる。しかしながら、サブアウト口２０２３のある第二領域５ａ２では、大入賞口２００５が入球可能となっているため、サブアウト口２０２３への入球よりも大入賞口２００５への入球の方をより強く願わせることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２２０９】
更に、第一領域５ａ１の第一始動口２００２、または、第二領域５ａ２の第二始動口２００４、に遊技球Ｂが入球して第一特別図柄または第二特別図柄として特定遊技状態（例えば、時短状態）が発生する特別図柄が抽選されると、第二始動口２００４へ遊技球Ｂが入球し易くなる。詳述すると、特定遊技状態が発生する特別図柄の抽選結果（図柄の組合せ）として、例えば、「時短大当り」が抽選されると、第二領域５ａ２に設けられている大入賞口２００５（可変入賞口）が所定のパターンで開閉する大当り遊技が開始されるため、大入賞口２００５に入球させようと多くの遊技球Ｂを第二領域５ａ２へ打ち込む（ここでは、右打ちする）こととなる。そして、大入賞口２００５の開閉が終了（大当り遊技が終了）すると、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球により抽選される特別図柄の変動時間が通常よりも短くなる時短遊技状態（特定遊技状態）となる。この時短遊技状態では、変動時間を短くすることに加えて、変動が保留されている特別図柄がある場合、第一始動口２００２による第一特別図柄よりも第二始動口２００４による第二特別図柄の方を優先して変動させるようにしている。そのため、第二特別図柄の変動が保留されている状態で第一領域５ａ１の第一始動口２００２に入球させても、第一特別図柄の変動が開始されないばかりか保留数の上限（例えば４つ）により破棄されてしまうため、第二領域５ａ２の第二始動口２００４へ入球するように、大当り遊技に引き続き、多くの遊技球Ｂを第二領域５ａ２へ打ち込むこととなり、第二始動口２００４に遊技球Ｂが入球し易くなる。換言すると、特定遊技状態（時短遊技状態）でない状態（通常の状態）では、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは第一始動口２００２へ導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高く、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂは第二始動口２００４へ導かれる可能性よりもサブアウト口２０２３に導かれる可能性の方が高い。一方、特定遊技状態（時短遊技状態）になると、第一領域５ａ１を流下する遊技球Ｂは第一始動口２００２へ導かれる可能性よりもアウト口１００８に導かれる可能性の方が高く、第二領域５ａ２を流下する遊技球Ｂはサブアウト口２０２３に導かれる可能性よりも第二始動口２００４に導かれる可能性の方が高くなる。つまり、時短遊技状態のような特定遊技状態になると、第一始動口２００２に入球する可能性は変化しないが、第二始動口２００４に入球する可能性が高くなるように変化する。このように、通常の状態から特定遊技状態になると、第二領域５ａ２に設けられている第二始動口２００４への入球の可能性が変化するため、遊技者が第二領域５ａ２に注目することとなる。この際に、第二領域５ａ２のサブアウト口２０２３の近傍には、アウト口１００８には設けられていないアウト口表記２０５０が設けられているため、当該アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができ、サブアウト口２０２３に入球しないように強く願わせつつ、第二始動口２００４への入球の期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２２１０】
また、第一領域５ａ１に設けられているアウト口１００８と、第二領域５ａ２に設けられているサブアウト口２０２３とが、接近して設けられているため、何れか一方が入賞口であると錯覚し易くなるが、アウト口１００８の第一領域５ａ１とサブアウト口２０２３の第二領域５ａ２とが分離していると共に、サブアウト口２０２３にのみ対応しているアウト口表記２０５０を設けているため、入賞口と誤認することはなく、何れも入賞口ではなくてアウト口であると認識させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２２１１】
［７－８ｈ．小括Ｈ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、打込まれた遊技球が流下する遊技領域に、遊技球の入球により所定の特典を付与する複数の入賞口と、遊技球が入球しても特典を付与することなく遊技機外へ排出するアウト口と、が設けられている。この種の遊技機として、アウト口が複数設けられているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０１９－１３６

１３４号公報）。
【２２１２】
しかしながら、アウト口が複数設けられていると、入賞口とアウト口との区別が付き難くなり、遊技者によってはアウト口を入賞口と勘違いして、入球したのに特典が付与されないことで苛立ちを覚え、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがあった。
【２２１３】
そこで、以下の解決手段では、上記の実情に鑑み、複数設けられているアウト口を入賞口と勘違いするのを防止して遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２２１４】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下する遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、
前記遊技機には、前記第一アウト口に対応する第一アウト口表記と、前記第二アウト口に対応する第二アウト口表記と、可動体とが設けられており、
少なくとも前記第一アウト口表記は、前記可動体の可動位置に応じて視認性が変化する」ものであることを特徴とする。
【２２１５】
ここで、「入賞口」としては、「遊技領域内において常時開口している一般入賞口」、「遊技領域内において常時開口しており、遊技球の入球による所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる始動入賞口（始動口）」、「遊技領域内における特定の受入口（チャッカー）に遊技球が入球することで、遊技領域内において、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（ゲート、スルーチャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となる可変入賞口（可変始動口、役物入賞口、等）」、「遊技領域内における特定領域（例えば、ゲート、チャッカー、等）を遊技球が通過することで抽選される普通抽選結果（普通図柄の抽選結果）に応じて、所定の特典として遊技球の入球が可能となり、遊技球の入球により所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるか否かの特別抽選（特別図柄の抽選）が行われる可変始動入賞口（可変始動口）」、「役物入賞口に入球した遊技球が振分手段により振分けられて入球すると、所定の特典として遊技者が有利となる有利遊技状態を発生させるＶ入賞口」、「所定の特典としての遊技者が有利となる有利遊技状態として、所定のパターンで開閉して遊技球の入球が可能となる大入賞口や役物入賞口」、等が挙げられる。
【２２１６】
また、「アウト口表記」としては、「英語（アルファベット）、日本語（片仮名、平仮名）、のような言語の文字からなるもの」、「模様、記号、ピクトグラム、のような図案からなるもの」、「負をイメージさせるような絵柄やキャラクタなどからなるもの」、等が挙げられる。また、アウト口表記としては、「周囲の装飾や部材などとは透光性が異なるもの」、「周囲の装飾や部材などと光の反射率が異なるもの」、等が挙げられる。アウト口表記を文字とする場合、横書きとしても良いし、縦書きとしても良いし、斜め書きとしても良い。また、アウト口表記は、シールに設けても良いし、装飾シートの装飾と一緒に印刷されていても良いし、入球口部材と一体成形されていても良い。
【２２１７】
更に、「可動体」としては、「遊技者参加型演出の実行に応じて昇降する押圧操作部（ポップアップボタン）」、「遊技者参加型演出が実行された時に遊技者が操縦桿のように操作することで当該演出に参加することが可能な演出操作部（ステック操作部）」、「上面を遊技球が転動可能（流通可能）とされ、前後方向に進退する平板状の可動片（振分片

、開閉扉、など）」、「前後方向へ延びている軸芯周りに対して回動し、遊技球を案内可能な羽根状の可動片（羽根、振分片、など）」、「左右方向へ移動可能な可動装飾体」、「上下方向へ移動可能な可動装飾体」、「前後方向へ延びた軸芯周りに回転可能な可動装飾体」、等が挙げられる。

【２２１８】

また、視認性の「変化」としては、「第一アウト口表記よりも前方に可動体が設けられており、第一アウト口表記の少なくとも一部が移動した可動体と重なって隠れることで視認性が変化するもの」、「第一アウト口表記よりも後方に可動体が設けられており、第一アウト口表記の少なくとも一部が移動した可動体と重なることで当該可動体の色や装飾により視認性が変化するもの」、「第一アウト口表記よりも後方に可動体が設けられており、可動体の移動によって第一アウト口表記の後方の明暗が変化することにより視認性が変化するもの」、等が挙げられる。

【２２１９】

手段１の構成によると、遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入賞口と、遊技領域を流下する遊技球が入球可能なアウト口とを有する遊技盤を備えた遊技機であって、アウト口として、少なくとも第一アウト口と第二アウト口とが設けられ、遊技機には、第一アウト口に対応する第一アウト口表記と、第二アウト口に対応する第二アウト口表記と、可動体とが設けられており、少なくとも第一アウト口表記は、可動体の可動位置に応じて視認性が変化するものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－５．入球口表記と可動体との関係］の章、押圧操作部３０３、アウト口表記２０５０、サブアウト口２０２３、羽根２１１４、振分片２５８７、図１５１～図１５３等の記載を参照）

【２２２０】

これにより、第一アウト口と対応した第一アウト口表記や第二アウト口に対応した第二アウト口表記を設けているため、当該アウト口表記を遊技者が視認することで、アウト口の存在に気付かせることができる。従って、第一アウト口や第二アウト口を入賞口と勘違いすることはないため、第一アウト口や第二アウト口への遊技球の入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【２２２１】

そして、少なくとも第一アウト口表記を、可動体の可動位置に応じて視認性が変化するようにしているため、可動体の動きによって第一アウト口表記が見え易くなったり見え難くなったりする。これにより、第一アウト口表記が見える時には遊技者の意識を第一アウト口へ向けさせ、第一アウト口表記が見え難い時には遊技者の意識を入賞口へ向けさせることが可能となるため、遊技者の意識を変化させて飽きさせ難くすることができ、本遊技機での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２２２２】

また、可動体の動きによって第一アウト口表記を見え易くしたり見え難くしたりすることができるため、例えば、通常の遊技状態では、可動体が第一アウト口表記と重ならない位置に移動していることで、第一アウト口表記を見え易くして、第一アウト口表記により第一アウト口の存在に気付かせて、第一アウト口を入賞口と勘違いしないようにする。一方、特定の遊技状態（例えば、大当りなどの遊技者が有利となる有利遊技状態が発生する特別図柄の組合せが残り一つを除いて揃った時に実行される演出（リーチ演出）が実行されている状態、「大当り」「中当り」「小当り」のような遊技者が有利となる有利遊技状態が発生している状態、など）では、可動体が第一アウト口表記と重なる位置に移動することで、第一アウト口表記を見え難くする。これにより、特定の遊技状態では、第一アウト口表記（第一アウト口）に対する関心を低下させることが可能となるため、第一アウト口を気にすることなく遊技者の関心を特定の遊技状態に専念させることができ、特定の遊技状態を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、特定の遊技状態では、発光やサウンドによる演出が変化するため、本遊技機の近くにいる他の遊技者が特定の遊技状態になったことを認識することができ、他の遊技者が本遊技機に注目することとなる。この際に、可動体が第一アウト口表記と重なる位置に移動していることから、他の遊技

者からは第一アウト口表記が見え難くなるため、第一アウト口表記が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えが良くなることで訴求力を高くすることが可能となり、他の遊技者に対して遊技する遊技機として本遊技機を選択させ易くすることができる。

【２２２３】

なお、第一アウト口表記を、遊技領域の左右方向の中央付近に設けるようにすることが望ましい。これにより、第一アウト口表記を遊技領域の左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近に第一アウト口表記が位置することで目立ち易くなる一方、可動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２２２４】

また、第一アウト口表記を、可動体よりも前方に設けるようにしても良い。これにより、可動体よりも前方に第一アウト口表記を設けているため、例えば、第一アウト口表記を透明な部材に設けると共に、後方に設けられている可動体の可動位置によって第一アウト口表記の後方を明るくしたり暗くしたりすることができるようにすると、可動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、第一アウト口表記を黒文字のような暗い感じの表記にする場合、可動体の可動（移動）によって第一アウト口表記の後方を明るくすると、暗い第一アウト口表記の周囲が明るくなるため、第一アウト口表記が目立って見え易くなる。一方、可動体の可動によって第一アウト口表記の後方を暗くすると、暗い第一アウト口表記の周囲が暗くなるため、第一アウト口表記が周囲の暗さに溶け込んで見え難くなる。或いは、第一アウト口表記を白文字のような明るい感じの表記にする場合、可動体の可動（移動）によって第一アウト口表記の後方を明るくすると、明るい第一アウト口表記の周囲が明るくなるため、第一アウト口表記が周囲の明るさに溶け込んで見え難くなる。一方、可動体の可動によって第一アウト口表記の後方を暗くすると、明るい第一アウト口表記の周囲が暗くなるため、第一アウト口表記が目立って見え易くなる。このように、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【２２２５】

また、上記のように、第一アウト口表記を可動体よりも前方に設ける場合、例えば、第一アウト口表記を透明な部材に設けると共に、後方の可動体を第一アウト口表記と重なる位置と重ならない位置との間で可動するようにすると、可動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、第一アウト口表記に対して可動体を同じような色または溶け込むような装飾とする場合、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体の色や装飾が見えることで、第一アウト口表記が可動体の色や装飾に溶け込んで見え難くなる。一方、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体が見えなくなることで、相対的に第一アウト口表記が目立つようになり、第一アウト口表記が見え易くなる。或いは、第一アウト口表記に対して可動体を異なる色や装飾とする場合、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体の異なる色や装飾が見えることで、第一アウト口表記が目立つようになり、第一アウト口表記が見え易くなる。一方、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に異なる色や装飾の可動体が見えなくなることで、相対的に第一アウト口表記が目立ち難くなり、第一アウト口表記が見え難くなる。このように、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【２２２６】

更に、第一アウト口表記を、可動体よりも後方に設けるようにしても良い。これにより、可動体よりも後方に第一アウト口表記を設けている。つまり、第一アウト口表記よりも前方に可動体を設けているため、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると

、前方の可動体により第一アウト口表記を隠して見え難くすることができ、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記を見えるようにすることができる。従って、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができ、上述した作用効果を奏する遊技機を具現化することができる。

【２２２７】

また、上記のように、第一アウト口表記よりも前方に可動体を設ける場合、例えば、可動体として遊技者参加型演出が実行された時に上昇して遊技者が押圧操作することにより当該演出に参加することが可能となる押圧操作部（ポップアップボタン）とする場合、押圧操作部が下方へ移動している通常の状態では、第一アウト口表記と押圧操作部とが重なっていないため、第一アウト口表記を視認することができ、第一アウト口表記により第一アウト口の存在に気付かせることができる。この通常の状態では、他の遊技者からも第一アウト口表記が見えるが、遊技が通常の状態であることから、他の遊技者は本遊技機を凝視せずにパッと見るだけであるため、第一アウト口表記に気付き難く、遊技機の見栄えが悪く見えることはない。一方、遊技者参加型演出が実行されて可動体としての押圧操作部が上昇すると、第一アウト口表記と押圧操作部とが重なって第一アウト口表記が見え難くなるが、本遊技機で遊技している遊技者は、通常の状態において第一アウト口の存在を認識しているため、第一アウト口表記が見えなくても第一アウト口を入賞口と勘違いすることはない。これに対して他の遊技者は、遊技者参加型演出の実行により、当該演出が開始されることを示唆する発光やサウンドなどの演出により本遊技機に注目することとなるが、押圧操作部が上昇することにより第一アウト口表記と重なって第一アウト口表記が見え難くなるため、第一アウト口表記が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えを良くすることができる。そして、他の遊技者からは遊技者参加型演出が見えるため、当該演出により他の遊技者を引き付けることができ、遊技する遊技機として本遊技機を選択させ易くすることができる。

【２２２８】

手段２：手段１の構成において、

「前記第一アウト口表記は、前記遊技領域の左右方向の中央付近に設けられている」ものであることを特徴とする。

【２２２９】

手段２の構成によると、第一アウト口表記は、遊技領域の左右方向の中央付近に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－５．入球口表記と可動体との関係］の章、アウト口表記２０５０、図１５１～図１５３等の記載を参照）

【２２３０】

これにより、第一アウト口表記を遊技領域の左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近に第一アウト口表記が位置することで目立ち易くなる一方、可動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２２３１】

手段３：手段１又は手段２の構成において、

「前記第一アウト口表記は、前記可動体よりも前方に設けられている」ものであることを特徴とする。

【２２３２】

手段３の構成によると、第一アウト口表記は、可動体よりも前方に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－５．入球口表記と可動体との関係］の章、アウト口表記２０５０、サブアウト口２０２３、振分片２５８７、図１５２等の記載を参照）

【２２３３】

これにより、可動体よりも前方に第一アウト口表記を設けているため、例えば、第一アウト口表記を透明な部材に設けると共に、後方に設けられている可動体の可動位置によって第一アウト口表記の後方を明るくしたり暗くしたりすることができるようにすると、可

動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、第一アウト口表記を黒文字のような暗い感じの表記にする場合、可動体の可動（移動）によって第一アウト口表記の後方を明るくすると、暗い第一アウト口表記の周囲が明るくなるため、第一アウト口表記が目立って見え易くなる。一方、可動体の可動によって第一アウト口表記の後方を暗くすると、暗い第一アウト口表記の周囲が暗くなるため、第一アウト口表記が周囲の暗さに溶け込んで見え難くなる。或いは、第一アウト口表記を白文字のような明るい感じの表記にする場合、可動体の可動（移動）によって第一アウト口表記の後方を明るくすると、明るい第一アウト口表記の周囲が明るくなるため、第一アウト口表記が周囲の明るさに溶け込んで見え難くなる。一方、可動体の可動によって第一アウト口表記の後方を暗くすると、明るい第一アウト口表記の周囲が暗くなるため、第一アウト口表記が目立って見え易くなる。このように、第一アウト口表記を可動体よりも前方に設けることで、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【２２３４】

また、例えば、第一アウト口表記を透明な部材に設けると共に、後方の可動体を第一アウト口表記と重なる位置と重ならない位置との間で可動するようにすると、可動体の可動位置によって第一アウト口表記の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、第一アウト口表記に対して可動体を同じような色または溶け込むような装飾とする場合、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体の色や装飾が見えることで、第一アウト口表記が可動体の色や装飾に溶け込んで見え難くなる。一方、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体が見えなくなることで、相対的に第一アウト口表記が目立つようになり、第一アウト口表記が見え易くなる。或いは、第一アウト口表記に対して可動体を異なる色や装飾とする場合、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に可動体の異なる色や装飾が見えることで、第一アウト口表記が目立つようになり、第一アウト口表記が見え易くなる。一方、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記の周囲に異なる色や装飾の可動体が見えなくなることで、相対的に第一アウト口表記が目立ち難くなり、第一アウト口表記が見え難くなる。このように、第一アウト口表記を可動体よりも前方に設けることで、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏する遊技機を提供することができる。

【２２３５】

手段４：手段１又は手段２の構成において、

「前記第一アウト口表記は、前記可動体よりも後方に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２２３６】

手段４の構成によると、第一アウト口表記は、可動体よりも後方に設けられているものである。（［発明を実施するための形態］では、［７－５．入球口表記と可動体との関係］の章、押圧操作部３０３、アウト口表記２０５０、サブアウト口２０２３、羽根２１１４、図１５１および図１５３等の記載を参照）

【２２３７】

これにより、可動体よりも後方に第一アウト口表記を設けている。つまり、第一アウト口表記よりも前方に可動体を設けているため、可動体を第一アウト口表記と重なる位置へ移動させると、前方の可動体により第一アウト口表記を隠して見え難くすることができ、可動体を第一アウト口表記と重ならない位置へ移動させると、第一アウト口表記を見えるようにすることができる。従って、可動体の可動位置に応じて第一アウト口表記の視認性を変化させることができ、上述した作用効果を奏する遊技機を具現化することができる。

【２２３８】

また、第一アウト口表記よりも前方に可動体を設けていることから、例えば、可動体として遊技者参加型演出が実行された時に上昇して遊技者が押圧操作することにより当該演

出に参加することが可能となる押圧操作部（ポップアップボタン）とする場合、押圧操作部が下方へ移動している通常の状態では、第一アウト口表記と押圧操作部とが重なっていないため、第一アウト口表記を視認することができ、第一アウト口表記により第一アウト口の存在に気付かせることができる。この通常の状態では、他の遊技者からも第一アウト口表記が見えるが、遊技が通常の状態であることから、他の遊技者は本遊技機を凝視せずにパッと見るだけであるため、第一アウト口表記に気付き難く、遊技機の見栄えが悪く見えることはない。一方、遊技者参加型演出が実行されて可動体としての押圧操作部が上昇すると、第一アウト口表記と押圧操作部とが重なって第一アウト口表記が見え難くなるが、本遊技機で遊技している遊技者は、通常の状態において第一アウト口の存在を認識しているため、第一アウト口表記が見えなくても第一アウト口を入賞口と勘違いすることはない。これに対して他の遊技者は、遊技者参加型演出の実行により、当該演出が開始されることを示唆する発光やサウンドなどの演出により本遊技機に注目することとなるが、押圧操作部が上昇することにより第一アウト口表記と重なって第一アウト口表記が見え難くなるため、第一アウト口表記が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えを良くすることができる。そして、他の遊技者からは遊技者参加型演出が見えるため、当該演出により他の遊技者を引き付けることができ、遊技する遊技機として本遊技機を選択させ易くすることができる。

【２２３９】

このように、上記の解決手段によれば、複数設けられているアウト口を入賞口と勘違いするのを防止して遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２２４０】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態におけるアウト口１００８およびサブアウト口２０２３は上記解決手段のアウト口に、本実施形態におけるサブアウト口２０２３は上記解決手段の第一アウト口に、本実施形態における一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、および大入賞口２００５は上記解決手段の入賞口に、本実施形態の扉枠３における演出操作ユニット３００の押圧操作部３０３、始動口ユニット２１００の羽根２１１４、センター役物２５００の振分片２５８７は上記解決手段の可動体に、本実施形態におけるアウト口表記２０５０は上記解決手段の第一アウト口表記に、それぞれ相当している。

【２２４１】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態のパチンコ機１によれば、第一アウト口（例えば、図１５１では、左側のサブアウト口２０２３）と対応した第一アウト口表記（左側のアウト口表記２０５０）や第二アウト口（右側のサブアウト口２０２３）に対応した第二アウト口表記（右側のアウト口表記２０５０）を設けているため、当該アウト口表記２０５０を遊技者が視認することで、サブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。従って、サブアウト口２０２３を入賞口と勘違いすることはないため、サブアウト口２０２３への遊技球Ｂの入球により特典が付与されなくても、苛立ちを覚えることはなく、遊技者の興趣が低下することはない。

【２２４２】

そして、アウト口表記２０５０を、可動体（例えば、押圧操作部３０３、羽根２１１４、振分片２５８７、など）の可動位置に応じて視認性が変化するようにしているため、可動体の動きによってアウト口表記２０５０が見え易くなったり見え難くなったりする。これにより、アウト口表記２０５０が見える時には遊技者の意識をサブアウト口２０２３へ向けさせ、アウト口表記２０５０が見え難い時には遊技者の意識を入賞口（第一始動口２００２）へ向けさせることが可能となるため、遊技者の意識を変化させて飽きさせ難くすることができ、本パチンコ機１での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２２４３】

また、可動体の動きによってアウト口表記２０５０を見え易くしたり見え難くしたりすることができるため、例えば、通常の遊技状態では、可動体がアウト口表記２０５０と重ならない位置に移動していることで、アウト口表記２０５０を見え易くして、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせて、サブアウト口２０２３を入賞口と勘違いしないようにする。一方、特定の遊技状態（例えば、大当りなどの遊技者が有利となる有利遊技状態が発生する特別図柄の組合せが残り一つを除いて揃った時に実行される演出（リーチ演出）が実行されている状態、「大当り」「中当り」「小当り」のような遊技者が有利となる有利遊技状態が発生している状態、など）では、可動体がアウト口表記２０５０と重なる位置に移動することで、アウト口表記２０５０を見え難くする。これにより、特定の遊技状態では、アウト口表記２０５０（サブアウト口２０２３）に対する関心を低下させることが可能となるため、サブアウト口２０２３を気にすることなく遊技者の関心を特定の遊技状態に専念させることができ、特定の遊技状態を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、特定の遊技状態では、発光やサウンドによる演出が変化するため、本パチンコ機１の近くにいる他の遊技者が特定の遊技状態になったことを認識することができ、他の遊技者が本パチンコ機１に注目することとなる。この際に、可動体がアウト口表記２０５０と重なる位置に移動していることから、他の遊技者からはアウト口表記２０５０が見え難くなるため、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えが良くなることで訴求力を高くすることが可能となり、他の遊技者に対して遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【２２４４】

更に、アウト口表記２０５０を遊技領域５ａの左右方向の中央付近に設けているため、遊技者の正面付近にアウト口表記２０５０が位置することで目立ち易くなる一方、可動体の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２２４５】

また、図１５２に示すように、アウト口表記２０５０をセンター役物２５００における透明な振分前板２５８８に設けると共に、後方に設けられている可動体としての振分片２５８７の可動位置によってアウト口表記２０５０の後方を明るくしたり暗くしたりすることができるようにしているため、振分片２５８７の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができる。詳述すると、アウト口表記２０５０を黒文字のような暗い感じの表記にする場合、振分片２５８７の後退位置への可動（移動）によってアウト口表記２０５０の後方を明るくすると、暗いアウト口表記２０５０の周囲が明るくなるため、アウト口表記２０５０が目立って見え易くなる。一方、振分片２５８７の前進位置への可動によってアウト口表記２０５０の後方を暗くすると、暗いアウト口表記２０５０の周囲が暗くなるため、アウト口表記２０５０が周囲の暗さに溶け込んで見え難くなる。なお、アウト口表記２０５０を白文字のような明るい感じの表記にする場合、振分片２５８７の後退位置への可動（移動）によってアウト口表記２０５０の後方を明るくすると、明るいアウト口表記２０５０の周囲が明るくなるため、アウト口表記２０５０が周囲の明るさに溶け込んで見え難くなる。一方、振分片２５８７の前進位置への可動によってアウト口表記２０５０の後方を暗くすると、明るいアウト口表記２０５０の周囲が暗くなるため、アウト口表記２０５０が目立って見え易くなる。このように、振分片２５８７の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【２２４６】

また、例えば、アウト口表記２０５０を透明な部材に設けると共に、後方の可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置と重ならない位置との間で可動するようにすると、可動体の可動位置によってアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができる。詳述すると、例えば、アウト口表記２０５０に対して可動体を同じような色または溶け込むような装飾とする場合、可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、アウト

口表記２０５０の周囲に可動体の色や装飾が見えることで、アウト口表記２０５０が可動体の色や装飾に溶け込んで見え難くなる。一方、可動体をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に可動体が見えなくなることで、相対的にアウト口表記２０５０が目立つようになり、アウト口表記２０５０が見え易くなる。或いは、アウト口表記２０５０に対して可動体を異なる色や装飾とする場合、可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に可動体の異なる色や装飾が見えることで、アウト口表記２０５０が目立つようになり、アウト口表記２０５０が見え易くなる。一方、可動体をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０の周囲に異なる色や装飾の可動体が見えなくなることで、相対的にアウト口表記２０５０が目立ち難くなり、アウト口表記２０５０が見え難くなる。このように、可動体の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができるため、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【２２４７】

更に、アウト口表記２０５０を、可動体よりも後方に設けるようにしても良い。つまり、アウト口表記２０５０よりも前方に可動体を設けるようにしても良い。これにより、可動体をアウト口表記２０５０と重なる位置へ移動させると、前方の可動体によりアウト口表記２０５０を隠して見え難くすることができ、可動体をアウト口表記２０５０と重ならない位置へ移動させると、アウト口表記２０５０を見えるようにすることができる。従って、可動体の可動位置に応じてアウト口表記２０５０の視認性を変化させることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を具現化することができる。

【２２４８】

具体的には、例えば、図１５１に示すように、可動体として遊技者参加型演出が実行された時に上昇して遊技者が押圧操作することにより当該演出に参加することが可能となる押圧操作部３０３（ポップアップボタン）とする場合、押圧操作部３０３が下方へ移動している通常の状態では、アウト口表記２０５０と押圧操作部３０３とが重なっていないため、アウト口表記２０５０を視認することができ、アウト口表記２０５０によりサブアウト口２０２３の存在に気付かせることができる。この通常の状態では、他の遊技者からもアウト口表記２０５０が見えるが、遊技が通常の状態であることから、他の遊技者は本パチンコ機１を凝視せずにパッと見るだけであるため、アウト口表記２０５０に気付き難く、パチンコ機１の見栄えが悪く見えることはない。一方、遊技者参加型演出が実行されて押圧操作部３０３が上昇すると、アウト口表記２０５０と押圧操作部３０３とが重なってアウト口表記２０５０が見え難くなるが、本パチンコ機１で遊技している遊技者は、通常の状態においてサブアウト口２０２３の存在を認識しているため、アウト口表記２０５０が見えなくてもサブアウト口２０２３を入賞口と勘違いすることはない。これに対して他の遊技者は、遊技者参加型演出の実行により、当該演出が開始されることを示唆する発光やサウンドなどの演出により本パチンコ機１に注目することとなるが、押圧操作部３０３が上昇することによりアウト口表記２０５０と重なってアウト口表記２０５０が見え難くなるため、アウト口表記２０５０が見えることによる見栄えの低下を抑制させることができ、相対的に見栄えを良くすることができる。そして、他の遊技者からは遊技者参加型演出が見えるため、当該演出により他の遊技者を引き付けることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【２２４９】

［８．遊技盤ロック部材と教示部との関係１］

次に、本体枠４に対して遊技盤５を着脱不能にする遊技盤ロック部材５０５（遊技盤ロック部材１０３０）と、教示部１０３５との関係について図１５５～図１５７等を参照して詳細に説明する。図１５５は、本体枠に遊技盤を取付けた状態で示す正面図である。図１５６（ａ）は図１５５において遊技盤に設けられている遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態から遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。図１５７（ａ）は図１５５

において本体枠に設けられている遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態から遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。

【２２５０】

まず、本体枠４には、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１に、前方から遊技盤５が挿入される遊技盤挿入口５０１ｂが設けられている。遊技盤挿入口５０１ｂは、前後方向が開放された四角い筒枠状に形成されている。この遊技盤挿入口５０１ｂの内面における下辺の部位は、遊技盤５が載置される遊技盤載置部５０１ｃとされている。この遊技盤載置部５０１ｃの左右方向中央付近に、上方へ突出している遊技盤規制部５０１ｄが設けられている。また、遊技盤挿入口５０１ｂの内面における右辺の部位には、右方へ窪んでいるロック溝５０１ｍが設けられている。ロック溝５０１ｍは、上下に離隔して二つ設けられている。

【２２５１】

また、本体枠ベースユニット５００には、遊技盤挿入口５０１ｂの下辺（遊技盤載置部５０１ｃ）よりも下方でスピーカ用開口部５０１ｇの右方の位置に、扇状の遊技盤ロック部材５０５が設けられている。遊技盤ロック部材５０５は、本体枠ベース５０１の前面において、前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。詳述すると、遊技盤ロック部材５０５は、全体が遊技盤載置部５０１ｃよりも下方に位置しているアンロック位置と、一部が遊技盤載置部５０１ｃよりも上方に突出しているロック位置との間で、回転可能に取付けられている。

【２２５２】

一方、遊技盤５には、外形が四角形の前構成部材１０００の右端付近に上下方向へ離隔して設けられている二つのロック部材保持部１０１３と、各ロック部材保持部１０１３に保持されている遊技盤ロック部材１０３０と、を備えている。二つのロック部材保持部１０１３は、上下方向が本体枠ベース５０１における二つのロック溝５０１ｍと一致するように設けられている。各遊技盤ロック部材１０３０は、ロック部材保持部１０１３において、左右方向へスライド可能に保持されている。詳述すると、遊技盤ロック部材１０３０は、全体が前構成部材１０００の右端よりも左方に位置しているアンロック位置と、一部（先端）が前構成部材１０００の右端よりも右方へ突出しているロック位置との間で、スライド可能に設けられている。

【２２５３】

また、遊技盤５には、前構成部材１０００における下端付近にロック溝１０３１が設けられている。ロック溝１０３１は、本体枠ベース５０１に取付けられている遊技盤ロック部材５０５と一致するような部位に設けられている。ロック溝１０３１は、前構成部材１０００の前面から後方へ向かって凹んでいると共に、下方へ開放されている。

【２２５４】

ここで、本体枠４に対する遊技盤５の着脱について説明する。本体枠４に遊技盤５を取付ける場合は、まず、本体枠４の遊技盤ロック部材５０５をアンロック位置の状態にすると共に、遊技盤５の遊技盤ロック部材１０３０をアンロック位置の状態にする。この状態で、遊技盤５の遊技領域５ａを前方へ向けて、前方から遊技盤５を本体枠４の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入する。その後、本体枠４の遊技盤ロック部材５０５をロック位置へ回転させると共に、遊技盤５の遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へスライドさせる。

【２２５５】

これにより、本体枠４の遊技盤ロック部材５０５の一部が遊技盤５のロック溝１０３１に挿入された状態となると共に、遊技盤５の遊技盤ロック部材１０３０の先端が本体枠４のロック溝５０１ｍに挿入された状態となり、遊技盤５の前方への移動が規制され、遊技盤５が本体枠４に対して取外不能にロックされた状態となる。本実施形態では、本体枠４の遊技盤ロック部材５０５と、遊技盤５の二つの遊技盤ロック部材１０３０との三つにより、本体枠４に対して遊技盤５を強固にロックすることができる。

【２２５６】

なお、本体枠４から遊技盤５を取外す場合は、上記とは逆の動作をすることで、遊技盤５のロックを解除することができ、遊技盤５を本体枠４から取外すことができる。

【２２５７】

ところで、本実施形態では、本体枠４に対して遊技盤５が取外不能にロックされていることを確認可能な教示部１０３５が遊技盤５に設けられている（図１５６（ａ）および図１５７（ａ）を参照）。遊技盤５の教示部１０３５は、円形の模様からなり、ロック部材保持部１０１３と、ロック溝１０３１とに設けられている。

【２２５８】

ロック部材保持部１０１３に設けられている教示部１０３５は、ロック部材保持部１０１３の底部前面において、アンロック位置の遊技盤ロック部材１０３０よりも右方の部位に設けられている。この教示部１０３５は、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へスライドさせると、前方に遊技盤ロック部材１０３０が重なって前方から視認不能になる（図１５６（ｂ）を参照）。また、教示部１０３５は、遊技盤ロック部材１０３０と接触しないように設けられており、本体枠４に対して遊技盤５の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間でロック部材の変位、を繰り返しても教示部１０３５が摩耗することはない。

【２２５９】

また、ロック溝１０３１に設けられている教示部１０３５は、ロック溝１０３１の底部前面に設けられている。この教示部１０３５は、遊技盤ロック部材５０５をロック位置へ回転させると、前方に遊技盤ロック部材５０５が重なって前方から視認不能になる（図１５７（ｂ）を参照）。また、教示部１０３５は、遊技盤ロック部材５０５と接触しないように設けられており、本体枠４に対して遊技盤５の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間でロック部材の変位、を繰り返しても教示部１０３５が摩耗することはない。

【２２６０】

このように、本実施形態によれば、本体枠４に遊技盤５を装着して遊技盤ロック部材５０５および遊技盤ロック部材１０３０を、アンロック位置からロック位置にすると、それまで視認可能であった教示部１０３５が遊技盤ロック部材５０５や遊技盤ロック部材１０３０に覆われて視認不能となる。これにより、教示部１０３５が見えなくなることで、遊技盤ロック部材５０５や遊技盤ロック部材１０３０がロック位置の状態であることが判り、本体枠４に対して遊技盤５が取外不能にロックされていることを確認することができる。

【２２６１】

なお、教示部１０３５としては、円形の模様からなるものを示したが、これに限定するものではなく、三角形、四角形、五角形、六角形、その他の多角形、星形、ひし形、ハート形、クローバー形、などの形状（模様）の他に、幾何学模様、文字、記号、マーク、所定のキャラクタやロゴ、などの形状（模様）としても良い。

【２２６２】

また、教示部１０３５としては、設けられている部材に対して、別体として設けられていても良いし、一体的に設けられていても良い。別体として設けられている教示部１０３５としては、「シールに施されているもの」、「塗装されているもの」、等が挙げられる。また、一体的に設けられている教示部１０３５としては、「成形により凹凸を有するように形成されているもの」、「インサート成形されているもの」、等が挙げられる。

【２２６３】

成形により形成される教示部１０３５としては、成形用の金型に予め教示部の形状が刻印されているものであっても良いし、脱型痕跡部を教示部としても良い。ここで、脱型痕跡部とは、成形型（金型）を使用して製品を成形した後に、当該製品を成形型から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により製品に付いた押出痕跡のことである。

【２２６４】

［８－１．遊技盤ロック部材と教示部との関係２］

続いて、上記とは異なる形態の遊技盤ロック部材５０６と教示部１０３５との関係につ

いて、図１５８を参照して詳細に説明する。図１５８（ａ）は図１５５とは異なる遊技盤ロック部材と教示部との関係をアンロック位置の状態で示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）のアンロック位置の状態からロック位置の状態にして示す説明図である。なお、図１５８では、遊技盤５の右上隅の部位を拡大して示している。

【２２６５】

この実施形態では、本体枠４に、遊技盤５を前方から押えるためのクランプ型の遊技盤ロック部材５０６が設けられている。遊技盤ロック部材５０６は、正面視において、遊技盤５よりも外方に位置しているアンロック位置と、一部が遊技盤５と重なっているロック位置との間で、基端側が左右方向に延びた軸周りに対して回動可能に設けられている。遊技盤ロック部材５０６は、詳細な図示は省略するが、遊技盤５の右上隅と右下隅とを押さえられるように、二つ設けられている。

【２２６６】

一方、遊技盤５には、前面における右上隅と右下隅とにゼブラ模様の注意喚起部１０３６が設けられていると共に、注意喚起部１０３６における遊技盤ロック部材５０６により前方から押えられる部位に星形の教示部１０３５が設けられている。注意喚起部１０３６は、遊技盤ロック部材５０６により遊技盤５を押さえ付ける際に、作業者に対して手指などが遊技盤ロック部材５０６に挟まれてしまわないように、注意を喚起するためのものである。従って、作業者が注意喚起部１０３６を見ることで、その付近に遊技盤ロック部材５０６が存在していることが判り、作業性を向上させることができると共に、ロックする際に、遊技盤ロック部材５０６に挟まれないように注意させることができ、本体枠４に対する遊技盤５の取付作業の安全性を高めることができる。

【２２６７】

本実施形態でも、本体枠４に遊技盤５を装着した状態で、遊技盤ロック部材５０６をアンロック位置からロック位置へ移動させると、教示部１０３５の前方が遊技盤ロック部材５０６により覆われて、教示部１０３５が視認不能となる。これにより、教示部１０３５が見えなくなることで、遊技盤ロック部材５０６がロック位置の状態であることが判り、本体枠４に対して遊技盤５が取外不能にロックされていることを確認することができる。

【２２６８】

ところで、遊技盤５に遊技盤ロック部材を設ける場合、遊技盤５において、遊技盤ロック部材をロック位置へ移動させると、教示部１０３５が隠されて視認不能になる。そして、この状態で、教示部１０３５が見えていないことに気付かずに遊技盤５を本体枠４の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入しようとすると、遊技盤５から遊技盤ロック部材の一部が突出しているため、遊技盤５を遊技盤挿入口５０１ｂに挿入することができなかったり、遊技盤ロック部材や本体枠４が破損したりする恐れがある。これに対して、本実施形態では、遊技盤５を本体枠４にロックするための遊技盤ロック部材５０６を、遊技盤５とは別の本体枠４に設けているため、遊技盤５が本体枠４から取外されている状態では、遊技盤５の教示部１０３５が遊技盤ロック部材５０６によって隠されることはないと共に、遊技盤５から遊技盤ロック部材の一部が突出することはない。従って、遊技盤５を本体枠４の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入する際に、教示部１０３５の視認性に気を付ける必要は無いと共に、本体枠４や遊技盤ロック部材５０６が破損することはない。

【２２６９】

なお、教示部１０３５としては、星形の模様からなるものを示したが、これに限定するものではなく、三角形、四角形、五角形、六角形、その他の多角形、円形、ひし形、ハート形、クローバー形、などの形状（模様）の他に、幾何学模様、文字、記号、マーク、所定のキャラクタやロゴ、などの形状（模様）としても良い。

【２２７０】

また、教示部１０３５としては、設けられている部材に対して、別体として設けられていても良いし、一体的に設けられていても良い。別体として設けられている教示部１０３５としては、「シールに施されているもの」、「塗装されているもの」、等が挙げられる。また、一体的に設けられている教示部１０３５としては、「成形により凹凸を有するよ

うに形成されているもの」、「インサート成形されているもの」、等が挙げられる。
【２２７１】
成形により形成される教示部１０３５としては、成形用の金型に予め教示部の形状が刻印されているものであっても良いし、脱型痕跡部を教示部としても良い。
【２２７２】
また、教示部１０３５は、遊技盤ロック部材５０６と接触しないように設けても良い。これにより、本体枠４に対して遊技盤５の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間でロック部材の変位、を繰り返しても教示部１０３５が摩耗することはない。
【２２７３】
［８－２．遊技盤ロック部材と教示部との関係３］
続いて、上記とは更に異なる形態の遊技盤ロック部材１０３０と教示部１０３５との関係について、図１５９を参照して詳細に説明する。図１５９（ａ）は遊技盤の透明な遊技パネルを本体枠に取付けた状態でパチンコ機を後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）において遊技盤ロック部材をアンロック位置の状態で拡大して示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）においてアンロック位置の遊技盤ロック部材をロック位置の状態にして示す説明図である。
【２２７４】
この実施形態では、上記と同様に、本体枠４の遊技盤挿入口５０１ｂに設けられている二つのロック溝５０１ｍと、遊技盤５の前構成部材１０００において、二つのロック溝５０１ｍと対応する部位に設けられているロック部材保持部１０１３と、ロック部材保持部１０１３において左右方向へスライド可能に取付けられている遊技盤ロック部材１０３０と、ロック部材保持部１０１３の底部前面に設けられている星形の教示部１０３５と、を備えている。
【２２７５】
ここでは、遊技盤５の前構成部材１０００と遊技パネル１１００とが、透明な部材により形成されている。また、教示部１０３５は、遊技盤ロック部材１０３０と接触しないように設けられており、本体枠４に対して遊技盤５の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間でロック部材の変位、を繰り返しても教示部１０３５が摩耗することはない。
【２２７６】
本実施形態では、裏ユニット３０００などを取付けていない状態の遊技盤５を、本体枠４に装着して、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へスライドさせると、遊技盤ロック部材１０３０の先端がロック溝５０１ｍに挿入されて、本体枠４に対して遊技盤５が取外不能にロックされた状態となる。この状態では、教示部１０３５の前方を遊技盤ロック部材１０３０が覆っているため、前方から教示部１０３５が見えない。
【２２７７】
ところで、図１５９（ａ）に示すように、パチンコ機１の後方から見ると、本体枠４における透明な裏カバー６４０を通して、遊技盤５の後側が見える。この際に、前構成部材１０００や遊技パネル１１００が透明であるため、それらを通して、パチンコ機１の後方から遊技盤ロック部材１０３０を視認することが可能である。そして、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へ移動させた状態では、遊技盤ロック部材１０３０と教示部１０３５とが前後方向において重なるため、教示部１０３５が後方から見え辛くなる（図１５９（ｃ）を参照）。一方、遊技盤ロック部材１０３０がアンロック位置の状態では、前後方向において遊技盤ロック部材１０３０と教示部１０３５とが重ならないため、教示部１０３５が見え易い（図１５９（ｂ）を参照）。
【２２７８】
このように、本実施形態によれば、パチンコ機１の後方から教示部１０３５などを確認することができるため、パチンコ機１（遊技盤５）を開発する際に、遊技盤５を本体枠４に対して確実に取付けることができるか否かを確認することができ、開発を手助け（支援）することができる。
【２２７９】

なお、ここでは、遊技盤５に遊技盤ロック部材１０３０を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、本体枠４に遊技盤ロック部材を設けても良い。

【２２８０】

また、教示部１０３５としては、星形の模様からなるものを示したが、これに限定するものではなく、三角形、四角形、五角形、六角形、その他の多角形、円形、ひし形、ハート形、クローバー形、などの形状（模様）の他に、幾何学模様、文字、記号、マーク、所定のキャラクタやロゴ、などの形状（模様）としても良い。

【２２８１】

また、教示部１０３５としては、設けられている部材に対して、別体として設けられていても良いし、一体的に設けられていても良い。別体として設けられている教示部１０３５としては、「シールに施されているもの」、「塗装されているもの」、等が挙げられる。また、一体的に設けられている教示部１０３５としては、「成形により凹凸を有するように形成されているもの」、「インサート成形されているもの」、等が挙げられる。

【２２８２】

成形により形成される教示部１０３５としては、成形用の金型に予め教示部の形状が刻印されているものであっても良いし、脱型痕跡部を教示部としても良い。

【２２８３】

［８－３．小括］

上記の教示部１０３５に関しては、以下のような様々な技術的特徴を有している。

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機は、遊技ホールの島設備などに外枠を介して取付けられる本体枠と、遊技が行われる遊技領域を有しており本体枠に対して前方から着脱可能に取付けられる遊技盤と、遊技領域を前方から視認可能としていると共に遊技盤を前方から閉鎖するように開閉可能に設けられている扉枠と、を備えている。この種の遊技機には、本体枠から遊技盤を取外不能にロックするロック部材が設けられている（例えば、特許文献：特開２０２１－０５８４２０号公報）。

【２２８４】

しかしながら、本体枠に遊技盤を取付けた時に、ロック部材による遊技盤のロックが不完全な状態であると、遊技盤がガタ付くことで遊技に影響を与えてしまい、遊技者の遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。

【２２８５】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、本体枠への遊技盤のロックを確認できるようにすることで遊技への影響を回避させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【２２８６】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「遊技球が流下する遊技領域が設けられている遊技盤と、該遊技盤を着脱可能に支持している本体枠と、を備えた遊技機であって、

前記本体枠に対して前記遊技盤が着脱不能なロック位置と、着脱可能なアンロック位置との間で変位するロック部材を具備しており、

該ロック部材の変位によって視認性が変化する教示部が設けられている」

ことを特徴とする。

【２２８７】

ここで、「ロック部材」としては、「ロック位置とアンロック位置との間でスライドするもの」、「ロック位置とアンロック位置との間で前後方向の軸まわりに回転するもの」、「ロック位置とアンロック位置との間で左右方向または上下方向の軸まわりに回転するもの」、などが挙げられる。また、ロック部材は、本体枠に設けられていても良いし、遊技盤に設けられていても良い。

【２２８８】

また、「教示部」としては、「成形型（金型）に施された刻印による凹部または凸部」、「成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により付いた脱型痕跡部」、「印刷または塗装された加飾部」、「装飾シートに施された注意喚起部のような特定の部位」、「貼り付けられているシール」、などが挙げられる。

【２２８９】

更に、「教示部」としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、「幾何学模様」、「記号」、「文字」、などが挙げられる。

【２２９０】

また、視認性が変化する「教示部」としては、ロック部材がロック位置の時に視認不能または視認困難となっても良いし、ロック部材がアンロック位置の時に視認不能または視認困難となっても良い。

【２２９１】

手段１の構成によると、遊技球が流下する遊技領域が設けられている遊技盤と、遊技盤を着脱可能に支持している本体枠と、を備えた遊技機であって、本体枠に対して遊技盤が着脱不能なロック位置と、着脱可能なアンロック位置との間で変位するロック部材を具備しており、ロック部材の変位によって視認性が変化する教示部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［８．遊技盤ロック部材と教示部との関係１～３］の章、遊技盤ロック部材５０５、遊技盤ロック部材５０６、遊技盤ロック部材１０３０、教示部１０３５、図１５５～図１５９などの記載を参照）。

【２２９２】

本構成によれば、ロック部材をアンロック位置にした状態で、本体枠に遊技盤を取付けてロック部材をロック位置へ変位させると、本体枠に対して遊技盤が取外不能にロックされた状態となる。この際に、ロック部材をアンロック位置からロック位置へ変位させると、教示部の視認性が変化する（例えば、教示部がロック部材に覆われて視認不能となる）。これにより、ロック部材がロック位置の状態であることを教示部の視認性の変化によって確認することができ、本体枠に対して遊技盤を確実にロックさせることができると共に、本体枠への遊技盤のロックが不完全なことによる遊技の影響を回避させることができ、本遊技機での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２２９３】

なお、変位するロック部材と接触しないように教示部を設けるようにすることが望ましい。これにより、本体枠に対する遊技盤の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間でロック部材の変位、を繰り返しても、教示部が摩耗することはない。

【２２９４】

また、ロック部材を本体枠に設けると共に、教示部を遊技盤に設けるようにすることが望ましい。ところで、遊技盤にロック部材を設ける場合、遊技盤において、ロック部材をロック位置へ変位（移動）させると、教示部が隠されて視認不能になるが、この状態で、教示部が見えていないことに気付かずに遊技盤を本体枠に取付けようとすると、遊技盤からロック部材の一部が突出しているため、遊技盤を本体枠に取付けることができなかったり、ロック部材や本体枠が破損したりする恐れがある。これに対して、ロック部材を、本体枠に設ける場合、遊技盤が本体枠から取外されている状態では、遊技盤の教示部がロック部材によって隠されることはないと共に、遊技盤からロック部材の一部が突出することはない。従って、遊技盤を本体枠に取付ける際に、教示部の視認性に気を付ける必要は無いと共に、本体枠やロック部材が破損することはない。

【２２９５】

また、教示部の周りに注意喚起部を設けるようにしても良い。ここで、注意喚起部とは、作業者に対して、当該部位がロック部材により保持（押圧）される部位であることを喚起させるものであり、「ゼブラ模様」、「黄色や赤色のような警告を想起する警告色」、「文字による喚起」、などが挙げられる。これにより、注意喚起部を見ることで、その付

近にロック部材が存在していることが判り、作業性を向上させることができると共に、ロックする際に、ロック部材に挟まれないように注意させることができ、本体枠に対する遊技盤の取付作業の安全性を高めることができる。

【２２９６】

更に、前方に遊技領域が設けられている遊技盤の遊技板を、本体枠に装着した時に、後方から視認可能に教示部を設けるようにしても良い。つまり、遊技盤における透明な遊技板を本体枠に装着した状態で、本体枠を後方から見ると、遊技板を通して教示部を視認することができるようにしても良い。これにより、例えば、ロック部材をロック位置へ変位させた時に、教示部とロック部材とが前後に重なるようにする場合、ロック部材をロック位置へ変位させた状態で後方から見ると、教示部とロック部材とが重なって見えることとなる。従って、遊技機（遊技盤）の開発において、本体枠に遊技板を装着した上で、ロック部材をロック位置へ変位させた状態で後方から教示部の部位を見ることで、本体枠に対して遊技板を確実に取付けることができるか否かを確認することができ、開発を手助け（支援）することができる。

【２２９７】

手段２：手段１の構成において、

「前記遊技盤は、

前方に前記遊技領域が設けられている遊技板を有しており、

前記教示部は、

前記遊技板を前記本体枠に装着した時に、後方から視認可能に設けられている」

ことを特徴とする。

【２２９８】

手段２の構成によると、遊技盤は、前方に遊技領域が設けられている遊技板を有しており、教示部は、遊技板を本体枠に装着した時に、後方から視認可能に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［８－２．遊技盤ロック部材と教示部との関係３］の章、遊技盤ロック部材１０３０、教示部１０３５、遊技パネル１１００、図１５９などの記載を参照）。

【２２９９】

本構成によれば、遊技盤における透明な遊技板を本体枠に装着した状態で、本体枠を後方から見ると、遊技板を通して教示部を視認することができる。従って、例えば、ロック部材をロック位置へ変位させた時に、教示部とロック部材とが前後に重なるようにする場合、ロック部材をロック位置へ変位させた状態で後方から見ると、教示部とロック部材とが重なって見えることとなる。これにより、遊技機（遊技盤）の開発において、本体枠に遊技板を装着した上で、ロック部材をロック位置へ変位させた状態で後方から教示部の部位を見ることで、本体枠に対して遊技板を確実に取付けることができるか否かを確認することができ、開発を手助け（支援）することができる。

【２３００】

このように、上記の解決手段によれば、本体枠への遊技盤のロックを確認できるようにすることで遊技への影響を回避させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２３０１】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態における本体枠４における本体枠ベースユニット５００の遊技盤ロック部材５０５、遊技盤ロック部材５０６、および遊技盤５の遊技盤ロック部材１０３０は上記解決手段のロック部材に、本実施形態における教示部１０３５は上記解決手段の教示部に、本実施形態における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、それぞれ相当している。

【２３０２】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態によれば、遊技盤ロック部材５０５、遊技盤ロック部材５０６、遊技盤ロック部材１０３０（以下では単に遊技盤ロック部材５０５と記載する）をアンロック位置に

した状態で、本体枠４に遊技盤５を取付けて遊技盤ロック部材５０５をロック位置へ変位させると、本体枠４に対して遊技盤５が取外不能にロックされた状態となる。この際に、遊技盤ロック部材５０５をアンロック位置からロック位置へ変位させると、教示部１０３５の視認性が変化する（ここでは、教示部１０３５が遊技盤ロック部材５０５に覆われて視認不能となる）。これにより、遊技盤ロック部材５０５がロック位置の状態であることを教示部１０３５の視認性の変化によって確認することができ、本体枠４に対して遊技盤５を確実にロックさせることができると共に、本体枠４への遊技盤５のロックが不完全なことによる遊技の影響を回避させることができ、本パチンコ機１での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２３０３】

また、本実施形態によれば、変位する遊技盤ロック部材５０５と接触しないように教示部１０３５を設けているため、本体枠４に対する遊技盤５の着脱、つまり、ロック位置とアンロック位置との間で遊技盤ロック部材５０５の変位、を繰り返しても、教示部１０３５が摩耗することはない。

【２３０４】

また、図１５８の本実施形態によれば、遊技盤ロック部材５０６を本体枠４に設けると共に、教示部１０３５を遊技盤５に設けるようにしている。ところで、遊技盤５に遊技盤ロック部材１０３０を設ける場合、遊技盤５において、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へ変位（移動）させると、教示部１０３５が隠されて視認不能になるが、この状態で、教示部１０３５が見えていないことに気付かずに遊技盤５を本体枠４に取付けようとすると、遊技盤５から遊技盤ロック部材１０３０の一部が突出しているため、遊技盤５を本体枠４に取付けることができなかったり、遊技盤ロック部材１０３０や本体枠４が破損したりする恐れがある。これに対して、遊技盤ロック部材５０６を、本体枠４に設けているため、遊技盤５が本体枠４から取外されている状態では、遊技盤５の教示部１０３５が遊技盤ロック部材５０６によって隠されることはないと共に、遊技盤５から遊技盤ロック部材の一部が突出することはない。従って、遊技盤５を本体枠４に取付ける際に、教示部１０３５の視認性に気を付ける必要は無いと共に、本体枠４や遊技盤ロック部材５０６が破損することはない。

【２３０５】

また、図１５８の本実施形態によれば、教示部１０３５の周りに注意喚起部１０３６を設けているため、その注意喚起部１０３６を見ることで、その付近に遊技盤ロック部材５０６が存在していることが判り、作業性を向上させることができると共に、ロックする際に、遊技盤ロック部材５０６に挟まれないように注意させることができ、本体枠４に対する遊技盤５の取付作業の安全性を高めることができる。

【２３０６】

更に、図１５９の実施形態によれば、前方に遊技領域５ａが設けられている遊技盤５の遊技パネル１１００を、本体枠４に装着した時に、後方から視認可能に教示部１０３５を設けているため、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へ変位させた状態で本体枠４の後方から見ると、教示部１０３５と遊技盤ロック部材１０３０とが重なって見えることとなる。従って、パチンコ機１（遊技盤５）の開発において、本体枠４に遊技パネル１１００を装着した上で、遊技盤ロック部材１０３０をロック位置へ変位させた状態で後方から教示部１０３５の部位を見ることで、本体枠４に対して遊技パネル１１００（遊技盤５）を確実に取付けることができるか否かを確認することができ、開発を手助け（支援）することができる。

【２３０７】

［９．センター役物以外に設けられている特定痕跡部］

次に、遊技盤５におけるセンター役物２５００以外に設けられている特定痕跡部について説明する。まず、特定痕跡部とは、製品を金型（成形型）から脱型することで製品に付いた脱型痕跡部、射出成形する際の溶融樹脂の流入口であるゲート跡、成形型に意図的に刻印した刻設部、などが挙げられる。以下では、特定痕跡部として脱型痕跡部２５１９を

例にして説明することとし、脱型痕跡部２５１９以外であっても特定痕跡部に含まれるものであれば、脱型痕跡部２５１９による後述する作用効果と同様の作用効果を奏することができる。脱型痕跡部２５１９は、成形型（金型）を使用して製品を成形した後に、当該製品を成形型から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により製品に付いた押出痕跡のことである。脱型痕跡部２５１９は、隣接する平面部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。

【２３０８】

脱型痕跡部２５１９は、板状の部材における板面、板状あるいは堰状の部材の端面、などに設けられている。脱型痕跡部２５１９の形状としては、三角形、四角形、五角形、六角形、のような多角形、円形、半円形、星形、ハート形やクローバー形のような不定形、などが挙げられる（図１１３を参照）。

【２３０９】

［９－１．前構成部材に設けられている脱型痕跡部］

次に、遊技盤５の前構成部材１０００に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１６０～図１６６などを参照して詳細に説明する。図１６０は遊技盤における前構成部材、機能表示ユニット、および遊技パネルを分離させて前から見た分解斜視図であり、図１６１は遊技盤における前構成部材、機能表示ユニット、および遊技パネルを分離させて後ろから見た分解斜視図である。なお、図１６０および図１６１では、遊技パネル１１００の開口部１１１２を省略して示している。

【２３１０】

前構成部材１０００と遊技パネル１１００と機能表示ユニット１４００との関係は、図１６０および図１６１に示すように、前構成部材１０００における左上隅に設けられている機能表示ユニット取付部１０１１に、機能表示ユニット１４００が後方から取付けられると共に、前構成部材１０００が遊技パネル１１００の前面に取付けられている。これらを組付けた状態では、機能表示ユニット１４００の一部（接続コネクタ１４０２ｂの部位）が後方へ露出している。

【２３１１】

［９－１ａ．内レールに設けられている脱型痕跡部］

内レールユニット１０６０の内レール１００２に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１６２などを参照して説明する。図１６２（ａ）は前構成部材における内レールユニットの正面図であり、（ｂ）は前構成部材における内レールユニットの背面図である。

【２３１２】

まず、前構成部材１０００の内レールユニット１０６０は、内レール１００２、アウト誘導部１００３、および右下レール１００４の一部により構成されており、アウト口１００８を有している。詳細は後述するが、内レールユニット１０６０の先端（上端）には、球逆流防止ユニット１０６１が設けられている。

【２３１３】

また、内レールユニット１０６０には、本体枠４に対する扉枠３の開放を検知可能な扉枠中開放スイッチ１０６０ａが設けられている。この扉枠中開放スイッチ１０６０ａは、近接センサであり、本体枠４に遊技盤５を取付けた状態で、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、扉枠３の接近を検知することにより、扉枠３が閉状態であることを検知することができる。

【２３１４】

ところで、遊技者が扉枠３に設けられている上皿２０１や下皿２０２を掴んで強く引っ張ったり、演出操作ユニット３００のレバー操作部３０４を強く引っ張ったりすることによって、扉枠３と本体枠４との間にある程度の隙間が形成されると、扉枠３が扉枠中開放スイッチ１０６０ａから離れるため、扉枠３が非検知の状態となり、扉枠３が本体枠４に対して開放されていなくても、扉枠３が開状態であると検知することができる。つまり、扉枠３と本体枠４（遊技盤５）の間に隙間が形成されていることを検知することができる

。これにより、扉枠３を引っ張ることで本体枠４との間に隙間を形成して不正行為を行おうとしても、扉枠中開放スイッチ１０６０ａにより隙間の形成を検知して警告を発するようにすることができるため、不正行為が行われることを防止することができる。

【２３１５】

内レール１００２は、透明な帯板状に形成されている。内レール１００２は、帯板の両側面を前後方向へ向けた状態で、正面視において円弧状に形成されている。この内レール１００２は、後面に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている（図１６２（ｂ）を参照）。換言すると、内レール１００２には、遊技球Ｂと接触しない面で、且つ、前方に遊技領域５ａが設けられる平板状の遊技パネル１１００と対向する面（後面）に、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２３１６】

この内レール１００２によれば、脱型痕跡部２５１９を後面に設けているため、前方から脱型痕跡部２５１９が目立ち難くなり、脱型痕跡部２５１９が見えることによる見栄えの悪化を防止することができる。また、脱型痕跡部２５１９を後面に設けているため、遊技球Ｂが脱型痕跡部２５１９に接触することはなく、遊技球Ｂの動きに対して脱型痕跡部２５１９が影響を与えることはない。従って、遊技領域５ａを流通している遊技球Ｂの動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球Ｂの動きを楽しませることができる。

【２３１７】

［９－１ｂ．球逆流防止ユニットに設けられている脱型痕跡部］

次に、内レールユニット１０６０の先端の球逆流防止ユニット１０６１に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１６３などを参照して説明する。図１６３（ａ）は逆流防止部材が開状態の時の内レールユニットの先端に設けられている球逆流防止ユニットを拡大して示す説明図であり、（ｂ）は逆流防止部材が閉状態の時の内レールユニットの先端に設けられている球逆流防止ユニットを拡大して示す説明図であり、（ｃ）は逆流防止部材の正面図であり、（ｄ）は逆流防止部材の背面図である。

【２３１８】

内レールユニット１０６０（内レール１００２）の先端（上端）に設けられている球逆流防止ユニット１０６１は、遊技領域５ａ内に打ち込まれた遊技球Ｂが、外レール１００１と内レール１００２との間側へ戻ることを防止するためのものである。

【２３１９】

球逆流防止ユニット１０６１は、遊技球Ｂの逆流を防止するための逆流防止部材１００７と、逆流防止部材１００７の基端側が収容される収容凹部１０６１ａと、収容凹部１０６１ａ内において逆流防止部材１００７の基端側を前後方向に延びた軸周りに対して回動可能に支持するための円柱状の軸支部１０６１ｂと、を備えている。

【２３２０】

逆流防止部材１００７は、図１６３（ｃ）および（ｄ）に示すように、球逆流防止ユニット１０６１の軸支部１０６１ｂが挿入される円筒状の基端部１００７ａと、基端部１００７ａから所定方向へ平板状に延出している逆流防止片部１００７ｂと、基端部１００７ａから逆流防止片部１００７ｂとは反対側へ突出している錘部１００７ｃと、を有している。この逆流防止部材１００７は、錘部１００７ｃの重量が逆流防止片部１００７ｂの重量よりも大きくなるように形成されている。従って、基端部１００７ａを軸支させた状態では、逆流防止片部１００７ｂが基端部１００７ａから上方へ延出した状態となる。逆流防止部材１００７は、遊技盤５に組立てた状態では、軸支部１０６１ｂの軸方向（前後方向）において、収容凹部１０６１ａの前壁との間、および、遊技パネル１１００との間、に隙間が形成されるように取付けられている。

【２３２１】

球逆流防止ユニット１０６１の収容凹部１０６１ａは、後方および左方へ開放された容器状に形成されている。軸支部１０６１ｂは、球逆流防止ユニット（内レール１００２）とは別部材であり、円柱状の金属により形成されている。軸支部１０６１ｂは、前端が収

容凹部１０６１ａにおける前壁の後面に取付けられている。
【２３２２】
球逆流防止ユニット１０６１は、通常の状態では、逆流防止部材１００７が、その逆流防止片部１００７ｂが基端部１００７ａからほぼ垂直に立ち上がっており、逆流防止片部１００７ｂが内レール１００２の側面に対して交差するように上方へ延出している閉位置の状態となっている（図１６３（ｂ）を参照）。この閉位置の状態では、逆流防止片部１００７ｂの先端と外レール１００１との間の距離が、遊技球Ｂの直径よりも短くなっている。
【２３２３】
この通常の状態で、球発射装置５４０から遊技球Ｂが発射されると、その遊技球Ｂは、外レール１００１と内レール１００２との間を通って上方へ移動し、逆流防止片部１００７ｂに左下方から当接する。そして、遊技球Ｂの勢いに応じて、逆流防止片部１００７ｂが右方へ移動する方向、つまり、時計回りの方向へ逆流防止部材１００７が回動し、逆流防止片部１００７ｂが内レール１００２に沿った開位置の状態（図１６３（ａ）を参照）となり、当該遊技球Ｂが遊技領域５ａ内へ進入することとなる。その後、遊技球Ｂが逆流防止部材１００７の部位を通過すると、重力の作用により逆流防止部材１００７が自動的に通常の状態、つまり、閉位置の状態に復帰する。
【２３２４】
ところで、逆流防止部材１００７が閉位置の状態では、逆流防止部材１００７の錘部１００７ｃが、収容凹部１０６１ａの内壁を構成している右壁に接触している。従って、逆流防止部材１００７は、これ以上、逆流防止片部１００７ｂの先端が左方へ移動する方向、つまり、反時計回りの方向への回動することが規制されている。これにより、逆流防止片部１００７ｂに右方から遊技球Ｂが当接しても、逆流防止部材１００７が回動することはない。従って、遊技領域５ａ内に打ち込まれた遊技球Ｂが、外レール１００１と内レール１００２との間の部位に戻ろうとして、右方から逆流防止片部１００７ｂに当接しても、逆流防止部材１００７が反時計回りの方向へ回動することはなく、逆流防止片部１００７ｂが遊技球Ｂを跳ね返すこととなり、遊技球Ｂが球発射装置５４０側へ戻ることはない。
【２３２５】
本実施形態では、球逆流防止ユニット１０６１において脱型痕跡部２５１９が設けられている。具体的に説明すると、図１６３に示すように、収容凹部１０６１ａの内壁を構成している前壁の後面に脱型痕跡部２５１９が設けられている。この脱型痕跡部２５１９は、逆流防止部材１００７が閉位置の時に、逆流防止部材１００７の錘部１００７ｃと前後方向が重なる部位に設けられている。これにより、遊技盤５の組立ての際に、逆流防止部材１００７を回動させて、逆流防止部材１００７（錘部１００７ｃ）が収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９と重なるか否かを見ることで、逆流防止部材１００７の動作を確認することができる。換言すると、収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９が、逆流防止部材１００７の動作の目安になる。
【２３２６】
また、収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９を、逆流防止部材１００７が閉位置の時に前後に重なる部位に設けているため、通常の状態では、逆流防止部材１００７と脱型痕跡部２５１９とが前後方向に重なっており、後方の逆流防止部材１００７（錘部１００７ｃ）の存在によって脱型痕跡部２５１９が前方から見え難くなっている。一方、逆流防止部材１００７が開位置の状態では、脱型痕跡部２５１９の後方に逆流防止部材１００７（錘部１００７ｃ）が位置していないため、脱型痕跡部２５１９が見え易くなるが、逆流防止部材１００７が開位置の状態である時間は、遊技球Ｂが通過する僅かな時間であるため、収容凹部１０６１ａに設けられている脱型痕跡部２５１９の存在に気付き難い。このようなことから、遊技者からは収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９に気付き難いため、その脱型痕跡部２５１９の存在により遊技盤５の見栄えが悪くなることはない。
【２３２７】
更に、収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９は、逆流防止部材１００７と接触しな

いように設けられているため、脱型痕跡部２５１９が逆流防止部材１００７の動作を妨げることはない。

【２３２８】

また、本実施形態では、逆流防止部材１００７においても脱型痕跡部２５１９が設けられている。逆流防止部材１００７の脱型痕跡部２５１９は、図１６３（ｄ）に示すように、後面に設けられている。つまり、逆流防止部材１００７では、遊技球Ｂに接触しない面で、且つ、遊技者が直接見ることのない遊技パネル１１００と対向する面に設けられている。これにより、遊技球Ｂの流通を阻害することはないと共に、遊技盤５の見栄えが悪くなることはない。

【２３２９】

また、逆流防止部材１００７の後面と遊技パネル１１００の前面との間には隙間が設けられているため、逆流防止部材１００７の後面に設けられている脱型痕跡部２５１９が遊技パネル１１００に接触することはなく、脱型痕跡部２５１９によって逆流防止部材１００７の動作が妨げられることはない。

【２３３０】

なお、上記では、球逆流防止ユニット１０６１を内レール１００２の先端において、一体的に設けているものを示したが、これに限定するものではなく、球逆流防止ユニット１０６１と内レール１００２とが別部材（別体）により構成されていても良い。

【２３３１】

また、上記では、球逆流防止ユニット１０６１を内レール１００２に設けているものを示したが、これに限定するものではなく、球逆流防止ユニット１０６１を外レール１００１側に設けても良い。

【２３３２】

［９－１ｃ．前構成部材における証紙貼付部に設けられている脱型痕跡部］

続いて、前構成部材１０００における証紙貼付部１０１２に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１６４などを参照して説明する。図１６４は、前構成部材において証紙貼付部と証紙台座とを分離させて斜視図で示す説明図である。証紙貼付部１０１２は、前構成部材１０００における右下レール１００４の下方の部位の前面において凹んでいる収容凹部１０１２ａと、収容凹部１０１２ａ内に取付けられ前面に証紙１０１２ｄが貼り付けられる証紙台座１０１２ｂと、を備えている。

【２３３３】

証紙１０１２ｄは、本パチンコ機１（遊技盤５）のメーカー、製造番号、遊技盤の種類、などを特定可能な内容が記載されているシールである。詳述すると、「証紙」は、横長の台形の底辺に横長の長方形が接している変五角形の外形を呈している証紙本体を有しており、証紙本体の全面に所定の模様が施されている。この証紙本体の横長の長方形の部位に、パチンコ機などの遊技機の組合証、遊技盤の種類、メーカー名が、記載されている。また、「証紙」は、証紙本体の色によって、遊技盤の種類を識別可能としている。更に、「証紙」は、証紙本体における台形の部位に、製造業者記号、製造番号、及び二次元バーコード、が記載されている製造番号票のシールが貼り付けられている。製造番号票の二次元バーコードには、情報ＩＤ（例えば、本遊技盤のＩＤ、組となる主制御基板のＩＤ、組となる周辺制御基板のＩＤ、等）、種別、製造業者記号、製造年、製造番号、等の情報が入れられている。このようなことから、本実施形態の「証紙」は、証紙本体（所謂、証紙）と製造番号票と、を組み合わせたものである。

【２３３４】

収容凹部１０１２ａは、前方および下方へ開放されている。証紙台座１０１２ｂは、図示するように、外周縁から後方へ突出している周壁部１０１２ｃを有しており、後方へ開放された浅い箱状に形成されている。この証紙台座１０１２ｂは、透明な部材により形成されている。証紙台座１０１２ｂは、図示は省略するが、収容凹部１０１２ａに収容された状態で、取付ビスにより前面側から前構成部材１０００に取付けられると共に、当該取付ビスが覆われるように証紙１０１２ｄが貼り付けられる。

【２３３５】
本実施形態では、証紙台座１０１２ｂの後面に脱型痕跡部２５１９が設けられている。詳述すると、証紙台座１０１２ｂの脱型痕跡部２５１９は、証紙１０１２ｄと前後方向が重なる部位に設けられている。これにより、証紙台座１０１２ｂの前面に証紙１０１２ｄを貼り付けると、証紙台座１０１２ｂの脱型痕跡部２５１９が証紙１０１２ｄによって隠されて前方からは見えなくなる。これにより、証紙貼付部１０１２の見栄えが悪くなることはないと共に、証紙１０１２ｄが貼り付けられていないと脱型痕跡部２５１９が見えるため、証紙１０１２ｄの貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。
【２３３６】
また、本実施形態では、証紙１０１２ｄが貼り付けられる証紙台座１０１２ｂの後面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、証紙台座１０１２ｂの前面には脱型痕跡部２５１９による凹凸がない。これにより、証紙台座１０１２ｂの前面に貼り付けられている証紙１０１２ｄに、脱型痕跡部２５１９による凹凸や皺が生じることはなく、証紙１０１２ｄによる表示を見え易くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【２３３７】
また、本実施形態では、証紙台座１０１２ｂの後面に脱型痕跡部２５１９よりも後方に突出している周壁部１０１２ｃを設けているため、証紙台座１０１２ｂの脱型痕跡部２５１９が後方の部材（収容凹部１０１２ａの底面）に接触することはなく、脱型痕跡部２５１９の接触によるガタ付きが生じることはない。従って、証紙台座１０１２ｂに対して何らかの振動が伝わっても、証紙台座１０１２ｂがガタ付くことはなく、証紙台座１０１２ｂに貼り付けられている証紙１０１２ｄの表示を良好に視認することができる。
【２３３８】
更に、本実施形態では、証紙台座１０１２ｂに、外周縁から脱型痕跡部２５１９よりも後方に突出している周壁部１０１２ｃを設けているため、周壁部１０１２ｃによって証紙台座１０１２ｂの外周縁を補強することができ、証紙台座１０１２ｂの強度・剛性を高めることができる。従って、温度や湿度などの環境変化や経年変化などにより証紙台座１０１２ｂが歪んでしまうことを低減させることができ、証紙１０１２ｄによる表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。
【２３３９】
また、本実施形態では、収容凹部１０１２ａ内に取付けられる証紙台座１０１２ｂの前面に証紙１０１２ｄを貼り付けるようにしているため、遊技盤５を再利用する際に、証紙台座１０１２ｂのみを取外せば良くい。証紙台座１０１２ｂを取外す際に、貼り付けられている証紙１０１２ｄを破って剥がす必要があるため、証紙１０１２ｄに対する懸念がない。
【２３４０】
なお、本実施形態では、収容凹部１０１２ａの前面に脱型痕跡部２５１９を設けても良い。収容凹部１０１２ａの脱型痕跡部２５１９は、証紙台座１０１２ｂに貼り付けられている証紙１０１２ｄによって前方から隠されるため、遊技盤５の見栄えが悪くなることない。また、証紙１０１２ｄが貼り付けられていないと、収容凹部１０１２ａの脱型痕跡部２５１９が見えるため、証紙１０１２ｄの貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。
【２３４１】
また、本実施形態では、証紙台座１０１２ｂの脱型痕跡部２５１９を、証紙１０１２ｄと前後方向が重ならない部位、換言すると、証紙１０１２ｄによって隠されない部位、に設けるようにしても良い。これにより、脱型痕跡部２５１９によって証紙１０１２ｄを貼り付ける位置を示唆することが可能となる。
【２３４２】
［９－１ｄ．前構成部材における情報表示部に設けられている脱型痕跡部］
続いて、前構成部材１０００における遊技盤第一情報表示部１０１５のような情報表示部に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１６５などを参照して説明する。図１６５（ａ）は前構成部材における遊技盤第一情報表示部と第一情報シール台座とを分解

すると共にそれぞれに脱型痕跡部を記して斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は第一情報シール台座において脱型痕跡部と突起部との関係を断面で示す説明図である。

【２３４３】

ここでは、情報表示部として遊技盤第一情報表示部１０１５を例にして説明する。遊技盤第一情報表示部１０１５の主な構成については、［５－１ａ．遊技盤第一情報表示部］の章で説明しており、ここでの詳細な説明は省略する。

【２３４４】

遊技盤第一情報表示部１０１５は、前構成部材１０００の前面において浅く凹んでいる収容凹部１０１５ａと、収容凹部１０１５ａに収容され、前面に遊技盤５にかかる情報が記載された第一情報シール１０１７が貼り付けられ第一情報シール台座１０１６と、を主に備えている。第一情報シール台座１０１６は、前面に第一情報シール１０１７が貼り付けられる平板状の台板１０１６ａと、台板１０１６ａの後面において格子状に設けられている複数の突起部１０１６ｅと、を有している。第一情報シール１０１７（スペックシール）には、大当り確率、賞球数、大当りラウンド数、カウント数、などの遊技盤５のスペックが表示されている。

【２３４５】

遊技盤第一情報表示部１０１５には、収容凹部１０１５ａの前面と、第一情報シール台座１０１６における台板１０１６ａの後面と、にそれぞれ複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２３４６】

収容凹部１０１５ａの前面に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は、第一情報シール台座１０１６の突起部１０１６ｅに対して前後方向が重ならない位置に設けられている。これにより、収容凹部１０１５ａに第一情報シール台座１０１６を取付けた時に、収容凹部１０１５ａの脱型痕跡部２５１９が突起部１０１６ｅに接触することはない。

【２３４７】

第一情報シール台座１０１６に設けられている複数の脱型痕跡部２５１９は、突起部１０１６ｅにより格子状に区画されている区画内に設けられている。突起部１０１６ｅは、図１６５（ｂ）に示すように、脱型痕跡部２５１９よりも突出している。これにより、第一情報シール台座１０１６を収容凹部１０１５ａに取付けた時に、第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９が収容凹部１０１５ａの前面に接触することはない。

【２３４８】

本実施形態によれば、第一情報シール台座１０１６を収容凹部１０１５ａに取付けた時に、それぞれの脱型痕跡部２５１９が相手側に接触することはないため、第一情報シール台座１０１６をガタ付かせることかなく取付けることができる。

【２３４９】

また、収容凹部１０１５ａに設けられている脱型痕跡部２５１９は、第一情報シール台座１０１６を取付けることにより、第一情報シール台座１０１６（第一情報シール１０１７）によって隠されるため、収容凹部１０１５ａの脱型痕跡部２５１９が見えなくなることで、第一情報シール台座１０１６の取付けを確認することができる。

【２３５０】

また、本実施形態では、第一情報シール１０１７が貼り付けられる第一情報シール台座１０１６の台板１０１６ａの後面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、台板１０１６ａの前面には脱型痕跡部２５１９による凹凸がない。これにより、台板１０１６ａの前面に貼り付けられている第一情報シール１０１７に、脱型痕跡部２５１９による凹凸や皺が生じることはなく、第一情報シール１０１７による表示を見え易くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２３５１】

更に、本実施形態では、第一情報シール台座１０１６に、格子状に後方へ突出している突起部１０１６ｅを設けているため、突起部１０１６ｅによって第一情報シール台座１０１６を補強することができ、第一情報シール台座１０１６の強度・剛性を高めることがで

きる。従って、温度や湿度などの環境変化や経年変化などにより第一情報シール台座１０１６が歪んでしまうことを低減させることができ、第一情報シール１０１７による表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。

【２３５２】

また、本実施形態では、第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９を、第一情報シール１０１７と前後方向が重なる部位に設けられている。これにより、第一情報シール台座１０１６の前面に第一情報シール１０１７を貼り付けると、第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９が第一情報シール１０１７によって隠されて前方からは見えなくなる。これにより、遊技盤第一情報表示部１０１５の見栄えが悪くなることはないと共に、第一情報シール１０１７が貼り付けられていないと脱型痕跡部２５１９が見えるため、第一情報シール１０１７の貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。

【２３５３】

また、本実施形態では、第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９を、第一情報シール１０１７と前後方向が重ならない部位、換言すると、第一情報シール１０１７によって隠されない部位、に設けるようにしても良い。これにより、脱型痕跡部２５１９によって第一情報シール１０１７を貼り付ける位置を示唆することが可能となる。

【２３５４】

なお、上記では、脱型痕跡部２５１９が設けられている情報表示部として遊技盤第一情報表示部１０１５を示したが、これに限定するものではなく、遊技盤第二情報表示部１０２０や遊技盤第三情報表示部１０２５などとしても良い。遊技盤第二情報表示部１０２０の第二情報シール１０２２（版権シール）には、遊技盤５の版権に関する情報が表示されている。また、遊技盤第三情報表示部１０２５の第三情報シール１０２７（ＡＭシール）には、遊技盤５の検定に関する情報が表示されている。

【２３５５】

［９－１ｅ．前構成部材における装飾体に設けられている脱型痕跡部］

続いて、前構成部材１０００における装飾体に設けられている脱型痕跡部２５１９について、主に図１６６などを参照して説明する。ここでは、前構成部材１０００の装飾体として、証紙台座１０１２ｂを例にして説明する。図１６６は、前構成部材における装飾体としての証紙台座を後ろから見た斜視図である。

【２３５６】

証紙台座１０１２ｂは、平板状の台板の外周縁から後方へ突出している周壁部１０１２ｃを有している。この実施形態では、証紙台座１０１２ｂの後面と、周壁部１０１２ｃの後端面と、にそれぞれ脱型痕跡部２５１９が設けられている。台板の後面の脱型痕跡部２５１９は、前面に貼り付けられた証紙１０１２ｄと前後方向が重なる部位に設けられている。

【２３５７】

本実施形態によれば、台板の後面に加えて、周壁部１０１２ｃの後端面にも複数の脱型痕跡部２５１９を設けているため、証紙台座１０１２ｂを射出成形して金型から脱型する際に、台板の後面のみに脱型痕跡部２５１９を設ける場合と比較して、周壁部１０１２ｃの部位においてもエジェクタピンなどの脱型機構に押して脱型させることができ、金型からの脱型時における変形を低減させることができる。

【２３５８】

また、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂの前面には脱型痕跡部２５１９による凹凸がないため、証紙台座２５１９の前面に貼り付けられている証紙１０１２ｄに、脱型痕跡部２５１９による凹凸や皺が生じることはなく、証紙１０１２ｄによる表示を見え易くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【２３５９】

また、本実施形態によれば、台板の後面の脱型痕跡部２５１９は、前面に証紙１０１２ｄを貼り付けることで隠すことができると共に、周壁部１０１２ｃの脱型痕跡部２５１９は、その後端面に設けられているため、前方からは見え難くなっている。これにより、遊

技者側からは脱型痕跡部２５１９が見え難いため、証紙台座１０１２ｂに脱型痕跡部２５１９が設けられていても見栄えが悪くなることはない。

【２３６０】

更に、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂ（台板）の脱型痕跡部２５１９を証紙１０１２ｄと前後方向が重なる部位に設けているため、証紙１０１２ｄが貼り付けられていないと、台板の脱型痕跡部２５１９が見えるため、証紙１０１２ｄの貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。

【２３６１】

また、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂに、外周縁から後方に突出している周壁部１０１２ｃを設けているため、周壁部１０１２ｃによって証紙台座１０１２ｂの外周縁を補強することができ、証紙台座１０１２ｂの強度・剛性を高めることができる。従って、温度や湿度などの環境変化や経年変化などにより証紙台座１０１２ｂが歪んでしまうことを低減させることができ、証紙１０１２ｄによる表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。

【２３６２】

なお、上記では、証紙１０１２ｄが貼り付けられる証紙台座１０１２ｂを示したが、これに限定するものではなく、装飾シールが貼り付けられるシール台座としても良い。また、上記では、前構成部材１０００ひいては遊技パネル１１００の前方に取付けられる部材として証紙台座１０１２ｂを示したが、これに限定するものではなく、装飾性を有する装飾体としても良い。

【２３６３】

［９－１ｆ．前構成部材の機能表示ユニット取付部に設けられている脱型痕跡部］

続いて、前構成部材１０００の機能表示ユニット取付部１０１１に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１６７などを参照して詳細に説明する。図１６７は前構成部材と機能表示ユニットとを分離させて後ろから見た分解斜視図において機能表示ユニット取付部の部位を機能表示ユニットと共に拡大して示す説明図である。

【２３６４】

機能表示ユニット取付部１０１１は、図１６７に示すように、後方へ開放された箱状の収容凹部１０１１ａと、収容凹部１０１１ａの前壁において貫通している開口部１０１１ｂと、収容凹部１０１１ａの側壁に設けられている係止爪１０１１ｃと、を備えている。収容凹部１０１１ａには、後方から機能表示ユニット１４００が収容される。開口部１０１１ｂは、機能表示ユニット１４００における表示部１４０１ｂが前方へ臨むように設けられている。係止爪１０１１ｃは、収容凹部１０１１ａに機能表示ユニット１４００を収容させると、弾性変形した後に機能表示ユニット１４００の後面に係止される。

【２３６５】

この機能表示ユニット取付部１０１１には、図１６７に示すように、収容凹部１０１１ａの内壁を構成している前壁の後面に脱型痕跡部２５１９が設けられている。この脱型痕跡部２５１９は、機能表示ユニット１４００の接続コネクタ１４０２ｂに対して前後方向が重なる部位に設けられている。これにより、収容凹部１０１１ａに機能表示ユニット１４００を取付ける際に、脱型痕跡部２５１９を目安にすることで機能表示ユニット１４００を正しい向きに取付けることができる。

【２３６６】

また、収容凹部１０１１ａに脱型痕跡部２５１９を設けているため、収容凹部１０１１ａに機能表示ユニット１４００を取付けると、後方からは機能表示ユニット１４００に遮られて脱型痕跡部２５１９が見えなくなる。脱型痕跡部２５１９と機能表示ユニット１４００とが前後方向に重なった状態となるため、前方からは透明な前構成部材１０００を通して脱型痕跡部２５１９が見え辛くなる。このようなことから、脱型痕跡部２５１９の視認性が変化するため、機能表示ユニット１４００が取付けられているか否かを確認することができる。

【２３６７】

更に、収容凹部１０１１ａに機能表示ユニット１４００を取付けると、前方からは収容凹部１０１１ａの脱型痕跡部２５１９が見え辛くなるため、脱型痕跡部２５１９によって見栄えが悪化することはない。

【２３６８】

［９－２．機能表示ユニットに設けられている脱型痕跡部］

続いて、機能表示ユニット１４００に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１６８および図１６９などを参照して説明する。図１６８（ａ）は機能表示ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は機能表示ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１６９は、ＬＥＤ孔の部位に脱型痕跡部が設けられている第一ケースを後ろから見た斜視図である。

【２３６９】

機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通図柄の抽選結果や特別図柄の抽選結果、普通図柄や特別図柄の保留数、などを表示するものである。

【２３７０】

機能表示ユニット１４００は、後方へ開放された前後方向が浅い容器状の第一ケース１４０１と、第一ケース１４０１内に後方から挿入される機能表示基板１４０２と、機能表示基板１４０２を後方から覆うように第一ケース１４０１に取付けられる第二ケース１４０３と、第一ケース１４０１の前面に貼り付けられる機能表示シール１４０４と、を備えている。

【２３７１】

第一ケース１４０１は、上下に長く形成されており、右下隅が円弧状に切欠かれている。第一ケース１４０１は、平板状で外周が四角形の前壁部１４０１ａと、前壁部１４０１ａの下端から下方へ延出していると共に前面が前壁部１４０１ａよりも前方へ突出している表示部１４０１ｂと、表示部１４０１ｂの後面から前壁部１４０１ａの後面よりも後方へ突出しているリフレクタ部１４０１ｃと、リフレクタ部１４０１ｃにおいて前後に貫通している複数のＬＥＤ孔１４０１ｄと、を有している。

【２３７２】

また、第一ケース１４０１は、前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂで構成されている外周縁からリフレクタ部１４０１ｃよりも後方へ延出している周壁部１４０１ｅと、前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂそれぞれの後面から後方へ突出している基板位置決部１４０１ｆと、を有している。

【２３７３】

表示部１４０１ｂは、前壁部１４０１ａに対して左方および下方へ突出していると共に、前壁部１４０１ａとの間で段差が形成されるように前方へ突出している。表示部１４０１ｂは、右下隅が、外レール１００１に沿うように円弧状に切欠かれている。この表示部１４０１ｂは、前面に機能表示シール１４０４が貼り付けられると共に、前構成部材１０００における機能表示ユニット取付部１０１１の開口部１０１１ｂに後方から挿入される。

【２３７４】

リフレクタ部１４０１ｃは、背面視において、外レール１００１の接線方向へ長い四角形に形成されている。複数のＬＥＤ孔１４０１ｄは、リフレクタ部１４０１ｃの長手方向へ三列に列設されている。複数のＬＥＤ孔１４０１ｄは、それぞれ機能表示基板１４０２に設けられている各ＬＥＤと対応するように設けられている。周壁部１４０１ｅは、第一ケース１４０１の全周に亘って設けられている。

【２３７５】

基板位置決部１４０１ｆは、機能表示基板１４０２の前面が当接する平坦な平坦部と、平坦部から後方へ突出している位置決ピンと、を有している。位置決ピンは、機能表示基板１４０２に設けられている位置決孔に挿入される。

【２３７６】

機能表示基板１４０２は、外周形状が第一ケース１４０１の内周に沿った形状である。

機能表示基板１４０２は、前面の下部に設けられている複数のＬＥＤ１４０２ａと、後面の上端付近に設けられている接続コネクタ１４０２ｂと、を有している。

【２３７７】

第二ケース１４０３は、外周形状が第一ケース１４０１の内周に沿った形状で平板状の後壁部１４０３ａと、後壁部１４０３ａの周縁から前方へ短く突出している周壁部１４０３ｂと、周壁部１４０３ｂの前端面から前方へ突出しており機能表示基板１４０２の後面に当接する当接部１４０３ｃと、を有している。

【２３７８】

周壁部１４０３ｂは、後壁部１４０３ａの全周に亘って設けられている。この第二ケース１４０３は、後方から第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅ内に挿入される。従って、機能表示ユニット１４００に組立てた状態では、第二ケース１４０３が第一ケース１４０１の後端よりも後方へ突出していない。

【２３７９】

この機能表示ユニット１４００には、第一ケース１４０１および第二ケース１４０３に、それぞれ複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２３８０】

まず、第一ケース１４０１には、図１６８（ｂ）に示すように、前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂそれぞれの後面と、周壁部１４０１ｅの後端面とに、複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２３８１】

前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂそれぞれの後面に設けられている脱型痕跡部２５１９は、複数のＬＥＤ孔１４０１ｄを避けた部位に設けられている。換言すると、第一ケース１４０１における周壁部１４０１ｅに囲まれた内側の部位には、複数のＬＥＤ孔１４０１ｄを避けて脱型痕跡部２５１９を設けている。つまり、リフレクタ部１４０１ｃには脱型痕跡部２５１９を設けていない。これにより、第一ケース１４０１を射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されてＬＥＤ孔１４０１ｄが変形することはなく、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０２ａからの光を確実に通すことができる。

【２３８２】

また、前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂそれぞれの後面に設けられている脱型痕跡部２５１９は、機能表示基板１４０２を第一ケース１４０１内に挿入した時に、機能表示基板１４０２によって隠れる部位に設けられている。これにより、機能表示ユニット１４００を組立てる際に、後方から機能表示基板１４０２を第一ケース１４０１内に挿入すると、前壁部１４０１ａや表示部１４０１ｂに設けられている脱型痕跡部２５１９が見えなくなるため、機能表示基板１４０２が確実に挿入されているか否かの目視確認を助けることができる。

【２３８３】

更に、第一ケース１４０１における周壁部１４０１ｅの後端面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、遊技盤５に組立てた状態では、第一ケース１４０１の脱型痕跡部２５１９が前方から見えることはなく、見栄えが悪くなることはない。

【２３８４】

次に、第二ケース１４０３には、図１６８（ａ）に示すように、後壁部１４０３ａの前面と、周壁部１４０３ｂの前端面と、にそれぞれ複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２３８５】

第二ケース１４０３の後壁部１４０３ａに設けられている脱型痕跡部２５１９は、機能表示基板１４０２に対して、前後方向が重なる部位に設けられている。これにより、機能表示ユニット１４００を組立てにおいて、例えば、予め第二ケース１４０３の前面側に機能表示基板１４０２をセットすると、後壁部１４０３ａの脱型痕跡部２５１９が機能表示基板１４０２に隠れて見えなくなるため、第二ケース１４０３に対して機能表示基板１４

０２が確実にセットされているか否かの目安になる。
【２３８６】
　また、第二ケース１４０３は、機能表示ユニット１４００に組立てた状態では、第一ケース１４０１の内部に収容されるため、周壁部１４０３ｂの前端面に脱型痕跡部２５１９が設けられていても、前方（遊技者）から見えることはなく、見栄えが悪化することはない。
【２３８７】
　なお、上記の実施形態では、第一ケース１４０１のリフレクタ部１４０１ｃに脱型痕跡部２５１９を設けていない例を示したが、これに限定するものではなく、図１６９に示すように、ＬＥＤ孔１４０１ｄを避けるようにリフレクタ部１４０１ｃの後面に脱型痕跡部２５１９を設けても良い。この場合、ＬＥＤ孔１４０１ｄの後端付近を後方へ向かってテーパ状に広がった形状にしておくと、第一ケース１４０１を射出成形して金型から脱型する際のエジェクタピンなどの押圧による変形を吸収することができる。
【２３８８】
　また、第一ケース１４０１の前壁部１４０１ａにおいて、機能表示基板１４０２の電子部品としての接続コネクタ１４０２ｂに対して前後方向が重なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けても良い。これにより、当該脱型痕跡部２５１９を目安にして機能表示基板１４０２を正しい向きにして組立てることができる。なお、電子部品としては、接続コネクタ１４０２ｂの他に、ＬＥＤドライバー、抵抗器、コンデンサ、などを挙げることができ、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３における電子部品に対して前後方向が重なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けるようにしても良い。
【２３８９】
　更に、上記の実施形態では、機能表示ユニット１４００として、前側に設けられる第一ケース１４０１に機能表示基板１４０２を取付けるものを示したが、これに限定するものではなく、機能表示基板１４０２を後側の第二ケース１４０３に取付けるようにしても良い。この場合も、脱型痕跡部２５１９を上記と同様に設けても良い。
【２３９０】
　また、上記の実施形態では、機能表示ユニット１４００として、第一ケース１４０１内に第二ケース１４０３が収容されるものを示したが、これに限定するものではなく、第二ケース１４０３の外周形状を第一ケース１４０１の外周形状と同じにして、第一ケース１４０１の後側に第二ケース１４０３が取付けられる物としても良い。この場合も、脱型痕跡部２５１９を上記と同様に設けることにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【２３９１】
　また、上記の実施形態では、機能表示ユニット１４００として、第一ケース１４０１が前構成部材１０００とは別体のものを示したが、これに限定するものではなく、前構成部材１０００の機能表示ユニット取付部１０１１を第一ケース１４０１として前構成部材１０００と一体のものとしても良い。この場合、機能表示ユニット取付部１０１１において第一ケース１４０１と同様の脱型痕跡部２５１９を設けても良い。
【２３９２】
　更に、上記の実施形態では、機能表示ユニット１４００として、機能表示基板１４０２の後方を覆う第二ケース１４０３を備えたものを示したが、これに限定するものではなく、第二ケース１４０３を備えていない機能表示ユニット１４００としても良い。
【２３９３】
　ところで、本実施形態では、機能表示ユニット１４００の第一ケース１４０１および第二ケース１４０３が、有色（例えば、黒色、白色、など）の合成樹脂により構成されている。本実施形態では第一ケース１４０１および第二ケース１４０３を黒色にしているため、遊技盤５の前面において機能表示ユニット１４００を目立ち難くすることができ、相対的に機能表示基板１４０２に設けられているＬＥＤ１４０２ａからの光を目立たせることができる。これにより、機能表示ユニット１４００における遊技状態としての特別図柄な

どの発光表示を見え易くすることができる。
【２３９４】
　また、第一ケース１４０１（第二ケース１４０３）を有色にしているため、所定のＬＥＤ孔１４０１ｄと対応している機能表示基板１４０２の所定のＬＥＤ１４０２ａからの光によって、対応していないＬＥＤ孔１４０１ｄが光ってしまうことはなく、誤表示を防止することができる。
【２３９５】
　また、第一ケース１４０１（第二ケース１４０３）を有色にしているため、後方からの光や、機能表示基板１４０２において前方へ反射した光、などによって、ＬＥＤ１４０２ａが発光していないにも関わらず、ＬＥＤ孔１４０１ｄが光って見えてしまうことを回避させることができ、機能表示ユニット１４００における発光表示の誤認を低減させることができる。
【２３９６】
　また、本実施形態では、第一ケース１４０１および第二ケース１４０３において、遊技者側（前方）から見えない部位に特定痕跡部１４０５を設けている（図１６８を参照）。特定痕跡部１４０５は、文字や記号などの刻印である。本実施形態では、特定痕跡部１４０５により、機能表示ユニット１４００の型番や、第一ケース１４０１および第二ケース１４０３の材質などが表記されている。また、本実施形態では、特定痕跡部１４０５が、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３における後方を向いている面に設けられている。これらのことから、特定痕跡部１４０５が遊技者側からは見えないため、特定痕跡部１４０５が設けられていても見栄えが悪くなることはない。また、特定痕跡部１４０５により、遊技盤５の組立ての際に、第一ケース１４０１と第二ケース１４０３との組合せを確認することができると共に、第一ケース１４０１と第二ケース１４０３との向きを合わせることができる。
【２３９７】
　また、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３に設けられている特定痕跡部１４０５によって、機能表示ユニット１４００（第一ケース１４０１、第二ケース１４０３）を区別したり、正規品であるか否かを判別したりすることが可能となる。
【２３９８】
　更に、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３に設けられている特定痕跡部１４０５を見ることで、リサイクルする際の材料の分別が容易になる。
【２３９９】
　また、特定痕跡部１４０５は、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３において、機能表示基板１４０２における電子部品としての接続コネクタ１４０２ｂに近い部位に設けている。これにより、特定痕跡部１４０５を目安にすることで、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３に対して機能表示基板１４０２を正しい向きにすることが可能である。
【２４００】
　なお、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３に設けられている特定痕跡部１４０５を、脱型痕跡部２５１９としても良い。
【２４０１】
　更に、本実施形態では、第一ケース１４０１に基板位置決部１４０１ｆを設けていると共に、第二ケース１４０３に当接部１４０３ｃを設けているため、機能表示ユニット１４００に組立てた状態では、第一ケース１４０１の前壁部１４０１ａおよび表示部１４０１ｂそれぞれの後面と、機能表示基板１４０２の前面との間に隙間が形成されている。また、第二ケース１４０３の後壁部１４０３ａの前面と、機能表示基板１４０２の後面との間にも隙間が形成されている。これら隙間により、ＬＥＤ１４０２ａなどの電子部品からの熱を逃がし易くすることができる。
【２４０２】
　また、本実施形態では、第二ケース１４０３に、機能表示基板１４０２の接続コネクタ１４０２ｂが通る開口部１４０３ｄを有している。この機能表示ユニット１４００では、

接続コネクタ１４０２ｂが機能表示基板１４０２の上端付近に設けられている。従って、第二ケース１４０３の開口部１４０３ｄも、後壁部１４０３ａの上端付近に設けられている。これにより、機能表示基板１４０２におけるＬＥＤ１４０２ａなどの電子部品からの熱を、第二ケース１４０３の開口部１４０３ｄから外部へ逃がすことができる。

【２４０３】

更に、本実施形態では、機能表示基板１４０２の表面が第一ケース１４０１や第二ケース１４０３とは異なる色に着色されている。具体的には、機能表示基板１４０２の表面に、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３などの黒色とは異なる白色に着色されている。機能表示基板１４０２の表面の色（白色）は、ソルダレジストによるものである。これにより、機能表示基板１４０２の色が、第一ケース１４０１や第二ケース１４０３の色と異なっているため、機能表示ユニット１４００を組立てる際に、機能表示基板１４０２の組み忘れに気付き易くすることができる。

【２４０４】

また、機能表示基板１４０２の表面を白色に着色しているため、ＬＥＤ１４０２ａからの光を反射させ易くすることができ、より明るく発光表示させることが可能となる。

【２４０５】

また、本実施形態では、機能表示ユニット１４００を、遊技領域５ａの外側で遊技盤５の左上隅に設けている。また、機能表示ユニット１４００では、遊技領域５ａに近い下端付近に複数のＬＥＤ１４０２ａ（発光表示部）を設けていると共に、遊技領域５ａから遠い上端付近に接続コネクタ１４０２ｂを設けている。換言すると、遊技領域５ａと接続コネクタ１４０２ｂとの間に複数のＬＥＤ１４０２ａを設けている。これにより、特別図柄のような遊技状態を表示する機能表示部（複数のＬＥＤ１４０２ａ）を、遊技領域５ａの近くに設けているため、遊技状態の表示を見え易くすることができる。なお、機能表示ユニット１４００を設ける位置を、遊技盤５の左下隅、右上隅、右下隅、などとしても良い。

【２４０６】

更に、本実施形態では、機能表示ユニット１４００を、払出装置５８０よりも上方となる遊技盤５の左上隅に設けている、つまり、払出装置５８０の近辺を避けて設けている。これにより、払出装置５８０の近辺は静電気の発生により、電気的に過酷であるが、払出装置５８０の近辺を避けて機能表示ユニット１４００を設けているため、機能表示ユニット１４００において、静電気対策を簡略化することができ、コストダウンを図ることができる。なお、機能表示ユニット１４００が払出装置５８０から離れていれば良く、機能表示ユニット１４００を設ける位置を、遊技盤５の左下隅、右上隅、右下隅、などとしても良い。

【２４０７】

また、機能表示ユニット１４００は、第一ケース１４０１、機能表示基板１４０２および第二ケース１４０３が前後に並んでいることから、前後方向の遮音性が高くなっている。これにより、大当り遊技中などにおいて実行される演出のサウンドに対して、後方に設けられている可動演出ユニットの作動音（モータ音）などのような演出サウンドとは異なるノイズを、機能表示ユニット１４００により遮音して低減させることが可能となり、大当り演出などでの演出サウンドをより楽しませることができる。

【２４０８】

［９－３．導光板ユニットに設けられている脱型痕跡部］

［９－３ａ．第一導光板ユニットに設けられている脱型痕跡部］

続いて、導光板ユニットとしての第一導光板ユニット３５００に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１７０～図１７５などを参照して説明する。図１７０（ａ）は遊技盤の裏ユニットにおける第一導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットにおける第一導光板ユニットを後ろから見た斜視図である。図１７１は第一導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１７２は第一導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１７３は、第一導光板ユニットにおける導光板と各ＬＥＤ基板との関係を正面から示す説明図である。図１７４（ａ）は導光板

に第一絵柄が表示されている状態を示す説明図であり、（ｂ）は導光板に第二絵柄が表示されている状態を示す説明図である。図１７５（ａ）は導光板の脱型痕跡部と導光板ホルダとの関係を正面から示す説明図であり、（ｂ）は導光板と導光板ホルダとの関係を拡大して断面で示す説明図である。

【２４０９】

第一導光板ユニット３５００は、透明平板状の導光板３５１０と、導光板３５１０の左方に設けられている左ＬＥＤ基板３５２１と、導光板３５１０の右方に設けられている右ＬＥＤ基板３５２２と、導光板３５１０の上方に設けられている上ＬＥＤ基板３５２３と、導光板３５１０の下方に設けられている下ＬＥＤ基板３５２４と、導光板３５１０と左ＬＥＤ基板３５２１との間に設けられている左集光レンズ３５３１と、導光板３５１０と右ＬＥＤ基板３５２２との間に設けられている右集光レンズ３５３２と、を備えている。

【２４１０】

また、第一導光板ユニット３５００は、導光板３５１０の周縁を保持する枠状の導光板ホルダ３５４０を、備えている。この導光板ホルダ３５４０は、導光板３５１０に加えて、左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、左集光レンズ３５３１、右集光レンズ３５３２、も保持する。

【２４１１】

導光板３５１０は、外形が略四角形に形成されている。導光板３５１０の周面は、左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、などのＬＥＤ基板と対面している特定側面部３５１１と、ＬＥＤ基板とは対面していない一般側面部３５１２と、で構成されている。

【２４１２】

導光板３５１０の特定側面部３５１１は、左ＬＥＤ基板３５２１と対面する左特定側面部３５１１ａと、右ＬＥＤ基板３５２２と対面する右特定側面部３５１１ｂと、上ＬＥＤ基板３５２３と対面する上特定側面部３５１１ｃと、下ＬＥＤ基板３５２４と対面する下特定側面部３５１１ｄと、を有している。

【２４１３】

この導光板３５１０には、図１７４に示すような第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２を発光表示させるための無数の微細な凹部が後面に設けられている。第一絵柄３５０１を発光表示させるための凹部は、左特定側面部３５１１ａや右特定側面部３５１１ｂから導光板３５１０内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、上特定側面部３５１１ｃや下特定側面部３５１１ｄから導光板３５１０内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。

【２４１４】

一方、第二絵柄３５０２を発光表示させるための凹部は、上特定側面部３５１１ｃや下特定側面部３５１１ｄから導光板３５１０内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、左特定側面部３５１１ａや右特定側面部３５１１ｂから導光板３５１０内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。

【２４１５】

従って、導光板３５１０に対して左右方向から光を入射させると第一絵柄３５０１を発光表示させることができ、上下方向から光を入射させると第二絵柄３５０２を発光表示させることができる。これにより、一枚の導光板３５１０で異なる絵柄を発光表示させることができるため、多彩な演出を遊技者に提示することができる。

【２４１６】

左ＬＥＤ基板３５２１は、左特定側面部３５１１ａに沿って設けられている。左ＬＥＤ基板３５２１は、左特定側面部３５１１ａの長さよりも短い。この左ＬＥＤ基板３５２１は、右方を向いている面に複数のＬＥＤ３５２１ａが設けられている。

【２４１７】

右ＬＥＤ基板３５２２は、右特定側面部３５１１ｂに沿って設けられている。右ＬＥＤ基板３５２２は、右特定側面部３５１１ｂの長さよりも長い。この右ＬＥＤ基板３５２２

は、左方を向いている面における右特定側面部３５１１ｂと対面している部位に複数のＬＥＤ３５２２ａが設けられている。

【２４１８】

上ＬＥＤ基板３５２３は、上特定側面部３５１１ｃに沿って設けられている。上ＬＥＤ基板３５２３は、上特定側面部３５１１ｃの長さよりも長い。この上ＬＥＤ基板３５２３は、下方を向いている面における上特定側面部３５１１ｃと対面している部位に複数のＬＥＤ３５２３ａが設けられている。

【２４１９】

下ＬＥＤ基板３５２４は、下特定側面部３５１１ｄに沿って設けられている。下ＬＥＤ基板３５２４は、下特定側面部３５１１ｄの長さよりも短い。この下ＬＥＤ基板３５２４は、上方を向いている面に複数のＬＥＤ３５２４ａが設けられている。

【２４２０】

左集光レンズ３５３１は、左ＬＥＤ基板３５２１に沿って上下に長く帯板状に形成されている。左集光レンズ３５３１は、長手方向へ列設されており右方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部３５３１ａと、長手方向へ離隔しており左方へ向かって突出している複数の脚部３５３１ｂと、を有している。複数のレンズ部３５３１ａは、左ＬＥＤ基板３５２１の各ＬＥＤ３５２１ａと対応する部位に設けられている。このレンズ部３５３１ａにより、ＬＥＤ３５２１ａから放射された光を水平方向へ屈折させて、左特定側面部３５１１ａから導光板３５１０内へ入射させることができる。複数の脚部３５３１ｂは、左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａと対応していない部位に設けられている。脚部３５３１ｂの先端を、左ＬＥＤ基板３５２１の右面に当接させることにより、ＬＥＤ３５２１ａとレンズ部３５３１ａとの距離を所望の距離にしてレンズ部３５３１ａによるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４２１】

右集光レンズ３５３２は、右ＬＥＤ基板３５２２に沿って上下に長く帯板状に形成されている。右集光レンズ３５３２は、長手方向へ列設されており左方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部３５３２ａと、長手方向へ離隔しており右方へ向かって突出している複数の脚部３５３２ｂと、を有している。複数のレンズ部３５３２ａは、右ＬＥＤ基板３５２２の各ＬＥＤ３５２２ａと対応する部位に設けられている。このレンズ部３５３２ａにより、ＬＥＤ３５２２ａから放射された光を水平方向へ屈折させて、右特定側面部３５１１ｂから導光板３５１０内へ入射させることができる。複数の脚部３５３２ｂは、右ＬＥＤ基板３５２２のＬＥＤ３５２２ａと対応していない部位に設けられている。脚部３５３２ｂの先端を、右ＬＥＤ基板３５２２の左面に当接させることにより、ＬＥＤ３５２２ａとレンズ部３５３２ａとの距離を所望の距離にしてレンズ部３５３２ａによるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４２２】

導光板ホルダ３５４０は、導光板３５１０の周囲を囲むように四角い枠状に形成されている。導光板ホルダ３５４０は、導光板３５１０の前側に設けられている第一ホルダ部３５４１と、導光板３５１０の後側に設けられている第二ホルダ部３５４２と、を有している。また、導光板ホルダ３５４０は、第一ホルダ部３５４１の前面に取付けられている導光板装飾体３５４３と、導光板装飾体３５４３と第一ホルダ部３５４１との間に設けられている装飾体装飾基板（図示は省略）と、を有している。

【２４２３】

導光板ホルダ３５４０の第一ホルダ部３５４１と第二ホルダ部３５４２との間に、導光板３５１０、左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、左集光レンズ３５３１、右集光レンズ３５３２、が挟まれている（図１７５（ｂ）を参照）。

【２４２４】

本実施形態の第一導光板ユニット３５００は、左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａと右ＬＥＤ基板３５２２のＬＥＤ３５２２ａとを発光させると、導光板３５１０におい

て第一絵柄３５０１を発光表示させることができる（図１７４（ａ）を参照）。この第一絵柄３５０１は、所定のキャラクタの目の部分を拡大した比較的複雑な絵柄である。

【２４２５】

一方、上ＬＥＤ基板３５２３のＬＥＤ３５２３ａと下ＬＥＤ基板３５２４のＬＥＤ３５２４ａとを発光させると、導光板３５１０において第一絵柄３５０１とは異なる第二絵柄３５０２を発光表示させることができる（図１７４（ｂ）を参照）。この第二絵柄３５０２は、「ＣＨＡＮＣＥ！」の文字のみからなる比較的単純な絵柄である。

【２４２６】

本実施形態の第一導光板ユニット３５００においても複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。第一導光板ユニット３５００では、導光板３５１０、導光板ホルダ３５４０の第一ホルダ部３５４１および第二ホルダ部３５４２などに、それぞれ複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。

【２４２７】

導光板３５１０の脱型痕跡部２５１９は、その前面における周縁部に設けられており、且つ、第一ホルダ部３５４１と第二ホルダ部３５４２とで前後に挟まれている部位に設けられている（図１７５を参照）。これにより、導光板３５１０の脱型痕跡部２５１９は、導光板ホルダ３５４０（第一ホルダ部３５４１）により前方が覆われているため、遊技者からは見えることはなく、脱型痕跡部２５１９により見栄えが悪化することはない。また、第一導光板ユニット３５００を組立てる際に、導光板３５１０の脱型痕跡部２５１９が見えるか否かによって、導光板３５１０が導光板ホルダ３５４０に確実に保持されていることを確認することができる。

【２４２８】

また、導光板３５１０の前面側に脱型痕跡部２５１９を設けているため、第一導光板ユニット３５００を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９を目安にして導光板３５１０の前後（表裏）の向きを確認することができる。

【２４２９】

また、導光板３５１０の脱型痕跡部２５１９は、導光板３５１０における一般側面部３５１２、左特定側面部３５１１ａ、右特定側面部３５１１ｂ、下特定側面部３５１１ｄ、と接している周縁（端辺）の前面側に、それぞれ設けられており、上特定側面部３５１１ｃと接している端辺の前面側には設けられていない。

【２４３０】

更に、導光板３５１０では、その周縁に満遍なく脱型痕跡部２５１９を設けていながら、特定側面部３５１１と接している端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の総数（八個）が、一般側面部３５１２と接している端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の総数（十一個）よりも少ない。これにより、導光板３５１０を成形型（金型）から脱型する際に、歪みのない良好な状態で脱型することができつつ、脱型痕跡部２５１９による第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２の発光表示に対する影響を抑制することができ、導光板３５１０による所望の演出効果を充分に発揮させることができる。

【２４３１】

特定側面部３５１１にかかる脱型痕跡部２５１９について詳述すると、左特定側面部３５１１ａにかかる脱型痕跡部２５１９のうち左ＬＥＤ基板３５２１（左集光レンズ３５３１）と対面している部位の端辺には、三つの脱型痕跡部２５１９が設けられている。右特定側面部３５１１ｂにかかる脱型痕跡部２５１９のうち右ＬＥＤ基板３５２２（右集光レンズ３５３２）と対面している部位の端辺には、一つの脱型痕跡部２５１９が設けられている。下特定側面部３５１１ｄにかかる脱型痕跡部２５１９のうち下ＬＥＤ基板３５２４と対面している部位の端辺には、四つの脱型痕跡部２５１９が設けられている。つまり、第一絵柄３５０１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を四つ、第二絵柄３５０２にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を四つ、として同じ数にしている。これにより、脱型痕跡部２５１９による導光の影響を同じようにして、第一絵柄３５０１と第二絵柄３５０２を同じような明るさで発光表示させることが可能である。

【２４３２】
第一ホルダ部３５４１および第二ホルダ部３５４２の脱型痕跡部２５１９は、それぞれにおいて導光板３５１０と対向する側の面に設けられている。これにより、第一導光板ユニット３５００に組立てた状態では、第一ホルダ部３５４１の脱型痕跡部２５１９や第二ホルダ部３５４２の脱型痕跡部２５１９が外部から見えることはない。
【２４３３】
なお、上記の実施形態では、導光板ホルダ３５４０として、第一ホルダ部３５４１と第二ホルダ部３５４２との二つで導光板３５１０を挟むものを示したが、これに限定するものではなく、導光板３５１０の端辺が挿入される溝を有した導光板ホルダとしても良い。
【２４３４】
また、上記の実施形態では、特定側面部３５１１の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を、一般側面部３５１２の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも少ないものを示したが、これに限定するものではなく、特定側面部３５１１の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を、一般側面部３５１２の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも多くしても良い。これにより、導光板３５１０において光が入射する特定側面部３５１１の端辺に多くの脱型痕跡部２５１９を設けているため、導光板３５１０を成形型から脱型する際に、特定側面部３５１１の部位が歪み難くなり、特定側面部３５１１において光を良好に入射させることが可能な導光板３５１０とすることができる。
【２４３５】
［９－３ａ－１．導光板に設けられている脱型痕跡部の別例１］
次に、導光板３５１０において上記とは異なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けた別例１について、図１７６を参照して説明する。図１７６は、図１７５とは異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板を正面から示す説明図である。この実施形態では、導光板３５１０の端辺のうち、一般側面部３５１２と接している端辺の部位にのみ脱型痕跡部２５１９を設けており、特定側面部３５１１と接している端辺の部位には脱型痕跡部２５１９を設けていない。
【２４３６】
ところで、導光板３５１０において、光が入射する特定側面部３５１１の端辺と接する部位に脱型痕跡部２５１９を設けると、その脱型痕跡部２５１９により特定側面部３５１１の幅（厚さ）が部分的に変化することで入射される光の量が減少してしまったり、脱型痕跡部２５１９により入射された光が早々に乱反射してしまったりして、第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２の発光表示おいて、明るさのムラが発生して所望の演出効果が得られなくなる恐れがある。
【２４３７】
これに対して、本実施形態では、光が入射する特定側面部３５１１にかかる端辺に脱型痕跡部２５１９を設けていないため、導光板３５１０に対して特定側面部３５１１から光を良好な状態で入射させることができる。従って、発光表示させた第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２において明るさのムラの発生を抑制させることができ、第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２による所望の演出効果を発揮させることができる。
【２４３８】
また、導光板３５１０において、特定側面部３５１１にかかる端辺には脱型痕跡部２５１９を設けていないため、第一導光板ユニット３５００を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９を目安にして導光板３５１０の向きを確認することができる。
【２４３９】
また、本実施形態によれば、光が入射する特定側面部３５１１にかかる端辺には脱型痕跡部２５１９を設けていない、つまり、ＬＥＤ３５２１ａなどから遠い一般側面部３５１２に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９において光が乱反射してもその反射した光が弱くなり、第一絵柄３５０１を発光表示させるＬＥＤ３５２１ａからの光による他の絵柄（例えば、第二絵柄３５０２）の発光を抑制させることができる。こ

れにより、異なる絵柄を発光表示可能な導光板３５１０において、発光表示させたい所望の絵柄に、他の絵柄が重なって発光表示されてしまうことを低減させることができ、所望の絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。

【２４４０】

［９－３ａ－２．導光板に設けられている脱型痕跡部の別例２］

次に、導光板３５１０において上記とは異なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けた別例２について、図１７７を参照して説明する。図１７７は、図１７５などとは更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板を正面から示す説明図である。この実施形態では、導光板３５１０の端辺において、特定側面部３５１１と接している端辺の部位と、一般側面部３５１２と接している端辺の部位との両方に脱型痕跡部２５１９を設けている。

【２４４１】

本実施形態では、特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９が、拡大して示すように、ＬＥＤ（例えば、ＬＥＤ３５２１ａ）の光軸（正面）を避けるようにして設けられている。これにより、特定側面部３５１１にかかる端辺に脱型痕跡部２５１９が設けられていても、発光表示される第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２への影響を低減させることができる。

【２４４２】

また、本実施形態では、特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の間隔（ピッチ）と、一般側面部３５１２にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の間隔（ピッチＰ３）とが、異なっている。更には、特定側面部３５１１に設けられている脱型痕跡部２５１９において、第一絵柄３５０１を発光表示させるための特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の間隔（ピッチＰ１）と、第二絵柄３５０２を発光表示させるための特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の間隔（ピッチＰ２）とが、異なっている。

【２４４３】

具体的には、各ピッチＰ１，Ｐ２，Ｐ３の関係を、

Ｐ１＞Ｐ２＞Ｐ３

としている。

【２４４４】

これにより、一般側面部３５１２にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも、特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数の方が少なくなるため、発光表示される第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２への脱型痕跡部による影響を低減させることができる。

【２４４５】

また、第一絵柄３５０１を発光表示させるための特定側面部３５１１（左特定側面部３５１１ａ）にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９のピッチＰ１を、第二絵柄３５０２を発光表示させるための特定側面部３５１１（下特定側面部３５１１ｄ）にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９のピッチＰ２よりも大きくしている。換言すると、第一絵柄３５０１に対応する左特定側面部３５１１ａにかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を、第二絵柄３５０２に対応する下特定側面部３５１１ｄにかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも少なくしている。つまり、導光板３５１０において発光表示させる絵柄の演出上の重要度に応じて、当該絵柄と対応する特定側面部３５１１にかかる端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数（ピッチ）を異ならせている。これにより、重要度の高い絵柄（ここでは第一絵柄３５０１）では、脱型痕跡部２５１９による影響を少なくして良好な状態で発光表示させることができ、絵柄による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２４４６】

また、本実施形態では、導光板３５１０において発光表示される絵柄の複雑さに応じて、脱型痕跡部２５１９の数（ピッチ）を異ならせている。つまり、絵柄が複雑な第一絵柄３５０１と、絵柄が単純な第二絵柄３５０２とでは、第一絵柄３５０１に対応する特定側

面部３５１１にかかる脱型痕跡部２５１９の数を、第二絵柄３５０２と対応する特定側面部３５１１にかかる脱型痕跡部２５１９の数よりも少なくしている。これにより、第一絵柄３５０１のような複雑な絵柄では、脱型痕跡部２５１９の数を少なくすることで、脱型痕跡部２５１９による影響を少なくすることができ、複雑な絵柄を明瞭に発光表示させることで所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２４４７】

［９－３ａ－３．導光板に設けられている脱型痕跡部の別例３］

次に、導光板３５１０において上記とは更に異なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けた別例３について、図１７８を参照して説明する。図１７８は、更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板の一部を正面から示す説明図である。この実施形態では、拡大して示すように、特定側面部３５１１（ここでは左特定側面部３５１１ａ）にかかる端面に設けられている脱型痕跡部２５１９を、ＬＥＤ（ＬＥＤ３５２１ａ）の正面、つまり、光軸と前後方向が重なる部位、に設けているものである。

【２４４８】

本実施形態によれば、導光板３５１０における少なくとも一部の脱型痕跡部２５１９を左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａと対応するように設けているため、第一導光板ユニット３５００を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９と左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａとを目安にすることで、導光板３５１０と左ＬＥＤ基板３５２１との位置関係を確認することができる。

【２４４９】

なお、上記では、左特定側面部３５１１ａの脱型痕跡部２５１９と左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａとを示したが、これに限定するものではなく、右特定側面部３５１１ｂの脱型痕跡部２５１９と右ＬＥＤ基板３５２２のＬＥＤ３５２２ａとしても良いし、上特定側面部３５１１ｃの脱型痕跡部２５１９と上ＬＥＤ基板３５２３のＬＥＤ３５２３ａとしても良いし、下特定側面部３５１１ｄの脱型痕跡部２５１９と下ＬＥＤ基板３５２４のＬＥＤ３５２４ａとしても良い。

【２４５０】

［９－３ａ－４．導光板に設けられている脱型痕跡部の別例４］

次に、導光板３５１０において上記とは更に異なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けた別例４について、図１７９を参照して説明する。図１７９は、更に異なる部位に脱型痕跡部を設けた導光板の一部を正面から示す説明図である。この実施形態では、拡大して示すように、集光レンズ（ここでは左集光レンズ３５３１）における脚部３５３１ｂの延長線上に脱型痕跡部２５１９を設けているものである。

【２４５１】

本実施形態によれば、導光板３５１０における少なくとも一部の脱型痕跡部２５１９を、左集光レンズ３５３１の脚部３５３１ｂと対応するように設けているため、第一導光板ユニット３５００を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９と左集光レンズ３５３１の脚部３５３１ｂとを目安にすることで、導光板３５１０と左集光レンズ３５３１との位置関係を確認することができる。

【２４５２】

また、左集光レンズ３５３１における脚部３５３１ｂの延長線上に脱型痕跡部２５１９を設けているため、当該脱型痕跡部２５１９が左ＬＥＤ基板３５２１のＬＥＤ３５２１ａの正面に位置することはない。従って、当該脱型痕跡部２５１９が第一絵柄３５０１の発光表示に影響を与えることない。

【２４５３】

なお、上記では、左特定側面部３５１１ａの脱型痕跡部２５１９と左集光レンズ３５３１とを示したが、これに限定するものではなく、右特定側面部３５１１ｂの脱型痕跡部２５１９と右集光レンズ３５３２としても良い。

【２４５４】

［９－３ｂ．第二導光板ユニットに設けられている脱型痕跡部］

続いて、遊技盤５の裏ユニット３０００における第二導光板ユニット３６００に設けられている脱型痕跡部２５１９について、図１８０～図１９１を参照して説明する。図１８０（ａ）は遊技盤の裏ユニットにおける第二導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤の裏ユニットにおける第二導光板ユニットを後ろから見た斜視図である。図１８１は第二導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１８２は第二導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１８３（ａ）は第二導光板ユニットの前左可動導光板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二導光板ユニットの前左可動導光板ユニットを後ろから見た斜視図である。図１８４は前左可動導光板ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１８５は前左可動導光板ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【２４５５】

また、図１８６は、前左可動導光板ユニットにおける前左導光板とＬＥＤ基板との関係を正面から示す説明図である。図１８７（ａ）は前左導光板に前左第一絵柄が表示されている状態を示す説明図であり、（ｂ）は前左導光板に前左第二絵柄が表示されている状態を示す説明図である。図１８８は、図１８６において前左導光板に脱型痕跡部を記した説明図である。図１８９は全開位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図であり、図１９０は半閉位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図であり、図１９１は全閉位置の状態で示す第二導光板ユニットの正面図である。

【２４５６】

第二導光板ユニット３６００は、図示は省略するが、裏ユニット３０００における裏箱３０１０内において、第一導光板ユニット３５００の後方に設けられている。本実施形態の第二導光板ユニット３６００は、前左可動導光板ユニット３６１０と、前左可動導光板ユニット３６１０の右方に設けられている前右可動導光板ユニット３６２０と、前左可動導光板ユニット３６１０よりも後方に設けられている後左可動導光板ユニット３６３０と、後左可動導光板ユニット３６３０の右方に設けられている後右可動導光板ユニット３６４０と、を備えている。

【２４５７】

また、第二導光板ユニット３６００は、正面視が四角形の枠状に形成されており前左可動導光板ユニット３６１０および前右可動導光板ユニット３６２０を左右方向へスライドさせるための前駆動ユニット３６５０と、前駆動ユニット３６５０の上辺後側に取付けられており後左可動導光板ユニット３６３０および後右可動導光板ユニット３６４０を左右方向へスライドさせるための後駆動ユニット３６７０と、前駆動ユニット３６５０の下辺後側に取付けられており前駆動ユニット３６５０と協働して前左可動導光板ユニット３６１０および前右可動導光板ユニット３６２０それぞれの下端を左右方向へスライド可能に支持している下レール中３６９０と、下レール中３６９０の後側に取付けられており下レール中３６９０と協働して後左可動導光板ユニット３６３０および後右可動導光板ユニット３６４０それぞれの下端を左右方向へスライド可能に支持している下レール後３６９１と、を備えている。

【２４５８】

第二導光板ユニット３６００の前左可動導光板ユニット３６１０は、図１８３～図１８５に示すように、平板状の前左導光板３６１１と、前左導光板３６１１の左辺に沿うように設けられている前左第一ＬＥＤ基板３６１２と、前左導光板３６１１の下辺に沿うように設けられている前左第二ＬＥＤ基板３６１３と、前左導光板３６１１と前左第一ＬＥＤ基板３６１２との間に設けられている前左集光レンズ３６１４と、前左導光板３６１１を前後から挟むように保持する枠状の前左導光板ホルダ３６１５と、を備えている。この前左可動導光板ユニット３６１０では、前左導光板３６１１の右辺が前左導光板ホルダ３６１５により保持されておらず、外部に露出している。

【２４５９】

前左導光板３６１１は、外形が正面視において上下に長い略四角形に形成されている。前左導光板３６１１の周面は、前左第一ＬＥＤ基板３６１２と対面している前左第一特定

側面部３６１１ａと、前左第二ＬＥＤ基板３６１３と対面している前左第二特定側面部３６１１ｂと、ＬＥＤ基板とは対面していない前左一般側面部３６１１ｃと、を有している。詳述すると、前左第一特定側面部３６１１ａは前左導光板３６１１の左側面に設けられており、前左第二特定側面部３６１１ｂは前左導光板３６１１の下側面（下面）に設けられている。また、前左一般側面部３６１１ｃは、前左導光板３６１１の右側面と上側面（上面）を構成している。

【２４６０】

この前左導光板３６１１には、図１８７に示すような前左第一絵柄３６１０ａや前左第二絵柄３６１０ｂを発光表示させるための無数の微細な凹部が後面に設けられている。前左第一絵柄３６１０ａを発光表示させるための凹部は、左側面である前左第一特定側面部３６１１ａから前左導光板３６１１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、下側面や上側面から前左導光板３６１１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。前左第二絵柄３６１０ｂを発光表示させるための凹部は、下側面である前左第二特定側面部３６１１ｂから前左導光板３６１１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、左側面や右側面から前左導光板３６１１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。これにより、一枚の前左導光板３６１１で異なる絵柄を発光表示させることができるため、多彩な演出を遊技者に提示することができる。

【２４６１】

前左第一ＬＥＤ基板３６１２は、前左第一特定側面部３６１１ａに沿って設けられている。前左第一ＬＥＤ基板３６１２は、前左導光板３６１１の上下の長さよりも長い。この前左第一ＬＥＤ基板３６１２における右方を向いている面のうち、前左第一特定側面部３６１１ａと対面している部位に複数のＬＥＤ３６１２ａが上下に列設されている。

【２４６２】

前左第二ＬＥＤ基板３６１３は、前左第二特定側面部３６１１ｂに沿って設けられている。前左第二ＬＥＤ基板３６１３は、前左第二特定側面部３６１１ｂの長さと同じである。この前左第二ＬＥＤ基板３６１３における上方を向いている面に複数のＬＥＤ３６１３ａが左右に列設されている。

【２４６３】

前左集光レンズ３６１４は、前左導光板３６１１（前左第一特定側面部３６１１ａ）と前左第一ＬＥＤ基板３６１２との間に設けられており、上下に長い帯板状に形成されている。前左集光レンズ３６１４は、長手方向へ列設されており右方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部３６１４ａと、長手方向へ離隔しており左方へ向かって突出している複数の脚部３６１４ｂと、を有している。複数のレンズ部３６１４ａは、前左第一ＬＥＤ基板３６１２の各ＬＥＤ３６１２ａと対応する部位に設けられている。このレンズ部３６１４ａにより、ＬＥＤ３６１２ａから放射された光を水平方向へ屈折させて、前左第一特定側面部３６１１ａから前左導光板３６１１内へ入射させることができる。複数の脚部３６１４ｂは、前左第一ＬＥＤ基板３６１２のＬＥＤ３６１２ａと対応していない部位に設けられている。脚部３６１４ｂの先端を、前左第一ＬＥＤ基板３６１２の右面に当接させることにより、ＬＥＤ３６１２ａとレンズ部３６１４ａとの距離を所望の距離にしてレンズ部３６１４ａによるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４６４】

前左導光板ホルダ３６１５は、前左導光板３６１１の左側と上下両側とを囲むように右方へ開放された上下に長いコ字状に形成されている。前左導光板ホルダ３６１５は、前左導光板３６１１の前側に設けられている第一ホルダ部３６１５ａと、前左導光板３６１１の後側に設けられている第二ホルダ部３６１５ｂと、を有している。

【２４６５】

前左導光板ホルダ３６１５の第一ホルダ部３６１５ａと第二ホルダ部３６１５ｂとの間に、前左導光板３６１１、前左第一ＬＥＤ基板３６１２、前左第二ＬＥＤ基板３６１３、前左集光レンズ３６１４、が挟まれている（図１７５（ｂ）を参照）。

【２４６６】
　また、前左導光板ホルダ３６１５は、上端付近に設けられているスライダ３６１６と、上端から上方へ突出しているベルト取付部３６１７と、下端から下方へ突出するように設けられている一対のローラ３６１８と、を備えている。スライダ３６１６は、前駆動ユニット３６５０の上レール前３６５４に対してスライド可能に取付けられる。ベルト取付部３６１７は、前駆動ユニット３６５０の前左用ベルトに取付けられる。一対のローラ３６１８は、回転軸を上下方向へ向けた状態で左右に離隔して設けられている。一対のローラ３６１８は、前駆動ユニット３６５０の下レール前３６５２と下レール中３６９０との間で左右方向へ転動可能に支持される。
【２４６７】
　この前左可動導光板ユニット３６１０では、前左第一ＬＥＤ基板３６１２のＬＥＤ３６１２ａを発光させると、前左導光板３６１１において前左第一絵柄３６１０ａを発光表示させることができる（図１８７（ａ）を参照）。一方、前左第二ＬＥＤ基板３６１３のＬＥＤ３６１３ａを発光させると、前左導光板３６１１において前左第一絵柄３６１０ａとは異なる前左第二絵柄３６１０ｂを発光表示させることができる（図１８７（ｂ）を参照）。
【２４６８】
　続いて、第二導光板ユニット３６００の前右可動導光板ユニット３６２０について、図１８１および図１８２などを参照して説明する。この前右可動導光板ユニット３６２０は、前左可動導光板ユニット３６１０を左右反転させたような構成であり、単品図や分解図のような詳細な図示は省略して説明する。
【２４６９】
　前右可動導光板ユニット３６２０は、平板状の前右導光板３６２１と、前右導光板３６２１の右辺に沿うように設けられている前右第一ＬＥＤ基板（図示は省略）と、前右導光板３６２１の下辺に沿うように設けられている前右第二ＬＥＤ基板（図示は省略）と、前右導光板３６２１と前右第一ＬＥＤ基板との間に設けられている前右集光レンズ（図示は省略）と、前右導光板３６２１を前後から挟むように保持する枠状の前右導光板ホルダ３６２５と、を備えている。この前右可動導光板ユニット３６２０では、前右導光板３６２１の左辺が前右導光板ホルダ３６２５により保持されておらず、外部に露出している。
【２４７０】
　前右導光板３６２１は、外形が正面視において上下に長い略四角形に形成されている。前右導光板３６２１の周面は、前右第一ＬＥＤ基板と対面している前右第一特定側面部（図示は省略）と、前右第二ＬＥＤ基板と対面している前右第二特定側面部（図示は省略）と、ＬＥＤ基板とは対面していない前右一般側面部３６２１ｃと、を有している。詳述すると、前右第一特定側面部は前右導光板３６２１の右側面に設けられており、前右第二特定側面部は前右導光板３６２１の下側面（下面）に設けられている。また、前右一般側面部３６２１ｃは、前右導光板３６２１の左側面と上側面（上面）を構成している。
【２４７１】
　この前右導光板３６２１には、図示は省略するが、前右第一絵柄や前右第二絵柄を発光表示させるための無数の微細な凹部が後面に設けられている。前右第一絵柄を発光表示させるための凹部は、右側面である前右第一特定側面部から前右導光板３６２１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、下側面や上側面から前右導光板３６２１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。前右第二絵柄を発光表示させるための凹部は、下側面である前右第二特定側面部から前右導光板３６２１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、左側面や右側面から前右導光板３６２１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。これにより、一枚の前右導光板３６２１で異なる絵柄を発光表示させることができるため、多彩な演出を遊技者に提示することができる。
【２４７２】
　前右第一ＬＥＤ基板は、前右第一側面部に沿って設けられている。前右第一ＬＥＤ基板

は、前右導光板３６２１の上下の長さよりも長い。この前右第一ＬＥＤ基板における左方を向いている面のうち、前右第一特定側面部と対面している部位に複数のＬＥＤが上下に列設されている。

【２４７３】

前右第二ＬＥＤ基板は、前右第二側面部に沿って設けられている。前右第二ＬＥＤ基板は、前右第二側面部の長さと同じである。この前右第二ＬＥＤ基板における上方を向いている面に複数のＬＥＤが左右に列設されている。

【２４７４】

前右集光レンズは、前右導光板３６２１（前右第一特定側面部）と前右第一ＬＥＤ基板との間に設けられており、上下に長い帯板状に形成されている。前右集光レンズは、長手方向へ列設されており左方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部と、長手方向へ離隔しており右方へ向かって突出している複数の脚部と、を有している。複数のレンズ部は、前右第一ＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応する部位に設けられている。このレンズ部により、ＬＥＤから放射された光を水平方向へ屈折させて、前右特定側面部から前右導光板３６２１内へ入射させることができる。複数の脚部は、前右第一ＬＥＤ基板のＬＥＤと対応していない部位に設けられている。脚部の先端を、前右第一ＬＥＤ基板の左面に当接させることにより、ＬＥＤとレンズ部との距離を所望の距離にしてレンズ部によるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４７５】

前右導光板ホルダ３６２５は、前右導光板３６２１の右側と上下両側とを囲むように左方へ開放された上下に長いコ字状に形成されている。前右導光板ホルダ３６２５は、前右導光板３６２１の前側に設けられている第一ホルダ部３６２５ａと、前右導光板３６２１の後側に設けられている第二ホルダ部３６２５ｂと、を有している。

【２４７６】

前右導光板ホルダ３６２５の第一ホルダ部３６２５ａと第二ホルダ部３６２５ｂとの間に、前右導光板３６２１、前右第一ＬＥＤ基板、前右第二ＬＥＤ基板、前右集光レンズ、が挟まれている。

【２４７７】

また、前右導光板ホルダ３６２５は、上端付近に設けられているスライダ３６２６と、上端から上方へ突出しているベルト取付部３６２７と、下端から下方へ突出するように設けられている一対のローラ３６２８と、を備えている。スライダ３６２６は、前駆動ユニット３６５０の上レール前３６５４に対してスライド可能に取付けられる。ベルト取付部３６２７は、前駆動ユニット３６５０の前右用ベルト３６６４に取付けられる。一対のローラ３６２８は、回転軸を上下方向へ向けた状態で左右に離隔して設けられている。一対のローラ３６２８は、前駆動ユニット３６５０の下レール前３６５２と下レール中３６９０との間で左右方向へ転動可能に支持される。

【２４７８】

この前右可動導光板ユニット３６２０では、前右第一ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、前右導光板３６２１において前右第一絵柄を発光表示させることができる。一方、前右第二ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、前右導光板３６２１において前右第一絵柄とは異なる前右第二絵柄を発光表示させることができる。

【２４７９】

続いて、第二導光板ユニット３６００の後左可動導光板ユニット３６３０について、図１８１および図１８２などを参照して説明する。この後左可動導光板ユニット３６３０は、前左可動導光板ユニット３６１０と同じような構成であり、単品図や分解図のような詳細な図示は省略して説明する。

【２４８０】

後左可動導光板ユニット３６３０は、平板状の後左導光板３６３１と、後左導光板３６３１の左辺に沿うように設けられている後左第一ＬＥＤ基板（図示は省略）と、後左導光板３６３１の下辺に沿うように設けられている後左第二ＬＥＤ基板（図示は省略）と、後

左導光板３６３１と後左第一ＬＥＤ基板との間に設けられている後左集光レンズ（図示は省略）と、後左導光板３６３１を前後から挟むように保持する枠状の後左導光板ホルダ３６３５と、を備えている。この後左可動導光板ユニット３６３０では、後左導光板３６３１の右辺が後左導光板ホルダ３６３５により保持されておらず、外部に露出している。

【２４８１】

後左導光板３６３１は、外形が正面視において上下に長い略四角形に形成されている。後左導光板３６３１の周面は、後左第一ＬＥＤ基板と対面している後左第一特定側面部（図示は省略）と、後左第二ＬＥＤ基板と対面している後左第二特定側面部（図示は省略）と、ＬＥＤ基板とは対面していない後左一般側面部３６３１ｃと、を有している。詳述すると、後左第一特定側面部は後左導光板３６３１の左側面に設けられており、後左第二特定側面部は後左導光板３６３１の下側面（下面）に設けられている。また、後左一般側面部３６３１ｃは、後左導光板３６３１の右側面と上側面（上面）を構成している。

【２４８２】

この後左導光板３６３１には、図示は省略するが、後左第一絵柄や後左第二絵柄を発光表示させるための無数の微細な凹部が後面に設けられている。後左第一絵柄を発光表示させるための凹部は、左側面である後左第一特定側面部から後左導光板３６３１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、下側面や上側面から後左導光板３６３１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。後左第二絵柄を発光表示させるための凹部は、下側面である後左第二特定側面部から後左導光板３６３１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、左側面や右側面から後左導光板３６３１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。これにより、一枚の後左導光板３６３１で異なる絵柄を発光表示させることができるため、多彩な演出を遊技者に提示することができる。

【２４８３】

後左第一ＬＥＤ基板は、後左第一側面部に沿って設けられている。後左第一ＬＥＤ基板は、後左導光板３６３１の上下の長さよりも長い。この後左第一ＬＥＤ基板における右方を向いている面のうち、後左第一特定側面部と対面している部位に複数のＬＥＤが上下に列設されている。

【２４８４】

後左第二ＬＥＤ基板は、後左第二側面部に沿って設けられている。後左第二ＬＥＤ基板は、後左第二側面部の長さと同じである。この後左第二ＬＥＤ基板における上方を向いている面に複数のＬＥＤが左右に列設されている。

【２４８５】

後左集光レンズは、後左導光板３６３１（後左第一特定側面部）と後左第一ＬＥＤ基板との間に設けられており、上下に長い帯板状に形成されている。後左集光レンズは、長手方向へ列設されており左方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部と、長手方向へ離隔しており右方へ向かって突出している複数の脚部と、を有している。複数のレンズ部は、後左第一ＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応する部位に設けられている。このレンズ部により、ＬＥＤから放射された光を水平方向へ屈折させて、後左特定側面部から後左導光板３６３１内へ入射させることができる。複数の脚部は、後左第一ＬＥＤ基板のＬＥＤと対応していない部位に設けられている。脚部の先端を、後左第一ＬＥＤ基板の左面に当接させることにより、ＬＥＤとレンズ部との距離を所望の距離にしてレンズ部によるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４８６】

後左導光板ホルダ３６３５は、後左導光板３６３１の左側と上下両側とを囲むように右方へ開放された上下に長いコ字状に形成されている。後左導光板ホルダ３６３５は、後左導光板３６３１の前側に設けられている第一ホルダ部３６３５ａと、後左導光板３６３１の後側に設けられている第二ホルダ部３６３５ｂと、を有している。

【２４８７】

後左導光板ホルダ３６３５の第一ホルダ部３６３５ａと第二ホルダ部３６３５ｂとの間

に、後左導光板３６３１、後左第一ＬＥＤ基板、後左第二ＬＥＤ基板、後左集光レンズ、が挟まれている。

【２４８８】

また、後左導光板ホルダ３６３５は、上端付近に設けられているスライダ３６３６と、上端から上方へ突出しているベルト取付部３６３７と、下端から下方へ突出するように設けられている一対のローラ３６３８と、を備えている。スライダ３６３６は、後駆動ユニット３６７０の上レール後３６７２に対してスライド可能に取付けられる。ベルト取付部３６３７は、後駆動ユニット３６７０の後左用ベルト３６７５に取付けられる。一対のローラ３６３８は、回転軸を上下方向へ向けた状態で左右に離隔して設けられている。一対のローラ３６３８は、下レール中３６９０と下レール後３６９１との間で左右方向へ転動可能に支持される。

【２４８９】

この後左可動導光板ユニット３６３０では、後左第一ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、後左導光板３６３１において後左第一絵柄を発光表示させることができる。一方、後左第二ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、後左導光板３６３１において後左第一絵柄とは異なる後左第二絵柄を発光表示させることができる。

【２４９０】

続いて、第二導光板ユニット３６００の後右可動導光板ユニット３６４０について、図１８１および図１８２などを参照して説明する。この後右可動導光板ユニット３６４０は、前右可動導光板ユニット３６２０と同じような構成であり、単品図や分解図のような詳細な図示は省略して説明する。

【２４９１】

後右可動導光板ユニット３６４０は、平板状の後右導光板３６４１と、後右導光板３６４１の右辺に沿うように設けられている後右第一ＬＥＤ基板（図示は省略）と、後右導光板３６４１の下辺に沿うように設けられている後右第二ＬＥＤ基板（図示は省略）と、後右導光板３６４１と後右第一ＬＥＤ基板との間に設けられている後右集光レンズ（図示は省略）と、後右導光板３６４１を前後から挟むように保持する枠状の後右導光板ホルダ３６４５と、を備えている。この後右可動導光板ユニット３６４０では、後右導光板３６４１の左辺が後右導光板ホルダ３６４５により保持されておらず、外部に露出している。

【２４９２】

後右導光板３６４１は、外形が正面視において上下に長い略四角形に形成されている。後右導光板３６４１の周面は、後右第一ＬＥＤ基板と対面している後右第一特定側面部（図示は省略）と、後右第二ＬＥＤ基板と対面している後右第二特定側面部（図示は省略）と、ＬＥＤ基板とは対面していない後右一般側面部３６４１ｃと、を有している。詳述すると、後右第一特定側面部は後右導光板３６４１の右側面に設けられており、後右第二特定側面部は後右導光板３６４１の下側面（下面）に設けられている。また、後右一般側面部３６４１ｃは、後右導光板３６４１の左側面と上側面（上面）を構成している。

【２４９３】

この後右導光板３６４１には、図示は省略するが、後右第一絵柄や後右第二絵柄を発光表示させるための無数の微細な凹部が後面に設けられている。後右第一絵柄を発光表示させるための凹部は、右側面である後右第一特定側面部から後右導光板３６４１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、下側面や上側面から後右導光板３６４１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。後右第二絵柄を発光表示させるための凹部は、下側面である後右第二特定側面部から後右導光板３６４１内に入射された光を前方へ反射させるように形成されていると共に、左側面や右側面から後右導光板３６４１内に入射された光を前方以外の方向へ反射させるように形成されている。これにより、一枚の後右導光板３６４１で異なる絵柄を発光表示させることができるため、多彩な演出を遊技者に提示することができる。

【２４９４】

後右第一ＬＥＤ基板は、後右第一側面部に沿って設けられている。後右第一ＬＥＤ基板

は、後右導光板３６４１の上下の長さよりも長い。この後右第一ＬＥＤ基板における左方を向いている面のうち、後右第一特定側面部と対面している部位に複数のＬＥＤが上下に列設されている。

【２４９５】

後右第二ＬＥＤ基板は、後右第二側面部に沿って設けられている。後右第二ＬＥＤ基板は、後右第二側面部の長さと同じである。この後右第二ＬＥＤ基板における上方を向いている面に複数のＬＥＤが左右に列設されている。

【２４９６】

後右集光レンズは、後右導光板３６４１（後右第一特定側面部）と後右第一ＬＥＤ基板との間に設けられており、上下に長い帯板状に形成されている。後右集光レンズは、長手方向へ列設されており左方へ向かって円弧状に膨出している複数のレンズ部と、長手方向へ離隔しており右方へ向かって突出している複数の脚部と、を有している。複数のレンズ部は、後右第一ＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応する部位に設けられている。このレンズ部により、ＬＥＤから放射された光を水平方向へ屈折させて、後右特定側面部から後右導光板３６４１内へ入射させることができる。複数の脚部は、後右第一ＬＥＤ基板のＬＥＤと対応していない部位に設けられている。脚部の先端を、後右第一ＬＥＤ基板の左面に当接させることにより、ＬＥＤとレンズ部との距離を所望の距離にしてレンズ部によるレンズ効果を発揮させることができる。

【２４９７】

後右導光板ホルダ３６４５は、後右導光板３６４１の右側と上下両側とを囲むように左方へ開放された上下に長いコ字状に形成されている。後右導光板ホルダ３６４５は、後右導光板３６４１の前側に設けられている第一ホルダ部３６４５ａと、後右導光板３６４１の後側に設けられている第二ホルダ部３６４５ｂと、を有している。

【２４９８】

後右導光板ホルダ３６４５の第一ホルダ部３６４５ａと第二ホルダ部３６４５ｂとの間に、後右導光板３６４１、後右第一ＬＥＤ基板、後右第二ＬＥＤ基板、後右集光レンズ、が挟まれている。

【２４９９】

また、後右導光板ホルダ３６４５は、上端付近に設けられているスライダ３６４６と、上端から上方へ突出しているベルト取付部３６４７と、下端から下方へ突出するように設けられている一対のローラ３６４８と、を備えている。スライダ３６４６は、後駆動ユニット３６７０の上レール後３６７２に対してスライド可能に取付けられる。ベルト取付部３６４７は、後駆動ユニット３６７０の後右用ベルト３６７８に取付けられる。一対のローラ３６４８は、回転軸を上下方向へ向けた状態で左右に離隔して設けられている。一対のローラ３６４８は、下レール中３６９０と下レール後３６９１との間で左右方向へ転動可能に支持される。

【２５００】

この後右可動導光板ユニット３６４０では、後右第一ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、後右導光板３６４１において後右第一絵柄を発光表示させることができる。一方、後右第二ＬＥＤ基板のＬＥＤを発光させると、後右導光板３６４１において後右第一絵柄とは異なる後右第二絵柄を発光表示させることができる。

【２５０１】

次に、第二導光板ユニット３６００の前駆動ユニット３６５０について、図１８１および図１８２などを参照して説明する。前駆動ユニット３６５０は、左右に長い前ベース３６５１と、前ベース３６５１の下方に設けられている左右に長い下レール前３６５２と、前ベース３６５１および下レール前３６５２それぞれの左右両端同士を繋いでいる一対の縦フレーム３６５３と、を備えている。前駆動ユニット３６５０は、前ベース３６５１、下レール前３６５２、および一対の縦フレーム３６５３により、四角い枠状に構成されている。なお、下レール前３６５２は、後方に設けられる下レール中３６９０と協働して、前左可動導光板ユニット３６１０の一対のローラ３６１８と、前右可動導光板ユニット３

６２０の一対のローラ３６２８とを、左右方向へ移動可能に支持するものである。
【２５０２】
また、前駆動ユニット３６５０は、前ベース３６５１の後面に取付けられている左右に長い上レール前３６５４を備えている。この上レール前３６５４には、前左可動導光板ユニット３６１０のスライダ３６１６と、前右可動導光板ユニット３６２０のスライダ３６２６とが、左右方向へスライド可能に支持される。
【２５０３】
更に、前駆動ユニット３６５０は、前ベース３６５１の前面の左端付近に取付けられている前左駆動モータ３６５５と、前ベース３６５１の前面の左端付近における前左駆動モータ３６５５の右方に取付けられている後左駆動モータ３６５６と、前ベース３６５１の前面の右端付近に取付けられている前右駆動モータ３６５７と、前ベース３６５１の前面の右端付近における前右駆動モータ３６５７の左方に取付けられている後右駆動モータ３６５８と、を備えている。
【２５０４】
また、前駆動ユニット３６５０は、前左駆動モータ３６５５により回転する前左用駆動プーリ（図示は省略）と、前左用駆動プーリの右方に設けられている前左用従動プーリ（図示は省略）と、前左用駆動プーリおよび前左用従動プーリに巻き掛けられている前左用ベルト（図示は省略）と、前右駆動モータ３６５７により回転する前右用駆動プーリ３６６２と、前右用駆動プーリ３６６２の左方に設けられている前右用従動プーリ３６６３と、前右用駆動プーリ３６６２および前右用従動プーリ３６６３に巻き掛けられている前右用ベルト３６６４と、を備えている。前左用ベルトには、前左可動導光板ユニット３６１０のベルト取付部３６１７が取付けられ、前右用ベルト３６６４には、前右可動導光板ユニット３６２０のベルト取付部３６２７が取付けられる。
【２５０５】
また、前駆動ユニット３６５０は、前ベース３６５１の前面に取付けられている上部装飾基板３６６５を備えている。上部装飾基板３６６５の前面には複数のＬＥＤが設けられている。
【２５０６】
次に、第二導光板ユニット３６００の後駆動ユニット３６７０について、図１８１および図１８２などを参照して説明する。後駆動ユニット３６７０は、前駆動ユニット３６５０の後に取付けられる後ベース３６７１と、後ベース３６７１の後面に取付けられる左右に長い上レール後３６７２と、を備えている。上レール後３６７２には、後左可動導光板ユニット３６３０のスライダ３６３６と、後右可動導光板ユニット３６４０のスライダ３６４６とが、左右方向へスライド可能に支持される。
【２５０７】
また、後駆動ユニット３６７０は、後左駆動モータ３６５６により回転する後左用駆動プーリ３６７３と、後左用駆動プーリ３６７３の右方に設けられている後左用従動プーリ３６７４と、後左用駆動プーリ３６７３および後左用従動プーリ３６７４に巻き掛けられている後左用ベルト３６７５と、後右駆動モータ３６５８により回転する後右用駆動プーリ（図示は省略）と、後右用駆動プーリの左方に設けられている後右用従動プーリ３６７７と、後右用駆動プーリおよび後右用従動プーリ３６７７に巻き掛けられている後右用ベルト３６７８と、を備えている。後左用ベルト３６７５には、後左可動導光板ユニット３６３０のベルト取付部３６３７が取付けられ、後右用ベルト３６７８には、後右可動導光板ユニット３６４０のベルト取付部３６４７が取付けられる。
【２５０８】
更に、後駆動ユニット３６７０は、後ベース３６７１の前面に可動位置センサ基板３６７９が取付けられている。この可動位置センサ基板３６７９には、前左可動導光板ユニット３６１０、前右可動導光板ユニット３６２０、後左可動導光板ユニット３６３０、後右可動導光板ユニット３６４０、の左右方向の位置を検知する複数の位置センサが設けられている。

【２５０９】
次に、下レール中３６９０および下レール後３６９１について説明する。下レール中３６９０は、前駆動ユニット３６５０の下レール前３６５２の後方に位置している前左可動導光板ユニット３６１０の一対のローラ３６１８と、前右可動導光板ユニット３６２０の一対のローラ３６２８とを、後方から挟むようにして下レール前３６５２の後側に取付けられる。これにより、前左可動導光板ユニット３６１０と前右可動導光板ユニット３６２０それぞれの下端を左右方向へスライド可能に支持することができる。
【２５１０】
下レール後３６９１は、下レール中３６９０は、後方に位置している後左可動導光板ユニット３６３０の一対のローラ３６３８と、後右可動導光板ユニット３６４０の一対のローラ３６４８とを、後方から挟むようにして下レール中３６９０の後側に取付けられる。これにより、後左可動導光板ユニット３６３０と後右可動導光板ユニット３６４０それぞれの下端を左右方向へスライド可能に支持することができる。
【２５１１】
本実施形態の第二導光板ユニット３６００においても複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。ここでは、代表として、前左可動導光板ユニット３６１０に設けられている脱型痕跡部２５１９について説明する。図１８８に示すように、前左可動導光板ユニット３６１０の前左導光板３６１１に複数の脱型痕跡部２５１９が設けられている。
【２５１２】
前左導光板３６１１の脱型痕跡部２５１９は、その前面における周縁部に設けられている。詳述すると、上下に長い前左導光板３６１１において、左側の端辺と右側の端辺に、それぞれ複数の脱型痕跡部２５１９が設けられており、上側と下側の端辺には脱型痕跡部２５１９が設けられていない。
【２５１３】
具体的には、前左導光板３６１１では、左側（前左第一特定側面部３６１１ａ）の端辺には脱型痕跡部２５１９が五つ設けられており、右側（前左一般側面部３６１１ｃ）の端辺には脱型痕跡部２５１９が四つ設けられている。なお、図示は省略するが、前左導光板３６１１において、左側の端辺に設けられている五つの脱型痕跡部２５１９と、右側の端辺に設けられている四つの脱型痕跡部２５１９のうちの一番下に設けられている脱型痕跡部２５１９は、前左導光板ホルダ３６１５で挟まれて外部からは見えない。
【２５１４】
このように、本実施形態では、前左導光板３６１１において、同じ長さの端辺であっても、前左導光板ホルダ３６１５により保持されない端辺の脱型痕跡部２５１９の数を、前左導光板ホルダ３６１５により保持される端辺の脱型痕跡部２５１９の数よりも少なくしているため、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができ、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を抑制させることができる。
【２５１５】
また、本実施形態では、前左導光板３６１１において、前左第一特定側面部３６１１ａの端辺に脱型痕跡部２５１９を設け、前左第二特定側面部３６１１ｂの端辺には脱型痕跡部２５１９を設けていない。つまり、前左導光板３６１１において発光表示させる絵柄の演出上の重要度に応じて、当該絵柄と対応する特定側面部（前左第一特定側面部３６１１ａや前左第二特定側面部３６１１ｂ）の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数（ピッチ）を異ならせている。これにより、重要度の高い絵柄（ここでは前左第二絵柄）では、脱型痕跡部２５１９による影響を少なくして良好な状態で発光表示させることができ、絵柄による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。
【２５１６】
更に、本実施形態では、上下に長い四角形の前左導光板３６１１において、遠くまで光を導光する必要がない特定側面部（前左第一特定側面部３６１１ａ）の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも、遠くまで光を導光する必要がある特定側面部（前左第二特定側面部３６１１ｂ）の端辺に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を少なくし

ている（ここでは脱型痕跡部２５１９の数を０にしている）。これにより、遠くまで光を導光させる必要のある前左第二特定側面部３６１１ｂの端辺に、導光を阻害する恐れのある脱型痕跡部２５１９を設けていないため、ＬＥＤ３６１３ａからの光を遠くまで導光させることができ、前左第二絵柄３６１０ｂを充分な明るさで発光表示させることができる。

【２５１７】

次に、本実施形態の第二導光板ユニット３６００による可動演出について簡単に説明する。この第二導光板ユニット３６００は、通常の状態では、図１８９に示すように、前左可動導光板ユニット３６１０と後左可動導光板ユニット３６３０とが左方の移動端である退避位置に位置していると共に、前右可動導光板ユニット３６２０と後右可動導光板ユニット３６４０とが右方の移動端である退避位置に位置している。

【２５１８】

この通常の状態では、前左可動導光板ユニット３６１０と後左可動導光板ユニット３６３０とが、前右可動導光板ユニット３６２０と後右可動導光板ユニット３６４０とが、それぞれ前後方向に重なっている。また、通常の状態では、前左可動導光板ユニット３６１０および後左可動導光板ユニット３６３０と、前右可動導光板ユニット３６２０および後右可動導光板ユニット３６４０と、が左右に大きく離隔して中央が開いた全開位置の状態となっており、後方に設けられる演出表示装置１６００の演出画像を前方から良好な状態で視認することができる。

【２５１９】

通常の状態から、後左駆動モータ３６５６により後左可動導光板ユニット３６３０を右方へスライドさせると共に、後右駆動モータ３６５８により後右可動導光板ユニット３６４０を右方へスライドさせ、左右方向の中央において、後左可動導光板ユニット３６３０の右辺と後右可動導光板ユニット３６４０の左辺とを当接させる（図１９０を参照）。これにより、二つの後左可動導光板ユニット３６３０と後右可動導光板ユニット３６４０とが中央で合体したような状態となり、演出表示装置１６００の表示画面の前方を半分程覆った半閉位置の状態となる。

【２５２０】

なお、前左駆動モータ３６５５により前左可動導光板ユニット３６１０を右方へスライドさせると共に、前右駆動モータ３６５７により前右可動導光板ユニット３６２０を右方へスライドさせ、左右方向中央において当接させて、前左可動導光板ユニット３６１０と前右可動導光板ユニット３６２０とを半閉位置の状態にすることもできる。

【２５２１】

また、後左可動導光板ユニット３６３０と後右可動導光板ユニット３６４０とを左右方向中央に位置させる。更に、前左可動導光板ユニット３６１０を、その右端側が後左可動導光板ユニット３６３０における後左導光板ホルダ３６３５の左辺を覆うように位置させると共に、前右可動導光板ユニット３６２０を、その左端側が後右可動導光板ユニット３６４０における後右導光板ホルダ３６４５の右辺を覆うように位置させる（図１９１を参照）。これにより、四つの前左導光板３６１１、後左導光板３６３１、後右導光板３６４１、前右導光板３６２１が並んで合体したような状態となり、演出表示装置１６００の表示画面の前方を殆ど覆った全閉位置の状態となる。

【２５２２】

また、第二導光板ユニット３６００では、前左可動導光板ユニット３６１０、前右可動導光板ユニット３６２０、後左可動導光板ユニット３６３０、後右可動導光板ユニット３６４０、をそれぞれ別々に左右方向へスライドさせることができるため、それらのスライドを適宜組み合わせることで様々な可動演出を遊技者に提示することができる。

【２５２３】

更に、第二導光板ユニット３６００では各可動導光板ユニット（前左可動導光板ユニット３６１０、前右可動導光板ユニット３６２０、後左可動導光板ユニット３６３０、後右可動導光板ユニット３６４０）にそれぞれ設けられている導光板（前左導光板３６１１、前右導光板３６２１、後左導光板３６３１、後右導光板３６４１）において、互いに異な

る第一絵柄や第二絵柄を発光表示させることができるため、可動演出と絵柄の発光表示とを適宜組み合わせることで、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２５２４】

なお、各導光板において発光表示される絵柄として、四つの可動導光板ユニットが全閉位置の時に、一つの大きな絵柄となるようなものとしても良い。

【２５２５】

［９－４．小括］

上記のセンター役物２５００以外に設けられている脱型痕跡部２５１９に関しては、以下のような様々な技術的特徴を有している。

［９－４ａ．小括Ａ］

（技術的特徴の背景）

パチンコ機のような遊技機において、側面から入射された光により絵柄を発光表示可能な透明平板状の導光板を備えているものが知られている（例えば、特許文献：特開２０２０－４８８４６号公報）。この導光板おいて、絵柄を発光表示させると、何も見えなかった空間に絵柄が表示されるため、絵柄の発光演出により遊技者を楽しませることが可能となる。

【２５２６】

ところで、導光板を射出成形により製造する場合、金型において成形された導光板を、エジェクタピンのような押圧部材で押して脱型する際に、導光板に押圧部材により押圧された痕跡（脱型痕跡部）が残ることとなる。そして、導光板における脱型痕跡部の位置によっては、絵柄の発光表示に影響を与えてしまい、導光板による発光演出に対して所望の演出効果が得られなくなる恐れがある。

【２５２７】

そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、導光板による絵柄の発光演出を楽しませることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。

【２５２８】

（技術的特徴の解決手段）

手段１：遊技機において、

「端面から入射された光により所定の絵柄を表示可能な導光板を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

前記導光板は、

前後方向を向いている面の周縁に複数の脱型痕跡部が設けられており、

複数の該脱型痕跡部は、

前記周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている」

ことを特徴とする。

【２５２９】

ここで、「導光板」とは、側面（端面）から入射させた光を前方へ反射させる無数の微細な凹部を有すると共に、それら凹部が所定の絵柄を構成するように設けられているものである。この「導光板」としては、「一つの絵柄のみを発光表示可能なもの」、「光が入射される端面に応じて異なる絵柄を発光表示可能なもの」、「光を入射させるためのＬＥＤの位置に応じて異なる絵柄を発光表示可能なもの」、等が挙げられる。

【２５３０】

また、「脱型痕跡部」は、導光板を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により導光板に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。

【２５３１】

手段１の構成によると、端面から入射された光により所定の絵柄を表示可能な導光板を有する遊技盤を備えた遊技機であり、導光板は、前後方向を向いている面の周縁に複数の脱型痕跡部が設けられており、複数の脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－３．導光板ユニットに設けられている脱型痕跡部］の章、導光板３５１０、脱型痕跡部２５１９、図１７５～図１７９などの記載を参照）。

【２５３２】

本構成によれば、端面から入射された光により所定の絵柄を表示可能な導光板において、成形時に残る複数の脱型痕跡部を周縁に設けているため、それら脱型痕跡部を目立ち難くすることができ、脱型痕跡部が見えることによる見栄えの悪化を低減させることができる。また、導光板の周縁に脱型痕跡部を設けているため、仮に脱型痕跡部が光っても、導光板において発光表示される絵柄に与える影響が低く、導光板による発光演出の演出効果を確実に発揮させて、導光板による絵柄の発光演出を楽しませることができる。

【２５３３】

ところで、導光板における光が入射する側面（端面）と接する部位に脱型痕跡部が設けられていると、脱型痕跡部により導光板の厚さが部分的に変化することで入射される光の量が減少してしまったり、脱型痕跡部により入射された光が早々に乱反射してしまったりして、絵柄の発光表示おいて、明るさのムラが発生して所望の演出効果が得られなくなる恐れがある。これに対して、本構成では、光が入射しない端面の部位に脱型痕跡部を設けているため、導光板への光の入射に対して脱型痕跡部が影響を与えることはなく、導光板に対して光を良好な状態で入射させることができると共に、発光表示させた絵柄において明るさのムラの発生を抑制させることができ、絵柄の発光表示による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５３４】

また、本構成によれば、導光板において、光が入射しない端面の部位に脱型痕跡部を設けているため、遊技機（遊技盤）を組立てる際に、脱型痕跡部を目安にして導光板の向きを確認することができる。

【２５３５】

なお、導光板は、周縁における少なくとも光が入射する端面の部位がホルダにより前後方向が覆われており、ホルダにより覆われる部位に脱型痕跡部が設けられているものとしても良い。これにより、導光板におけるホルダにより覆われる（保持される）部位に脱型痕跡部を設けているため、ホルダにより脱型痕跡部を隠すことができ、脱型痕跡部が見えることによる見栄えの悪化を防止することができる。

【２５３６】

また、上記のようなホルダを射出成型する場合、ホルダの脱型痕跡部を、導光板と対面する部位に設けることが望ましい。或いは、脱型痕跡部をホルダにおける遊技者とは反対側の部位（例えば、後方を向いている部位）に設けても良い。これにより、ホルダの脱型痕跡部が外部（遊技者）から見え辛くなるため、ホルダの見栄えが悪くなることはなく、遊技機（遊技盤）の見栄えを良くすることができる。

【２５３７】

更に、上記のようにホルダを設ける場合、ホルダは、導光板の端面から光を入射させるためのＬＥＤを有するＬＥＤ基板を支持しているものとすることが望ましい。これにより、導光板とＬＥＤ基板とをホルダによって支持しているため、ホルダにより導光板に対してＬＥＤ基板を所望の部位に位置決めすることができ、確実にＬＥＤからの光を導光板に入射させることができる。従って、導光板の絵柄を良好な状態で発光表示させることができ、導光板による発光演出を楽しませることができる。

【２５３８】

また、上記のようにホルダにＬＥＤ基板を支持させる場合、導光板において、複数の脱型痕跡部を、ＬＥＤ基板と隣接（対向）する端面とは反対側の端面の部位に設けることが望ましい。これにより、導光板に入射された光に対する脱型痕跡部による影響を低減させ

ることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。
【２５３９】
　また、上記のようにホルダにＬＥＤ基板を支持させる場合、光が入射する方向（端面）に応じて異なる絵柄が発光表示される導光板において、上記のように、複数の脱型痕跡部をＬＥＤ基板と隣接（対向）する端面とは反対側の端面の部位に設ける場合、ＬＥＤから遠い位置に脱型痕跡部が設けられることとなるため、脱型痕跡部において光が乱反射してもその反射した光が弱くなり、他の絵柄の発光を抑制させることができる。これにより、異なる絵柄を発光表示可能な導光板において、発光表示させたい所望の絵柄に、他の絵柄が重なって発光表示されてしまうことを低減させることができ、所望の絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。
【２５４０】
　更に、上記のようにホルダにＬＥＤ基板を支持させる場合、導光板の脱型痕跡部と、ＬＥＤ基板のＬＥＤとの位置関係として、ＬＥＤの正面（光軸）から離れた部位に脱型痕跡部を設けることが望ましい。これにより、ＬＥＤからの光に対して脱型痕跡部による影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。
【２５４１】
　また、上記のようにホルダにＬＥＤ基板を支持させる場合、導光板の脱型痕跡部と、ＬＥＤ基板のＬＥＤとの位置関係として、ＬＥＤの正面（光軸）に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、遊技機（遊技盤）を組立てる際に、脱型痕跡部とＬＥＤとを合わせることで位置決めの目安にすることができる。
【２５４２】
　更に、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位と、光が入射する端面の部位とで、設けられている数が異なるものとしても良い。これにより、導光板の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられる脱型痕跡部の数と、光が入射する端面の部位に設けられる脱型痕跡部の数とを、異ならせているため、絵柄の発光表示に対する脱型痕跡部の影響を適宜設定したり、組立ての際に脱型痕跡部の数により導光板の向きの目安としたり、することができる。
【２５４３】
　また、上記のように、光が入射しない端面の部位と光が入射する端面の部位とで設けられる脱型痕跡部の数を異ならせる場合、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも多くしても良い。これにより、導光板の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数よりも多くしている。これにより、導光板における光が入射する端面の部位の脱型痕跡部の数が少ないため、脱型痕跡部による絵柄の発光表示に対する影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。
【２５４４】
　また、上記のように、光が入射しない端面の部位の脱型痕跡部の数を、光が入射する端面の部位の脱型痕跡部の数よりも多くする場合、導光板の周縁に満遍なく脱型痕跡部を設ける際に、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数よりも多くすることにより、導光板を成形型（金型）から脱型する際に、歪みのない良好な状態で脱型することができつつ、脱型痕跡部による絵柄の発光表示に対する影響を抑制することができ、導光板による所望の演出効果を充分に発揮させることができる。
【２５４５】
　更に、上記のように、光が入射しない端面の部位と光が入射する端面の部位とで設けられる脱型痕跡部の数を異ならせる場合、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも少なくしても良い。これにより、導光板において光が入射する端面の部位に多くの脱型痕跡部が設

けられることとなるため、導光板を成形型から脱型する際に、光が入射する端面の部位が歪み難くなり、当該端面から光を良好に入射させることが可能な導光板を製造することができる。

【２５４６】

また、導光板は、光が入射する端面に応じて異なる絵柄を表示可能とされており、脱型痕跡部は、周縁における表示される絵柄と対応している端面の部位に応じて設けられている数が異なるものとしても良い。つまり、光が入射する端面に応じて異なる絵柄を発光表示させることが可能な導光板において、発光表示される絵柄と対応している端面に応じて脱型痕跡部の数を異ならせている。これにより、例えば、導光板において発光表示させる絵柄の演出上の重要度に応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を異ならせる場合、重要度の高い絵柄では、脱型痕跡部の数を少なくすることで、脱型痕跡部による影響を低減させて良好な状態で発光表示させることができ、絵柄による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５４７】

また、例えば、導光板において発光表示される絵柄の複雑さに応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を異ならせる場合、複雑な絵柄では脱型痕跡部の数を少なくすることで、脱型痕跡部による影響を低減させることができ、複雑な絵柄を明瞭に発光表示させることで所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５４８】

手段２：手段１の構成において、

「前記導光板は、

前記周縁における少なくとも光が入射する端面の部位がホルダにより前後方向が覆われており、

該ホルダにより覆われる部位に前記脱型痕跡部が設けられている」

ことを特徴とする。

【２５４９】

ここで、「ホルダ」としては、「第一ホルダ部と第二ホルダ部とで導光板を両面から挟むように保持するもの」、「挿入溝により導光板の辺縁を挿入して保持するもの」、等が挙げられる。

【２５５０】

手段２の構成によると、導光板は、周縁における少なくとも光が入射する端面の部位がホルダにより前後方向が覆われており、ホルダにより覆われる部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、導光板ホルダ３５４０、および図１７５などの記載を参照）。

【２５５１】

本構成によれば、導光板におけるホルダにより覆われる（保持される）部位に脱型痕跡部を設けているため、ホルダにより脱型痕跡部を隠すことができ、脱型痕跡部が見えることによる見栄えの悪化を防止することができる。

【２５５２】

なお、ホルダを射出成型する場合、ホルダの脱型痕跡部を、導光板と対面する部位に設けることが望ましい。これにより、ホルダの脱型痕跡部が外部から見え辛くなるため、ホルダの見栄えが悪くなることなく、遊技機（遊技盤）の見栄えを良くすることができる。

【２５５３】

手段３：手段２の構成において、

「前記ホルダには前記導光板の端面から光を入射させるためのＬＥＤを有するＬＥＤ基板が支持されている」

ことを特徴とする。

【２５５４】

手段３の構成によると、ホルダは、導光板の端面から光を入射させるためのＬＥＤを有するＬＥＤ基板を支持しているものである（［発明を実施するための形態］では、導光板

ホルダ３５４０、左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、および図１７０～図１７５などの記載を参照）。
ことを特徴とする。
【２５５５】
本構成によれば、導光板とＬＥＤ基板とをホルダによって支持しているため、ホルダにより導光板に対してＬＥＤ基板を所望の部位に位置決めすることができ、確実にＬＥＤからの光を導光板に入射させることができる。従って、導光板の絵柄を良好な状態で発光表示させることができ、導光板による発光演出を楽しませることができる。
【２５５６】
なお、導光板において、複数の脱型痕跡部を、ＬＥＤ基板と隣接（対向）する端面とは反対側の端面の部位に設けることが望ましい。これにより、導光板に入射された光に対する脱型痕跡部による影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。
【２５５７】
また、光が入射する方向（端面）に応じて異なる絵柄が発光表示される導光板において、上記のように、複数の脱型痕跡部をＬＥＤ基板と隣接（対向）する端面とは反対側の端面の部位に設ける場合、ＬＥＤから遠い位置に脱型痕跡部が設けられることとなるため、脱型痕跡部において光が乱反射してもその反射した光が弱くなり、他の絵柄の発光を抑制させることができる。これにより、異なる絵柄を発光表示可能な導光板において、発光表示させたい所望の絵柄に、他の絵柄が重なって発光表示されてしまうことを低減させることができ、所望の絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。
【２５５８】
更に、導光板の脱型痕跡部と、ＬＥＤ基板のＬＥＤとの位置関係として、ＬＥＤの正面（光軸）から離れた部位に脱型痕跡部を設けることが望ましい。これにより、ＬＥＤからの光に対して脱型痕跡部による影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。
【２５５９】
また、導光板の脱型痕跡部と、ＬＥＤ基板のＬＥＤとの位置関係として、ＬＥＤの正面（光軸）に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、遊技機（遊技盤）を組立てる際に、脱型痕跡部とＬＥＤとを合わせることで位置決めの目安にすることができる。
【２５６０】
手段４：手段１～手段３の構成において、
「前記脱型痕跡部は、
前記周縁のうち光が入射しない端面の部位と、光が入射する端面の部位とで、設けられている数が異なる」
ことを特徴とする。
【２５６１】
ここで、脱型痕跡部の「数が異なる」としては、「単位長さあたりの数が異なる」、「屈曲していない一つの端辺に設けられている数が異なる」、「光が入射しない端面の部位の脱型痕跡部の総数と、光が入射する端面の部位の脱型痕跡部の総数と、が異なる」、などが挙げられる。
【２５６２】
手段４の構成によると、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位と、光が入射する端面の部位とで、設けられている数が異なるものである（［発明を実施するための形態］では、導光板３５１０、脱型痕跡部２５１９、および図１７７などの記載を参照）。
【２５６３】
本構成によれば、導光板の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられる脱型痕跡部の数と、光が入射する端面の部位に設けられる脱型痕跡部の数とを、異ならせているため、絵柄の発光表示に対する脱型痕跡部の影響を適宜設定したり、組立ての際に脱型痕

跡部の数により導光板の向きの目安としたり、することができる。
【２５６４】
手段５：手段４の構成において、
「前記脱型痕跡部は、
前記周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも多い」
ことを特徴とする。
【２５６５】
手段５の構成によると、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも多いものである（［発明を実施するための形態］では、導光板３５１０、脱型痕跡部２５１９、図１７６および図１７７などの記載を参照）。
【２５６６】
本構成によれば、導光板の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数よりも多くしている。これにより、導光板における光が入射する端面の部位の脱型痕跡部の数が少ないため、脱型痕跡部による絵柄の発光表示に対する影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。
【２５６７】
また、導光板の周縁に満遍なく脱型痕跡部を設ける際に、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数よりも多くすることにより、導光板を成形型（金型）から脱型する際に、歪みのない良好な状態で脱型することができつつ、脱型痕跡部による絵柄の発光表示に対する影響を抑制することができ、導光板による所望の演出効果を充分に発揮させることができる。
【２５６８】
手段６：手段４の構成において、
「前記脱型痕跡部は、
前記周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも少ない」
ことを特徴とする。
【２５６９】
手段６の構成によると、脱型痕跡部は、周縁のうち光が入射しない端面の部位に設けられている数が、光が入射する端面の部位に設けられている数よりも少ないものである（［発明を実施するための形態］では、前左導光板３６１１、脱型痕跡部２５１９、図１８８などの記載を参照）。
【２５７０】
本構成によれば、導光板において光が入射する端面の部位に多くの脱型痕跡部が設けられることとなるため、導光板を成形型から脱型する際に、光が入射する端面の部位が歪み難くなり、当該端面から光を良好に入射させることが可能な導光板を製造することができる。
【２５７１】
手段７：手段４～手段６までの何れか一つの構成において、
「前記導光板は、
光が入射する端面に応じて異なる絵柄を表示可能とされており、
前記脱型痕跡部は、
前記周縁における表示される絵柄と対応している端面の部位に応じて設けられている数が異なる」
ことを特徴とする。
【２５７２】
手段７の構成によると、導光板は、光が入射する端面に応じて異なる絵柄を表示可能と

されており、脱型痕跡部は、周縁における表示される絵柄と対応している端面の部位に応じて設けられている数が異なるものである（［発明を実施するための形態］では、導光板３５１０、第一絵柄３５０１、第二絵柄３５０２、左特定側面部３５１１ａ、右特定側面部３５１１ｂ、上特定側面部３５１１ｃ、下特定側面部３５１１ｄ、脱型痕跡部２５１９、図１７７などの記載を参照）。

【２５７３】

本構成によれば、光が入射する端面に応じて異なる絵柄を発光表示させることが可能な導光板において、発光表示される絵柄と対応している端面に応じて脱型痕跡部の数を異ならせている。従って、例えば、導光板において発光表示させる絵柄の演出上の重要度に応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を異ならせる場合、重要度の高い絵柄では、脱型痕跡部の数を少なくすることで、脱型痕跡部による影響を低減させて良好な状態で発光表示させることができ、絵柄による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５７４】

また、例えば、導光板において発光表示される絵柄の複雑さに応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部の数を異ならせる場合、複雑な絵柄では脱型痕跡部の数を少なくすることで、脱型痕跡部による影響を低減させることができ、複雑な絵柄を明瞭に発光表示させることで所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５７５】

このように、上記の解決手段によれば、導光板による絵柄の発光演出を楽しませることが可能な遊技機を提供することができる。

【２５７６】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、本実施形態における第一導光板ユニット３５００の導光板３５１０、第二導光板ユニット３６００における前左導光板３６１１、前右導光板３６２１、後左導光板３６３１、後右導光板３６４１は上記解決手段の導光板に、本実施形態における導光板３５１０の第一絵柄３５０１および第二絵柄３５０２、前左導光板３６１１の前左第一絵柄３６１０ａおよび前左第二絵柄３６１０ｂは上記解決手段の絵柄に、それぞれ相当している。

【２５７７】

また、本実施形態における左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、前左第一ＬＥＤ基板３６１２、前左第二ＬＥＤ基板３６１３は上記解決手段のＬＥＤ基板に、本実施形態における導光板ホルダ３５４０、前左導光板ホルダ３６１５、前右導光板ホルダ３６２５、後左導光板ホルダ３６３５、後右導光板ホルダ３６４５は上記解決手段のホルダに、それぞれ相当している。

【２５７８】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態によれば、端面から入射された光により所定の絵柄を表示可能な導光板（例えば、第一導光板ユニット３５００の導光板３５１０）において、成形時に残る複数の脱型痕跡部２５１９を周縁に設けているため、それら脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができ、脱型痕跡部２５１９が見えることによる見栄えの悪化を低減させることができる。また、導光板３５１０の周縁に脱型痕跡部２５１９を設けているため、仮に脱型痕跡部２５１９が光っても、導光板３５１０において発光表示される絵柄（第一絵柄３５０１や第二絵柄３５０２）に与える影響が低く、導光板３５１０による発光演出の演出効果を確実に発揮させて、導光板３５１０による絵柄の発光演出を楽しませることができる。

【２５７９】

ところで、導光板３５１０における光が入射する側面（端面）と接する部位に脱型痕跡部２５１９が設けられていると、脱型痕跡部２５１９により導光板３５１０の厚さが部分的に変化することで入射される光の量が減少してしまったり、脱型痕跡部２５１９により入射された光が早々に乱反射してしまったりして、絵柄の発光表示おいて、明るさのムラ

が発生して所望の演出効果が得られなくなる恐れがある。これに対して、図１７６の実施形態では、光が入射しない端面の部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、導光板３５１０への光の入射に対して脱型痕跡部２５１９が影響を与えることはなく、導光板３５１０に対して光を良好な状態で入射させることができると共に、発光表示させた絵柄において明るさのムラの発生を抑制させることができ、絵柄の発光表示による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【２５８０】

また、図１７６の実施形態によれば、導光板３５１０において、光が入射しない端面の部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、パチンコ機１（遊技盤５）を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９を目安にして導光板３５１０の向きを確認することができる。

【２５８１】

更に、本実施形態によれば、導光板３５１０における導光板ホルダ３５４０により覆われる（保持される）部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、導光板ホルダ３５４０により脱型痕跡部２５１９を隠すことができ、脱型痕跡部２５１９が見えることによる見栄えの悪化を防止することができる。

【２５８２】

また、導光板ホルダ３５４０の脱型痕跡部２５１９を、導光板３５１０と対面する部位に設けていることから、導光板ホルダ３５４０の脱型痕跡部２５１９が外部から見え辛くなるため、導光板ホルダ３５４０の見栄えが悪くなることなく、パチンコ機１（遊技盤５）の見栄えを良くすることができる。

【２５８３】

更に、本実施形態では、導光板３５１０とＬＥＤ基板（左ＬＥＤ基板３５２１、右ＬＥＤ基板３５２２、上ＬＥＤ基板３５２３、下ＬＥＤ基板３５２４、など）とを導光板ホルダ３５４０によって支持しているため、導光板ホルダ３５４０により導光板３５１０に対してＬＥＤ基板を所望の部位に位置決めすることができ、確実にＬＥＤからの光を導光板３５１０に入射させることができる。従って、導光板３５１０の絵柄を良好な状態で発光表示させることができ、導光板３５１０による発光演出を楽しませることができる。

【２５８４】

また、図１７６などの実施形態によれば、導光板３５１０において、複数の脱型痕跡部２５１９を、左ＬＥＤ基板３５２１と隣接（対向）する端面とは反対側の端面の部位に設けているため、導光板３５１０に入射された光に対する脱型痕跡部２５１９による影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。

【２５８５】

また、図１７６の実施形態によれば、ＬＥＤから遠い位置に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９において光が乱反射してもその反射した光が弱くなり、他の絵柄の発光を抑制させることができる。これにより、異なる絵柄を発光表示可能な導光板３５１０において、発光表示させたい所望の絵柄に、他の絵柄が重なって発光表示されてしまうことを低減させることができ、所望の絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。

【２５８６】

更に、図１７７の実施形態によれば、ＬＥＤ（例えばＬＥＤ３５２１ａ）の正面（光軸）から離れた部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、ＬＥＤからの光に対して脱型痕跡部２５１９による影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させて遊技者を楽しませることができる。

【２５８７】

また、図１７８の実施形態によれば、ＬＥＤ（例えば、ＬＥＤ３５２１ａ）の正面（光軸）に脱型痕跡部２５１９を設けているため、パチンコ機１（遊技盤５）を組立てる際に、脱型痕跡部２５１９とＬＥＤ３５２１ａとを合わせることで位置決めの目安にすることができる。

【２５８８】
更に、図１７７などの実施形態によれば、導光板３５１０の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられる脱型痕跡部２５１９の数と、光が入射する端面の部位に設けられる脱型痕跡部２５１９の数とを、異ならせているため、絵柄の発光表示に対する脱型痕跡部２５１９の影響を適宜設定したり、組立ての際に脱型痕跡部２５１９の数により導光板３５１０の向きの目安としたり、することができる。
【２５８９】
また、図１７７の実施形態によれば、導光板３５１０の周縁のうち、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも多くしている。これにより、導光板３５１０における光が入射する端面の部位の脱型痕跡部２５１９の数が少ないため、脱型痕跡部２５１９による絵柄の発光表示に対する影響を低減させることができ、絵柄を良好な状態で発光表示させることができる。
【２５９０】
また、図１７７などの実施形態によれば、導光板３５１０の周縁に満遍なく脱型痕跡部２５１９を設ける際に、光が入射しない端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を、光が入射する端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数よりも多くすることにより、導光板３５１０を成形型（金型）から脱型する際に、歪みのない良好な状態で脱型することができつつ、脱型痕跡部２５１９による絵柄の発光表示に対する影響を抑制することができ、導光板３５１０による所望の演出効果を充分に発揮させることができる。
【２５９１】
また、図１７７などの実施形態によれば、導光板３５１０において発光表示させる絵柄の演出上の重要度に応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を異ならせている。これにより、重要度の高い絵柄（ここでは第一絵柄３５０１）では、脱型痕跡部２５１９の数を少なくしているため、脱型痕跡部２５１９による影響を低減させて良好な状態で発光表示させることができ、絵柄による所望の演出効果を確実に発揮させることができる。
【２５９２】
また、図１７７などの実施形態によれば、導光板３５１０において発光表示される絵柄の複雑さに応じて、当該絵柄と対応する端面の部位に設けられている脱型痕跡部２５１９の数を異ならせるようにしている。つまり、絵柄が複雑な第一絵柄３５０１と、絵柄が単純な第二絵柄３５０２とでは、第一絵柄３５０１に対応する端辺の脱型痕跡部２５１９の数を、第二絵柄３５０２と対応する端辺の脱型痕跡部２５１９の数よりも少なくしている。これにより、第一絵柄３５０１のような複雑な絵柄では、脱型痕跡部２５１９の数を少なくすることで、脱型痕跡部２５１９による影響を少なくすることができ、複雑な絵柄を明瞭に発光表示させることで所望の演出効果を確実に発揮させることができる。
【２５９３】
［９－４ｂ．小括Ｂ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部が設けられている。機能表示部には、複数のＬＥＤが設けられたＬＥＤ基板を有しており、各ＬＥＤの点灯・点滅などにより、例えば、遊技球の入球により抽選された特別図柄や普通図柄などを表示することができる。この機能表示部として、ＬＥＤ基板を収容する基板ケースを有する者が提案されている（例えば、特許文献：特開２００８－２２８６７号公報）。これにより、機能表示部をユニット化することで部品の共通化を図ることが可能となる。
【２５９４】
ところで、機能表示部において、基板ケースに対してＬＥＤ基板の取付けが不完全であると、ＬＥＤの位置や向きが本来とは変ってしまい、誤った表示がなされてしまう恐れが

ある。
【２５９５】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技状態を表示する機能表示部のＬＥＤ基板を正しく取付けさせることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２５９６】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を備えた遊技機であって、
前記機能表示部は、
複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板を収容する基板ケースと、を具備し、
該基板ケースの底面における前記ＬＥＤ基板と対面する部位に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【２５９７】
ここで、「機能表示部」とは、遊技領域において遊技球が流下することにより変化する遊技状態として、遊技球の入球または通過により抽選された普通図柄、遊技球の入球により抽選された特別図柄、表示が保留されている普通図柄の保留数、表示が保留されている特別図柄の保留数、大当り遊技のような所定パターンの有利遊技状態の繰り返し数（ラウンド数）、などの少なくとも一つを表示するものである。
【２５９８】
また、「基板ケース」としては、「第一ケースと第二ケースとでＬＥＤ基板を前後から挟むように収容するもの」、「ＬＥＤ基板の前側のみを覆うように収容するもの（例えば、第一ケース）」、「ＬＥＤ基板の後側のみを覆うように収容するもの（例えば、第二ケース）」、などが挙げられる。
【２５９９】
また、「基板ケース」としては、遊技盤（例えば、前構成部材）に取付けた状態で少なくとも表示部分が前方へ露出するものであっても良いし、遊技盤に取付けた状態で前方が表示用の部材（例えば、表示用シート）により覆われるものであっても良い。
【２６００】
更に、「脱型痕跡部」は、基板ケースを成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により基板ケースに付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【２６０１】
手段１の構成によると、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を備えた遊技機であって、機能表示部は、複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、ＬＥＤ基板を収容する基板ケースと、を具備し、基板ケースの底面におけるＬＥＤ基板と対面する部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－２．機能表示ユニットに設けられている脱型痕跡部］の章、機能表示ユニット１４００、第一ケース１４０１、機能表示基板１４０２、第二ケース１４０３、脱型痕跡部２５１９、図１６７～図１６９などの記載を参照）。
【２６０２】
本構成によれば、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部において、基板ケースにおけるＬＥＤ基板と対面する部位に脱型痕跡部を設けている。これにより、ＬＥＤ基板を基板ケース内に収容すると、基板ケースの底面に設けられている脱型痕跡部がＬＥＤ基板に隠れて見えなくなるため、ＬＥＤ基板が基板ケー

スに確実に収容（挿入）されているか否かの目視確認を助けることができる。従って、基板ケースに対してＬＥＤ基板を正しく取付けることができ、機能表示部において誤った表示がなされることはない。

【２６０３】

また、基板ケースにＬＥＤ基板を収容すると、基板ケースの脱型痕跡部がＬＥＤ基板によって覆われるため、基板ケースの底面の脱型痕跡部が外部から見えることはなく、見栄えが悪くなることはない。

【２６０４】

なお、基板ケースにＬＥＤ基板の複数のＬＥＤと対応する複数のＬＥＤ孔が設けられている場合、複数のＬＥＤ孔を避けた部位に脱型痕跡部を設けることが望ましい。これにより、基板ケースの製造時において、基板ケースを射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されてＬＥＤ孔が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことができる。

【２６０５】

また、ＬＥＤ基板に、ＬＥＤとは異なる電子部品が設けられており、基板ケースの脱型痕跡部を、電子部品が設けられている領域と対向する部位に設けるようにしても良い。これにより、基板ケースにＬＥＤ基板を収容させる際に、基板ケースの脱型痕跡部とＬＥＤ基板の電子部品とが重なるようにすることで、基板ケースに対するＬＥＤ基板を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、基板ケースの脱型痕跡部を目安にしてＬＥＤ基板を正しい向きにして組立てることができる。

【２６０６】

手段２：手段１の構成において、

「前記ＬＥＤ基板は、

前記ＬＥＤとは異なる電子部品を更に有しており、

前記脱型痕跡部は、

前記電子部品が設けられている領域と対向する部位に設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２６０７】

ここで、「電子部品」としては、「接続コネクタ」、「ＬＥＤドライバー」、「抵抗器」、「コンデンサ」、などが挙げられる。

【２６０８】

手段２の構成によると、ＬＥＤ基板は、ＬＥＤとは異なる電子部品を更に有しており、脱型痕跡部は、電子部品が設けられている領域と対向する部位に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、機能表示基板１４０２の接続コネクタ１４０２ｂ、図１６８などの記載を参照）。

【２６０９】

本構成によれば、基板ケースにＬＥＤ基板を収容させる際に、基板ケースの脱型痕跡部とＬＥＤ基板の電子部品とが重なるようにすることで、基板ケースに対するＬＥＤ基板を正しい向きにすることが可能となる。これにより、遊技機の製造において、基板ケースの脱型痕跡部を目安にしてＬＥＤ基板を正しい向きにして組立てることができる。

【２６１０】

このように、上記の解決手段によれば、遊技状態を表示する機能表示部のＬＥＤ基板を正しく取付けさせることが可能な遊技機を提供することができる。

【２６１１】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態における遊技盤５の機能表示ユニット１４００は上記解決手段の機能表示部に、本実施形態における機能表示ユニット１４００の第一ケース１４０１および第二ケース１４０３は上記解決手段の基板ケースに、本実施形態における機能表示基板１４０２は上記解決手段のＬＥＤ基板に、本実施形態における機能表示基板１４０２の接続コネクタ１４０２ｂは上記解決手段の電子部品に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記

解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。
【２６１２】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態によれば、遊技盤５の遊技領域５ａを遊技球Ｂが流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示ユニット１４００において、第一ケース１４０１と第二ケース１４０３とで構成される基板ケースにおいて、ＬＥＤ基板としての機能表示基板１４０２と対面する部位に脱型痕跡部２５１９を設けている。これにより、機能表示基板１４０２を第一ケース１４０１などの内部に収容すると、第一ケース１４０１などの底面に設けられている脱型痕跡部２５１９が機能表示基板１４０２に隠れて見えなくなるため、機能表示基板１４０２が第一ケース１４０１などに確実に収容（挿入）されているか否かの目視確認を助けることができる。従って、第一ケース１４０１などに対して機能表示基板１４０２を正しく取付けることができ、機能表示ユニット１４００において誤った表示がなされることはない。
【２６１３】
また、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００において、第一ケース１４０１などに機能表示基板１４０２を収容すると、第一ケース１４０１などの底面に設けられている脱型痕跡部２５１９が機能表示基板１４０２によって覆われるため、第一ケース１４０１などの底面の脱型痕跡部２５１９が外部から見えることはなく、見栄えが悪くなることはない。
【２６１４】
更に、本実施形態によれば、第一ケース１４０１において、機能表示基板１４０２の複数のＬＥＤ１４０２ａと対応する複数のＬＥＤ孔１４０１ｄを避けた部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、第一ケース１４０１の製造時において、第一ケース１４０１を射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されてＬＥＤ孔１４０１ｄが変形することはなく、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０２ａからの光を確実に通すことができる。
【２６１５】
また、本実施形態によれば、機能表示基板１４０２に、ＬＥＤ１４０２ａとは異なる電子部品としての接続コネクタ１４０２ｂを設けていると共に、第一ケース１４０１など底面の脱型痕跡部２５１９を、接続コネクタ１４０２ｂが設けられている領域と対向する部位に設けるようにしている。これにより、第一ケース１４０１などに機能表示基板１４０２を収容させる際に、第一ケース１４０１などの底面の脱型痕跡部２５１９と接続コネクタ１４０２ｂとが重なるようにすることで、第一ケース１４０１などに対する機能表示基板１４０２を正しい向きにすることが可能となるため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造において、第一ケース１４０１などの底面の脱型痕跡部２５１９を目安にして機能表示基板１４０２を正しい向きにして組立てることができる。
【２６１６】
［９－４ｃ．小括Ｃ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部が設けられている（例えば、特許文献：特開２００８－２２８８６７号公報）。機能表示部には、複数のＬＥＤが設けられたＬＥＤ基板を有しており、各ＬＥＤの点灯・点滅などにより、例えば、遊技球の入球により抽選された特別図柄や普通図柄などを表示することができる。
【２６１７】
しかしながら、何らかの理由により機能表示部での表示が見え難くなると、遊技者によっては機能表示部での表示が遊技状態とは異なっていると誤認してしまい、不信感を覚えることで遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【２６１８】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技状態を表示する機能表示部での表示

の誤認を低減させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２６１９】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を備えた遊技機であって、
前記機能表示部は、
複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板の前方に設けられており、各前記ＬＥＤごとに対応している複数の窓部を有する前カバーと、を具備し、
該前カバーの後面において前記窓部を避けた部位に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【２６２０】
ここで、「機能表示部」とは、遊技領域において遊技球が流下することにより変化する遊技状態として、遊技球の入球または通過により抽選された普通図柄、遊技球の入球により抽選された特別図柄、表示が保留されている普通図柄の保留数、表示が保留されている特別図柄の保留数、大当り遊技のような所定パターンの有利遊技状態の繰り返し数（ラウンド数）、などの少なくとも一つを表示するものである。
【２６２１】
また、「前カバー」としては、「遊技盤の最前面を構成する部材（例えば、前構成部材）に取付けられるもの」、「遊技盤の最前面を構成する部材（例えば、前構成部材）」、などが挙げられる。
【２６２２】
また、「窓部を避けた部位」としては、「複数の窓部からなる窓部群（例えば、リフレクタ部）から離れた部位」、「窓部の周縁付近の部位」、「前カバーの周縁から後方へ延出している周壁部の後端面の部位」、などが挙げられる。
【２６２３】
更に、「脱型痕跡部」は、前カバーを成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）により前カバーに付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【２６２４】
手段１の構成によると、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を備えた遊技機であって、機能表示部は、複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、ＬＥＤ基板の前方に設けられており、各ＬＥＤごとに対応している複数の窓部を有する前カバーと、を具備し、前カバーの後面において窓部を避けた部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－２．機能表示ユニットに設けられている脱型痕跡部］の章、機能表示ユニット１４００、第一ケース１４０１、ＬＥＤ孔１４０１ｄ、機能表示基板１４０２、脱型痕跡部２５１９、図１６７～図１６９などの記載を参照）。
【２６２５】
本構成によれば、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部において、ＬＥＤ基板の前方に設けられている前カバーに、ＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応している窓部をそれぞれ設けているため、当該窓部により対応しているＬＥＤの点灯・点滅を明確に見せることができる。そして、本構成では、前カバーの後面において、複数の窓部を避けて脱型痕跡部を設けている。これにより、前カバーの製造時において、前カバーを射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されて窓部が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことがで

きる。このようなことから、機能表示部での表示を見え易くすることができるため、遊技者に対して機能表示部での遊技状態の表示の誤認を低減させることができ、誤認により不信感を覚えてしまうことはないと共に、遊技者に対して本遊技機での遊技を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２６２６】

また、機能表示部における前カバーの後面に脱型痕跡部を設けているため、前方の遊技者からは前カバーの脱型痕跡部が見えることはなく、見栄えが悪くなることはない。

【２６２７】

なお、前カバーの脱型痕跡部を、複数の窓部からなる窓部群から離れた部位に設けるようにしても良い。これにより、上述と同様に、前カバーの製造時において窓部が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２６２８】

また、前カバーにＬＥＤ基板が収容されるようにすると共に、前カバーの後面におけるＬＥＤ基板と対面する部位に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、ＬＥＤ基板を前カバーに収容すると、前カバーの後面に設けられている脱型痕跡部がＬＥＤ基板に隠れて見えなくなるため、ＬＥＤ基板が前カバーに確実に収容（挿入）されているか否かの目視確認を助けることができる。従って、前カバーに対してＬＥＤ基板を正しく取付けることができるため、窓部に対してＬＥＤがズレることはなく、窓部を通してＬＥＤの発光（点灯・点滅）を確実に遊技者側へ見せることができ、機能表示部において遊技状態の表示が誤認されることはない。

【２６２９】

また、ＬＥＤ基板に、ＬＥＤとは異なる電子部品が設けられており、前カバーの脱型痕跡部を、電子部品が設けられている領域と対向する部位に設けるようにしても良い。これにより、前カバーとＬＥＤ基板とを合わせる際に、前カバーの脱型痕跡部とＬＥＤ基板の電子部品とが重なるようにすることで、前カバーに対してＬＥＤ基板を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、前カバーの脱型痕跡部を目安にしてＬＥＤ基板を正しい向きにして組立てることができる。

【２６３０】

手段２：手段１の構成において、

「前記脱型痕跡部は、

複数の前記窓部からなる窓部群から離れた部位に設けられている」

ことを特徴とする。

【２６３１】

手段２の構成によると、脱型痕跡部は、複数の窓部からなる窓部群から離れた部位に設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、第一ケース１４０１のリフレクタ部１４０１ｃ、図１６８などの記載を参照）。

【２６３２】

本構成によれば、機能表示部の前カバーにおいて、複数の窓部からなる窓部群から離れた部位に脱型痕跡部を設けているため、上述と同様に、前カバーの製造時において窓部が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２６３３】

このように、上記の解決手段によれば、遊技状態を表示する機能表示部での表示の誤認を低減させることが可能な遊技機を提供することができる。

【２６３４】

（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）

本実施形態における遊技盤５の機能表示ユニット１４００は上記解決手段の機能表示部に、本実施形態における機能表示ユニット１４００の第一ケース１４０１は上記解決手段の前カバーに、本実施形態における第一ケース１４０１のＬＥＤ孔１４０１ｄは上記解決

手段の窓部に、本実施形態における第一ケース１４０１のリフレクタ部１４０１ｃは上記解決手段の窓部群が設けられている部位に、本実施形態における機能表示基板１４０２は上記解決手段のＬＥＤ基板に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。

【２６３５】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態によれば、遊技盤５の遊技領域５ａを遊技球Ｂが流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示ユニット１４００において、機能表示基板１４０２の前方に設けられている第一ケース１４０１に、機能表示基板１４０２の各ＬＥＤ１４０２ａと対応しているＬＥＤ孔１４０１ｄをそれぞれ設けているため、当該ＬＥＤ孔１４０１ｄにより対応しているＬＥＤ１４０２ａの点灯・点滅を明確に見せることがでる。この際に、第一ケース１４０１の後面において、複数のＬＥＤ孔１４０１ｄを避けて脱型痕跡部２５１９を設けている。これにより、第一ケース１４０１の製造時において、第一ケース１４０１を射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されてＬＥＤ孔１４０１ｄが変形することはなく、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０２ａからの光を確実に通すことができる。このようなことから、機能表示ユニット１４００での表示を見え易くすることができるため、遊技者に対して機能表示ユニット１４００での遊技状態の表示の誤認を低減させることができ、誤認により不信感を覚えてしまうことはないと共に、遊技者に対して本パチンコ機１での遊技を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２６３６】

また、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００における第一ケース１４０１の後面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、前方の遊技者からは第一ケース１４０１の脱型痕跡部２５１９が見えることはなく、見栄えが悪くなることはない。

【２６３７】

更に、本実施形態によれば、第一ケース１４０１の脱型痕跡部２５１９を、複数のＬＥＤ孔１４０１ｄからなる窓部群が設けられているリフレクタ部１４０１ｃから離れた部位に設けているため、上述と同様に、第一ケース１４０１の製造時においてＬＥＤ孔１４０１ｄが変形することはなく、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０２ａからの光を確実に通すことができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【２６３８】

また、本実施形態によれば、第一ケース１４０１に機能表示基板１４０２が収容されるようにしていると共に、第一ケース１４０１の後面における機能表示基板１４０２と対面する部位に脱型痕跡部２５１９を設けるようにしている。これにより、機能表示基板１４０２を第一ケース１４０１に収容すると、第一ケース１４０１の後面に設けられている脱型痕跡部２５１９が機能表示基板１４０２に隠れて見えなくなるため、機能表示基板１４０２が第一ケース１４０１に確実に収容（挿入）されているか否かの目視確認を助けることができる。従って、第一ケース１４０１に対して機能表示基板１４０２を正しく取付けることができるため、ＬＥＤ孔１４０１ｄに対してＬＥＤ１４０２ａがズレることはなく、ＬＥＤ孔１４０１ｄを通してＬＥＤ１４０２ａの発光（点灯・点滅）を確実に遊技者側へ見せることができ、機能表示ユニット１４００において遊技状態の表示が誤認されることはない。

【２６３９】

また、本実施形態によれば、機能表示基板１４０２に、ＬＥＤ１４０２ａとは異なる電子部品としての接続コネクタ１４０２ｂが設けられており、第一ケース１４０１の脱型痕跡部２５１９を、接続コネクタ１４０２ｂが設けられている領域と対向する部位に設けるようにしている。これにより、第一ケース１４０１と機能表示基板１４０２とを合わせる際に、第一ケース１４０１の脱型痕跡部２５１９と機能表示基板１４０２の接続コネクタ１４０２ｂとが重なるようにすることで、第一ケース１４０１に対して機能表示基板１４０２を正しい向きにすることが可能となるため、パチンコ機１の製造において、第一ケー

ス１４０１の脱型痕跡部２５１９を目安にして機能表示基板１４０２を正しい向きにして組立てることができる。
【２６４０】
［９－４ｄ．小括Ｄ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部が設けられている（例えば、特許文献：特開２００８－２２８８６７号公報）。機能表示部には、複数のＬＥＤが設けられたＬＥＤ基板を有しており、各ＬＥＤの点灯・点滅などにより、例えば、遊技球の入球により抽選された特別図柄や普通図柄などを表示することができる。
【２６４１】
ところで、遊技状態を表示する機能表示部の見栄えが悪いと、遊技者によっては幻滅してしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【２６４２】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技状態を表示する機能表示部の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２６４３】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記機能表示部は、
複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、
該ＬＥＤ基板に対して前後方向の一方側に設けられているカバーと、を具備し、
該カバーは、
外周縁から前後方向の他方側へ突出している堰部を有しており、
該堰部の先端面に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【２６４４】
ここで、「機能表示部」とは、遊技領域において遊技球が流下することにより変化する遊技状態として、遊技球の入球または通過により抽選された普通図柄、遊技球の入球により抽選された特別図柄、表示が保留されている普通図柄の保留数、表示が保留されている特別図柄の保留数、大当り遊技のような所定パターンの有利遊技状態の繰り返し数（ラウンド数）、などの少なくとも一つを表示するものである。
【２６４５】
また、「カバー」としては、「ＬＥＤ基板の前側に設けられる前カバー（第一ケース）」、「ＬＥＤ基板の後側に設けられる後カバー（第二ケース）」、などが挙げられる。また、「前カバー」としては、「遊技盤の最前面を構成するもの（例えば、前構成部材）」、「遊技盤の最前面を構成する取付部材（例えば、前構成部材）に後方から取付けられるもの」、などが挙げられる。
【２６４６】
更に、「脱型痕跡部」は、カバーを成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）によりカバーに付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【２６４７】
手段１の構成によると、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表

示可能な機能表示部を有する遊技盤を備えた遊技機であって、機能表示部は、複数のＬＥＤを有しているＬＥＤ基板と、ＬＥＤ基板に対して前後方向の一方側に設けられているカバーと、を具備し、カバーは、外周縁から前後方向の他方側へ突出している堰部を有しており、堰部の先端面に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－２．機能表示ユニットに設けられている脱型痕跡部］の章、機能表示ユニット１４００、第一ケース１４０１、機能表示基板１４０２、第二ケース１４０３、脱型痕跡部２５１９、図１６７および図１６８などの記載を参照）。

【２６４８】

本構成によれば、遊技領域を遊技球が流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示部において、ＬＥＤ基板における前後方向の一方側に設けられているカバーにおける堰部の先端面に脱型痕跡部を設けている。つまり、カバーにおける幅の狭い堰部の先端面に脱型痕跡部を設けているため、脱型痕跡部を目立ち難くすることができる。これにより、カバーにおける堰部の先端面が遊技者側から見えても、脱型痕跡部が目立ち難いため、脱型痕跡部による見栄えの悪化を低減させることができ、脱型痕跡部が見えることにより遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２６４９】

なお、機能表示部を、取付部材に対して後方から取付けられるようにすると共に、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、取付部材に後方から機能表示部を取付けると、取付部材の後面の脱型痕跡部が機能表示部に隠れて見えなくなり、機能表示部が取付部材に確実に取付けられているか否かの目視確認を助けることができる。

【２６５０】

また、上記のように、取付部材の後面に脱型痕跡部を設ける場合、取付部材の後面において、機能表示部における特定の部位（例えば、ＬＥＤ孔から離れた前壁部、ＬＥＤ基板の接続コネクタのような電子部品、など）の前方に位置するように脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材に機能表示部を取付ける際に、取付部材の脱型痕跡部と機能表示部の特定の部位とが前後に重なるようにすることで、取付部材に対する機能表示部を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、取付部材の脱型痕跡部を目安にして機能表示部を正しい向きにして組立てることができる。

【２６５１】

更に、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーとしても良い。これにより、堰部の先端面が後方を向くため、その先端面に設けられている脱型痕跡部が前方の遊技者からは見ることはできず、脱型痕跡部により見栄えが悪化することはない。

【２６５２】

また、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーと、ＬＥＤ基板の後方に設けられる後カバーとで構成し、前カバーの堰部の先端面（後端面）と後カバーの堰部の先端面（前端面）とが互いに対面するようにしても良い。これにより、それぞれの堰部の先端面に設けられている脱型痕跡部が、相手側の堰部によって隠されるため、遊技者側から脱型痕跡部が見えることはなく、脱型痕跡部により機能表示部の見栄えが悪くなることはない。また、この場合、機能表示部に組立てた状態では、前カバーおよび後カバーそれぞれの堰部の先端面に設けられている脱型痕跡部が、相手側の堰部によって隠されるため、堰部の先端面の脱型痕跡部が見えるか否かによって、機能表示部が正しく組立てられているか否かを確認することができる。

【２６５３】

また、カバーを、ＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーと、ＬＥＤ基板の後方に設けられる後カバーとで構成し、前カバーの堰部で囲まれた部位の内側に、後カバーがその堰部ごと挿入されるようにしても良い。これにより、前カバーの堰部や後カバーの堰部それぞれの先端面に設けられている脱型痕跡部が前方の遊技者側からは見えないため、脱型痕跡部により機能表示部の見栄えが悪くなることはない。

【２６５４】
更に、カバーとしてＬＥＤ基板の前方に設けられる前カバーを含むものとすると共に、前カバーにＬＥＤ基板の各ＬＥＤと対応する窓部（ＬＥＤ孔）を設けるようにしても良い。これにより、前カバーにおける堰部の先端面に脱型痕跡部を設けているため、当該脱型痕跡部が窓部から離れた部位に設けられることとなる。従って、前カバーの製造時において、前カバーを射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されても、当該部位（脱型痕跡部の部位）が窓部から離れているため、窓部が変形することはなく、ＬＥＤ基板のＬＥＤからの光を確実に通すことができる。このようなことから、機能表示部での表示を見え易くすることができるため、遊技者に対して機能表示部での表示の誤認を低減させることができ、誤認により不信感を覚えてしまうことはないと共に、遊技者に対して本遊技機での遊技を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【２６５５】
手段２：手段１の構成において、
「前記機能表示部は、
取付部材に対して後方から取付けられるものであり、
該取付部材は、
後面における前記機能表示部と重なる部位に前記脱型痕跡部が設けられている」
ものであることを特徴とする。
【２６５６】
ここで、「取付部材」としては、「遊技盤の最前面を構成する部材（例えば、前構成部材）」、「前方に遊技領域が設けられる平板状の遊技パネル（遊技板）の前面に取付けられる部材」、などが挙げられる。
【２６５７】
手段２の構成によると、機能表示部は、取付部材に対して後方から取付けられるものであり、取付部材は、後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、前構成部材１０００の機能表示ユニット取付部１０１１、機能表示ユニット１４００、脱型痕跡部２５１９、図１６７などの記載を参照）。
【２６５８】
本構成によれば、取付部材の後面における機能表示部と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、取付部材に後方から機能表示部を取付けると、取付部材の後面の脱型痕跡部が機能表示部に隠れて見えなくなり、機能表示部が取付部材に確実に取付けられているか否かの目視確認を助けることができる。
【２６５９】
なお、取付部材の後面において、機能表示部における特定の部位（例えば、ＬＥＤ孔から離れた前壁部、ＬＥＤ基板の接続コネクタのような電子部品、など）の前方に位置するように脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、取付部材に機能表示部を取付ける際に、取付部材の脱型痕跡部と機能表示部の特定の部位とが前後に重なるようにすることで、取付部材に対する機能表示部を正しい向きにすることが可能となるため、遊技機の製造において、取付部材の脱型痕跡部を目安にして機能表示部を正しい向きにして組立てることができる。
【２６６０】
このように、上記の解決手段によれば、遊技状態を表示する機能表示部の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２６６１】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態における遊技盤５の前構成部材１０００は上記解決手段の取付部材に、機能表示ユニット１４００は上記解決手段の機能表示部に、本実施形態における機能表示ユニ

ット１４００の第一ケース１４０１および第二ケース１４０３は上記解決手段のカバーに、本実施形態における第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅおよび第二ケース１４０３の周壁部１４０３ｂは上記解決手段の堰部に、本実施形態における機能表示基板１４０２は上記解決手段のＬＥＤ基板に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。

【２６６２】

（本実施形態の特徴的な作用効果）

本実施形態によれば、遊技盤５の遊技領域５ａを遊技球Ｂが流下することにより変化する遊技状態を表示可能な機能表示ユニット１４００において、機能表示基板１４０２における前後方向の一方側に設けられている第一ケース１４０１や第二ケース１４０３における周壁部１４０１ｅや周壁部１４０３ｂの先端面に脱型痕跡部２５１９を設けている。つまり、第一ケース１４０１などにおける幅の狭い周壁部１４０１ｅの先端面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができる。これにより、第一ケース１４０１などにおける周壁部１４０１ｅの先端面が遊技者側から見えても、脱型痕跡部２５１９が目立ち難いため、脱型痕跡部２５１９による見栄えの悪化を低減させることができ、脱型痕跡部２５１９が見えることにより遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２６６３】

また、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００を、前構成部材１０００の機能表示ユニット取付部１０１１に対して後方から取付けられるようにすると共に、機能表示ユニット取付部１０１１（収容凹部１０１１ａ）の後面における機能表示ユニット１４００と重なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けるようにしている。これにより、機能表示ユニット取付部１０１１に後方から機能表示ユニット１４００を取付けると、機能表示ユニット取付部１０１１の後面の脱型痕跡部２５１９が機能表示ユニット１４００に隠れて見えなくなり、機能表示ユニット１４００が機能表示ユニット取付部１０１１に確実に取付けられているか否かの目視確認を助けることができる。

【２６６４】

また、本実施形態によれば、機能表示ユニット取付部１０１１の後面において、機能表示ユニット１４００における特定の部位としての（例えば、第一ケース１４０１の前壁部１４０１ａ、機能表示基板１４０２の接続コネクタ１４０２ｂのような電子部品、など）の前方に位置するように脱型痕跡部２５１９を設けている。これにより、機能表示ユニット取付部１０１１に機能表示ユニット１４００を取付ける際に、機能表示ユニット取付部１０１１の脱型痕跡部２５１９と機能表示ユニット１４００の特定の部位とが前後に重なるようにすることで、機能表示ユニット取付部１０１１に対する機能表示ユニット１４００を正しい向きにすることが可能となるため、パチンコ機１（遊技盤５）の製造において、機能表示ユニット取付部１０１１の脱型痕跡部２５１９を目安にして機能表示ユニット１４００を正しい向きにして組立てることができる。

【２６６５】

更に、本実施形態によれば、機能表示基板１４０２の前方に設けられるカバーとしての第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅの先端面に脱型痕跡部２５１９を設けている。これにより、周壁部１４０１ｅの先端面が後方を向くため、その先端面に設けられている脱型痕跡部２５１９が前方の遊技者からは見ることはできず、脱型痕跡部２５１９により見栄えが悪化することはない。

【２６６６】

また、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００において、機能表示基板１４０２の前方に設けられる第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅで囲まれた部位の内側に、機能表示基板１４０２の後方に設けられる第二ケース１４０３がその周壁部１４０３ｂごと挿入されるようにしている。これにより、第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅや第二ケース１４０３の周壁部１４０３ｂそれぞれの先端面に設けられている脱型痕跡部２５１９が前方の遊技者側からは見えないため、脱型痕跡部２５１９により機能表示ユニット

１４００の見栄えが悪くなることはない。
【２６６７】
更に、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００において、第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅの先端面（後端面）と第二ケース１４０３の周壁部１４０３ｂの先端面（前端面）とが互いに対面するようにした場合、それぞれの周壁部１４０１ｅまたは周壁部１４０３ｂの先端面に設けられている脱型痕跡部２５１９が、相手側の周壁部１４０３ｂまたは周壁部１４０１ｅによって隠されるため、遊技者側から脱型痕跡部２５１９が見えることはなく、脱型痕跡部２５１９により機能表示ユニット１４００の見栄えが悪くなることはない。また、この場合、機能表示ユニット１４００に組立てた状態では、第一ケース１４０１の周壁部１４０１ｅや第二ケース１４０３の周壁部１４０３ｂそれぞれの先端面に設けられている脱型痕跡部２５１９が、相手側の周壁部１４０３ｂまたは周壁部１４０１ｅによって隠されるため、周壁部１４０１ｅや周壁部１４０３ｂの先端面の脱型痕跡部２５１９が見えるか否かによって、機能表示ユニット１４００が正しく組立てられているか否かを確認することができる。
【２６６８】
また、本実施形態によれば、機能表示ユニット１４００において、第一ケース１４０１における周壁部１４０１ｅの先端面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、当該脱型痕跡部２５１９がＬＥＤ孔１４０１ｄから離れた部位に設けられている。従って、第一ケース１４０１の製造時において、第一ケース１４０１を射出成形して金型から脱型する際に、エジェクタピンなどの脱型機構に押されても、当該部位（脱型痕跡部２５１９の部位）がＬＥＤ孔１４０１ｄから離れているため、ＬＥＤ孔１４０１ｄが変形することはなく、機能表示基板１４０２のＬＥＤ１４０２ａからの光を確実に通すことができる。このようなことから、機能表示ユニット１４００での表示を見え易くすることができるため、遊技者に対して機能表示ユニット１４００での表示の誤認を低減させることができ、誤認により不信感を覚えてしまうことはないと共に、遊技者に対して本パチンコ機１での遊技を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【２６６９】
［９－４ｅ．小括Ｅ］
（技術的特徴の背景）
パチンコ機のような遊技機には、遊技球が流下することにより遊技が行われる遊技領域と、遊技領域内へ遊技球を案内するレール部材と、を有する遊技盤を備えている（例えば、特許文献：特開２０１９－４１８７１号公報）。
【２６７０】
ところで、遊技盤の見栄えが悪いと、遊技者によっては幻滅してしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【２６７１】
そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、遊技盤の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２６７２】
（技術的特徴の解決手段）
手段１：遊技機において、
「遊技球が流下する遊技領域が前方に設けられている遊技板を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
前記遊技盤は、
発射された遊技球を前記遊技領域の上部へ案内する球通路を形成し、前記遊技板から前方へ突出していると共に前記球通路に沿って上下に延出しているレール部材を有しており、
該レール部材の後端面に脱型痕跡部が設けられている」
ことを特徴とする。
【２６７３】
ここで、「レール部材」としては、「遊技盤の中央に近い側の内レール」、「遊技盤の

中央に近い側の内レールよりも外側に設けられている外レール」、などが挙げられる。また、遊技領域から球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁がレール部材に設けられていても良いし、逆流防止弁がレール部材に設けられていなくても良い。

【２６７４】

また、「脱型痕跡部」は、レール部材を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）によりレール部材に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。

【２６７５】

手段１の構成によると、遊技球が流下する遊技領域が前方に設けられている遊技板を有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技盤は、発射された遊技球を遊技領域の上部へ案内する球通路を形成し、遊技板から前方へ突出していると共に球通路に沿って上下に延出しているレール部材を有しており、レール部材の後端面に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－１ａ．内レールに設けられている脱型痕跡部］の章、前構成部材１０００、外レール１００１、内レール１００２、図１６０～図１６３などの記載を参照）。

【２６７６】

本構成によれば、遊技球を遊技領域へ案内するレール部材の後端面に脱型痕跡部を設けていることから、遊技盤における遊技者の視線が行く部位としてのレール部材において、遊技者側からは脱型痕跡部を目立ち難くすることができるため、脱型痕跡部が見えることによる遊技盤の見栄えの悪化を低減させることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【２６７７】

また、レール部材の後端面に脱型痕跡部を設けているため、遊技球がレール部材の脱型痕跡部に接触することはなく、遊技球の動きに対して脱型痕跡部が影響を与えることはない。従って、遊技領域を流通している遊技球の動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球の動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２６７８】

なお、遊技盤に、球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁を更に設けると共に、逆流防止弁における遊技球と接触しない部位に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁によって、遊技領域内の遊技球が球通路へ逆流することはなく、遊技球を遊技領域内において確実に流下させることができ、遊技者に対して遊技球による遊技を楽しませることができる。そして、この場合、逆流防止弁では、遊技球と接触しない部位に脱型痕跡部を設けているため、逆流防止弁の脱型痕跡部が遊技球の動きに影響を与えることはなく、遊技者に対して違和感なく遊技球の動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２６７９】

また、上記のように逆流防止弁を設ける場合、逆流防止弁の後面のような遊技者から見え難い部位に脱型痕跡部を設けることが望ましい。これにより、脱型痕跡部によって逆流防止弁の見栄えが悪くなることはなく、遊技盤の見栄えが悪くなることはない。

【２６８０】

更に、上記のように逆流防止弁を設ける場合、遊技盤に逆流防止弁を開閉可能に支持するホルダ部を設けると共に、ホルダ部における所定位置（閉位置または開位置）の逆流防止弁と重なる部位に脱型痕跡部を設けるようにしても良い。これにより、例えば、逆流防止弁が閉位置の時に、ホルダ部の脱型痕跡部が逆流防止弁と重なるようにする場合、通常は逆流防止弁が閉位置の状態であるため、逆流防止弁とホルダ部の脱型痕跡部とが重なっており、逆流防止弁の存在によって脱型痕跡部が遊技者側から見え難くなっている。一方、逆流防止弁が開位置の状態では、ホルダ部の脱型痕跡部と逆流防止弁とが重なっていな

いため、脱型痕跡部が見え易くなるが、逆流防止弁が開位置の状態である時間は、遊技球が逆流防止弁の部位を通過する僅かな時間であるため、ホルダ部に設けられている脱型痕跡部の存在に気付き難い。このようなことから、遊技者からはホルダ部の脱型痕跡部に気付き難いため、その脱型痕跡部により遊技盤の見栄えが悪くなることはない。

【２６８１】

また、上記のように、逆流防止弁を開閉可能に支持するホルダ部を設ける場合、ホルダ部において、閉位置や開位置のような所定位置の逆流防止弁と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、遊技盤の組立ての際に、逆流防止弁を動作させて、逆流防止弁がホルダ部の脱型痕跡部と重なるか否かを見ることで、逆流防止弁の動作を確認することができ、ホルダ部の脱型痕跡部を逆流防止弁の動作の目安にすることができる。

【２６８２】

手段２：手段１の構成において、

「前記遊技盤は、

前記球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁を、更に有しており、

該逆流防止弁における遊技球と接触しない部位に前記脱型痕跡部が設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２６８３】

ここで、「逆流防止弁」としては、レール部材に設けられていても良いし、レール部材とは別に設けられていても良い。

【２６８４】

手段２の構成によると、遊技盤は、球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁を、更に有しており、逆流防止弁における遊技球と接触しない部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、逆流防止部材１００７、球逆流防止ユニット１０６１、図１６３などの記載を参照）。

【２６８５】

本構成によれば、球通路への遊技球の逆流を防止する逆流防止弁を備えているため、遊技領域内の遊技球が球通路へ逆流することはなく、遊技球を遊技領域内において確実に流下させることができ、遊技者に対して遊技球による遊技を楽しませることができる。そして、この逆流防止弁では、遊技球と接触しない部位に脱型痕跡部を設けているため、逆流防止弁の脱型痕跡部が遊技球の動きに影響を与えることはなく、遊技者に対して違和感なく遊技球の動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２６８６】

なお、逆流防止弁の後面のような遊技者から見え難い部位に脱型痕跡部を設けることが望ましい。これにより、脱型痕跡部によって逆流防止弁の見栄えが悪くなることはなく、遊技盤の見栄えが悪くなることはない。

【２６８７】

手段３：手段２の構成において、

「前記遊技盤は、

前記逆流防止弁を開閉可能に支持するホルダ部を有しており、

該ホルダ部には、所定位置の前記逆流防止弁と重なる部位に前記脱型痕跡部が設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２６８８】

ここで、「ホルダ部」としては、レール部材に設けられていても良いし、レール部材とは別に設けられていても良い。

【２６８９】

手段３の構成によると、遊技盤は、逆流防止弁を開閉可能に支持するホルダ部を有しており、ホルダ部には、所定位置（閉位置または開位置）の逆流防止弁と重なる部位に脱型痕跡部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、逆流防止部材１００７、球逆流防止ユニット１０６１、図１６３などの記載を参照）。

【２６９０】
本構成によれば、例えば、逆流防止弁が閉位置の時に、ホルダ部の脱型痕跡部が逆流防止弁と重なるようにする場合、通常は逆流防止弁が閉位置の状態であるため、逆流防止弁とホルダ部の脱型痕跡部とが重なっており、逆流防止弁の存在によって脱型痕跡部が遊技者側から見え難くなっている。一方、逆流防止弁が開位置の状態では、ホルダ部の脱型痕跡部と逆流防止弁とが重なっていないため、脱型痕跡部が見え易くなるが、逆流防止弁が開位置の状態である時間は、遊技球が逆流防止弁の部位を通過する僅かな時間であるため、ホルダ部に設けられている脱型痕跡部の存在に気付き難い。このようなことから、遊技者からはホルダ部の脱型痕跡部に気付き難いため、その脱型痕跡部により遊技盤の見栄えが悪くなることはない。
【２６９１】
また、ホルダ部において、閉位置や開位置のような所定位置の逆流防止弁と重なる部位に脱型痕跡部を設けているため、遊技盤の組立ての際に、逆流防止弁を動作させて、逆流防止弁がホルダ部の脱型痕跡部と重なるか否かを見ることで、逆流防止弁の動作を確認することができ、ホルダ部の脱型痕跡部を逆流防止弁の動作の目安にすることができる。
【２６９２】
このように、上記の解決手段によれば、遊技盤の見栄えの悪化を低減させて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２６９３】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５における前構成部材１０００の外レール１００１および内レール１００２は上記解決手段のレール部材に、本実施形態における外レール１００１と内レール１００２とで形成される通路は上記解決手段の球通路に、本実施形態における逆流防止部材１００７は上記解決手段の逆流防止弁に、本実施形態における球逆流防止ユニット１０６１の収容凹部１０６１ａは上記解決手段のホルダ部に、本実施形態における遊技パネル１１００は上記解決手段の遊技板に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。
【２６９４】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂを遊技領域５ａへ案内する内レール１００２の後端面に脱型痕跡部２５１９を設けていることから、遊技盤５における遊技者の視線が行く部位としての内レール１００２において、遊技者側から脱型痕跡部２５１９を目立ち難くすることができるため、内レール１００２の脱型痕跡部２５１９が見えることによる遊技盤５の見栄えの悪化を低減させることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。
【２６９５】
また、本実施形態によれば、内レール１００２の後端面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、遊技球Ｂが内レール１００２の脱型痕跡部２５１９に接触することはなく、遊技球Ｂの動きに対して脱型痕跡部２５１９が影響を与えることはない。従って、遊技領域５ａを流通している遊技球Ｂの動きに違和感や不快感を与えてしまうことはなく、遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【２６９６】
更に、本実施形態によれば、外レール１００１と内レール１００２とで形成される球通路への遊技球Ｂの逆流を防止する逆流防止部材１００７によって、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂが外レール１００１と内レール１００２との間側へ逆流することはなく、遊技球Ｂを遊技領域５ａ内において確実に流下させることができ、遊技者に対して遊技球Ｂによる遊技を楽しませることができる。そして、この逆流防止部材１００７では、遊技球Ｂと接触しない部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、逆流防止部材１００７の脱型痕跡部２５１９が遊技球Ｂの動きに影響を与えることはなく、遊技者に対して違和感なく遊技球Ｂの動きを楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【２６９７】
　また、本実施形態によれば、逆流防止部材１００７の後面のような遊技者から見え難い部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、脱型痕跡部２５１９によって逆流防止部材１００７の見栄えが悪くなることはなく、遊技盤５の見栄えが悪くなることはない。
【２６９８】
　更に、本実施形態によれば、逆流防止部材１００７が閉位置の時に、球逆流防止ユニット１０６１における収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９が逆流防止部材１００７と重なるようにしている。通常は逆流防止部材１００７が閉位置の状態であるため、逆流防止部材１００７と収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９とが重なっており、逆流防止部材１００７の存在によって脱型痕跡部２５１９が遊技者側から見え難くなっている。一方、逆流防止部材１００７が開位置の状態では、収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９と逆流防止部材１００７とが重なっていないため、脱型痕跡部２５１９が見え易くなるが、逆流防止部材１００７が開位置の状態である時間は、遊技球Ｂが逆流防止部材１００７の部位を通過する僅かな時間であるため、収容凹部１０６１ａに設けられている脱型痕跡部２５１９の存在に気付き難い。このようなことから、遊技者からは収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９に気付き難いため、その脱型痕跡部２５１９により遊技盤５の見栄えが悪くなることはない。
【２６９９】
　また、本実施形態によれば、球逆流防止ユニット１０６１の収容凹部１０６１ａにおいて、閉位置や開位置のような所定位置の逆流防止部材１００７と重なる部位に脱型痕跡部２５１９を設けているため、遊技盤５の組立ての際に、逆流防止部材１００７を動作させて、逆流防止部材１００７が収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９と重なるか否かを見ることで、逆流防止部材１００７の動作を確認することができ、収容凹部１０６１ａの脱型痕跡部２５１９を逆流防止部材１００７の動作の目安にすることができる。
【２７００】
［９－４ｆ．小括Ｆ］
（技術的特徴の背景）
　パチンコ機のような遊技機には、遊技球が流下することにより遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤を備えていると共に、遊技盤には遊技機（遊技盤）に関する情報が表示された証紙が貼り付けられている（例えば、特許文献：特開２０２２－４９２２７号公報）。この種の遊技機では、証紙の他に、遊技盤の機種やスペックなどが表示された機種シールやスペックシールなども遊技盤に貼り付けられている。
【２７０１】
　ところで、証紙やスペックシールなどの特定シールに表示されている内容が見え辛いと、遊技者によっては当該遊技機に幻滅してしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。
【２７０２】
　そこで、以下の手段では、上記の実情に鑑み、証紙のような特定シールによる表示を見え易くして遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とするものである。
【２７０３】
（技術的特徴の解決手段）
　手段１：遊技機において、
　「遊技球が流下する遊技領域を有する遊技盤を備えた遊技機であって、
　前記遊技盤は、
　前記遊技領域の外周縁を構成している前構成部材に対して前方から着脱可能に設けられ、前面に特定シールが貼り付けられるシール台座を有しており、
　該シール台座は、
　後面に脱型痕跡部が設けられていると共に、該脱型痕跡部よりも後方へ突出している突出部が設けられている」

ことを特徴とする。
【２７０４】
ここで、「前構成部材」としては、「前方に遊技領域が設けられる平板状の遊技パネル（遊技板）の前面に取付けられる部材」、「遊技領域を区画する外レールのようなレール部材が設けられている部材」、「前方に遊技領域が設けられる平板状の遊技パネル（遊技板）と一体形成されている部材」、などが挙げられる。
【２７０５】
また、「特定シール」としては、「遊技機（遊技盤）のメーカー名（製造業者名）、製造番号、遊技盤の種類、などの遊技盤に関する情報が表示されている証紙」、「大当り確率、賞球数、大当りラウンド数、カウント数、などの遊技盤のスペックに関する情報が表示されているスペックシール」、「遊技機（遊技盤）の版権に関する情報が表示されている版権シール」、「遊技機（遊技盤）の検定に関する情報が表示されているＡＭシール」、などが挙げられる。
【２７０６】
更に、着脱可能な「シール台座」としては、「係止爪の係止により着脱可能とされているもの」、「取付ビスにより着脱可能とされているもの」、などが挙げられる。
【２７０７】
また、「脱型痕跡部」は、シール台座を成形型（金型）から取出すための機構（例えば、エジェクタピン、押上げコア、直上げコア、突出しコア、等）によりシール台座に付いた痕跡のことであり、他の部位と比較して微小に凹んでいたり凸っていたり傾斜していたりする。この「脱型痕跡部」の形状としては、「半円形のような円形の一部の形状」、「円形」、「三角形」、「四角形」、「五角形」、「六角形」、「多角形」、「不定形」、「星形」、「ハート形」、等が挙げられる。
【２７０８】
更に、シール台座の「突出部」としては、「柱状に突出しているもの」、「リブ状に突出しているもの」、「格子状に突出しているもの」、「壁状（堰状）に突出しているもの」、などが挙げられる。
【２７０９】
手段１の構成によると、遊技球が流下する遊技領域を有する遊技盤を備えた遊技機であって、遊技盤は、遊技領域の外周縁を構成している前構成部材に対して前方から着脱可能に設けられ、前面に特定シールが貼り付けられるシール台座を有しており、シール台座は、後面に脱型痕跡部が設けられていると共に、脱型痕跡部よりも後方へ突出している突出部が設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、［９－１．前構成部材に設けられている脱型痕跡部］の章、前構成部材１０００、証紙貼付部１０１２、遊技盤第一情報表示部１０１５、脱型痕跡部２５１９、図１６４および図１６５などの記載を参照）。
【２７１０】
本構成によれば、遊技球による遊技が行われる遊技領域を有する遊技盤において、証紙のような特定シールが貼り付けられるシール台座の後面に脱型痕跡部を設けているため、シール台座の前面には脱型痕跡部による凹凸がない。これにより、シール台座の前面に貼り付けられている特定シールに、脱型痕跡部による凹凸や皺が生じることはなく、特定シールによる表示を見え易くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【２７１１】
また、シール台座の後面に脱型痕跡部よりも後方に突出している突出部を設けているため、シール台座の脱型痕跡部が後方の部材に接触することはなく、脱型痕跡部の接触によるガタ付きが生じることはない。従って、シール台座に対して何らかの振動が伝わっても、シール台座がガタ付くことはなく、シール台座に貼り付けられている特定シールの表示を良好に視認することができる。
【２７１２】

なお、突出部を、リブ状、格子状、壁状、のようにシール台座の後面に沿って延びているようなものとすることが望ましい。これにより、突出部によりシール台座の強度・剛性を高めることができるため、温度や湿度などの環境変化や経年変化などによりシール台座が歪んでしまうことを低減させることができ、特定シールによる表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。

【２７１３】

また、シール台座を着脱可能に取付けている部位（例えば、係止爪、取付ビス、など）へのアプローチが、シール台座に貼り付けられている特定シールにより阻害されるようにすることが望ましい。これにより、遊技盤の組立て中やリサイクルなどにおいて遊技盤からシール台座を取外す場合、シール台座に貼り付けられている特定シールを剥がしたり破ったりする必要があり、シール台座を取外した痕跡が残ることとなるため、仕損じ品やリユース品であるか否かを判別することが可能となると共に、シール台座を取外すには特定シールを破る必要があるため、特定シール（証紙）に対する懸念がない。

【２７１４】

また、シール台座の脱型痕跡部を、特定シールと前後方向が重ならない部位、換言すると、特定シールによって隠されない部位、に設けるようにしても良い。これにより、脱型痕跡部によって特定シールを貼り付ける位置を示唆することが可能となる。

【２７１５】

また、シール台座を透明な部材で構成すると共に、脱型痕跡部を特定シールと前後方向が重なる部位に設けるようにしても良い。これにより、シール台座の前面に特定シールを貼り付けると、シール台座の脱型痕跡部が特定シールによって隠されて前方からは見えなくなり、特定シールが貼り付けられていないと脱型痕跡部が見えるため、遊技盤の組立て時において、特定シールの貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。

【２７１６】

更に、シール台座の突出部を、少なくとも外周縁に沿って設けるようにしても良い。つまり、シール台座に、外周縁から脱型痕跡部よりも後方に突出している壁状の突出部（堰部、周壁部、など）を設けるようにしても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができると共に、突出部によってシール台座の外周縁を補強することができ、シール台座の強度・剛性を高めることができる。従って、温度や湿度などの環境変化や経年変化などによりシール台座が歪んでしまうことを低減させることができ、特定シールによる表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。

【２７１７】

手段２：手段１の構成において、

「前記シール台座は、

前記突出部が少なくとも外周縁に沿って設けられている」

ものであることを特徴とする。

【２７１８】

手段２の構成によると、シール台座は、突出部が少なくとも外周縁に沿って設けられているものである（［発明を実施するための形態］では、証紙台座１０１２ｂ、第一情報シール台座１０１６、図１６４および図１６５などの記載を参照）。

【２７１９】

本構成によれば、シール台座の突出部を、外周縁に沿って設けている。つまり、シール台座に、外周縁から脱型痕跡部よりも後方に突出している壁状の突出部（堰部、周壁部、など）を設けている。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができると共に、突出部によってシール台座の外周縁を補強することができ、シール台座の強度・剛性を高めることができる。従って、温度や湿度などの環境変化や経年変化などによりシール台座が歪んでしまうことを低減させることができ、特定シールによる表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。

【２７２０】

このように、上記の解決手段によれば、証紙のような特定シールによる表示を見え易く

して遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。
【２７２１】
（技術的特徴の解決手段と実施形態との関係）
本実施形態の遊技盤５における証紙台座１０１２ｂ、第一情報シール台座１０１６、第二情報シール台座１０２１、第三情報シール台座１０２６は上記解決手段のシール台座に、本実施形態における証紙１０１２ｄ、第一情報シール１０１７、第二情報シール１０２２、第三情報シール１０２７は上記解決手段の特定シールに、本実施形態における周壁部１０１２ｃおよび突起部１０１６ｅは上記解決手段の突出部に、本実施形態における脱型痕跡部２５１９は上記解決手段の脱型痕跡部に、それぞれ相当している。
【２７２２】
（本実施形態の特徴的な作用効果）
本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技球Ｂによる遊技が行われる遊技領域５ａを有する遊技盤５において、証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７のような特定シールが貼り付けられるシール台座（証紙台座１０１２ｂ、第一情報シール台座１０１６）の後面に脱型痕跡部２５１９を設けているため、シール台座の前面には脱型痕跡部２５１９による凹凸がない。これにより、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の前面に貼り付けられている証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７に、脱型痕跡部による凹凸や皺が生じることはなく、証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７による表示を見え易くすることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【２７２３】
また、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の後面に脱型痕跡部２５１９よりも後方に突出している周壁部１０１２ｃや突起部１０１６ｅを設けているため、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９が後方の部材に接触することはなく、脱型痕跡部２５１９の接触によるガタ付きが生じることはない。従って、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６に対して何らかの振動が伝わっても、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６がガタ付くことはなく、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６に貼り付けられている証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７の表示を良好に視認することができる。
【２７２４】
更に、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６に、壁状の周壁部１０１２ｃや格子状の突起部１０１６ｅを設けていることから、周壁部１０１２ｃや突起部１０１６ｅにより証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の強度・剛性を高めることができるため、温度や湿度などの環境変化や経年変化などにより証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６が歪んでしまうことを低減させることができ、証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７による表示を長期に亘って良好な状態に維持することができる。
【２７２５】
また、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂを着脱可能に取付けている取付ビスへのアプローチが、証紙台座１０１２ｂに貼り付けられている証紙１０１２ｄにより阻害されるようにしているため、遊技盤５の組立て中やリサイクルなどにおいて遊技盤５から証紙台座１０１２ｂを取外す場合、証紙台座１０１２ｂに貼り付けられている証紙１０１２ｄを剥がしたり破ったりする必要があり、証紙台座１０１２ｂを取外した痕跡が残ることとなるため、仕損じ品やリユース品であるか否かを判別することが可能となると共に、証紙１０１２ｄが破られることで証紙１０１２ｄに対する懸念がない。
【２７２６】
また、本実施形態によれば、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６を透明な部材で構成すると共に、脱型痕跡部２５１９を証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７と前後方向が重なる部位に設けている。これにより、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の前面に証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７を貼り付けると、証紙台座１０１２ｂや第一情報シール台座１０１６の脱型痕跡部２５１９が証紙１０１２ｄ

や第一情報シール１０１７によって隠されて前方からは見えなくなり、証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７が貼り付けられていないと脱型痕跡部２５１９が見えるため、遊技盤５の組立て時において、証紙１０１２ｄや第一情報シール１０１７の貼り付け忘れに気付かせることが可能となる。

【２７２７】

以上、本発明を実施するための形態について説明したが、上記した実施形態は本技術思想を逸脱しない限り、適宜変更が可能である。すなわち、上記実施形態の一部を変更したり、上記複数の実施形態を組み合わせたりしたものであっても本技術思想を適用可能とされる。

【２７２８】

例えば、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機１やスロットマシンに適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。また、所謂、遊技者が遊技球Ｂに触れることのない、封入式遊技機や、管理遊技機と呼ばれる遊技機にも、応用可能である。

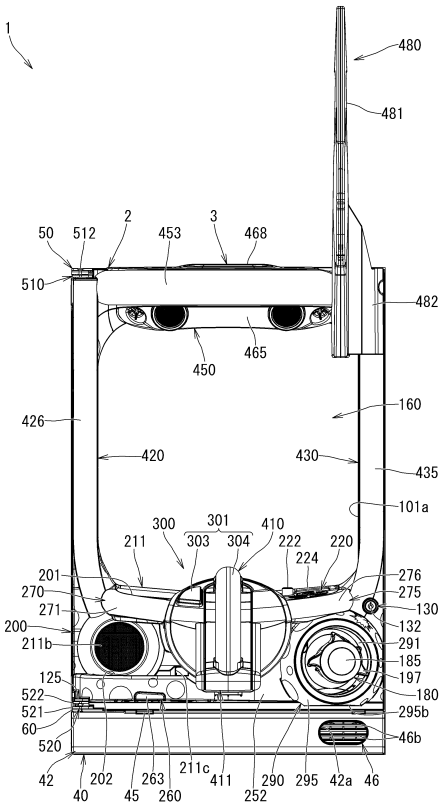
【符号の説明】

【２７２９】

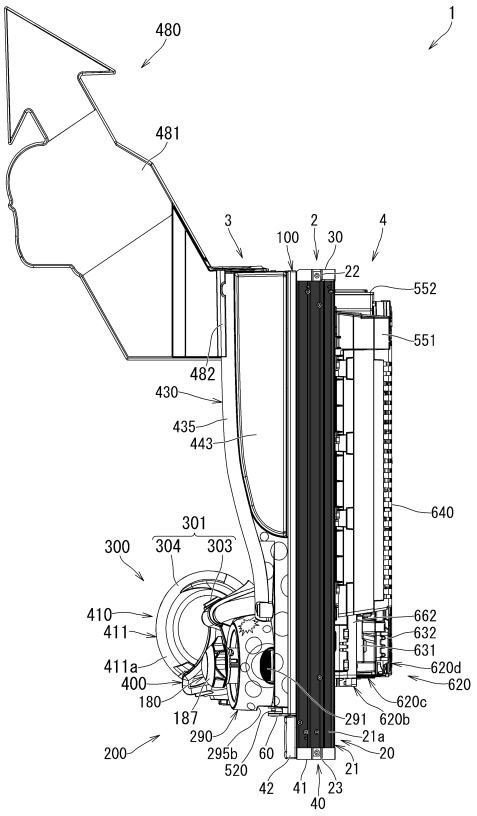
１　パチンコ機
２　外枠
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
１０００　前構成部材（取付部材）
１０１１　機能表示ユニット取付部
１０１１ａ　収容凹部
１０１１ｂ　開口部
１０１１ｃ　係止爪
１１００　遊技パネル
１４００　機能表示ユニット（機能表示部）
１４０１　第一ケース（カバー）
１４０１ａ　前壁部
１４０１ｂ　表示部
１４０１ｃ　リフレクタ部
１４０１ｄ　ＬＥＤ孔
１４０１ｅ　周壁部（堰部）
１４０２　機能表示基板（ＬＥＤ基板）
１４０２ａ　ＬＥＤ
１４０２ｂ　接続コネクタ
１４０３　第二ケース（カバー）
１４０３ａ　後壁部
１４０３ｂ　周壁部（堰部）
１４０４　機能表示シール
２５１９　脱型痕跡部

【図面】

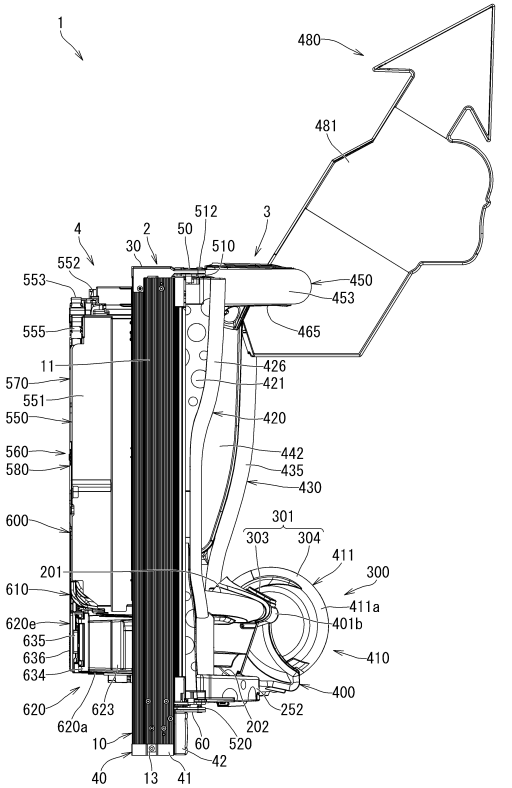
【図１】


1
480
481
50
512
2
453
3
468
510
482
450
465
426
160
420
430
435
101a
300
301
410
211
303
304
222
220
224
201
276
270
275
271
130
200
132
211b
291
185
125
197
522
180
521
295b
60
46b
520
42
202
263
211c
411
290
295
42a
46
40
45
260
252

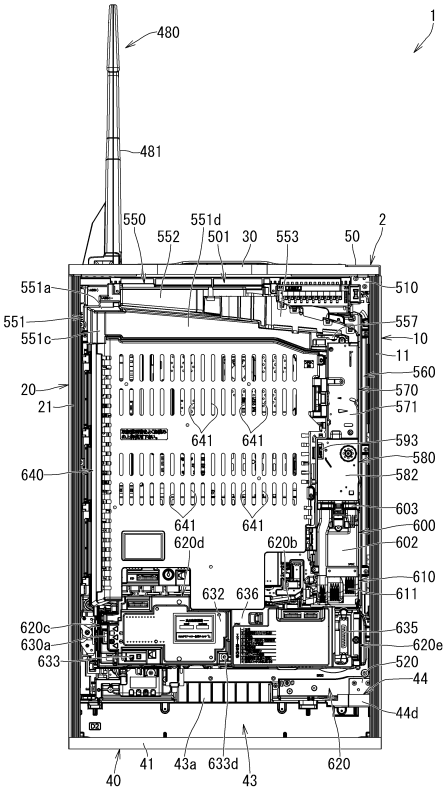
【図２】


480
1
481
3
100
2
30
4
22
552
551
482
430
435
443
640
301
300
304
303
410
411
662
632
411a
631
620d
400
620
180
620c
187
291
620b
290
21a
295b
60
20
200
520
21
42
41
23
40

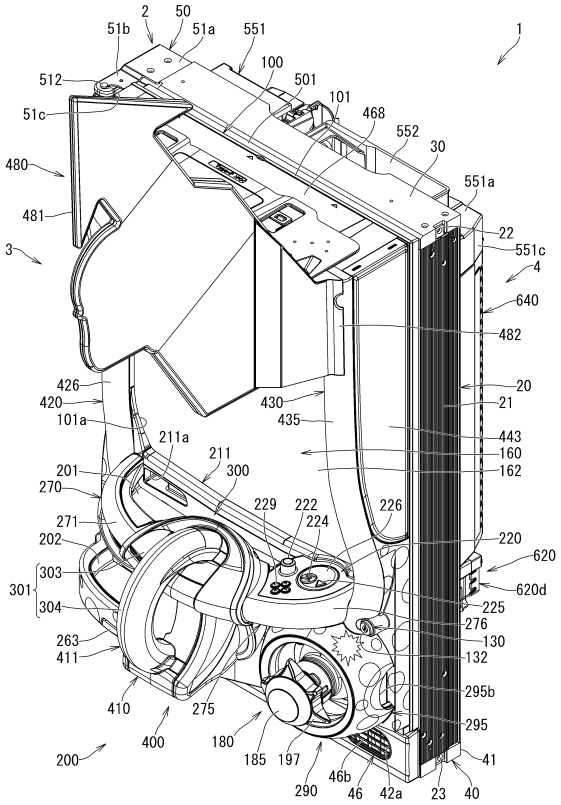
【図３】


1
480
481
4
2
512
3
30
50
510
552
450
553
453
555
465
11
426
570
421
551
550
420
560
442
580
435
430
600
301
303
304
411
201
300
610
411a
620e
401b
635
410
636
634
400
620
623
252
620a
202
10
60
520
42
40
13
41

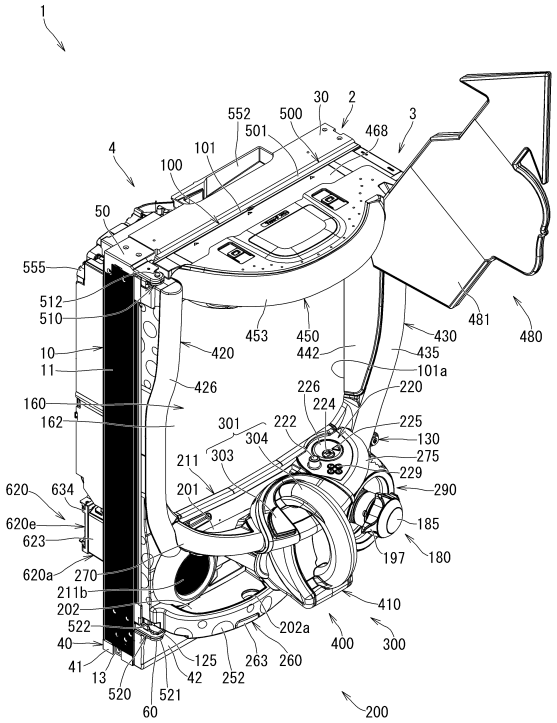
【図４】


480
1
481
550
551d
552
501
30
553
50
2
551a
510
551
557
551c
10
11
560
20
570
21
571
641
641
593
640
580
582
641
641
603
620d
620b
600
602
610
632
636
611
620c
635
630a
620e
633
520
44
44d
40
41
43a
633d
43
620

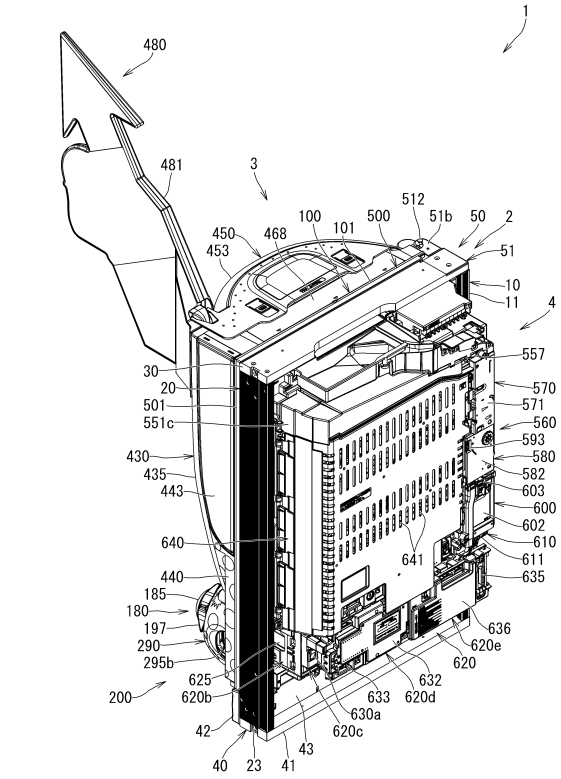
【図５】


1
2
50
51b
51a
551
100
501
101
468
552
30
551a
22
551c
4
640
482
20
21
443
160
162
512
51c
480
481
3
426
420
101a
211a
211
300
201
270
271
202
303
301
304
263
411
410
275
400
180
185
197
290
46b
46
42a
23
40
41
295
295b
132
130
276
225
620
620d
220
229
222
224
226
430
435

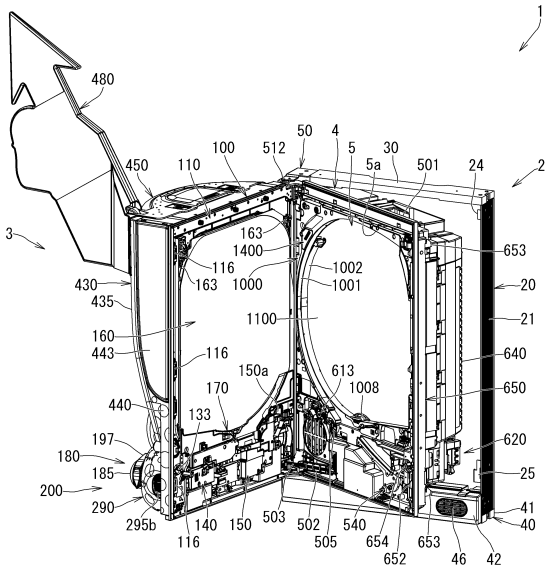
【図６】


1
4
100
101
552
501
500
30
2
468
3
481
480
50
555
512
510
10
11
420
453
450
442
430
435
101a
426
220
160
162
301
222
224
226
225
130
304
303
211
275
229
290
201
620
634
620e
623
620a
270
211b
202
522
40
41
13
520
521
60
185
197
180
410
202a
400
300
125
263
260
42
252
200

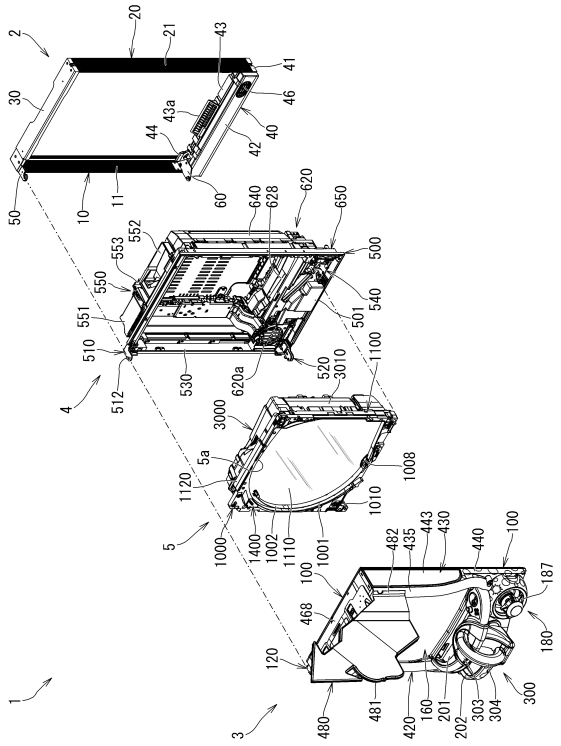
【図７】


1
480
481
3
450
468
453
100
101
500
512
51b
50
2
51
10
11
4
557
570
571
560
593
580
582
603
600
602
610
611
635
636
620e
620
632
620d
633
630a
620c
43
30
20
501
551c
430
435
443
640
440
185
180
197
290
295b
625
620b
200
42
40
23
41
641

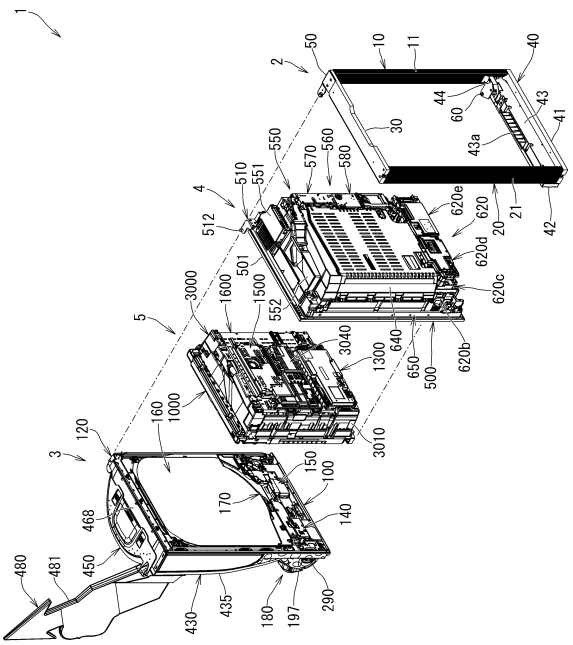
【図８】


1
480
50
4
100
512
5
30
5a
501
24
2
450
110
3
163
1400
653
116
1002
1000
1001
430
435
20
1100
21
160
443
116
640
150a
613
170
1008
650
440
133
197
620
180
185
25
200
290
295b
41
40
140
150
503
502
540
116
505
654
653
652
46
42

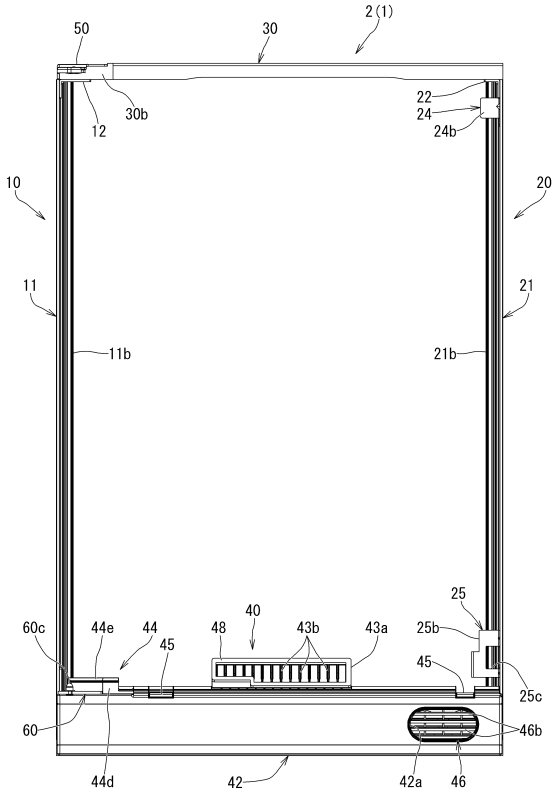
【図９】



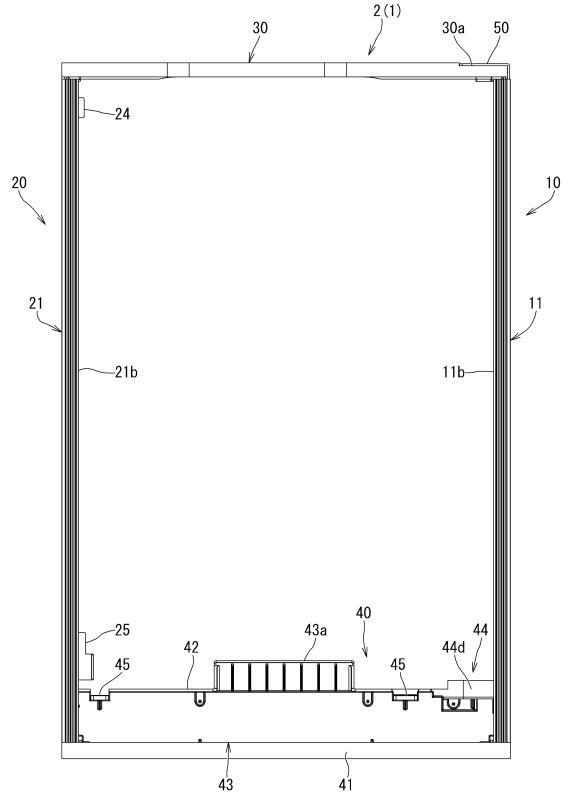
【図１０】



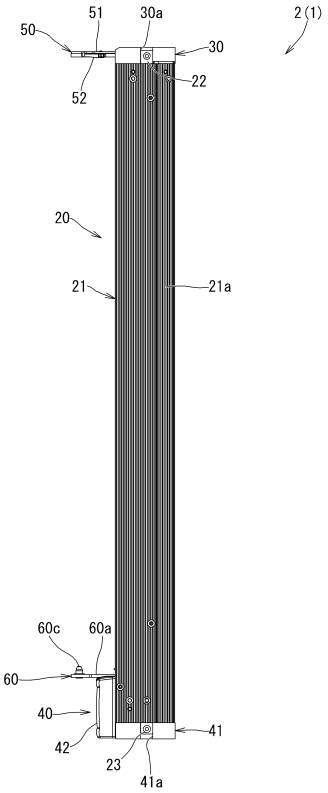
【図１１】



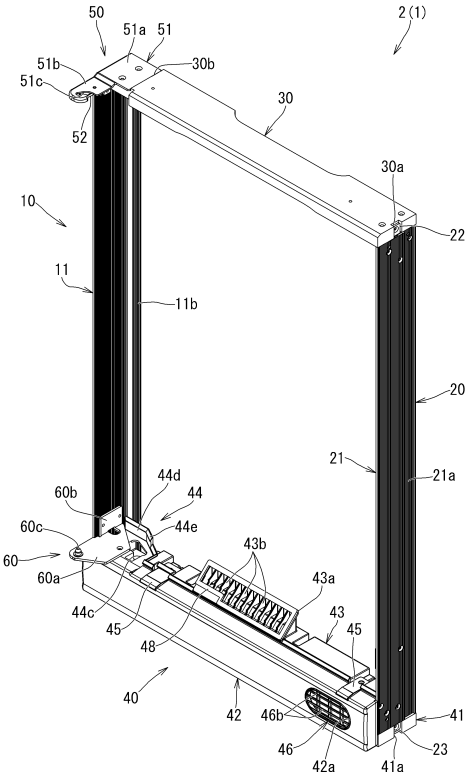
【図１２】



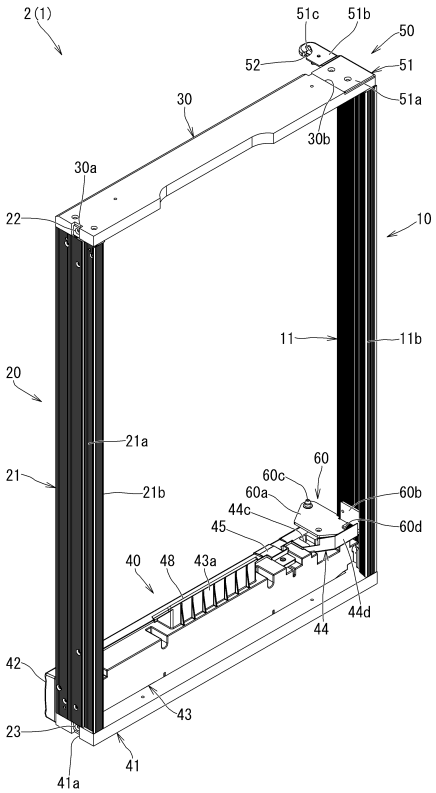
【図１３】



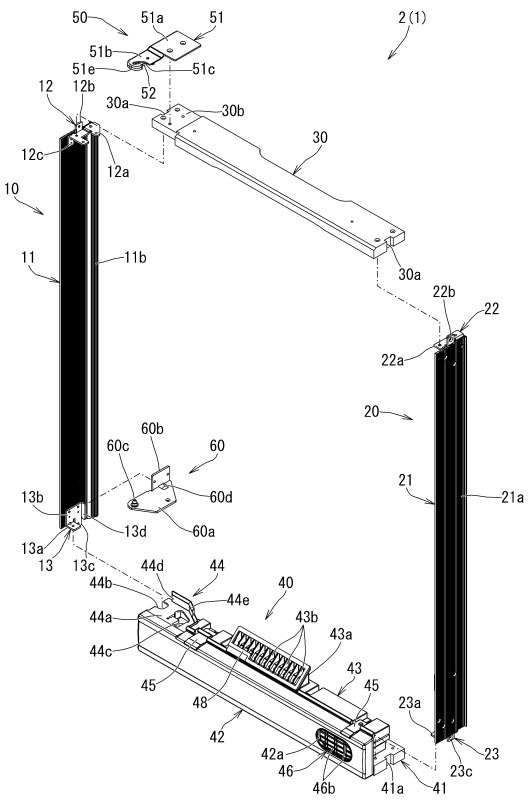
【図１４】



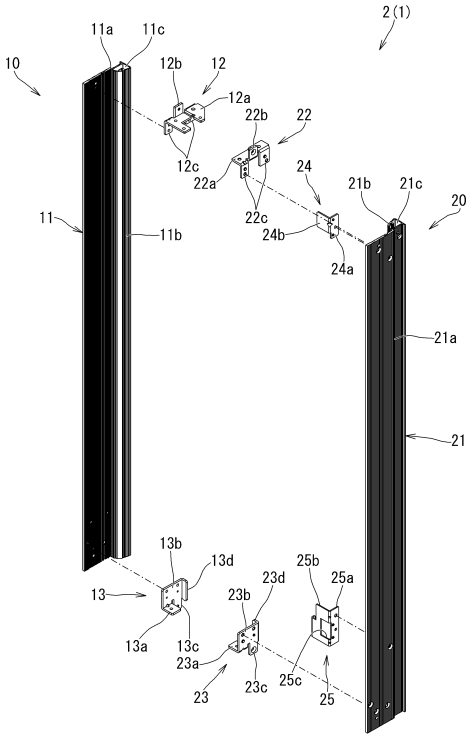
【図１５】



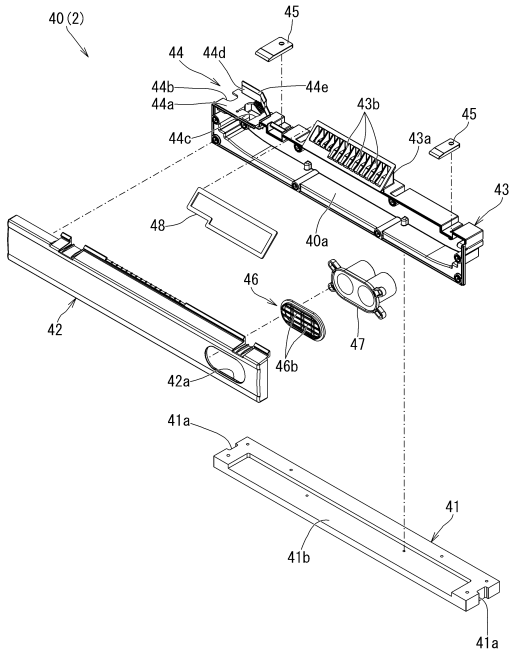
【図１６】



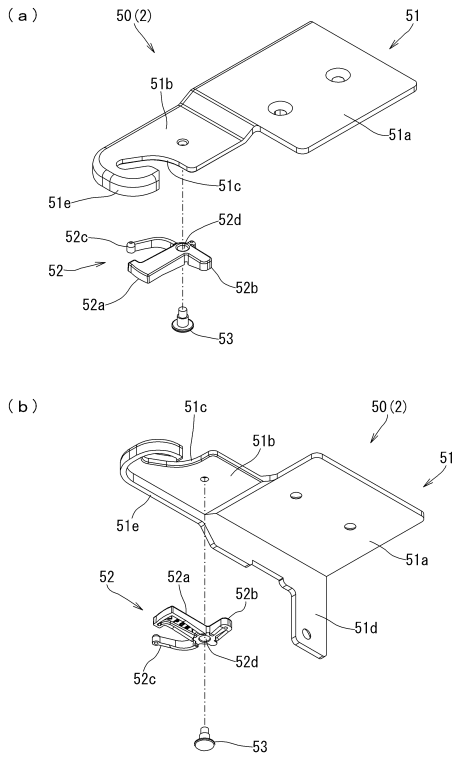
【図１７】



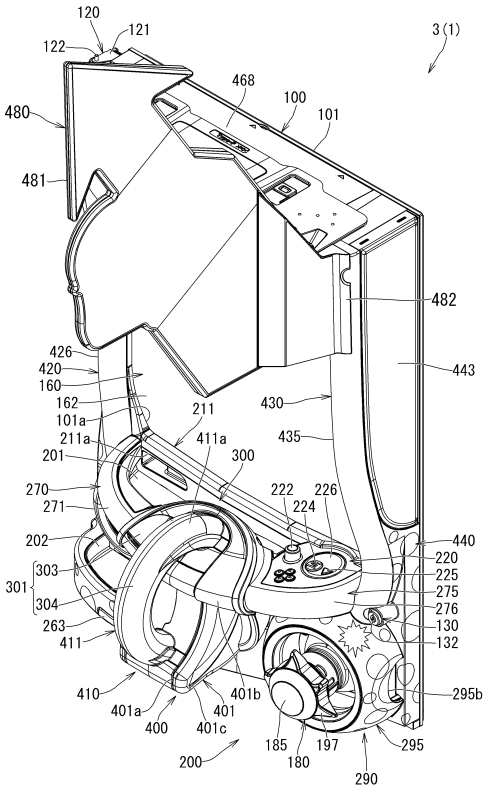
【図１８】



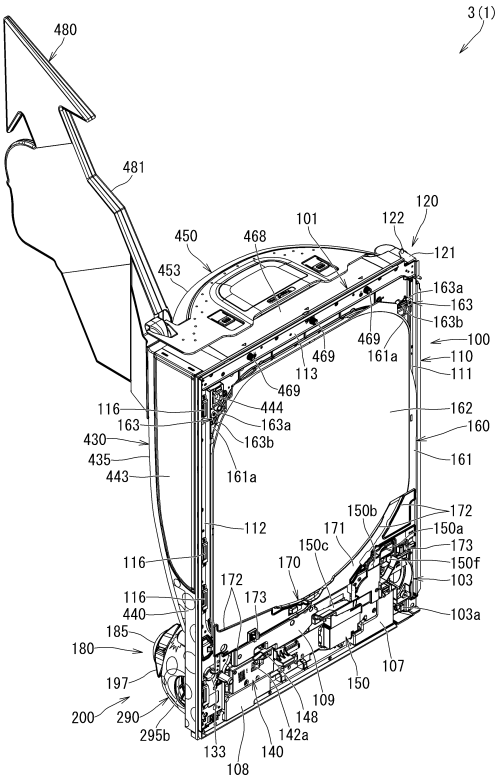
【図１９】



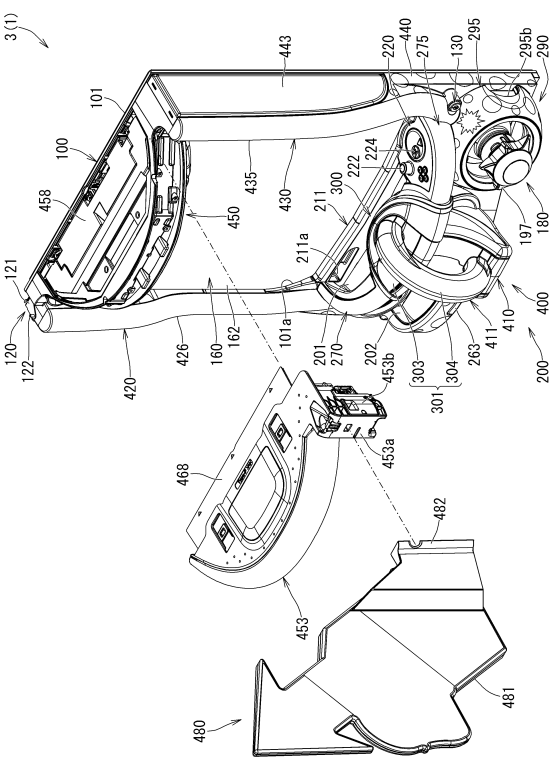
【図２０】



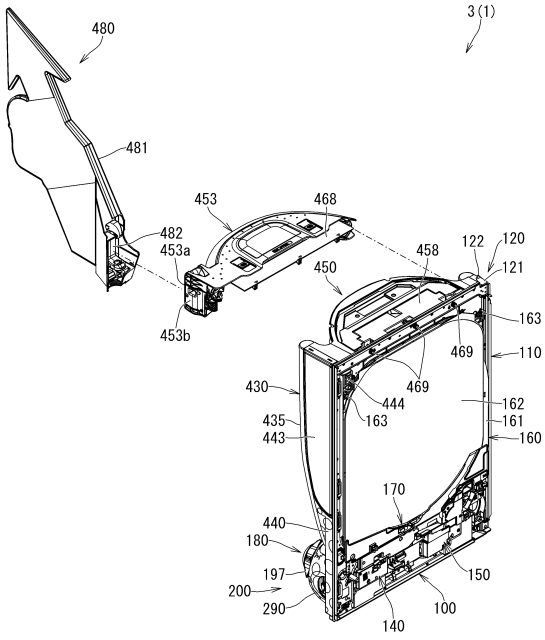
【図２１】



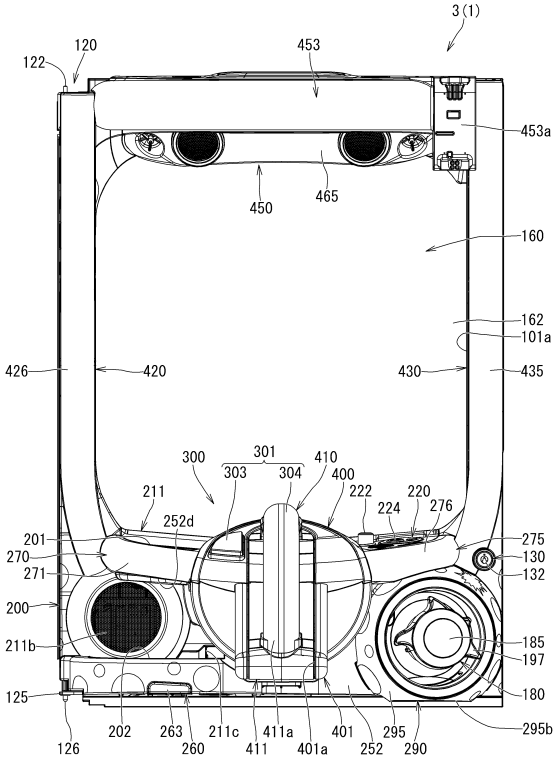
【図２２】



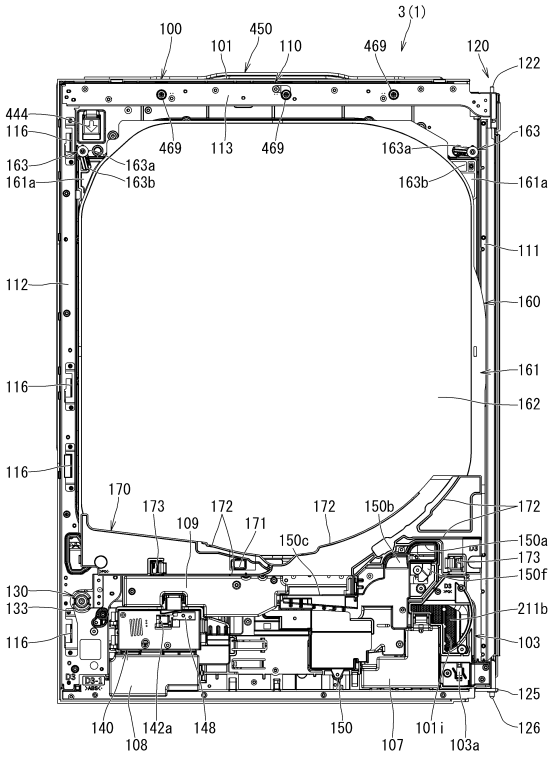
【図２３】



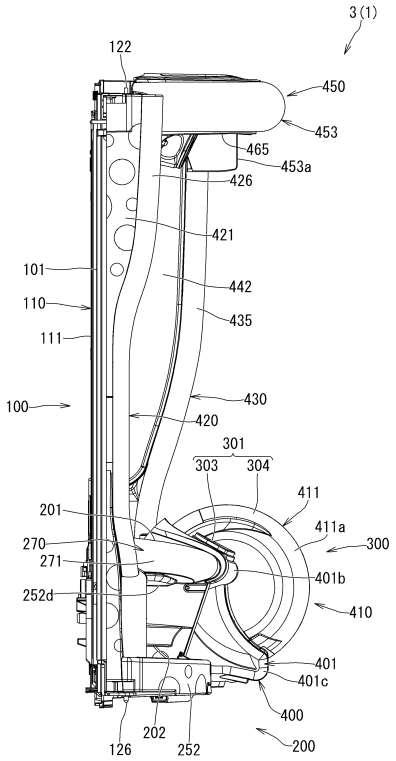
【図２４】



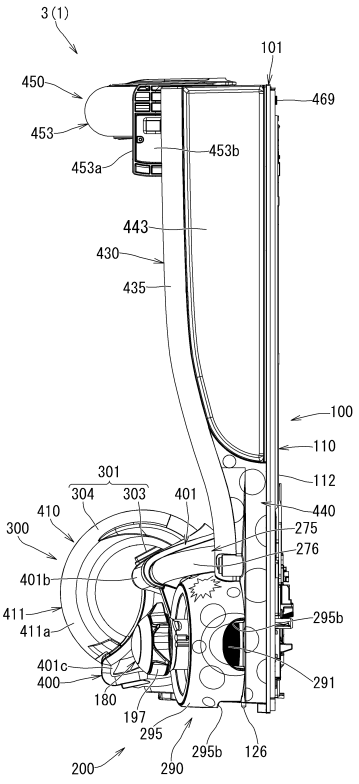
【図２５】



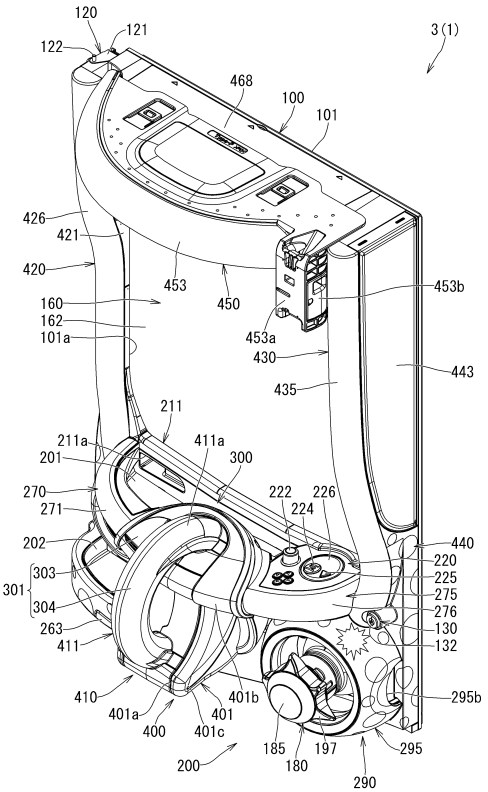
【図２６】



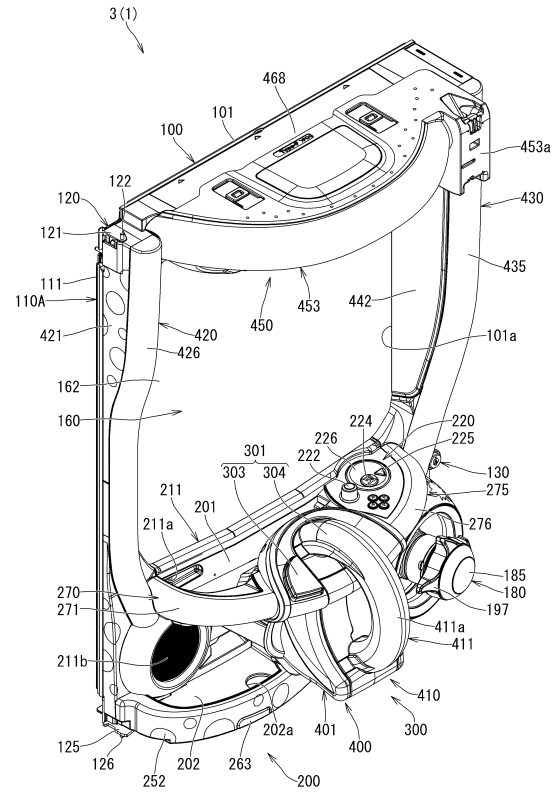
【図２７】



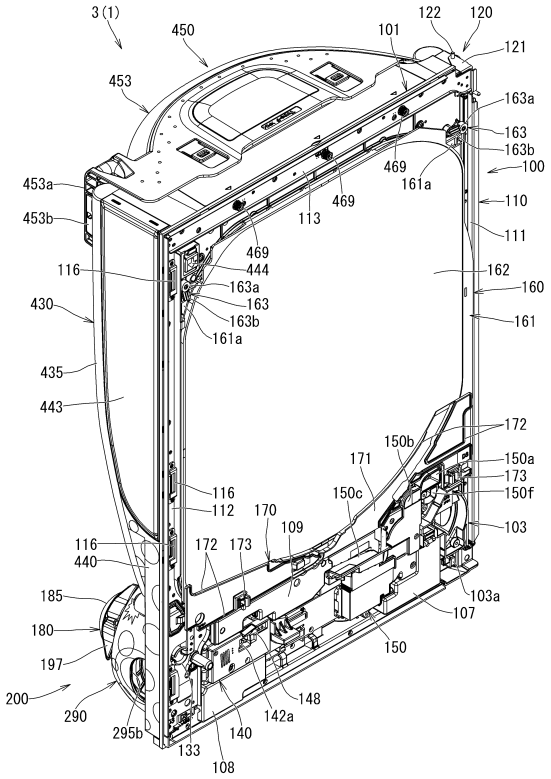
【図２８】



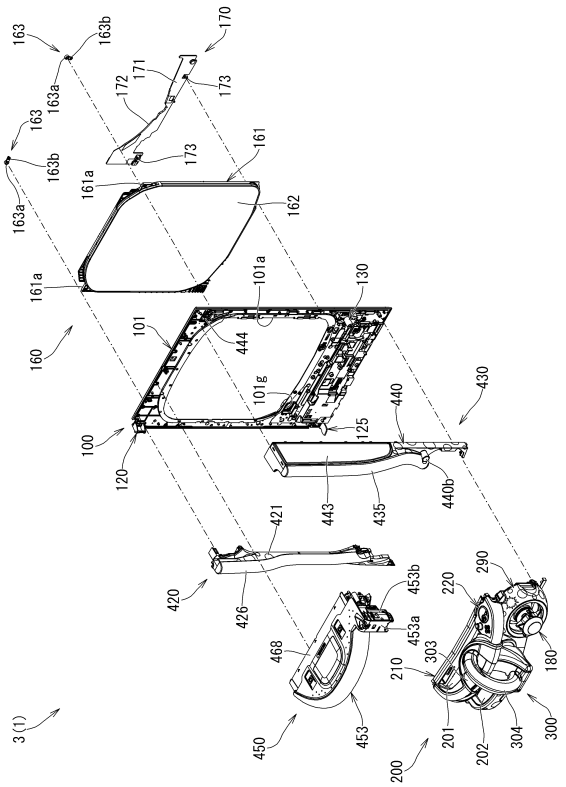
【図２９】



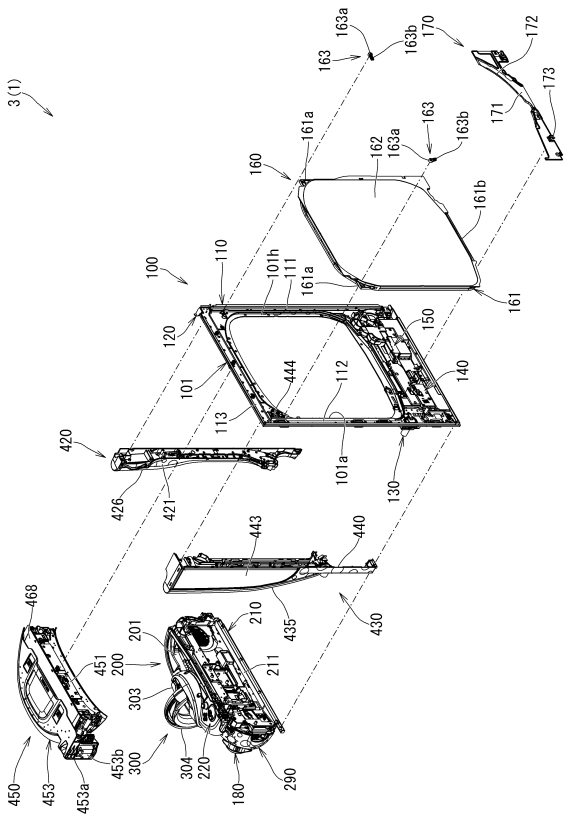
【図３０】



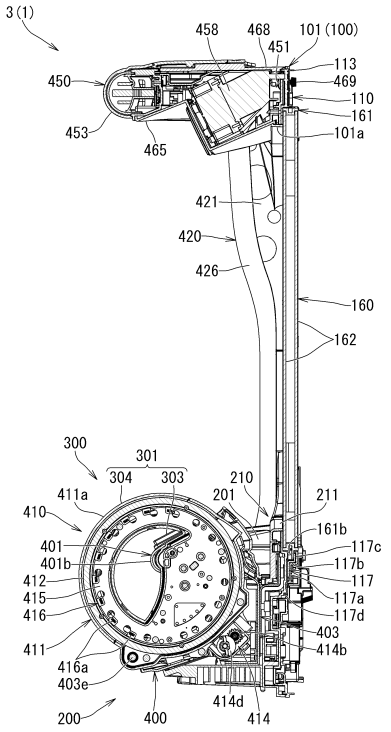
【図３１】



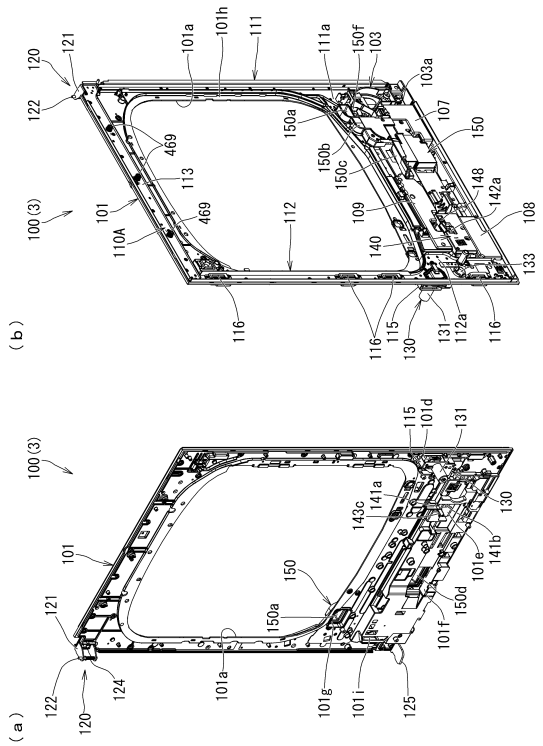
【図３２】



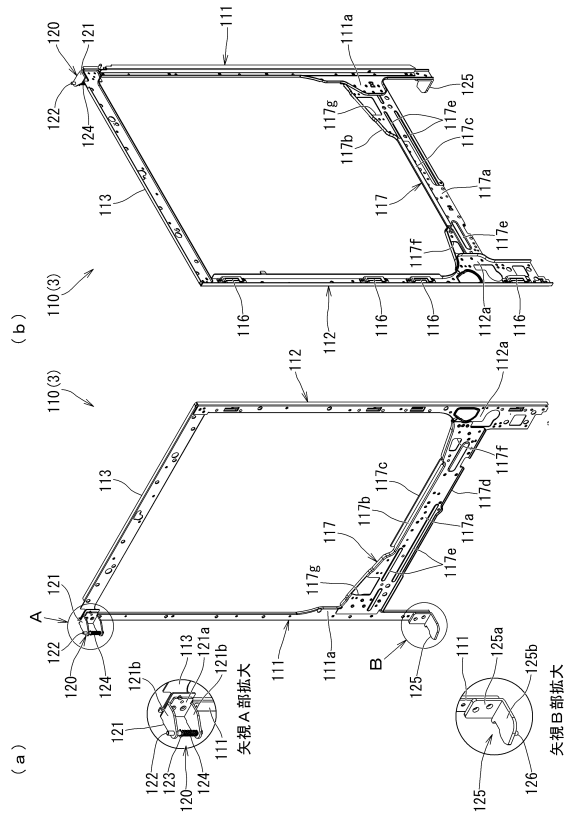
【図３３】



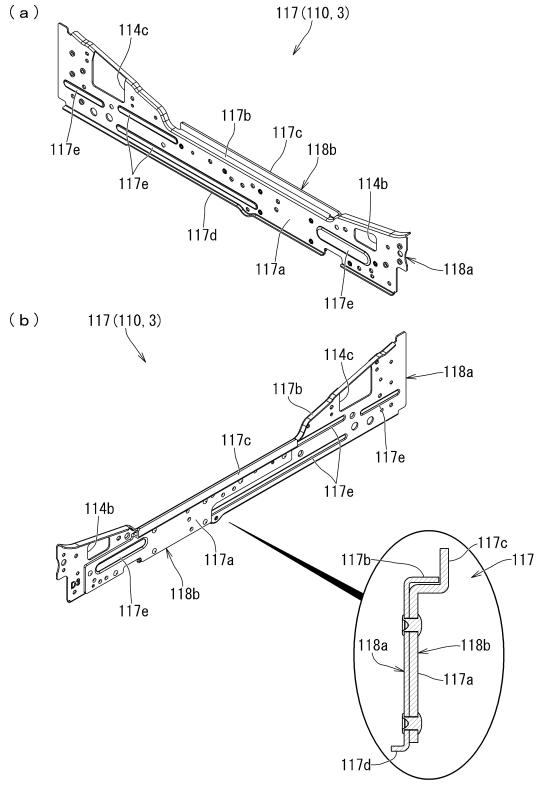
【図３４】



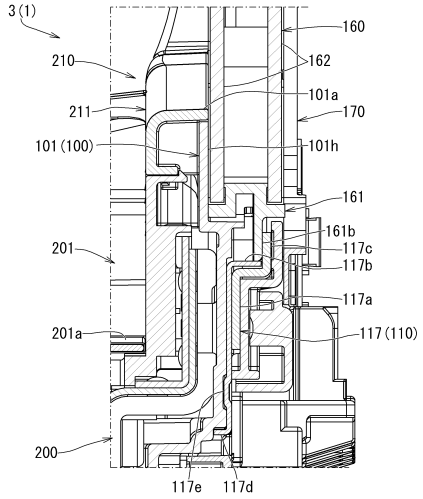
【図３５】



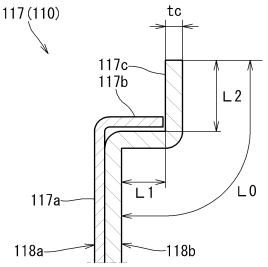
【図３６】



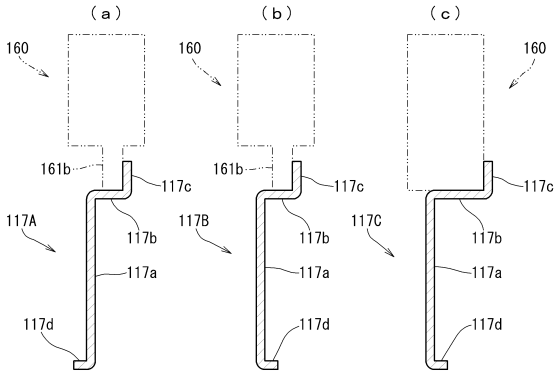
【図３７】



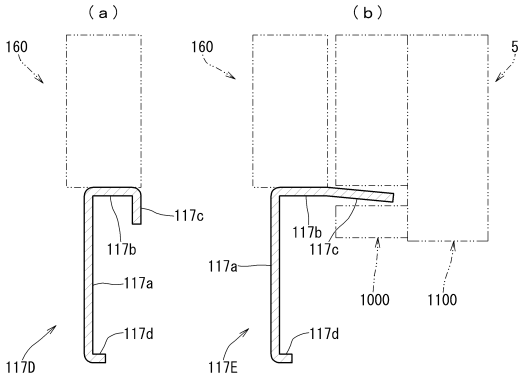
【図３８】



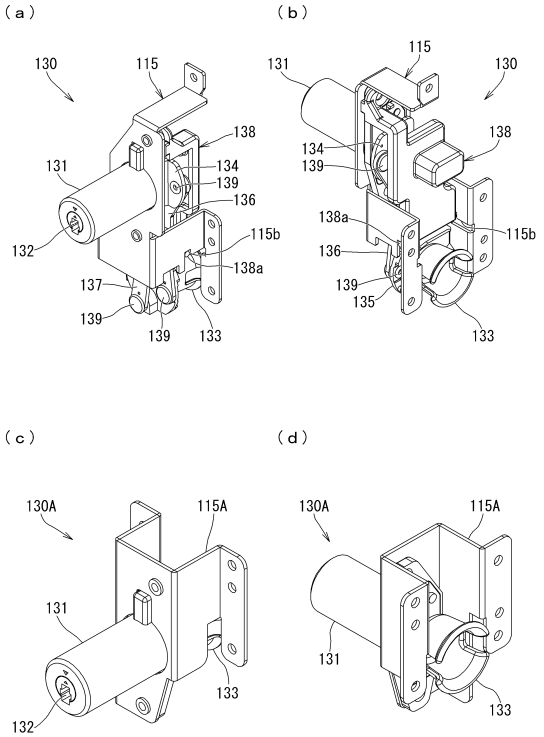
【図３９】



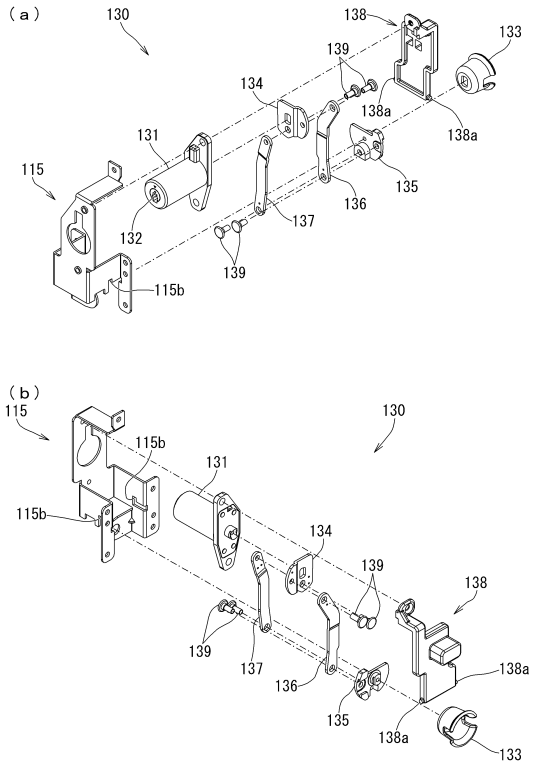
【図４０】



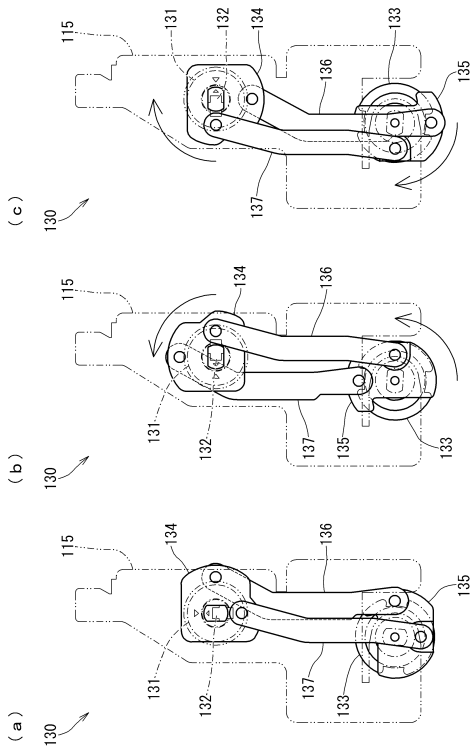
【図４１】



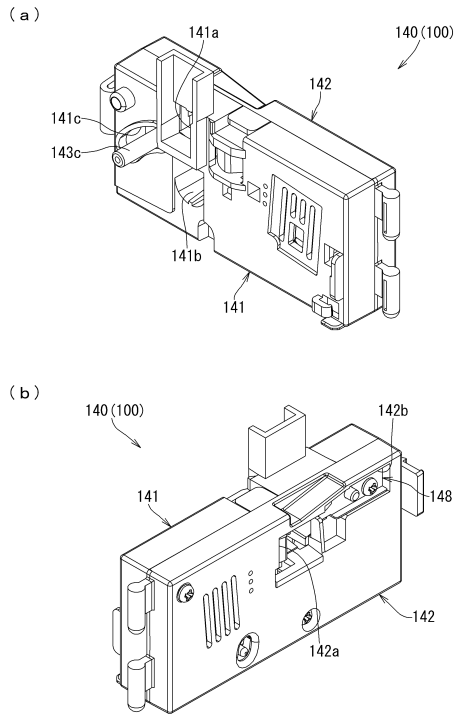
【図４２】



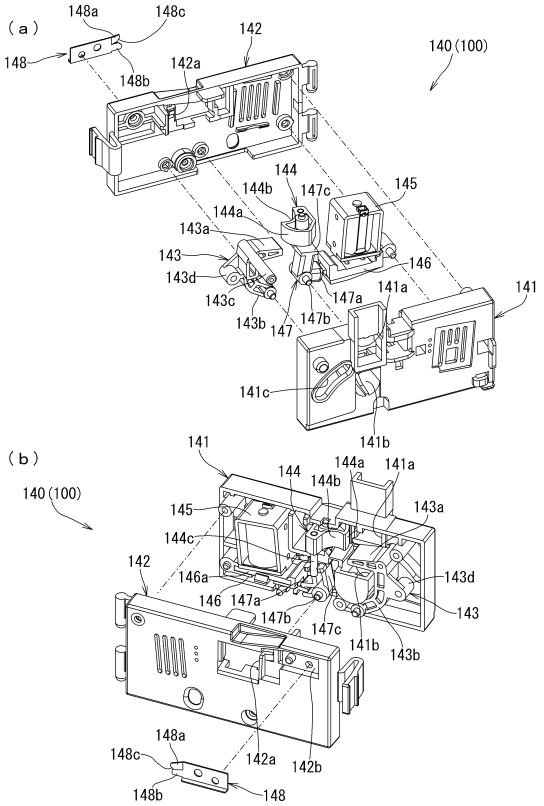
【図４３】



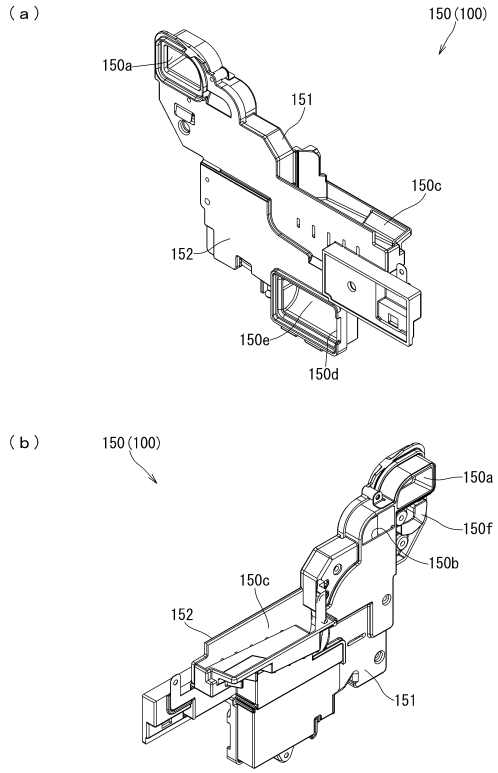
【図４４】



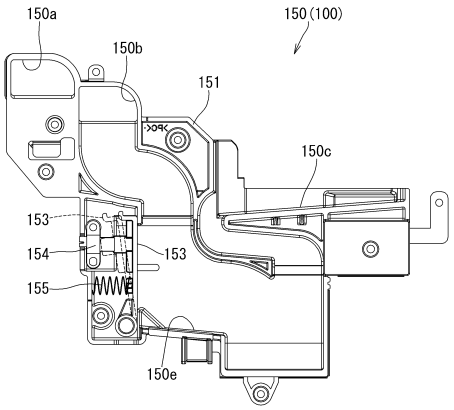
【図４５】



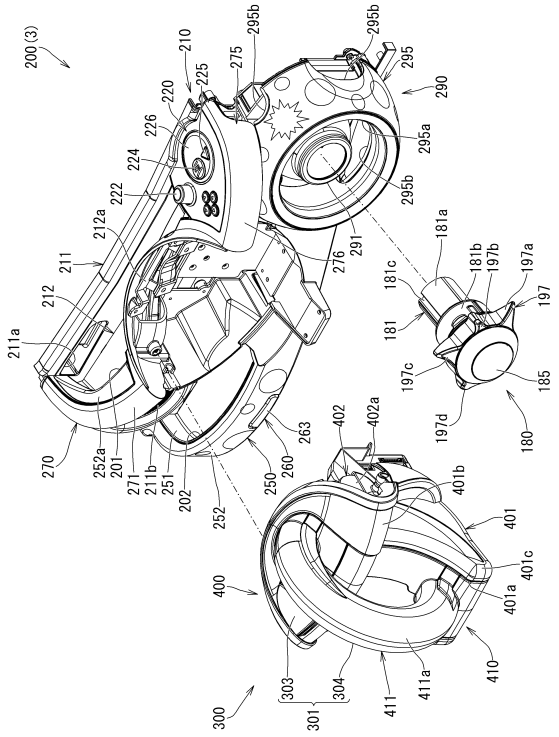
【図４６】



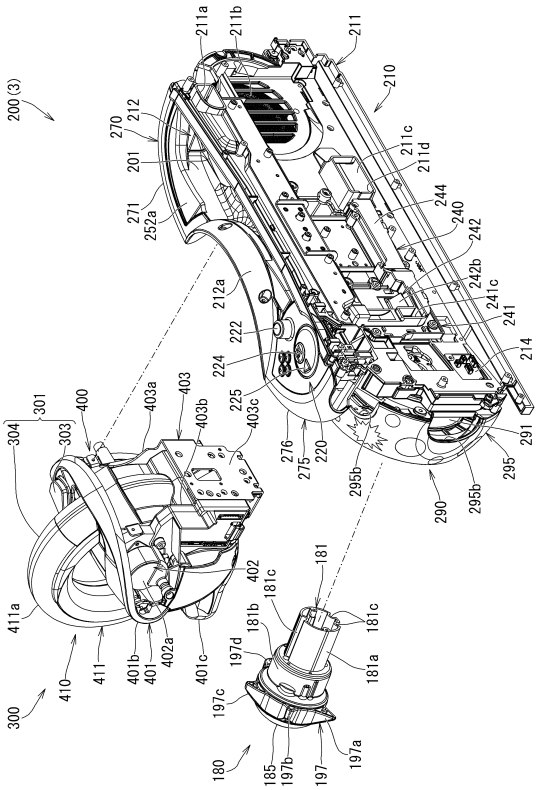
【図４７】



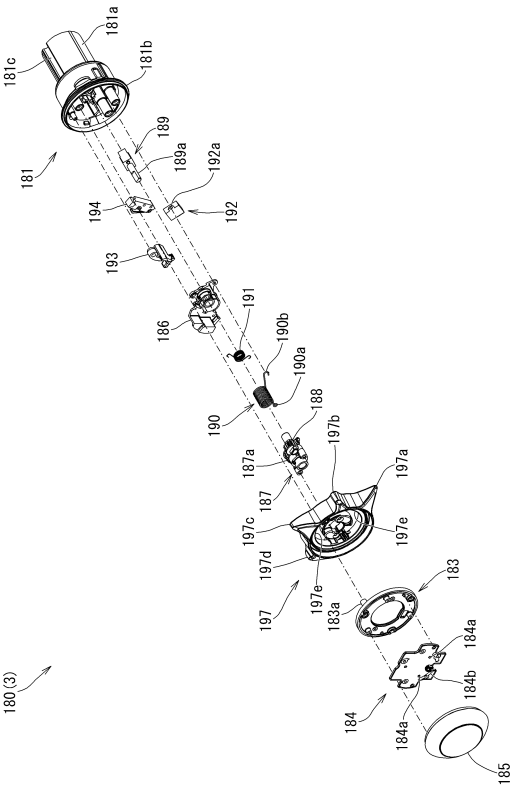
【図４８】



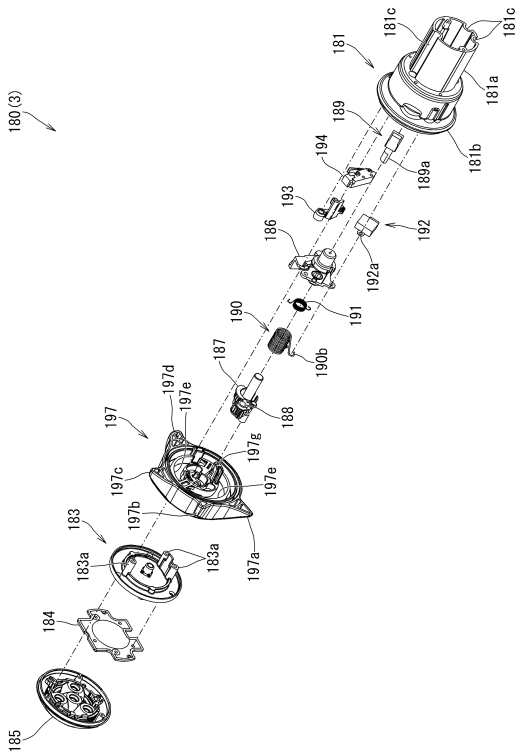
【図４９】



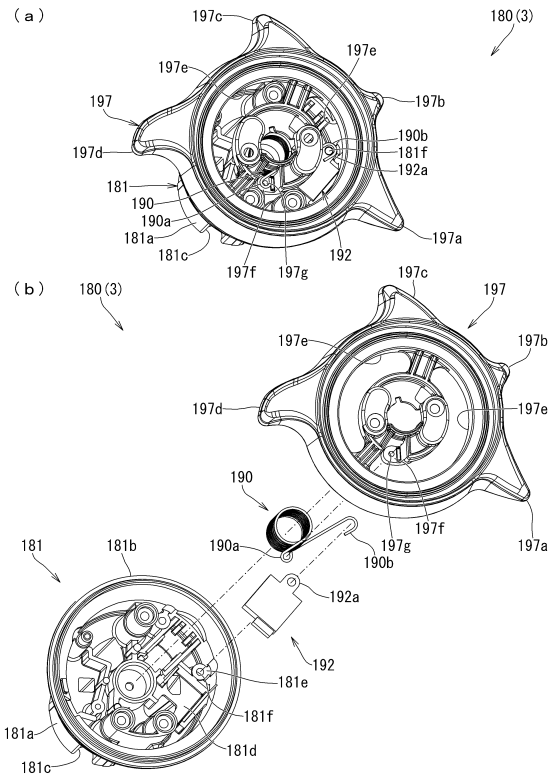
【図５０】



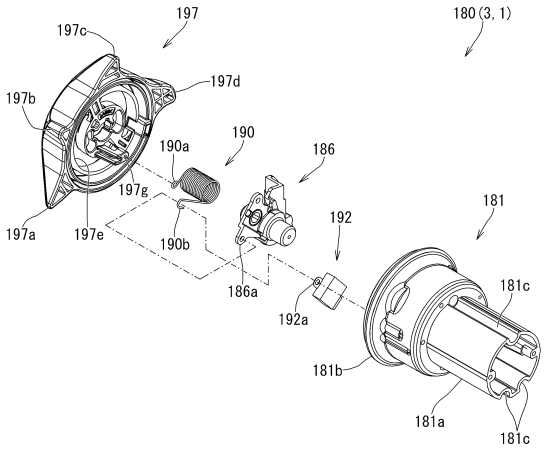
【図５１】



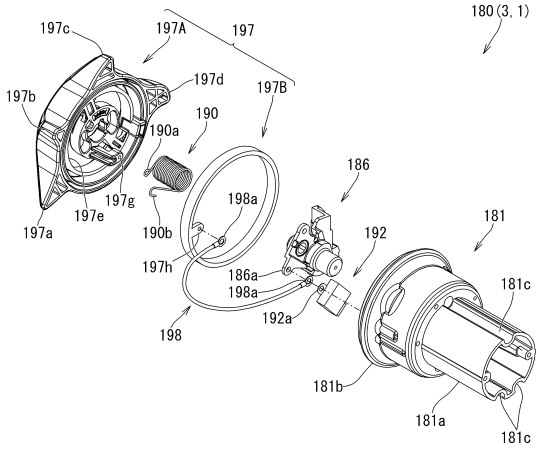
【図５２】



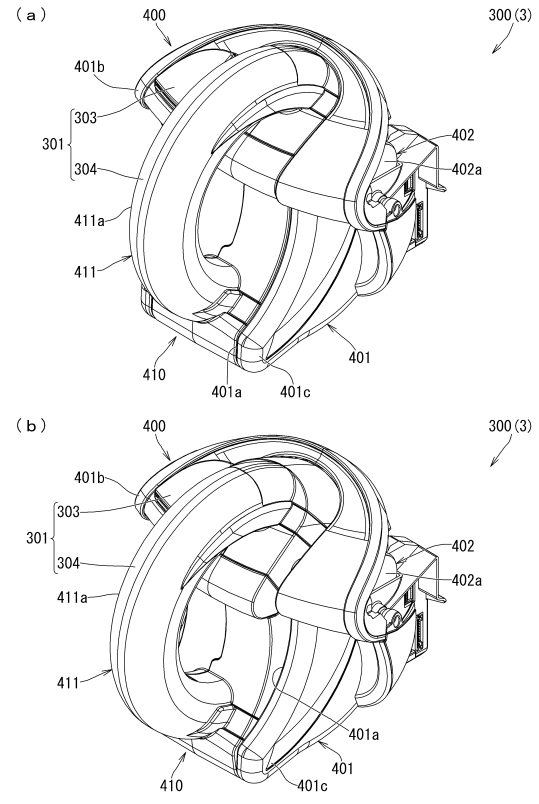
【図５３】



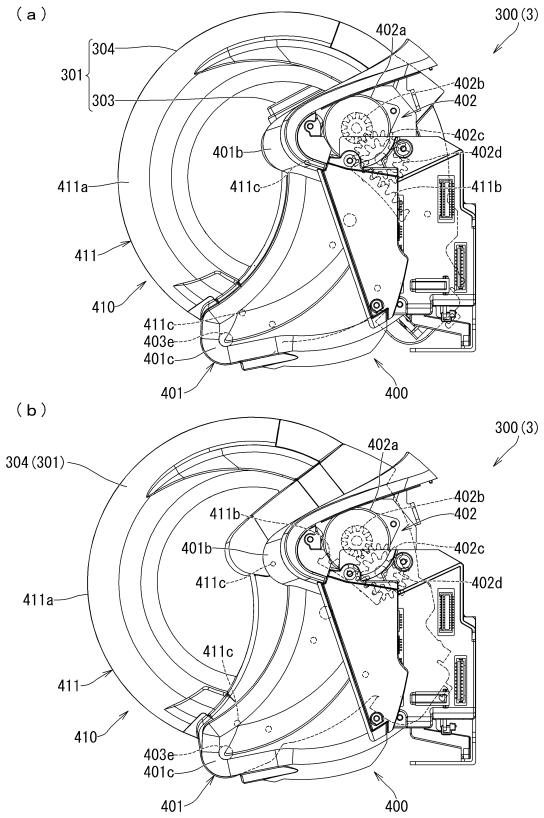
【図５４】



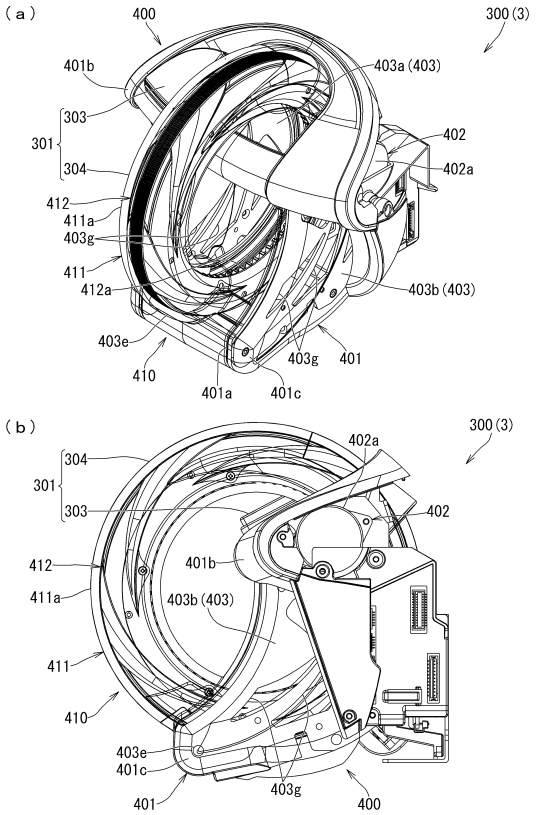
【図５５】



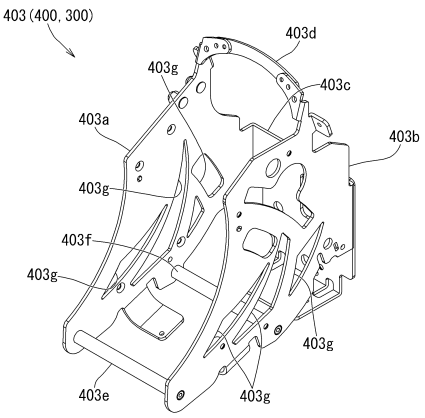
【図５６】



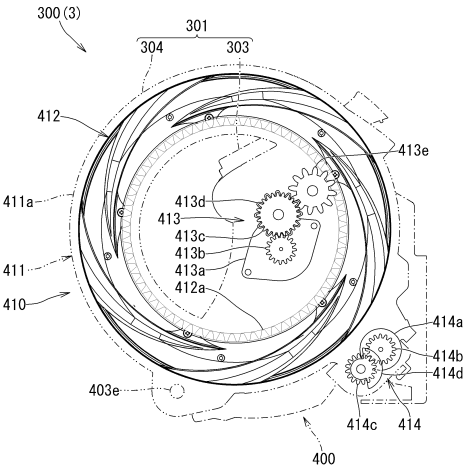
【図５７】



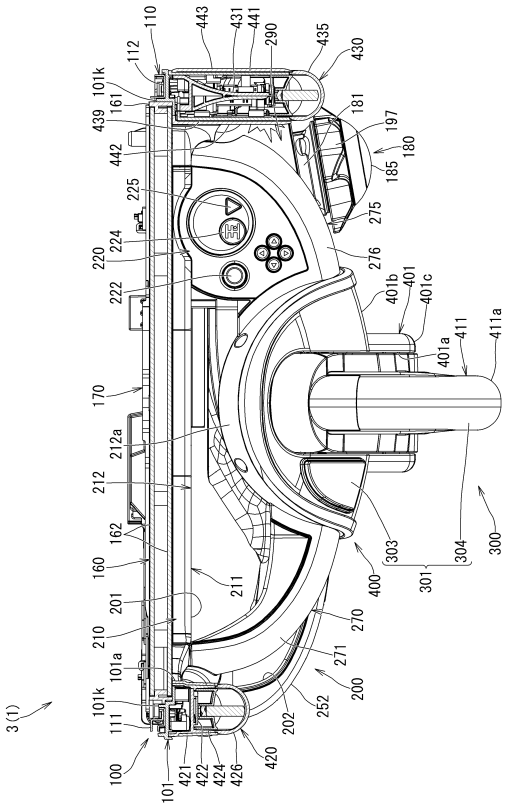
【図５８】



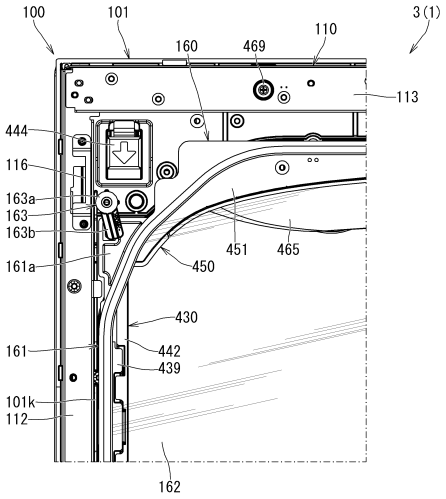
【図５９】



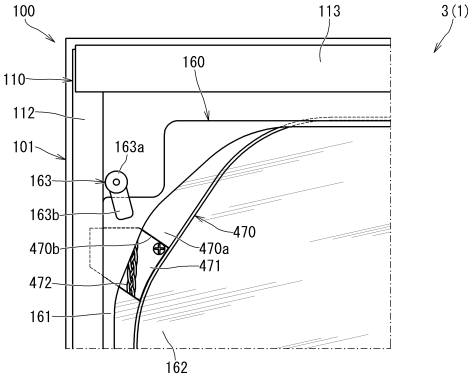
【図６０】



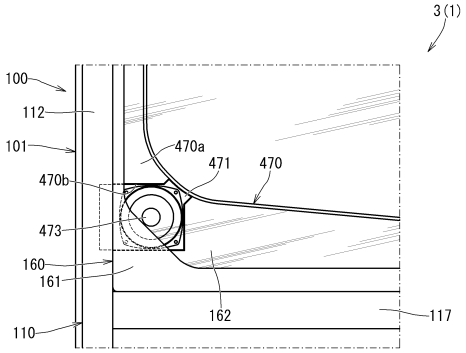
【図６１】



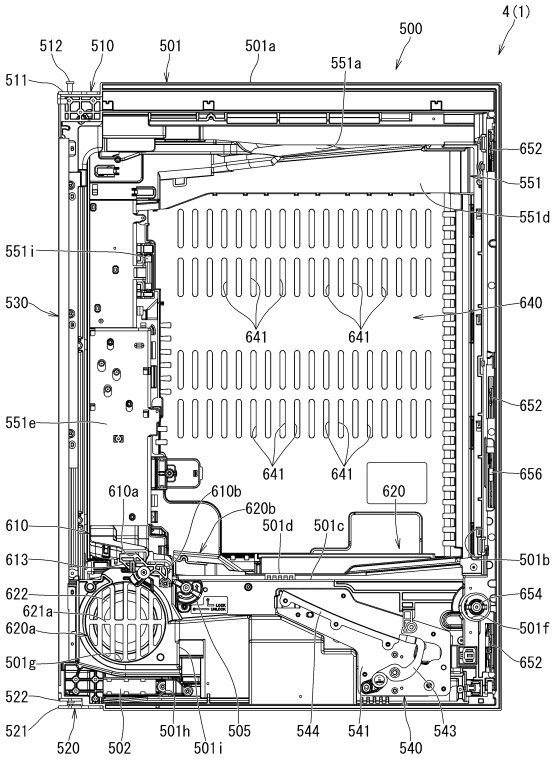
【図６２】



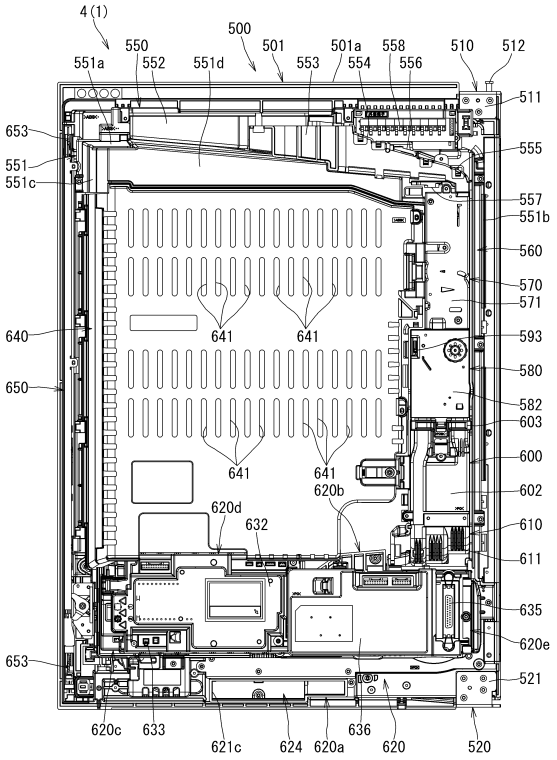
【図６３】



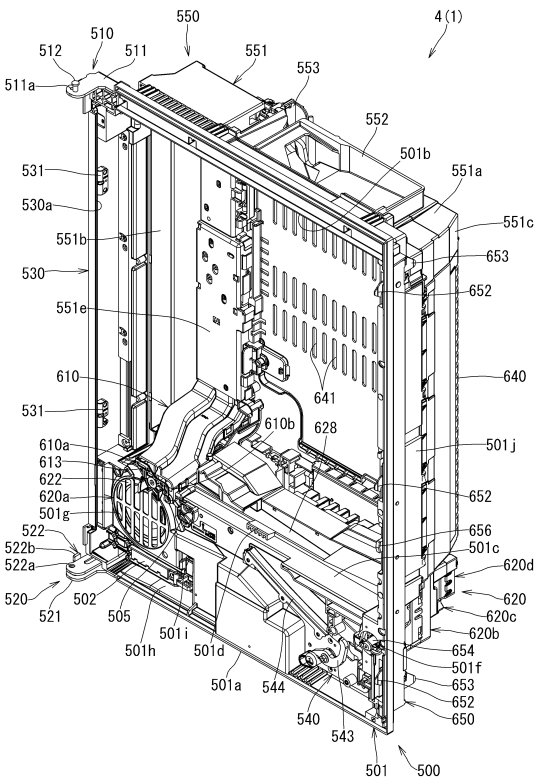
【図６４】



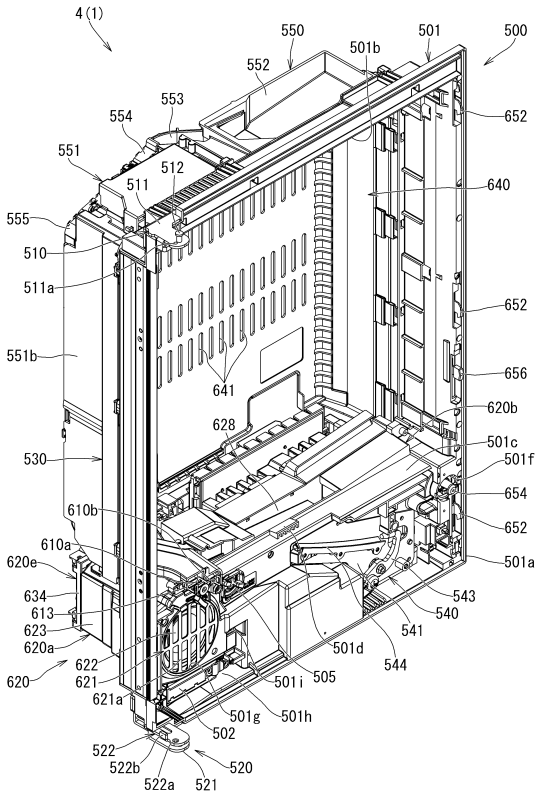
【図６５】



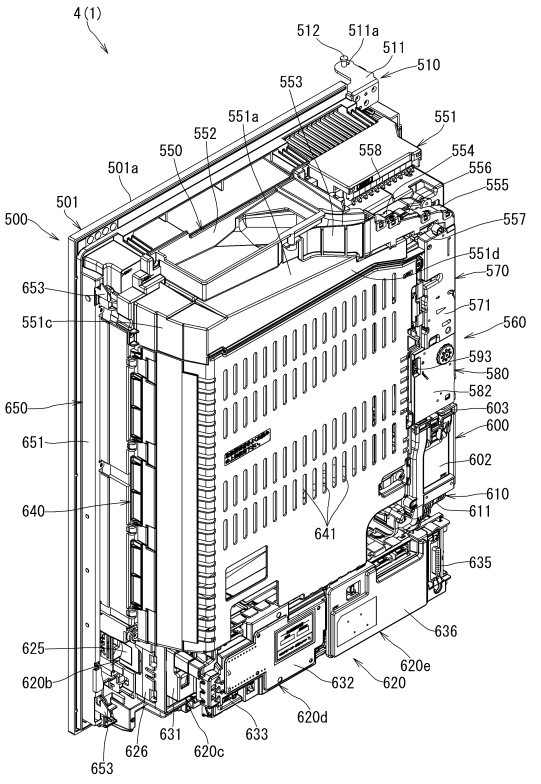
【図６６】



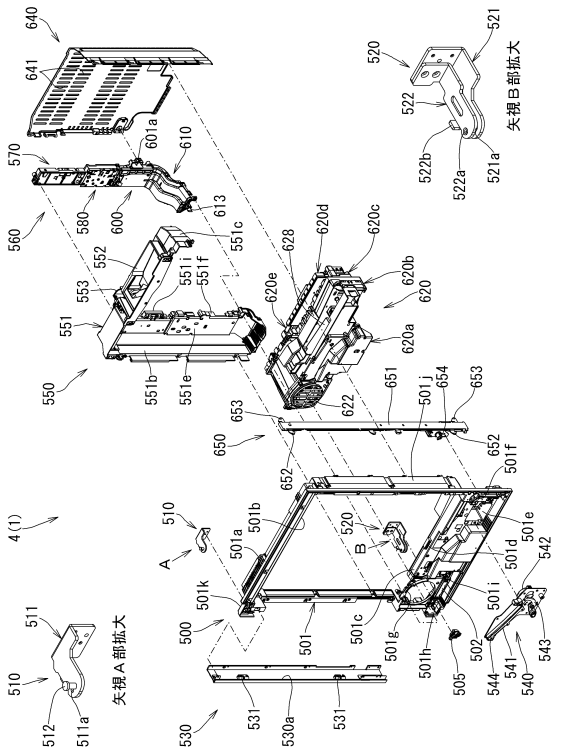
【図６７】



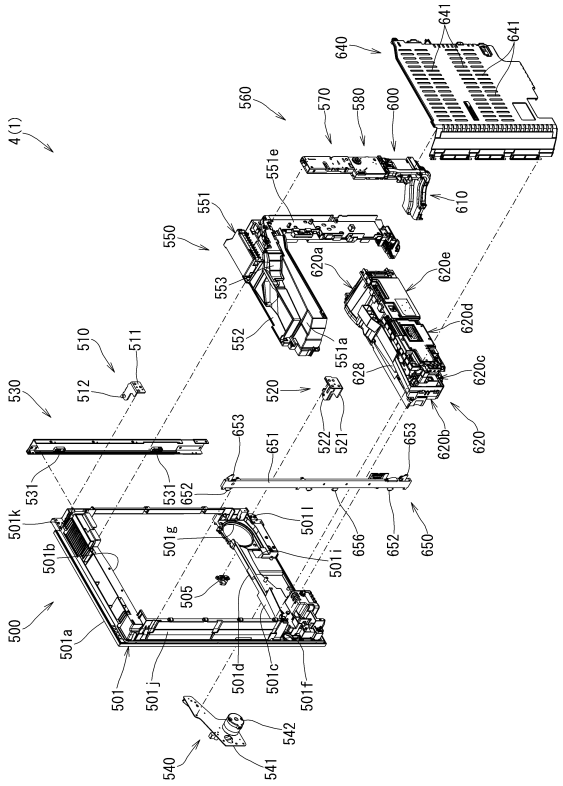
【図６８】



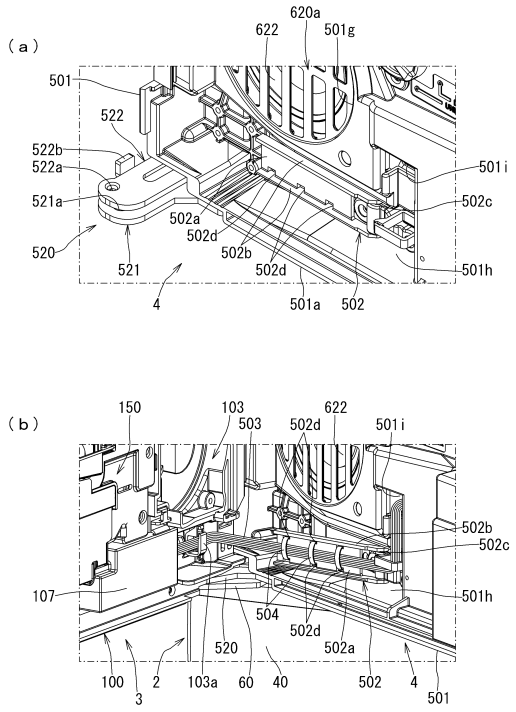
【図６９】



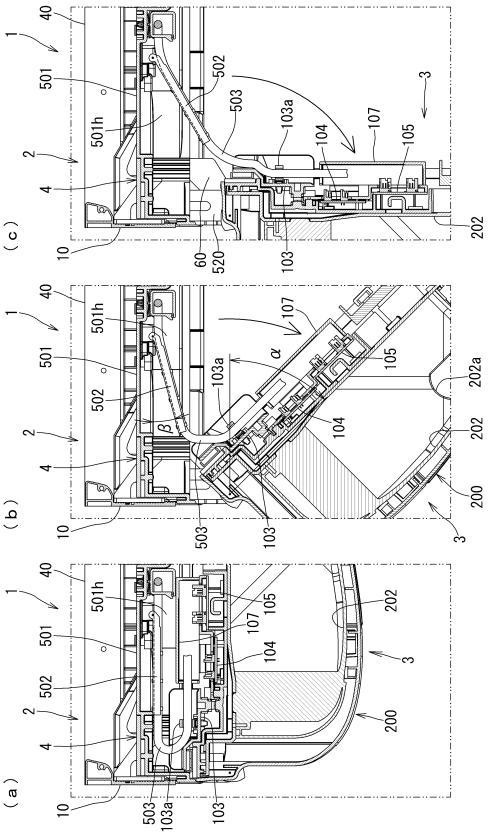
【図７０】



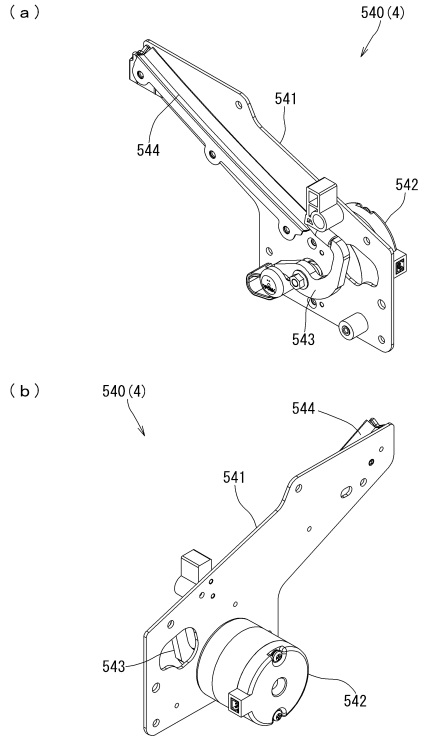
【図７１】



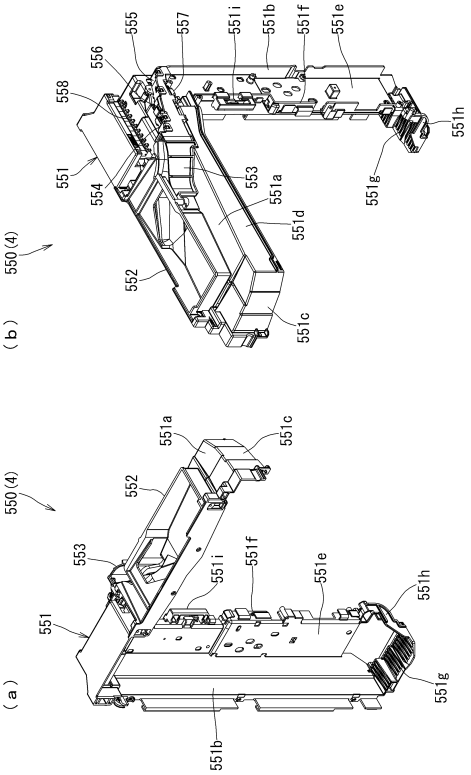
【図７２】



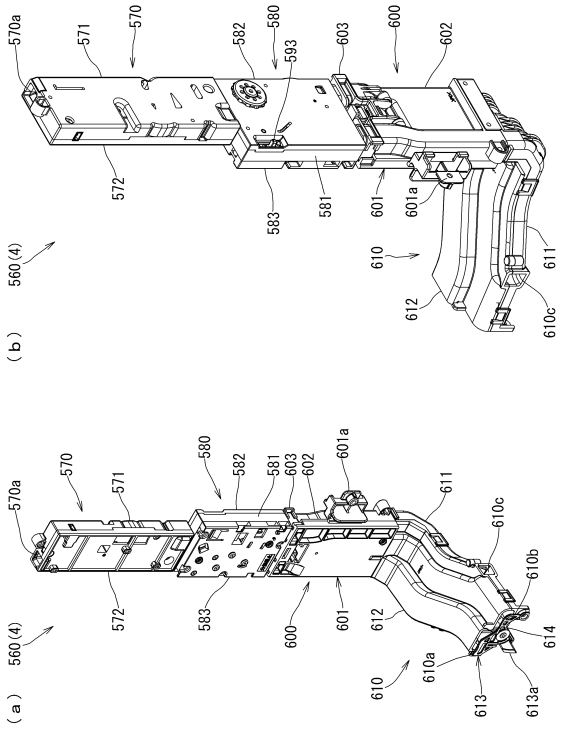
【図７３】



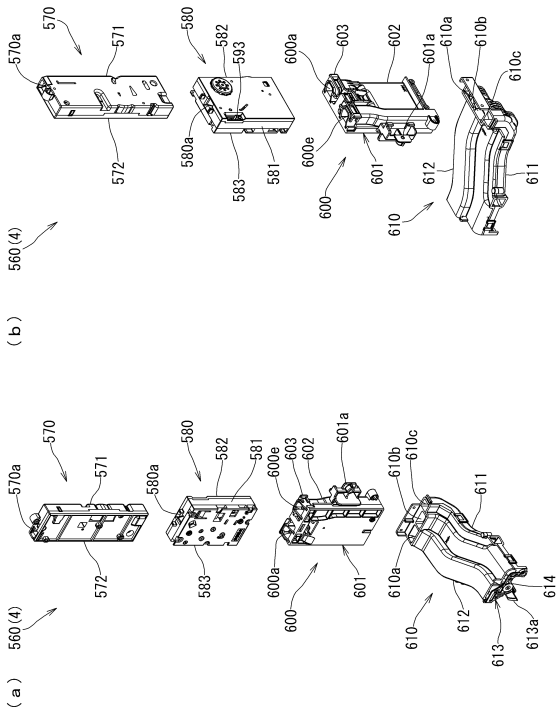
【図７４】



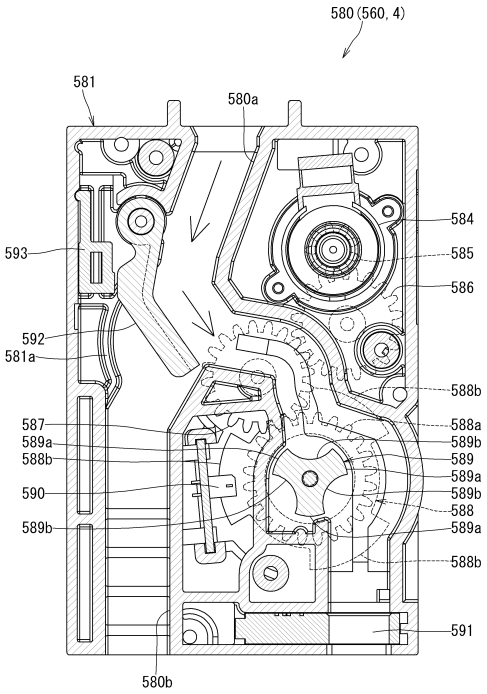
【図７５】



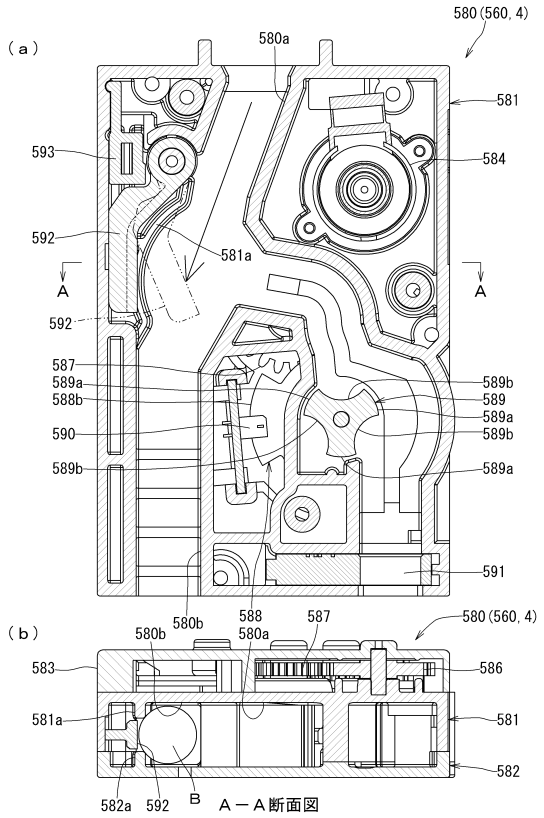
【図７６】



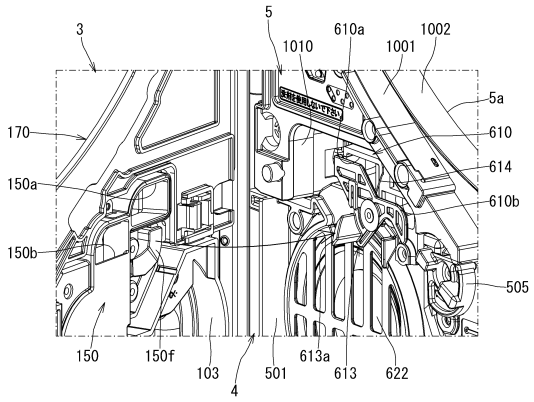
【図７７】



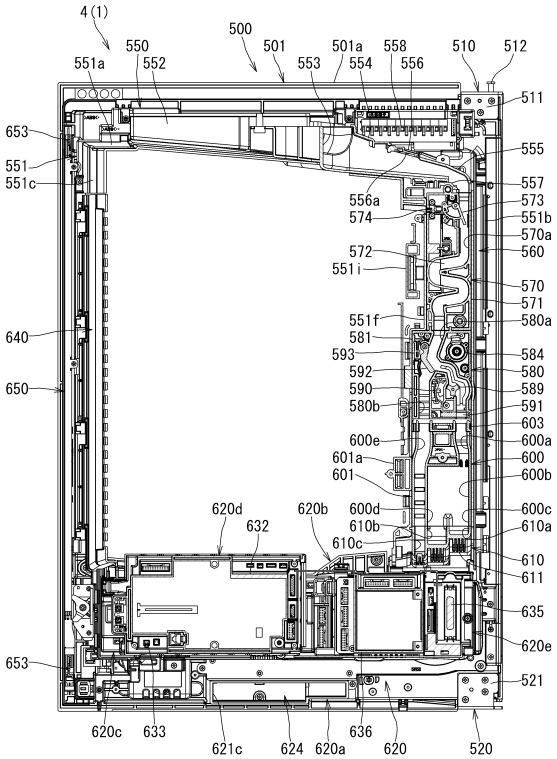
【図７８】



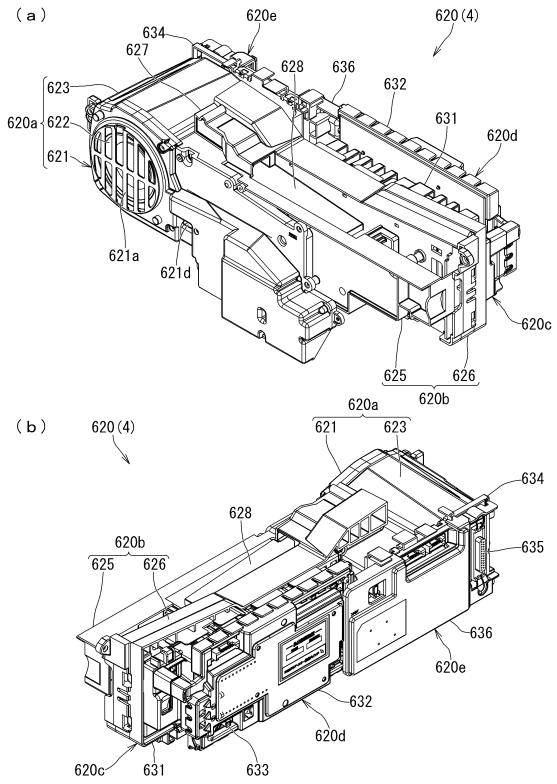
【図７９】



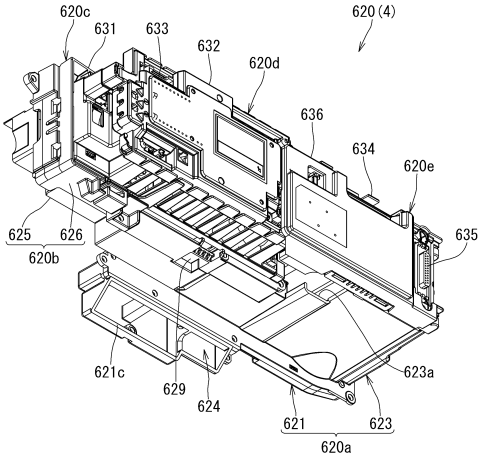
【図８０】



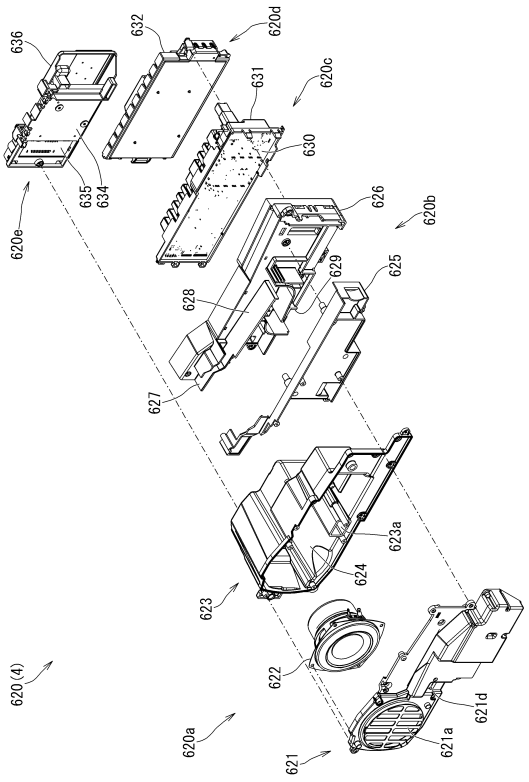
【図８１】



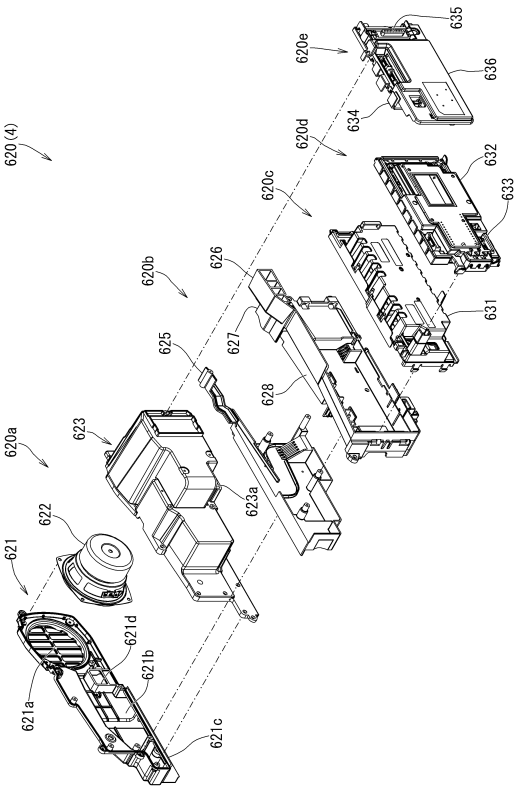
【図８２】



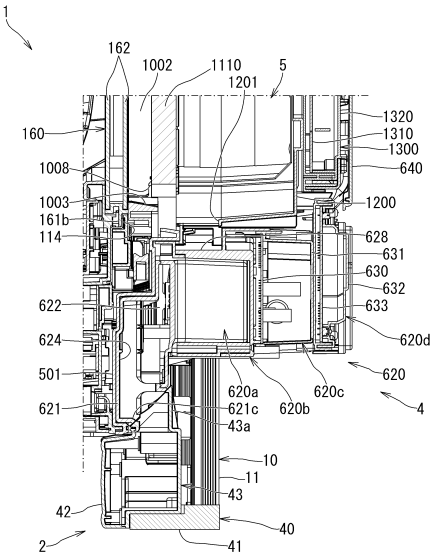
【図８３】



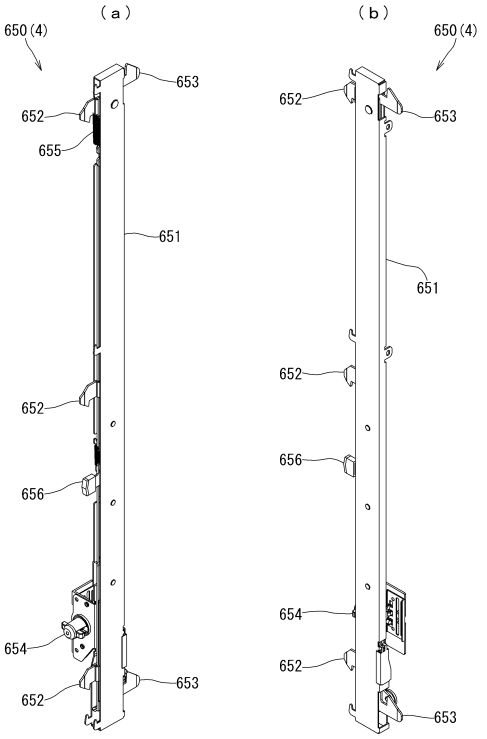
【図８４】



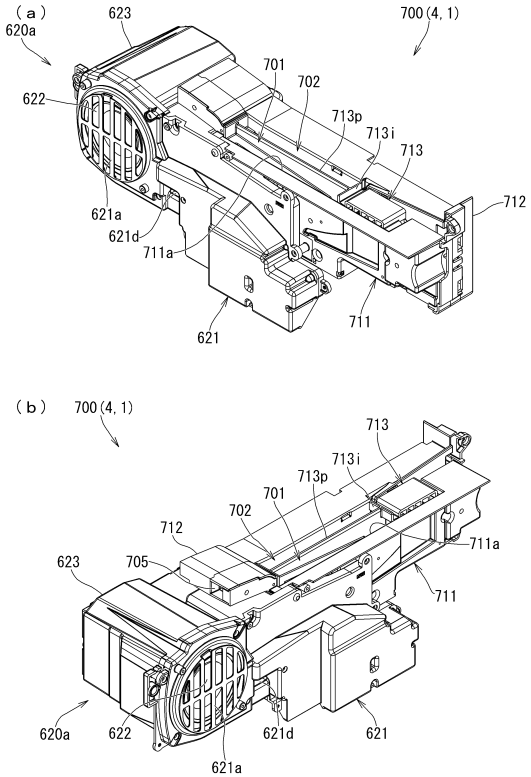
【図８５】



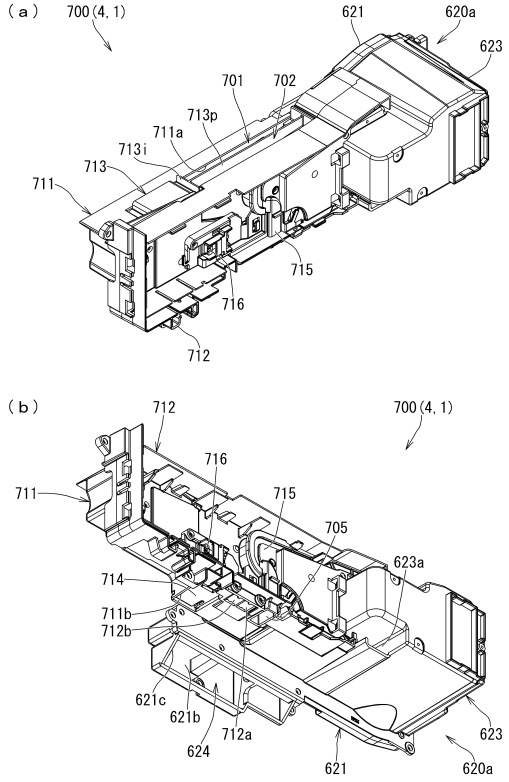
【図８６】



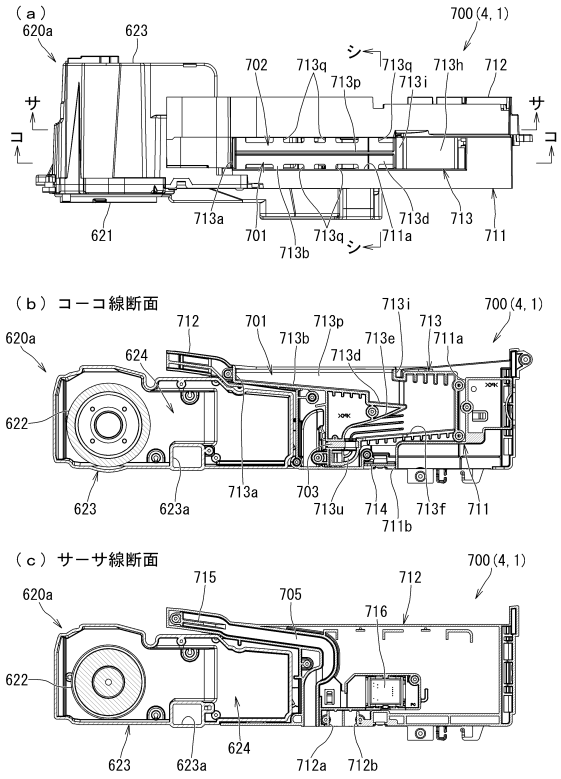
【図８７】



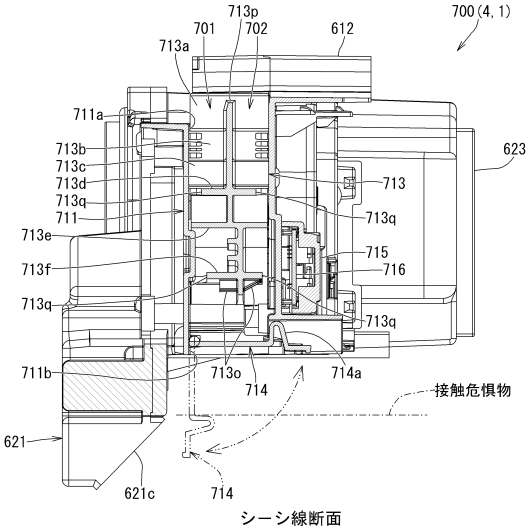
【図８８】



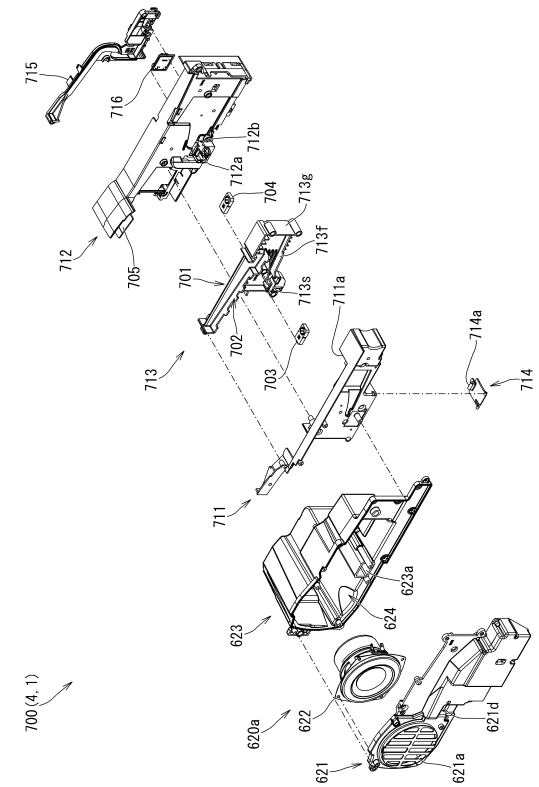
【図８９】



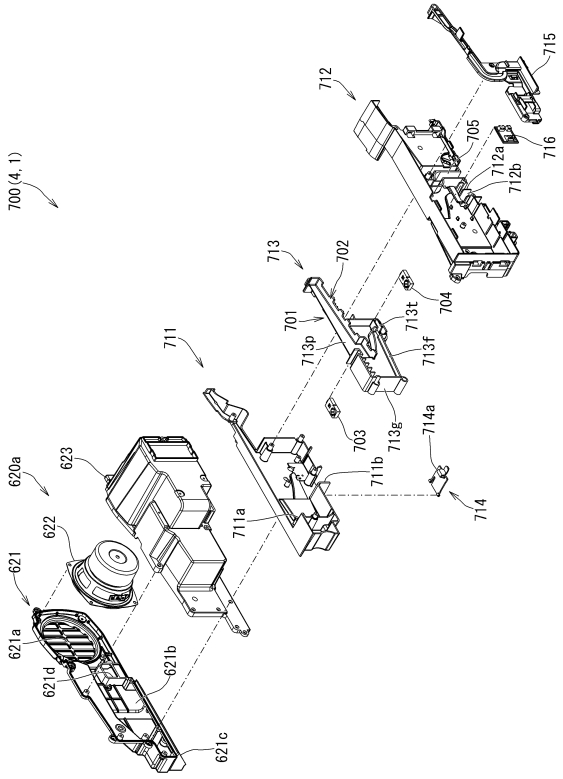
【図９０】



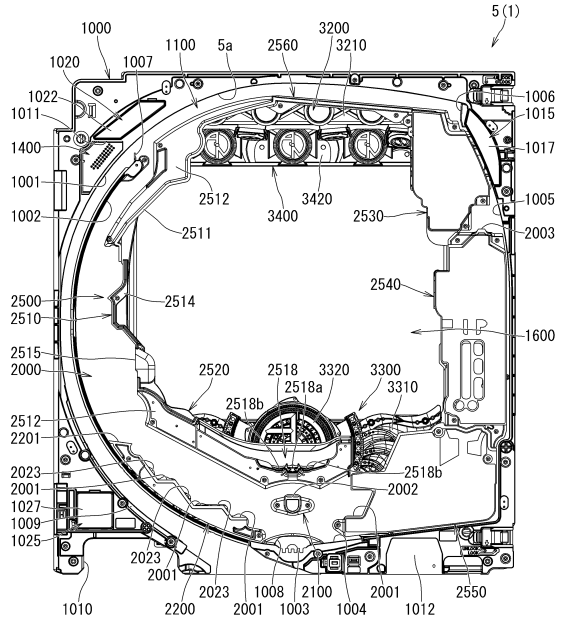
【図９１】



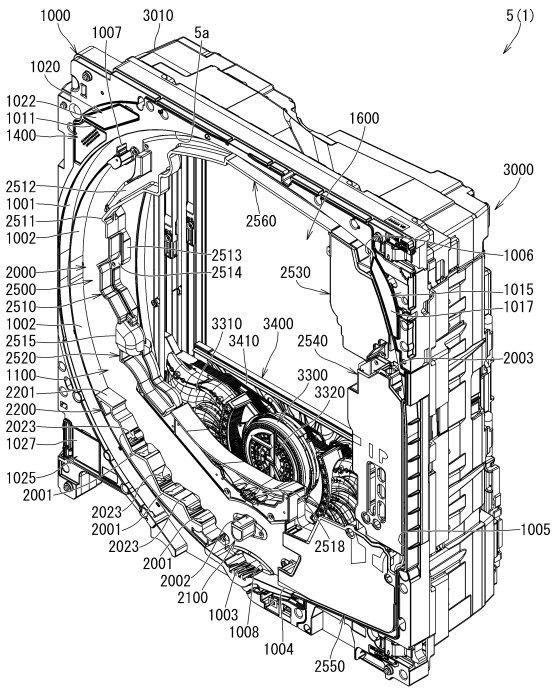
【図９２】



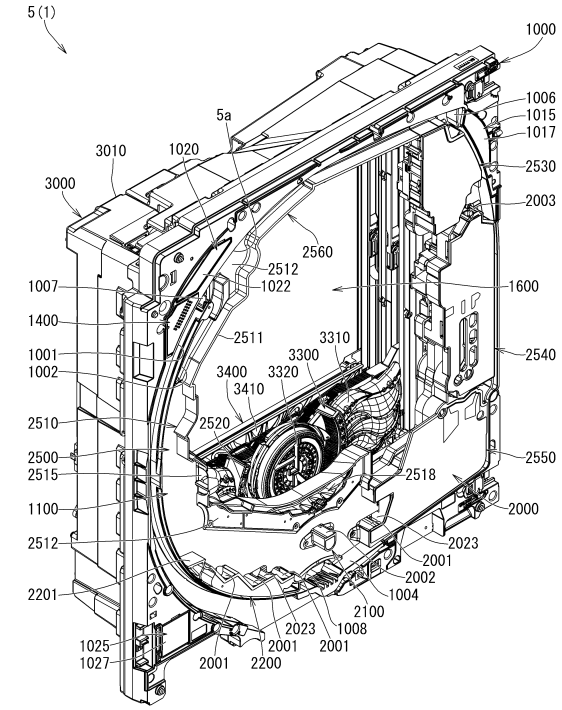
【図９３】



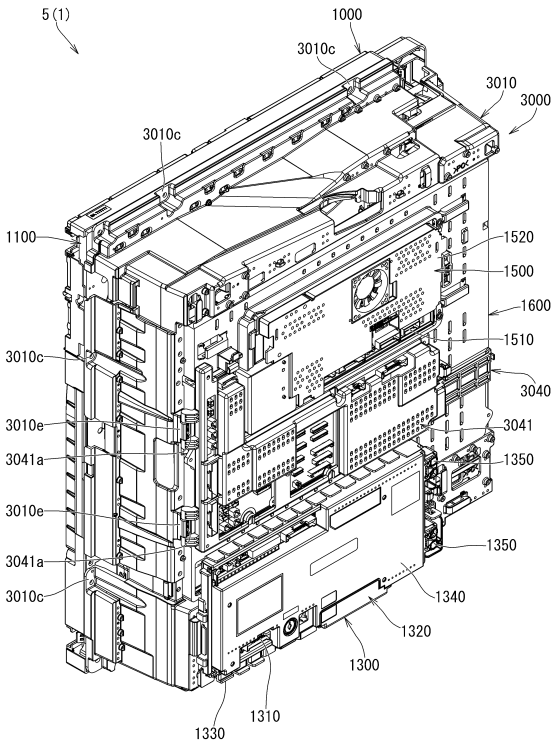
【図９４】



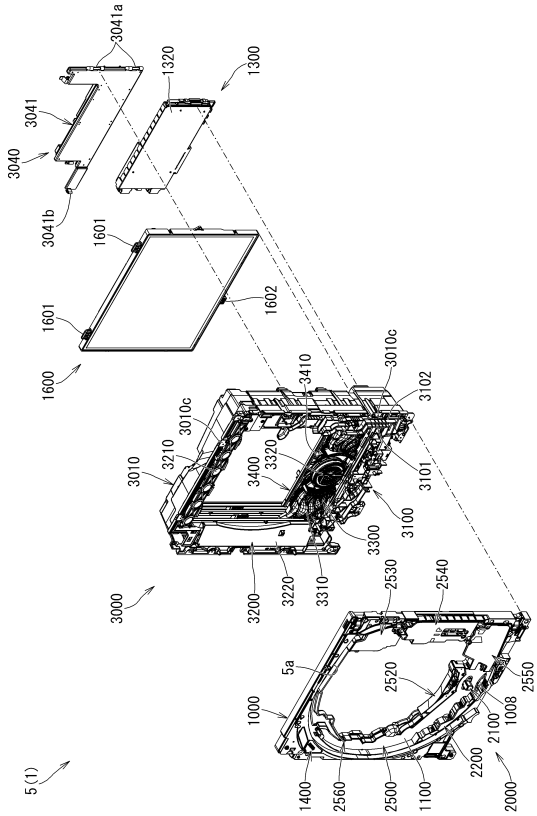
【図９５】



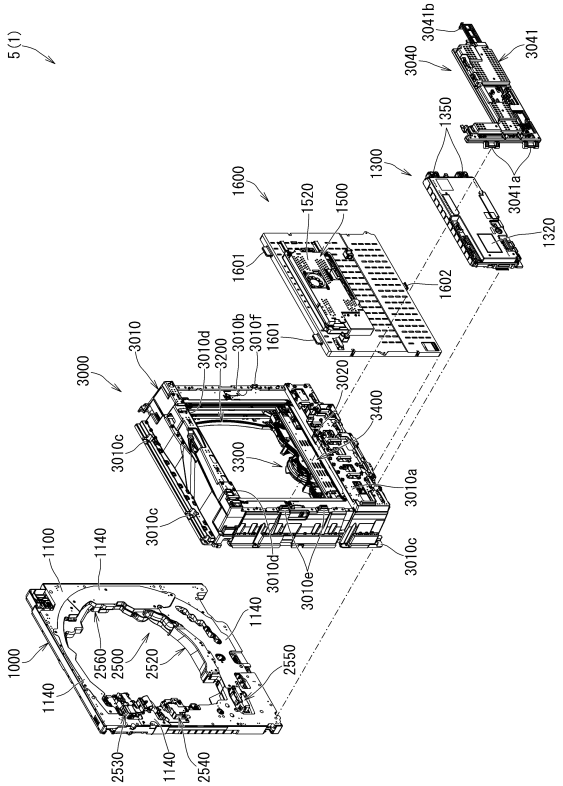
【図９６】



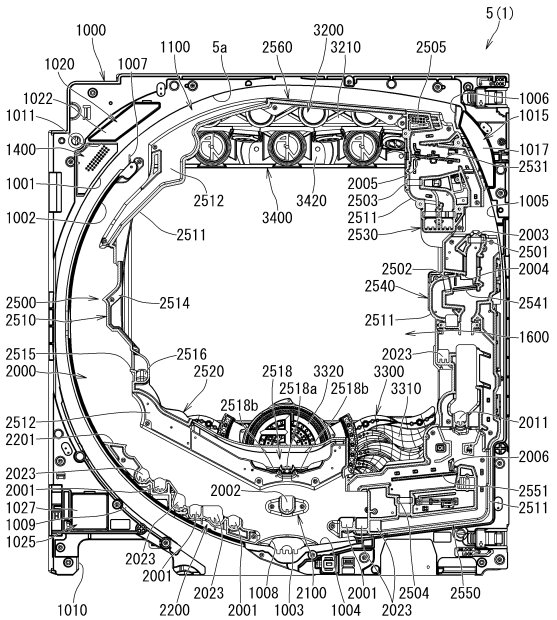
【図９７】



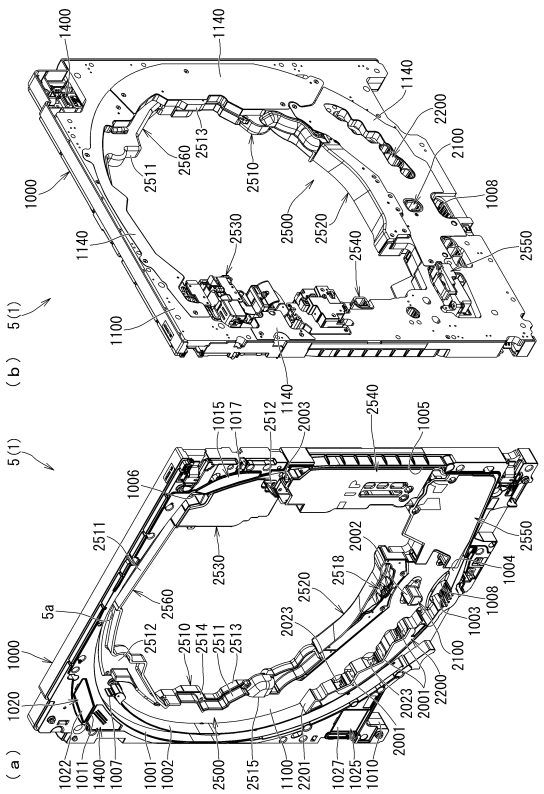
【図９８】



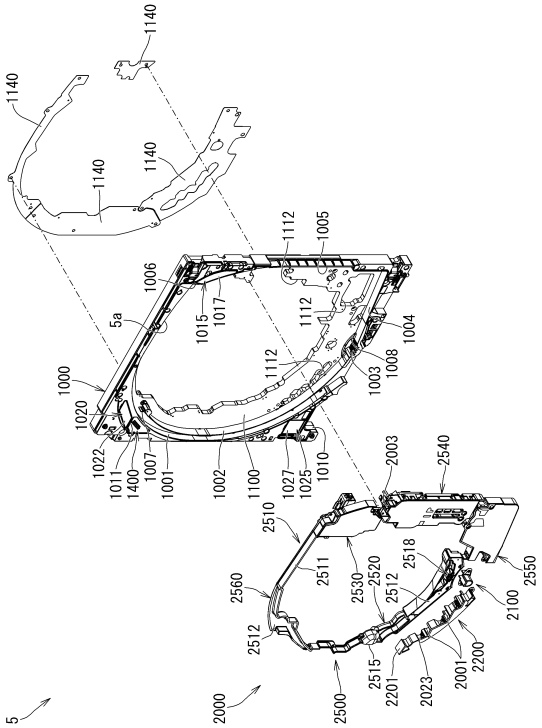
【図９９】



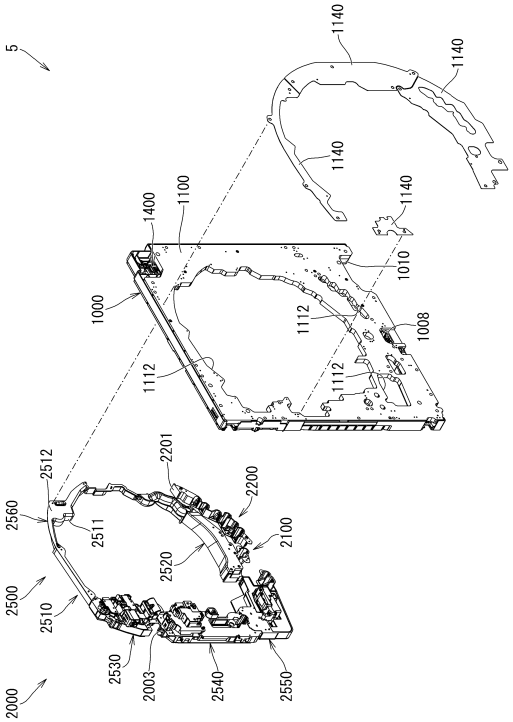
【図１００】



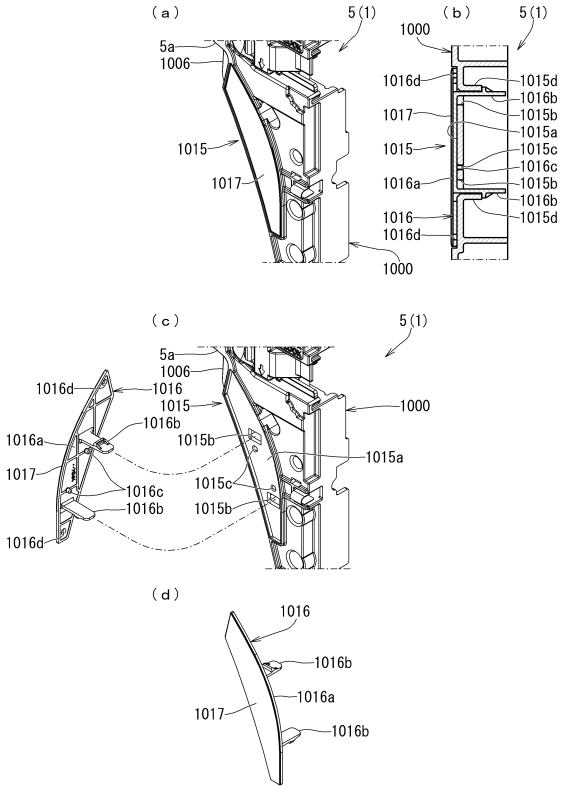
【図１０１】



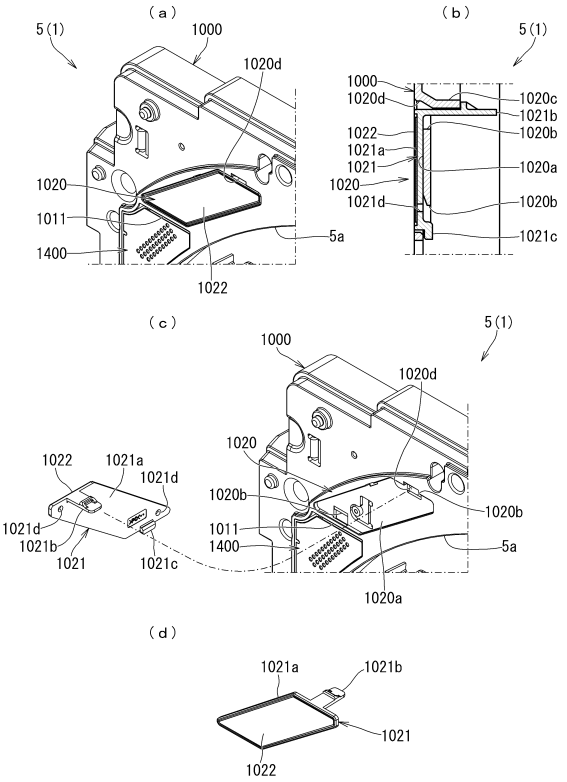
【図１０２】



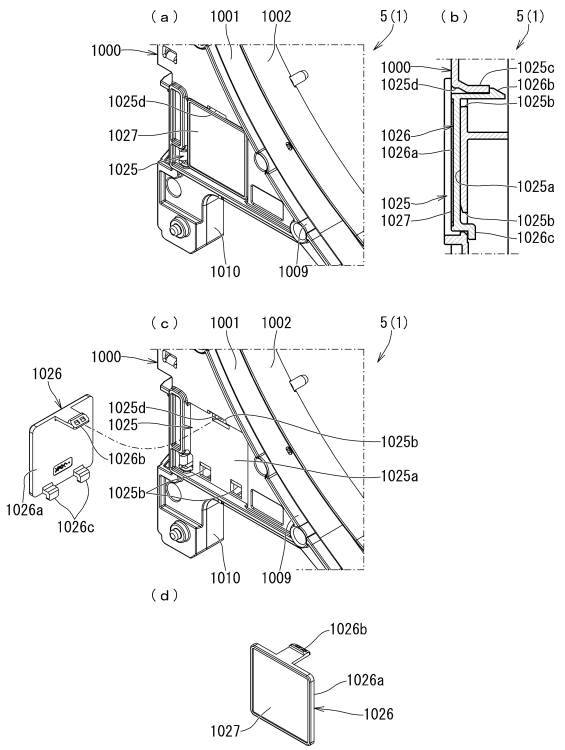
【図１０３】



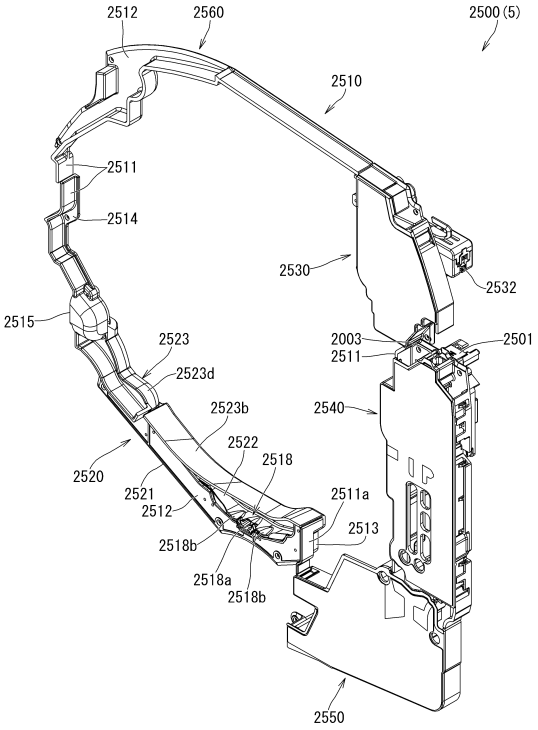
【図１０４】



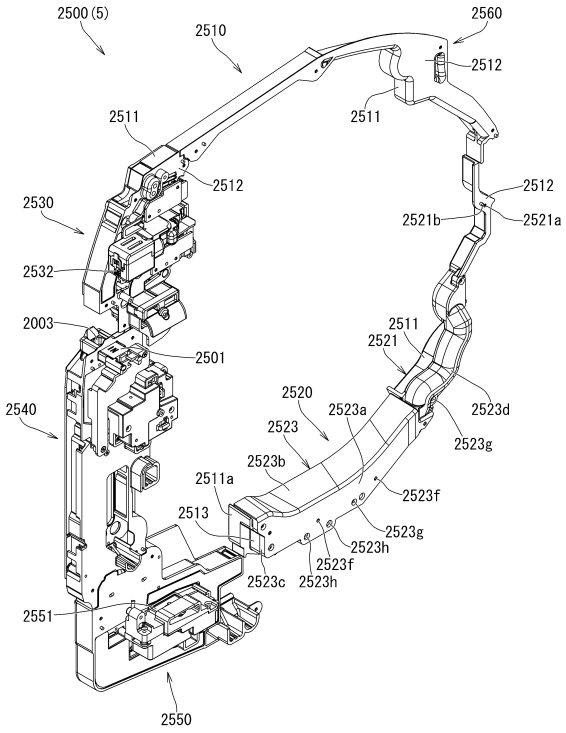
【図１０５】



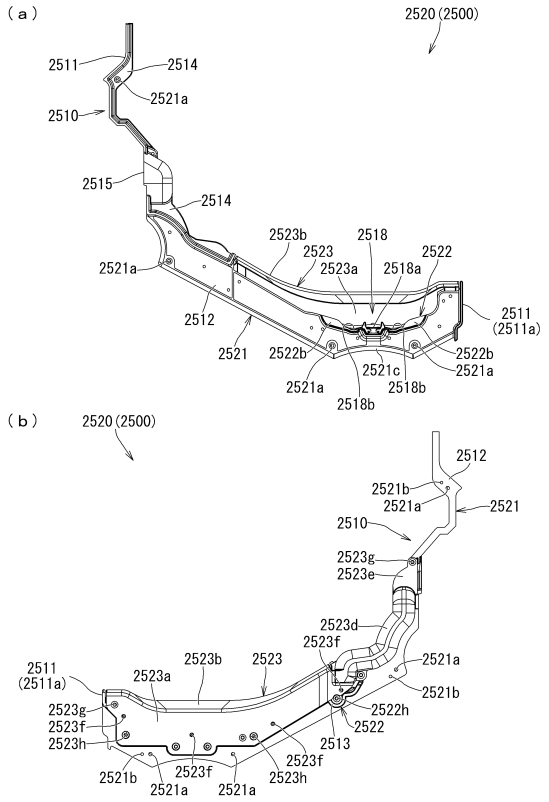
【図１０６】



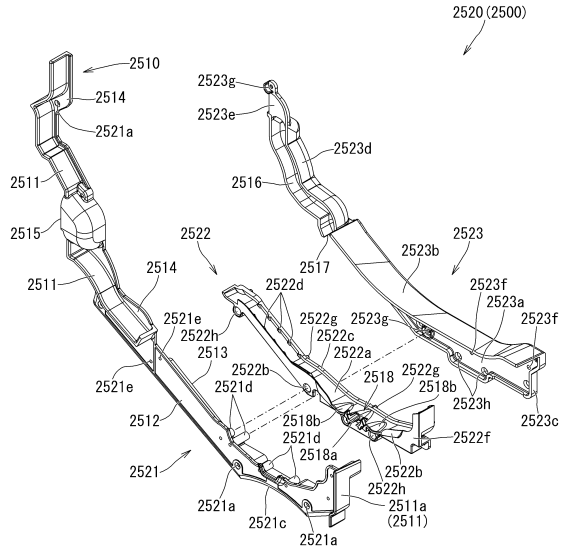
【図１０７】



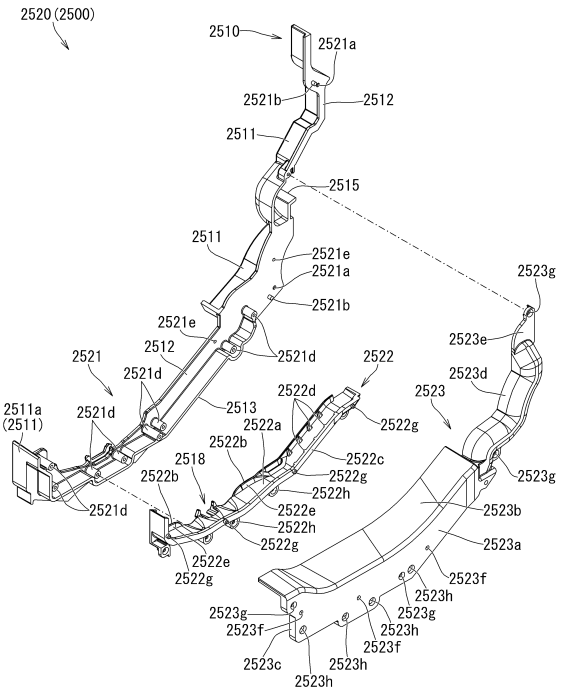
【図１０８】



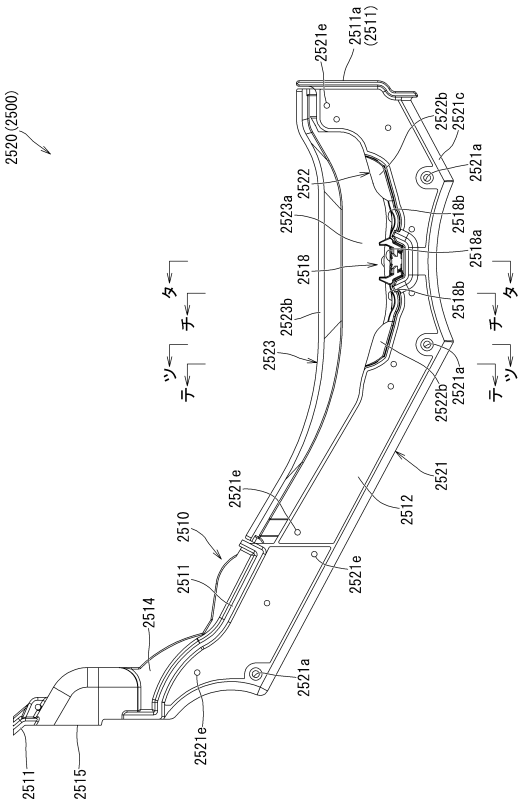
【図１０９】



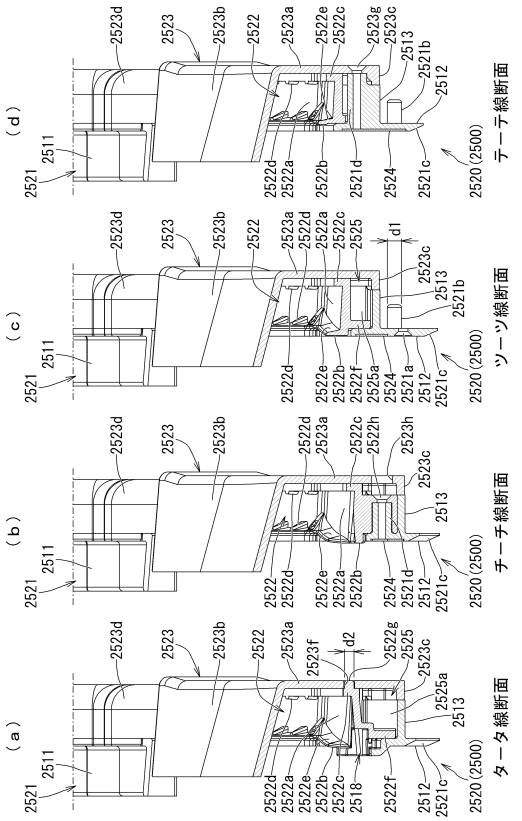
【図１１０】



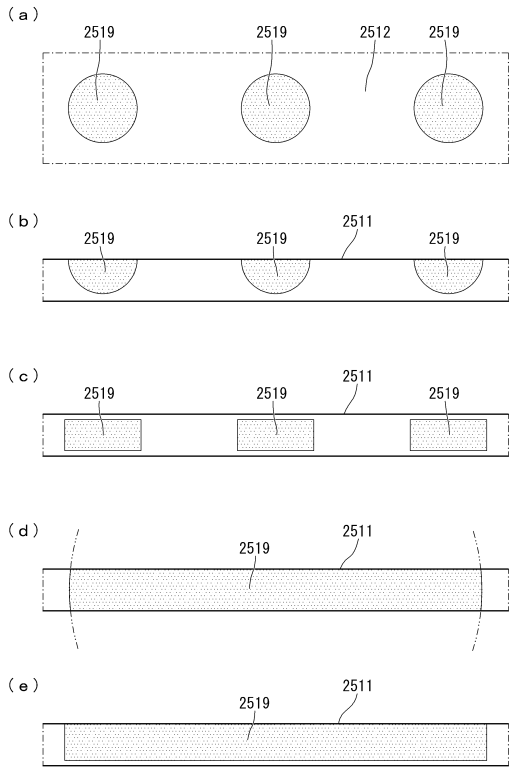
【図１１１】



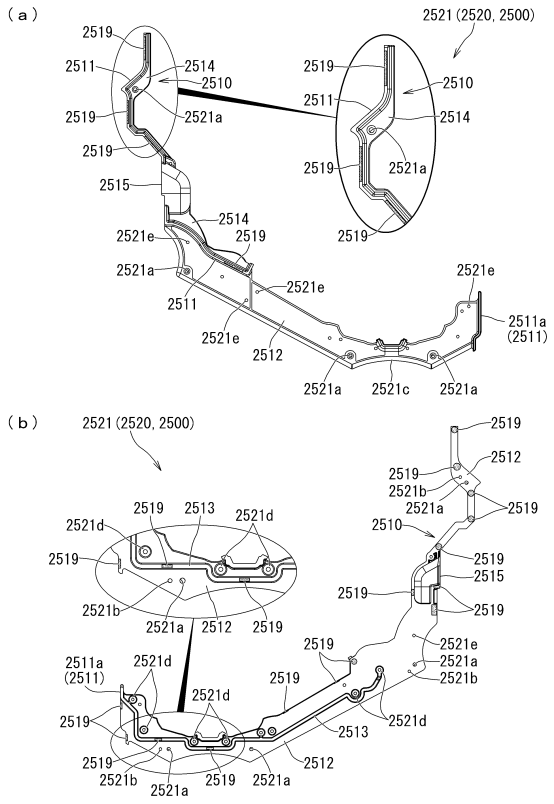
【図１１２】



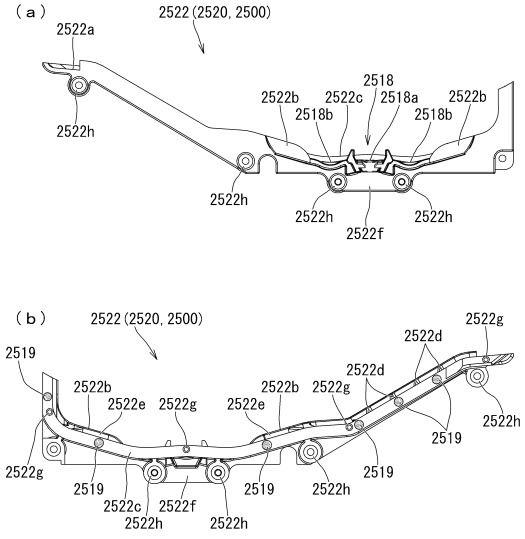
【図１１３】



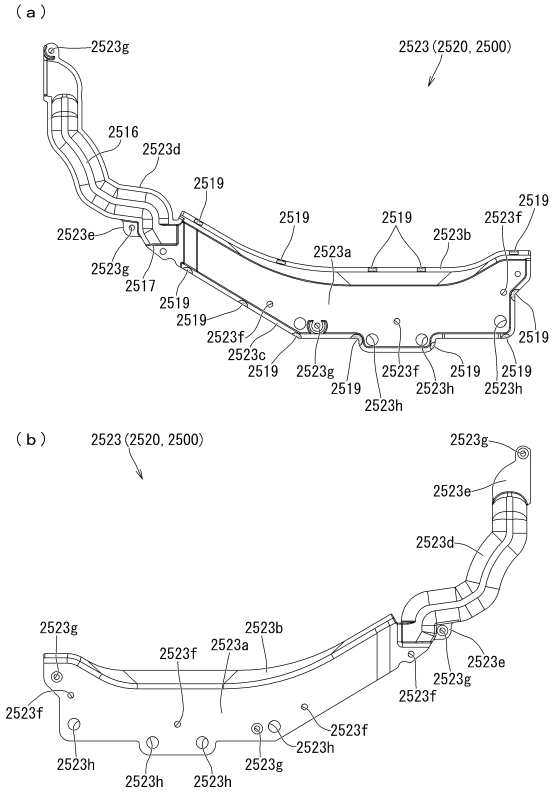
【図１１４】



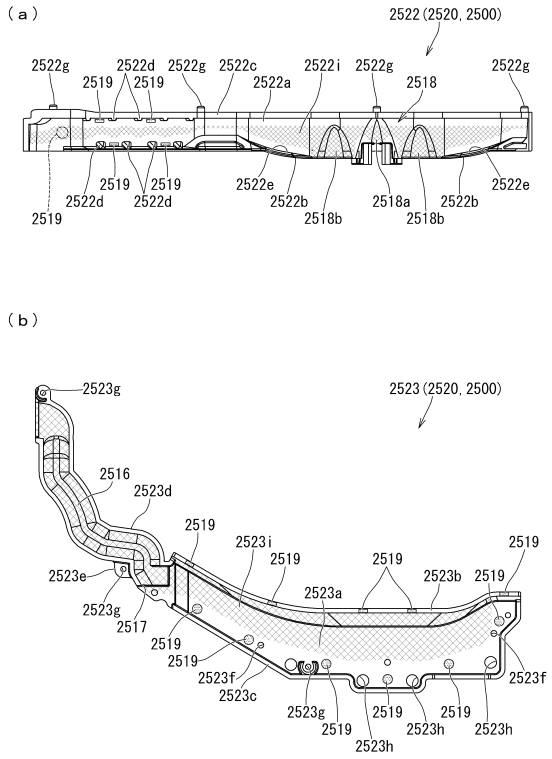
【図１１５】



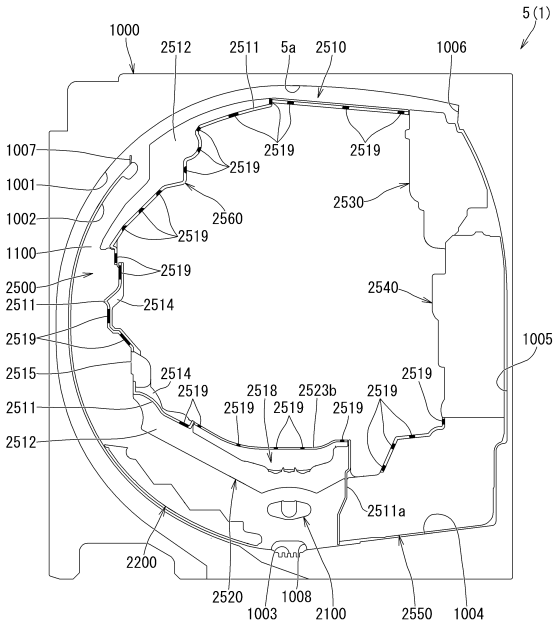
【図１１６】



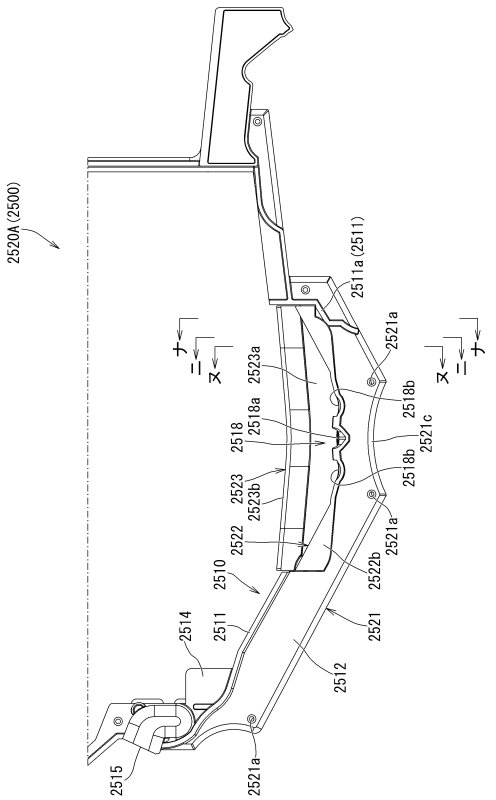
【図１１７】



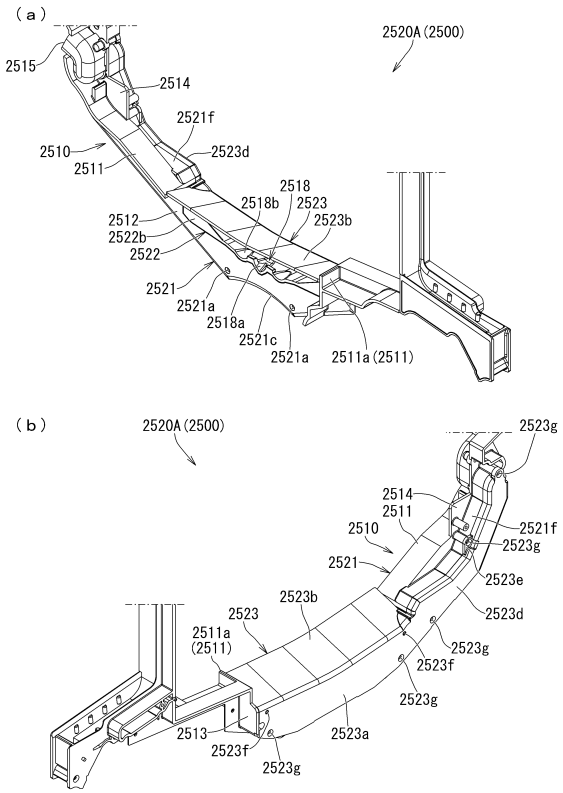
【図１１８】



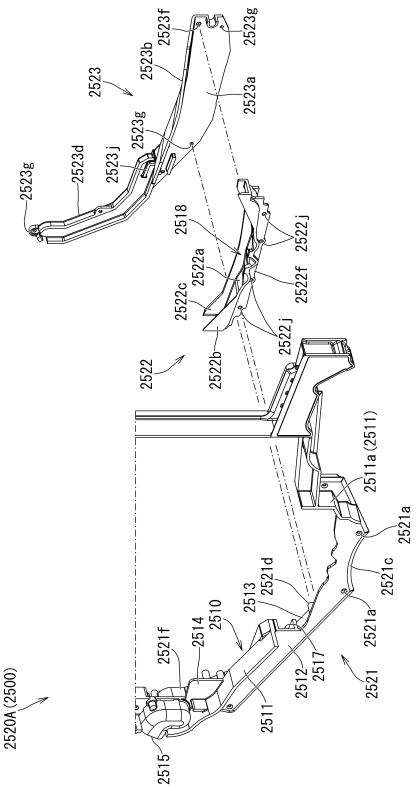
【図１１９】



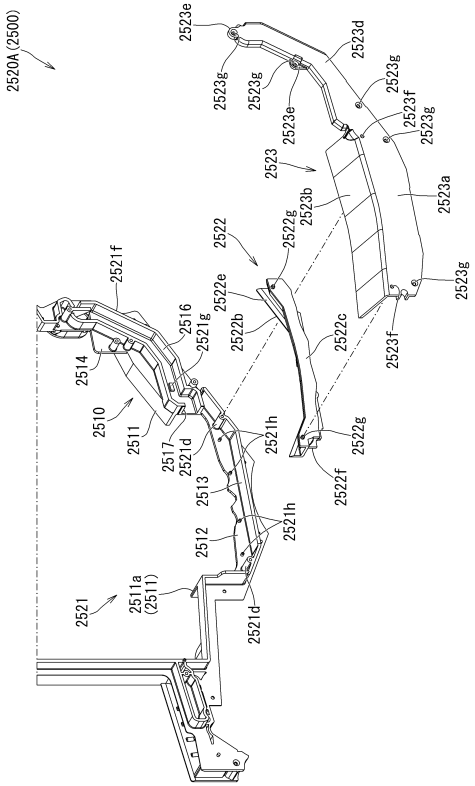
【図１２０】



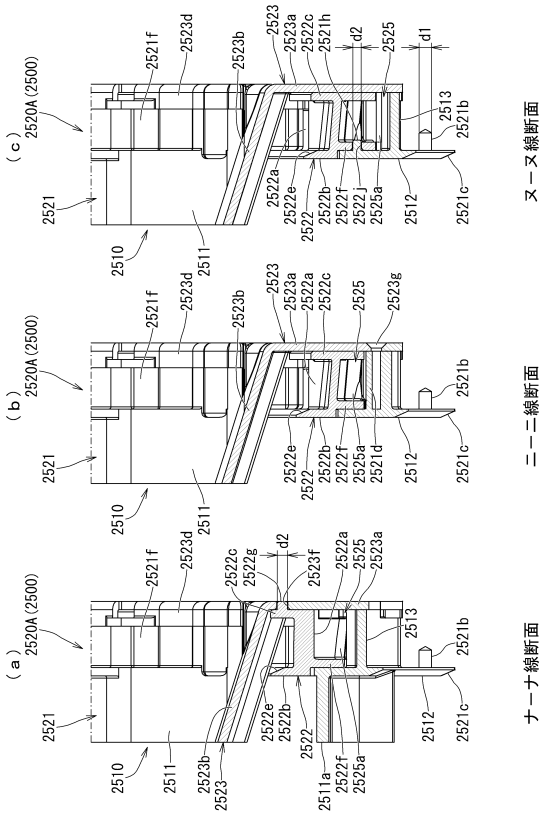
【図１２１】



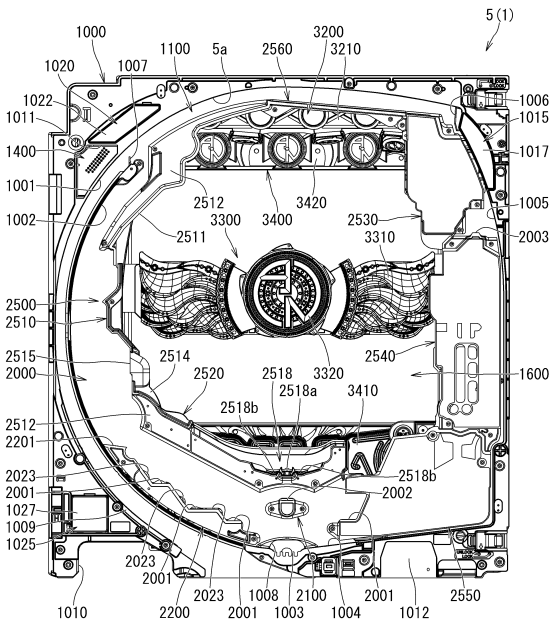
【図１２２】



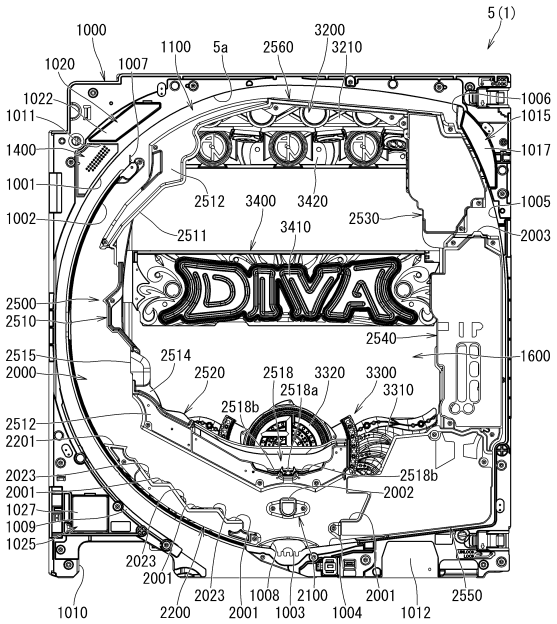
【図１２３】



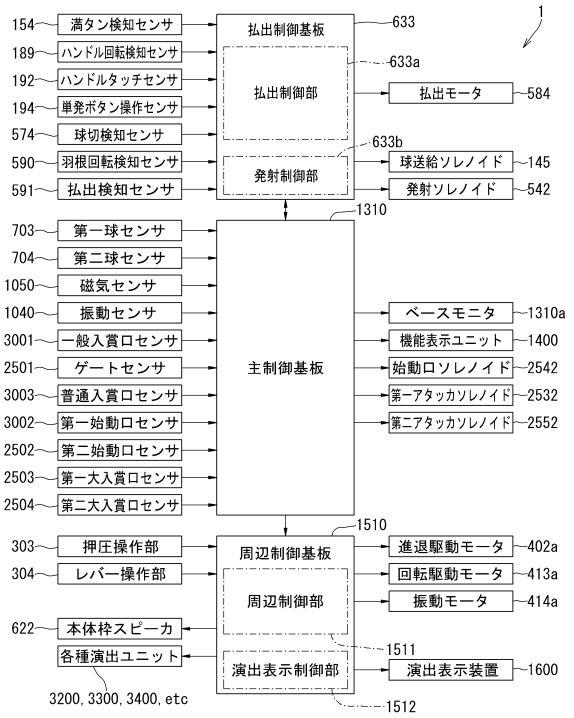
【図１２４】



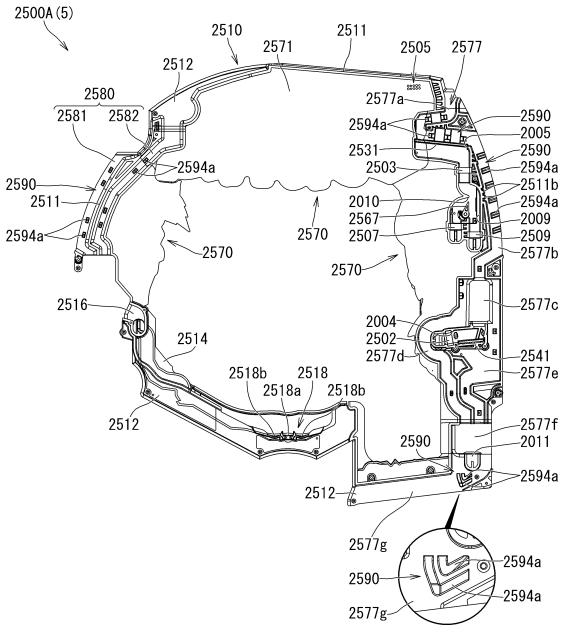
【図１２５】



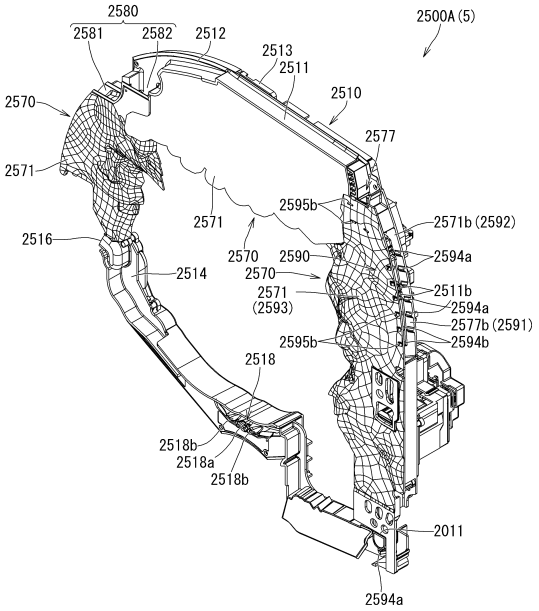
【図１２６】



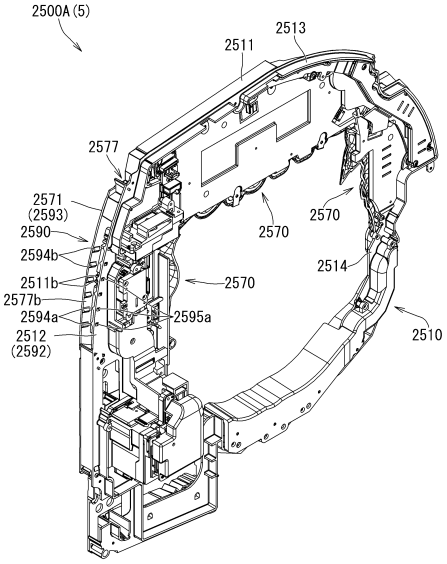
【図１２７】



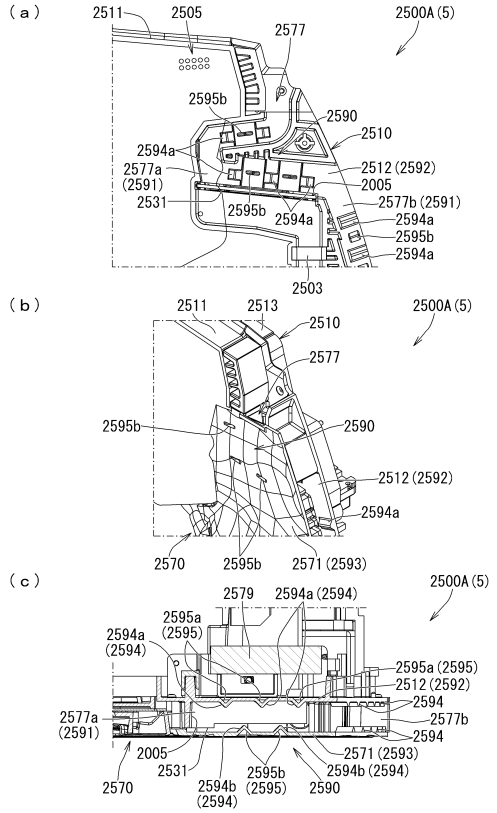
【図１２８】



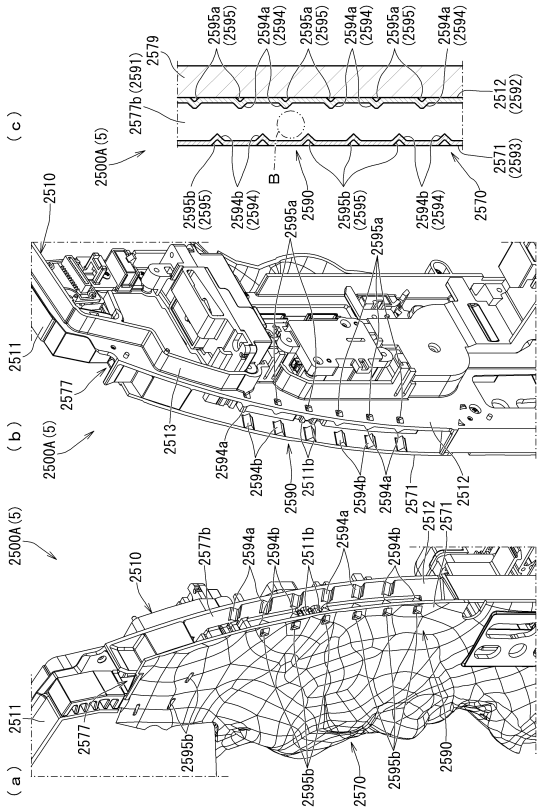
【図１２９】



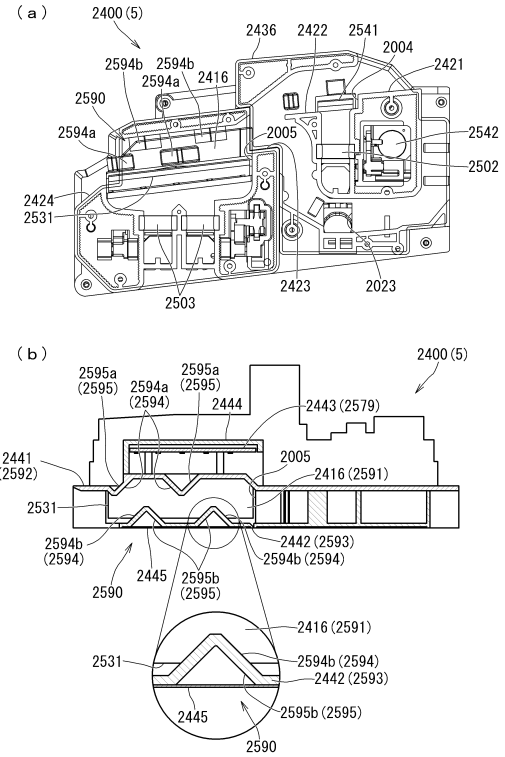
【図１３０】



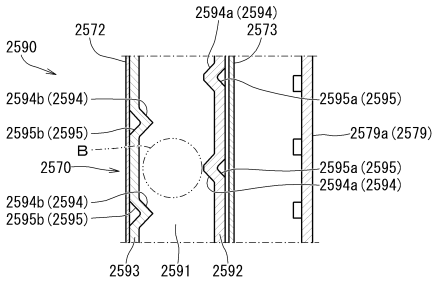
【図１３１】



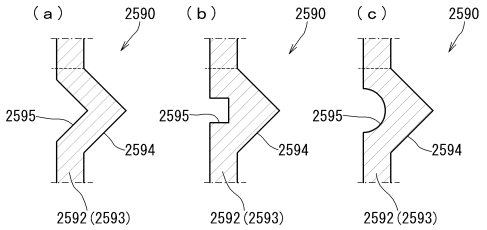
【図１３２】



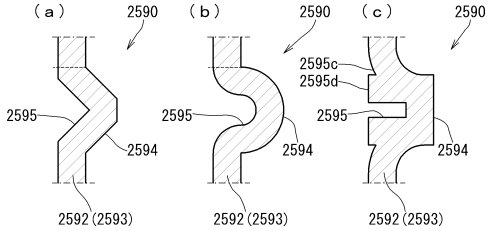
【図１３３】



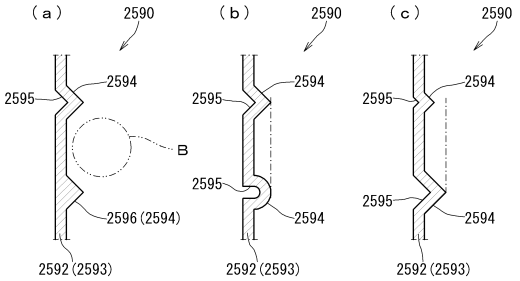
【図１３４】



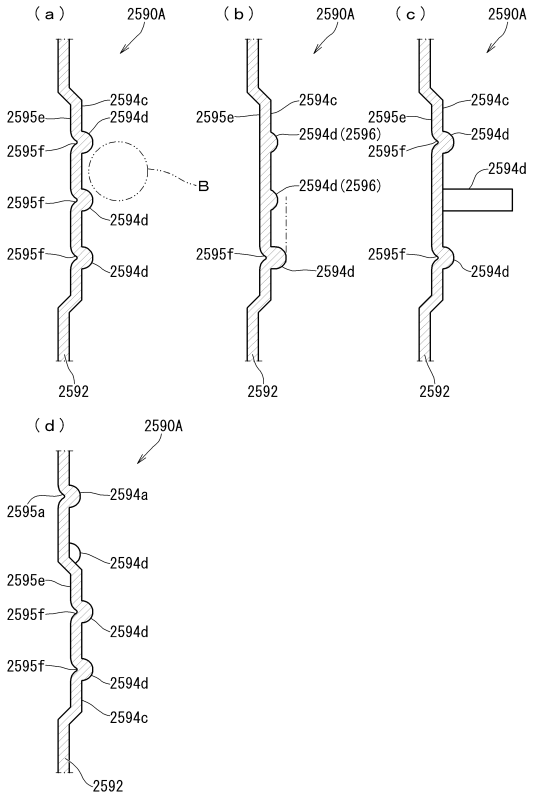
【図１３５】



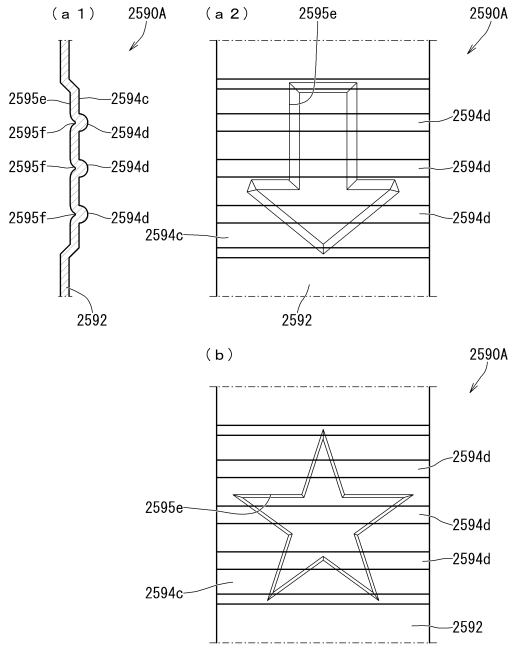
【図１３６】



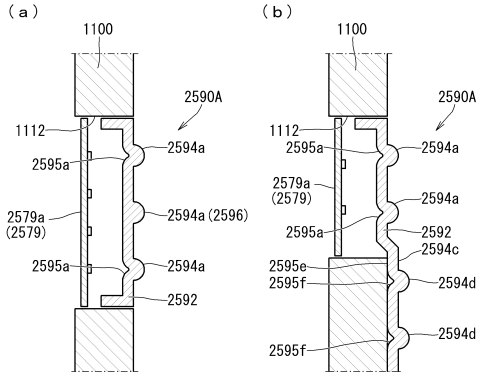
【図１３７】



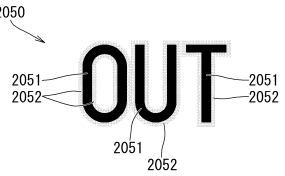
【図１３８】



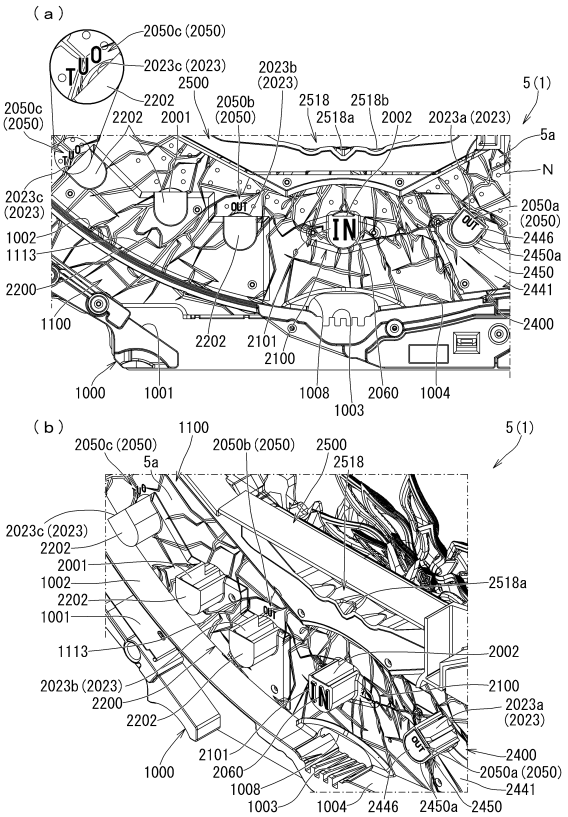
【図１３９】



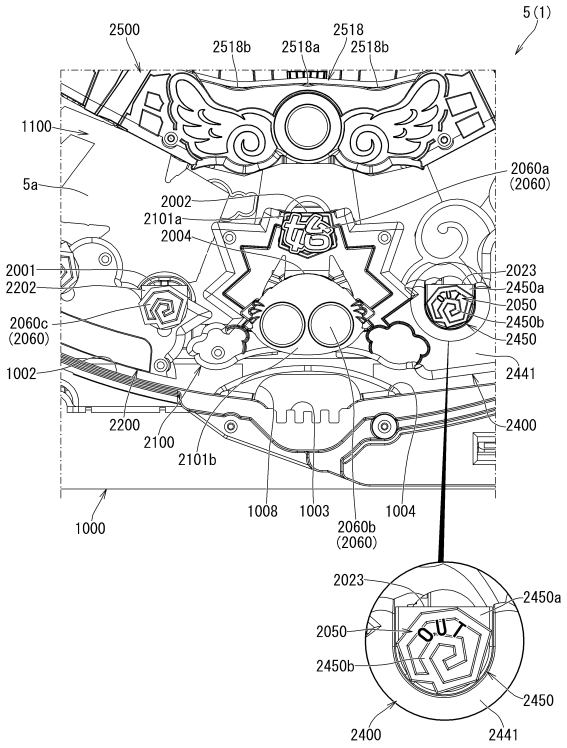
【図１４０】



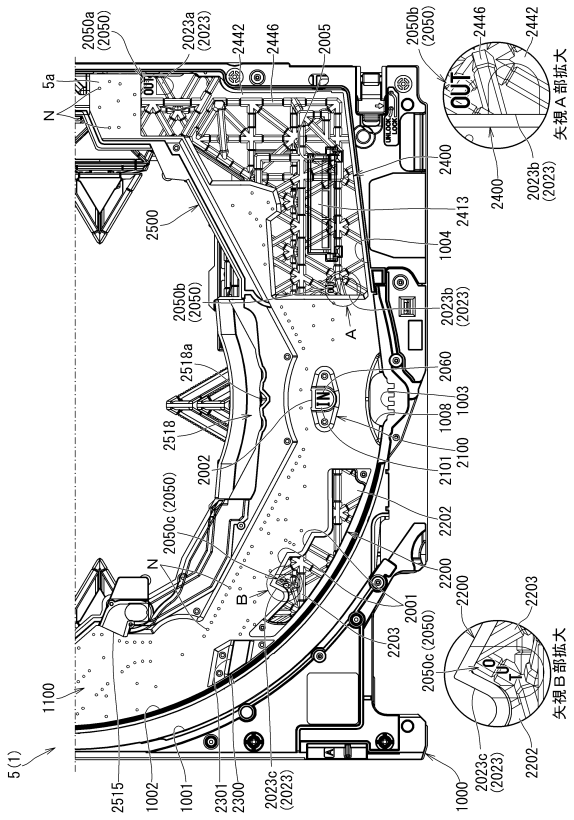
【図１４１】



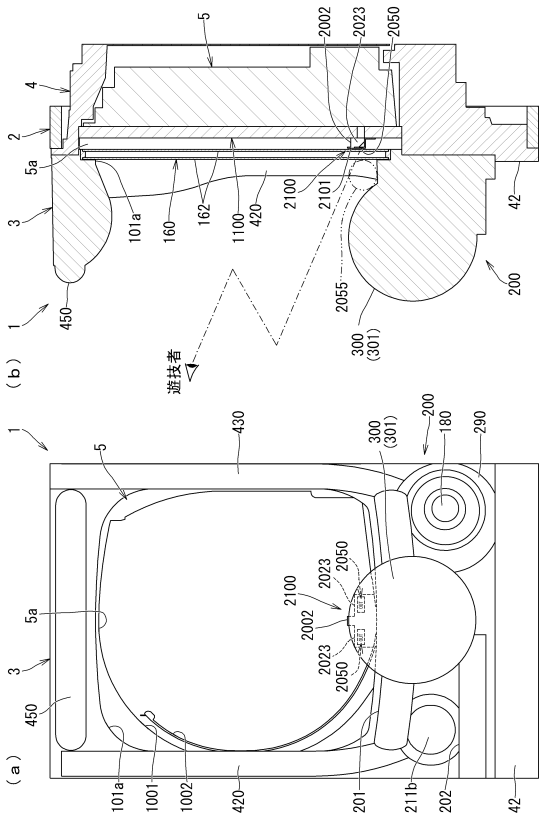
【図１４２】



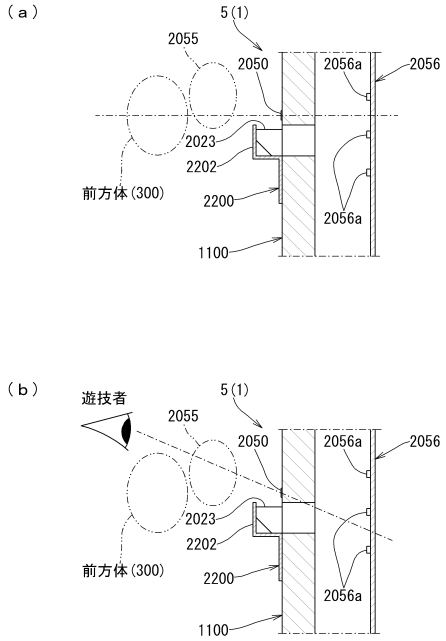
【図１４３】



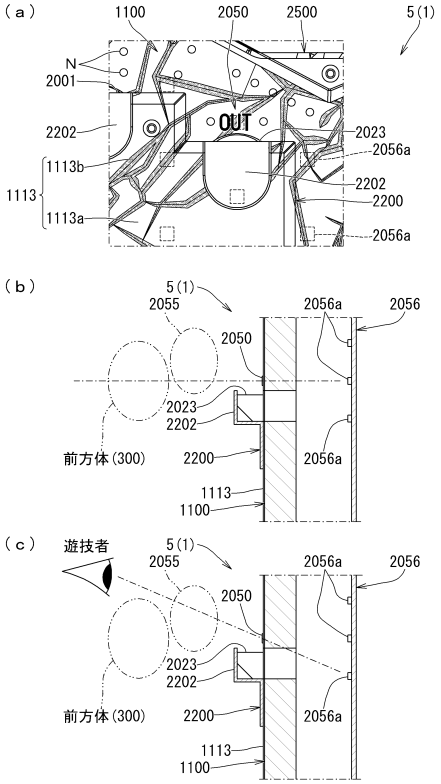
【図１４４】



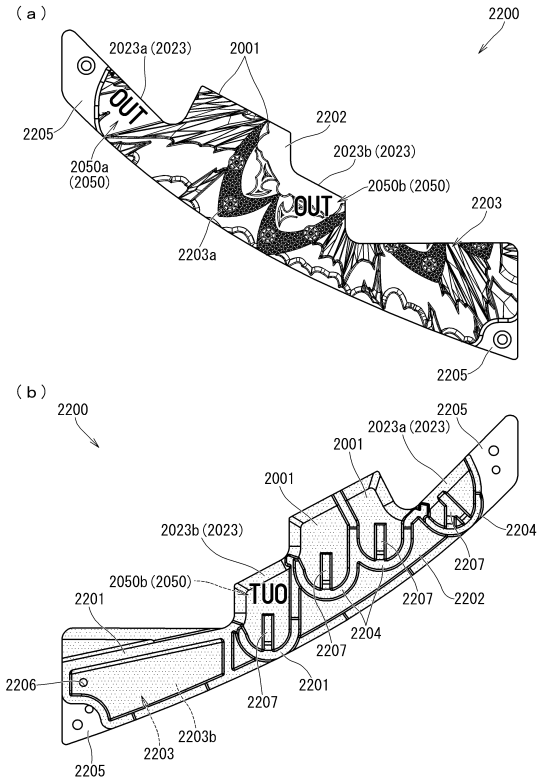
【図１４５】



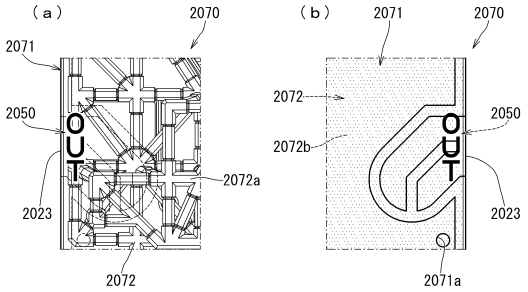
【図１４６】



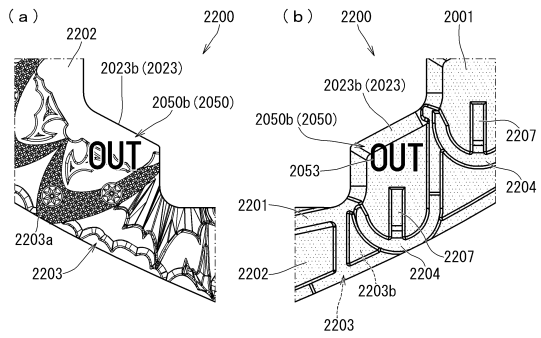
【図１４７】



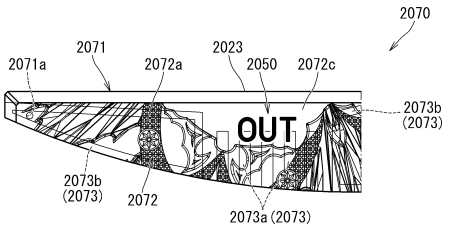
【図１４８】



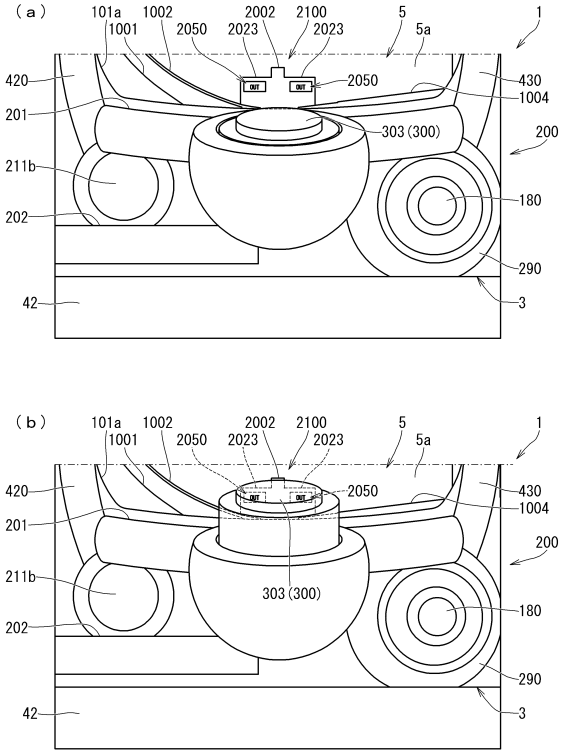
【図１４９】



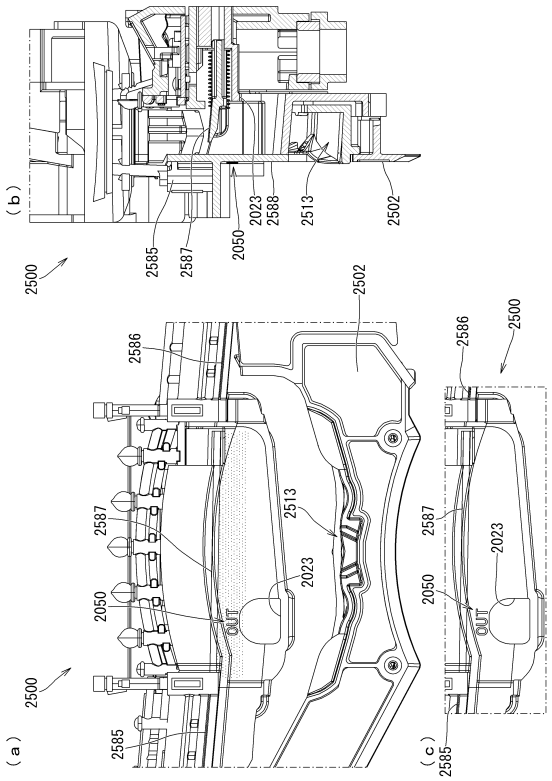
【図１５０】



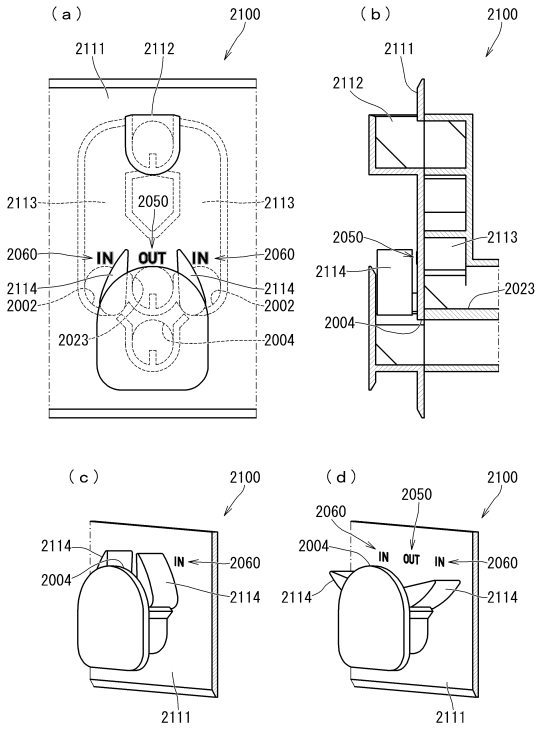
【図１５１】



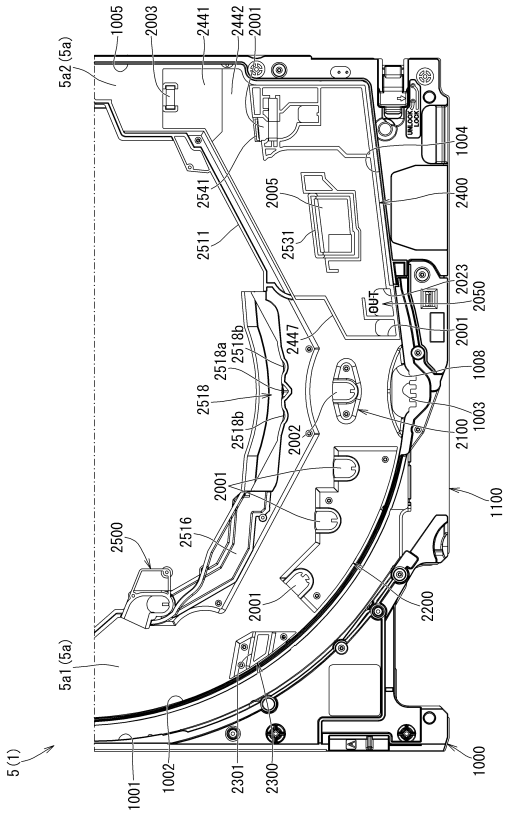
【図１５２】



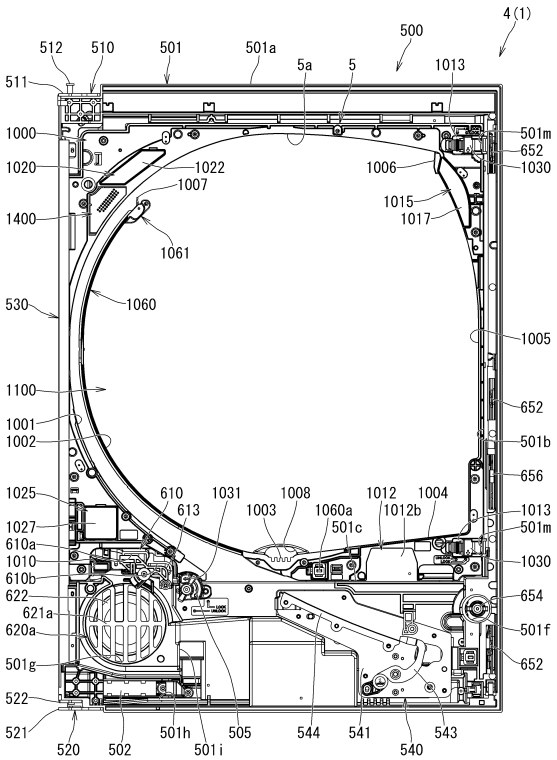
【図１５３】



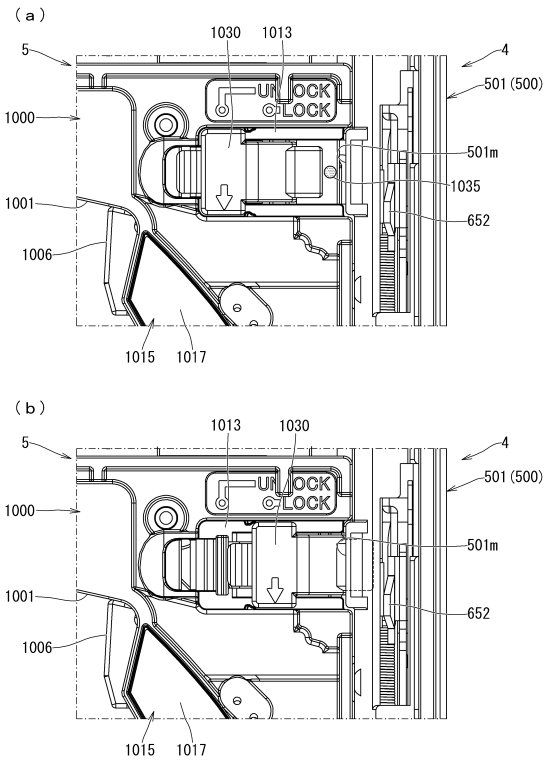
【図１５４】



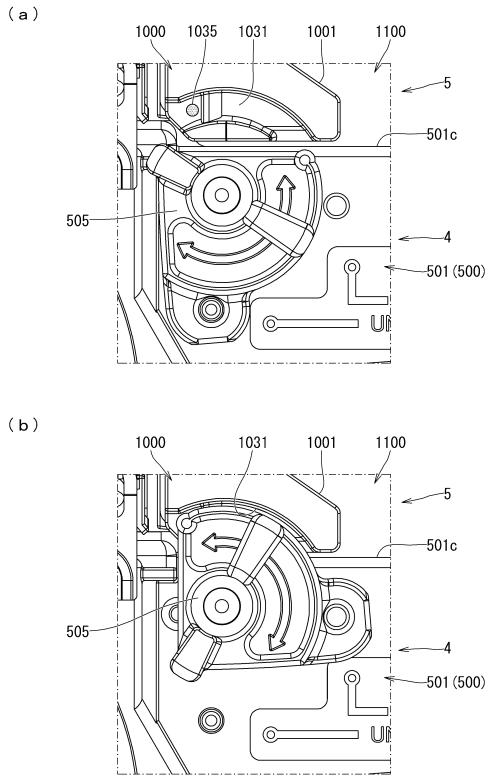
【図１５５】



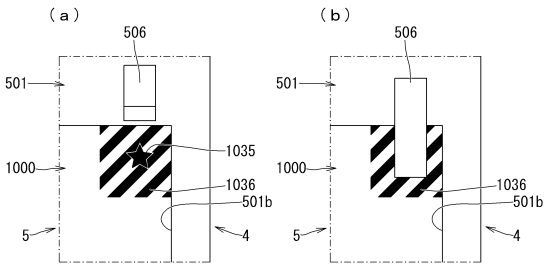
【図１５６】



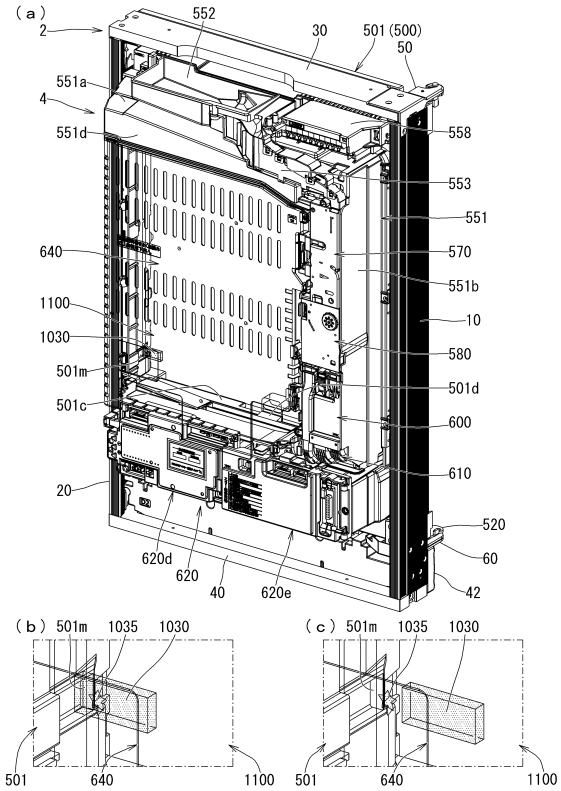
【図１５７】



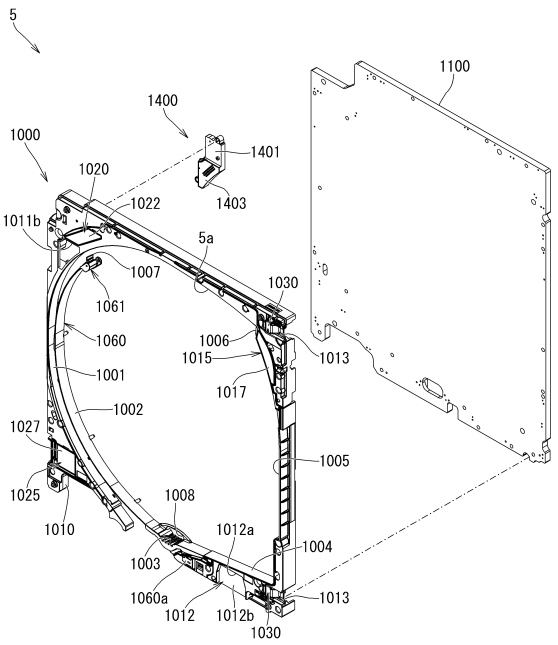
【図１５８】



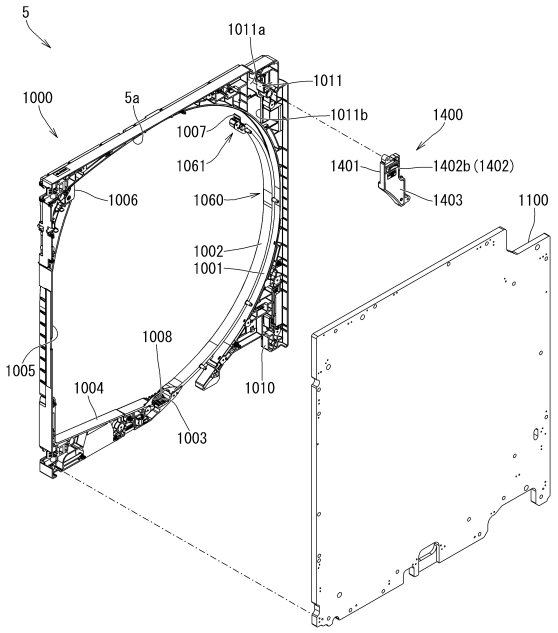
【図１５９】



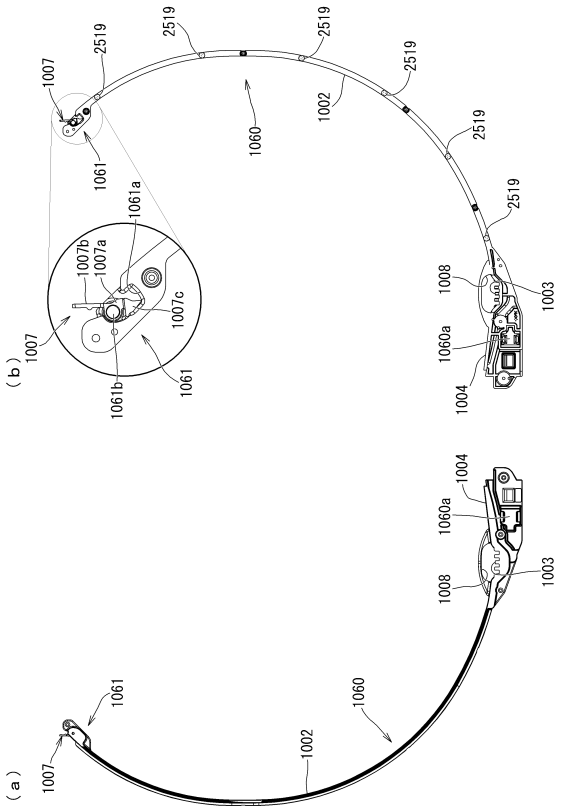
【図１６０】



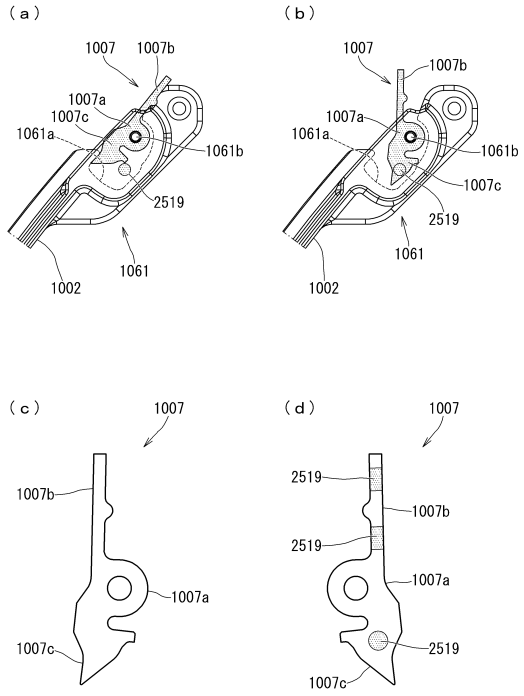
【図１６１】



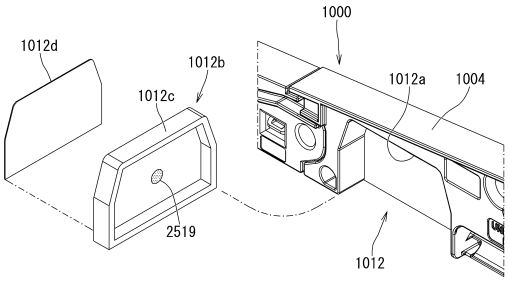
【図１６２】



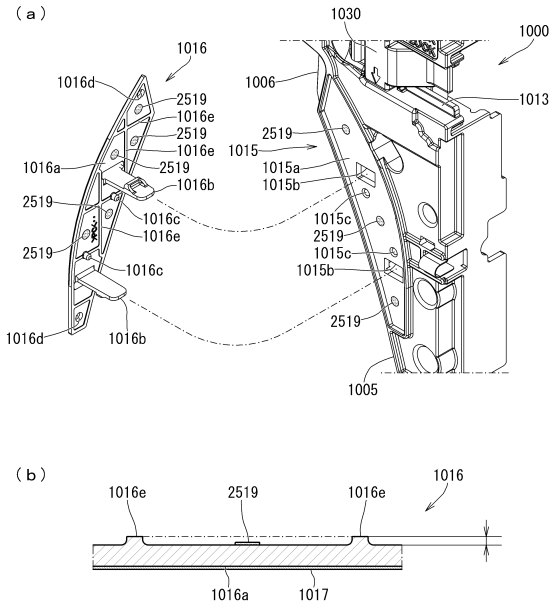
【図１６３】



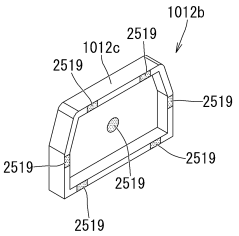
【図１６４】



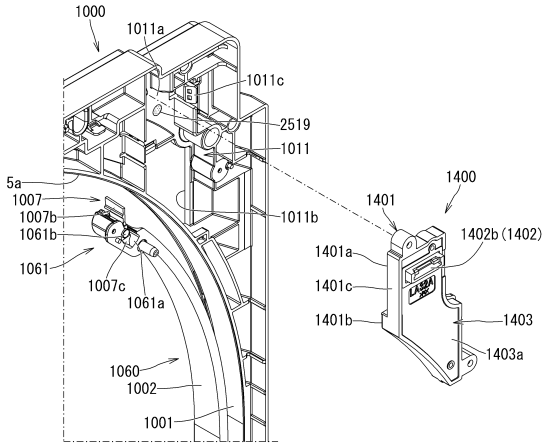
【図１６５】



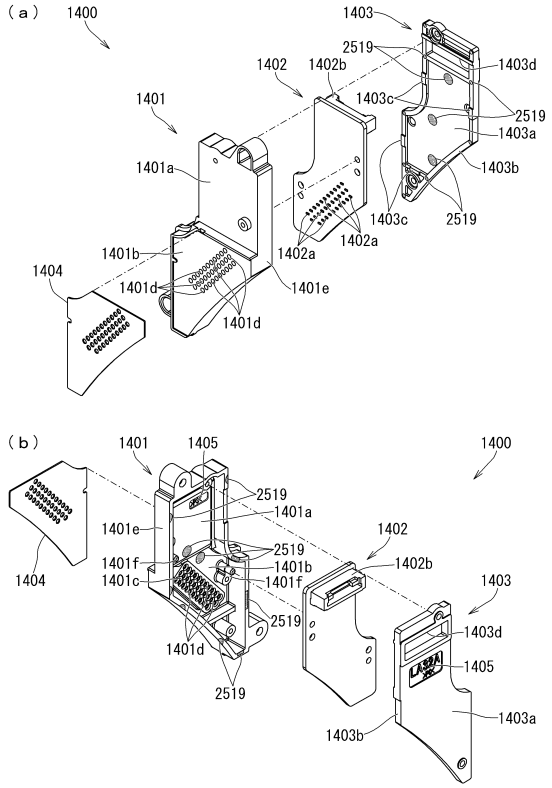
【図１６６】



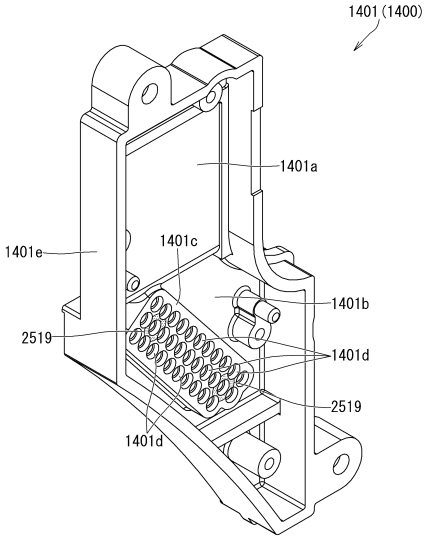
【図１６７】



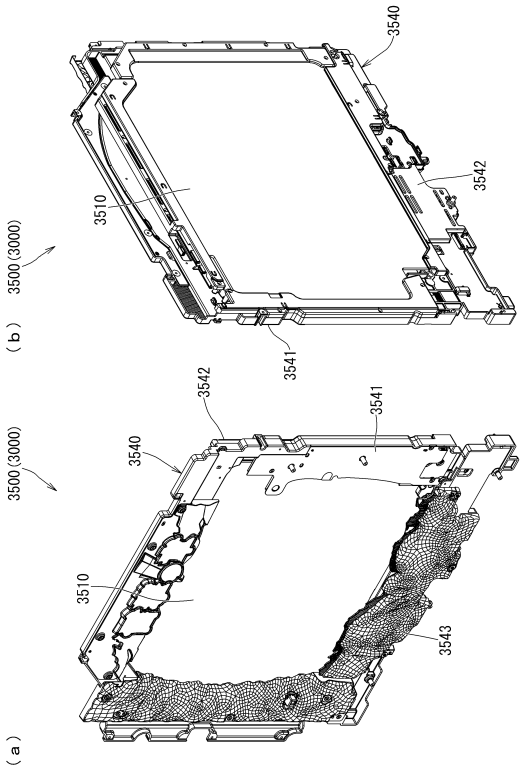
【図１６８】



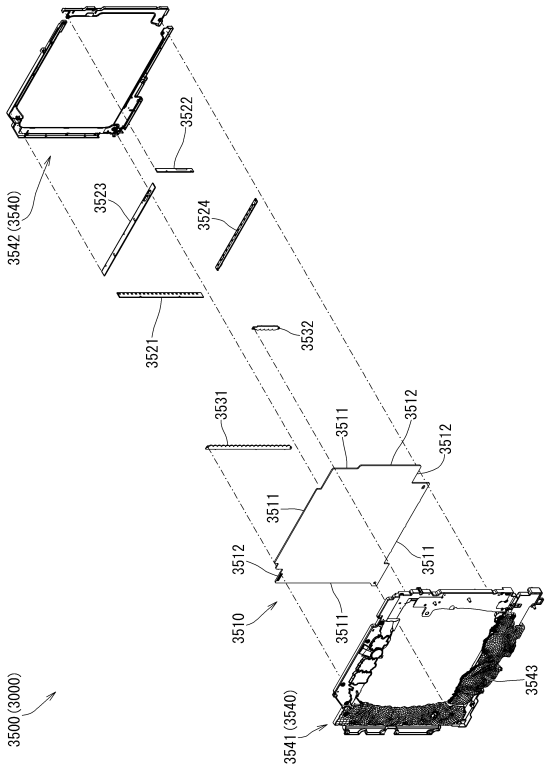
【図１６９】



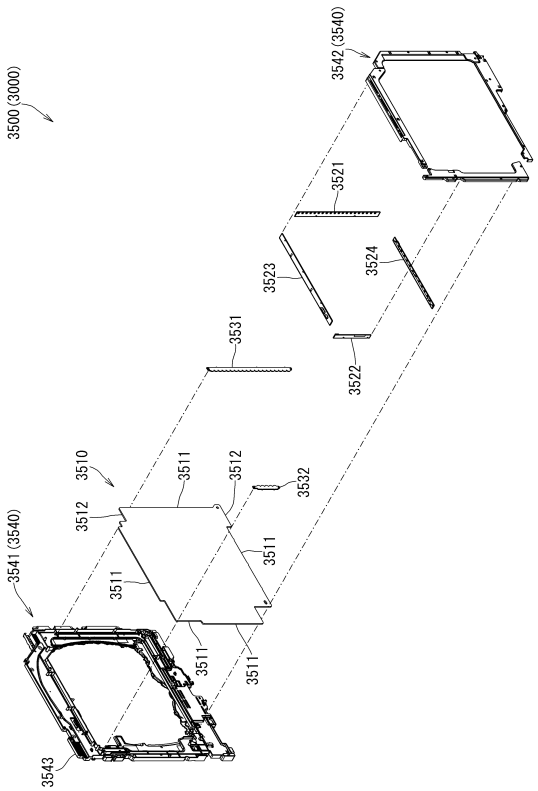
【図１７０】



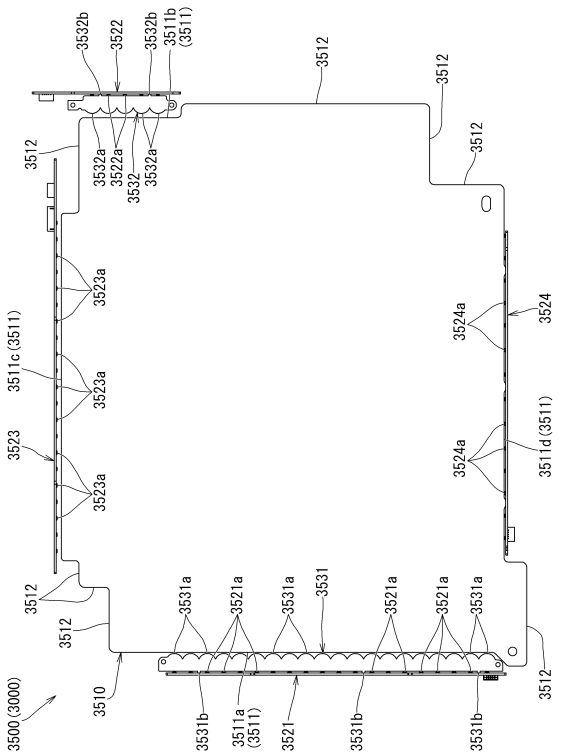
【図１７１】



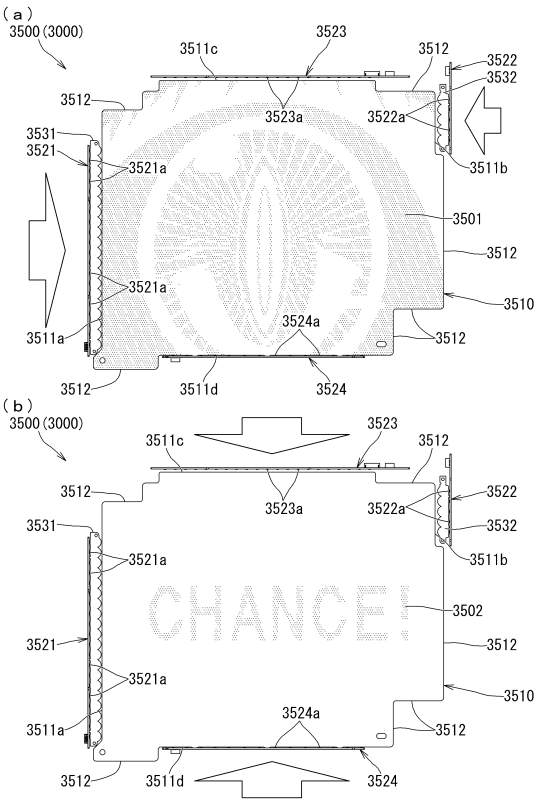
【図１７２】



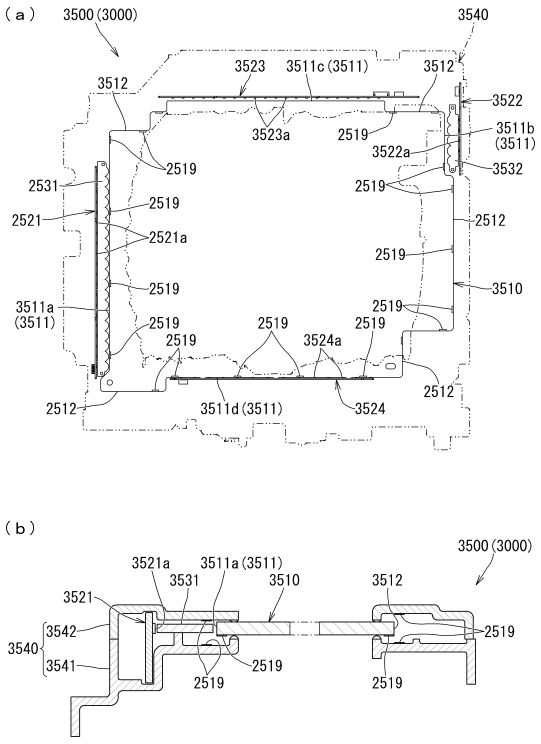
【図１７３】



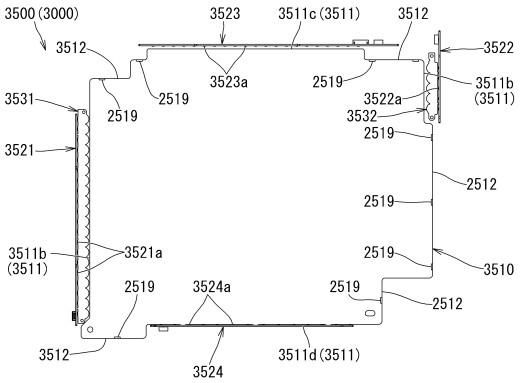
【図１７４】



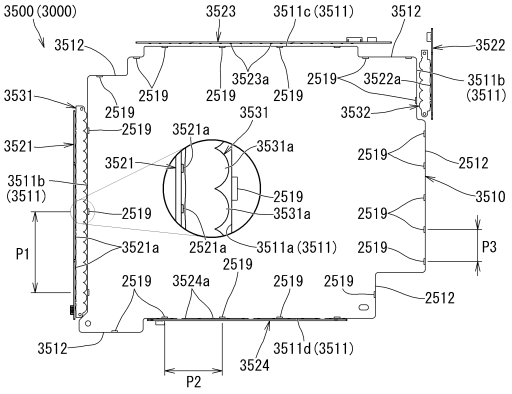
【図１７５】



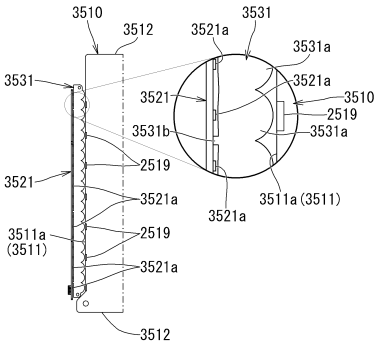
【図１７６】



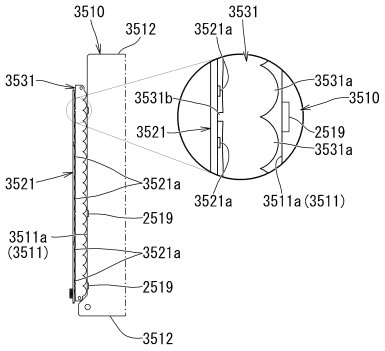
【図１７７】



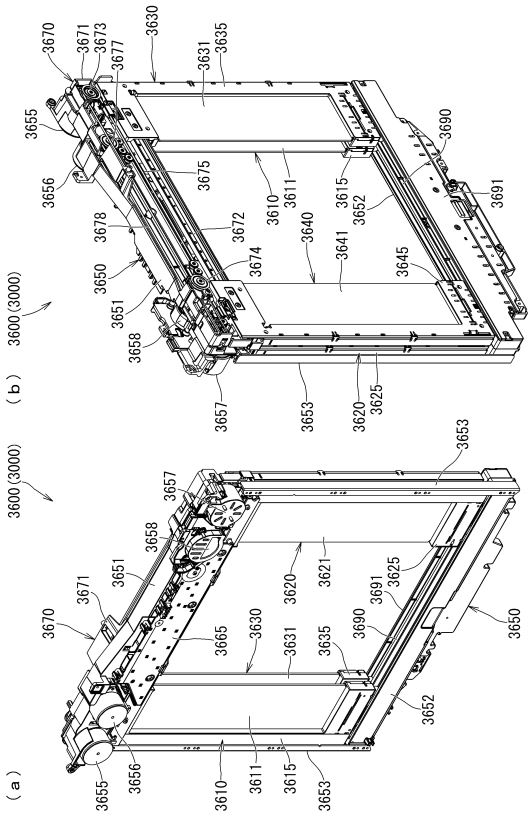
【図１７８】



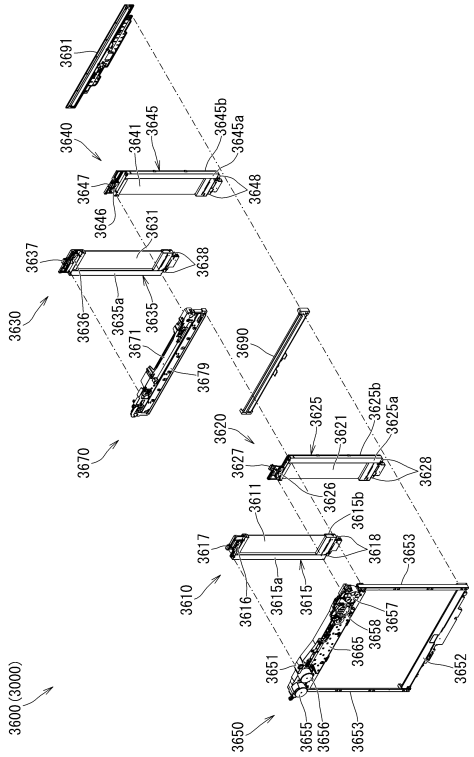
【図１７９】



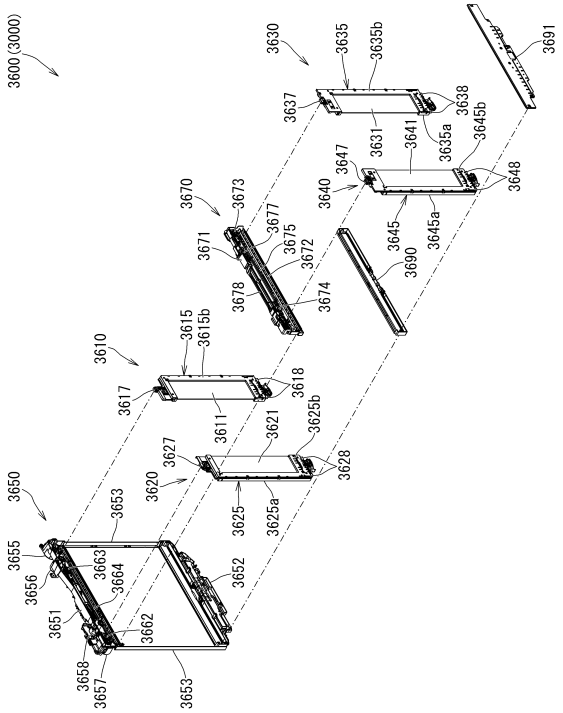
【図１８０】



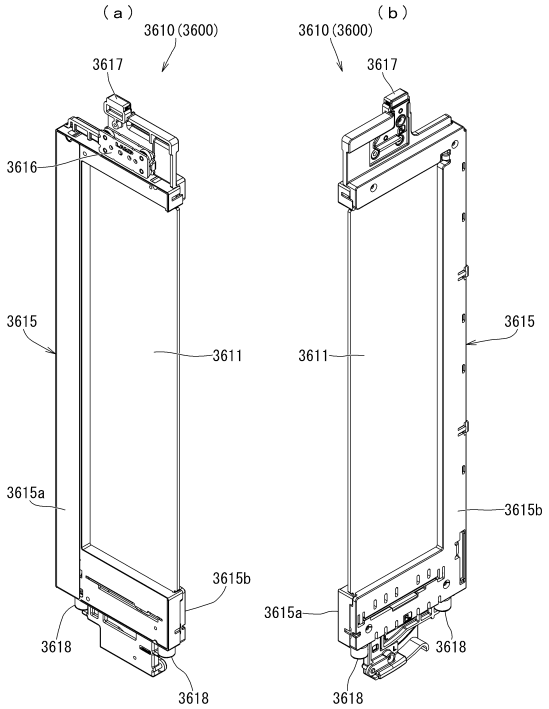
【図１８１】



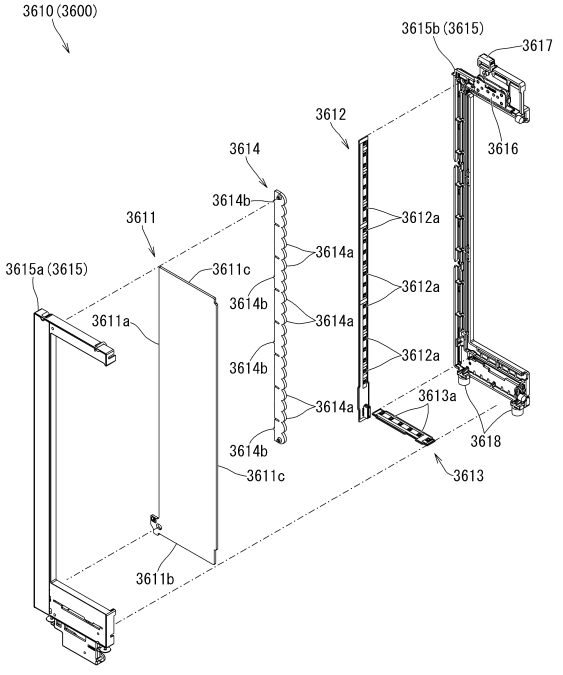
【図１８２】



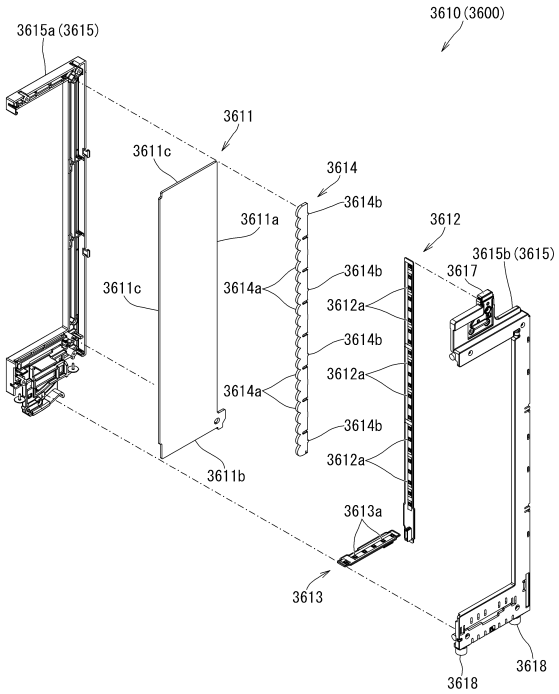
【図１８３】



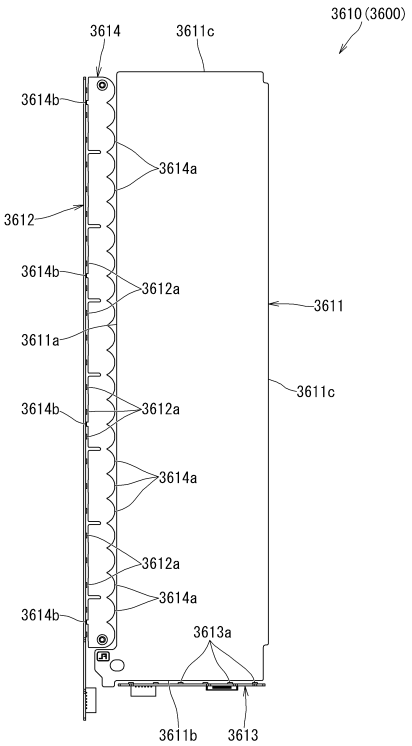
【図１８４】



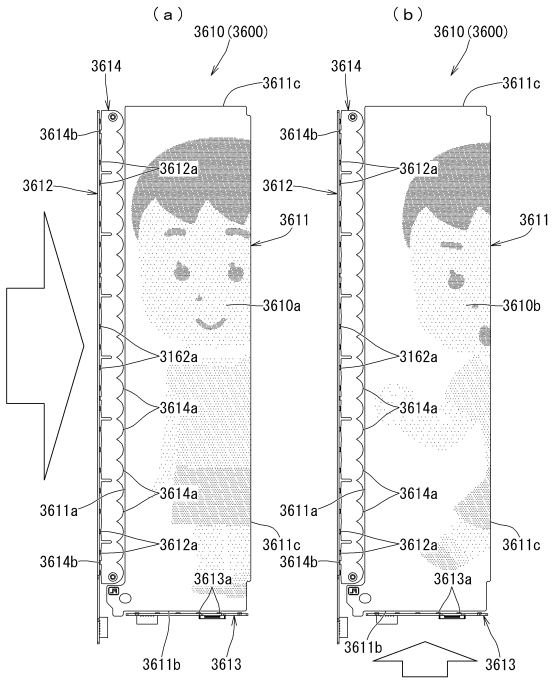
【図１８５】



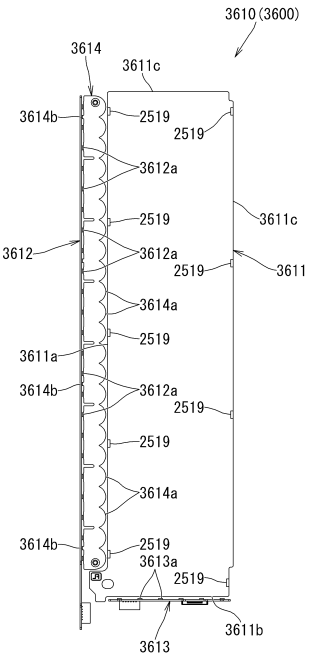
【図１８６】



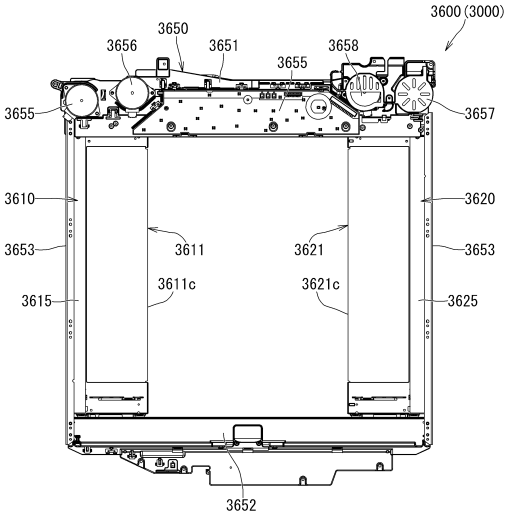
【図１８７】



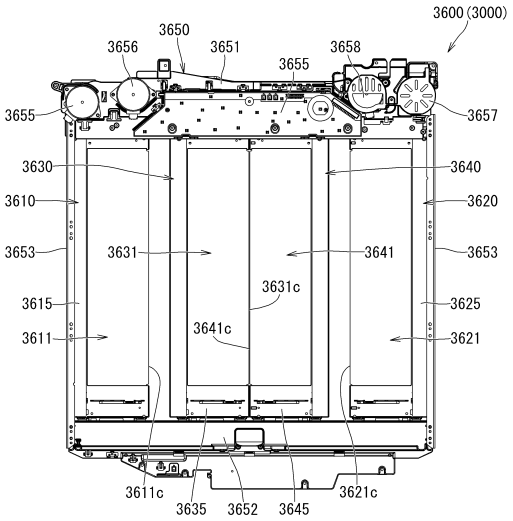
【図１８８】



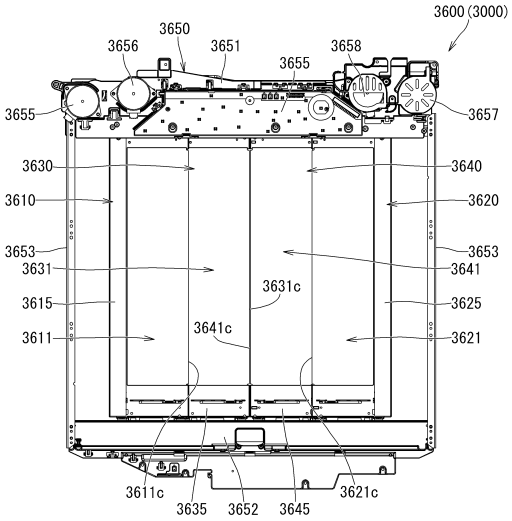
【図１８９】



【図１９０】



【図１９１】



フロントページの続き

(56)参考文献　特開２０２０－０８９４１７（ＪＰ，Ａ）
特開２０１３－１５０７２５（ＪＰ，Ａ）
特開２０１９－０５８２７８（ＪＰ，Ａ）
特開２０２２－１１５３０３（ＪＰ，Ａ）
特開２０１８－０６１６４７（ＪＰ，Ａ）
特開２０１３－１７１６２２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　７／０２
Ａ６３Ｆ　５／０４